



TITLE:

人格の"二面性"について(
Dissertation_全文)

AUTHOR(S):

桑原, 知子

CITATION:

桑原, 知子. 人格の"二面性"について. 京都大学, 1987, 教育学博士

ISSUE DATE:

1987-03-23

URL:

<https://doi.org/10.14989/doctor.k3650>

RIGHT:

人格の“二面性”について

5

10

桑原 知子

15

目 次

第一章

人格の“二面性”，
特にその測定に関する理論

(1) 問題提起	1
(2) 概念規定	4
(3) 人格理論における“二面性”について	9
(4) 人格測定の分野における“二面性”	19
(5) Semantic Differential 法における “二面性”	25
(6) 従来のテストにおける“二面性”測定 の試み	33
(7) まとめ	40

第二章

“人格の二面性”測定のための 尺度の作成

(1) 新しい尺度の作成 53

問題及び目的

方法

結果及び考察

要約

(2) SD法との比較による、新しい

測定形式の検討 78

問題及び目的

調査 I

調査 II

総合的考察

要約

(3) 尺度の改良 その 1

—— NEGATIVE語を加えて 102

問題及び目的

方法

結果

考察

要約

(4) 尺度の改良 その2

—— “二面性”のスコアリングについて——131

問題及び目的

各スコアのフロファイル特徴

群別分析の試み

Kaplanの方法

新しいスコアリング

要約

(5) TSPSの諸特性について144

(6) TSPSの妥当性について154

(7) TSPSの信頼性について169

要約172

第三章

“二面性”の観点からみた人格特性

A. 他の心理テストとの比較 175

Y-G, MMPI, CAS,

MAT, CPI, WJ,

同一性次元尺度

独断主義尺度

気質尺度

B. 被験者の特性による分析 224

男女差

年齢差

C. スコアによるまとめ 232

$S_+(P)$, $S_+(N)$, $S_-(P)$, $S_-(N)$

群別比較

新スコア

第四章

人格の“二面性”について

——その総合的考察——

(1) 問題提起をめぐって 247

(2) “二面性”測定尺度をめぐって 252

(3) “二面性”の観点からみて

人格特性をめぐって 269

① Positive 二面性群

② Negative 二面性群

(4) “人格の二面性”をめぐって 277

① “二面性”はあるのか

② “人格の二面性”の成立

③ “二面性”に対するとまどい

④ “二面性”に対するとらえ方の違い

⑤ “二面性”の質について

⑥ “二面性”のモデル

文献

第一章

第一章

人格の“二面性”,特にその測定に 関する理論

(1) 問題提起	1
(2) 概念規定	4
a. 二元性	
b. アンビヴァレンス	
c. オモテとウラ	
d. 補償	
(3) 人格理論における“二面性”について	9
a. 類型論	
b. 類型論における“二面性”	
c. 特性論	
d. 特性論における“二面性”	
e. “二面性”についての 人格理論	
(4) 人格測定分野における“二面性”	19
(5) Semantic Differential法における“二面性”	25
(6) 従来テストにおける“二面性”	
測定の試み	33
a. Rorschachの体験型	

6. Psychological Androgyny

(7) まとめ

40

第一章 人格の“二面性”，特にその測定 に関する理論

(1) 問題提起

人格は，様々な相反する体系や矛盾を内包しつつ，なお一個のまとまりを有するという複雑な存在である。岡本（1962）は，人間の中の二元対立の例として，理性と本能（感情），楽観と悲観，速断と慎重などをあげているが，それらの対立する両者が，ともにある一人の人間の中に存在するとしている。彼は“人間は，種々様々の二元対立や矛盾を含む多元統一体である”と，捉えるのである。

また，Weininger（1924）や Apfelbach（1924）は，こうした二元対立の一つの例である男性性と女性性について考察を加え，男性女性何れに関わらず，男性性格，女性性格の両者を一個人内に有するとしている。

このように人格が矛盾を含む存在であるため，これらの統一が不可能な場合には，葛藤をひき起こす。しかし，多くの矛盾する性質

を含みながらも、なおかつ安定を失わない場合も考えられるのである。Maslow (1962) は、“人間成熟の高い水準にあっては、多くの二分法、両極性、葛藤は融合し、超越し、解決せられる”として、対立の共存を可能にしめめるような一層高次の統一作用によって両極性の解決が可能なることを述べている。

また、上田 (1969) は、精神的に健康な人格の構造論的特質として“互いにいちじるしく相反する特性の共在と統一のうえに成立する”ことをあげている。“個人は本来 A の性質をもつか B の性質をもつかということ、簡単に結論をだすには、あまりにも複雑である。人格内には全く相反する二個以上の特性が相互に拮抗し、葛藤し、人格をしてこれら諸力の均衡のうえに成立せしめるのである。

だが、こうした自己矛盾がたとえ二律排反的両極性をあらわしているとしても、これに弁証法的統一を与える人格要因の厳存するかぎり、人間は破局に陥ることはない。”

人格が統合性を保っているということは、
侵し難い大前提である。しかしそれは決して
静的、図式的なものではなく、様々な balan
スやダイナミクスの上に成り立っていると考
えられる。

さて、これまでの人格理論あるいは人格測
定の分野においては、こういった、人格内の
対極的な側面はどのようにとり扱われてきた
のであろうか。以下において、その概観を述
べるが、対極的側面は、それが存在すること
を否定されてはいないものの、その点をとり
あげて論じられているものは非常に少ないと
思われる。特に、人格測定の分野においては、
人格を明確にとらえようとするあまり、人格
のもつ複雑さや対極性が捨棄されてしまっ
ているのではないだろうか。

従って、以下においては、人格の対極性が
人格理論の中でいかにとり扱われ、そして、
それを測定しうる新しい方法の可能性があ
るかどうかという点について述べていきたい。

(2) 概念規定

(1) において述べたような、人格内の対極的な側面を、筆者は、“人格の二面性”と呼ぶことにする。この対極的な二側面は、統合性を旨とする人格にとっては普通（特に意識内において）共存させにくいものであると考えられる。

さて、論を進める前に、この“人格の二面性”についてその定義を明確にするため、既存の概念の中でそれと似通っていると考えられる事柄をあげて、それを検討してみたい。

a. 二元性

近代経験科学の出発点は Descartes の二元論だといわれるが、たとえば、心身論においては、心と身体を独立した別個の実体ととらえるといった、対立して、しかも統一されることのない二者から事物を説明しようとするものである。そもそも、人格という一つの統一体の中で、相互に関連をもたない実体が存在しうるものだろうか。対立する二者という

とらえ方は共通しているものの，“人格の二面性”とはかなり異なった概念と考えられる。

6. アンビヴァレンス

同一の対象に対して、愛と憎しみ、友好的態度と敵対的態度のような、相反する心的傾向・感情・態度が同時に存在する精神状態をいう。最初にこの言葉を用いたのは Bleuler (1911) で、普通“両価性”と訳されている。これは、分裂病の基本症状として Bleuler によって示されたのであるが、正常人においても、正常なアンビヴァレンスが心理機構の中で大きな意味をもち、心的に対立する力の平衡をつくりだすことによって、より微妙な調節をあやつることになっている。一方、Jung (1921) は、“Archaismus (原始性)”の定義の中で、“ブローラーのいう Ambivalence, すなわち、たとえば感情と反対感情というように、反対物がとけあっている状態は原始的である”としており、アンビヴァレンスの特徴として、原始的、未分化な

状態であることがあげられるかもしれない。

C. オモテとウラ

土居(1976)は、非常に日常的でありかつ日本的である“オモテとウラ”という語を用いて、精神内構造を語る試みを行っている。彼のいう“オモテとウラ”は“タテマエとホンネ”の関係と同様であり、日本人が、アンビヴァレンスをさばく社会的方式として身につけたものとしている。彼はさらに、このことばによって、精神病理を類型化するという試みも行っている。これは、“オモテとウラ”の成立が自我機能の分化と統合を意味し、オモテが現実適応に、そしてウラが本能防衛に関係しているために、この2つの概念によって精神内部の全過程を代表させることができるという論拠によっている。やや図式的なきらいはあると思われるが、人格内における一見相反する二者の存在、そしてそのことの重要性、及びその二者が互いに相補う関係にあるという指摘には、本論でいうところの、

“人格の二面性”との共通性が認められる。
しかし，“オモテとウラ”は、どちらかとい
うと、社会に対する“外面^{ソトヅラ}と内面^{ウラヅラ}”といわれ
るものと類似したものであり、ほぼほぼ示唆
的ではあるが、これをもって“人格の二面性”
としかえることは不可能であると考えら
れる。

d. 補償

Adler及びJungそれぞれによつて、独自の
の意味をもつて用いられた心的機制の概念で
ある。まずAdlerは、人間行動の究極的動因
を権力への意志におめたが、人生とは、それ
ぞれのもつ劣等感を克服する補償の努力の形
でこの権力意志を實現していく過程であるとして
おり^(1917, 1926)、従つて、彼のいう補償の本質は、
劣等性のおぎなひをつけるような一つの虚構
を作り出す点にある。これに対してJungは、
人間の心は意識と無意識の相補性（両者間の
補償作用）によつて全体的な均衡・調和を保
つとしており、Adlerが劣等感の補償の場合

に限って使用している“補償”という概念を、
心的器官の自己調節作用のすべてを指すこと
ばとして用いている。さて、これらの見解に
より、人格内には否定することのできない一
種の補償機能が存在しているであろうこと、
及び、意識と無意識の相補作用という形をと
って“人格の二面性”が成り込んでいる可能
性が示唆される。従って“人格の二面性”の
成立にあたって、補償は、見逃すことのでき
ない機制であると考えられる。

以上、“人格の二面性”と関連していると
考えられる事柄のいくつかについて検討を加
えてきたわけであるが、共通性や示唆をうけ
るべき事柄は認められるものの、これらの概
念のみで“人格の二面性”を説明することは
不可能であり、新たな考察を必要とするもの
と思われる。

(3) 人格理論における“二面性”について

次に、人格理論においては“二面性”が、どのようにとり扱われているかという点について述べる。

人格理論には、様々なものがあり、とらえ方の立場にもいろいろ異なったものがあるが、その中の大きな軸として、類型論と特性論とあげることができよう。

a. 類型論

“人間を、その全体性・統一性・具体性においてとらえようとするとき、この無限の個体の無政府状態を秩序づける方法として要求されるものが、すなわち類型である”（依田 1961）。Phahler (1929) は、類型を定義して、“すべての類型は、もっとも普遍的なものから、個別的・一度的なものへの途上における中間節である”としている。

類型論は、クレッキマー・ヤイエンシュによって代表されているように、もともとヨーロッパにおいておこり、多分にヨーロッパ的、

あるいはドイツ的な特色をもっている。

これらの類型論に共通する特徴は、

①人間を“独自の全体”として考え、それをより小さな部分に分析できないものとして全体的にとらえようとする。

②パーソナリティ、一々個々の“特性”に分析してそれを測定するというようなことに、興味をもたないばかりでなく、そのようなことは不可能だとさえ考えている。

③人間研究においては、統計的平均が問題なのではなく、典型的な個々の事例の研究が重要だとする。

④精神科学的心理学のにおいが濃厚で、個性は説明されうるものではなくて、むしろ理解されうるものと考えている。

(Mackinnon, 1944)

これに対して、アメリカの心理学者 Stagner (1948) は、中間的な者と典型的な者との間は連続的な程度の差しかなく、明確な境界を設定できないと批判している。アメリカの心

理学者たちによれば、もし類型ということばを使おうとするならば、それは反応の型のか類として用いるべきであるという。内向-外向は行動の仕方であって、その人間にそういうレッテルをはることはできないというのである。

④ 類型論における“二面性”

たとえば、クレッチマーの分裂質と呼ぶ類型の性格像は、過敏さと無感動という矛盾した特性と両方含むものである⁽¹⁹⁵⁵⁾。また、Jungのいった二向性の概念も、その前提として、“人間の中には、外向と内向という二つの態度がともに存在し、ただ、相対的な優越の度合が人によって違っている”ということがあげられている。このように、類型論においては、“人格の二面性”が存在する余地が残されているようにみえるのであるが、実際には必ずしも、“二面性”の観点が導入されているとはいえないようである。“人間にレッテルを貼る”という批判にみられるように、多様な

人格の性質を過度に単純化するきらいがあり、
それにあてはまらない個人の記述に困難があ
る。類型論は、古くからある考え方であり、
その有用性は、実際には誰しもみとめるところ
であるが、どちらかというところ、主観的で直
観的な判断に依るものであるため、それを統
計的な方法でとらえようとしたり、あるいは
数量的な方法でとらえようとするとき、単なる
“レッテル貼り”におわってしまう危険性が
あると思われる。あとで詳しく述べるが、
Jung の同性の考え方に基づくといわれる我國
の同性検査では、外向性と内向性は、一次元
上の軸の一点として表示されてしまうので、
そこには“二面性”の入り込む余地はない。
もともと類型論のうちには、前提として許容
されていたと考えられる“二面性”が、“類型
化”の過程においてこぼれおちてしまっ、たも
のと思われるのである。

C. 特性論

類型論がヨーロッパ大陸における伝統を基

盤にして発展してきたのに対し、特性論は、主として米英系の研究者によって建設された。

特性論は、一人の人に特徴的な一貫した行動や言語報告のパターンの単位を操作的に求め、それによつて人格の構造をとらえようとする立場である。“特性 (traits)” は、すべての人に共通にあるものであつて、ただちがうのは量の差だけであると考えられ、人格は、そのような個々の特性の測定値の総和として表現されると考えられた。

特性論を提唱したのは Allport⁽¹⁹³¹⁾ であるが、特性論のその後の発展は、むしろ、Allport の人格観とは異なる方向に進んだ。具体的、統計的な方法をとつなか、Allport に対して、Cattell (1950) は、“人格とはある人がある状況において何をするかを予測させるものである” という立場にたつて、因子分析法を使って、根源的特性 (source trait) を見いだした。また、Guilford (1959) は、人格を、類型 (types)、一次的特性 (

primary traits), ヘクセス (hexes, 恒常的態度や素質傾向), 特別な個別行動の4つの階層からなると考えに。Eysenck (1947) の考え方もこれと共通しており, 後も四つの階層を仮定している。

d. 特性論における“二面性”

Allport (1966) は, 特性について述べるなかで, “ある特性に矛盾する行動や習慣が認められる場合でもその特性の存在を否定する根拠とはならない。”としている。従って, 彼の考え方は, 人格を多面的にとらえたものであり, その基本的な考え方としては, “二面性”の観点を許容するものといえよう。

しかしながら, Cattell によってあげられた特性は両極性(対)をなしていて, 相対立する性質については, 一次元上に極が与えられ, 結局, 人格はその線上の一点に位置づけられる結果におわってしまう。結局, 特性論においても, とらえ方の基本には“二面性”の観点が前提として存在するのであるが, それを

測定し、特に数量化しようとするとき、“二面性”の観点から、ぬけおちてしまうようである。
c. “二面性”についての人格理論

以上にみてきたように、人格理論は数限りなくあるものの、その中で“人格の二面性”ということに焦点づけをしているものは、ほとんどないといえてよいであろう。たしかに、前提としては、“人格の二面性”は否定されておらず、むしろ Allport の考え方などには、共通性も感じられるのだが、特に、それを測定し、数量化しようとする際には、“二面性”の入りこむ余地がなくなってしまう。しかし、考えてみると、むしろ、これは当然ともいえることであって、人格を、科学的、客観的に捉えようとするならば、“二面性”という矛盾を入れこむことは許されないことであろう。

筆者としては、人格を“一面的”にみることを否定するものではない。なぜならば、人格の統合性、特に意識におけるそれは、なにごとにもかえ難く重要な点だからである。つ

まり、普通意識は一面的であるといってもよく、従って、そこに“二面性”という考えを導入することは、ある種の“危険”を伴なうことでもあります。そのことは排除される傾向があるのではないだろうか。

しかし、意識にうかぶ様々の要素は、それらと対立する無意識内の要素と深くかかわっているのである。そのかかわりを無視するならば、—— Jung の言葉を借りれば、“意識的根本態度を修正する自己規制的、補償的機能が Psyche の中に存在しないと仮定したならば”—— “やがて意識の平衡は完全に失われてしまうことであろう。”

Jung は、最初から、人間の心の中の対極性に注目している人である。従って、彼の人格論は多くの対極性に満ちている。(河合 1983) Jung (1921) は、意識の態度に対して、無意識の態度を考え、この両者が補償的關係にあるものと考えた。たとえば、意識の態度が外向的な人は、無意識の態度は内向

的であつて、前者が強調される際には、後者が補償的に働くのである。意識はそれ自体、自我 (Ego) を中心としてある程度のまとまりを有しているが、それをくずしてさえ、無意識の内容を意識にとりこんで、より高次の統合性へと志向する傾向が、人間の心の働きに認められる。その働きの中心としての、自己 (Self) の存在を Jung は主張したのである。

Rohracher (1956) は、Wellek (1950) の、“人間が対立を含んでいる、いや矛盾に満ちていて、しかも‘両極的’緊張のもとにあることは陳腐な事実であり、性格学がまちがった判断をしたり、迷、たりするのも、本質的には、性格の絶対的統一性が自明なことであり、誤って下位におかれているためだ”という考えにことごとく同意するといっている。また、Wellek の、“両極的対立が対立にとどまらず、同時に共属的でたがひに求めあひたがひに志向しあふ。それらは‘相関的’、”

「共存」であって、それらはただ、対として考えることしかできない。それらは一方が他方をま、て初めて生きてくる。”という主張の点でも全く同様だとしている。

(4) 人格測定分野における“二面性”

(3) でみてきたように，“二面性”という観点は、人格理論において、前提としては許容されており、数少ないながらも、Jung や Maslow などは、“二面性”に焦点づけて考察をおこなっている。しかしながら、人格測定分野においては、その理論が十分に反映されているとはいえない。

たとえば、Jung (1921) は、人間の一般的态度を外向性と内向性の二つに分類しているが、人間の中にはこれら二つの態度がともに存在し、ただ相対的な優越の度合が人によって違っているとしている。“言うまでもなく正常な外向的态度という場合、それはこの型の人間ならいついかなる場所においても外向的な図式にしたがって行動するという意味ではない。この型の人間にも内向性のメカニズムの働きによると思われるような心理現象が見られる場合は枚挙にいとまがない。お断りするまでもなく、ある態度が外向的と呼ば

れるのは、外向的メカニズムが優位を占めている場合だけである。(Jung, 1921.)

これに対して、我が国で標準化された代表的な質問紙として長い歴史を持ち、Jungの向性の考えに基づいているとされる淡路・岡部式向性検査は、必ずしもJung理論と対応していない。この向性検査では、外向性を示す答^{注1}えの数に基づいて向性指数が求められるが、これによれば、内向性と外向性は一次元的延長の上に考えられ、すべての人間が、この一直線(内向性と外向性を極とする)上のどこかに位置づけられることになる。したがってこの検査によれば、内向性でないものは、外向性であって、両者の関係は二律排反となってしまう。

正木(1936)は、自己診断の諸検査に次のような疑問を投げかけている。

注1) 向性指数(VQ) =
$$\frac{\text{外向点} + \frac{1}{2}\text{無応答数}}{25} \times 100$$

①自己診断にあたり、自己を何れとも診断し得ず、疑問符を付することがある。

②場合と時を異にして、相対立する性質のあらわれること。従って一義的に何れとも決定し得ないことがある。

③診断する自己が本来の自己と他人に反映せる自己に分れ、而もそれ等が相反的である場合がある。この場合には与えられたる問に一義的決定を与えることができない。

対極のダイナミズムによつて成りたっている人格が、AかBかという二者択一を迫られる時、その生息の道を疑問反応あるいは無応答の中に細々と見出だしている事は想像に難くない。続(1953)は、必然的な無応答を意味のある応答としてとらえ、“無応答は多義的であり、不定的であるから、これに従来の同性検査のように一律に半単位を与えることは不当である。”としている。さらに続(1954)は同性検査について二件法の回答を多件法とし、その際“中間(程度差)”と“決められ

ない（条件差）”の二つを設け、肯定でも否定でもないものが、この二つのどちらかへ明確にわかれるかとみた。“中間”と“決められない”の応答の理由を調べてみると、予想したような一義的な意味は考えられず、無応答の多義性を述べている。

人格は相反するものを内に含みとはいえ、一般には、どちらかの態度が習慣的に現われ他方はその影にかくれている。従って、ある人を外向型か内向型かに分類することは可能なことである。しかし、それにもかかわらず人格には、この枠組の中に入りきれないものが存在しているのである。それが無応答や疑問反応の一部として表れていると考えられよう。

これまで、同性検査を例にあげて、人格測定分野においては“人格の二面性”の観点が導入されておらず、従って、それを表現しえないことを述べてきた。同性検査は二件法（はい、いいえのいずれかを選択する）の回

答形式をもつものであるが、林(1981)は、回答方法に工夫を加えて、回答の際の心理を明確に示している。彼はまず、甲・乙という二律背反的な答だけを用意した場合には、そのいずれかを選択する被験者が、甲・乙に加えて“一概にどちらとも言えぬ”という中間的な回答が加わる場合、数多くこの中間応答をすることを示した。この傾向は、日本人には特に強いものであり、林はこれを、日本人の“四分六分感覚”とよんでいる。さらにこれをはっきりさせるために、“おはじき”を5個渡して、賛成(選択)の度合いに応じて“おはじき”を甲、乙に配分させてみた。すると一方に0、一方に5という置き方をするものは20%足らずで、60%ぐらいの人々が、一方に2個、一方に3個をおいた。林(1981)は、“一人の心のうちに賛成・反対がある”と結論づけている。^{注1}

注1) 林(1981)の研究は、一般の調査におけるものであり、人格を対象にしてのものではないが、ほぼほぼ示唆的なものであると思われる。

では、次に、回答を段階的に評定できるようにした評定尺度を用いればどうであろうか。近年、パーソナリティ - 測定には、段階評定が可能な Semantic Differential 法を採用した尺度が、多く用いられている。

次節においては、この方法を取りあげ、“人格の二面性”がいかにすれば抽出しうるかという点について、可能性をさぐりたい。

(5) Semantic Differential法における“二面性”

Semantic Differential法（以下SD法と略）は、種々の刺激に対する情緒的意味やイメージを調べる技法で、Osgood et al. (1957)の初期の研究の集成が出されて以来、各方面の研究で利用発展されている。SD法は、両極形容詞対を両側にした評定尺度の一群より成っており、一例をあげれば、Fig. 1のような形式である。

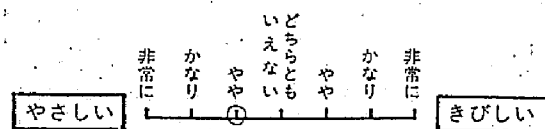


Fig. 1 SD の形式.

ある“概念”^{注1}について、この尺度を使って評定を行なうわけであるが、長島・藤原・原野・斎藤・堀（1965, 1966）は、“自己”を概念として、自己記述語からなる Self Differential を作成した。彼らは、パーソナリティの中核部分である自我について、その中に重要かつ有意味な次元が存在すると

注1) SD法では、評定される対象を“概念 (concept)”という。

いう仮定のもとに、自我を測定する有効で安定した測定用具の開発を試みたのである。

Self Differential は、一種のSD法とみなしうるが、ここでは“人格の二面性”はどのようにあらわれるであろうか。

たしかに、SD法によれば、二件法、三件法とは異なり、選択肢のどちらかのみを強制的に選択させられるということはない。Fig. Iの例であれば、“やさしい”か“きびしい”の二者択一ではなく、“やさしい”と“きびしい”を比較してみれば、“やや”、“やさしい”の方に多くあてはまるということになり決して“きびしい”を否定してしまっていない。しかしながら、この方法では、暗黙のうちに“総和”とでもいえるものを一定と仮定してしまっており、たとえば“やさしい”を4点とするならば、“きびしい”は、(6から4をひいて)2点ということに自動的に規定されてしまっているのである。

従って、この方法によれば、“やさしい”

と“きびしい”の双方によくあてはまると思う人がつけられなくなってしまう。そして、こういった人たちは、SD法においても、やはり、二件法や三件法と同じく、中間点（どちらでもない）に、その逃げ道を見出していることが推測されるのである。

無応答や疑問反応など“どちらでもない”とする反応に対する考察は、SD法の研究においてもなされている。

Green & Goldfried (1965) は、SD法における中点（“どちらでもない”）について、被験者がそのように反応する理由には以下の様なものがあるとしている。

- ① ある概念 (concept) について、尺度の双方があてはまると考える。
- ② 真に、ある概念が尺度中点に位置すると考える。
- ③ その概念を評価するのに、その尺度が全く不適切であると考ええる。

そして、これらを明確に区別することはでき

ないと述べ、さらに論を進めて、SD法の根本的特徴である尺度の両極性及び、因子分析によつて求められる因子空間の両極性に疑問を投げかけている。

① “happy”^{注1}の反対が“sad”であるというのは、一見理路整然としている。しかしながら、ある人が笑いながらかつ泣いている、happyでかつsadであるというのは決してめずらしいことではない。同一人物に同時に、同一状況の異なった側面に対して、平行的でかつ異種の反応がおこりうる。

② “passive”の反対は、“activity”と“aggressiveness”の両方を意味する。一方の形容詞が他方にはない意味の次元をもつ時、両極性は明確とはいえない。

③ “rugged” — “delicate”の対は、“rugged”と“delicate”が個々に示される時には、両方がpositiveな評価をされるという同一の特性をもっている。形容詞が、何らかの同一特性を有する場合、その両極性は満た

注1) 以下、例示の形容詞対については、原語の意味をそなわないために訳すずに記した。

されない。

④ "calm — agitated" の対は、まず 'E (評価)' の次元に負荷をもつが、ついで、'A (活動性)' の次元に負荷をもつ。別の因子分析では、対が "calm — excitable" に変更されて、'E (評価)' の次元の負荷は消えた。そして 'A (活動性)' の一次元に並んだ。対を変更することによって異なった意味の次元に因子負荷をもつことがある。

彼らは、"一般に、形容詞対のうちの一方が他方によつて否定することのできない何らかの特性を有する場合には、両極性仮説は保証されないといいうる" とまとめている。

Mordkoff (1963) もまた、Osgood et al. (1957) によつて用いられた SD 尺度の一部について、これらが、"機能的 (functionally)" には必ずしも反対でないことを明らかにした。彼は、16 の尺度を選び、その中に含まれる形容詞対の一方を刺激語として、10 の SD

尺度で各々の形容詞を評定させ、それを図にあらわして比較した。その結果、“名義的 (nominally)” にも、“機能的” にも両極性を示したのは10対、有意差のなかったものが3対、そして“複雑—単純”、“男性的—女性的”、“固い—軟らかい”の3対は、“名義的” には反対であるものの、“機能的” は両極性をもつとはいえなかった。

さて、Greenら(1965)の行った研究手続きの特徴は、まず、実質的には、単極性の評定尺度と同一のものを使用していることである。すなわち、Osgood et. al. (1957)のいう“ありふれた一般的な” 反対語対を、対としてはいとえず、それぞれに独立に評定できるようにしたのである。Fig. 2はその一例である。(対語は、仮に“やさしい” “きびしい” とした)

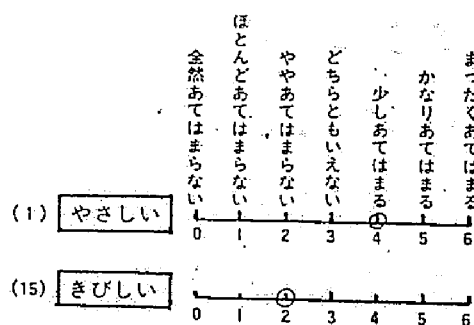


Fig. 2. 単極型SDの例

このような評定方式によると、今まで反対と
思われていた対の中に、ほ、きりそうとはい
いきれないものが見出だされにわけである。

もう一つの特徴は、尺度を (a) 最も明確に両
極性をもっているもの (ex. good - bad) と
(b) そうでないもの (ex. active - passive) の
二種に分けていることである。このように、
対によってその両極性の“程度”に差がある
ことは、Mordkoff (1963) の見出だした結
果と共通するものであろう。

なお、Heise (1969) は、“単極性の尺度
への評定は、両極性の尺度とくらべて、形容
詞の外延的、外面的な側面に反応しているた
め、より多くの変動要因を持つ”として、“
Green & Goldfried (1965) の結果は、通常
のSD評定と著しく異な、た方法をとったか
らである”という批判を述べている。

さて、こうしたSD法における研究は、今
までの質問紙では測りきれず、“どちらでも
ない”に埋もれていたと考えられる、“人格

の二面性”の測定に対して、ほぼはた示唆的
だといえよう。すなわち、“一般的に反対と
思われている対の中には、実は厳密にいえば
共存する可能性のある対が存在し、また、共
存を証明し、測定するには、単極性の尺度を
用いて、対の双方に独立に評定するように可
ればよい”というSD法から得られた方法論
を、そのまま、人格測定分野に適用できた
なら、“人格の二面性”を測定しうると考えら
れるからである。

(6)従来のテストにおける“二面性”測定の試み

次に、従来のテストのなかで、本論の方向と軌を一にし、“二面性”測定の試みをおこなっていると考えられるものをあげる。

A. Rorschach の体験型

Rorschach は 1921 年に精神診断法を発表したが、それによると、インクの汚点からどんな内容を“みつけてみる”かという図形の意味づけをもとにして性格診断がくだされる。

Rorschach は彼の方法論に関連して一つの類型学を素描し、“外拡的な”人と“内向的な”人を区別している。前者の特徴は“外に向って生きようとする衝動、興奮しやすい運動性、不安定な情動性”であり、後者の特徴は、“内面的な働きや集中的な相互関係がまさっていること、安定した情動性と運動性、不器用な態度、現実への適応能力に乏しいこと、拡大的な相互関係に乏しいこと”にある。

さて、Rorschach は、上に述べて二者を生ずる心理的過程が“対立的ではなく差異的で

あ、て、それは、思考と感情、運動と色彩の
 間にみられる差異のようなものだ”と述べて
 いる。彼は自分の類型を“体験型”と呼んだ。
 “体験型”には、‘内向的体験型’‘外拡的
 体験型’‘両面的体験型’‘両向的体験型’の
 4類型がある。Rorschachによれば、テスト
 における運動因子 M (人間運動反応) と色彩
 因子 Sum C^{注1}との相互関係が、内的な精神活動
 を示す内向的要素と、外界への関心を示す外
 拡的要素との関係を反映あると考えたのであ
 る。この中で興味深いのは、M と Sum C がと
 もに著しく減退し、F 反応 (形態反応) が優
 位を占める“両面的型”と、多くの M と多くの
 Sum C を示し、その両者がバランスを保って
 いる、“両向型”の2類型が設定されている
 ことである。

注1)
$$\text{Sum C} = \frac{FC + 2CF + 3C}{2}$$

FC: 形態彩色反応

CF: 彩色形態反応

C: 純粋彩色反応

(Cn 彩色命名反応

Csym 彩色象徴反応を含む)

彼は、対立する二つの類型を両極として、人格をいづれかにおしこめてしまうのではなく“二面性”の観点を導入して類型分類を行なったといえよう。Ellenberger (1954) は、“体験型は、ロールシャッハの“精神診断学”全体の中心部である。それは現代の西洋心理学にはみられない全く新しい考えである”と述べている。

Rorschach-test は、投影法に位置するものであるが、一方質問紙法においても、従来一次元上の対立とみなされていたものを二次元的にとらえようとする動きがある。次に、それについて述べる。

カ. Psychological Androgyny

(心理学的両性具有性)

1970年頃までは、心理学においては、男性性と女性性は一次元上に存在する対立概念として受けとめられており、男性的な人は女性的でなく、女性的な人は男性的でないとされていた。しかし、女性解放運動の高まりとと

もに、性役割の立場から、この考え方に対し
て疑問がもたれるようになり、てきた。

また Singer (1976) は、Androgynyにつ
いて述べ、それが、男性と女性の器質的未分
化、あるいは男性女性両性器の具有を意味す
る“半陰陽”ではなく、一個人が同時に男性
女性の両者に性的に惹かれる“両性愛”でも
ないこと、また、一個人の内面の男性的なる
ものと女性的なるものが無意識のままに混在
するのでもなく対立するのでもなく、この両
者が調和しあった人格、あるいはその状態を
さすことを述べている。Singer は、Jung
派に属する人であるが、こういった両性具有
的な人格の在り方を理想的なものとして述べ
ているようである。

こういったなかで、Bem (1974) は、男性
性と女性性を二つの独立した次元ととらえ、
“男性的”“女性的”に加えて、“両性的”
な人格をとらえるべく BSR I (Bem Sex-Role
Inventory) を作成した。BSR I は、“男

性項目” “女性項目” “中性項目” の3種類より成り込っている。それぞれ20項目ずつ、計60項目について7段階の評定尺度で、それがどの程度自分にあてはまるかを考えてつけていく。男性項目とは、社会的に望ましい語でかつ男性にとって女性よりも望ましいとされる特性であり、女性項目はその逆である。

B S R I においては、男性項目得点と女性項目得点に差のないものが“両性的”と定義されている。

Berzins, Welling & Wetter (1978) は B S R I の理論的根拠として

- ① “男性性” と “女性性” の独立した尺度
- ② アメリカ社会では、たとえば、男性的特性は、女性にとってよりも男性にとってより望ましいとされるという観点に込、この項目選択
- ③ 一般的にのぞましい内容をもつて項目群の三点をあげている。

Psychological Androgyny は、最近盛ん

に研究がなされており、BSRIについても新しいスコアリングが検討されている。すなわち、従来のBSRIのスコアは、男性得点・女性得点の双方が高得点のものと、逆に双方が低得点のものを区別できない（両者の差によって Androgyny 得点を求めているので）という欠点をもつので、それを改良しようという動きがみとめられる。Orlowsky et al.

(1977)は、Bemの用いた方法によって3群にわけたあとさらに、両性群を、男性得点・女性得点の中位点を用いて2分する方法の利点を報告している。

さて、これまでみてきたように、投影法では、ローレンシャットテストの体験型、質問紙法では、心理学的両性具有性の考え方に、“人格の二面性”という観点と共通したものが認められる。従来、一次元上の対立とみばされていたものを改めてみなおしてみようという動きの中には、男性性-女性性の問題の他に、依存性-自立性の問題があげられよう。

Sears (1953) は、依存性と自立の対概念としてではなく、単独の性格特性としてとりあげた。最近の研究では、依存は自立と共存可能なものにとらえる立場がみとめられる。

このように、人格測定分野においても、“あれかこれか”ではなく、“あれもこれも”という立場にたって、何とか、その両方を抽出していこうという動きが認められるのではないだろうか。

(7) まとめ

人格は、二者択一によって規定するには、あまりに複雑な存在である。自らの中に、相反する二つのものが共存していることに気づいて、“自分はいったい何なのだろう”という問いを自らに発した経験を、誰しも持っているであろう。

人格内に存在する、この対極的な側面を、筆者は“人格の二面性”とよぶ。この“人格の二面性”は、これまでの人格理論及び人格測定分野ではどのようにとらえられ、とり扱われてきたのであろうか。この点に関しての考察を加え、“人格の二面性”測定のための新しい方法の可能性をさぐることが、本章の目的であった。

まず、“人格の二面性”ということばではないにしても、これと共通した概念があるに存在してはいないだろうか。この点について、筆者は、a. 二元性、b. アンビヴァレンス、c. オモテとウラ、d. 補償といったことばを挙げ

かりに検討を加えた。しかし、共通性や示唆をうけるべき事柄は認められるものの、これらの概念のみで“人格の二面性”を説明することはできないと思われた。

さて、次に、人格理論においては、“人格の二面性”はどのようにとり扱われてきたのであろうか。

人格理論の中の大きな流れとして類型論と特性論とがあるが、そのいずれにおいても、“人格の二面性”の存在を否定してはいないように思われた。たとえば、類型論の中では、クレッキナーの‘分裂質’が、過敏さと無感動という矛盾した特性の共存を許している。また、特性論においても、基本的な考え方として、様々な特性の存在を許しており、そこには、“人格の二面性”の存在の余地が残されているように思われた。

このように、人格理論においては、たしかに否定されてはいないと思われたのだが、逆にいうと、“人格の二面性”について積極的

にとりあげ論じてものは、非常にツライという
ことも事実であろう。これはいかなる理由
によるのだろうか。

Allport (1961) の研究や Erikson (1959)
のアイデンティティの概念をひもとくまでも
なく、人格の統一性、一貫性は、動かしがた
い大前提と考えられている。“人格の二面性”
という矛盾をばらんだ概念を導入することは、
この前提と対立する可能性のあることが、上
にあげた問いの一つの答ではないだろうか。
しかし、人格の“一貫性”“恒常性”に関し
ては、あてに疑問がだされている。

Mischel (1968, 1976) は、ある“特性”
が様々な場面を通じて一貫しているかどうか
を検討し、その結果、一貫性があるにしても
それはごく低いものだという結論を得た。

その他、Block (1971) や、Sears (1977)
も、こういった点に関する研究を行なって、
人格特性の中で、安定性のあるものと、そう
でないものとが区別されることを見出した。

また、Zimbardo (1980) は、パーソナリティ
に一貫性を見易い常識的・一般的認知傾向
をとりあげて、そのように認知されやすい問
題点をとりあげた。彼によれば、パーソナリ
ティが状況に支配されば一貫性をもつと
いう前提と、それを否定する見解との間にパ
ラドックスが生じている。なぜ、実際以上に
一貫性を認めようとするのか。Zimbardoは、
これにいくつかの仮説をあげて答えている。
ここにすべてをあげることはできないが、い
ずれも興味深いものだと思う。たとえば
“人は誰も自分の‘は、まりと説明されな
い’パーソナリティ理論をもっている。いわば”
暗黙の“人間とはこういうものだ”という考
えを強くもっていて、それに基づいて観察さ
れた行動を自らの仮説的な特性に結びつけ、
まだ観察されない行動をも予測する。実際の
観察がない余白の部分も、当然こうであるは
ずだという推測でうめてしまう。知的能力や
認知スタイルなどの、証明されたある程度一

貫性の存在する領域があるので、一貫性を強調したがる傾向の故に、他の、一貫性が事実上明らかでない領域にまで、過度に一般化しすぎてしまうのである。”また、“我々は一貫性があるということは善いこと、信頼性のあること、安定性のあることとして評価している傾きがある。そのため一貫性が存在しないところにそれを見る傾向が生ずる”など。

さらに、佐治(1983)は、Zimbardoのこの見解に関連して、“とにかく、一貫性のない人、時と場合で人格の統合性が解体してしまうように思われる人は、病的であるとさえ考えられる。しかし観点を変えるとき、一貫的であることが、問題になる場面をも見逃すことはできない。硬化している、構造が凍結している、状況に応じての柔軟な対応が不可能である、などの表現であらわされるパーソナリティの内容は、成熟、建設的な変化という面を拒否する、あるいは不可能としているある種の問題の人を意味するからである。”

“一方でパーソナリティの同一性を確保する機能は、他方でより一層の発展を阻害する機能でもある。このことに関して統一的に説明する理論を筆者は持たないのを残念に思うが、このことがパーソナリティーという多くの未知・未解明の領域の一つの重大問題であることを指摘しておかねばなるまい。”

こういった、人格の‘一貫性’への疑問は、“人格の二面性”の観点を導入する道を拓くように思われる。

さて、人格が一つの全体性、統合性を保ちながらも、それが対極の間のダイナミズムによって支えられていることは、Jung が、つとに指摘してきたところである。彼は、意識の態度に対して無意識の態度を考え、この両者が相補的関係にあると考えたのである。

また、Maslow も、彼が‘B 価値’と呼ぶ高次欲求（自己実現者のもつ欲求）の中に、“二分法の超越”ということもあげている。

このように、人格理論においては、“人格

の二面性”について、その存在の余地が残され、まに教訓ないながらも、それを積極的にとりあげた理論も提出されているのだが、人格測定分野においては、その理論が十分に反映されているとはいいがたい。たとえば、先程のJungの同性の考え方に基づいているとされる我が国の同性検査は、外向と内向は一次元上の両極となり、その両者が両立する可能性は全くなく、てしま、ているのである。同性検査は、二件法あるいは三件法であるが、回答を、段階的に評定できるようにした評定尺度法、(たとえばSD法を利用した尺度)においても、事情はあまり変わらない。本章の5節において詳しく述べたように、しかし、AかBかのいずれかだけに決定してしまうものではないのだが、Aを多くもち、同時にBを多くもつ人(“二面性”の存在)の場合、自らを表現する方法がなく、むりやりどこかに押しこめらる結果におけるのは、二件法の場合などと同様なのである。

さて、従来の検査法の中で、こういった人たちの唯一の逃げ道は、中間応答（“どちらともいえない”）であつたらしい。正木、続、あるいは、SD法の研究における Green & Goldfriedなどが、この点についての研究をおこなっている。その結果、この中間応答は一義的な意味を下すことのできない、なかなかの曲者であることがわかってきたのである。

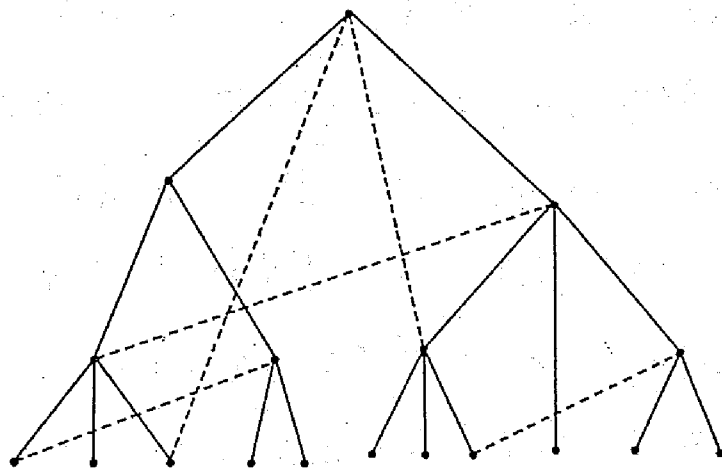
人格判定の分野においては、特に“人格の二面性”に対する考慮がなされず、その点が捨象されてしまっているように思われる。

そうなった理由のうちの大きな理由は、本章(3)節においても述べてたが、測定し、数量化しようとする場合には、科学性、客観性が追求されることがあげられるだろう。科学性には、矛盾があつてはならないのだから。

しかし Allport (1968) は、いわゆる“科学的”な心理学に対して、“その方法はたしかに科学的である。しかしその基本的仮定は——すなわち人間はたんに反応する有機体に

すぎないということとは——他のどんな仮定よりもより科学的であるとは言えないのである”と述べている。Allportは、‘平均的な、しにがって、一般的ではあるが誰のものでもない心（mind-in-general）’ではなく、‘現実には存在する個人の心（mind-in-particular）’を重視した人であった。“現実”の人間を考えて場合には、“科学性”だけではその姿をとらえきることができないように思われる。

Deleuze & Guattari (1976) は、システムの構造を示すモデルとして、‘ツリー’と‘リゾーム’をあげている。‘ツリー’は、図3において



〔図3〕 ツリーとリゾーム

実線以示されるもので、これは会社組織や、
動植物の分類表などのような整然とした体系
である。これに対して‘リゾーム’の方は、
図3において、点線以示される方で、“任意
の一点は、任意の一点と結合しうるし、結合
すべきである”存在で、いわば、地下茎のよ
うに、あらゆるところが結ばれあった状態で
ある。Deleuze & Guattari によれば、“現実
というものはリゾーム的存在であるのに、人
間の思考がツリー型であって、そのために、
gapが生じてきている。”とし、ツリー型シス
テムを実在そのものと錯覚してしまうところ
に問題が生ずると述べている。

この‘ツリー’と‘リゾーム’の両者には、
さまじいジレンマが、まさに、今問題として
いる、‘現実の人格’と‘それを科学的に測
定しようとする学問’との間のジレンマを通
じてくるのではないだろうか。“人格の二面
性”は、この両者の間に位置するものである。
筆者としては、決して、‘ツリー型’を、

排除するものではない。なぜなら、それを放棄することとは、人格を“とらえよう”とするその姿勢を放棄してしまうことに通じると思われるからである。しかし、“現実”の人間をぎりぎりのことで“科学”が成りたつてとしても、そこにどんな意味がみいだされるであろうか。

シレンマは、その根が深く、そう簡単には解決されないものであるが、筆者としては、“人格の二面性”を‘数量的に’測定するという試みによつて、まずその一步を踏みだしたいと考えている。

さて、では、具体的にどのような方法によつてそれを行えばよいだろうか。従来の研究あるいは、人格テストの中で、本論と軌を一にするものをさぐってみた。

まず、ロールシャッハテストの体験型、この中には、外拡と内向の両方を多くもつ両拡型、そして両方がともに少ない両貧型という類型がみられる。次に、最近研究が盛んにな

っている "Psychological Androgyny"。ここでは、従来一次元上の両極とされてきた男性性・女性性を独立した次元としてとらえている。Bem (1974) の開発した新しいテストでは、男性項目・女性項目それぞれについて、7段階の評定尺度によって評定するようになっている。これは、SD法の単極性の尺度と実質的に同じである。(本章(5)節 Fig. 2)

Green & Goldfried (1965) も、同じように、単極性のSD尺度を用いて、Osgood et al. (1957) の述べに、SD法の両極仮説に疑問を投げかけている。この単極尺度を用いると、対立する対の双方に独立に評定できるのである。このことは、"人格の二面性"測定にとって、ほぼはば示唆的であろう。

しかし、Heise (1969) が行なっている批判もみのがすことのできないものである。彼は、単極性尺度の形容詞と、両極性尺度の形容詞とでは、たとえ同じ形容詞であって、その意味するところが異なるという指摘を、

している。たとえば“やさしい”という形容詞を例にあげてみよう。この一語だけを問われて評定するのと、“やさしい—きびしい”という対の一つとして“やさしい”をみるのとでは、たしかに異なる。後者においては、“きびしい”によって逆規定されるところが大きいように思われる。Heise (1969) は、“単極性尺度はより多くの変動要因をもつ”としている。このHeiseの批判を考慮しつつ、単極性のSD尺度を扱っていく必要があるだろう。

さて、以上みてきたように、“人格の二面性”測定の試みは、理論的にもその意義が認められ、また、方法論的にも、十分可能であることが結論づけられよう。

以下の章においては、これらの理論・方法論をもとに、客観的・量的処理の可能な質問紙を用いて“人格の二面性”を測定しようとする試みを、具体的に示していきたい。

第二章

5

10

15

第二章

"人格の二面性" 測定のための 尺度の作成

(1) 新しい尺度の作成 53

問題及び目的 53

方法 a. 質問紙作成手続き 56

b. 調査手続き

結果及び考察 63

a. 質問紙はどのような特性を もつか

b. 質問紙作成は適切に行われ たか

c. ほどして人格の"二面性"を 測りうるか

要約 77

(2) SD法との比較による, 新しい

測定形式の検討 78

問題及び目的 78

a. 調査 I

目的・方法・結果及び考察

b. 調査 II

目的・方法・結果及び考察

総合的考察 ----- 94

要約 ----- 100

(3) 尺度の改良その1

—— NEGATIVE 語を加えて ----- 102

問題及び目的 ----- 102

方法 --- a. 新たな尺度の作成 ----- 105

b. 調査手続

結果 --- a. 調査 1 ----- 110

b. 調査 2

考察 --- a. N 項目の特性・意義

について ----- 119

b. “自己を望ましくみせ

ようとする構え”について

c. N 項目を含んだ TSPS-II

の特性について

要約 128

(4) 尺度の改良その2

——“二面性”のスコアリングについて—— 131

a. 問題及び目的

b. 各スコアのフロフロール特徴

c. 群別分析の試み

d. Kaplanの方法

e. 新しいスコアリング

要約 142

(5) TSPSの諸特性について 144

a. 項目別男女差

b. 因子分析

(6) TSPSの妥当性について 154

a. 性格検査としてのTSPSの妥当性

b. “二面性”テストとしてのTSPSの
妥当性

(7) TSPSの信頼性について 169

要約 172

第二章

"人格の二面性" 測定のための 尺度の作成

(1) 新しい尺度の作成 53

問題及び目的 53

方法 a. 質問紙作成手続き 56

① 測定形式

② 項目の作成

③ スコアリング方法の決定

b. 調査手続き 62

結果及び考察 63

a. 質問紙はどのような特性を もつか 63

b. 質問紙作成は適切に行われ たか 66

① 対立概念としての妥当性

② 項目選択

③ スコア

c. 以上にして人格の "二面性" を

測りうるか 74

要約

77

第二章 “人格の二面性” 測定のための 尺度の作成

(1) 新しい尺度の作成^{注1)}

問題 及び 目的

第一章において述べてきたように、人格の中
の対極的な側面（“二面性”）について、数量
的に抽出しうるような新しい質問紙（尺度）
を作成することが、本節の目的である。

Green & Goldfried (1965) が行ったによ
うな、単極性のSD尺度によれば、対の双方
に独立に評価しうるわけであるが、ここでは、
さらに改良を加えた新しい尺度を作成するこ
ととした。

なお、尺度の問いの形式には、Y-G性格検
査にみられるように、文章によるものや、
Self-Differential (長島ら, 1965) にみ
られるような形容詞によるものがあるが、こ
こでは、形容詞を採用することにする。一般
に、形容詞対をもって評価させるSD法は、
“他の技法ではとらえられない、情緒的意味

注1) 「質問紙法による人格の二面性測定の試み」心理学研究 1983, vol. 54, No. 3,
182-188. に加筆した。

イメージを数量的にとらえることができる”
(岩井, 1975)。文章によるものと、形容詞に
よるものとは、それぞれ一長一短であって、
いすれも勝る、というものでなく、
むしろ、その測定している側面に違いがある
ように思われる。文章によるものでは、どち
うかという行動、記述レベルでの自己を反
映するのに対して、形容詞によるものは、自
己イメージというやや抽象的なものを扱うこ
とになる。本論においては、その後者の方
を選択することにした。

さて、“人格の二面性”を、本論において
は、質問紙法という方法で扱うことについて
少し考えてみたい。質問紙法は、自分がこう
であろうと考えている（あるいは認知してい
る）自己——これを認知的自己と呼ぶ——を
抽出することになり、その特徴がある。従って、
質問紙法によって抽出される“人格の二面性”
は、厳密にいうならば、“質問紙法によつて
測定可能な——従つて意識することができる

—— 人格の両極的側面 ” ということになる。
以後の章において、作成された尺度を用いて得られた結果については、この定義に添うことになる。この定義において用いる場合、以後、単に “ 二面性 ” と記すことにする。

なお、Jung (1921) は、意識と無意識とが補償的な関係にあると述べており、従ってそのことを考えると、 “ 人格の二面性 ” についても、一方が意識内にある時には、他方は無意識の内にあるということになる。その点、質問紙法による場合には、意識をとりあげることにになり、 “ 人格の二面性 ” を抽出することが必ずかしい可能性もある。しかし、Jung (1921) は、また別の部分では、以下のように述べている。 “ 無意識を発掘するにはいわば深層ボーリングのような困難な作業が必要だなど ” と考えるのはとんでもない見当違いである。事実とはこれと逆で、無意識は意識的な心理過程に絶えず流入しており、しかもその結果、ある人間の性格のうちどれが意

識的な人格のもので、どれが無意識的な人格のものであるか往々にして判別がつかないこともあるほどなのだ。”従って、意識と無意識について完全に切り離したとらえ方をすると誤りをおかすことになるかもしれない。また、SD法、あるいはそれに類似した方法は、意識においてもやや無意識的な、いわば‘前意識’の部分についてとらえるといわれる。従って、新しく作成される尺度によって抽出する“二面性”についても、単純に、意識的なものと結論づけることができないことを付け記しておく必要があるだろう。

以下、具体的な作成手続について述べる。

方 法

a. 質問紙作成手続

①測定形式

新しい試みとして Fig. 1-1 のような、単極の7段階評定尺度を対にして組合せたものを用いた。それぞれの尺度について、自分がどの程度あてはまるかを考えて○印をつけるが、

その際、左の語と右の語とそれぞれ独立に評
定させた。Fig. 1-1は、“やさしい”について
は“かなりあてはまる”、“きびしい”につ
いては“少しあてはまる”場合の例である。

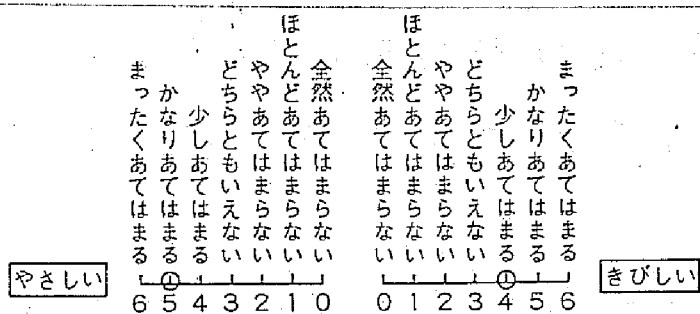


Fig 1-1 測定形式

②項目の作成(形容詞対の選択)

選取にあたり、では、以下の点が考慮される。

(1) 人の性格を形容するのに適當であること。

(四) どちらの語も望ましい意味をもつ語で、かつ望ましさの程度がほぼ等しいこと。

(1) 意味の重なりがないこと。

(二) 対にした語は対立概念として妥当であること。

形容詞と共に望ましい意味をもつ語としてののは、望ましい意味を持つ語ほど意識内に取り込みやすく、たとえ相互に矛盾する語であつ

ても、意識内に共存している可能性が大きいと考えられたことによる。

項目作成は以下の手続きに従って行われた。

1. 形容詞母集団の構成：主に、青木（1972）によって収集された性格表現用語 580 語。これに、青木（1973）によって得られた語を加えた。^{注1}

2. 望ましさによる分類：青木（1971a）によって得られた望ましさの評定値で、5.0 以下（5.0 は中点で、数値の小さい方が望ましい意味をもつ語であることを示す）のものを選択した。青木（1972, 1973）で新たに付け加えられ、望ましさが未知であるもののについては、明らかに望ましさの判定がつくものについてのみ選択された。^{注2}

注1) 青木（1972）によって収集された語は、Allport & Odbert（1936）の基準による第1のカテゴリに属するもの、すなわち、個人の傾向性という定数に反対する中性語、一貫して永続的な意味をもつ用語である。この基準によれば、“愛想のよい”“荒々しい”などは選択されるが“哀しい”“青白い”“田舎者”などは、不適当な語となる。

注2) 青木（1971a）の表示によれば、ここでの望ましさは、社会的望ましさではなくて個人的望ましさである。1～9 の9段階評定で 5.0 が中点。

評定値は、学生群のものと採用。

なお、最終的に選択された語については、その望ましさの確認がなされた。（後述）

3. 意味内容による分類：青木（1972）を参考に、2. で得られた形容詞を因子別に分類した。^{注1}

4. 対語選択：以上の過程を経て得られた形容詞群の中から、筆者が、対となりうる語の組み合わせをできる限り選んだ。その際、青木（1973）による反意語調査の結果を参考として、なおこの作業の際、対語として適当だとは思われるが、1. の形容詞母集団には含まれない語があつたが、これについては、1, 2, 3. の手続きを経てなお残ると判断されたもののみ、採用した。^{注2} こうして、最終的に77組の対が作成された。^{注3}

注1) 青木(1972)は、多因子解析を行なつて、用語の分類を試みている。その結果を参考に、ある因子で0.15以上の因子負荷量を持つ語をその因子に含めるという基準で、同じ因子に含まれる語は一枚のカードに記入し、すべての因子に0.15以下の因子負荷量しかもたなかった語は、一枚につき一語記入して、計101枚のカードが形成された。1, 2, 3. の過程を経て得られた形容詞243語を付表1-1に示す。

注2) この段階で新しくつけ加えられた語は、付表1-2に示した。

注3) 長島ら(1965)の Self-Differential 作成では、ある語を提示して、それに対する反意語を記入させる方法をとっている。本研究においてこの方法を採用しなかったのは、本研究の場合対語の双方が「望ましい」語であるために反意語を作ることが非常に困難であるという理由からである。実際、長島らの Self-Differential でも選択された反意語は、そのほとんどが「望ましい」語と「望ましくない」語の組合せになっている。従つて、本研究では、選択については実験者が行ない、その評定を被験者がするという方法がとられた。

なお、長島らの Self-Differential では、形容詞の収集は連想実験によつてなされたが、本研究では、文献探査の方法がとられた。

5. 対立概念としての妥当性：4. で得られたそれぞれの対について，それらが対立概念として妥当であるか否かを，京都大学学生20名（男9名，女11名）に，A. 妥当である（3点），B. まあまあ妥当である（2点）C. 妥当でない（1点）の基準で評定させた。各対について，得られた得点の合計を反対得点と呼ぶことにすると，反対得点は理論的に20点から60点の範囲を持つが，そのうち40点以上のもの，（50%通過）を反対妥当性ありと認めて選択し，37組の対が残された。^{注1}

6. カテゴリー分類：Cattell (1957) の人格の領域（42の変数），青木（1972）のパーソナリティ側面（66の変数），矢田部 - Guilford 尺度（以下 Y-G 尺度と略）を参考にして，5. で得られた37組の対をカテゴリーに分類した。^{注2}

注1) 4. において作成された項目対，一項目ごとの desirability 評定値（青木 1971a によって得られた望ましさの評定値）及び反対得点を付表3に示した。

注2) 分類結果は、付表3のカテゴリー欄に示した。

7. 最終選択：一つのカテゴリーに偏ることのないよう留意して、最終的に30対が選択された。

以上、1～7の手続きを経て項目が作成されたので、次に、これを Fig. 1-1 で示した形式で、順序左右ランダムに配列し、質問紙が完成した。以下これを、Two-Sided Personality

Scale (TSPS と略) と呼ぶ。最終的に選択された項目対、反対得点を配列順に Table 1-1 に示した。^{注1)}

注1) 配列に際しては、カテゴリーの他、カタカナ、ひらがな、語尾(～ななど)にも留意した。また「大胆-細心」は「大胆かつ細心」ということばもあり、被験者に不必要な構えをおこさせないように最後に配し、他への影響がないようにした。なお、テストの layout にあたっては、尺度間の interaction を防ぐため、対に程度を示すことば(全くあてはまる、多少)をみやすくする[ために、1ページにできるだけ少数の項目を配した。

Table 1-1
選択された項目対及び反対得点

項	目	対	反対得点
1.	用心深い	-のんきな	42
2.	気が強い	-おとなしい	40
3.	あきらめのよい	-ねばり強い	52
4.	口数少ない	-話し好きな	51
5.	気軽な	-慎重な	46
6.	実際の	-理論的	49
7.	指導的	-従順	50
8.	融通がきく	-一本気	51
9.	陽気な	-もの静か	51
10.	それとなくいう	-単刀直入	51
11.	分析的	-直観的	50
12.	てきぱきした	-おっとりした	44
13.	男性的	-女性的	56
14.	世話好き	-人に干渉しない	41
15.	しぶとい	-あっさりした	53
16.	自立的	-協調的	40
17.	茶めつけのある	-大人っぽい	40
18.	冷静な	-情熱的	52
19.	執着する	-臨機応変の	40
20.	ロマンチックな	-現実的な	47
21.	太っ腹な	-デリケートな	41
22.	古風な	-現代的な	58
23.	社交的	-孤独を好む	54
24.	おおやかな	-厳格な	50
25.	のんびりした	-エネルギー的な	43
26.	話しじょうず	-聞きじょうず	44
27.	淡々とした	-熱中する	47
28.	おっとりした	-勇猛な	41
29.	クールな	-人情に厚い	49
30.	大胆	-細心	49

③ スコアリング方法の決定

TSPS のスコアとしては、(a) 和のスコア (以下 S_+ と記す)、(b) 差のスコア (以下、 S_- と記す) の2種を設けた。 S_+ は各項目の得点の総計であり、 S_- は対にした項目間の差の絶対値を30対について合計したものを指す。(対にした項目得点をそれぞれ x_i, y_i とすると、

$$S_+ = \sum_{i=1}^{30} (x_i + y_i)$$

$$S_- = \sum_{i=1}^{30} |x_i - y_i| \quad \text{となる。}$$

項目がすべて望ましい意味をもっていることから S_+ は、適応性を示すものと考えられ、また S_- の小さいことが、人格の“二面性”の存在を示すものとした。

c. 調査手続き

上記のような過程を経て得られた質問紙について

1. 質問紙はどのような特性をもつか
2. 質問紙作成は適切に行われたか
3. 果たして人格の“二面性”を測りうるか

といった点を分析するために調査を行なった。調査は、結果の安定性を確かめ、より広範な分析を行うために2回実施された。

① 調査1

京都大学学生43名（男23名，女20名）を対象として，個人テスト法でTSPSを施行，平均所要時間は1人あたり約6分であった。

② 調査2

京都教育大学及び京都大学学生200名（男99名，女101名）を対象として，集団テスト法でTSPSを実施した。

なお，調査1，2ともに，TSPSの実施とあわせて項目，測定形式及び全体に関する感想の記入を求めた。

結果 及び 考察

a. 質問紙はどのような特性をもつか

調査1，2ともに，項目別平均得点，項目別反応分布，全項目平均反応分布，60項目間相関及び因子分析の諸データが得られた。調査2ではさらにフラスタ分析も行われた。

調査1と調査2の結果は全体として共通性が高く、結果の安定性が裏づけられている。

まず、Fig.1-2は調査1、2における全項目平均反応分布を図示したものである。いずれの調査でも、

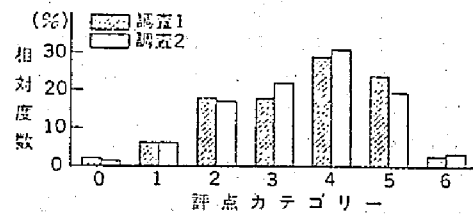


Fig.1-2 全項目平均反応分布。

最も度数の多かった評点カテゴリーは、“4. 少しあてはまる”であった。

次に、因子分析結果であるが、調査1の結果より5因子が意味のある因子として説明可能だと考えられたので、調査2においては、まず、全60項目間の相関を求め、次に因子数5を指定して主因子法による初期解を求め、続いてバリマックス法によって回転を行った。回転後の因子負荷行列を示したのが、Table1-2である。因子の命名は、Y-G尺度を参考にし
て行なった。

第I因子：“臨機応変の”“自立的”などに
高い正の因子負荷をもち、“社会
適応性因子”

Table /-2
回転後の因子負荷行列

Scale	Factor					Scale	Factor				
	I	II	III	IV	V		I	II	III	IV	V
1. 用心深い	-.04	.12	-.17	-.02	.50	16. 自立的	.51	.26	-.04	-.11	.03
のんきな	.19	-.05	.05	.66	-.10	協調的	.37	.05	.25	.13	.10
2. 気が強い	.48	.19	.08	-.18	-.13	17. 茶めつけのある	.31	-.07	.43	.12	.05
おとなしい	-.17	.03	-.49	.31	.35	大人っぽい	.35	.24	-.24	.00	.11
3. あきらめのよい	.24	-.28	.05	.21	-.20	18. 冷静な	.41	.10	-.40	.12	.34
ねばり強い	.11	.56	-.12	-.05	.13	情熱的	.14	.41	.35	.05	.17
4. 口数少ない	-.13	.04	-.76	.20	.14	19. 執着する	-.07	.62	-.04	-.06	.13
話し好きな	.26	.03	.66	-.05	-.08	臨機応変の	.54	-.01	.08	.08	.02
5. 気軽な	.46	-.14	.43	.15	-.13	20. ロマンチックな	-.05	.05	.14	.14	.30
慎重な	.01	.25	-.19	.02	.55	現実的な	.51	-.12	.00	-.09	-.03
6. 実際的	.51	-.06	.07	-.01	.00	21. 太っ腹な	.51	.17	.00	.20	-.23
理論的	.16	.28	-.05	-.04	.36	デリケートな	-.12	.16	-.01	-.02	.48
7. 指導的	.50	.24	.28	-.11	-.02	22. 古風な	-.05	.19	.04	.10	.24
従順	-.03	-.11	-.05	.25	.26	現代的な	.34	.10	.09	-.06	.15
8. 融通がきく	.47	-.43	.04	.07	.05	23. 社交的	.49	-.07	.64	-.05	.04
一本気	-.01	.54	.04	.09	.11	孤独を好む	-.03	.02	-.47	.11	.11
9. 陽気な	.46	-.11	.59	.08	-.01	24. おおような	.22	-.24	.03	.31	-.11
もの静か	-.01	.18	-.60	.23	.43	厳格な	.17	.34	-.17	-.27	.28
10. それとなくいう	.06	-.06	-.17	-.06	.31	25. のんびりした	-.01	.00	-.11	.77	.01
單刀直入	.36	.25	.16	.09	-.25	エネルギー的な	.33	.56	.29	-.14	.00
11. 分析的	.11	.23	-.11	.04	.31	26. 話しじょうず	.46	.04	.40	-.09	.05
直観的	.22	.04	.20	.10	-.11	聞きじょうず	.34	.09	-.06	.16	.25
12. てきぱきした	.52	.01	.31	-.37	.07	27. 談々とした	.38	-.14	-.38	.15	.05
おっとりした	-.15	.08	-.18	.83	.12	熱中する	-.01	.55	.21	.02	.03
13. 男性的	.49	.26	-.07	.04	-.31	28. おっとりした	-.05	-.01	-.15	.79	.15
女性的	-.04	-.06	.14	.00	.36	勇猛な	.46	.48	.10	-.21	-.10
14. 世話好き	.24	.20	.28	.12	.15	29. クールな	.25	-.08	-.55	-.06	.07
人に干渉しない	.08	-.22	-.41	.09	.03	人情に厚い	.18	.27	.28	.22	.28
15. しぶとい	.20	.60	-.11	-.02	.01	30. 大胆	.63	.13	.03	-.03	-.12
あっさりした	.41	-.17	-.05	.28	-.05	細心	-.05	.00	-.18	-.07	.52
						Contribution (%)					
						13.8 9.4 7.5 5.4 4.3					

第II因子：“執着する”“しぶとい”などに正の
高い因子負荷をもち“粘着性因子”

第III因子：“話し好きな”“社交的”に正の、
“口数少ない”“もの静か”に負の
高負荷をもち“社会的向性因子”

第IV因子：“おっとりした”“のんびりした”

に高負荷をもち、“非活動性因子”
第Ⅴ因子：“内省-非内省因子”
と、それぞれ命名されに。

長. 質問紙作成は適切に行われたか

TSPSの基盤になると考えられる対立概念としての妥当性及び項目選択、スコアについて、作成段階における意図が達せられたかという点に関して、調査結果をもとに検討をおこなった。

① 対立概念としての妥当性

作成段階においては、筆者が作成した対リストについて、それらが対立概念として妥当であるかを被験者に判定させたが、今調査の結果をもとに、この対作成について再検討を行うことができる。Table 1-3は、各対と対間の相関係数について、負相関の高い順に並べたものである。この相関係数と、Table I-1にある反対得点とのスピアマンの順位相関係数を求めると、 $r_s = .34$ ($p < .05$)となり、作成段階における反対性判断の信頼性を裏づけ

Table 1-3
反対順位表

項	目	対	相関係数
Op.†	口数少ない	-話し好きな	-.75
Op.	古風な	-現代的な	-.64
Op.	それとなくいう	-単刀直入	-.54
Op.	男性的	-女性的	-.51
	てきばきした	-おっとりした	-.51
	陽気な	-もの静か	-.50
Op.	ロマンチックな	-現実的な	-.43
	おっとりした	-勇猛な	-.42
	太っ腹な	-デリケートな	-.36
	融通がきく	-一本気	-.35
	クールな	-人情に厚い	-.32
	気が強い	-おとなしい	-.29
	のんびりした	-エネルギーな	-.26
	世話好き	-人に干渉しない	-.25
	おおやかな	-厳格な	-.24
	冷静な	-情熱的	-.23
	分析的	-直観的	-.22
	社交的	-孤独を好む	-.21
	大胆	-細心	-.20
	あきらめのよい	-ねばり強い	-.18
	指導的	-従順	-.17
	気軽な	-慎重な	-.10
	淡々とした	-熱中する	-.09
	用心深い	-のんきな	-.08
Co.††	自立的	-協調的	-.05
	しぶとい	-あっさりした	-.04
Co.	話しじょうず	-聞きじょうず	.02
Co.	茶めっけのある	-大人っぽい	.09
Co.	実際の	-理論的	.17
Co.	執着する	-臨機応変の	.18

† Op. 対立性項目

†† Co. 共存性項目

ている。しかし、個々の対についてみると、たとえば、“実際の—理論的”の対などは、反対得点が49点と高得点であるにもかかわらず、相関係数は、 $r = .17$ であり、その結果は矛盾している。これは、相関係数において負相関の高いことは、両者が一人の人間に共存しにくいものであることを

を示し、一方反対得点の高いことは両者が、“概念的に”反対であることを示すという、心理学的意味の相違からきて結果だと思われる。これは、Mordkoff (1963) が、反対性を、^{注1)} “機能的”と“名義的”に分けて考え方と共通するものである。このようにみえてくると、TSPSは、概念的反対性は一応の基準を以

て選択されたにわけであるが、その中には、一人の人間に共存しやすい対（以下共存性項目と呼ぶ）と共存しにくい対（以下対立性項目と呼ぶ）の両者が含まれており、今後、その両者を区別してとらえていく必要があると考えられる。そこで対立性項目を負相関の高い順に5対、共存性項目を負相関の低い順に5対ずつ意味的に偏りのないよう選定し（それら以下、Table 1-3 に印をつけて示した）、それぞれ5対ずつのサブテストと考えて、各々について、 $S_{+}(sub) = \sum_{i=1}^5 (x_i + y_i)$ と、 $S_{-}(sub) = \sum_{i=1}^5 |x_i - y_i|$ を計算した。その結果、対立性項目の $S_{+}(sub)$ と、共存性項目の $S_{+}(sub)$ とは、 $r = .60 (p < .01)$ という相関をもち、同質のものと考えられたが、対立性項目の $S_{-}(sub)$ と、共存性項目の $S_{-}(sub)$ とは有意な相関をもたず、同質とはいえない。従って、 $S_{-}(sub)$ に関しては、人によって対立性項目と共存性項目とで反応に差があると考えられたので、そのちがいを分析す

るため、

$$S_{--} = [\text{対立性項目の } S_{-}(\text{sub})] - [\text{共存性項目の } S_{-}(\text{sub})]$$

(two minus)

という新しいスコアを設けた。

なお、Table 3 は調査 1 における結果を示したものであるが、調査 2 において得られた順位表も調査 1 との類似性が高く、それらにおける反対性の順位には、 $r = .67$ ($p < .01$) という有意な相関が認められた。従って、この反対性の順位は被験者によらずほぼ恒常的に得られると考えられ、このことを基に、 S_{--} スコア設定の妥当性を裏づけるものといえよう。このように肯定と反対性によって順位づけるという考え方は、Green & Goldfried (1965) が尺度を、明確に両極性をもっているものとそうでないものに二分して、両者に差があることを示した考え方と対応するものと思われる。

② 項目選択

まず、項目のもつ意味の望ましさについて

は、全項目について、青木(1971)と同様の
 手続きで京都教育大学学生100名(男54名、
 女46名)に評定を求め、望ましい意味をもつ
 語であることが確認された。[※]なお、感想の中
 に“どちらも望ましい意味をもつ語なのでっ
 けやなかった”とあるものがみられて。次に、
 項目のもつ意味内容であるが、因子分析の結
 果よりⅡ因子以外は、Y-G尺度と関連づけて
 説明が可能であり、性格の望ましい側面に限
 れば、そのほとんどを網羅していると考えら
 れ、意味的な偏りはみられないといえる。

注1) 項目のもつ“のぞましさ”の程度を調べるのと、“項目のもつ‘のぞかしさ’”と

“その項目への反応”との関連性を検討するために、TSPSを同時に実施
 した。“のぞかしさ”を調べるための質問紙は、青木(1971)に準拠し、
 形容詞を、TSPSの配列順序と同じように並べた。これを実施した結果¹⁵
 を付表4に示す。中央値とこえた項目(評定値の小さい方がのぞかしい)
 が17項目あったが、最高が“口教が少ない”の5.25でありごくわずかといえる。
 また、青木(1971)では、中央値を用いていたが、本研究では、平均値を
 用いたのが極端な値の影響をうけやすが、TSPSのものと思われる。また、
 TSPSとの相関はほとんどの項目において、有意な正の相関がえられた。従っ
 て今は、この“項目のもつ‘のぞかしさ’”には十分考慮が払われねばならないだろう。
 したが、本研究では2つの質問紙を同時に実施したことで、その影響をうけたことも
 推測される。

(使用した“のぞかしさ”調査のための質問紙を巻末に付した)

③ スコア

スコアのもつ意味を明らかにするために、スコアと各項目との関係を分析した。まず、両者の相関係数を求め、また、各スコアについて上位群・下位群を定め、各項目ごと群間に差がみられるかどうかを検討した。

まず、作成段階において適応性を示すと考えられた S_+ では、“自立的”“冷静な”など適応性を示す項目をはじめとして、ほとんどの項目がスコアと有意な相関をもち、 TS PS が S_+ について等質的な項目より成り立っていることが示された。

次に、その下位群が“二面性”の存在を示すとされた S_- においては、“熱中する”のみがスコアと有意な正の相関 ($p < .05$) 及び S_- 上位群の方が高得点の傾向がみられ、“冷静な” ($r = -.22, p < .01$) “太っ腹な” ($r = -.21, p < .01$) “口数少ない” ($r = -.21, p < .01$) “大人っぽい” ($r = -.20, p < .01$) などにスコアと有意な負の

相関及び、 S_- 下位群の方が有意に高得点であることが認められた。従って“二面性”を示した群は、情緒的安定性にあぐれ、成熟した人格と関連をもつのではないかと考えられた。以上のように、 $TSPS$ が、“適応性”と“二面性の存在”の二側面について測定可能であり、それぞれ、 S_+ 、 S_- のスコアによって数量化が可能であることが、調査によって確認された。なお、新たに設けられた S_- のスコアについても同様の手続きで分析が行われた結果、スコアと有意な正の相関を示したのは、“話しじょうず”“男性的”など、負の相関を示したのは、“口数少ない”、“女性的”などで、 S_- の上位群、下位群で、外向的-内向的、男性的-女性的などの対照が考えられるかもしれない。また反応の仕方と細かく分析してみると、一般に、 S_- 上位群は対立性項目では一面的に、共存性項目では二面的につけている傾向がみられた。それに対して、下位群は、対立性項目と共存性項

目とでつけ方に差がなく、いずれにおいても
 極端につけない傾向がみられた。従って、“二
 面性”を示すとされた群の中にも、一人の人
 間の中に共存しやうい対でのみ、はっきりと
 “二面性”を示したものと、全体として“二
 面的”ではあるものの、明確には“二面的”
 とはいえないものの両者が含まれていること
 になる。S-は、こういった“二面性”の質
 についての情報を提供するものであり、主に
 量的な情報を与える S+、S- とともに、総
 合的に“二面性”をとらえうるものと思われ
 る。注1。

注1) スコアと項目との関係を調べるにあたっては、両者の間の相関係数を
 とる方法と、スコアの得点によって上位、下位群にわけ、(わけ方について
 のくわしいデータは、付表5参照)、両群間で項目得点に差がみられ
 かも七検定する方法の2種によって検討された。詳しいデータ
 は以下の通り。(なお、ここでは、調査2においてえられた結果のみ
 を示す。)

- ・スコアと項目との相関を図示したもの(付図 1-1 ~ 1-3)
- ・ “ ” 相関係数(付表 1-6)
- ・七検定の結果を図示(付図 1-4 ~ 1-6)
- ・相関係数、七検定の両者を総合して得られたスコアと項目との関係(付表 1-7)

C. はたして人格の“二面性”を測りうるか

TSPSは、概念的には反対とみなしうる対について評定を求めたわけであるが、結果的には、人格においてはその対立が共存しうる可能性が認められた。すなわち、従来の質問紙であれば、“やさしい”に対して“かなりあてはまる”としたものは当然“きびしい”には“ほとんどあてはまらない”になるだろうと考えられていたのであるが、TSPSでは、双方に“かなりあてはまる”とした反応が数多くみられた。従って対間の相関係数も、必ずしも負相関の高くない対（共存性項目）が認められていたのである。

にしかに、“やさしい”か“きびしい”かと問われると、我々ほどどちらかをあげることが出来る。しかし、とりあげなかつた他の一面も全く否定はしていないのである。それどころか、様々な状況における自分を思い返してみた時、両者のいずれとも決め難い場合さえある。そういった時には方なく“どちらも”

「えはい」につけるのであろうが、それを、「中点」と呼ぶには無理があると思われる。TSPSは、「かくれた自分」とでもいうべき人格を表出しよう。 「かくれた自分」は多く無意識的であるが、TSPSがすべて望ましい意味をもつ語によって構成されているために表出が容易になったとも考えられる。また、本テストでは、単極の尺度を対にしているが、これは、対にせずに単に羅列した場合と比べて、^{※1}改めて自己の「二面性」に注目させるという効果を生み、「かくれた自分」を引きだしやすくしにと考えられる。なお、対にすることは、ある項目の意味と対語によって逆規定させるという側面ももっており、TSPSに2個含まれている「おとりした」という項目も、それぞれの対語が異なるために、本テスト内では、厳密には、異な。た項目と考えられた。

以上のように、TSPSは、人格の「二面性」の存在を数量的に確認したものであり、

※1) 次節(2)において、詳しく検討する。

“二面性”を抽出するうえで有効な一方法であること、及び、従来の質問紙法における中間応答の問題に対して一つの提起を為した点にその意義があると思われる。

なお、被験者自身の感想をみると、“おもしろかった”として“自分をあらわしやすかった”とするものが多くみられ、従来の質問紙では表現し得なかった人格側面について、TSPSがその表出を可能にしたと考えられる。一方、“対語の双方にあてはまる場合があり、自分のことがわからなく、に”と不安を訴えるものもあ、に。これは、TSPSが、人格を把握する際に人がもっている“構え”に対して、振動を与え、場合によ、ては不安を喚起する可能性もあることを示唆している。

第二章 “人格の二面性” 測定のための 尺度の作成

(1) 新しい尺度の作成

要 約

本節の目的は、第一章において述べてきたような“人格の二面性”について、数量的に抽出しうるような新しい質問紙（尺度）を作成することである。

まず質問紙の作成手続きを示し、次に、調査を2回実施した結果を示した。結果は、

1. 質問紙はどのような特性をもつか
2. 質問紙作成は適切におこなわれたのか
3. はたして人格の“二面性”を測りうるか、という観点から検討が加えられた。

結果として、TSPSは、人格の“二面性”の存在を数量的に確認したものであり、“二面性”を抽出するうえで有効な一方法であることが確認された。

No.

第二章 “人格の二面性”測定のための 尺度の作成

(2) SD法との比較による;

新しい測定形式の検討 78

問題及び目的 78

A. 調査 I. 目的 79

方法 ① 被験者

② 手続き

結果及び考察

B. 調査 II. 目的 86

方法 ① 被験者

② 手続き

結果及び考察

① 対ジとの対極度

② 質問紙間の相関

③ 被験者の感想

総合的考察 94

要約 100

(2) SD法との比較による、新しい測定形式の
検討^{注1}

問題 及び 目的

(1) 節でみてきたように、人格の“二面性”
測定のための新しい尺度が作成され、それが
数量的に“二面性”を抽出しうることにし
かめられた。本節においては、従来のSD尺
度との比較を通して、新しく作成された尺度
の特徴、意義を明らかにする。

新尺度、すなわちTSPSの尺度形式を、
今、Separated-SD(以下、‘SD_{sep}’と略)
と呼ぶ。SD法には、従来の両極をもつ尺度
(以下SDと略)と、Green & Goldfried(1965)
が用いた、単極性の尺度(以下SD_{mono}
と略)がある。そこで、

ア. 従来のSD法の形式(SD)との比較検
討

イ. 単極性尺度(SD_{mono})との比較検討
の、2段階にわけ、それぞれを、調査I、調
査IIとして以下、論を進めたい。

注1)「パーソナリティ測定尺度に関する一研究—SD法との比較による、新しい測定
形式の検討—」, 心理学研究 1985, Vol. 56, No. 2. 79-85 に
加筆した。

A. 調査 I.

目 的

従来の SD 法の形式 (SD) との比較によって、新しい形式 '*SD_{sep}*' の特徴、意義を明らかにすることを目的とする。

方 法

① 被験者

京都大学学生 42 名 (男 22, 女 20)。

② 手続き

Fig. 2-1 に示すように、従来の SD の形式に、TSPS の形容詞対を順序左右ランダムに並べかえてあてはめた質問紙を作成し、^{注1} 同一の被験者に対し、二種の質問紙に記入させた。

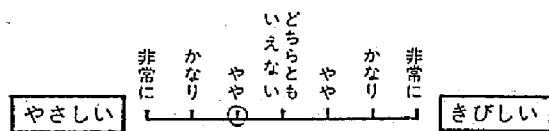


Fig. 2-1 SD の形式

実施順序は、SD が先のものと、'*SD_{sep}*' が先のものと、それぞれ半数ずつとした。被験者にはまた、二種の質問紙のそれぞれについての感想を記入させた。

注1) 本来に質問紙を付した。

結果 及び 考察

まず、二種の形式を比較するために、'SDsep'の左右の評定点の組合せ及びその差を求め、それとSDの評定との対応を調べた。

たとえば、Fig. 2-1 と Fig. 2-2 について、これを同一の被験者がつけたものとするとき、

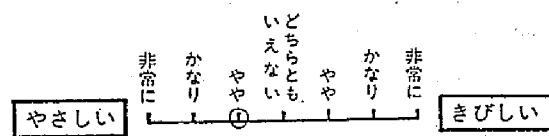


Fig. 2-1 SD の形式.

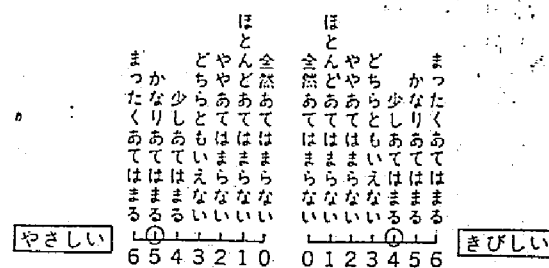


Fig. 2-2 'SDsep' の形式

SDの評定は+1(左側より)+3~-3と数値化する), 一方'SDsep'の評定の組合せは(5,4), 差は $5-4=1$ となる。こういった対応を30対X被験者42名について検討した結果をTable 2-1に示す。

Table 2-1 より, SD と 'SDsep' それぞれ

に対する評定の相関を求めると、 $r = 0.7345$ となり、かなり高い相関を示した。しかし、対応を詳細に検討してみると、相違点が認められる。例えば、SD の 0 point (どちらでもない) は、'SD_{sep}' ではかなり広い分布を示している。特に、SD の 0 point と理論的には対応すると思われる 'SD_{sep}' の 0 点をみると、その組合せは、(0, 0) から (6, 6) まで広がっており、SD の "どちらでもない" の意味の広さ、多義性を物語るものといえよう。また、たとえば、'SD_{sep}' の 0 点を例にとると、

Table 2-1
'SD_{sep}' と SD の評定の対応

'SD _{sep} ' への評定 差(左-右)組合せ	SD への評定						
	3	2	1	0	-1	-2	-3
6 (6, 0)	5	2					
5 (6, 1) (5, 0)	2 3	3 5		1			
4 (6, 2) (5, 1) (4, 0)	1 1	3 26 2		9 1	3		
3 (6, 3) (5, 2) (4, 1) (3, 0)	1 1	32 4	31 7 2	1 4 3		3	
2 (6, 4) (5, 3) (4, 2) (3, 1) (2, 0)	1	2 15 8	1 12 60 5		6 15 1	2 1	1
1 (6, 5) (5, 4) (4, 3) (3, 2) (2, 1) (1, 0)	1	26 7 2	32 28 6 3	12 38 12 4	11 5 4	2	
0 (6, 6) (5, 5) (4, 4) (3, 3) (2, 2) (1, 1) (0, 0)	2	9 5	10 39 17 9	1 30 42 46 10 3 1	1 19 27 16 4 1	1 5 2 1	1
-1 (5, 6) (4, 5) (3, 4) (2, 3) (1, 2) (0, 1)		2	6 8 4	8 21 10 8	4 21 29 20 2	2 15 7 1	1
-2 (4, 6) (3, 5) (2, 4) (1, 3) (0, 2)			1 1 5	3 10 14 3	2 20 52 5	2 8 14	
-3 (3, 6) (2, 5) (1, 4) (0, 3)			1 1 1	1 8 3	2 40 11 1	2 28 4	2 1
-4 (2, 6) (1, 5) (0, 4)			1	1 13 1	5 21 1	3 4	2 3
-5 (1, 6) (0, 5)					1 3 4	2	
-6 (0, 6)					1 5	3 3	
計	19	154	303	316	319	136	13

さ、多義性を物語るものといえよう。また、たとえば、'SD_{sep}' の 0 点を例にとると、

組合せにおいて、 $(0, 0)$, $(1, 1)$, $(2, 2)$, $(3, 3)$ など“和が小さい時には、 SD においても、ほぼ 0 point 近くに評定しており、 $'Sdsep'$ と SD にかなり対応がみられる。しかし、 $(4, 4)$, $(5, 5)$, $(6, 6)$ になると、 $'Sdsep'$ と SD は必ずしも対応しているとはいえず、特に $'Sdsep'$ $(5, 5)$ は、 SD では $-3 \sim +3$ まではばらつきがみられる。(このことは、Table 2-1 の、 $'Sdsep'$ 0 点において、逆三角形の分布であること示されている。)これはすなわち、 $'Sdsep'$ における相得点の大ききものは SD では、一義的に表現できないことを示すものである。

SD の 0 point のもつ意味が一義的でないことは、Green & Goldfried (1965) も指摘しており、また、従来の評定法の中の二件法における無応答、三件法における“どちらでもない”のもつ意味の多義性についても、正木 (1936), 続 (1953, 1954) が指摘している。本研究の結果はこの“多義性”を証明す

るものであり、また、これが問題になるのは、被験者が対の双方にあてはまると感じている時で、そのような場合のSDの反応を一義的に判断することはあやまっていることが明らかにされたといえるだろう。

さらに、SDと'SD_{sep}'とのずれは、0 pointのみにとどまらない。他の評定点においては0 pointほどの分布の広さは認められないが、それでも、'SD_{sep}'が、(5, 3)で2点であっても、SDでは逆に-1ということもあり、SDと'SD_{sep}'との対応関係は、複雑であると考えられる。被験者自身の感想にも、"SD_{sep}とSDとで、解答が矛盾しているように思う"と述べて者が全体の11.8%存在している。また、"どちらの形式の方がやりやすかったかを尋ねると、'SD_{sep}'と答えた者が、60%、SDと答えたものが5%であつた。特にSDにおいては、"対の双方にあてはまると思う時に困った"としており、こうした被験者にとっては、特に、'SD_{sep}'の形式が意義をもつ

といえるだろう。

‘*Self-Diff*’の方がやりやすかったとする被験者の感想の中に、“こちらの方が、自分をよくあらわせると思う”という意見がみられた。

これは、‘*Self-Diff*’の形式が、被験者の内的な現実をより表現しやすくしていることを示していると思われる。

TにT、TSPSの対と、Self-Differentialの対とを比較してみると、たとえば、TSPSでは“融通がきく——本気”，Self-Differentialでは“かたい——やわらかい”となり、後者の方が対極度が高く、両立しにくいものであることがわかる。こうい、Tに對極度の高い対においては、被験者は、二者択一的な選択が容易であるので、わざわざ対の双方を独立に評定する形式を設ける必要はないかもしれない。^{注1}

従って、‘*Self-Diff*’の新しい形式がその意義をもつのは、対立語においても、その双方があてはまると考える人（“二面性”をもつ人）

注1) 若林(1981)は、Self-Differentialの形容詞対と‘*Self-Diff*’の形式にかえて、従来のものとの比較を行っている。結果は、若干の相違は認められるものの、両者に大きな差はみられなかったとしている。

及び、性格の中の、反対ではあるものの、共存可能性の余地を持つ。二側面においてであるといえるだろう。ただ、パーソナリティーにおいては、“男性的-女性的”といった、概念的には相当対極度の高い対においても、共存可能性の余地があるので、やはり、二者択一的な尺度のみでは不十分なのではないかと考えられる。

6. 調査Ⅱ

目的

単極性尺度 (SD_{mono}) の形式との比較によって、新しい形式 ($'SD_{sep}'$) の特徴・意義を明らかにすることを目的とする。

方法

① 被験者

京都教育大学学生 58 名 (男 20, 女 38)

② 手続き

Fig. 2-3 に示すように、Green & Goldfried (1965) が用いたような 7 段階の単極性尺度 (SD_{mono}) に、TSPS の形容詞対を、対をくずしてランダムに並べかえてめてはめて質問紙を作成した。^{注1} 同一の被験者に対し 2 種の質問紙が施行されたが、項目の中には、実

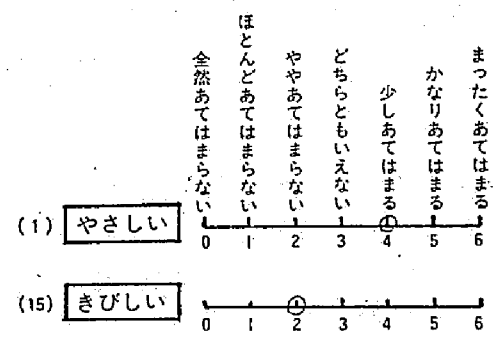


Fig. 2-3 SD_{mono} の形式.

注1) 巻末に質問紙を付した。

は対になる形容詞が存在していることを被験者に知られない必要があつたので、実施順序はすべての被験者について、 $SD_{mono} \rightarrow 'SLrep'$ の順であつた。2種の質問紙は一週間の間隔をおいて施行され、また両者を比較しての感想を記入させた。

結果 及び 考察

二種の質問紙を比較するにあたって、まず両者の全体的な構造を概観するため、それぞれの質問紙ごとに、全項目間相関を求め、その結果をもとに、因子分析を行った。^{注1} $'SLrep'$ と SD_{mono} とで変動がみられた項目も存在したが、得られた因子はほぼ対応するものであり、全体の構造としては、両者に差がないことが明らかにされた。^{注1}

注1) 京大大型計算機センター、SPSSにて処理。因子数は3、収束精度0.01、くりかえしの限度数50、固有値精度1.0と指定した。

付表2-1、2-2に、Varimax解を示す。

また、各因子に高い因子負荷をもった項目を、付表2-3及び2-4に示した。

ただ、全項目平均反応分布を求めると、Fig. 2-4 のようであり、最も度数の多いカテゴ

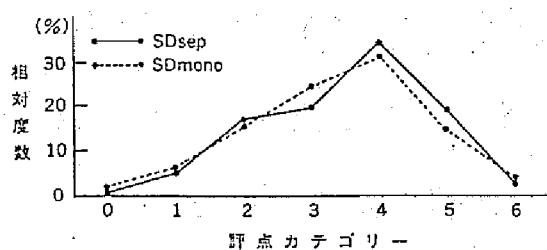


Fig. 2-4 全項目平均反応分布.

リーが“4. 少しあてはまる”であったことは共通しているものの、SD monoの方が、“SDsep”より、評定点3において度数が高く、評定点5において度数が低いという差がみられた。

従って、より細かい分析を行なうことにより、両者の差をさらに明確にしていく必要があると考えられた。

① 対ごとの対極度

第2章(1)節で示したように、^{注1)}各対ごとに、対語の間の相関係数を求め、負相関(これを“対極度”とする)の高い順に順位をつけると、この順位は、被験者によらず、ほぼ恒常的に得られる。従って各対は、それぞれ固有の対極度を持ち、その程度によって順位づけを行なうことができるのである。今、‘SDsep’とSD monoそれぞれについて、対間の相関係

注1) p. 69 参照

数を求めた上で対の順位づけを行ない、両者を比較してみると、^{注1} $r = .5711$ ($p < .01$) という相関が得られた。しかし、もう少し詳しくみてみると、 $'SD_{sep}'$ と SD_{mono} との間に、やや違いがみとめられた。

Table 2-2 は、対を、もともと対極度の高い対 ($Op.$ と略) と、対極度の低い対 ($Co.$ と略)

Table 2-2
対極度別にみた2尺度の比較

	$'SD_{sep}'$ の方が対極度が高かった対の数	SD_{mono} の方が対極度が高かった対の数
対極度がもともと高い対 (15 対) $Op.$	12	3
対極度がもともと低い対 (15 対) $Co.$	8	7

の二つにわけた上で、それぞれにおいて、 $'SD_{sep}'$ と SD_{mono} のどちらの方が対極度が高かったかを示したものである。 $Op.$ においては、 $'SD_{sep}'$ の方が対極度が高くなるが、 $Co.$ においては、両者に違いがない。つまり、対のもつ対極度がもともと低い場合には、 $'SD_{sep}'$ と SD_{mono} とで差が認められないが、対極度がもともと高い対の場合は、 $'SD_{sep}'$ の方が対極度が高くなるという結果が得られた。これは、 $'SD_{sep}'$ の場合、対が“対”として意識的に捉えうるように提示さ

注1) 付図2-1に、TSPS、 $'SD_{sep}'$ 、 SD_{mono} の3者の対間相関係数を図示して示した。

れるため、もともと対極度の高い対の場合、対を“反対”であり、二律背反的であるとみなす“構え”が形成されやすくなるためではないかと考えられる。

②質問紙間の相関

次に、二種の質問紙‘ SD_{sep} ’と SD_{mono} との間の相関係数を、項目ごと求めた結果をTable 2-3に示す。^{注1}相関係数の平均値は $r = .6302$ であり、全体に高い相関が得られている。しかし“それとなくいう”は有意な相関とはいえず、“おおよくな”も相関係数は低い。そこで、これら相

Table 2-3
' SD_{sep} ' と SD_{mono} との相関係数

項目	相関係数	項目	相関係数
それとなくいう	.3130	聞きじょうず	.6381**
おおよくな	.3545*	融通がきく	.6603**
実際的	.4196**	細心	.6605**
熱中する	.4338**	もの静か	.6768**
人に干渉しない	.4485**	話しじょうず	.6817**
一本気	.4913**	茶めつけのある	.6826**
協調的	.5060**	おっとりした	.6848**
直観的	.5214**	理論的	.6869**
あきらめのよい	.5312**	エネルギーな	.6893**
太っ腹な	.5355**	ねばり強い	.6907**
しぶとい	.5423**	大人っぽい	.6950**
勇猛な	.5442**	気が強い	.6984**
用心深い	.5527**	分析的	.6999**
クールな	.5535**	従順	.7025**
臨機応変の	.5653**	世話好き	.7034**
デリケートな	.5664**	おっとりした	.7037**
情熱的	.5674**	自立的	.7053**
あっさりした	.5709**	冷静な	.7073**
気軽な	.5743**	ロマンチックな	.7338**
人情に厚い	.5880**	男性的	.7351**
現代的な	.5961**	女性的	.7359**
古風な	.5964**	てきぱきした	.7364**
淡々とした	.5972**	単刀直入	.7514**
のんきな	.5990**	陽気な	.7540**
おとなしい	.5997**	のんびりした	.7657**
厳格な	.6073**	話し好きな	.7711**
大膽	.6087**	孤独を好む	.7770**
執着する	.6241**	指導的	.7967**
現実的な	.6276**	口数少ない	.7996**
慎重な	.6282**	社交的	.8265**

* $p < .05$ ** $p < .01$

関係数の低かった項目と、逆に、相関係数の高かった項目をそれぞれ15項目ずつとりあげ

注1) それぞれのテストの平均値及び、標準偏差を付表2-5に示す。

比較検討してみると, 3 (どちらともいえない) の度数において差があることがわかった。^{※1}

すなわち, Table 2-4

に示されるように,

'SD_{sep}' と SD_{mono} との

相関が低い項目群では,

Table 2-4
2尺度間の相関係数の高低別にみた
"3" の度数の平均値

	'SD _{sep} '	SD _{mono}	t
2尺度間の相関係数が低かった15項目	12.93	16.40	-2.885*
2尺度間の相関係数が高かった15項目	10.93	12.40	-1.665

* $p < .05$

'SD_{sep}' の方が "3" の度数の平均値が有意に

低い ($t = -2.885$, $df = 14$, $p < .05$), 相関

係数の高かった項目群においては, 有意差が

認められなかった。一方, 相関係数が低か

った項目の形容詞がどういった性質をもつかに

ついて, 青木 (1971a) が行った形容詞の使用

頻度の研究をもとに, 検討を加えた。その結

果, 'SD_{sep}' と SD_{mono} との間の相関係数が

高かった項目は, 使用頻度の高い形容詞であ

る可能性が示唆された。

以上のことより, 使用頻度が低く, 意味を

とらえにくい形容詞の場合, SD_{mono} におい

ては "どちらでもない" の評定が多くなるが

'SD_{sep}' では, この評定が減って他のカテゴ

※1 付図 2-2~4 に, テスト間の相関の低かった項目の度数分布の例を, または
付図 2-5~7 に, テスト間の相関の高かった項目の度数分布の例を示した。

リーにふりわけられたと考えられる。これは 'Sdsep' の場合、形容詞が対語の形で呈示されるので、意味が相互に規定される結果、"3" 以外への評定が容易になったためではないかと推察される。

③ 被験者の感想

これまでに明らかにされた、2種の質問紙間の相違点について、被験者自身はより明確な言葉で述べている。^{注1}両者の差異については、ほぼ次の2点に集約された。

1. 'Sdsep' の方が、対にしてあるため、対語によって相互に補うことで、意味不明部分が少なくなっている。(意味の明確性)
 2. 'Sdsep' の方が、対にしてあるため、対語であることを意識させられる。(意識化)
1. については、意味が明確になるという理由のために、これを述べた被験者はすべて、'Sdsep' の方がやりやすかったとしていた。しかし、2. については、対であることを意識化させられた結果、矛盾した答を自分が著い

注1) 付表2-6に、被験者の感想をまとめた。

ているような気にな、不安だったとする者、
逆に、心の両面を同時に考えられるから矛盾
が少ないように答えられたとする者、及びや
りやすさに関して両者に差はなかったとす
る者に、ほぼ3分された。従って、'self sep'
の場合、自己の"二面性"について否応なく
意識化させられるという側面と虽つが、その
ことに対する被験者の反応は一樣ではなか
らぬことになる。

総合的考察

調査Ⅰ，調査Ⅱを通して，‘*sd sep*’の形式と，従来のSD尺度との相違点が明らかにされた。

まず，従来のSD法においては，対の双方にあてはまると考える時にその表現手段がなく，仕方なく中点（“どちらともいえない”）に反応していったわけであるが，‘*sd sep*’は，この点において1つの解決手段を呈示したといえるだろう。パーソナリティーの分野においては，特に，概念的には対立する語であっても共存する可能性が高く，‘*sd sep*’の形式を採用することに意義があると考えられる。

人格の“二面性”について，これまでは注目されてこなかったわけであるが，それは，“二面性”が存在しなかつたゆえではなく，むしろ，実際に存在しているにもかかわらずそれを抽出することができなかったゆえに，見逃されてきたのではないかと推察される。

次に，Green & Goldfried (1965) が示し

1. ように、対語と対としてではなく、単極性の尺度として羅列する方法をとると、対の双方に独立に評定することが可能となる。この方法 (SD mono) と 'SD sep' とを比較した結果によれば、全体としては、大きな差異は認められなか。た。しかし、'SD sep' では、対語として呈示するために意味が明確になるという利点をもつ。この点において、特に、意味を促えにくい項目では、'SD sep' の形式の方が、正確な結果を得られるのではないかと考えられる。

Green & Goldfried (1965) の研究に対して、Heise (1969) が、"単極性の尺度への評定は、両極性の尺度と比べてより多くの変動要因をもつ" としてこれを批判しているが、本研究もこの主張を支持するものであり、かつ、Green & Goldfried (1965) が目的として "対の双方に独立に評定できる" という点をも可能にしたものであるといえるだろう。

'SD sep' と SD mono との、もう一つの相違

は、'SDsep'においては、被験者に、対語を“対”として意識させるという点にある。この結果、特に、もともと対極度が高い対においては、“対立的である”とある構えが強化される傾向がみられた。従って、対極度の高い対にあっては、'SDsep'よりもSD monoの方が、“構え”の影響をうけにくく、結果として、無意識的にではあるが、より二面的につけていくことになる。

'SDsep'とSD monoとの、この相違点についてより詳しく検討するために、Kaplan (1972)の研究を参考としたい。

Kaplan (1972)は、態度を測定する際に生じる“*Ambivalence*”を抽出する試みを行っている。彼によれば、“*liking*”と“*disliking*”といった、全く対立する両者が同時に存在する“*Ambivalence*”は、従来のSD法では抽出することが不可能だとしている。

また、彼は、Green & Goldfried (1965)の用いた単極性尺度についても言及しているが、

“単極性の尺度においても、評定者は暗黙のうちに、それと対になる語を想定して評定していることが多いため、結果的には、両極性尺度への評定と同じ問題がおきてくる”として、“Ambivalence”を測定するには、Green & Goldfried (1965) のとった方法では不十分だとしている。そこで、彼は、単極性の尺度を採用するものの、教示に際して、対になる語を無視するよう、強調を加えるという方法をとった。たとえば、“good”という語に評定する際は、その反対語として想定されるものを無視して、この語に対する、絶対的な評定をおめることになる。そして、この方法によって、“Ambivalence”の抽出が可能だとしている。

さて、‘SD sep’は、対を意識化させることで結果的に SD mono よりも“構え”が強化される傾向がみられたが、Kaplan (1972) のとった方法は、対を意識から除外させており、SD mono 以上に、完全に“構え”を除去しよ

うとしたものといえるだろう。この点、'Self-sep'
と、Kaplan (1972) のと、に方法とは、全
く対照的である。この点を考えるにあたって、
“二面性”と“Ambivalence”とは、共通性
を持つものの、前者は、意識的にも存在しう
るが後者はむしろ無意識的に起こるという
違いが重要であろう。これゆえに、“二
面性”の場合は、対を意識化させたとしても、
対の双方につけることが可能であり、それど
ころか、ふだんから自己の“二面性”を意識
化している者は、むしろ対にして呈示されに
方が二面的につけるものと思われる。^{注1}

従って、'Self-sep' は、“Ambivalence”で
はなく、人格内に意識的に存在する“二面性”
を抽出する際に、その存在意義をもつと結論
づけられよう。

以上に述べてきたように、パーソナリティ
^{注1)} に対し、“二面性”と“Ambivalence”との境界線には、非常に
個人差が認められる。同じ“やさしい-きびしい”の対でも、その
双方にあてはまることか、ある人にとっては許容しうることであり、
“二面性の存在”、ある人にとっては矛盾となる。(Ambivalence.)

を測定しようとする際に、それを、矛盾を内包しつつ統合を保つという存在として捉えようとするならば、従来のSD法では不十分であることが明らかにされた。そして、パーソナリティ測定尺度の一つとして新しく提起された'SDeep'の形式は、SD法、及び、単極性のSD尺度のいずれとも異なるものであり、その意義が確認されたいといえるだろう。

第二章 “人格の二面性” 測定のための 尺度の作成

(2) SD 法との比較による、新しい測定 形式の検討

要 約

本節の目的は、新しく作成された“二面性”測定のための尺度について、①従来のSD法(SD) ②単極性尺度(SD mono)との比較検討を通じて、その特徴・意義を明らかにすることである。

① SD との比較

人格における“二面性”を抽出しようとする際、従来のSDでは抽出し得なかったが、新しい測定形式(SD sep)では可能となった。同時に、多義的な意味をもっていたSDにおける0 pointについて、その意味を明確化する一助となった。

② SD mono との比較

両者は、全体的な構造としては、ほぼ同じものが得られたが、以下の点について相違点

がみられた。

a. 'Sdsep'では、対語によ、て意味が明確化されるために、特に意味をとらえにくい形容詞の場合、“どちらともいえない”以外への評定が為されやすくなった。被験者は、この点においては、'Sdsep'の方が答えやすかったとしており、意味が明確化されることにより、より変動が少ない結果が得られると考えられる。

b. もともと対極度の高い対の場合、'Sdsep'では、対として呈示することによ、て“対立的で、二律背反的である”とする“構え”が形成されやすくなることが示された。ただし、そのことに対する被験者の反応は一樣ではなく、“構え”にとらわれず、むしろ自己の“二面性”を表現し得にとするものと、“構え”が動揺したことで、不安を喚起されたとする者にとわかれた。

第二章 “人格の二面性”測定のための 尺度の作成

(3) 尺度の改良その1.

— NEGATIVE語を加えて ----- 102

問題及び目的 ----- 102

方法 a. 新たに尺度の作成 ----- 105

b. 調査手続 ----- 109

結果 a. 調査1 ----- 110

① 全項目平均反応分布

② 反対順位

③ 'P' 'N'間の相関

④ スコア間相関

⑤ スコアの平均値

⑥ スコアと項目との関係

b. 調査2 ----- 117

考察 a. N項目の特性・意義に

ついて ----- 119

① 'P'と'N'との類似点

② 'P'と'N'との相違点

b. "自己を望ましくみせようと
する構え"について 123

c. N項目を含んだTSPS-IIの
特性について 125

要約 128

(3) 尺度の改良 その1.

— NEGATIVE語を加えて 注1

問題 及び 目的

(1), (2)節において, 新しい測定尺度が作成され, また, 従来のSD法との比較を通じてその特徴が明らかにされた。

本節においては, TSPSがもつ問題点のうちの1つをとりあげて検討し, TSPSの改良の試みを示してい。

TSPSは, その項目がすべて望ましい意味をもつ語 (Positive語, 以下Pと略) であるという特徴をもつ。これは, 望ましい語ほど意識内にとりこみやすく, たとえ相互に矛盾するものであっても意識内に共存している可能性が大きいと考えられ, 従って“二面性”を抽出するには, Pの方が容易であると考えられたためである。ところが項目がすべてPであるために, 以下のような問題点が生じると考えられる。

1. 性格表現用語は, 青木 (1971a, b) が示し

注1) 「人格の二面性測定を試み—NEGATIVE語を加えて— 教育心理学研究 1986 Vol.34 No.1 31-38に加筆した。

にように、ある程度一定の、“望ましき”をもつ。従って望ましきを基準として、性格表現用語を望ましい意味をもつ語(P)と、望ましくない意味をもつ語(Negative語、以下Nと略)に二分することができる。その点から考えるとTSPSは、Pのみから成りたっており、人格を表現しようとする際に、片面だけしか表現し得ないという制限をうける。

2. Edwards (1953) は、ある項目の社会的望ましきの尺度値と、それを個人が所有するとする反応との相関は、.87/ と高いとしている。従って、ある項目への反応が、真に項目特性を所有するとしているのか、あるいは、項目のもつ望ましきに反応しているのかそのいずれであるかは決定し難い。従って、TSPSにおいても、PのみではなくNも入れて“自己を望ましくみせようとする構え”の影響を検討しておく必要がある。

そこで、本研究においては、新たにN項目を作成し、以下の点について検討を加える。

1. “望ましさ”という点からとらえた時の、人格の二側面を抽出しうるか。すなわち、N項目を付加することにより意義が認められるか。また、新たにN側面におけるS₊やS₋などは、どのような人格特徴を示すものであるのかという諸点について検討する。

2. MMP IにおけるL尺度、K尺度のような、自己を望ましくみせようとする構えをチェックできるようなスコアを、TSPSに設定する。そして、これにしてその新しいスコアがL、K尺度的な役わりを果たしうるかについて検討し、自己を望ましくみせようとする構えの混入について明確にすることを試みる。

以上本研究は、望ましさという点からみた時の人格内の二側面を表現しうるよう、TSPSに新たにN項目を加え、その特徴・意義を明らかにすること、及び、自己を望ましくみ

せようとする構えの，反応への混入について明確にすることを目的とする。

方 法

A. 新たな尺度の作成

新たに N 項目をつけ加えるが，その際，望ましさだけの要因をぬきだすことが可能であるように，これまでの $TSPS$ の項目(P)と，意味的には同一であって，望ましさの数値だけが異なる語を選択した。たとえば，‘ P ’である“話し好きな”という項目に対しては，それとほぼ同意語であるが，望ましくない意味をもつ“おしゃべり”を選定した。従って N の選択にあたっては，

- (1) 望ましくない意味をもつ語であること，
- (2) ‘ P ’と類義語であること。さらに，
- (3) ‘ N ’における対語は対立概念として妥当であることが考慮された。

項目作成は以下の手続きに従って行われた。

- ① 語の収集：質問紙によつて， $TSPS$ の各項目(P)と，それぞれ“類義語”で，かつ

“自分にとって望ましくない意味をもつ語”を思いつくだけあげるようにという教示により、語の収集を行った。——調査① また、文献（青木 1971a, 1971b, 1972, 1973）や類語辞典、反対語辞典、国語辞典などを参考に筆者が選んだ語も加えた。

②類義語評定：①で得られた語の中から、筆者があらかじめPの各項目毎にそれぞれ6個ずつ、あげられて頻度の多い順に選んだ。その際、“男性的”、“女性的”の項目については、男性用と女性用をわけて考えた。^{注1}そのうえで、類義語として適当なものを3個ずつ選択させた。——調査②

③対立概念妥当性：②で選ばれた語について、Pの各項目毎に数の多いものから3~4個をあげ、Nの項目群から選定された。そして次に、その中からPの各対ごとに、Nの対を3対ずつ候補として作成した（筆者と他の1名との2名協議による）。そして作成された各対について、それが対立概念として妥当であるか

注1) 選ばれた語を付表3-1に示す。

について“妥当である”“まあまあ妥当である”“妥当でない”の基準で評定させた。

— 調査③ — これによって、対立概念妥当性が最も高いもの、あるいは50%の被験者が妥当と認めた対のうち適当だと思われるものを筆者が選んだ。^{注1} このようにして、P 30対に対応したN 30対を選定した。なお調査①②③とも被験者は心理学専攻の大学院生で、①28名（男14女14）、②20名（男10女10）、③27名（男15女12）である。

PとNとは交互になるよう配列されたが、対応するPとNの対（たとえば“口数少ない—話し好きな（P）”と“あっつりした—おしゃべり（N）”）は近くにこないよう、ずらして配列した。従って被験者は、同じ意味のことを‘P’と‘N’との2通りで言われていることについてはわからないようになっている。

注1) 候補の3対、反対妥当性得点、及び最終的に選択された対を
付表 3-2に示す。

なお調査①、②、③に使用した質問紙を巻末に付した。

次にスコアについては、TSPSで設けられた S_+ , S_- , S_{--} をそのままN項目にも採用し、'P'に関するスコアに (P) , 'N'に関するスコアに (N) をつけて、 $S_+(P)$, $S_+(N)$, $S_-(P)$ ^{注1}, $S_-(N)$, $S_{--}(P)$, $S_{--}(N)$ ^{注2} を定めた。さらに、 $S_+(P) - S_+(N)$ を $S(P-N)$ と表わし1つのスコアとした。このスコアが大きいと自分を望ましく思う傾向が強く、小さいと自己否定的であると考えられる。またこのスコアは、MMPIにおけるL尺度、K尺度と関連をもつと予想される。^{注3}

注1) S_- のスコアについては、本節では、少し計算法を変更した。

ある人が、1人の人間のうちにもともと共存しやすい対(共存性項目5対、

Table 3-1 に示す)の双方にあてはまるとつけたとしても、そのことが

必ずしも“二面性”の存在を示すとはいえないと考えられる。従って

本研究においては、 S_- の計算の際、共存性項目5対を省き、

P, N それぞれ25対について計算した。 S_- の小さいことが“二面性”の存在を示す点については、変わらない。

注2) S_{--} における対立性項目、共存性項目の整理過程は、'結果'の項でのべる。

注3) これら7個のスコアの操作的定義及び計算例を付表3-3に示す。

6. 調査手続

① 調査1

新しく作成された N 項目の特性，意義を明らかにするために，国立大学，私立大学，私立短大の学生 713 名（男 374，女 339）に対して，TSPS に N 尺度を加えた新たな尺度（以下 TSPS-II^{注1} とよぶ）を実施した。

② 調査2

MMP I の中の L 尺度， K 尺度と TSPS-II，特に $S(P-N)$ とがどのような関連性をもつかという点を検討するために，私立大学学生 56 名（男 37，女 19）に対して，TSPS-II とあわせて，MMP I を実施した。

結果

2. 調査1

得られたN項目に関する結果と、'P'との比較によって、以下に示す。

①全項目平均反応分布

Fig. 3-1に示したように、'P'、'N'ともに、最も度数の多か、たカテゴリーは、“4.少しあてはまる”であり、

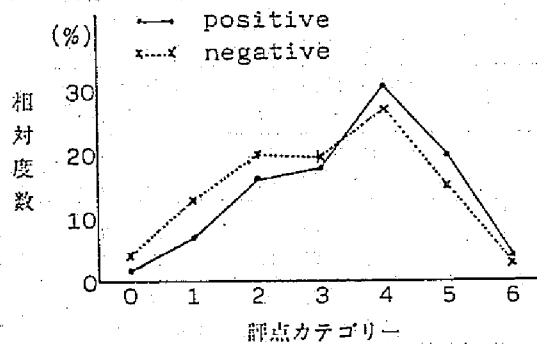


FIG. 3-1 全項目平均反応分布

'P'と'N'とで同様の結果がみられた。ただし、項目別平均値は、'P'と'N'と比較してみると、60個のうち54個の項目においてNの方が低かった。

②反対順位

(1),(2)節でみてきたように、各対間の相関係数について、負相関の高い順に並べて得られる反対順位は、被験者によらず恒常的に得られる。本研究における'P'の順位も、(1)節において示した順位とほぼ同じであり、た(Table 3-1

は、Pの反対順位の高い順に、全対を呈示し
 にものである。対間の相関係数もあわせて示
 した。)

TABLE 3-1 POSITIVE, NEGATIVEの対、及びP, N間、各対間の相関係数

対間 相関 係数		P N間 相関 係数		対間 相関 係数		P N間 相関 係数		対間 相関 係数	
*Op. -.60	口数少ない 話し好きな	.52 .61	むっつりした おしゃべり	-.49 Op.	-.24	クールな 人情に厚い	.32 .45	情がうすい 情に流される	-.45 Op.
Op. -.47	てきばきした おっとりした	.33 .48	せかせかした ぐずぐずした	-.19	-.24	ロマンチックな 現実的な	.38 .49	現実離れた 実 利 的	-.33
Op. -.45	世話好き 人に干渉しない	.63 .36	おせっかい そっけない	-.30 Op.	-.22	冷 静 な 情 熱 的	.27 .50	さ め た 激しやすい	-.20
Op. -.41	男 性 的 女 性 的	.58 .28	荒々しい(男性用) 男まさり(女性用) なよなよとした	-.30 Op.	-.19	古 風 な 現代的な	.41 .44	困襲的な 新しがりやの	Co.* -.10
Op. -.40	それとなくいう 單刀直入	.43 .54	もってまわっていう ズケズケいう	-.27	-.19	しぶとい あっさりした	.45 .06	執念深い なげやりな	.05
-.40	陽 気 な もの静か	.49 .43	さわがしい 陰 気 な	-.35	-.18	分 析 的 直 観 的	.45 .21	理くつつばい 非論理的	-.38
-.40	太っ腹な デリケートな	.47 .49	ずぶとい 線の細い	-.38 Op.	-.18	のんびりした エネルギッシュな	.30 .42	怠 慢 な がむしゃらな	-.16
-.40	融通がきく 一 本 気	.22 .45	迎 合 的 がんこな	-.28	Co. -.18	執着する 臨機応変の	.41 .23	こだわる 場あたりの	Co. -.14
-.36	社 交 的 孤独を好む	.43 .39	八方美人 人づきあいの悪い	-.30	-.16	淡々とした 熱中する	.22 .21	無感動な のほせやすい	-.21
-.33	気が強い おとなしい	.45 .44	我がつよい 気の弱い	-.17	Co. -.13	実 際 的 理 論 的	.38 .26	実 利 的 頭でっかち	Co. -.14
-.32	大 胆 細 心	.38 .40	むこうみずな 小 心	-.14	-.13	あきらめのよい ねばり強い	.14 .22	粘りのない しつこい	-.25
-.29	指 導 的 従 順	.57 .64	支 配 的 追 従 的	-.29	Co. -.10	自 立 的 協 調 的	.23 .25	独 断 的 付和雷同	-.16
-.28	気 軽 な 慎重な	.21 .15	軽 率 な 思いきりの悪い	.13	Co. -.08	用心深い のんきな	.40 .42	うたがい深い ぬ け た	Co. -.04
-.27	おおやかな 厳 格 な	.22 .31	ルーズな しゃくし定規な	-.29	Co. -.06	茶めつけのある 大人っぽい	.27 .18	幼 稚 な ひ ね た	Co. -.03
-.26	勇 猛 な おっとりした	.39 .21	野 蛮 な 温室育ち	-.29	.25	話しじょうず 聞きじょうず	.73 .14	口じょうず 聞いてばかりの	-.43

*Op. 対立性項目 (1人の人間のうちに共存しにくい対)

**Co. 共存性項目 (1人の人間のうちに共存しやすい対)

Nに関しても、Pと対応した反対順位になる
 ことが期待された。全体的にみると、'P'の

反対順位と'N'の反対順位とは、 $r_s = .4147$

($p < .05$) で、有意な正の相関を示した。

また、本研究において、改めて、対立性項目（1人の人間に共存しにくい対）と、共存性項目（1人の人間に共存しやすい対）とをそれぞれ5対ずつ、'P'、'N'、独自に設定した。その際、カテゴリーに偏りのないよう留意し、また、'P'と'N'とで反対性順位に大きな差のあったものや、'P'、'N'間の相関の低いものは省いて検討されたので、必ずしも相関係数の順に選ばれてはいない。（対立性項目、共存性項目は、Table 3-1 に示されている。）

③ 'P'、'N'間の相関

Table 3-1 には、また、'P'、'N'項目間の相関係数も同時に示した。'P'、'N'は、作成時その意味内容は同じで、望ましさの程度だけが異なることが理想とされたので、'P'、'N'間の相関係数は正相関をもつことが期待される。結果は“あ、さりした”と“なげやりな”以外は、0.1%水準で有意に正の相関がみられた。

④ スコア 間相関

各スコア間の相関係数を Table 3-2 に示す。

Table 3-2 スコア間 相関表

	$S_+(P)$	$S_+(N)$		$S_-(P)$	$S_-(N)$		$S_{--}(P)$	$S_{--}(N)$		$S(P-N)$
$S_+(P)$		0.2765**		-0.1841**	-0.0092		0.1787**	0.0603		0.4974**
$S_+(N)$	0.2765**			0.0232	-0.0197		0.0063	0.1312**		-0.6962**
$S_-(P)$	-0.1841**	0.0232			0.7622**		0.2717**	0.2416**		-0.1585**
$S_-(N)$	-0.0092	-0.0197		0.7622**			0.1633**	0.2776**		0.0110
$S_{--}(P)$	0.1787**	0.0063		0.2717**	0.1633**			0.2274**		0.1278**
$S_{--}(N)$	0.0603	0.1312**		0.2416**	0.2776**		0.2274**			-0.0733
$S(P-N)$	0.4974**	-0.6962**		-0.1585**	0.0110		0.1278**	-0.0733		

** $p < 0.001$

$S_+(P)$ と $S_+(N)$ など、同種のスコアは、いずれも有意な正の相関を示している。 $S(P-N)$ は、 $S_+(P) - S_+(N)$ によって算出されるので、 $S_+(P)$ 、 $S_+(N)$ の両者と相関をもつことは明らかであるが、相関係数の絶対値が $S_+(P)$ の場合、 $|r| \approx .50$ 、 $S_+(N)$ の場合、 $|r| \approx .70$ であり、 $S_+(N)$ の方が高か、 T 。

⑤ スコアの平均値

スコアのうち、 S_{--} を除く 5 スコアについて平均値を求め、'P' 'N' の比較を行なった。 T 。

TABLE 3-3 各スコアの平均, 標準偏差

	MEAN	SD	
S ₊ (P)	205.7	22.6	t=18.66***
S ₊ (N)	184.6	27.3	
S ₋ (P)	43.3	13.5	t=-8.32***
S ₋ (N)	46.3	14.2	
S(P-N)	21.1	30.3	Range -83~+122
N=713		***p<.001	

Table 3-3) S₊のスコア
については, 'P'の方が
'N'よりも平均値が有

意に高かった ($t=18.66$, $df=712$, $p<.001$)。

S₋のスコアについては, 'P'の方が有意に低
かった ($t=-8.32$, $df=712$, $p<.001$)。

Table 3-3 には, S(P-N)の Range もあわせ
て示した。S(P-N) < 0 の者 すなわち S₊(P)
より S₊(N) の方が大きい被験者は 713 名中
151 名 (21%) であつた。

⑥ スコアと項目との関係

次に, スコアと項目得点との関係の分析も
行なった。分析は, スコアと各項目との相関
係数を算出する方法と, 各スコアの値より,
大中小の3群にわけ, 大群と小群の項目別平
均値を比較する方法との2通りの方法で行
った。注1 (両者の結果には大差がなかった)

注1) 大中小の3群にわけた基準を付表3-4に, また, 各スコアの分布状況を
図示しあわせて群わけの Range を示したものを付図3-1~5 にあげた。

付表3-5~8は, 各スコアと項目との相関係数を示したもので,

付図3-6~12は, 大群と小群の項目別平均値及び一校定の結果を示した
ものである。

Table 3-4, Table 3-5 には, そのうちの, S_+ と S_- について, 群別の平均値を求め, t 検定を行なった結果の一部を示した。

まず, $S_+(P)$

TABLE 3-4 スコアと項目との関係 (S_+)

項 目	$S_+(P)$ 平均値		項 目	$S_+(N)$ 平均値	
	大群 (肯定)	小群 (否定)		大群 (否定)	小群 (肯定)
エネルギーな	3.9 > 2.5	-12.70***	軽 率 な	4.0 > 2.4	-13.73***
指 導 的	3.8 > 2.2	-12.69***	なげやりな	3.6 > 2.1	-12.51***
気 が 強 い	4.2 > 2.7	-11.82***	執 念 深 い	4.0 > 2.6	-12.30***
勇 猛 な	3.3 > 2.0	-11.76***	し っ こ い	4.0 > 2.5	-11.86***
てきばきした	3.8 > 2.5	-11.25***	現実離れした	3.9 > 2.5	-11.66***
⋮			⋮		
人づきあいの悪い	2.2 < 2.7	3.67***	冷 静 な	3.2 < 3.7	4.35***
陰 気 な	2.1 < 2.6	3.53***	聞きじょうず	3.4 < 3.8	3.76***
小 心	3.3 < 3.7	3.45***	ねばり強い	3.5 < 3.9	2.75**
粘りのない	2.6 < 3.0	3.44***	陽 気 な	4.0 < 4.2	2.22 *
気の弱い	3.2 < 3.6	3.35***	融通がきく	3.3 < 3.6	2.21 *
⋮			あっさりした	3.4 < 3.7	2.11 *

*** $P < .001$

** $P < .01$

* $P < .05$

は, 当然多く

の P 項目において, $S_+(P)$ 大群の方が, 有意に平均値が高か, したが

なかでも活動性, 社会的外向性を示す項目において, $|t|$ が高かった。
 $S_+(N)$ は, 情緒的不安定をあらわす項目において $|t|$ が高いが, “なげやりな” と “執念深い” など対立する項目が並んで上位にあがっていることが注目される。 $S_+(N)$ 小群は, “冷静な” “聞きじょうず” で示されるようなタイプで, 自分から口を開くことばくうまくやっていくタイプといえるかもしれない。

次に, 二面性スコアに関して, (Table 3-5)

‘P’, ‘N’ とし、

一面的な群は
情緒不安定を
示す項目にお
ける得点が高
かった。二面
的な群につい
ては, “P”, “N”

TABLE 3-5 スコアと項目との関係 (S-)

項 目	S-(P) 平均値		t	項 目	S-(N) 平均値		t
	大群 (一面的群)	小群 (二面的群)			大群 (一面的群)	小群 (二面的群)	
じの静か	2.7 < 3.4		4.71***	陰気な	2.0 < 2.6		4.45***
深々とした	2.8 < 3.3		3.93***	口数少ない	2.4 < 3.1		4.26***
勇猛な	2.4 < 2.9		3.87***	おとなしい	3.0 < 3.5		3.72***
太っ腹な	2.4 < 2.8		3.72***	むっつりした	2.4 < 2.9		3.70***
クールな	2.8 < 3.3		3.70***	ものの静か	2.9 < 3.3		2.90**
厳格な	2.7 < 3.1		3.61***	措がうすい	2.0 < 2.3		2.76**
口数少ない	2.5 < 3.1		3.40***	気の弱い	3.1 < 3.5		2.63**
⋮				⋮			
温室育ち	3.8 > 3.3		-3.86***	熱中する	4.3 > 3.9		-4.10***
のほせやすい	3.7 > 3.3		-2.80**	話しじょうず	2.8 > 2.4		-2.84**
幼稚な	3.7 > 3.4		-2.69**	聞きじょうず	3.7 > 3.4		-2.65**
小心	3.7 > 3.3		-2.56*	独断的	3.4 > 3.1		-2.64**
熱中する	4.2 > 3.9		-2.55*	のほせやすい	3.8 > 3.4		-2.60**
散しやすい	3.6 > 3.3		-2.32*	情に流される	3.9 > 3.6		-2.58**
さわがしい	3.2 > 2.8		-2.25*	温室育ち	3.7 > 3.3		-2.51*
⋮				⋮			

*** P < .001

** P < .01

* P < .05

で重なりが認められるものの、やや異なっている項目において、平均値に差がみられている。すなわち、P二面性群は情緒的安定性を示す項目に高得点であり、それに対してN二面性群は、どちらかという、社会的内向性を示すと考えられる項目の得点が高く、‘P’, ‘N’で、二面性群の示す特徴は微妙に違っていたといえる。

なお、その他のスコアであるが、S--(P)は、大群が、指導的、活動的、実利的で、小群が“気が弱く”“たよたよとした”、S--(N)は、大群が、社会的外向、非内省的、活動的

で、小群は社会的内面，“理論的”“冷静な”タイプであった。また、 $S(P-N)$ 大群は、ほぼP項目に高い相関がみられた。

6. 調査2

各スコアの得点より、大中小の3群にわけ、大群と小群について、MMPIのL、F、K3尺度の得点平均値を比較した。それぞれの群の平均値、及びt検定の結果を、Table 3-6に示す。(S-については示さなかつたが、いずれの尺度にも有意差が認められなかつた。)

TABLE 3-6 各スコアとL、F、K尺度との関係

	S+(P)			S+(N)			S-(P)			S-(N)			S(P-N)		
	MEAN 大群	MEAN 小群	t	MEAN 大群	MEAN 小群	t	MEAN 大群	MEAN 小群	t	MEAN 大群	MEAN 小群	t	MEAN 大群	MEAN 小群	t
L	48.1	45.6	.87	40.8	48.6	-3.07	43.6	46.6	-1.15	42.5	43.5	-.42	48.2	39.0	4.11
F	46.7	47.0	-.12	53.8	48.4	1.75 ^(*)	49.0	49.5	-.14	47.4	52.5	-1.73 ^(*)	47.1	54.2	-2.27
K	49.1	50.7	-.54	44.0	52.3	-3.01	48.7	48.7	.01	48.8	45.9	1.14	49.9	44.5	1.99 ^(*)

(*) $p < .10$ * $p < .05$ ** $p < .01$ *** $p < .001$

まず、‘L’（虚構点）について、 $S(P-N)$ 大群、 $S+(N)$ 小群が有意に高かつた。($t = 4.11$, $df = 38$, $p < .001$ 及び $t = -3.07$, $df = 40$, $p < .01$)。これは‘K’についても同じ結果が得られたが、

$S(P-N)$ においては、傾向を示すにとどま
た。一方、'F'については、 $S(P-N)$ 小群が有
意に ($p < .05$) 高かった他、 $S+(N)$ 大群、
 $S-(N)$ 小群が高い傾向を示した。なお、
 $S+(P)$ 、 $S-(P)$ のスコアについては、 S_{-} と
同様、3尺度ともに有意差がなかった。

考 察

2. N項目の特性・意義について

本研究においては、これまでのP項目に加えて新たにN項目がつけ加えられたわけであるが、その特性、意義を中心に、以下に考察する。'P'と'N'は、その作成時において、意味的には同じであって、その望ましさのみが異なるよう考慮された。従って、'P'と'N'とは、望ましさという点においては対立的であるものの、他の面においては類似していると考えられる。そこで、'P'と'N'とで類似している特性についてまず述べ、その後両者の差違について検討を加えたい。

① 'P'と'N'との類似点

'P'、'N'の対応した項目はほとんど有意な正相関をもつことにより、'P'と'N'とが類義語であるようにという、作成時の意図は達せられたと考えられる。対間の相関係数に基づいた反対順位においても、'P'と'N'とは類似した結果が得られている。

また、スコアにおいても、 $S_+(P)$ と $S_+(N)$ といった同種のスコアは正相関をもっている (Table 3-2)。

さらに、Fig. 3-1 に示されるように、'P' と同じく 'N' においても、もっとも度数の多かったカテゴリーは "4. 少しあてはまる" であった。しかし、 $S_+(P)$ 、 $S_+(N)$ の平均値には有意差が認められ、全体として 'P' の平均値の方が高く (Table 3-3)、被験者は、項目の持つ望ましさの影響を受けていると考えられる。しかしながら、Fig. 3-1 をみると、その影響は、最多カテゴリーを移動させるほどのものではなかった。

従って、被験者は、'P'、'N' という項目のもつ望ましさの要因もあるが、むしろそれ以外の要因 (項目のもつ '意味' など) によって反応した部分が大きいと考えられる。

② 'P' と 'N' との相違点

上述したように、'P'、'N' の結果は類似したものも多かったが、個別的にみていくと相違点

が認められる。以下、'P'との比較により'N'の特性、意義を明らかにしたい。

まず、 S_- のスコアについて、'P'の方が平均値が低かった。これは、'P'における方が、'N'と比較して、より二面的につけたことを示す。しかし、それにもかかわらず、'N'においても二面的につける者も存在しており、従って'P'の"二面性をもつ群"と、'N'の"二面性をもつ群"は、共通性とともに($S_-(P)$ と $S_-(N)$ とは正の相関をもっている)異な、T-パーソナリティを抽出する可能性が考えられる。Table 3-5に示されたように、'P'二面群は、情緒的安定性にすぐれ("もの静か" "淡々とした")、一方で"勇猛な" "太っ腹な"という特性を有している。それに対して'N'二面群は、"陰気な" "口数の少ない" "おとなしい"といった、社会的内向性に傾いた特性を多く示している。従って、'P'二面群と'N'二面群とは異な、T-パーソナリティ特性を有すると考えられるので、'N'項目の設定に意義があるといえるだろう。

う。

次に、 S_+ について、Table 3-4 よりみられるパーソナリティ像は、'P'と'N'とでかなり異なっている。さらに、 $S_+(P)$ 大群（自己肯定）と、 $S_+(N)$ 小群（自己肯定）とは、“自己肯定的”という点においては、同様であると考えられるのだが、その示す像はかなり異なっていた。 $S_+(N)$ 小群は、“悪いとはいえない”というかたちでの自己肯定であり、“消極的自己肯定型”、一方、 $S_+(P)$ 大群は“積極的自己肯定型”と名づけられるかもしれない。従来の検査においては、この両者は区別されていなかったが、'P'と'N'とで独立に測定する必要があることが示されたといえるだろう。

以上あきらかにされたように、 S_+ 、 S_- いずれにおいても、'N'項目設定に意義があると考えられた。

4. “自己を望ましくみせようとする構え”について

4. - ①に示されたように, “自己を望ましくみせようとする構え”は, それが回答の妥当性を否定するものではないと考えられるものの, 十分に存在している。そこで, それを数量的に検出しようとするようなスコアを検討する必要がある。L, K尺度との比較により, $S(P-N)$ が, これらの尺度と正相関をもつことが示されたので, $S(P-N)$ の数値が高いことは, 望ましくみせようとする構えと連関があると考えられる。また, $S_+(N)$ 小群も同じ傾向をもつ。に比, $S(P-N)$ にくらべて, $S_+(N)$ 小群の方は, よりK尺度と強い連関をもっており, 両者に少し差が認められる。一方, $S_+(P)$ 大群は, こうい, 傾向が認められず, “積極的自己肯定型”ではなく“消極的自己肯定型”の方が, 自己を望ましくみせようとする構えと連関をもっていると考えられる。ところで, MMPIのL尺度の前提は

“理想的には好ましいが実際とありえないこと”となっている。TSPS-IIの場合、ある人がうまく適応していれば、 $S(P-N)$ はむしろある程度大きい数値をとり、決して“ありえない”ことではない。従って、 $S(P-N)$ の数値が高いこと、 $S_+(N)$ の数値が低いことは、自己を望ましくみせようとする構えと連関があるものの、断定はできず、むしろ適応を示すサインであり、低不安を示すサインである可能性が強い。ただし、極端な数値をとる際には、前述の構えによるものと判断しうると考えられるので、今後具体的な数値について検討していく必要があると考えられる。なお、 $S(P-N)$ が負の数値をとった者($S_+(P) < S_+(N)$)であった者も全体の21%存在した。そして、こういった群は、F尺度得点が高かった。F点が高いと検査の信頼性が乏しいと解釈されるのであるが、本研究の場合にはむしろ、“被験者が自分を好ましくない方向に表現しようとする傾向を示したり、あるいは自由

で個性的な人格をあらわす（阿部，1969）
という，F尺度の別の側面の解釈があらはま
ると考えられる。

C. N項目を含んだTSPS-IIの特性について

本研究において作成された，N項目を含む
TSPS-IIは，以下に述べる三側面をもつと考
えられる。

第1に，パーソナリティーテストとしての
側面をもつ。各被験者があてはまっていたとする
形容詞をもとにパーソナリティー像を想定す
ることができる。従来の検査と異なり，“人
格の二面性”を考慮している点に独自性をも
つ。N項目を加えることによって，‘P’，‘N’と
いう人格の二側面を網羅することが可能にな
ったと考えられる。

第2に，人格の“二面性”の程度を測定す
る尺度としての側面をもつ。“二面性”について
数量的に測定しうる。N項目を加えることに
よって，‘P’における“二面性”とは異なり，

'N'における“二面性”の特徴を抽出することが可能となった。さらに、'P'、'N'は、これも一つの人格内の対立と考えられるので、人格の“二面性”の一側面としてとらえうる。従って、“やさしい—きびしい”といった“二面性”とはまた異なった側面における“二面性”についての情報を与えうるともいえるだろう。これまで、“望ましさ”については、議論は多くなされてきたものの、積極的に考慮されてはこなかった。

Edwards (1953) の作成した EPPS は、望ましさに対する統制が加えられている数少ない例である。しかし、望ましさに対して統制を加えるだけでなく、一歩進んで、自己を望ましく見せる人、逆に望ましくなくみせる人などを一つのタイプとしてとらえ、望ましさへの反応から性格特徴を明らかにしていくことが可能であるし、また必要なのではないかと考えられる。

第3に、TSPS-IIは、自己受容度の尺度と

しての側面をもつ。 $S_+(P)$, $S_+(N)$, $S(P-N)$ などの尺度によって、自己肯定度を知ることができる。本研究で明らかになつたように、同じように自己肯定的であっても、 P 項目にあてはまるとする者と、 N 項目にあてはまらないとする者とはかなり異なつたパーソナリティー特徴をもつ。従来の自己受容尺度は、自己受容状態を肯定的評価（本研究でいえば、 P 項目にあてはまる）の方向のみからとらえており、こうした差違を抽出することは、困難であつたと考えられる。

以上のように、 N 項目は、 P 項目に対して単にその測定領域を広げたのみならず、異なつた側面でのパーソナリティーの抽出を可能とした。これは、項目のもつ望ましさを、単に項目への回答を歪めるものとしてとらえるのみならず、より積極的に、性格特性のしつとしてとらえていくことに意義があることを示唆していると考えられる。

第二章 “人格の二面性” 測定のための 尺度の作成

(3) 尺度の改良 その1

——NEGATIVE 語を加えて

要 約

本節の目的は、新しく作成されたTSPSについて、その問題点のうちの1つをとりあげ、改良を加えることにあつた。すなわち、TSPSは望ましい意味をもつ語(P)のみから成りたつており、望ましさという点から見た時、人格の片面しか表現し得ず、また、項目への反応が、真にその項目にあてはまっているとしていいのか、あるいは項目のもつ望ましさに反応しているのか不明であるという問題点をもつ。そこで本節においては、‘P’と意味的には類義語であるが望ましさの程度が異なる語(N)を加え、

1. N側面は、‘P’とどのように異なり、どういった特性をもつか、またNを加えることに意義が認められるか。

2. 自己を望ましくみせようとする構えがどのように混入しており、それを明らかにするスコアを設定できるかという諸点について検討を加えた。

まず、1. については、'P'、'N' 間相関、反対順位などの点について 'P'、'N' 間の類似性が認められ、被験者が、項目のもつ望ましさ以外の要因によって、項目への反応を行っている部分が大きいことが示唆された。しかし、“二面性”を示すとされた群は、'P' と 'N' とでその像が少し異なっており、'P' は主に情緒安定性を示し、'N' においては、社会的内向性への傾きが認められた。また、同じように自己肯定的であると考えられる、 $S_+(P)$ 大群と $S_+(N)$ 小群は、異なったパーソナリティ像を示し、両者を区別していく必要性が示された。以上のように、N 項目は、P 項目に対してその測定領域を広げたのみならず、P とはかなり異なった側面のパーソナリティを抽出しうることを示され、N 項目作成の意義がたしかめられた。

といえる。

2. については、 $S(P-N)$ のスコア及び、 $S+(N)$ は、MMPI の L、K 尺度と相関があり、このスコアが、“自己を望ましくみせようとする構え”を抽出する可能性が示された。しかし、 $S(P-N)$ が大きいこと及び $S+(N)$ が小さいことは、適応あるいは低不安と関連がある可能性も強く、数値が極端な場合のみ、この“構え”の影響を考えうるとされた。

最後に、 N 項目を加えた TSPS-II について、パーソナリティテスト、二面性テスト、自己受容度測定の三側面をもつこと、及びこれらの側面においても N 項目の設定が意義をもつことが示された。

第二章 “人格の二面性”測定のための 尺度の作成

(4) 尺度の改良 その2

—— “二面性”のスコアリングについて

a. 問題及び目的 ----- 131

b. 各スコアの70項目特徴 ----- 132

c. 群別分析の試み ----- 134

d. Kaplanの方法 ----- 137

e. 新しいスコアリング ----- 138

要約 ----- 142

(4) 尺度の改良 その2

——“二面性”のスコアリングについて^{注1}

a. 問題 及び 目的

(3) 節においては、TSPS について、NEGATIVE 語を加えることによつて、その改良を試みることを行なつた。本節においては、もう一つの問題である“二面性”スコアのスコアリング方法について検討を加えたい。

TSPS では、“二面性”をあらわすスコアとして、 $S- (S- = \sum_{n=1}^{30} |x_n - y_n|$ x_n, y_n は各項目の得点) が考えられるが、この中には、 $S+$ 大のものも、 $S+$ 小のものも両方含まれる。すなわち、ある対について、双方あてはまるとする者（たとえば、左の項目に5、右の項目に5、 $|x_n - y_n| = 0$ ）と、双方あてはまらないとする者（たとえば、左の項目に1、右の項目に1、 $|x_n - y_n| = 0$ ）が同じ数値で示されてしまうのである。^{注2}

注1) 久橋の二面性について(8) - 新しい二面性スコアの検討、1984
日本教育心理学会 26回 において その概要を発表した。

注2) Androgyny 測定の場合の BSRI でも同様の問題がおきており、Orlowsky et. al (1977) は、両性群と、男性得点、女性得点の中位点を用いて2分する方法の利点を報告している。

従って、 S_- 単独で検討するだけでなく、 S_+ 、 S_{-+} など他のスコアをも同時に検討し、さらに総合的に判断する必要があると思われる。そこで本節においては、より総合的な、“二面性”スコアのための試案を提出したい。

4. 各スコアのフロフィール特徴

“二面性”スコアについて述べる前に、各スコアについて、どのようなフロフィール特徴をもつかという点について述べる。

スコア別に各項目の平均点を記した付図 3-6 ~ 3-12 をみると各スコアの大群・小群ごとにフロフィールに特徴をもつことがわかる。そこでフロフィールからよみとれる各スコアの特徴を考察してみた。付図 4-1 は、項目を反対性の高い順に配列した時の各スコアのフロフィールを図式化したものである。フロフィールの形状は P と N で大きな差はないので、共通したものとして考えられた。

まず、 S_+ では、大群は中心を境に太く、小群では細く描かれる。(付図 3-6 左及び、

付図 3-7 右参照) 従って $S+$ 大群を「太型」、小群を「細型」とよぶことができるだろう。

次に $S-$ については、付図 3-8 左や付図 3-9 右をみる時、両者のフロファイルの差は、 $S-$ 小群の方がグラフのゆれが少なく、 $S-$ 大群では大きくゆれているところにあることがわかる。従って、 $S-$ 小群を「均衡型」、 $S-$ 大群を「不均衡型」と名づける。

最後に、 $S--$ は、かなり理解しがたいスコアなので、付図 4-2 に対立性項目と共存性項目だけをぬきだして考察した。この結果、 $S--$ 大群は“対立性項目では片側だけに、共存性項目では両側につけるタリ”で、 $S--$ 小群は“対立性項目、共存性項目ともにやや細く（特に共存性で細い）均衡的につけるタリ”だといえた。^{注1}

以上をまとめると、

Table 4-1 のように

なる。

スコア	大群	小群
$S+$	太型	細型
$S-$	不均衡型	均衡型
$S--$	大	小
$S(P-N)$	肯定型	否定型

注1) $S(P-N)$ については、 $S(P-N)$ 大群が肯定型、 $S(P-N)$ 小群が否定型とよべるだろう。

C. 群別分析の試み

表において示したように、 S_- のスコアは均衡（バランス）を示すと考えるのが妥当であるかもしれない。^{注1}

さて、では、二面性を測定するスコアとしては、どのようなものが適切だろうか。

まず、理論的に考えるならば、左右の語に対する評定対が（6, 6）すなわち、どちらも“まったくあてはまる”とつける人が、一番二面的といえる。従って、これまでのスコアでいえば、 S_+ が大きく、かつ S_- が小さい人ということになる。そこで、 S_+ と S_- さらには、 S_{++} を組合せて、それぞれの大群小群をわけたうえで、群をつくり比較を行なうことにした。すべてのスコアを考慮にいくるとすると、スコアは7個あるので、大・小の2個の7次元で 2^7 通りのスコアパターンができあがるわけだが、実際には、そういったものは解釈不能である。そこで、まず ' P ' と ' N ' のスコアを別にあつかい、' P ' ' N ' それぞれにおい

注1) 均衡型は、もちろん広い意味では、二面的であるが。

て、 $S_+ \times S_- \times S_{--}$ という組合せを行なった。

大・小群の2個の3次元となるので、 $2^3 = 8$ 群、 $'P'N'$ あわせて計16群に群わけされることになる。Table 4-2は、その16群について示したものである。この際の大・小をわけける基準は、

Table 4-2 スコアの組み合わせによる群

• POSITIVE Score				• NEGATIVE Score.			
$S_+(P) \times S_-(P) \times S_{--}(P)$				$S_+(N) \times S_-(N) \times S_{--}(N)$			
1.	大	大	大	1	大	大	大
(太 不均衡 大)							
2.	大	大	小	2.	大	大	小
(太 不均衡 小)							
3.	大	小	大	3	大	小	大
(太 均衡 大)							
4.	大	小	小	4	大	小	小
(太 均衡 小)							
5.	小	大	大	5	小	大	大
(細 不均衡 大)							
6.	小	大	小	6	小	大	小
(細 不均衡 小)							
7.	小	小	大	7	小	小	大
(細 均衡 大)							
8.	小	小	小	8	小	小	小
(細 均衡 小)							

付表 3-4 に示した基準に拠って、各群の名前は、Table 4-1 に示したものを組合せてできたものである。

付表 4-1 は、こうしてできた 16 群について、スコアの平均値、標準偏差及び各群に属する人数を記したものである。スコアが相互にいくつか相関をもっているため、人数には片寄りがみられる。次に各群別に、TSPS-II の項目の平均点を求めた。付図 4-3 ~ 4-10 は 'P' の、付図 4-11 ~ 4-18 は 'N' の群の平均値である。^{注1)}

理論的にも、またプロフィールも物語るように、厳密な意味で、“二面性”の存在と示すのは、大・均衡群 ($S+$ 大, かう $S-$ 小) であろう。(付図 4-7 左, 4-8 左, 付図 4-15 左, 4-16 左)。ただし、 $S--$ の大型、小型のいずれが二面的であるかは即断し難い。“二面性”の中のタイプの違いと理解してもよいかもしれない。

以上のように、群別比較によって、より立体的な把握が可能になった。しかし、この方法においてもいくつかの問題点が残る。

まず、大・小群という任意の境界線をひくわけであるが、その境界の定め方に疑問がもたれる。また、スコア間に相関があるので、

注1) いずれも左側にプロフィールの形状を理解するための反対角項目配列、右側に因子的かたまりをみるための因子配列をして、平均値も記入してある。点線は全被験者の平均値である。

次元に直交性がないこと、さらに、境界線近くの被験者をどう考えるかといった問題がおこってこよう。 S_- のスコアも含めて考えるならば、8群にもなり、解釈が困難になることもあげられる。

群別比較に換る場合には、こういった限界をよく見定めたいえを行なう必要があるように思われる。

d. Kaplanの方法

Kaplan (1972) は、“Ambivalence”を測定するために、単極性のSD法を用いている（教示がふつうのSD法とは異なる）。^{注1}

“Ambivalence”をあらわすスコアとして、彼が定めたのは、 $AMB = TA - POL$ である。

ここでいう‘TA’は、TSPSの S_+ と、そして‘POL’は、TSPSの S_- と同一の計算方法をとる。従って“二面性”スコアとしても‘ $[S_+] - [S_-]$ ’を設けることが考えられる。

しかし、この方法は、平面的なスコアリングであるため、やはり限界が生じる。たとえば

注1) 第(2)節「総合的考察」の項(96 ページ)において紹介した。

左右の評定値の組合せが $(1, 1)$ とすると,

$$S_+ = 2, S_- = 0 \quad [S_+] - [S_-] = 2 \quad \dots (1, 1)$$

$(2, 1)$ ならば,

$$S_+ = 3, S_- = 1 \quad [S_+] - [S_-] = 2 \quad \dots (2, 1)$$

$(3, 1)$ ならば,

$$S_+ = 4, S_- = 2 \quad [S_+] - [S_-] = 2 \quad \dots (3, 1)$$

さらに, $(6, 1)$ でも,

$$S_+ = 7, S_- = 5 \quad [S_+] - [S_-] = 2 \quad \dots (6, 1)$$

となり, $(1, 1)$ も $(6, 1)$ も同じスコア値
となってしまうのである。

そこで, さらに, 新しいスコアリング方法
を検討し, 以下に述べる。

エ. 新しいスコアリング

TSPSにおけるある対への評定方法を考
えると, それは, Fig. 4-1

における格子点となる。

このうち, A点が評点対が
 $(6, 6)$ でもっとも二面的
な点, そしてB点 $(0, 6)$

あるいはB'点 $(6, 0)$ が

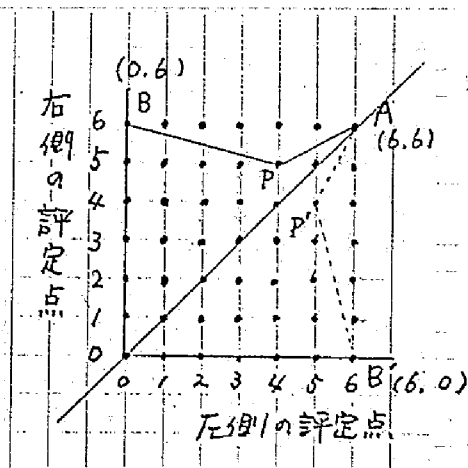


Fig. 4-1 評定の組合せ

もっとも一面的な点と考えられる。そこで、任意の点 P について、 $\overline{AP} : \overline{PB} = m : n$ を求める。つまり、ある評定について、それが、どれほどの比率で、 A 点（もっとも二面的である点）に近いかを求め、

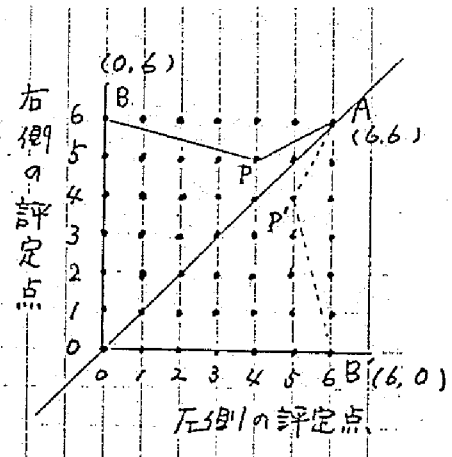


Fig. 4-1. 評定の組合せ
(前ページと同じ)

それを二面性得点とするわけである。比較を容易にするために、 $m : n = p : q$ (ただし $p + q = 6$) と計算しておす。この時 q が“二面性”の程度を示し、 $10q$ を二面性得点とする。たとえば、Fig. 4-1 の例であれば、 $\overline{AP} = \sqrt{5}$ 、 $\overline{PB} = \sqrt{17}$ 、 $(\overline{AP}' = \sqrt{5}, \overline{PB}' = \sqrt{17})$ $m : n = \sqrt{5} : \sqrt{17} \approx 2.1 : 3.9$ 従って、 $q = 39$ 。すなわち (4, 5) あるいは (5, 4) という評定の場合の“二面性”得点は 39 点となる。このようにしてすべての評定の組合せによって“二面性”得点が定まり、たとえば (6, 6) の場合は 60 点であり、(6, 0) あるいは (0, 6) の場合は 0 点である。

次に、同じ(6, 6)というように評定したとしても、それが対立性項目への評定か、あるいは共存性項目への評定かでその意味がかわってくるだろう。すなわち、対立性項目の方が(6, 6)とはつげにくいのでから、当然“二面性”得点は高くなるべきである。

そこで、Fig. 4-2
に示すように、対の
相関係数が-1の時には

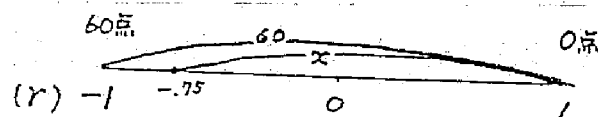


Fig. 4-2 相関係数による比重

60点、+1の時には0点というように、相関係数によつて、二面性得点に比重をかける。^{注1)}

たとえば、“口数少ない一話し好き”の対を例にとると、この対の対語間の相関係数は、-0.75である。そこで、この対にたとえ

ば(6, 6)という評定をしたとすると、Fig. 4-2

より、求める二面性得点 $x = 60 \times \frac{1.75}{2}$ ($60 : x = 2 : 1.75$)

(60は、(6, 6)という評定の組合せによる二面性得点。それに、相関係数による比重をかけている) $x = 53$ 。従つて、最終的に求められる“二面性”得点は53点となる。

注1) これは、Fig. 4-1に示したx軸とy軸が実際は、直交していないので、そのための修正の作業ともいえる。

このように、新しいスコアは、評定パターンと、対のもつ対極度の両方によって決定され、すべての評定が対ごもに点数化される。^{注1}

この新スコアは、 S_+ , S_- , S_{-} の3者を総合したものであるといえよう。このスコアは、1つの数値によって“二面性”が得点化され、その数値が高いほど二面的ということになり、非常に simple である。それゆえ、たいへん簡便ではあるが、逆に、非常に単純化してしまい、一直線とに並べることによって質的なものがふり落とされる危険性もある。

以上、群別比較、Kaplanの方法、新スコアといくつかのスコアリングの試みを紹介してきたが、いずれも、長所・短所をもつ。今後は、これらの限界をみきわめたうえで、スコアリング方法を考えていきたい。

注1) 実際の計算については、対と評定パターンによるすべての場合の点表をつくり、それを合計することで、各個人ごとの二面性得点(P,N別)が得られる。
ある人の評定について、あてはまるように0をつけ、

ただし、筆者は、パターンによるプログラムを作り、計算機によって、二面性得点を算出するという方法をとった。

第二章 “人格の二面性” 測定のための 尺度の作成

(4) 尺度の改良 その2

—— “二面性” のスコアリング について 要 約

本節では、‘二面性’スコアのスコアリング方法について新しい試みを示した。

まず、①群別比較は、 S_+ 、 S_- 、 S_{--} の組合せによって、群をつくりその比較をするものである。より、立体的な把握を可能とし、‘二面性’についても、厳密な規定をすることができるという利点をもつ。反面、境界線のひき方、その直交性、境界線付近の被験者の解釈といった点に疑問が残る。また、その群間比較の解釈が面倒であるという難点がある。

次に、② ‘Ambivalence’ の測定のために、Kaplan (1972) のとった方法を紹介した。TSPS に転用するならば、 $[S_+] - [S_-]$ というスコアリング方法になるのだが、これは、平面的なスコアリングであるため、やはり限界がある。

最後に、③新しいスコアリングについての
べた。これは、各対への評定パターンと、対
のもつ対極度から、二面性得点を数値化する
もので、 S_+ 、 S_- 、 S_{-} の3者を総合したもの
である。この方法によれば、一つの数値によ
って“二面性”を示しうるという利点をもつ
ものの、もともと3次元のものを1次元化し
てしまっているゆえに、質的なものがふりお
とされている危険性があることが指摘された。

今後は、こういったスコアリング方法の限
界をみきわめたいうえで、それらを使用しつ
くことが望まれた。

第二章 “人格の二面性”測定のための 尺度の作成

(5) TSPSの諸特性について 144

 a. 項目別男女差 145

 b. 因子分析 148

(6) TSPSの妥当性について 154

 a. 性格検査としてのTSPSの妥当性 156

 ① Y-Gとの比較

 ② MMPIとの比較

 b. “二面性”テストとしてのTSPSの
 妥当性 159

 ① BSRIとの比較

 目的・方法・結果・考察

 ② 自己意識との比較

 目的・方法・結果・考察

(7) TSPSの信頼性について 169

要約 172

(5) TSPS の諸特性について

“人格の二面性”測定のための尺度作成について、これまで、作成手続や尺度の検討、あるいは、項目・スコア等の改良に関して述べてきた。本節においては、作成された尺度 TSPS について、その特性をまとめて示す。特性分析は、(1)節においておこなわれた調査 I、調査 II、そして、(3)節における調査の、計3回行なわれたが、ここでは、被験者の最も多かった(713名、男374、女339)(3)節の結果を示すこととする。

特性分析の内容項目を Table 5-1 に示す。
(ナページ)

(表には、付表あるいは付図番号をあわせて示した)

項目に関しては、平均得点、反応分布、男女差を調べた。また、項目間相関を求めたうえで、因子分析を行ない、TSPS の構造をさぐった。また、クラスター分析を行なってさらに明確化をはかった。

それぞれの詳しい内容は、付表、付図に、

Table 5-1 特性分析

	TSPS		TSPS-II
	調査 I	調査 II	
項目別平均得点	○	○	付表 5-1 付図 5-1
項目別反応分布	○	○	付表 5-2
項目別男女差	○	○	付表 5-3 付図 5-2
項目間相関	○	○	○
因子分析 5因子 初期解	○	○	付表 5-4(P) 付表 5-5(N)
" Varimax 解	○	Table 1-2	付表 5-6(P) 付表 5-7(N)
" 順位表	○	付表 5-11	付表 5-8(P) 付表 5-9(N)
クラスター分析	—	○	付図 5-3

ゆずるが、項目別男女差、因子分析、テスト構造については、少し検討を加えてみたい。

15

a. 項目別男女差

付表 5-3 には、項目別男女差と、 t 検定の結果を示し、付図 5-2 には、それを図示した。図の方は、項目を、意味的なまとまりをもつように配列して、^{注1)} あらわしてある。

注1) ニの配列については後述する。

付図5-2より、'内省-非内省'をあらわす第1の項目群においては、男性群が'内省的'、女性群が'非内省的'という対照が考えられる。

また、'主導-非主導'をあらわす項目群では、女性群が'主導的'（社会的外向）、男性群が'非主導的'（社会的内向）な項目に高得点を示した。

その他、男性群が“冷静な”“大人っぽい”に高得点、女性群が“情熱的”“ロマンチックな”“茶め、けのある”などに高得点であった。このような結果は、'P'、

'N'に共通して得られた。なお、その他の項目群、すなわち、Ⅱ'活動'-'非活動'を示す群とⅣ、ⅤGでいう'D型'-'E型'を示す群であるが、近藤（1980）、伊藤（1978）、

柏木（1974）など性役割に関する文献を参照

すると、これらのⅡ、Ⅳに含まれる項目は、両性の性役割を表わしていると考えられる。

すなわちⅡ. 活動的（男性）、非活動的（女性）

Ⅳ. D type（男性）、E type（女性）である。

Ⅱ. 活動性の項目群では、この性役割通りの

結果が得られたが、IV群('D'-E')では、“男性的”“女性的”の項目を除いて、性役割とは逆転した結果で、D typeの項目群では女性が高いが、そしてE typeの項目群では男性が高得点である。このことより、TSPSのII.の項目群が表面的・ステレオタイプな男性・女性像を示し、IV.の項目群が、両性の中のそれぞれ異性的な側面をあらわしているといえるかもしれない。

こうした結果は、TSPSの調査I, IIにおいても、全体的に同じような傾向をもて示された。これらの結果は、被験者が大学生であるという要因からくるものとも考えられるが、本章第(2)節で述べた、単極性SD尺度(SD mono.)を使った結果では、“男性的”“女性的”の項目以外では、今述べたような結果が得られておらず(付表5-10)、これも、本尺度のもつ特性による結果と考えられるかもしれない。

なお、TSPSには、“男性的”“女性的”

という項目があるが、これらに対して、男性群、女性群がどのように評定したかという点についても調べてみた。

Table 5-2 は、

Table 5-2 “男性的”“女性的”項目に対する反応

それぞれの項目の評定平均値と標準偏差を、男女別に示したものである。
(TSPS 調査Ⅱの結果)

〈平均〉				
	「男性的」	「女性的」	和	差
男性	4.03	2.38	6.41	1.65
女性	3.04	3.54	6.58	-0.5
〈S〉	「男性的」	「女性的」		
男性	1.10	0.383	項目「男性的」では男女で分散に相異なる差がある。	
女性	1.28	0.995		
F	1.35	1.93		
p	0.137 ^{ns}	0.001 ^{***}		

平均値をみると、女性群の方が、両項目への評定の和が大きく差が小さいので、両性具有的といえるかもしれない。また、“女性的”の項目において、男性群の方が分散度が大きいことも示された。

6. 因子分析

(1) 節に示したように、TSPS は、5 因子によ、て説明可能であ、た。付表 5-11 に、Table 1-2 に示された因子分析結果より、各因子に高負荷をも、た項目を順にあげて示し

に。(1)節において命名された因子は、

I. 社会適応性因子

II. 粘着性因子

III. 社会的向性因子

IV. 非活動性因子

V. 内省 - 非内省因子 である。

TSPS-IIにおいても、因子分析が行われ、その結果を、付表5-4 ~ 5-9に示した。

“P”における順位表を付表5-8に示したが、今回は、

I. 内省 - 非内省因子

II. 非活動 - 活動性因子

III. 非主導的 - 主導的因子

IV (Y-Gでいう) D型 - E型因子

V. 情緒安定 - 情緒不安定因子、と名づけられた。

今回も、Y-G尺度を参考に命名された。

IV因子については、情緒不安定、内省、非衝動と、劣等感小、衝動的、活動的などの対立が考えられたので、E type (不安定消極型) と D type (安定積極型) という、Y-G検査で

使用される型の名をとった。

さて、TSPSと比較してみると、TSPS-IIでは、ほぼ同じような因子がえられているが、粘着性因子が消え、IVのD型-E型因子が得られたことが大きな変化であろう。

なお、付表5-9は、Negative語についてのものであるが、なるべく、“P”と対応するように、工夫を加えて示した。

C. テスト構造、フロフィール表

筆者は、TSPS-IIにおいて、因子分析結果及びクラスター分析の結果（付図5-3）をもとに、TSPS-IIを対ごとに5つのカテゴリーにわけ^{注1}ることを試みた。付図5-1などは、このようにして作成されたカテゴリー別のグラフに数値を記入したものである。

このグラフに、各個人の評定値を記入すると、個人別のフロフィール表が得られ、どういった項目群に得点が高いか、あるいは二面的であるかといったことが、一目みてわかるようになっている。

注1) 因子分析や、クラスター分析は、項目単位に分析が行なわれているので、対単位にするやや無理が生ずるが、あえて、5カテゴリーへの分類を試みた。

TSPS-II の構造は、このプロフィール表によつてその意味的な位置関係を知らることができ、また、先に示した Table 3-1 (第(3)節)によつて、対の中の項目間の距離(対極度、類似度)を知ることができる。

ところで、因子分析の結果より、たとえば“口数少ない—話し好きな”の対の場合、第Ⅳ因子に正負の因子負荷をもっているのので、(付表 5-11、5-8)、第Ⅳ因子という一つの次元において反対性をもつ語の組合せであることが証明される。このようにして、対語と、いずれかの因子によつて説明することを試みた結果が、先に示したプロフィール配列となるわけである。

一方、次ページに示す Fig. 5-1 は、各因子ごとに因子負荷の高いものをぬきだして、相互関連を考慮のうえ図示したものである。^{注1}

これによれば、TSPS は、意味的に18のカテゴリ—に分類される。また、対がある因子内の正・負として示されるだけでなく、たと

注1) これは、TSPSの調査Iの結果をもとにしたものである。従つて、“口数少ない—話し好きな”の対は、第Ⅳ因子の正・負として示されている。

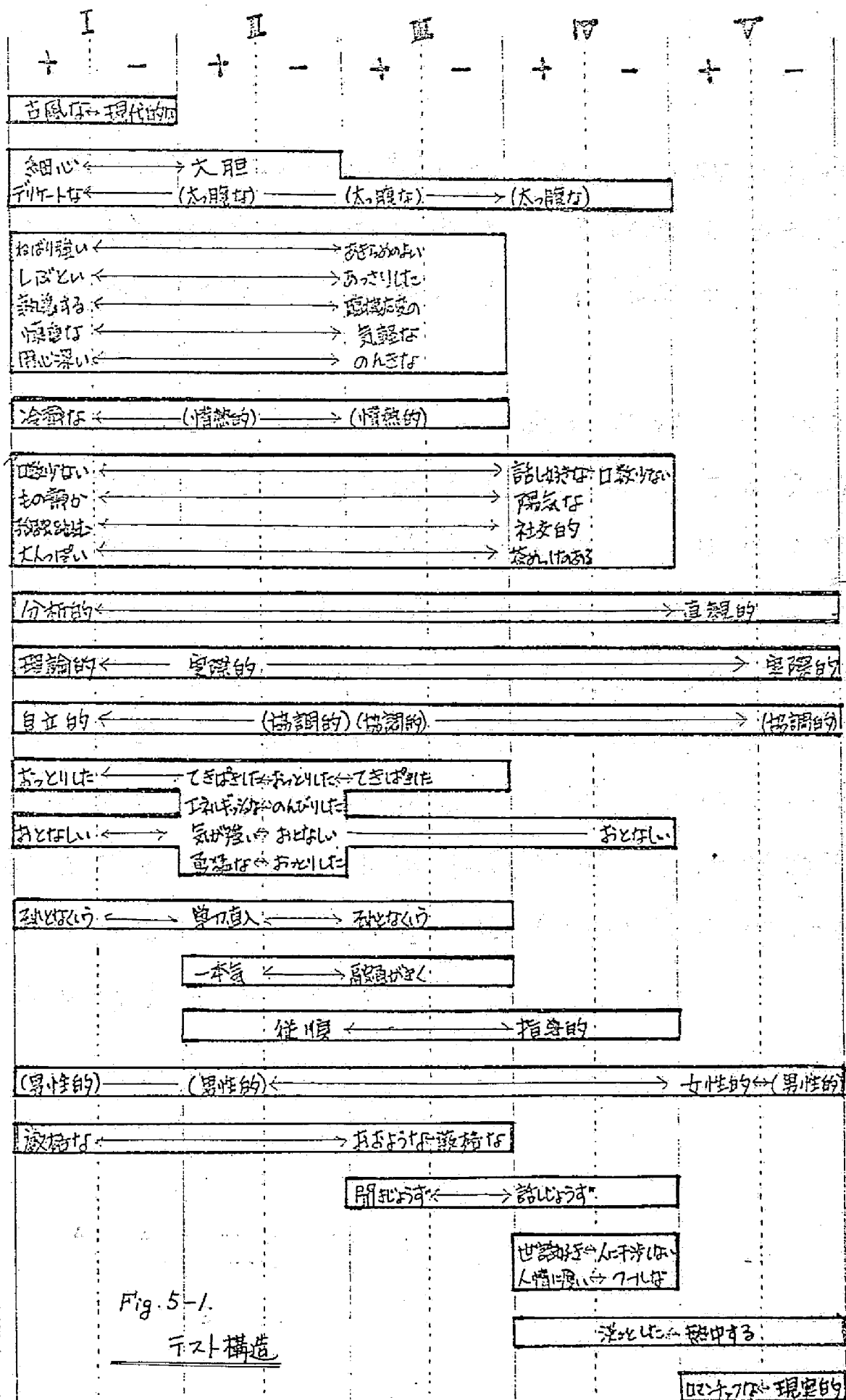


Fig. 5-1.

テスト構造

- 各因子について、因子負荷 0.4 以上のものをぬきだした。
- 相互に関連のある対は、線でかこんでしめた。
- いずれの因子にも 0.4 以上の負荷をもたない項目は、因子負荷の高いところ (2.3 因子にまたがっている) へ () に入れて記した。

えば“口数少ない—話し好きな”の対であれば、第Ⅰ因子と第Ⅳ因子という組合せとも考えられ、対語が2因子によって説明されることがわかる。

ここで注目すべき事は、ある対が、一因子（一次元）でも、二因子（二次元）でも説明可能であったという事実である。つまり、TSPSの対は、そのほとんどを一次元の中での正負としてとらえることができ、そしてそれと同時に、対語が二次元にまたがって高い因子負荷をもつのである。このことは、一見対立するとみられる形容詞対が、実は共存可能であるという事実を、因子的に裏づけたものと考えられる。

(6) TSPS の妥当性について

“妥当性”は、心理テストが測りたいものを測っているかどうかを示す概念である。“妥当性は測定の意義を問う概念で、心理テストのもっとも本質的な問題に関わっている” (池田 1973)。

アメリカ心理学会等による妥当性は、

1. 内容的妥当性 (content validity)
2. 基準関連妥当性 (criterion-related validity)
3. 構成概念妥当性 (construct validity)

が、あげられる。(APA, 1966)

1. は、テストに用いられる課題内容が、それを用いて結論しようとしている測定内容の、いかによい見本となっているかを示す概念である。

2. の妥当性は、ある確立された基準測度 (criterion measure) があり、それとの関連において判定される妥当性である。

3. の妥当性は、APA の解説によれば、“いかなる心理的特性をテストが測定するかを、

吟味することによって評価される。すなわち、ある説明概念がテストの成績とある程度説明することとを示すことによつて確かめられる。概念的妥当性を吟味するには、論理的研究や経験的研究が必要である。本質的には、概念的妥当性の研究は、テストを支える論理の正当さの吟味でもある。”とされている。

構成概念妥当性の検証の方法は、一つの結果を得た場合、直ちにテストそのものと非難するのではなく、時には理論を改変し、さらにはその新しい理論を土台として、仮説検証の実験をくりかえすといった、発展的過程だといえよう。

さて、ここでは、TSPSの妥当性について検討を加えるわけだが、以下、

a. 性格検査としてのTSPS

b. “二面性”テストとしてのTSPS の2つにわけて、論を進めたい。

a. 性格検査としての TSPS の妥当性

TSPS は性格検査としての側面をもつ。
(本章(3)節において述べた)。その面における妥当性も、また検討する。

因子分析の結果から明らかのように(1)節、(5)節参照) TSPS は、5因子から成りたっており、また、それらの因子は、Y-G検査のもつ因子をほぼ網羅している。このことは、TSPS が、性格検査として、妥当性をもっていることを裏づけるものであろう。

さらに、性格検査のなかでは、広く使用されている Y-G 検査(以下 Y-G と略)と、MMPI-PI の両者との比較を行ない、妥当性を検証する。

① Y-G との比較

TSPS(II)と、Y-G を大学生 203 名(男 72, 女 131)に実施した。

付表 6-1 は、Y-G 各尺度と、TSPS-II の項目との相関係数の一覧表で、付表 6-2, 6-3 は、その中で、有意水準が 1% あるいは 0.1% 以

下で有意であったものについて、正・負の記号だけを書いたものである。これによって、TSPS-IIの因子毎のまとまりが、Y-Gとの関連でよりよく理解されるであろう。さらに、付表6-4は、付表6-2, 6-3の+, -を2点, (+), (-)をそれぞれ1点とし、Y-Gの尺度毎に、TSPS-IIの因子との相関を数量化したものである。これによって、先に述べた因子の命名が裏づけられる。

このようにして、TSPSが、Y-Gのもつ因子を共通して有し、従って、性格の諸側面を広く網羅していることがたしかめられた。

②MMPIとの比較

TSPS-IIとMMPIを大学生56名(男37, 女19)に実施した。^{注1}

付表6-5は、MMPI各尺度と、TSPS-IIの項目との相関を示したものである。

これによっても、TSPSが、性格の諸側面を表現していることがわかる。

注1) ?点が制限以上のものはのぞいてある。

①, ②の作業を通して、性格検査としての、
TSPSの妥当性がたしかめられたといえて
よいであろう。

長 “二面性”テストとしてのTSPSの妥当性
TSPSの最も本質的な性質である“二面性”
テストとしての妥当性をにしかめることは、
たいへん困難な作業である。これは、一つに
は、外部基準が皆無といってもよい状態であ
るためである。従って、妥当性の一つである
基準関連妥当性をにしかめることができない。
もう一つの理由は、TSPSの特有性に依る。
これは、TSPSが、他の性格検査とは異な
って、性格の“内容”ではなく、“構造”を
みようとするという特性をもつからである。
つまり、TSPSは、“ある人が、どうい
うに性格を有するか”ではなく、（もちろん、
これも測定しうるが、それ以上に）“どのよ
うに性格を有するか”を知ろうとするもので
ある。

従って、“二面性”テストとしてのTSPSの
妥当性を検証するにあたっては、他のテスト
との類似性を以て説明することは、ほとんど
不可能といえる。

結局、先に述べた構成概念妥当性の検証方法、すなわち、テストのみでなく、その理論も含めて両者同時に妥当性を検証し、理論とテストが両輪のごとく共に進んでいく、発展的方法にたよらざるをえないであろう。

この意味では、これまで述べてきたすべての過程、特に作成過程の吟味や尺度の吟味が妥当性検証のための / プロセスと考えられるであろうし、同時に、これから述べていく、あるいは、続けられるであろうこれからの研究に、その検証が委ねられるといえよう。

ここでは、TSPSの妥当性検証のための作業として行なわれた、いくつかの調査について紹介しておく。

① BSR I との比較

目 的

Bem (1974) は、男性性と女性性を二つの独立した次元ととらえ、“男性的”、“女性的”に加えて“両性的”な人格をとらえるべく、

BSR I を作成した^{注)}。これは、従来、一次元

注) 第1章(6)、女. において詳しくのべた。

上の両極とされてきた特性を、独立にとらえ両者が両立する可能性を許したもので、その点 TSPS と軌を一にするものである。

そこで、両者を比較することにより、TSPS の妥当性を検討したい。

方 法

被験者：看護学校学生，女子 38 名。

使用テスト：TSPS-II と、Bem (1974) を参考に、近藤 (1980) が作成した日本語版の Androgyny テストを実施した。(テストは巻末に付した)

両性具有性を示す得点 (SA) としては、男性得点 ΣM と女性得点 ΣF の和と差を求め ($\Sigma M + \Sigma F = M + F$, $|\Sigma M - \Sigma F| = M - F$), $[M + F] - [M - F]$ を以てその得点とした。^{注1}

結 果

Table 6-1 に、両者の相関係数を求めた結果を示した。‘二面性’のスコアとしては、 S_- と SP , SN (新スコア^{注2}) の双方を算出した。

注1) これは、表2-1のベータ = Kaplanの方法である。

注2) 本章(4)節にのべた。‘P’の二面性スコアを SP , ‘N’の二面性スコアを SN とよぶ。

Table 6-1 TSPS と BSRI との比較

TSPS BSRI	S+(P)	S-(P)	S--(P)	SP	S+(N)	S-(N)	S--(N)	SN	S(P-N)
ΣM	.54 ***				.41 **		.38 *		
ΣF	.28 (*)	-.34 *		.40 *		-.33 *	-.39 *		.49 **
ΣD	.40 *		.32 *						.54 ***
$M+F$.63 ***		.35 *	.46 **					.34 *
$ M-F $.27 (*)					.31 (*)		-.28 (*)
SA	.54 ***		.29 (*)	.44 **					.38 *

・TSPSのスコア: すべてにわたって S+, S-, S-- 及び S(P-N)

SP と SN は, (4) 節で述べた新スコアで Positive 二面性スコア -- SP
Negative " -- SN

・BSRIのスコア: 男性得点; ΣM 女性得点; ΣF Desirability; ΣD

$$M+F = \Sigma M + \Sigma F \quad |M-F| = |\Sigma M - \Sigma F|$$

SA: Androgyny 得点, $[M+F] - [M-F]$ とし, 求めた。

*このうち, SP, SN は数値が大きいほど二面的, SA も数値が大きいほど両性的。

S-(P), S-(N), $|M-F|$ は, 数値が小さいほど二面的, あるいは両性的。

相関係数はピアソン。 () < .10, * < .05 ** < .01 *** < .001

Androgyny 得点 (SA) と, SP とは有意な
正相関を示した。また, SN とは, T ほか, T =。

また, 男・女得点の差 ($|M-F|$) と S-(P) とも

正の相関を示す傾向がみられたが、 $S-(N)$ では、そういった傾向がみとめられなかった。

考 察

TSPSのPositive項目においては、SP、 $S-$ のいずれのとりえ方によっても、TSPSで二面的である者が、両性具有的であるということがいえた。これは、P項目における、TSPSの妥当性を、BSRIを通して裏づけるにものといえるだろう。

なお、N項目においては、有意な相関が認められなかったが、これは、Androgyny尺度がすべて望ましい意味をもつ項目からできあがっており、いうならば、TSPSのP側面のみで構成になっているためではないかと考えられる。

② 自己意識との比較^{注1}

目 的

自己の“二面性”についてどのように思っているかということと、TSPSのスコアを比較することによって、TSPSの妥当性をさぐる。

方 法

被験者：大学生279名（男244，女35）

手続き：TSPSを実施し、そのあと内省報告を書かせた。その際、テストの意図についても，“二面性”という概念についても何ら説明を加えず、自由記述とした。

その後、この内省報告について、“二面性”に対するとらえ方という観点から分類を行なった。以下。

1. 二面的につけたことを意識化している群(C)と、していない群(U, C)
2. “二面性”をうけいれている群(A)と、否定している群(N, A) という2つの分類方法で行なった結果を報告する。

注1) この調査のくわい内容・結果については、第4章をもう一度とりあげて、そこを述べる。

また、この内容は、日本心理学会49回大会にて発表を行なった。

結 果

1. 二面的につけてのことに対する意識化と、 TSPS のスコアとの関係

意識化している群 (C) は、114 名、意識化していない群 (U.C) は、144 名だった。

両群間のスコアの比較を Table 6-2 に示す。

Table 6-2
C と U.C. との比較

	S+(P)	S-(P)	SP	S+(N)	S-(N)	SN
C	206.2	43.3	433.0	191.0	45.8	399.8
U.C.	200.0	43.6	418.4	184.3	48.2	379.8
t	2.14*	-2.1	2.08*	1.91(*)	-1.34	2.83**

** $P < .01$ * $P < .05$ (*) $P < .10$

P, N とともに、C 群の方が二面的であった。
ただし、S- スコアでは、差がなかった。

2. "二面性"に対するうけいれ方と、TSPS の スコアとの関係^{注1)}

うけいれてゐる群 (A) は、57 名、うけいれていない群 (N.A) は、144 名である。両群間のスコアの比較を Table 6-3 に示す。

注1) 二面性に対する考え方の段階は、合計 7 段階にわけられた。詳しい内容は、付表 6-6 に示す。

1. の C 群は、I ~ IV 段階、U.C 群は、V ~ VII 段階である。

2. の A 群は、I, II 段階、N.A 群は、V ~ VII 段階である。

実際には、A と N.A の間に "二面的につけてしまつたが困っている" という群があるが、ここではそれを省いて検討した。

Table 6-3 A群とN・A群との比較

	S+(P)	S-(P)	SP	S+(N)	S-(N)	SN
A	211.5	46.0	434.6	188.6	49.2	389.2
N・A	200.0	43.6	418.4	184.3	48.2	379.8
t	3.24 **	1.24	1.88 (*)	0.98	0.45	1.11

** $P < .01$ (*) $P < .10$

‘P’については，“二面性”をうけいれてい
るものの方が二面的である傾向がみられたが、
‘N’については有意差がなかった。

考 察

Table 6-2 に示されたように、自分が、T
SPSにおいて、対の双方につけたことを、
意識化しているものは、そうでないものとく
らべて、二面性スコアが高かった。これは、
質問紙法ではあたり前のことともいえるが、
自分には、“二面性”が存在しているという
自己認知をもつ者を、TSPSが正しく抽次
しているということの証左となろう。
ただし、この場合の“二面性”の自己認知に
は、2通りあって、“二面性”というのは十
分ありうるものだし、それを積極的に認め

ている者と、そのことに対して否定的なものである。この点についてより詳しく調べるために、積極的に“二面性”の存在を認める者と、否定的であつたり、あるいは無意識的である者との比較を行なつたのが、Table 6-3 である。これによると、‘P’では、認めている群の方が、二面性スコアが高い傾向がみられたが、大きな差はみられず、特に‘N’においては差がなかった。

従つて、TSPSが抽出する二面群は、必ずしも“積極的に、あるいはよろこんで、自己を二面的だと認知している人”ではないわけ、この点、単純に、“TSPSは、自分の“二面性”に対する自己認知を反映する”とだけはいきんなものがある。さらにいうならば、TSPSは、ある意味で投影法的なところがあつて、従つて、やや無意識的なところをひきだしともいえる。TSPSに対して、好きにつけ、悪しきにつけ、情緒的な反応をおこす被験者が多いという事実は、こ

のことに関連しているかもしれない。

なお、Table 6-2 で、SP、SN の新スコアでは、差がみられたが、S- のスコアでは差がなかった。これは、“二面性”のスコアとしては、S- より、新スコアの方が妥当であることを示すかもしれない。

以上、TSPS の妥当性検証のための試みといくつか示した。

先に述べたように、これまでのプロセスすべてが妥当性検証のための試みともいえ^{注1}、以下、いろいろな作業を通して、この試みを続けていくことにい。

注) 前節(5)-c. において述べたように、TSPS が 因素的に、対立の共存と許す構造になっているということも、TSPS の妥当性を示すものとなる。

(7) TSPS の信頼性について

同一対象に対する繰返し測定 (repeated measurement) の間にみられる測定値の一貫性を、測定値の信頼性と呼ぶ。信頼性は、妥当性と並んで、心理テストにとって、たいへん重要なものである。

TSPS について、その信頼性を検討してみよう。

TSPS は、“おとりした”という項目を2つもっている。TSPS-II における‘N’でも、“実利的”という項目を2個いれてある。この両者に対する評定が一致していることが信頼性の一つの基準になろう。

Table 7-1 は、これらの項目に対する評定の

Table 7-1. 同一項目間の相関係数

	おとりした	実利的	人数
TSPS (調査I)	0.734	——	N=43
TSPS (調査II)	0.737	——	N=200
TSPS-II	0.764	0.596	N=713

相関係数を示したものである。

決して低いとはいえないが、そう高くもない数値であり、特に「実利的」では、評定にズレがあったことがうかがえる。このことの原因は、同じ「おっとりした」であっても、その対語が異なっているために、意味的に差が生じたことであると考えられる。被験者の感想の中にも、「ある語の意味をつかむのに対語をみて、ああそういう意味か、と、もとの語の意味がわかる」とあり、ある項目の意味を規定するのに、対語の果たしている役わりの大きいことがわかる。従って、「ことば」としては、同一である「おっとりした」も、その対語（「勇猛ば」と「てきばきした」）によって、異なる語となっていて、いるといえる。

（「実利的」の対語は、「現実離れした」と「頭でっかち」）

このことは、「おっとりした」が全く同じ意味をもつと考えられる単極性SD尺度(SD mono)では、0.849 ($N=58$) という高い相関

係数をもち、全く同じ被験者に対して行った
に 'Solsep' の評定では、0.815 と下がってい
ることも示される。

第二章 “人格の二面性” 測定のための 尺度の作成

(5) TSPS の諸特性について

(6) TSPS の妥当性について

(7) TSPS の信頼性について

要 約

(5)節においては、これまで行なってきた調査からえられたTSPSの特性に関する諸データをまとめて示した。なかでも、項目別男女差、因子分析、テスト構造については、とりあげて論じた。

(6)、(7)節においては、心理テストにおける重要な概念である妥当性、信頼性について、とりあげ、TSPSについてその検証を行なった。

TSPSのもつ側面のうち、性格検査としての面は、Y-GやMMPIとの比較検討等を通じて、その妥当性が示しかめられた。

もう一つの側面であり、より本質的である“二面性”テストとしての側面は、その妥当性

の検証が困難であること、継続的な、理論的なものも含めにした研究により、てしか検証され得ないことが述べられた。

(6) 第2に、その中の作業のうちの一つとして、Androgynyを測定するテストとの比較、及び、“二面性”に対する自己意識とスコアとの関係が紹介されている。

信頼性については、TSPSに2回でとく“おとしした”、“実利的”をとりあげ、同一語に対する評定値の間の相関係数を調べるという方法で検討した。

ある程度の数値は得られたが、それぞれの語が対語によって逆規定されているため、同一語とはいっても、厳密には、意味的な差違をもち、そのことが、相関係数を下げることが報告された。

第三章

第三章 “二面性”の観点からみた人格特性

A. 他の心理テストとの比較 ----- 175

- ① Y-G
- ② MMPI
- ③ CAS
- ④ MAT, CPI, WJ
- ⑤ 同一性次元尺度
- ⑥ 独断主義尺度
- ⑦ 気質尺度

B. 被験者の特性による分析 ----- 224

- ① 男女差
- ② 年齢差

C. スコアによるまとめ ----- 232

- ① $S_+(P)$ 大
- ② $S_+(P)$ 小
- ③ $S_+(N)$ 大
- ④ $S_+(N)$ 小

⑤ $S-(P)$ 大・小

⑥ $S-(N)$ 大・小

群別比較

① Positive

② Negative

新ス丁了

第3章 “二面性”の観点からみた人格特性

前章においては、人格の“二面性”測定のための新しい尺度を作成する試みを示した。できあがった尺度 TSPS(-II)については、様々な角度から検討が加えられた。

本章においては、できあがった TSPS によって抽出される人格が、どういった人格特性をもつかという点について検討してみたい。

検討の方法としては、

a. 他の心理テストとの比較

b. 被験者の特性による分析 といったことが考えられる。

以下に、それらについて、具体的に述べる。

A. 他の心理テストとの比較

いくつかの心理テストとの比較が行われた。
結果の分析は、両者の相関係数をとる方法と、スコアの数値によって大・小2群にわけ^{注1}群別に比較テストの平均値を求めたうえで、検定を行なう方法の、2方法によって行なわれた。

TSPS-IIのすべてのスコア ($S_+(P)$, $S_+(N)$, $S_-(P)$, $S_-(N)$, $S_{--}(P)$, $S_{--}(N)$, $S(P-N)$) について分析が行なわれたが、ここでは特に、二面性スコアである S_- をとりあげて検討する。二面性スコアとしては、その他、群別比較、新スコアも算出され、その分析が行なわれたので、それらの結果もあわせて報告する。

群わけは、第2章(4)節で述べたように、'P', 'N' それぞれ3スコアを組合せて8群ずつ、計16群になるわけだが、それでは、1群中の人数があまりにも少なくなるので、本章では、 $S_+ \times S_-$ で、'P', 'N' それぞれ4群ずつとし、(Table a-1)、さらに、大小は中央値でわけ

注1) 群わけの基準は 付表3-4 (資料集 p.26) に従う。

Table a-1 スコアの組合せによる4群

1に。

	• POSITIVE Score		• NEGATIVE Score	
	$S+(P) \times S-(P)$		$S+(N) \times S-(N)$	
1	大	大	大	大
	(太 不均衡)			
2	大	小	大	小
	(太 均衡)			
3	小	大	小	大
	(細 不均衡)			
4	小	小	小	小
	(細 均衡)			

Table a-2

に, Range

を示す。

新スコア

については,

SP と SN

が計算された。

Table a-2 大・小の Range

	Range (小)	Range (大)
$S+(P)$	132 ~ 203	204 ~ 301
$S+(N)$	75 ~ 184	185 ~ 313
$S-(P)$	9 ~ 41	42 ~ 97
$S-(N)$	11 ~ 44	45 ~ 88
$S--(P)$	-13 ~ 2	3 ~ 22
$S--(N)$	-15 ~ 1	2 ~ 17

① Y-G

まず, 一般的によく使用されている性格検査である Y-G との比較を行なう。

大学生 203 名 (男 72, 女 131) に対して, TSP S-II と Y-G とが実施された。

Fig. a-1 (次ページ) は, $S-$ について, ^{大・小} 各群の平均値をプロファイル上に図示し, あわせて検定の結果を示したものである。

$S_-(P)$

Y G 性 格 換 査 フ ロ ア イ ル

	1	2	3	4	5
D	0 ^a	1	2	3	4
C	0 ^b	1	2	3	4
I	0 ^c	1	2	3	4
N	0 ^d	1	2	3	4
O	0 ^e	1	2	3	4
C	0 ^f	1	2	3	4
A	0 ^g	1	2	3	4
G	0 ^h	1	2	3	4
R	0 ⁱ	1	2	3	4
T	0 ^j	1	2	3	4
S	0 ^k	1	2	3	4

情緒不安定	D	1.70	(*)
	C	-0.63	
	I	-1.18	
	N	-0.32	
	O	0.35	
社会的不適應	Co	0.13	
	A ₂	0.41	
活動的	G	-0.07	
衝動的	R	-1.41	
內省的でない	T	-2.06	*
主導権を握る	A	-0.47	
	S	0.13	

抑うつ性 大
気分の変化 大
劣等感 大
神経 質
主観 的
非協調 的
改竄 的
活動 的
の 人
思考の外 向
支配性 大
社会の外 向

$$S = (N) \times \dots \times N = 65 \times \dots \times 65$$

Y G 性格検査プログラム

[illegible]

七	D	1.95	(米)
情緒不安定	C	-0.50	
	I	-0.06	
	N	-0.32	
	O	0.73	
社会的不適應	Co	-0.19	
活動的	Ag	-0.91	
衝動的	G	-1.54	
內省的でない	R	-0.99	
	T	-0.36	
主導権を握る	A	-0.76	
	S	-1.32	

抑うつ性大
気分の変大
劣等感大
神経質
主観的
非協同的
攻活の
思考的外向
支配性大
社会的外向

Fig. 2-1

$$S_{-CP}, S_{-N})$$

相関係数による比較の結果は、付表 a-1 に、また、他のスコアについては、付図 a-1~a-3 に示した。

Fig. a-1 より、S-(P) 小群の方が“思考的内向”“抑うつ性大”だが、いずれも相関係数による比較では、有意とはいえないかった。

また、S-(N) 小群の方が“抑うつ性大”の傾向を示した。

次に、Table a-3 は、Y-G の A, B, C, D, E の型と、スコアとの関係をみたものである。

Table a-3 スコアと Y-G の型との関係

スコア	MEAN(SD)	MEAN(SD)	MEAN(SD)	MEAN(SD)	MEAN(SD)	F		
S+(P)	B 215.8(25.1)	D 212.0(22.1)	A 202.7(18.5)	E 195.5(17.6)	C 190.9(13.6)	9.388	***	* P<0.05 ** P<0.01
S+(N)	B 201.7(25.3)	E 190.4(22.4)	D 170.6(24.5)	A 169.7(21.5)	C 164.0(21.2)	22.449	***	*** P<0.001 type
	←太型				細型→			A: n=38 B: n=174 C: n=27 D: n=44 E: n=20
S-(P)	E 50.4(18.0)	D 45.0(12.3)	B 43.1(14.5)	C 42.3(17.7)	A 38.0(10.5)	2.749	*	
S-(N)	E 47.7(16.3)	D 47.2(12.4)	B 47.1(15.2)	C 44.6(14.1)	A 43.4(10.3)	0.674		
	←不均衡				均衡→			total 203
S--(P)	D 43.6(4.9)	C 25.9(4.3)	A 23.7(4.3)	B 23.1(4.4)	E 21.5(5.9)	1.652		
S--(N)	B 35.3(4.6)	D 32.0(4.8)	C 26.3(3.8)	E 18.5(4.7)	A 0.18(14.6)	3.730	**	
	←..K				小→			
S(P-N)	D 41.4(29.4)	A 33.0(23.0)	C 26.9(22.4)	B 14.0(27.8)	E 5.1(24.8)	11.181	***	

スコアの数値が高い順に、型を配列した。

付表 a-2 には, 分散分析の結果を示した。

S_- については, $S_-(P)$ で有意差が認められ, 数値の低い順 (二面的, 均衡的な順) に, A, C, B, D, E となつた。

次に, 群別比較を行なつた。Table a-1, a-2 に従つて, $TSPS$ のスコアによつて 4 群にわけた。 S_+ の大群を太型, 小群を細型, S_- の大群を不均衡型, 小群を均衡型とよび各群は, 以下その組合せを省略した名でよぶこととする。(たとえば, 厳密な意味で二面的である S_+ が大で, かつ S_- が小である群は “太・均” となる。)

$Y-G$ との比較の際の, 各群の人数を, Fig. a-2, a-3 に示す。

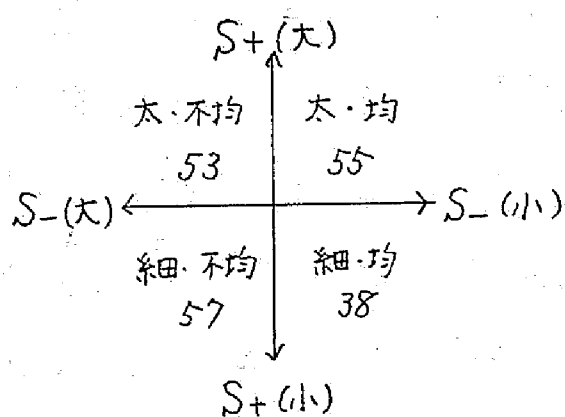


Fig. a-2 $Y-G$ における 4 群の人数

(POSITIVE)

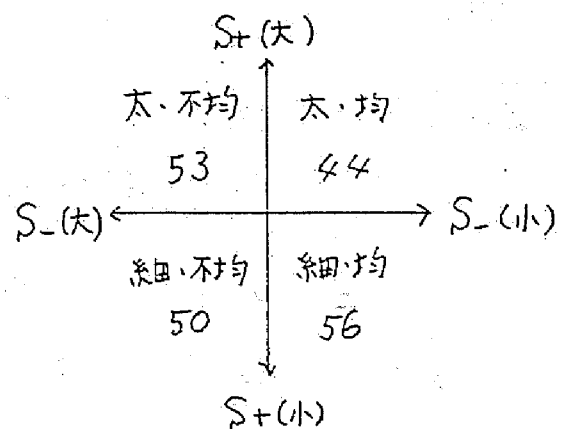


Fig. a-3 $Y-G$ における 4 群の人数

(NEGATIVE)

Table a-4, a-5 は、群別に、Y-G 各尺度得点の平均値を示したものである。

まず、'P'では、“二面性群”である“太・均衡群”について順に追っていくと、“抑うつ性大”“主観的”“攻撃的”“活動的”“のんき”“思考的内向”“支配的”“社会的外向”で、特に“活動性”が特徴的である。

ただし、思考的には内向傾向がある。また、同じく“二面性”とあらわす“細・均衡群”と有意な差を示した尺度は（ t 検定を行なった）、O, Ag, G, R, A, Sで、細・均衡群の方が“客観的、非攻撃的、非活動的、のんきでなく、服従的、社会的内向であった。

次に、'N'では、同じく“二面性群”である“太・均衡群”について、“抑うつ性”から“攻撃性”まで、“情緒不安定”、“社会的不適応”とあらわす尺度にすべて高得点である。ただし“活動性”は最も低く“のんき”であるが、“思考的内向”である。“細・均衡群”と有意な差のため、 t ものは、D, C, I, N, O, Co, Ag

Table A-4
群別 YG 平均点

(POSITIVE)						F	(*) P<0.1 * P<0.05 ** P<0.01
	MEAN (SD)	MEAN (SD)	MEAN (SD)	MEAN (SD)			
細 不均 太 不均 D	9.5 (5.54)	11.2 (5.72)	11.8 (5.79)	12.2 (4.78)	2.683	*	
細 均 細 不均 太 均 太 不均 C	8.1 (5.46)	9.9 (5.25)	10.8 (4.84)	10.8 (5.34)	2.556	(*)	
太 均 細 不均 太 不均 細 均 I	8.7 (4.30)	9.3 (4.95)	9.4 (4.83)	10.2 (5.18)	0.802		
細 不均 細 均 太 均 太 不均 N	9.0 (5.16)	9.7 (5.55)	10.5 (4.52)	11.8 (4.81)	3.170	*	
細 不均 細 均 太 不均 太 均 O	8.2 (3.84)	8.3 (4.18)	10.2 (4.31)	10.3 (3.62)	4.140	**	
細 不均 細 均 太 均 太 不均 Co	5.7 (3.48)	6.2 (3.65)	7.2 (3.68)	8.1 (4.14)	4.334	**	
細 均 細 不均 太 不均 太 均 Ag	9.8 (3.92)	10.0 (4.08)	11.9 (3.98)	12.3 (3.60)	5.249	**	
細 均 細 不均 太 均 太 不均 G	8.9 (4.35)	10.0 (4.78)	12.7 (3.33)	13.0 (4.63)	10.301	***	
細 均 細 不均 太 不均 太 均 R	9.0 (3.66)	11.7 (5.42)	12.4 (4.63)	12.5 (3.29)	5.863	***	
太 不均 太 均 細 均 細 不均 T	8.1 (4.46)	8.3 (3.51)	8.7 (4.00)	10.9 (3.82)	6.079	***	
細 均 細 不均 太 均 太 不均 A	7.9 (4.20)	8.7 (5.39)	10.7 (4.13)	11.2 (4.84)	5.334	**	
細 均 細 不均 太 不均 太 均 S	11.3 (4.15)	12.6 (4.62)	14.1 (5.07)	14.3 (3.17)	4.685	*	

群別 Y-G各尺度の平均点

(NEGATIVE)

		MEAN (SD)	MEAN (SD)	MEAN (SD)	MEAN (SD)	F
抑うつ性 小←	D	細・不均	細均	太不均	太均	16.149
		8.3 (4.82)	9.5 (4.59)	12.6 (5.97)	14.6 (4.24)	***
気分の変化 小←	C	細均	細不均	太不均	太均	24.520
		7.2 (4.92)	7.6 (4.79)	12.5 (4.54)	13.3 (3.67)	***
劣等感 小←	I	細均	細不均	太均	太不均	16.612
		7.2 (3.90)	7.4 (4.19)	11.6 (4.09)	11.6 (4.96)	***
神経質 No←	N	細不均	細均	太不均	太均	23.725
		7.8 (4.67)	7.8 (4.22)	13.0 (4.61)	13.0 (3.87)	***
孤独感 小←	O	細均	細不均	太不均	太均	24.258
		7.3 (3.30)	7.4 (3.47)	10.7 (4.12)	12.3 (2.94)	***
協調性 小←	Co	細不均	細均	太均	太不均	18.130
		4.8 (3.13)	5.4 (3.34)	8.6 (3.08)	8.7 (3.99)	***
攻撃性 No←	Ag	細不均	細均	太不均	太均	8.795
		9.7 (3.82)	9.8 (4.19)	12.3 (3.55)	12.8 (3.55)	***
活動性 No←	G	太均	太不均	細均	細不均	3.263
		10.1 (4.15)	10.7 (4.62)	11.6 (4.54)	12.8 (4.67)	*
おとなしさ No←	R	細均	細不均	太不均	太均	7.253
		9.7 (4.56)	10.9 (5.10)	12.9 (4.36)	13.1 (2.87)	***
月経的不調 小←	T	太均	太不均	細均	細不均	5.271
		7.4 (3.37)	8.4 (4.39)	9.9 (3.31)	10.2 (4.60)	**
服従性 小←	A	太不均	細均	太均	細不均	0.247
		9.4 (5.06)	9.7 (4.77)	9.9 (4.47)	10.2 (5.17)	
社会的内傾性 小←	S	細均	太不均	太均	細不均	0.387
		12.9 (4.06)	13.0 (4.87)	13.2 (3.69)	13.8 (5.00)	

(*) $P < 0.10$ * $P < 0.05$ *** $P < 0.01$

(いづれも細均の方が、情緒的安定、社会的適応)、あと、R、Tであり、細均群の方が、のんきでなく、思考的外向である。

新スコアによる分析 (Fig. A-4) では、これらのことがまとめて示されている。

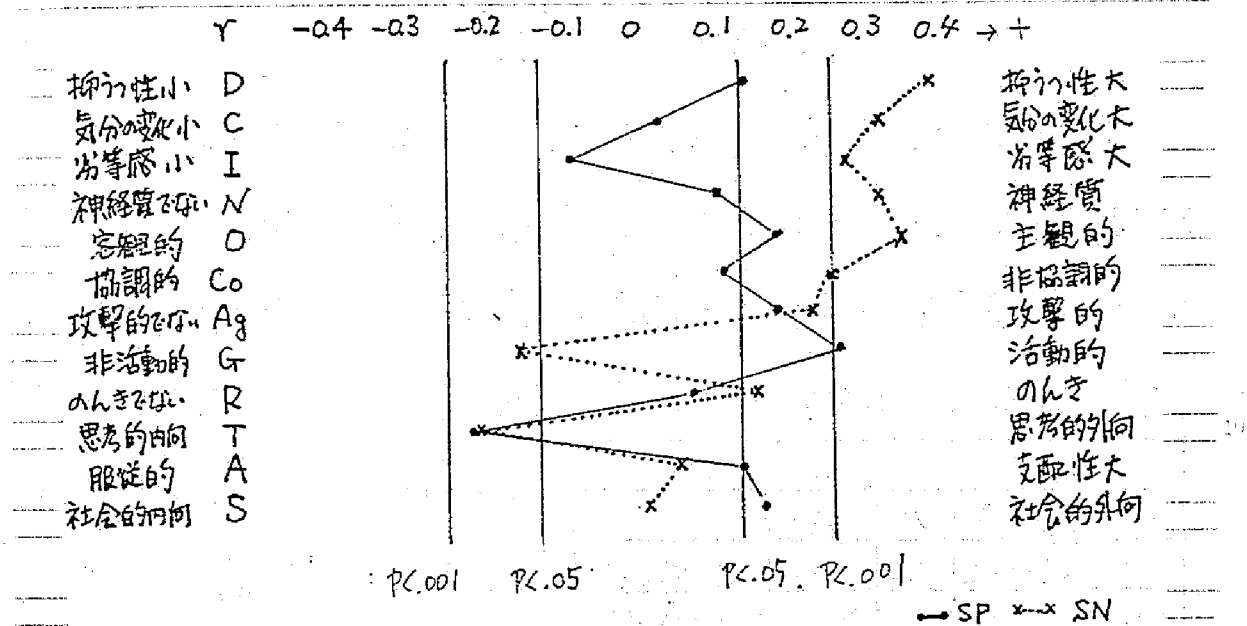


Fig. A-4. SP, SN と Y-G との相関係数.

Fig. A-4 は、SP, SN と Y-G 各尺度との相関係数を図示したものであるが、Y-G のフロアールと同様、フロットした点が右(あるいは左)に近づく程その特性を強くもつことを示す。また、有意水準を示す線もひいておいた。"活動的"において、SP と SN に大きな差がみられ、逆に"思考的内向"では、一致していた。

② MMPI.

次に、Y-Gとは異なり、臨床群を母集団として作成された性格検査であるMMPIとの比較を行なう。

注1
大学生56名(男37,女19)に対して、TSPS-IIと、MMPIとが実施された。

Fig. a-5,6(次ページ)は、S-について、大・小各群の平均値もフロー・チャート上に図示し、あわせてt検定の結果を示したものである。

なお、この群は Table a-6. MMPIにおける群分けの基準

けに際して、MMPIのみ、Table a-6に示す基準に従った。



(被験者数が少ないため)。

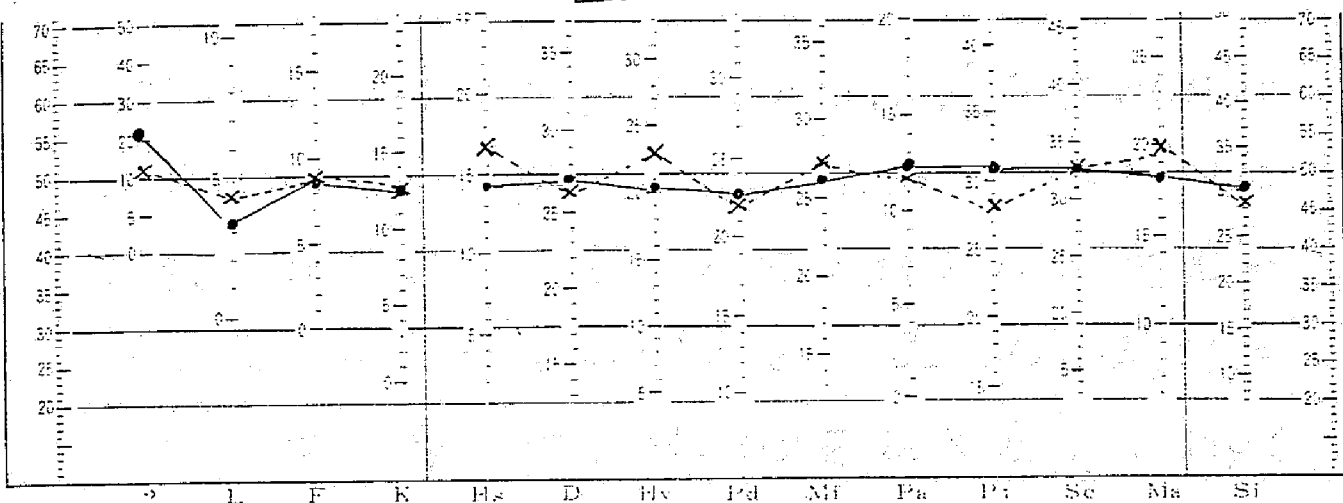
相関係数による比較の結果は、付表a-3

	小		大	
	Range	n	Range	n
S+(P)	166~194	20	208~301	20
S+(N)	88~178	22	195~313	20
S-(P)	24~39	19	52~79	20
S-(N)	21~44	21	53~85	20
S--(P)	-5~1	20	5~12	28
S--(N)	-4~2	21	6~15	20
S(P-N)	-44~8	20	23~102	20

に、また、他のスコアについては、付図a-4~a-6に示した。付図a-7には、全体のMMPIの平均得点を示した。

S-(P)

→ 大 
 -- 小 





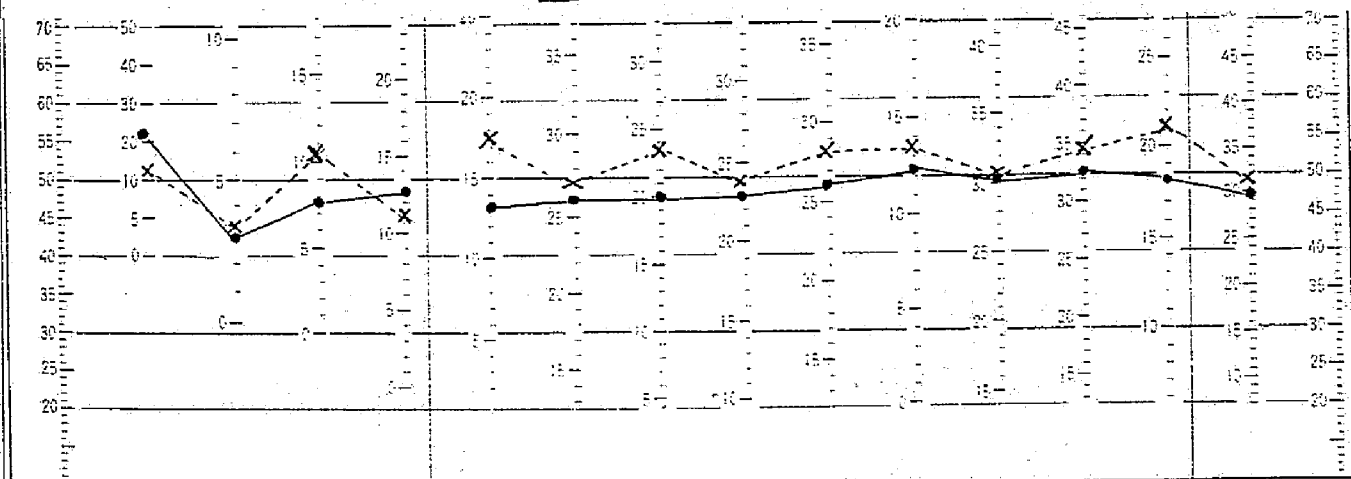
	?	L	F	K	Hs	D	Hy	Pd	Mf	Pa	Pt	Sc	Ma	Si
大 平均	55.5	43.6	49.0	48.7	48.8	49.7	48.9	48.0	49.8	51.8	50.5	50.5	49.3	48.0
SD	(6.96)	(7.97)	(10.83)	(8.00)	(9.03)	(13.28)	(8.07)	(7.85)	(8.65)	(9.28)	(12.68)	(9.34)	(10.25)	(11.55)
小 平均	50.7	46.6	49.5	48.7	53.1	46.5	52.3	46.7	50.8	49.4	46.3	50.5	53.0	46.3
SD	(7.35)	(8.52)	(10.13)	(9.80)	(13.69)	(12.16)	(9.17)	(10.29)	(6.82)	(5.95)	(11.07)	(9.83)	(10.30)	(9.80)
t	-2.10	1.15	0.14	-0.01	1.18	-0.77	1.25	-0.43	0.40	-0.95	-1.10	0.02	1.12	-0.51
	*													

Fig. A-5

スピアマンとMMPI

S-(N)

→ 大 
 -- 小 



	?	L	F	K	Hs	D	Hy	Pd	Mf	Pa	Pt	Sc	Ma	Si
大 平均	55.8	42.5	47.4	48.8	48.3	47.9	47.4	47.9	49.0	51.2	49.9	50.9	49.0	47.9
SD	(6.67)	(7.94)	(9.21)	(7.92)	(9.19)	(10.44)	(7.14)	(7.54)	(9.13)	(8.75)	(10.13)	(9.21)	(10.32)	(11.1)
小 平均	51.1	43.5	52.5	45.9	53.9	49.6	54.0	49.6	53.7	53.7	50.3	54.2	57.0	49.0
SD	(7.01)	(8.42)	(9.68)	(8.64)	(12.4)	(13.31)	(9.38)	(9.84)	(5.63)	(2.47)	(12.89)	(10.88)	(10.09)	(10.31)
t	-2.15	0.42	1.73	-1.14	2.22	0.45	2.51	0.64	2.00	0.99	0.12	1.06	2.53	0.34
	*		(*)		*		*		(*)				*	

Fig. A-6

スピアマンとMMPI

Fig. a-5, a-6 より, $S-(P)$ では, ? 点以外は有意差がみられなかった。 $S-(N)$ では, 相関係数 (付表 a-3) と t 検定の双方に有意差のあるものだけあげると, $S-(N)$ 小群 (= 面的, 均衡的) は, Hs (心気症尺度), H_y (ヒステリー - 症尺度) に高得点, また, Ma (軽躁性尺度) も高い傾向がある。 t 。 $MMPI$ ハンドブックの各尺度の解釈からすると, $S-(N)$ 小群は, 心理的圧力への耐性と処理能力が低い傾向にあるといえるかもしれない。

次に, 群別比較を行なった。 $MMPI$ との比較の際の, 各群の人数を, Fig. a-7, a-8 に示す。

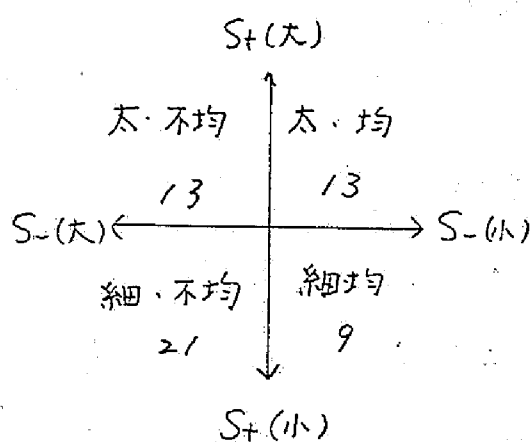


Fig. a-7 MMPIにおける
4群の人数 (POSITIVE)

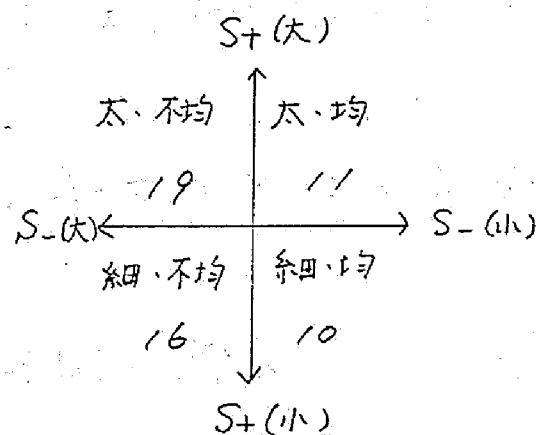


Fig. a-8 MMPIにおける
4群の人数 (NEGATIVE)

Table a-7, a-8 は、群別に、MMPI 各尺度得点の平均値を示したものである。

まず、'P'では、有意差があったのは、Q尺度（?点）のみで、“二面性群”である“太・均衡群”は、も、とも低いQ点を示している。

次に、'N'では、同じく“二面性群”である“太・均衡群”について、最も特徴的なのは、Ma（軽躁性）高得点である。K点も低かった。

さて、先に述べたS-の検討において、S-（N）の均衡型が、Hs, Hy において高得点を示していたが、この群別比較の結果によれば、それらの尺度に最も高得点を示したのは、“細・均衡型”であることがわかった。この群は、“細・不均衡型”のHs, Hy 低得点と対照をなしている。

さらに、Fig. a-9 は、新スコアによる分析を示したものである。

SPでは、Q点が負相関が高い。

SNでは、F尺度が正の、K尺度が負の、あとHs, Hy, Maの三尺度が正の相関をもつ。

Table A-7

群別平均点

POSITIVE

(MMPI)

低←

	MEAN (SD)	MEAN (SD)	MEAN (SD)	MEAN (SD)	F
Q	太 均	太 不均	細 均	細 不均	3.491
	49.8 (7.64)	50.9 (8.55)	54.3 (6.55)	56.6 (6.20)	*
L	細 均	太 不均	細 不均	太 均	1.759
	40.1 (7.03)	43.5 (8.92)	44.4 (9.26)	48.9 (8.42)	
F	太 不均	細 不均	細 均	太 均	0.183
	48.7 (8.59)	49.2 (9.96)	49.8 (6.83)	51.4 (12.65)	
K	太 均	細 均	太 不均	細 不均	0.188
	47.2 (11.11)	47.7 (8.94)	48.2 (4.93)	49.4 (9.35)	
Hs	太 不均	細 不均	細 均	太 均	0.356
	49.3 (11.98)	52.0 (8.33)	53.0 (13.87)	53.6 (12.90)	
D	太 均	細 均	太 不均	細 不均	0.210
	47.1 (12.21)	48.3 (12.33)	48.9 (13.11)	50.4 (10.71)	
Hy	細 不均	太 不均	細 均	太 均	0.260
	50.0 (8.32)	50.0 (9.38)	51.8 (10.28)	52.3 (8.19)	
Pd	太 均	細 不均	細 均	太 不均	0.599
	46.0 (11.51)	49.2 (7.60)	49.6 (7.28)	50.5 (9.38)	
Mt	細 不均	太 不均	太 均	細 均	0.555
	49.2 (7.98)	50.8 (8.29)	51.5 (6.21)	53.0 (8.4)	
Pa	太 均	太 不均	細 不均	細 均	0.350
	49.9 (8.11)	51.5 (7.37)	51.6 (9.74)	53.7 (6.65)	
Pt	太 均	細 均	細 不均	太 不均	0.466
	46.3 (13.04)	50.0 (9.93)	50.6 (9.25)	50.8 (12.90)	
Sc	太 不均	太 均	細 不均	細 均	0.091
	51.1 (8.34)	51.5 (12.69)	52.6 (8.88)	52.8 (8.61)	
Ma	細 不均	太 不均	細 均	太 均	0.831
	49.9 (11.15)	51.2 (8.62)	52.0 (11.96)	55.5 (8.58)	
Si	太 不均	太 均	細 均	細 不均	0.767
	45.2 (13.17)	45.8 (9.86)	49.3 (10.38)	50.3 (11.25)	

(*) $P < 0.1$ * $P < 0.05$ ** $P < 0.01$

Table a-8 NEGATIVE (MMPI)

	MEAN (SD)	MEAN (SD)	MEAN (SD)	MEAN (SD)	F
Q	細均	太均	太不均	細不均	2.024
	49.2(6.69)	52.9(7.11)	53.5(7.12)	56.1(6.73)	
L	太均	太不均	細均	細不均	1.542
	41.4(8.10)	43.4(7.80)	45.9(8.53)	47.9(10.18)	
F	細不均	太不均	細均	太均	1.636
	45.7(8.35)	49.9(10.20)	51.4(6.70)	53.5(12.02)	
K	太均	太不均	細均	細不均	2.400
	43.2(6.77)	47.9(8.95)	48.8(9.81)	52.0(7.86)	(*)
Hs	細不均	太不均	太均	細均	2.261
	47.4(8.64)	51.2(10.34)	53.6(11.73)	58.4(13.25)	(*)
D	太均	細不均	太不均	細均	0.727
	46.2(13.34)	47.6(7.81)	49.4(13.25)	53.3(12.88)	
Hy	細不均	太不均	太均	細均	3.923
	45.4(6.41)	51.9(7.74)	52.3(9.64)	55.8(9.21)	(*)
Pd	細不均	太均	太不均	細均	0.719
	46.9(8.26)	47.6(10.61)	49.5(8.59)	51.8(8.92)	
Mt	細不均	太不均	細均	太均	2.645
	46.8(7.10)	50.8(8.86)	53.4(5.39)	53.9(6.09)	(*)
Pa	細不均	太不均	太均	細均	1.005
	49.1(10.12)	51.2(7.14)	53.2(7.70)	54.3(7.57)	
Pt	細不均	太均	細均	太不均	0.563
	46.6(10.21)	50.3(12.11)	50.4(14.36)	51.3(9.48)	
Sc	細不均	太不均	細均	太均	1.303
	48.3(8.13)	52.7(8.42)	53.2(8.74)	55.1(12.88)	
Ma	細不均	太不均	細均	太均	6.473
	45.7(8.85)	51.2(8.45)	52.6(9.53)	61.0(9.19)	***
Si	細不均	太不均	細均	太均	0.118
	46.8(11.48)	47.7(12.05)	48.7(9.19)	49.3(11.68)	

(*) $P < 0.1$
 * $P < 0.05$
 ** $P < 0.01$

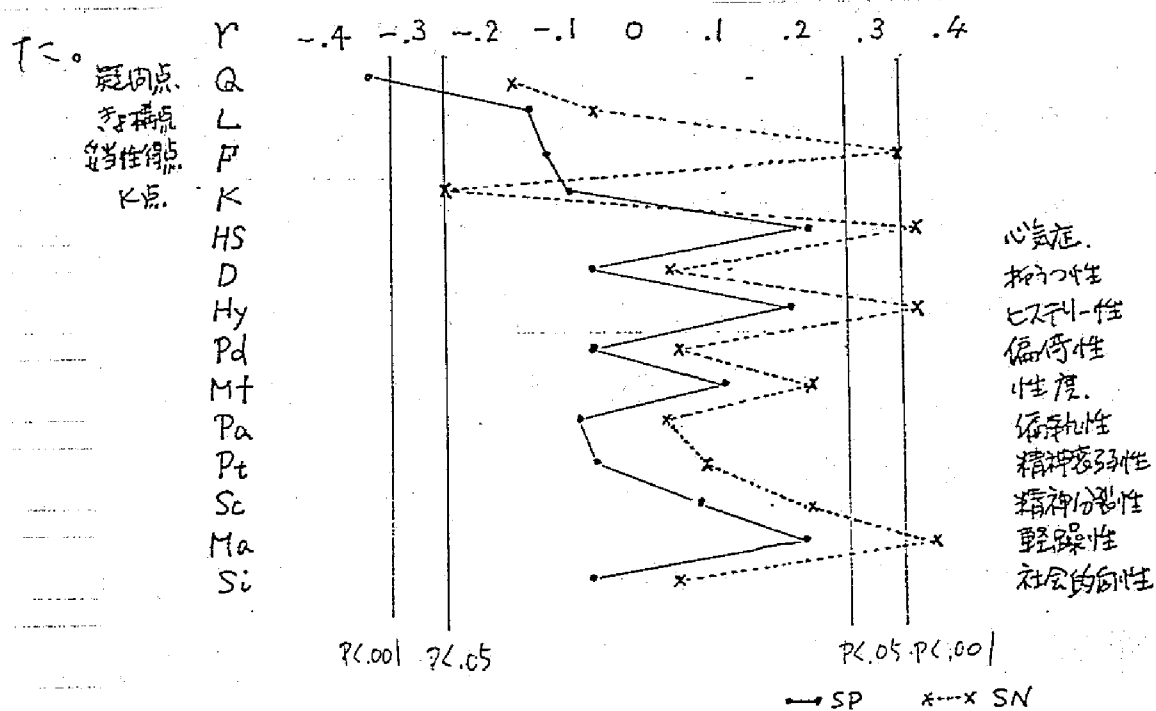


Fig. A-9 SP, SNとMMPIとの相関係数

F (妥当性尺度)が高いと検査の信頼性が乏しいと解釈されるのであるが、この場合、この解釈は適当ではないと思われる。むしろ、被験者が“自分を好ましくない方向に表現しようとする傾向を示したり、あるいは自由で個性的な人格をあらわす”という、F尺度の別の側面の解釈が当てはまるだろう。

③ C A S (不安検査) との比較^{注1)}

‘不安’は、精神病理学及びパーソナリティの概念において、たいへん重要な位置を占めるものである。“不安”は、いったいどこからやってくるのか。その問いに対して、数多くの答が用意されてきたが、笠原(1981)は、“不安とは、両価性(アンビヴァレンス)の極致である。めま、めするような矛盾感覚の極致である。おおよそ今日の精神科医は、精神分析医ならずとも、‘両価性から不安へ’という心理的通路のあることをみとめている”として、不安と、両価的葛藤との関連性を指摘している。

一方、これまでみてきたように、人格は、それ自体が矛盾を含みだ存在であり、そのように考えると、‘不安’と、人格、特に、“二面性”をもつ人格とが深い関連性をもつことが予想される。

従って、次は、不安検査である C A S との比較検討を行なう。

注1) 「‘不安’と‘人格の二面性’との関係について」1986 心理臨床学研究 vol.3, 2号 83-89 に加筆した。

‘不安’を測定する尺度には、何種類かのものがあり、なかでも Taylor (1953) が作成した“顕在性不安尺度” (Manifest Anxiety Scale, M A S) や Cattell & Scheier (1963) によって作成出版された不安尺度が著名である。ここでは、Cattell の作成した不安尺度を対馬ら (1963) が日本において標準化した‘CAS’を採用する。CASは、 $Q_3^{(-)}$ ：人格統御力欠如、 $C^{(-)}$ ：自我の弱さ、 L ：疑い深さ、 O ：罪悪感、 Q_4 ：欲求不満緊張という5つの因子をもつことを、その特徴としている。^{注1)}

方 法

被験者：京都大学学生 262 名 (男 231, 女 31)

実施手続：まず CAS を実施し、次に TSPS-II を施行した。

結果 及び 考察

S_- を検討する前に、まず、 S_+ について検討を加える。

注1)

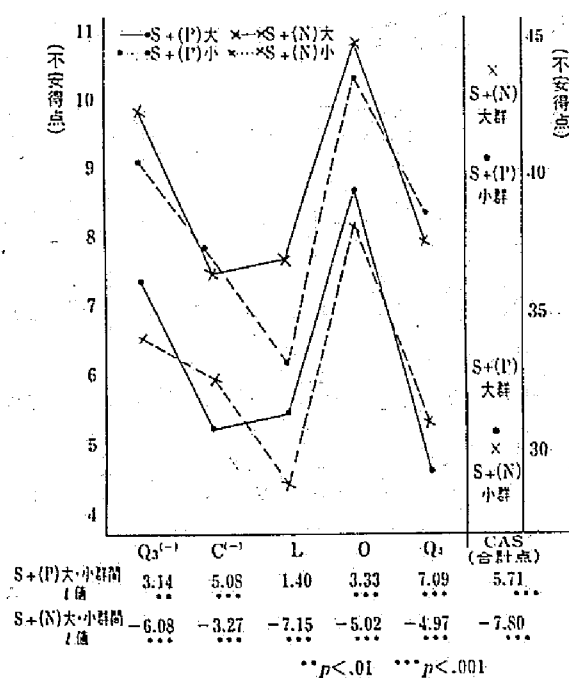
それぞれの因子内に含まれる問いと付表A-4に示す。また、CASとTSPSの各項目との相関を調べたがその結果を付表A-5に示す。(付表A-5は、高い相関をもつもの、 $+$ 、 $-$ の符号だけを示したものである)

1. S_+ と CAS

$S_+(P)$, $S_+(N)$ のそれぞれについて, その数値より, 大・中・小の3群にわけ, 大群と小群の間での比較検討を行なった。そのうち, 自己肯定的とみなされるのは, $S_+(P)$ 大群 (P 項目の合計点が高い) と $S_+(N)$ 小群 (N 項目の合計点が高い) であり, 自己否定的とみなされるのは, $S_+(N)$ 大群と, $S_+(P)$ 小群である。同じように自己肯定的である $S_+(P)$ 大群と $S_+(N)$ 小群であるが, 後者は, ‘悪いとはいえない’ というかたちでの肯定であり, 両者をそれぞれ “積極的自己肯定型” と “消極的自己肯定型” とし

て区別することが可能であろう。自己否定的な2群についても同様である。

さて, Fig. A-10 は, この4群の, CAS の因子別得点及び合計点

Fig. A-10. S_+ と CAS

を示したものである。Fig. A-10の下には、あわせて、 $S+(P)$ の大・小群間、 $S+(N)$ の大・小群間のt検定の結果も示した。

Fig. A-10より明らかのように、自己肯定的である $S+(P)$ 大群と、 $S+(N)$ 小群が、自己否定的である $S+(N)$ 大群と $S+(P)$ 小群より不安が低いという結果であり、これは、従来の知見を裏つけるものである。

ところで、Fig. A-10をみると、同じように自己肯定（あるいは否定）的である2群も、CASの因子別にみていくと、差がみられることがわかる。そして興味深いことは、大群（図中の実線、すなわち、積極的自己肯定・否定）どうし、そして小群（図中の点線、すなわち消極的自己肯定・否定）どうしが、よく似たプロフィールを描いていることである。これは、'P'、'N'にかかわらず、'積極型'と'消極型'という特徴づけが可能なことを示している。^{※1}

※1) CASとTSPSのスコアとの相関係数は付表A-6に示した。

2. S-とCAS^{注1)}

次にS-であるが、
Fig. a-11に、この4
群の、CASの因子別
得点及び合計点を示
して。S-(P)の大・小
群間、S-(N)の大・小
群間のt検定の結果
もあわせて示してあ
る。

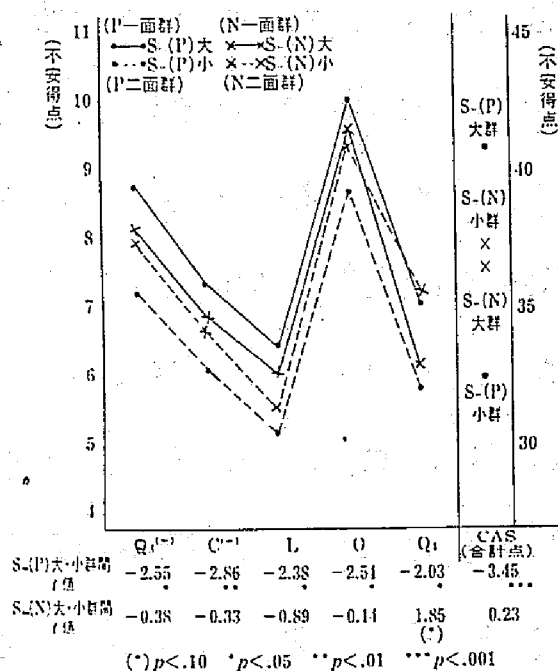


Fig. a-11 S-とCAS

まず'P'については、5因子及び合計点のす
べてにおいて、二面群(均衡群)の方が低不
安という結果になっている。(t検定におい
ても、すべてに有意差がみられている。)

一方、'N'の方では、Q₃⁽¹⁾、C₁⁽¹⁾、L、Oの4因
子で二面群(均衡群)の方が低不安ではある
が、有意差はない。ただ、Q₄(欲求不満緊張)
の因子においては、一面群(不均衡群)の方
が不安が低いという傾向がみられた。

従って、"二面性"については、'P'と'N'と

注1) 他のSPとCASの関係については、付図 a-8, a-9 に示した

で異なった結果が得られたことになる。‘P’においては、二面群と一面群とでは、より差がみられ、“対立や矛盾した特性を両方持ち合わせている”二面群の方が不安が低いという結果である。これは、TSPSが、質問紙法という意識化しうるレベルを扱っているものであるために、自分の内にある対立物を不安なく表出しうる者が、二面性群として抽出されているであろうことと、関連しているように思われる。さらに、二面群（均衡群）というのは、左右の対の同じような位置に○印をつける人たちのことであり、‘うまくバランスをとっている’とみることも可能であろう。バランスをとることによって、安定を得ていることは、容易に了解される。

そして、このことが、‘P’という人格の肯定面において為されているために、い、そう表出（意識化）しやすいか、にのこはないかと考えられる。これに対し、‘N’においては、‘P’のよう単純な結果ではない。Q₄（欲求不満緊張）

において N 二面群の不安が高いことから考えると、 N 二面群（均衡群）は、その内に葛藤を含みそれゆえ不安にさせられていることが推測される。

3. 群別比較及び新スコアによる検討

$S_+ \times S_-$ によって 4 群にわけた。各群に含まれる人数を、Table a-9

Table a-9

$S_+ \times S_-$ による 4 つの型

$S_- \backslash S_+$	S_+	S_+ 大群	S_+ 小群
S_- 大群		大一面型 (47)	小一面型 (82)
S_- 小群		両拡型 (71)	両貧型 (62)

() 内は、その型に含まれる人数

に示す。注1

Table a-10, a-11 は、

型別に、CAS 各因子

得点の平均値を示したものである。（低い順に並べてある）いすれについても分散分析を行ない、 F 値もあわせて示した。

まず、'P' では、Table a-10 に示されるように、'両拡型' がすべての因子及び全体で低い不安を示した。1, 2. で明らかにされたように、 $S_+(P)$ 大群と、 $S_-(P)$ 小群はいずれも低不安であり、したがって、両者が結びついて'両拡型' が最も低い不安を示すことは、当然の結果であろう。さて、だとすれば、中間

注1) CAS との比較においては、群の名称が異なっている。（概念的には同じものをさす。）

太・均衡群を両拡型、太・不均衡群を大一面型、細・不均衡群を小一面型、細・均衡群を両貧型としている。

Table a-10

型別にみたCAS平均点 (POSITIVE)

	MEAN(SD)	MEAN(SD)	MEAN(SD)	MEAN(SD)	F値
Q ₁ (¹) 人格統御力欠 如	両 拡 型 7.0(3.7)	大 一 面 型 8.5(3.2)	両 貧 型 8.7(4.0)	小 一 面 型 8.7(3.9)	3.40*
C(¹) 自我の弱さ	両 拡 型 5.5(3.1)	大 一 面 型 6.0(3.3)	両 貧 型 7.2(3.0)	小 一 面 型 7.5(2.8)	6.94***
L うたがい深さ	両 拡 型 5.0(3.4)	両 貧 型 5.9(3.3)	大 一 面 型 6.3(3.5)	小 一 面 型 6.4(3.2)	2.66*
O 罪 惡 感	両 拡 型 8.4(3.4)	大 一 面 型 9.3(3.5)	両 貧 型 9.7(3.3)	小 一 面 型 10.1(3.2)	3.39*
Q ₄ 欲求不満緊張	両 拡 型 5.0(3.5)	大 一 面 型 5.0(2.8)	両 貧 型 7.6(3.6)	小 一 面 型 7.9(3.6)	13.98***
CAS 合 計 点	両 拡 型 30.3(12.3)	大 一 面 型 35.2(11.4)	両 貧 型 39.0(12.1)	小 一 面 型 40.9(13.0)	10.41***

* $p < .05$ ** $p < .01$ *** $p < .001$

に位置する‘大
一面型’と‘兩
貧型’とでは
どちらが低不
安であろうか。
その両者の間
でも検定を行
なしてみると、
Q₃(¹), L, O

及び合計点においては差がなか、だが、C(¹)
(自我の弱さ)及びQ₄(欲求不満緊張)で
は、‘兩貧型’の方が有意に不安が高かった。
‘大一面型’は、自我の強さによって、ある
程度不安をカバーしているのかもしれない。

次に、‘N’においては、Table a-11に示される
ように、‘兩貧型’が、すべての因子及び全体
で不安が低かった。‘両拡型’は全体に不安が
高く、特にQ₄(欲求不満緊張)の因子で高不
安を示し、他の3つの型と有意差がみられた。
逆に、C(¹)(自我の弱さ)の因子では、‘兩

Table a-11

型別にみたCAS平均点 (NEGATIVE)

	MEAN(SD)	MEAN(SD)	MEAN(SD)	MEAN(SD)	F値
Q ₁ (⁻) 人格統御力欠如	両 貧 型 6.4(3.3)	小一面型 7.6(3.8)	大一面型 9.1(3.5)	両 拡 型 9.2(3.9)	8.54***
C(⁻) 自我の弱さ	両 貧 型 5.7(3.3)	小一面型 6.6(3.1)	両 拡 型 6.9(2.8)	大一面型 7.2(3.2)	2.55(*)
L うたがい深さ	両 貧 型 4.1(2.8)	小一面型 4.9(2.7)	両 拡 型 6.8(3.3)	大一面型 7.2(3.4)	15.07***
O 罪 惡 感	両 貧 型 8.0(3.2)	小一面型 8.9(3.6)	両 拡 型 10.1(3.0)	大一面型 10.2(3.5)	6.41***
Q ₄ 欲求不満緊張	両 貧 型 5.4(3.3)	小一面型 5.9(3.5)	大一面型 6.6(3.4)	両 拡 型 7.9(4.0)	6.16***
CAS 合 計 点	両 貧 型 29.5(10.5)	小一面型 33.9(12.4)	大一面型 40.1(13.3)	両 拡 型 40.9(12.3)	12.09***

(*) $p < .10$ * $p < .05$ ** $p < .01$ *** $p < .001$

‘質型’以外の
3つの型の間
に差がみられ
なかつた。

‘N’における
‘両拡型’は、
‘P’とは異なり、
欲求不満緊張
からくる不安

が高いが、自我の強さによつて、ある程度不安をおさえていると考えられる。

さらに、Fig. a-12は、新スコアによる分析を示している。SPとSNとを対照的な結果

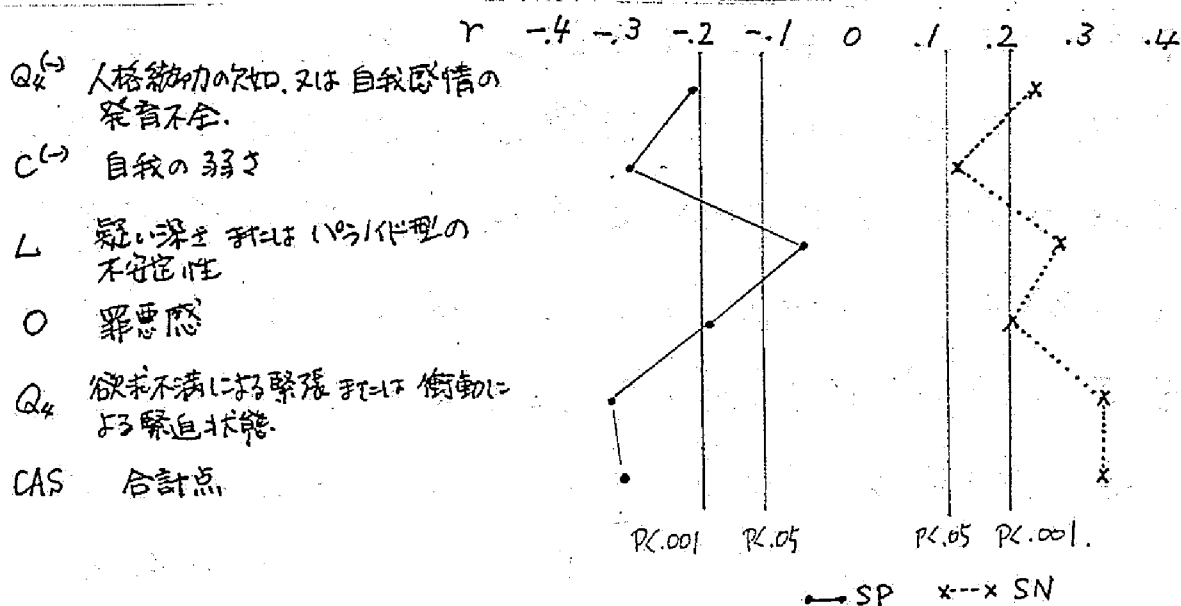


Fig. a-12 SP, SNとCASの相関係数.

となつた。

総合的考察

本研究においても、高不安を示す者は自己否定的であるという結果が得られた。ただし、'自己否定'の中には、'よいとはいえない'という消極的なものも含まれており、積極的自己否定群と、消極的自己否定群とでは、不安を構成する因子に差があることが認められた。すなわち、前者は、パラノイド型不安、人格統御力の欠如、罪悪感といった因子の不安が高く、後者は、自我の弱さからくる不安や欲求不満緊張からくる不安が高かった。

次に、不安と葛藤とは、きり離せない関係にあるわけだが、人格の肯定的な側面における自己の"二面性"を意識化している者は、かえって不安が低いということが明らかにされた。'葛藤すなわち不安'というわけではなく、自他ともに受け入れやすい形での'バランス'として、内なる対立をうけ入れるならば、むしろ不安は低いといえるだろう。

一方、人格の否定的な側面においては、様相が全く異なる。この側面における自己の“二面性”も意識している者は、全体的に不安が高く、なかでも欲求不満緊張からくる不安が高かった。前述したように、MMPIとの比較では、N二面群は、Hs(心気症)尺度や、Hy(ヒステリー)尺度に高得点であり、この群が、心理的圧力への耐性と処理能力が低い傾向にあることが明らかにされている。従って、自己の内の対立に対して、それが受け入れ難いものとして存在する場合、不安が高くなり、場合によっては、それが身体化される可能性もあることが予想される。

④ MAT, CPI, WJ との比較

ここでは、“二面性”と関連するのではないかと予想される概念を測定するテストとの比較を行なう。このために使用されるテストは、MAT^{注1}、CPI の Fx 尺度^{注2}、WJ^{注3}である。

まず、MAT はあいまいさに対する耐性 (Ambiguity Tolerance) を測定するものである。TSPS で抽出される二面的な群は、対立する性格特性を人格内に共在させており、その状況は A か B かで決めることのできないあいまいな状況であると考えられる。従って、二面的なものは、Ambiguity Tolerance が高いと予想される。また、二面的な群は、上述したような状況を容認しうるような柔軟性を有していると考えられる。そこで、CPI (The California Psychological Inventory) の中の、

注1) MAT (Measurement of Ambiguity Tolerance の略)

Norton (1975) は、Frenkel-Brunswik の見出た MAT (Ambiguity Tolerance (あいまいさに対する耐性)) を測定するために、質問紙 MAT-50 を作成した。小林 (1980) は、この MAT-50 について、日本での信頼性・妥当性を検討している。今回使用するのは、この小林 (1980) の MAT-50 (日本版) である。

注2) 注3) 次ページへ。

注2) CPI・F×R度

CPIは、The California Psychological Inventoryの略で、主に、Gough(1957)によって発展させられたものである。

その中のF×R度(Flexibility)は Megargee(1972)の"CPI Handbook"によれば、「F×R度は、柔軟性にとり、適応的で、思考、行動、気分においてかたよのない人格を抽出する」となっている。さて、我々ら(1967)は、このCPIを日本語に訳し、CPI日本版を作成した。これについて西山(1973)は、因子分析を行ない、尺度数をへらして、純化を行なった。今回使用するものは、その中のF×R度15項目である。以後CPIと略す。テストは巻末に付した。

注3) WJ

Luchins(1946)は算術問題解決における構えの研究の際、びんと水を使う問題を作成した。本研究では、それをもとに、百名(1960)が修正して使用したW-Jを使用する。

	使用するマス			(先にいれる数)
	(A)	(B)	(C)	
①	17	127	3	104
②	14	163	25	99
③	12	101	7	75
④	17	44	11	5
⑤	8	41	6	21
⑥	21	59	6	26
⑦	23	49	3	20
⑧	15	39	3	18
⑨	28	76	3	25
⑩	18	48	4	22
⑪	14	36	8	6

テスト時間は問1～3までが1題あたり2分、4～11までは1題あたり1分30秒である。
(A)(B)(C)がマスの大文字で、そのマスを使って右にかいてある水の量とくみだすのが課題である。マスは何回使ってもよく、また使わないマスがあってもよい。またこれは代数学の問題ではないことをいれておく。さて、上記の問題のうち、①～④まではB-A-2Cでとける。⑦⑧はB-A-2Cでもとけるがもっと簡単にA±Cでもとける。⑨はA-Cのみ、⑩A+C、⑪A-Cである。Rigidity of measureは④⑤⑥の3題のうち2題B-A-2Cで解いたものをSetができていたものとみなす。⑦⑧とA±Cで、⑨とA-C、⑩⑪とA±Cで解いた場合2点、②～⑪でB-A-2C or A±Cでもない解法をしたものに1点を与え、全例として得点の低いものがRigid、高いものがflexibleと考えられる。

柔軟性 (Flexibility) を測定する F_x 尺度をとりあげ、TSPS との関連性を探る。最後に、WJ は、算術問題における構えの研究から、“機能的固定性 (Rigidity)” と、それに対立する“柔軟性 (Flexibility)” を導くもので、CPI の柔軟性が人格的なものをあらわすのに対して、WJ の方は、問題解決の際の“構え”にいかにとらわれたいかという柔軟性である。我々の内には、^{注1} “人柄は一言でいい表わしうる”という、一種の‘構え’が存在してはいないだろうか。二面的な群は、そういった‘構え’にあまりとらわれたい者と推測され、WJ でも、Flexible であると予想される。

方 法 ^{注1}

TSPS-II と MAT (大学生 101 名, 男 57 女 44), CPI (大学生 113 名, 男 66, 女 47) WJ (大学生 103 名, 男 61, 女 42) を実施した。

注1) これらのテストとの比較検討は、金沢美術工芸大学、小林哲郎 と共同で行なわれたものである。

結果 及び 考察

Table A-12 は, MAT, CPI, WJ と, TSPS-II のスコアとの相関表である。WJ は正規性が疑われたので, 順位相関をとった。

Table A-12

スコアと MAT CPI WJ との相関
 $n=101$ $n=113$ $n=103$

	MAT	CPI	WJ
S+(P)	+0.0880	-0.1460	0.0852
S+(N)	+0.0616	0.0184	-0.0270
S-(P)	+0.1037	-0.0471	-0.1439*
S-(N)	-0.0546	-0.0850	-0.1583*
S--(P)	-0.0816	-0.1297	-0.0906
S--(N)	+0.1190	-0.0827	0.0324
S(P-N)	+0.0137	-0.1390	0.0830

* $P < 0.05$

WJ は 順位相関

MAT 高得点 ... Tolerance 高い → (実際の得点は、低得点 - High
 CPI " ... flexible Tolerance であるが便宜上
 WJ " ... flexible. 符号を逆転させて記してある)

結果は, WJ をのぞいて有意な相関は得られなかった。WJ では, 'P', 'N' とともに, S-小群 (二面群, 均衡群) が, WJ でいう flexible

であるという結果で、これは予想された結果と一致するものである。なお、付表 A-7 に、MAT, CPI, WJ と TSPS-II の項目との相関について、符号で示した。これによると、MAT と CPI の共通性が認められるが、WJ は両者とはかなり異なったパーソナリティーをひき出すことがわかる。^{注1}

TSPS-II の S- のスコアは、WJ の flexibility (課題解決の際、どれほど“構え”にとらわれないか) と関連しており、CPI の flexibility (柔軟性に富み、適応的で、思考、行動、気分においてかたさのない人柄の特性) とは、相関をもたないといえよう。

さて、MAT と TSPS-II とも有意な相関はなか、だが、Norton (1975) は、MAT を 8 個のサブカテゴリーに分類しているの、今度は、サブカテゴリー毎に比較を行なった。

注1) CPI は特に思考的外向性、のんき、非活動性を示す項目に正相関を示した。

MAT は それに加えて、非主導性を示す項目に正相関を示した。

WJ は、情緒的安定性には、“理論的”“実際の”“世評好き”“太っ腹な”“おど”他とはちがう項目と正相関を示している。

結果は Table a-13 (次ページ) に示す。なお、各サブカテゴリーに含まれる問いは、付表 a-8 に示してある。S- では、S-(N) が、Art-forms と負の相関の傾向があった。すなわち、N = 面群 (均衡群) は、Art forms (付表 a-8, その4 参照) における Ambiguity Tolerance が高いといえるのである。

なお、Table a-14 は、MAT のサブ・カテゴリー間の相関を示したものであるが、これを見ると、Art Forms のカテゴリーが他のカテゴリーとほとんど有意な相関をもっており、異質的なものであることが示唆される。

次に、群別比較を行なった。

MAT, CPI, WJ との比較の際の、各群の人数を、Fig. a-13, a-14 に示す。

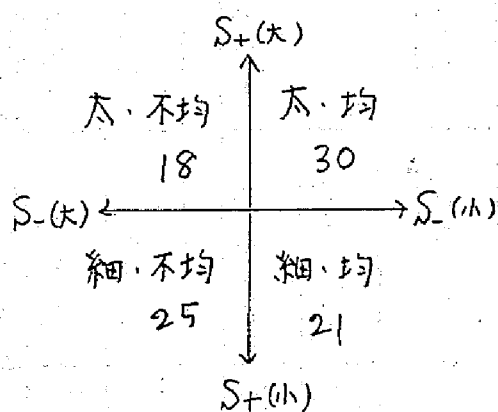


Fig. a-13. MAT, CPI, WJ における各群の人数
(POSITIVE)

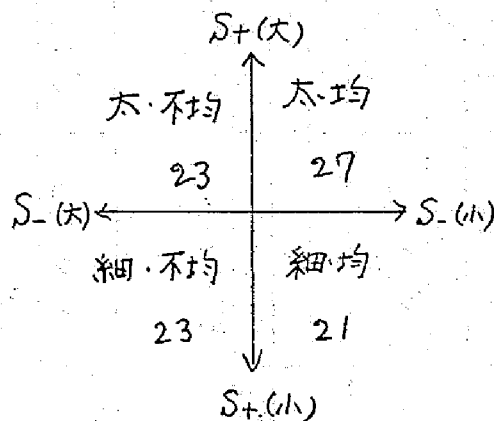


Fig. a-14.
(NEGATIVE)

Table A-13

MAT (Sub-Category) と スコア との 相関

OK) $P < 0.10$
 * $P < 0.05$
 ** $P < 0.01$

⑤ 11月15日高得点 Tolerance 高
 $n = 43$

	Philosophy	Interpersonal Communication	Public Image	Job Related	Problem Solving	Social	Habit	Art Forms
S+(P)	0.1014	-0.1754	0.1285	0.2641 (*)	0.0104	-0.0381	-0.1804	0.1352
S+(N)	0.1574	-0.1789	-0.2935 (*)	-0.1367	0.1024	-0.2898 (*)	0.0019	0.2764 (*)
S-(P)	0.0647	-0.0588	-0.0905	-0.1511	0.0888	0.0247	0.1640	-0.2157
S-(N)	-0.1300	-0.1918	-0.1184	-0.1700	0.0542	-0.0059	0.1003	-0.2973 (*)
S--(P)	0.1944	0.1977	0.0210	0.1196	0.1735	0.0597	-0.2179	0.0026
S--(N)	0.3369 *	-0.0828	0.2879 (*)	0.3709 *	0.3914 **	0.2297	0.2418	0.1279
S(P-N)	-0.0662	0.0220	0.4050 **	0.3697 *	-0.0924	0.2537	-0.1618	-0.1543

Interpersonal
Communication

Table A-14

< カチゴリ - 間 相関 >

Art
Forms

Social

Problem
SolvingJob
related

Public image

Interpersonal
Communication

Philosophy

Habit

Art
Forms

	Philosophy	Interpersonal Communication	Public Image	Job Related	Problem Solving	Social	Habit	Art Forms
Philosophy	—	x	x	x	0.3133	0.2476	0.2408	(0.1644)
Interpersonal Comm.	x	—	(0.1778)	(0.1709)	x	x	(0.1605)	x
Public Image	x	(0.1778)	—	0.3354	(0.1603)	0.3596	0.3102	x
Job Related	x	(0.1709)	0.3354	—	(0.1810)	0.3657	0.2606	x
Problem Solv.	0.3133	x	(0.1603)	(0.1810)	—	0.2333	0.3860	x
Social	0.2476	x	0.3596	0.3657	0.2333	—	0.3387	x
Habit	0.2408	(0.1605)	0.3102	0.2606	0.3860	0.3387	—	x
Art Forms	(0.1644)	x	x	x	x	x	x	—

() は、相関の絶対値

x は、有意な相関がなかった

x は、有意な相関がなかった

x は、有意な相関がなかった

x は、有意な相関がなかった

x は、有意な相関がなかった

x は、有意な相関がなかった

x は、有意な相関がなかった

Table A-15 POSITIVE

	MEAN (SD)	MEAN (SD)	MEAN (SD)	MEAN (SD)	F	(*) P<0.10 * P<0.05 ** P<0.01
High MAT	太均	細均	太不均衡	細不均衡	0.241	
	262.3 (21.12)	264.4 (21.12)	266.1 (28.99)	267.2 (20.75)		
High CPI	細不均衡	細均	太均	太不均衡	2.008	
	8.80 (2.23)	8.57 (2.34)	8.10 (2.46)	7.08 (2.32)	P=0.117 n.s.	
High WJ	太均	細均	太不均衡	細不均衡	0.630	
	5.60 (3.69)	5.14 (3.55)	4.44 (3.85)	4.40 (3.65)		

Table A-16 NEGATIVE

	MEAN (SD)	MEAN (SD)	MEAN (SD)	MEAN (SD)	F	(*) P<0.10 * P<0.05 ** P<0.01
High MAT	太均	細均	太不均	細不均	0.742	
	259.8 (23.68)	265.2 (18.92)	266.0 (24.72)	269.04 (21.88)		
High CPI	太均	細不均	太不均	細均	0.735	
	8.55 (2.31)	8.39 (2.22)	8.17 (2.55)	7.55 (2.71)		
High WJ	太均	細均	細不均	太不均	3.480	
	6.37 (3.18)	5.71 (3.80)	3.83 (3.35)	3.74 (3.78)	*	

Table a-15, a-16 は、群別に、MAT, CPI, WJ 各尺度得点の平均値を示したものである。

'P' ではいずれのテストにおいても、分散分析の結果、有意な値は得られなかつた。

'N' では、MAT, CPI のいずれにおいても、二面性群が最も高得点 (flexible) であるが、有意ではない。WJ では、二面性群が最も flexible であるという結果を得た。(ただし、"細・均衡群" との間には有意差はない。)

さらに、Table a-17 は、新スコアと各スコアとの相関を求めたものである。有意な相関が得られたのは、SP と WJ のみ、である。

Table a-17. SP, SN と MAT, CPI, WJ との相関

	MAT	CPI	WJ
SP	-0.16	-0.09	0.21 *
SN	-0.06	0.02	0.15

* $p < 0.05$

⑤ 同一性次元尺度との比較^{注1}

内山(1985)は、TSPSを使って、同一性次元尺度及び独断主義尺度の比較を行っている。ここでは、その結果を紹介する。

“TSPSで測定される二面性とは、どういうものなのか”という観点から、内山(1985)は、“それは、青年期に揺らぐ自我同一性の感覚と、ある意味で同じ側面を測っているのではないか”という立場にたって、TSPSと、自我同一性次元尺度との相関をとっている。なお、自我同一性次元尺度(加藤1983)は、自我同一性の‘統合’と‘拡散’を両極とする一次元上に“アイデンティティのまどまりの程度”を測定する尺度である。この得点と同一性地位との対応関係を明らかにした研究(加藤・1983)にもとづいて、内山は、同一性地位を反映するように、同一性次元得点を3区分して、H群・M群・L群とした。この時、H群は、同一性達成及び権威受容と、M群はモラトリアムと、そしてL群は同一性拡散と

注1) 内山の作成したTSPS、及び、同一性次元尺度、さらに、次にのべる独断主義尺度と巻末に付す。

対応するものと考えられている。

被験者は、群馬県の公立高校生 164名（男 78, 女 86）である。

結果は、Fig. A-15 ~ A-18 に示される。（次ページ）

まず、 S_+ については、群間の差は 1% で有意であった。そして、 H 群は、 H 群やまたし群に較べて高得点であった。つまり、同一性次元の高得点群は、他群よりも自己肯定的という結果になっている。

次に、 S_- については、群間の差は 5% で有意であった。そして、 M 群は、 H 群やまたし群に較べて低得点であった。つまり、同一性次元の中得点群は、他群よりも二面的であるという結果である。

こうして結果より、内山（1985）は、以下のように結論づけている。

“以上の結果より、アイデンティティのまともりが高ければ一面的であり、低ければ二面的である、といった相関関係は必ずしもないことが明らかになった。そしてこのことをし

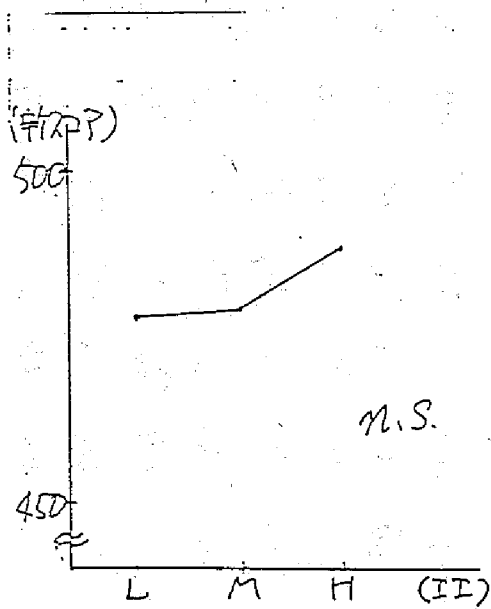


Fig. a-15 IIと新入者の関係

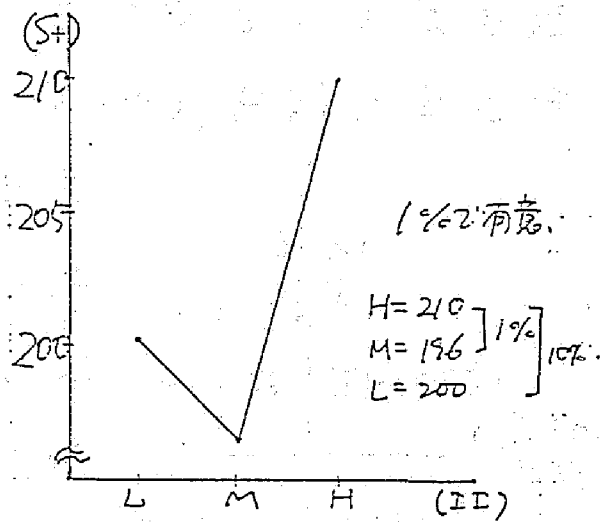


Fig. a-16 IIとS+の関係

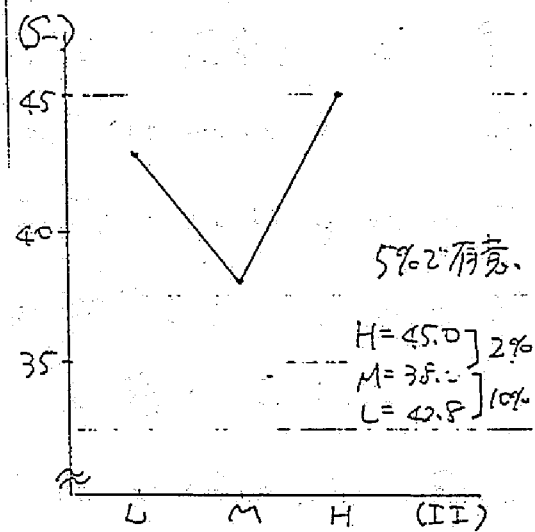


Fig. a-17 IIとS-の関係

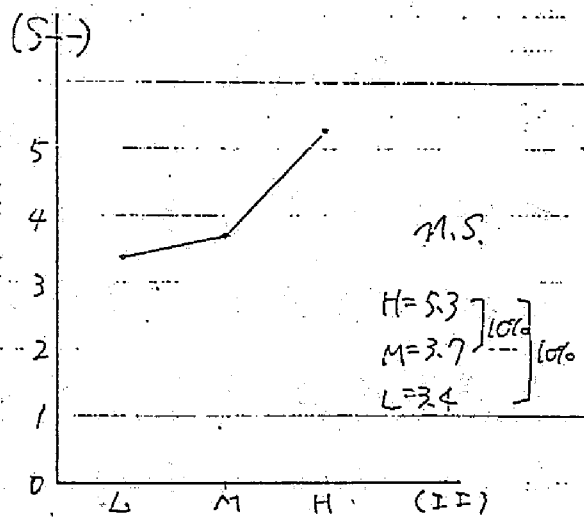


Fig. a-18 IIとS-の関係

群に注目し、また同一性地位との対応を考慮すると、次のように解釈できる。すなわち、同一性次元尺度を S_+ および S_- の二次元で分析してみると (Fig. A-19), H 群は自己肯定的な一面型, M 群は自己否定的な二面型, L 群は自己否定的な一面型となることから、同一性地位を決定する 2 契機、すなわち“危機”と“自己投入”について、“危機”

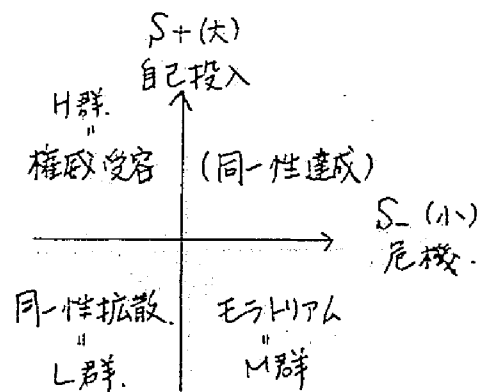


Fig. A-19

を経たかどうかは S_- に、また“自己投入”の経験があるかどうかは S_+ に反映されていると考えられる。つまり、ここでは実証されてはいないが、 S_+ , S_- はそれぞれ“自己投入”“危機”に対応しうるスコアであることが推測された。”

内山 (1985) の結果からみると、 S_+ , S_- の双方で、M 群が低く、V 字型のグラフになっており、このことは、同一性次元尺度 (II)

とTSPSがパラレルな関係ではないことを示すのであろう。

なお、Fig. A-19において、内山は、L群を第Ⅳ象限にあてはめているが、結果からみると、むしろ中心的に近く位置するように思われる。そこで、同一性次

元尺度の、拡散→モラトリアム→達成という動きを、二面性(TSPS)

の平面にのせると、Fig. A-20のように、中心から右下へおり、次に、左上

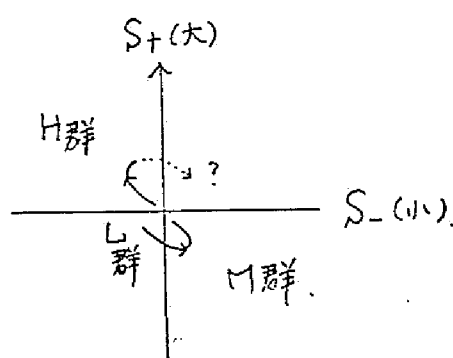


Fig. A-20

自己同一性とTSPS

へといくような、円運動的なものになるのかもしれない。そして、さらに進めば、次は、第Ⅰ象限へといくのかかもしれない。(従って、“二面性”ということ考えると、I-Iではむしろ、あともどりの動きを示すといえる)

新スコアとI-Iが有意な相関を示さなか、ということとは、両者の測っている次元が独立だということの意味する。筆者の考えでは、

I は、一次元であるので、真の意味での同一性達成とでもいったものの（権威受容ではなくて）を、その中でとらえることは必ずかしいのではないかと思われる。

⑥ 独断主義尺度との比較

内山(1985)は、さらに、独断主義尺度との比較をおこなっている。

内山(1985)は、“‘TSPSで測定される二面性とはどういうものなのか’”という観点から、それは、認知スタイルの違いにも関連しているのではないかと考える。“たとえば、自分の信念と非信念というものを仮定した場合、信念を独断的に維持して非信念を排斥するような傾向を独断主義と呼ぶならば、二面的な人よりも一面的な人において、より独断的な傾向がみられるのではないかと”いう仮説のもとに、TSPSと、独断主義尺度^{注1}とが実施された。

注1) 巻末に添付を付す。

内山(1985)は、以下の2スピアを仮定している。それは、Rokeach(1960)の Dogmatism Scale E版の日本語版作成が、必ずしも達成されたとはいえなかったためである。

DDW…Rokeachが尺度化に際して、認知構造(具体的内容より)を反映するよう特に意図して作成した項目の内、今日の状況においてもある程度妥当性を有すると思われる2項目。

DD1…“非常に賛成”から“非常に反対”までの評定点について、賛成、反対という評価の実質に関係なく、評価の程度の違いによって、“非常に”の1,6, “かなりの”2,5, “少し”の3,4をおおの4,2,0点として、全25項目について再得点化した値。これは「確固とした判断様式」の尺度と考えられる。

被験者は、⑤と同じく、群馬県の公立高校生
164名(男78, 女86)である。

結果は、Fig. A-21 から A-30 に示される。
まず、DDWについては、“独断的である
ほど一面的である”という相関がみられた。

次に、DD1については、“判断が確固と
しているほど、自己肯定的かつ一面的かつ明
確外向的である”という相関がみられ、また
アイデンティティのまとまりの程度も高い傾
向が示されている。

これらの結果より、内山(1985)は、以下
のように結論づけている。

“DD1は、独断主義とは基本的に別個のス
コアと考えなければならないが、DDWと、
DD1とは類似した特徴を示しており、独断
的なることと、判断が確固としていることと
は、互いに区別しにくい性質のものであると
考えられる。そして両者から‘一面的な人
においては、認知スタイルあるいは判断様式が
明確・独断的である’ということが、示唆さ

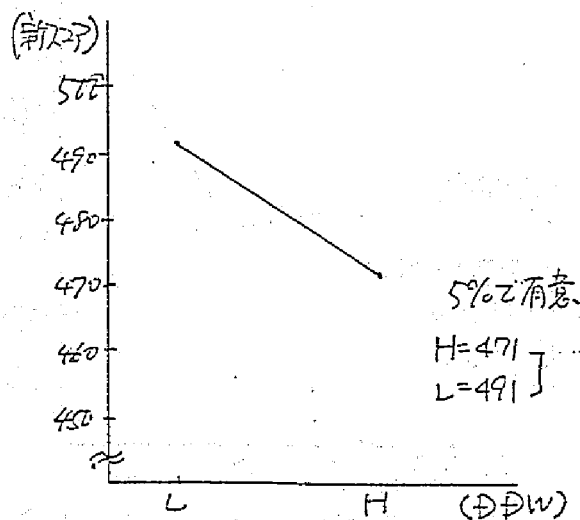


Fig a-21 DDWと新スアの相関

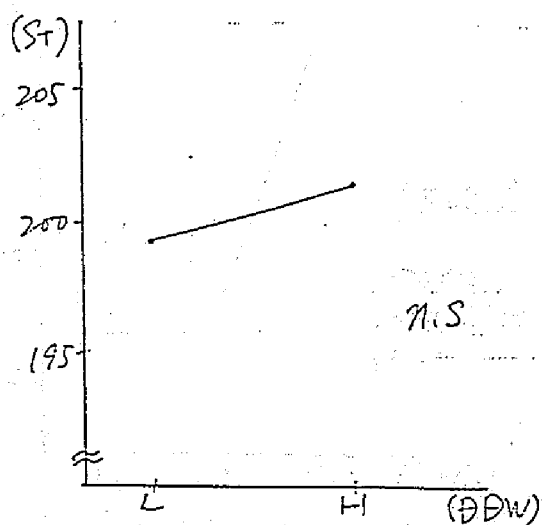


Fig a-22 DDWとStの関係

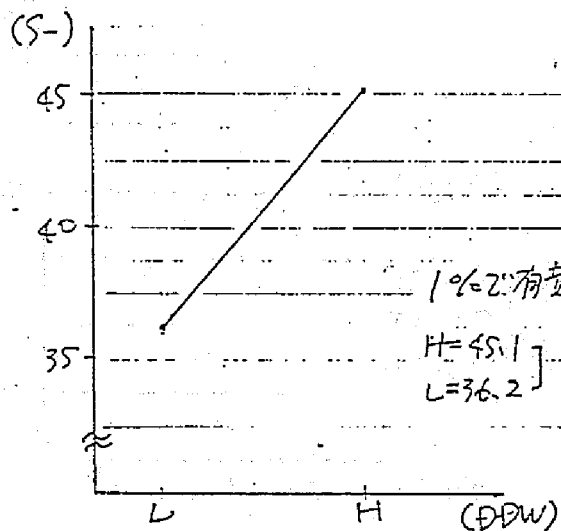


Fig a-23 DDWとS-の相関

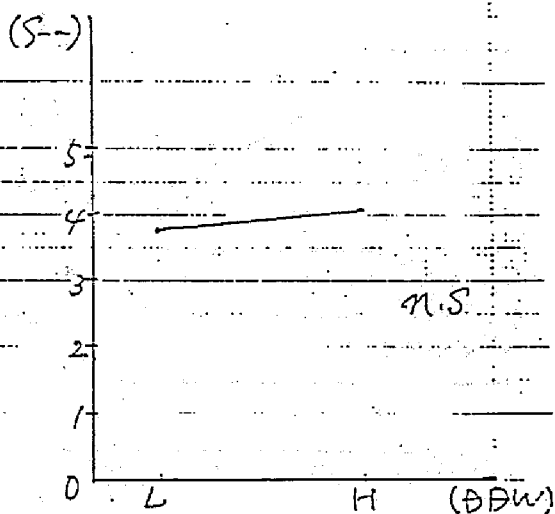


Fig a-24 DDWとS-の関係

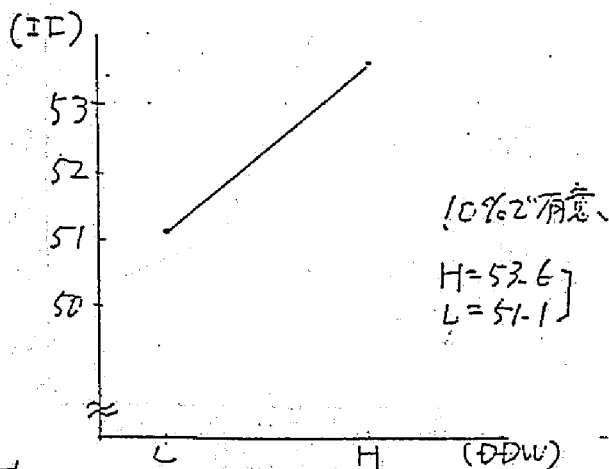


Fig a-25 DDWとIIの相関

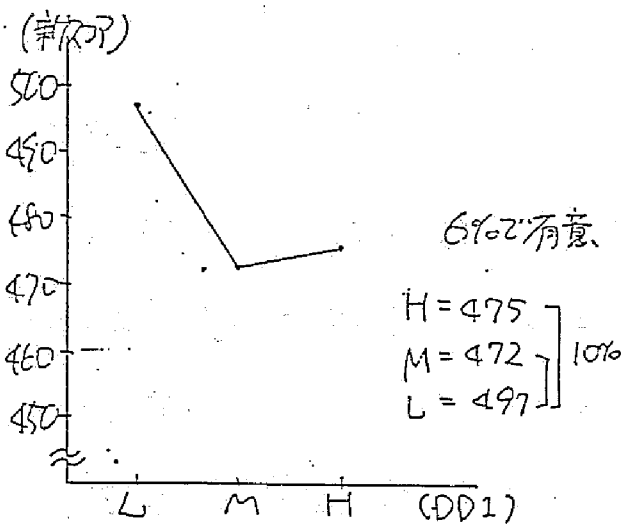


Fig. a-26 DD1と新入IPの相関

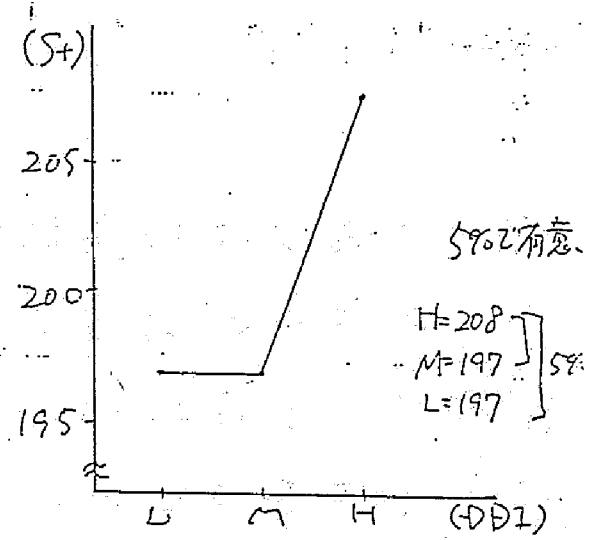


Fig. a-27 DD1とS+αの相関

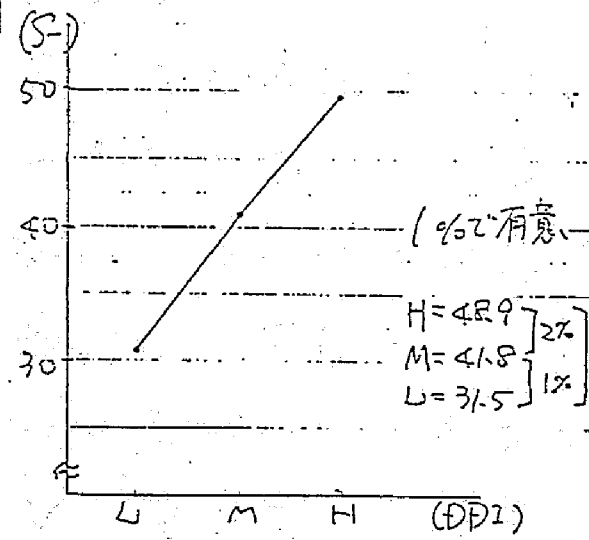


Fig. a-28 DD1とS-αの相関

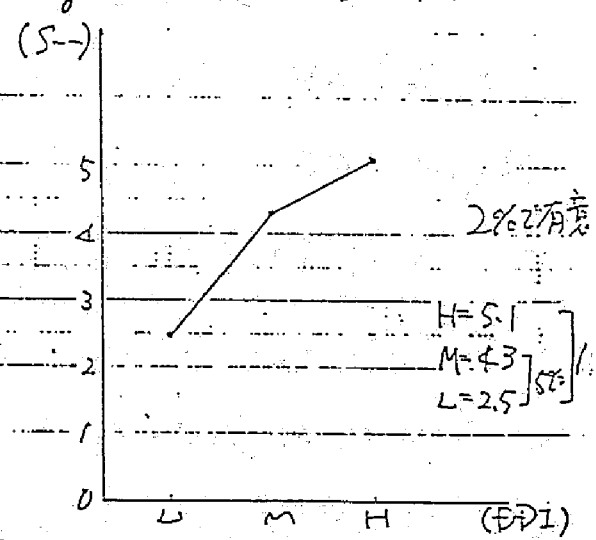


Fig. a-29 DD1とS--αの相関

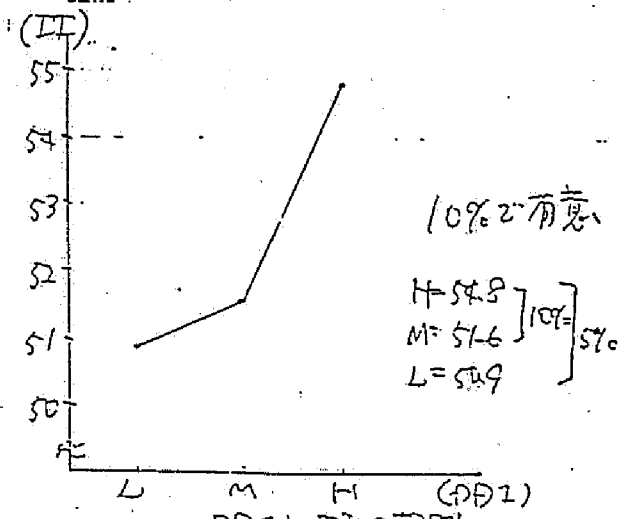


Fig. a-30 DD1とILの相関

れた。”

かなり、はっきりした結果が出ており、興味深く思われる。ただ、DD1については、“つけ方”についてのスケールなので、“質問に対する反応の仕方”というところで、TS、PSと相関がみられた可能性も考えられる。

S-でみる時は、Tにしかに、DD1 High群は、一面的であるが、S+でみると、DD1 High群は、S+得点が高く、厳密な意味での、二面群が、すなわち、DD1 low群とは、必ずしもいえない。(新スコアとの相関においてもV字型である。)筆者の考えでは、DD1は、むしろ、Ambiguityなどに関連しているように思われる。

⑦ 気質尺度との比較

若林 (1982) は, Kretschmer (1921 / 1955) の 3 気質類型を判定しうる, VERAC-Personality Inventory, (以下, VPI と略^{注1}) を作成している。

若林 (1985, 1986) は, VPI によって得られる気質類型のうち, 分裂性気質型と循環性気質型と, TSPS との比較を行っているので, その結果を述べる。

被験者は, 大学生 474 名 (男 272, 女 202) である。VPI と TSPS が, この順序で, 一週間程度の間隔をおいて実施されている。

TSPS の二面性スコアとしては, S_- が使われており, Positive 項目における S_- を Sp_- , Negative 項目における S_- を, Sn_- としている。

Table a-18 は, 各類型別には, Sp_- , Sn_- の平均と標準偏差を求めたものを示しており,

Table a-19 は, 類型間での t -検定の結果を示したものである。(Table a-20 についても同様である。)

注1)

VPI は, 因子論的に確認されている 120 項目から構成された質問紙法性格検査であり, 循環性気質型, 分裂性気質型, 粘着性気質型の3つの類型にもとづく分類が可能である。

a-18
Table 気質類型別にみた TSPS の二面性得点
の平均とSD

		男 性			女 性		
		N	平均	SD	N	平均	SD
分裂性	Sp-	74	42.0	6.14	61	42.3	5.61
分裂性	Sn-	74	48.7	7.34	61	45.7	6.95
循環性	Sp-	69	65.2	7.69	48	64.4	8.93
循環性	Sn-	69	87.8	9.46	48	78.1	10.23
その他	Sp-	129	46.4	5.16	93	46.6	6.92
その他	Sn-	129	53.8	6.62	93	50.1	7.30

a-19
Table 二面性得点の類型間での t 検定値

		男 性	女 性
分裂性 Sp-	vs 循環性 Sp-	19.706*	14.832*
分裂性 Sn-	vs 循環性 Sn-	27.324*	18.610*
分裂性 Sp-	vs その他 Sp-	5.422*	4.030*
分裂性 Sn-	vs その他 Sn-	5.050*	3.678*

* $p < .01$

Table a-20
t 検定表

	男 性	女 性
循環性 Sp- vs 分裂性 Sp-	$t_0 = 19.706^{**}$	$t_0 = 14.832^{**}$
循環性 Sn- vs 分裂性 Sn-	$t_0 = 27.324^{**}$	$t_0 = 18.610^{**}$
循環性 Sp- vs その他 Sp-	$t_0 = 18.112^{**}$	$t_0 = 11.954^{**}$
循環性 Sn- vs その他 Sn-	$t_0 = 26.398^{**}$	$t_0 = 16.677^{**}$

結果をみると、分裂性気質型の人々のスコアが他の類型に比べて有意に低く（つまり二面的であり）、循環性気質型の人々のスコアは、他の類型と比べて有意に高い（つまり一面的である）ということになっている。

若林（1986）は、この結果について、Kretschmer が分裂性気質について述べている「敏感であるとともに冷淡である」という一見反対

の傾向であるような特徴の共存を裏づけるものとしている。

一方、循環性気質は両面的な特徴を多分に含んでいるが、同時に、Klaus (1977) が指摘するように、その基本的特徴として、“両義性許容不能 (Ambiguitäts-intoleranz)” があげられる。TSPSの結果は、Klaus を支持するものであり、循環性気質型は、自己のパーソナリティ特徴について、二者択一的（一面的）な認知をしていると結論づけられている。

いずれにしても、TSPSのスコアは、二類型間で大きく異なっており、‘二面性’が、Kretschmer の唱える気質類型と、深い関連性をもつことが示唆されよう。

6. 被験者の特性による分析^{注1}

① 男女差

TSPS のスコアについて、男女差は認められるだろうか。

Table. b-1 は、713 名（男 374, 女 339）に対して、TSPS を実施した結果より、各スコアの平均、標準偏差を求め、t-検定を行なった結果を示したものである。

Table b-1. スコア別男女差

	男 MEAN (SD)	女 MEAN (SD)	t or t'	
S+(P)	204.9 (23.64)	206.5 (24.46)	-0.93	N=374(男) 339(女)
S+(N)	186.2 (28.64)	182.7 (25.75)	1.78 (*)	
				* P<.05 ** P<.01
S-(P)	42.3 (13.42)	44.4 (13.45)	-2.08 *	*** P<.001
S-(N)	45.7 (14.48)	46.9 (13.91)	-1.15	
				有意差検定は two-sided.
S--(P)	2.5 (4.48)	2.8 (4.23)	-0.76	F-test で分散に有意差のあるものについては コランコックスの法
S--(N)	1.5 (4.16)	3.2 (4.71)	-4.93 **	
S(P-N)	18.7 (32.40)	23.9 (27.56)	-2.32 *	
N=374(男) 339(女)				
(*) P<.10 * P<.05 ** P<.01				
有意差検定は two-sided. F-test で分散に有意差のあるものは				
コランコックスの法				

注1) 藤原(1981)においては、大学別、学部、学科別の分析も行なったが、ここでは、省略した。

7 スコアのうち、有意差がみられたのは、3
スコア ($S-(P)$, $S-(N)$, $S(P-N)$) であり、
傾向がみられたのは、 $S+(N)$ である。

つまり、男性の方が、'P'において、二面的
であり、'N'における $S-$ が小さく、自己否定
的であった。

$S-$ は、その大・小群間において、“男性的
—女性的”といった対立がみられていたのだ
が、^注 実際の男性・女性においては、それが逆
転した結果になっている。

二面性スコアについては、 $S-$ によるもの
だが、'P'において、男性の方が二面的、'N'
においては、有意差なしという結果である。

②年令差

内山(1985)は、高校生164名(男78, 女86)に対して、TSPSを実施している。

ここでは、筆者の実施した、大学生に対する結果と比較して、その内容を述べる。

内山(1985)は、項目別平均得点, 男女別平均, 全項目反応分布, 因子分析, 反対順位スコアのそれぞれについて分析をおこなっている。

(i)項目別平均得点: 平均点において, 0.5点以上差があったものをぬきだしてみると, 'おとなしい', '慎重な', 'もの静か', '女性的', 'デリケートな' (いずれも大学生の方が高得点), 'しぶとい', '勇猛な' (いずれも高校生の方が高得点)であった。

(ii)男女別平均: 高校生と大学生とで結果が逆転したのは, "茶めつけのある" (大学生では女>男, 高校生では男>女)と"大胆" (大学生では女>男, 高校生では男>女)であった。

(1) 全項目反応分布：

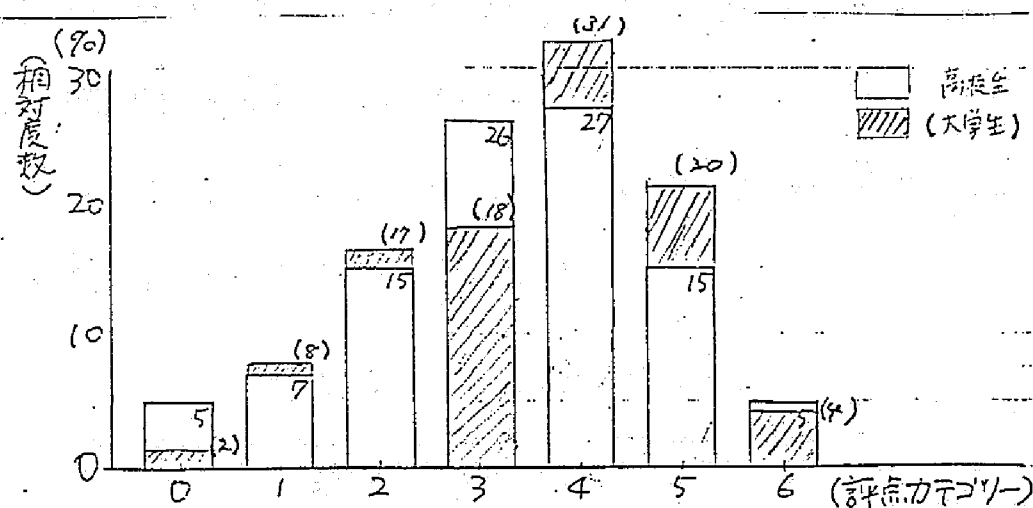


Fig. b-1 全項目平均反応分布

Fig. b-1 は、全項目平均反応分布を示したものである。高校生では、“3”とどちらともいえない”への反応が大学生よりふえており、4, 5カテゴリーへの反応が減っていることがめだっている。

(2) 因子分析：合計7因子が抽出され、大学生の場合と共通した因子が抽出された反面、因子的なまとまりが弱かった。

(3) 反対順位：大学生の結果との相関は、 $r = 0.39$ であり、全体として大きな変化を示してはいないが、個々の対をみると、かわっている。

ものもあった。Tに、全体として対間の相関係数が0に近いものが多く、対極度がへっている傾向が認められた。

(ハ)スコア：Table b-2は、スコアの平均値の比較を行なったものである。

Table b-2. スコアの比較。

		平均	SD	Range	t	
S+	高校生	200.4	24.0	108(-1) 151~257	2.673	大学生N=713 高校生N=164
	大学生	205.7	22.6	132~301	** p<.01	
S-	高校生	40.7	15.3	5~90	-2.164	
	大学生	43.3	13.5	9~97	* p<.05	

S+, S- のいずれにも有意差が認められ、高校生の方が、S+ がいさく、S- もいさく（二面的）になっている。

さらに、Table b-3, b-4 は、それぞれ、S+ と S-、S- と S-- の2スコアを組合せてできに型について、人数を比較したものである。

Table b-4の方には、大学生についての数値もあわせて示した。

Table b-3 S-とS+による型別人数 (森の基準1-73)

S- \ S+	H (-面型)	M	L (二面型)	
I (二面型)	9%	(4%)	15%	28%
M	(6%)	(9%)	(12%)	27%
L (一面型)	12%	(14%)	20%	45%
	26%	27%	46%	100%

** (S+ H 214以上
L 194以下
S- H 49以上
L 36以下)

Table b-4 S-とS+による型別人数

S- \ S+	H 49以上 (-面型)	L 36以下 (二面型)
H 5以上 大.	大学 106 高校 22 (15%) > (13%)	大学 44 高校 17 (6%) < (10%)
L 0以下 小	54 (8%) > (5%)	109 (15%) < (20%)

スコア間に相関があるので、各次元の数を直接比較して、～型が多いということには意味がないと思われるが、大学生と高校生のデータを比較すると、高校生の方が、“幅が小さく、バランスをとって、全体としてあいま

い”とでもいえそうである。ただ、これを以て、高校生の方が二面的だというのは、少し問題があるのではないかと思われる。これは、筆者の推測であるが、高校生におけるこの結果は、“3”カテゴリーへの反応が多かったこととの関連がつかいのではないかと考えられるからである。そして、“3”が多かったことの理由としては、呈示語があまりかしく、仕方なく“3”につけて(高校生にとっては、理解しにくい形容詞が多いようである)、あるいは、とにかく程度として“3”にあてはまったなど、いろいろな可能性が考えられる。後者の方だとすると、高校生の場合、まだ‘waiting’の段階にあって、小さくバウンスをとっているというふうに考えられなくもないが、いずれにしても、年齢差による影響は、さらに、分析が重ねられる必要があるだろう。

内山(1985)は、さらに、スコアと項目との関係の分析も行なっている。これによると各スコアの特徴を示す項目群は、大学生のも

のと共通性がみられる。ただし、S-小群は、大学生の場合ほど、成熟した性質を示さなかったようである。

なお、スコアの男女差については、Table b-5 に示される通り

Table b-5. スコアの男女差

りであった。

全体的な傾向

としては、共

通しているよ

うである。

	高校生	大学生
S+	n.s	n.s
S-	男<女	男<女
S..	男>女	n.s.

さて、全体を通してみた時、高校生と大学生とでは、かなり違いがみられたように思われる。そして、それは、単に、一方が他方より二面的であるといったことではなく、“二面性のあり方”が異なっていると考えられ、今後さらに、検討されることが望まれよう。

C. スコアによるまとめ

以上、TSPSによって抽出される人格について、

a. 他の心理テストとの比較

(① Y-G, ② MMPI, ③ CAS, ④ CPI, MAT, NJ, ⑤ 同一性次元尺度, ⑥ 独断主義尺度, ⑦ 気質尺度)

b. 被験者の特性による分析

(① 男女差, ② 年齢差)

を行なうて、検討を行なってきた。本節では、それらの結果について、スコアごとにまとめて、“二面性”の観点から見た人格特性を知るための一助としたい。Table C-1~C-8, 付表 C-1~C-6 はこのような意図のもとにまとめられたものである。なお、この表への記入にあたって、テストとの比較の際、相関係数とも検定という二種類の統計的処理がなされたものについて、いずれかで有意な結果がでなかったものについては記入せず、また、傾向に留まったものは、()をつけて示すことに

した。また、結果については、筆者の行なったものだけを記すことにした。

以下、 S_+ 、 S_- について、各スコアごとに、それらの情報が結ぶ像をおこしてみたい。

① $S_+(P)$ 大 (Table C-1) : 積極的自己肯定型。

活動性と主導性、社会的外向性を大きな特徴とする。情緒面において、神経質・主観的なきらいはあるが、たぶん自我の強さからくるものであろうか、劣等感も少ない。

決断力もある。のんきではあるが、思考的には内向である。Y-GでいうところのB型（不安定積極型）D型（安定積極型）である。この“不安”は、たぶん、疑い深い、しつこい心強いといふ、E、E+ / I D的なものからくるのであろう。

② $S_+(P)$ 小 (Table C-2) : 消極的自己否定型。

消極性、服従的、非活動性を特徴とする社会的内向型である。決断力に乏しいことも考えられる。客観的で協調的であり、また

$S_+(P)$ 大群と比較して、全体で高不安であ

記号		プロフィール	マーク	Range	n	同時にもとめやすいスコア/100-2
S+(P)	大	太型		214~301	236	S+(N)大, S-(P)小, S--(P)大, S(P-N)大
		男女差	大学差		学部差	学科差
		有意差ナシ	(男 京都教育大) 女 音大に最も多い		有意差ナシ	有意差ナシ

a. プロフィールより... 積極的自己肯定型

b. 相関の高い項目... 「エネルギー性」、「ときどきした」などの活動性をあらわす項目

「社交的」、「指導的」など、主導性、社会的外向性を示す項目

「ロビヤウ」 または「臨機応変の」など。

c. Y-Gより... (劣等感小)の傾向)「神経質」、「主観的」、「非協調的」、「攻撃的」

「活動的」...特に差がある。「のんき」、「思考的内向」、「支配性大」、「社会的外向」に有意差あり。型では B型、D型。

d. MMPIより... ? スコアが低い

e. CASより... 「パライド型不安」因子以外のすべての因子及び全体として不安が低い
特に「欲求不満緊張」の因子、「自我の弱さ」の因子に対して低不安。

f. MAT, CPI, WJより... (MATの Job Related カテゴリーに対して Toleranceの) 高い傾向

Table C-2 S+(P) 713人中 小群

記号		プロフィール	マーク	Range	n	同時にもとめやすいスコア/100-2
S+(P)	小	細型		132~194	237	S+(N)小, S-(P)大, S--(P)小
		男女差	大学差		学部差	学科差
		有意差なし	女子、京大が ^{S+(P)} 最も小		有意差なし	有意差なし

a. プロフィールより... 消極的自己否定型

b. 相関の高い項目... 「気の弱い」、「小心」などの消極性をあらわすもの 及び

「陰気な」、「人づきあいの悪い」、「情がうすい」など 社会的内向性を示すもの

c. Y-Gより... (S+(P)大と相対的にみて) (劣等感大)の傾向)「神経質でない」、「客観的」

「協調的」、「非攻撃的」、「活動的でない」、「のんきでない」、「思考的外向」、「服従的」

d. MMPIより... 「社会的内向」 型では C型 (E型)

? スコアが高い (決断力に乏しい)

e. CASより...

不安 高 特に「欲求不満緊張」、「自我の弱さ」で。
「パライド型不安」では差なし

(いずれも S+(P)大と逆)

f. MAT, CPI, WJより...

(Job Related Tolerance 低)

るのに、パラノイド型不安では差がないなど、“人とぶつからない”形での安定が考えられる。Y-GでいうところのC型(安定消極型)といえよう。

- ③ $S_+(N)$ 大 (Table C-3) : 積極的自己否定型。
 情緒不安定, 社会的不適応を特徴とする。
 行動面では非活動的である。“のんき”だが、思考的には内向。“のぼせやすい”といった軽躁性を有する。全体的に不安が高いが、特に“疑い深い”“しつこい強い”といったパラノイド型不安が高い。“自我の弱さ”や“欲求不満緊張”からくる不安はさほどではない。この型はまた、露悪的あるいは、日常性を嫌う個性的な傾向もみられる。社会的なこと (Public image, Social) に関するあいまいさに耐性がないが、芸術作品 (Art Forms) に対してはあいまいさを許容し、むしろそれを好む。男性に多いタイプ。

④ $S_+(N)$ 小 (Table C-4) : 消極的自己肯定型。

“聞きじょうず”, “冷静な”, “融通がきく”, “実利的” など社会適応性にすぐれる。いわば, 自分から口をひらくことなく, うまくやっていくタイプとでもいえようか。環境によく適応し, 合理的な行動とするが, やや防衛的といえるかもしれない。全体に不安が低く, 特に, パウノイド型不安が低い。社会的なあいまいさに対する耐性は高いが, 芸術作品については, むしろ耐性が低い傾向がある (いずれも, $S_+(N)$ 大群と比較して)。女性に多い。

⑤ $S-(p)$ 大 (Table C-5), 小 (Table C-6) :

大群はフロフィールドで不均衡を示し, 小群は均衡型を示した。これにも表れているように, 小群は, 不安が低く, 情緒安定性にすぐれる。小群は (広い意味で) 二面的と考えられるもので, 社会的内向性とともに “太っ腹な” にも高得点を示し, “臨機応変”, “大人っぽい” といった性質をもつ。

S+(N)	大	太型	195~3/3	234	S+(P)大, S-(N)大, S(P-N)小
	男女差	大学差	学部差	学科差	
	男>女の傾向		京大理 最も大	国文・英文 幼教家政+比大	

Table C-3 S+(N)大

a. プロフィールより... 積極的自己否定型

b. 相関の高い項目... 「なげやりな」「軽率な」と、「執念深い」「しつこい」など対立する項目がともに高い。「頭でっかち」「理論的」「厳格な」「しぶとい」など思考的内向「本気」「現実離れした」「のほせやすい」及び「女性的」「小心」「デリケートな」など情緒不安定

c. Y-Gより....

「情緒不安定」「社会的不適応」「攻撃的」だが「非活動的」。「のんき」だが

d. MMPIより... 「思考的内向」であって対立的。型では B型 E型。

「L」「K」が低く「F」が高い。「Ma」が高い。
(露骨なは個性的)

e. CASより... 「すべての因子」及び「全体」で不安が高い。特に L (パラノイド型不安) で高い不安を示す。逆に「自我の弱さ」「欲求不満緊張」では、それほど高くない。「Q3 人格統御力欠如」も高い。

f. MAT, CPI, WJより...

MATの「Public image」「Social」で Tolerance 低の傾向。
「Art Forms」では逆に Tolerance 高

713人中 Table C-4 S+(N)小

記号		プロフィール	マ-7	Range	n	同時にもはやスコア147-2
S+(N)	小	細型		75~173	243	S+(P)小, S-(N)小, S(P-N)大
	男女差	大学差	学部差	学科差		
	女>男の傾向		京大文法 ^{S+(N)} 最も小	体 特体 ^{S+(N)} 小		

a. プロフィールより... 消極的自己肯定型

b. 相関の高い項目... 「聞きじょうず」「冷静な」「融通がきく」 Negative項目のうち S+(N)と相関がなかったのは「聞いてばかりの」「実利的」(迎合的)。
自分から口をひらくことなく、うまくやっていくタイプ

c. Y-Gより....

「情緒安定」「社会的適応」「攻撃的でない」「のんきではない」。
型では C型 A型。

d. MMPIより...

「L」「K」が高く、「F」低い。「Ma」低い (T=Tとし S+(N)大と相対的にみて)

e. CASより... 「すべての因子」「及び」「全体」で不安が低い。特に L (パラノイド型不安) Q3 (人格統御力欠如) からくる不安低。 C (自我の弱さ) Q4 (欲求不満緊張) では、大きい差はない。

f. MAT, CPI, WJより...

MATの「Public image」「Social」で Tolerance 高の傾向
「Art Forms」では逆に Tolerance 低

記号	プロフィール	マ-7	Range	n	同時にもしやういスコア/マ-2
S-(P)	大 不均衡型	$\sum \geq$ $\sum \geq$	49~97	228	S+(P)小, S-(N)大, S-(P)(N)大 ^{S(P-N)小}
	男女差	大学差		学部差	学科差
	女>男				(教育・社会・幼教・家政) 大

a. プロフィールより... 肯定不均衡型 (広い意味で、一面的)

b. 相関の高い項目... 「熱中する」「のほせやすい」「激し(やすい)」「幼稚な」「など」
情緒不安定

c. Y-Gより... (「思考的外向」)型では、(E型、D型)
(「抑うつ性小」の傾向)

d. MMPIより...

e. CASより... S-(P)小に対して、「すべての因子」及び「全体」について、高不安

f. MAT, CPI, WJより... WJ - Rigid

Table C-6 S-(P) 小群

713人中

記号	プロフィール	マ-7	Range	n	同時にもしやういスコア/マ-2
S-(P)	小 均衡型	} }	9~36	238	S+(P)大, S-(N)小, S-(P)小, S-(N)小 S(P-N)大
	男女差	大学差		学部差	学科差
	男>女				(数学・国文・英文・小)

a. プロフィールより... 肯定均衡型 (広い意味で二面的)

b. 相関の高い項目... 「冷静な」「大人っぽい」「臨機応変の」「さめた」「ひねた」など「情緒安定」
「もの静か」「口数少ない」「むつりした」^{これ}と「社会的内向性」^{これ}「勇猛な」
「太っ腹な」など対立する両方に高い。「理論的」「分析的」でもある。

c. Y-Gより...

(「思考的内向」) ^{傾向} (やや「抑うつ性大」) ^{傾向}。(型はA型)

d. MMPIより...

e. CASより... 「すべての因子」および「全体」で不安が低い。

f. MAT, CPI, WJより... WJ - flexible

WJであられるような“構え”に対する
とられのなさも小群の特徴である。男、
女に差があり、男子の方が $S-(p)$ は小さ
い。

- ⑥ $S-(N)$ 大 (Table C-7), 小 (Table C-8) ;
 $S-(p)$ と同様, 大群はフロフィールドで不均
 衡, 小群は均衡型を示す。大群の方が“熱
 中”し, “のぼせやすく” “情に流される”
 タイプ, 小群の方は“情がうすく” “無感
 動”で“さめた”タイプという対照がある。
 いく分小群の方が不安が低いようにも思わ
 れるが, 欲求不満緊張からくる不安は小群
 の方が高い傾向にある。二面的である小群
 は, $S-(p)$ 小群以上に, WJで flexible で
 あり, また芸術作品ではあいまいさに耐え
 ることができ, またその方を好む傾向にあ
 る。また, 小群の方が, 心理的葛藤を身体
 症状に転換しやすく, 精神的重圧に対して
 適切に処理できない傾向もみられ, “気が
 弱く” “追従的” なところもある。(小群

記号		プロフィール	マ-7	Range	n	同時にも得るスコア/マ-2
S-(N)	大	不均衡型	$\geq \geq$	52~88	237	S-(P)大, S--(P)大 S--(N)大
		男女差	大学差		学部差	
			男 仏教大に多い		京大 文・法 最も大	
					学料差	

a. プロフィールより... 否定不均衡型 (広い意味で 一面的)

b. 相関の高い項目... 「熱中する」「のぼせやすい」「情に流される」と 情緒不安定。
「我がつよく」「独断的」でもある。

c. Y-Gより... (「抑うつ性」小の傾向)

d. MMPIより... \rightarrow 「Hs(心気症)」「Hy(ヒステリー症)」「Ma(軽躁性)」
有意に低い。 (傾向)

e. CASより... Q₃, C, L, O の四因子では 有意差はないが、いずれも S-(N)小より
高不安。しかし Q₄(欲求不満緊張)の因子より 不安低の傾向。

f. MAT, CPI, WJより... (MAT: 「Art Forms」で Tolerance 低)
WJ - Rigid

Table C-8 S-(N)小群 713人中

記号		プロフィール	マ-7	Range	n	同時にも得るスコア/マ-2
S-(N)	小	均衡型	$\} \}$	11~39	236	S-(P)小, S--(P)小 S--(N)小
		男女差	大学差		学部差	
			男 京大が最多		京大 農 最も小	
					学料差	

a. プロフィールより... 否定均衡型 (広い意味で 二面的)

b. 相関の高い項目... 「もの静か」「陰気な」「口数少ない」「むっつりして」など 社会的内向性。
「情がうつく」「無感動な」「さめた」など 情緒安定。 追従的で。
「気の弱い」ところもある。

c. Y-Gより... (「抑うつ性」大の傾向)

d. MMPIより... 「Hs」「Hy」「Ma」が高い
傾向

e. CASより... Q₃, C, L, O の四因子で 有意差はないが、いずれも 低不安。しかし
(Q₄(欲求不満緊張)で 不安高の傾向。)

f. MAT, CPI, WJより... (MAT: 「Art Forms」で Tolerance 高)
WJ - flexible

は、Hs, Hy 尺度 - MMP I - が高い)

百名(1960)は、WJとMMP Iの関係を調べたところ、WJのflexible群は、Hs尺度得点が高く、Hy得点も高い傾向にあるという。これは、本研究における結果と一致したものである。

以上、 S_+ , S_- スコアについて、それぞれが示すパーソナリティタイプを述べてきた。

次に、 $S_+ \times S_-$ によってできあがる群による群別比較の結果をまとめてみたい。ここでは、Positive, Negative 別に、厳密な意味での二面性群である“太・均衡群(両極型)”について述べる。

- ① Positive : Y-G との比較より、“抑うつ性大”“主観的”“攻撃的”“活動的”“のんき”“思考的内向”“支配的”“社会的外向”で、特に“活動的”がめだっている。ただし、思考的には内向である。MMP Iで有意差があったのは、?点のみで、もっとも低い点を示している。また、不安との関係では、最

も低不安を示している。

この群（'P'二面性群）においては，いくつかの対照がとらえられる。たとえば，活動的であるが，心は安定（不安低い）しているし，のんきだが思考的内向，あるいは社会的外向だが思考的内向，などである。

これらの対照は一次元上の両極に位置するものではないが，一次元から少しずれたところではむかいあい，相補っているのかもしれない。

- ② Negative: Y-G との比較では，“抑うつ性”から“攻撃性”まで“情緒不安定”“社会的不適応”をあらわす尺度にすべて高得点である。ただし，“活動性”は最も低く“のんき”であるが，“思考的内向”である。MMPI で，'N'二面性群に最も特徴的なのは，Ma 尺度（軽躁性尺度）における高得点である。K 点も低かった。また，不安尺度との比較では，全体に高不安を示し，特に Q₄（欲求不満緊張）の因子で高不安を示

している。逆にC(→(自我の弱さ)の因子では、それほど高いとはいえなかった。

MAT, CPI では、いずれも、'N'二面性群が最も高得点(flexible)であるが、有意ではない。WT では、二面性群が最も、flexible であるという結果を得た。

さて、'N'二面群は、その“情緒不安定さ”と、“非活動性”が目につく。“攻撃的”だが“非活動的”，“のんき”だが，“思想的内向”である。Manic なのであるが、どうもその活動性は身体面ではなく、情緒・思考面にみているのではないだろうか。K 点が低く、日常的なことを嫌い、個性的である像も垣間みることが出来る。やや、身体的なことについて思い悩むこともあり、また欲求不満緊張が高く、内からわきあがってくるような不安が高い群といえるかもしれない。

新スコアによる分析の結果も、群別比較と同じような傾向を示していた。SP高得点群（'P'二面的）は、活動性が高く、健康的で社会的にも適応的である。そして、こうした活動性の方で思考的な内向性を有している。活動性という、どちらかという、身体的、社会的な面での外むきの力と、頭脳的、心的な面での内むきの力とがバランスをとっているのかもしれない。このように、“二面性”は、一本の軸の両端でなりたっているというよりは、少し次元をかえた軸の間でのバランスと考えるのが妥当のように思われる。SPはまた、WJと正相関をもっており、WJで示されるような思考の柔軟性を有すると考えられる。

一方、SN高得点群（'N'二面的）は、不安が高く、情緒的な側面での不安定さが際立っており、この点が、SPと最も異なる。この群（'N'二面群）は、非活動的であるが、MMPIによると軽躁性尺度が高い、これはSP

と異なり、活動性が、専ら、心的、頭脳的な側面において発揮されているのではないかと考えられる（身体的、社会的には非活動的）。情緒的な圧迫が強まると身体化される傾向もあり、また欲求不満による緊張までは衝動による緊迫状態からくる不安が、高くなっている。さらに、SN高得点群は、やや“露骨的な”傾向をもつことも示された。

こうしてみると、Positive, Negativeともに、二面性群は、そのエネルギー量の多さが感じられる。そして、'P'と'N'とで異なるのは、'P'二面性群が、そのエネルギーを主に身体的、社会的な活動性に費しているのに対して、'N'二面性群の方はむしろ、情緒的、知的な方面にそれをむけていることである。そして'P'二面性群では、思考的に内向し、不安が低く、'N'二面性群では、身体的な活動性を修めて、いずれもエネルギーが拡散するのを防いでいるかのようである。

また、観点をかえてみると、'P'二面性群は

社会場面においてそのエネルギーを有効に生かし、もう少し個人的な分野（たとえば芸術的な分野）では、'N'二面性群の人がエネルギーを生かしやすいというような推論もなりたつかもしれない。しかし、'N'二面性群は、情緒的にはかなり不安定な状況にさらされていると考えられる。

これまでの、研究を通じて、“二面性”群の人格特徴が少しずつ明らかにされてきた。他にも、気質類型との関連を示唆する研究や¹⁰ 年齢差の存在を示す研究、自我同一性との関連を示す研究など、まだまだ、いくつかの方向から光をあてる必要性を感じさせる研究が存在した。

今後さらに多面的なアフォローケによって、¹⁵ 像がより鮮明とになっていくことが望まれる。

第四章

第四章

人格の“二面性”について

——その総合的考察——

(1) 問題提起をめぐって ----- 247

(2) “二面性”測定尺度をめぐって ----- 252

(3) “二面性”の観点からみた人格

特性をめぐって ----- 269

① Positive 二面性群

② Negative 二面性群

(4) “人格の二面性”をめぐって ----- 277

① “二面性”はあるのか

② “人格の二面性”の成立

③ “二面性”に対するとまどい

④ “二面性”に対するとらえ方の違い

⑤ “二面性”の質について

⑥ “二面性”のモデル

第4章 人格の“二面性”について

——その総合的考察——

(1) 問題提起をめぐって

人格は、その中に、様々な矛盾を含み、対立を共存させている。この点について、異議を唱える人は、ほとんど”といってよいほど、存在しないのではないだろうか。

それほど、あたり前のこととして受けいられている事柄であるのに、人格理論においては、この“人格の中の、対立の共存”について、積極的にはとりあげられてこなかったという事実がある。

さらに、人格測定分野においては、こうした“人格の中の、対立の共存”は、存在する余地が見出だされないう状況にあった。なぜなら、ここでは、二者択一的な観点から、人格把握がなされてきたからである。

本研究は、このような、あたり前のこととされていながら、みすごされてきた、あるいは捨象されてきた、人格内の対極性に注目し、

アプローチをしようとする試みであつて。

そして、本研究の主眼は、その人格の対極性——これを“人格の二面性”とよんだ——を“測定”することにあつた。なぜなら、矛盾を含む存在として人格をとらえようとするならば、それを、（現在のところでは）科学的な方法によつてしか行ない得ない“測定”のほかりにかけることは、非常に困難だからである。

科学は、矛盾を許さず、そのことによつて一つのまとまりを築きあげていく。

人格も、科学と同様、一つのまとまりを為している。先程、人格が矛盾をはらんでゐることを“あたりまえ”のこととして述べたが、一方で我々は、この人格の“まとまり”についても疑義をはさみはしないであらう。

人格は、矛盾をはらみつつ、まとまりをもつという、まことに複雑な存在という他ない。

ところで、我々は、どちらかというところ、一つである（あるいは、“一つのまとまりをも

フ") という方を重視して、矛盾の存在については、目をつぶってしまう傾向があるのではないだろうか。

すなわち、人格に対して、2つの‘あたりまえのこと’——‘まとまりと矛盾の存在’——があるのだが、ともすれば、前者の方だけにとりあげて、後者をみすごしがちなのではないかと思われる。

ここで、Eriksonが、2つの‘全体性’について述べたことばを引用しよう。これは、上に述べたことと関連しているように思われる。

" (一つの‘全体性’である) Wholeness とは、個々の部分、全く相異なる各部分さえもが有効なまとまりとなり組織となるような各部分の集まりを意味する。——中略——だから、Wholeness は一箇のゲシュタルトとして、異なつて各機能と部分の間の発展的な相互性 (progressive mutuality) が強調される。ところが、(もう一つの‘全体性’である totality は、絶対的な境界が強調されるような一箇のゲシュタル

トを意味する。ここでは独断的な境界が与えられていて、その内側に属するものは、絶対にその外側にのこされる ことにはならない。外側になければならないものは絶対にその内側にあることは許されない。このように、*totality* は、絶対的な完結性と絶対的な排他性をそなえていなければならない。——中略——

個人心理にも、集団心理にも、たとえそれが、心から渴望される *Wholeness* の放棄を意味するにしても、それでもなお、それ以上の選択や可能性の追求が許されないようでは、*totality* を 周期的に求める衝動がある。一言でいえばこうである、欠くことのできない本質的な *Wholeness* に絶望した人間は、*totalism* に逃げこむことによつて、自己自身と世界を再建するものである”

本研究は、人格研究において、*totality* のレベルにおける ‘まとまり’ から、矛盾を含みかつ統合性をもつ *Wholeness* へと至る道程のうちに位置づけられるものである。そして、

ここに、『人格の二面性』に対して考察を加えることの意義が見いだされるものと思われる。

(2) '二面性' 測定尺度をめぐって

前節において述べたように、矛盾をもつものとして人格をとらえた時には、それを、'科学的な' 方法で測定することは、むずかしいことである。筆者の作成した TSPS は、その一つの試みである。決して、これが最善だとは思われないが、しかしそれでも（むしろ、少し驚かされたほど）従来の検査法によって抽出しえなかった側面が、いろいろとうかびあがってきた。そして、これが、質問紙法という、主に、意識レベルを扱うものによって為されたことが、また、注目すべき点のように思われる。Jung (1921) もいうように、“心理学者はよく意識を眼にたとえ、意識の視野とか意識の視点とかいう言葉を用いるが、このたとえは意識機能の本質を非常によく言いあらわしている。すなわち最高の意識度に達することのできる内容はごく僅かであるし、また同時に意識野のなかにとどまることのできる内容の数はごく限られている。つまり、

意識の活動は選択的なのだ。そして選択には方向が必要である。ところが方向というものには不要なものを締めだすということがつきものである。このことの必然の結果として、意識の方向づけには常にある種の一面性が伴なう。”

こうした、意識の一面性という事実があるにもかかわらず、TSPSによれば、(尺度のとらえる範囲内においてではあるが)人格の“二面性”を認知している人の存在が明らかになった。

Jung(1921)も、一方では、こう述べている。“多くの場合、つまり正常な場合には、これらの劣等機能(分化発達過程がおくれている機能)は意識されている。これに反して神経症の場合には、劣等機能は一部分ないし大部分が無意識のものになってしまう。”

TSPSと、従来の検査法との異同は、第2章(2) Table 2-1 (p.81)に集約されている。

これは、SD法という限られた範囲内におけ

る比較であるので、あやみに一般化することは許されないが、Table 2-1では、人格の中の対立物を、ともに、自己のうちに存在するともみとめている人ほど、従来の検査法では表現し得ないとしていることが明らかになった。

また、尺度作成の方法論においてとりあげられていた、「中点（どちらでもない）」の問題、あるいは、SD法における両極性仮説をめぐる問題に対しても、一つの回答を与えているように思われる。

なお、SD法における単極尺度は、TSPSと最も近い形態をもつものである。心理学的両性具有性を測定しようとした Bem (1974)、Ambivalence を測定しようとした Kaplan (1972)、両極性仮説をくつがえそうとした、Green & Goldfried (1965) など、いずれも本研究と軌を一にする人たちは、みな、この単極性尺度を使用している。

この単極性尺度と、TSPSの形式との最も大きな違いは、TSPSの形式の方が対を

意識させるところにある。どちらの方法がま
さっているかという点については、尺度が測
ろうとするもの、あるいは、形容詞対の種類
などによって変わってくるであろう。TSPS
の形式は、簡単にいってしまうと、意識的、
あるいは、前意識に存在している“二面性”
を対象とする場合、そして、対間の対極度が
それほど高くないもの（たとえば長島ら(1965)
の清潔な-不潔なといった対は、かなり二律
背反的であって、こういった対は、対極度が
高い）に対して有効であるように思われる。

なお、単極性のSD尺度は、形容詞が1つ
であるために、その“意味”が広がってしまうと
いう欠点をもつ。たとえば、“やさしい”と
いう語にしても、その語を一語だけ呈示され
た場合には、人によってそのうけとり方は、
いろいろと異なってくる。しかしながら、対
語として“ぎびしい”もともに呈示されると
語の意味はかなり規定されてくることになる。
（“やさしい”の場合だと“むしろ”か“い”の対立語

としての意味などが否定される。)この点は、TSPSの形式の利点としてあげられよう。

TSPSは、いくつかの改良が加えられたが、その中で、望ましくない意味をもつ語(Negative語)をつけ加えたことは、単に、測定の範囲を広げたことにとどまらず、人格測定において、項目のもつ意味の“望ましさ”に考慮を払うことの重要性を、明らかにして、これは、以下の三点にまとめられよう。

- ①従来用いられている対の中には、対語の間で、その“望ましさ”の程度がかなり異なっているものが存在する。たしかに、“反対”であるためには、その“望ましさ”の程度も反対であることが必要なのではあるが、Edwardsが指摘したように、我々は、どうしても、望ましい項目が、より自分にあてはまっていると思う傾向がある。それゆえ、対語の間で、“望ましさ”の程度が異なると、その語が自分にあてはまっているかどうかということよりも、項目のもつ“望ま

しさ”に反応してしまうということがある。
Edwards の作成した EPPS のように、そう
いった点に考慮が払われているテストも存
在しないわけではないが、まだまだ数少な
いといえるだろう。

- ② 上に述べたように、我々は、どうしても、
(意識的ではないにしても) 自分を望まし
くみせようとする傾向をもつ。これは、質
問紙法では避けることができないものとさ
れている。MMPI では、L 尺度や K 尺度
のように、それを check して数量的に把握
できるようにする工夫がなされている。
こうした傾向について、それを check する
というだけでなく、さらに一歩進んで、自
分をよくみせようとする人、あるいは逆に
悪くみせようとする人を積極的にとらえて
検討することも有意義ではないかと思われ
る。

- ③ “望ましい意味をもつ語”が自分にあては
まるとする程度を以て、自己肯定度あるい

は適応の指標とすることが出来る。丸井・久世・村上(1966)は、精神的不健康学生
の早期発見の目的のもとに、NACL(名
大式性格診断形容詞チェックリスト)の作
成をおこなっている。これは、“望ましい
意味をもつ形容詞”、“望ましくない意味を
もつ形容詞”、“どちらともいえないもの”
の3種の形容詞群を呈示して、数に制限な
く、自分にあてはま、ていると思うものに
checkするというものである。

本研究が明らかにしたところでは、同じ
ように、自己肯定的とい、ても、積極的に
それを行なうものと、‘悪いとはいえない’
というかたちで自己を肯定するものは区別
されねばならない。

“望ましさ”というものは、ある程度、社
会的な観点と関連してくるものと思われる
のだが、青木の行な、たいくつかの研究に
も示されるように、たしかに、ことばには
“望ましさ”という意味で、段階があり、

人格特性においても同様のことがいえる。

‘P’側面, ‘N’側面という、これも人格内における対極の一つと考えられるが、この2側面についても、単に、一方が他方の逆というとらえ方ではなく、それぞれを独立して扱う必要があると思われる。

TSPSのもう一つの改良点はスコアに関するものであった。もともと定められた二面性スコアは、対語の評定値の差に依るものであった。しかし、これでは、“二面性”が含む“幅のひろさ”とでもいったものをとらえることができない。一般的にいて、こうして両面性をとらえようとする尺度 (BemやKaplanの尺度など) では、この、スコアに関していろいろと議論がなされているようである。本研究の結果をみる限りでは、差をとる方法では、‘二面性’が含む一側面である“均衡性”がとらえられ、それと‘和’という、“幅の広さ”をとらえるスコアを組合せることによつて、より立体的に“二面性”がとらえら

れ得るようである。

こういった、群別に行なう比較は、ただ、煩雑であつたり、境界線近くの人の意味がとりにくかつたり、群をわけるとき基準が必ずあしかつたりする欠点がある。また、比較を行はおうとする際、必ずしもいえる。

この点、すべての人の“二面性”の“程度”を一つの数字であらわすことのできる新スコアは、簡便である。しかしながら、このスコアは、せっかく立体的にとらえ得たものをもう一度、一本の線上の点として並べかえてしまうものである。

結局、それぞれのスコアリング方法の長所と限界をみぎわめたいうえで、その解釈を行うべきだと思われる。

ところで、第2章の最後に、TSPSの妥当性、信頼性について述べたが、TSPSの場合、定着した外部基準というものもなく、また、その特殊性のために、妥当性、信頼性を検討することは、たいへんあしかつた。

ように思われる。以下に、TSPSの特性について少し考えてみたい。

まず、研究を通じて得た筆者の印象からいうと、TSPSは、それに接する人に対して、何らかの感情的変化をひき起こすものであるらしい。この点についての詳しい考察は、後節にゆずるが、こういった“反応”は、質問紙法というよりは、むしろ投影法に近いものを感じさせる。いうならば、TSPSは、ロールシャッハ・テストにおける図版のような、ある種の刺激として、はたらくていることが想像できるのである。

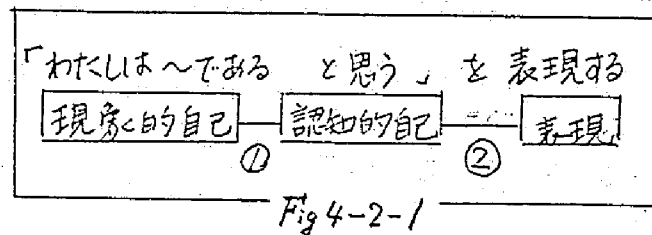
ロールシャッハ・テストとのもう一つの共通点は、TSPSに対する‘反応’（つまり評定結果）について、“何(What)であるか”ということを見るだけでなく、それよりもむしろ“いかに(How)あるか”という点を見ることにある。TSPSは、“ある人が、どういった性格を有するか”だけでなく、“どのように性格を有するか”という、人格の、

"構造"について測定する点はその独自性としてあげられるのである。^{注1)}

さて、TSPSに反応する際の心理、すなわち、評定者の中でどのようなことがおこっているかということについて、もう少し検討してみよう。

一般に、質問紙に解答する際のプロセスとして、Fig 4-2-1 に示されるような段階が考えられるのだが、

TSPSは、②の
"認知的自己"に
振動を与える効果



をもっているようである。人は普通自分の性格を、あるまとまりをもったことばで表現しようとする。自分のことを"外向的"だと思っている人は、"内向的"である部分を忘れてしまっており、②の認知的自己の中で"外

^{注1)} Rorschachは、それは、"何にみえてか"という点に集中していたインフプロットに対するアプローチに対し、形式的、構造的な側面の考察を加えた点で独自性をもっている。(Klopfcr & Davidson, 1962, 河合(訳) 1964)

向的”が幅をきかせている。従来の性格検査では、認知的自己の枠組の中で椅子が一つだけ用意されてきた。従って、何のためらいもなく“外向的”が腰かけたのであるが、TSPSでは、椅子が2つ用意されている。そして、“一つでもいいけれど、二つ使っても構いませんよ”と言われる。まず“外向的”は腰かけるとして、あと一つの椅子をめぐって、“認知的自己”が振動するのである。

ロールシャッハテストでは、偶然にできたあいまいなブロット刺激が‘何にみえるか’と問われて、このような場面では実生活におけるような明確な行動の基準がないところから、被験者は自分独自の方法で反応せねばならず、したがってこれらの反応の中になにげなくあるいは気づかないうちに、ありのままの自分、ときには自分をも全く認知してはいないような自分の側面を明らかにするといわれる。TSPSにおいても、ふつう、認知的自己が接する状況とは、やや異なった場面に放

りこまれることによって、'一面的' '二面的' といった、ある意味で“反応”とよびうるものが、ひきだされうるものと考えられる。^{注1}

TSPSのもつもう一つの特性は、その対語にあるように思われる。

項目を文章でなく、形容詞にしたことは、あいまいさを許容し、ある広がりをもって自己イメージをとらえるということと、数量的に把握しうるという二つの課題をこなすものであった。SD法が、質問紙法と投影法の間域に属するといわれる所以である。

TSPSにおいて選択された形容詞群は、Y-Gとの比較によっても明らかにされたように、意味的に広がりをもっており複数のY-G尺度にまたがって相関をもっている。さらに、因子構造のうえからも、一つの因子に正負の

注1) このことは、TSPSがとらえるのが、“二面的な人格”というよりは

むしろ“自己の捉え方、見方が二面的な者”であることを示唆する。CPI

のflexibilityではなく、WJのflexibilityと関連をもったこと、

及びMATの中でややPersonalityとは離れたArt Formsに

ついてのAmbiguity Toleranceのみが高かったことなどが、これとの

関連を以て思いうかべられる。

因子負荷をもつだけでなく、2因子にまたがって“ななめ”のかたちで、対立を形成していることが確認されている。

TSPSの形容詞群が、他の形容詞とくらべて特に異なっているかどうかという点については、定かではないが、‘P’項目群と‘N’項目群を意味的に対応させるという限定を加えたこともあってか、やや“ゐずかしい”，または“ニュアンスに富んだ”ことばが多いようである。そのため、高校生を被験者とした場合に、“わからない”と申しでたものがみられた。

このようにみえてくると、TSPSの語群が意味的に、はっきりしていること（誰がきいても、ほぼ同じ意味としてうけとること）と、ある程度意味の広がりをもって、人格の多様性を表現しやすくすることの、対立的な2つの要求をかりうじて満たそうとしていることがわかるであろう。

この、ある意味で‘無理な’要求は、TS

P S の本質である対語間の反対性（対極度）においても、再び、求められている。

T S P S の対は、“概念的”には、対にしか
に反対であって、そして“機能的”には、共
存を許す対なのである。

Green と Goldfried や Mordkoff が明ら
かにしたように、対のもつ対極度というのは、
各対によって、ほぼ定まっておリ、従って、
いくつかの対があると、その対極度によって
順位づけをおこなうことができる。対極度の
高い対というのは、当然、その語のもつあべ
ての特性において対極であらねばならず、従
って、意味の望ましさにあいても、望ましい
語と望ましくない意味をもつ語の組合せとな
るであろう。その点、T S P S の対は、共存
を許しうる程度の対極度をもっていて、かつ
“概念的”には反対であるが、“機能的”に
は両立しうるという、微妙なバランスに支え
られた対といえよう。

ただ、人格を対象とする場合には、このよ

うに，“概念的”には反対であるが，“機能的”には両立しうるという対の数が，かなり存在するように思われる。これは，やはり，人格自体の多様性，複雑性に由来するものであろう。

なお，‘ことば’の意味の広がりとか共存を許す対といっても，人によってそのうけとる意味が大きくかわったり，対語の対極性が根本からくずれていたのでは，い，てい何と測定しているのかわからなくば，てしまい，妥当性そのものが根本的にゆらぐ結果となってしまう。その点について，保証を与えるために，形容詞を単極ではなく，対にして呈示したことが，案外，一役かっているように思われる。まず，‘意味’については，これまでも述べてきたように，対にあることを相互に規定しあう結果，相当，意味に限定がもたらされている。そして‘対極性’についても，対として呈示することでそれらが“反対語”であるという“構え”と形成させる効果をもっているのだ。

ある。従って、TSPSの本質的な妥当性を保証させるためには、単極尺度ではなく、対として呈示することが不可欠と思われる。

(3) “二面性”の観点からみた人格特性をめぐって。

① Positive 二面性群

第3章において明らかにされたように、‘P’二面性群は、活動性が高く、健康的で社会的にも適応的である。精神的にも安定しており、活動性と安定性の両者を有するところが特徴的であった。また、WJによる、“構え”をくずしうるかという、flexibilityを有してもいた。

また、‘N’二面性群とは、その不安の低さと、対人関係あるいは社会場面における活動性によって、一線が画されるようである。

さて、こうした記述から思いうかべられる像は、会社組織に代表されるような、社会的組織において、リーダーシップをとっている人たちを連想させるものである。

三隅(1966)は、リーダーシップについて、“従来の指導類型論は、これかあれかの二者択一式のものが多かったが、実際の社会生活の中で期待される指導者像は、かかる二分法

にもとづく類型論では不十分であることが、実証されてきた”として、新しい指導類型論である、PM論を展開している。

PM論では、PとMという二つの次元が設定されている。まず、Pは、集団の目標達成の働きで、Pとは、Performanceの頭文字である。生産会社で生産をあげるために、監督者が部下に対して、まず、仕事を批判したり、助言したりすることは、生産をあげることに直接に指向した働きだから、監督行動としてのP機能ということになる。それに対して、Mは、それ自身を維持し、強化する機能で、Maintenanceの頭文字である。M機能とは、集団や組織体のなかで、人間関係に生じた不必要な緊張を解消し、対立抗争を和解に導く機能である。

三隅(1966)は、監督行動の中には、PとMの要素がともに含まれているとして、この2つの次元を独立なものとして、Fig. 4-3-1に示されるような4つのタイプを類型化した。

Fig. 4-3-1 において、P、M 両方において、強い場合を大文字、弱い場合小文字で、表現されている。

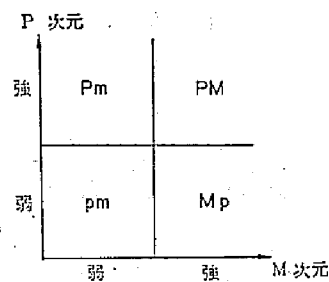


Fig. 4-3-1

多くの調査研究の結果からは、最高の生産性とモウールを上げている組織の管理者は、P機能とM機能の双方がともに強いPM型リーダーであることが明らかにされている。

さらに、Blake & Mouton (1964) の、マネジリアル・グリッドの構想もこれとよく似て、管理者の関心を「人間」と「業績」との2方向に分けて、その度合を9段階にめもり、9・9型マネジャ―こそ望ましい管理者像であるとしている。

さて、こうした研究の結果は、本研究における二面性群と、PM型との関連性を示唆するものであろう。

両者の関連を証左するものとして、間接的ではあるが、PM型と、二面性群がともに、

W-Jで、flexibleであったという事実をあげることができるだろう。

藤田(1975)によれば、低不安の被験者群においては、 P_m 型、 M_p 型、 pm 型のいずれよりも、相対的に PM 型において、'構え'の効果が最も弱く、W-Jによる、flexible群とされている。

これらの結果をもって、二面性群 = PM 型とすることは、誤まっていると思われるが、'P'二面性群の優が集約されていく途上には、 PM 型との関連性がうかびあがってくることは、たしかであろう。

② Negative 二面性群

第3章において、得られた結果によれば、
'N'二面性群は、不安が高く、非活動的である
が、そのエネルギーは、心的、頭脳的な側面
にあげられていることが、推測された。'P'二
面性群とは異なっており、対人関係及び社会場面
での活動性はみられない。一方、芸術作品な
どでは、決まりきったものを好まず、矛盾を
含んだものや、あいまいなものを好む傾向が
みられる。また、社会的にのぞましいとされ
る特性が自分にあてはまるとするよりは、あ
しろ、のぞましくない特性の方が自分にあて
はまるとしている。

こうしてみると、'N'二面性群は、前節
でみえた'P'二面性群とはまた異なり、1に像が思い
浮かべられる。

この群のことを考える時、筆者には、Storr
(1972)の、以下のことが連想される。

“創造的人間の特徴が対立物の非凡な分裂と、
その分裂についての非凡な自覚にあると考え

る理由は十分ある” “創造力は、内面の緊張と、程度の差こそあれ、すべての人間を悩ませる分裂とに折り合いをつけるにめ、あるいはそれに対して象徴による解決法を見つけるために、才能ある人々が採用する一つの様式である。”

また、Barron & Welsh (1952)によれば、画家とそうでない者を比較してみると、画家は、複雑で非対称的な絵を好み、そうでない者は、単純な絵を好む傾向があるという。

こうしたことから考えると、 $'N'$ 二面性群は独創性と何らかの関連性をもつことも予想される。さうに言えば、芸術分野などにおいて、そのエネルギーを流れ込ませていることが、推測される。

以上みてきたように、 $'P'$ 二面性群と $'N'$ 二面性群は、やや異なった像を想起させる。いずれもが、エネルギー量の多さを感じさせるが、それを発揮する場が、外的—内的、あるいは、社会的—個人的とでもいえるような

対照的な違いをもっているようである。

これらの論は、推論の域をでないが、“二面性”群のもつエネルギー（これは、そのダイナミックスからくると思われるが）のゆくえについて、より実証的な研究が積みかさねられることが望まれよう。

なお、本論においては、“一面性群”についてあまり詳しくふれることができなかった。
‘P’一面群は、活動性高く非協調的、支配的であるが神経質なところがみられる。“二面性群”ほどではないが、不安も高くはない。不安をいさえている要因は自我の強さにみられるようである。また、‘N’一面性群は、劣等感が大きく、非協調的だが、二面性群にみられた、軽躁性尺度での高得点が、一面性群には、みとめられない。不安に関しては、二面性群とかわらないが、欲求不満緊張からくる不安については、二面性群より有意に低かった。NJでは、‘構え’の効果が最も強かった群となった。一面性群は、二面性群の対極にあるもので

はたはく、一つの類型的なものである。また、
二面性、一面性のいずれかが、他方よりすぐ
れているといった価値観をもちこむことも、
危険であるように思われる。ただ、そのエネ
ルギーを有効に生かす場には、かなり違
いがあると考えられ、それを明らかにしてい
くことが、発展的な方法だといえよう。

(4) “人格の二面性”をめぐって

前節において、主に、“二面性”群についてその特徴をさぐってきたが、そもそも“二面性”とは何であろうか。それにはしかにあるのか、どこにどうしてあるのか。どうしてできあがってきたのか。人は、それをどのようにとらえているのか。そこに個人差があるのはどうしてか。それはどういう性質をもつか。どんな構造をしているのか。モデルは設定できるのか。-----“二面性”をめぐるといふことは尽きることがない。そのすべてに、ここで答をだすことはできないが、ある程度のアプローチを試みてみたい。

① “二面性”はあるのか

およそ、心理学の理論においては、あるのかどうかということ議論するのは、意味を為さないことが多い。それは、手にとりだして、見ることも、あるいは実証することも不可能だからである。そこで、‘ある’という仮設をもうけて、その証拠となる実例をつみ重ね

ていく。'無意識'という概念についても然りである。

"二面性"ということに関しても、筆者は、
'ある'という前提から出発した。存在を指摘する理論やあるいは、その前提のうえで行われてきた測定の試みをとりのけてきた。そして、TSPSという、Tとえていうならば、ちょっとレンズに工夫を加えたカメラを携えて、証拠写真をとりにでかけたわけである。結果的には、たしかに"二面性"ほうつって、いて、その証拠としての意味を為したものである。思われる。ただし、そのとうえ得にものは、無限といってもよいほどの、二極対立のうちのごくわずかの相である。従って、それを以てすべてに拡張することは、慎まねばならないが、逆にいうと、このわずかの相のうちにも、"二面性"をたしかめ得たことは、注目には値すると思われる。おまけに、質問紙法という、意識に近い層においても、"二面性"が、とらえられたわけである。

では、TSPSにおいて、“一面的”とされた人がいたことは、どう説明されるのか。本章第(2)節ですでに述べたように、特に、質問紙法においては、自己評定の際、“認知的自己”が表現される。この“認知的自己”すなわち、自分をどのようなとらえているかという点において、“二面的”“一面的”という差が生じてくるものと思われる。

従って、TSPSは、直接的に、“現象的自己”における“二面性”の存在を証明するものではない。ただ、その手がかりを与えてくれるものといういい方は可能であろう。

なお、現実の事象において、“二面性”の存在を示唆するものとして、多くとりあげられるのは、“二重人格”の例である。Prince (1905) や、Thigpen & Cleckley (1957) の発表した例では、たとえば後者における、イヴ・ホワイトとイヴ・ブラックといったふうに対照をなす2つの人格があらわれる。

“二重人格”は、病理的な状態としてとらえ

うれるものなので、それを以って、人格のあり方とすることはできないが、こういった現象がたしかに存在することは、興味ある事実だといえよう。

② “人格の二面性”の成立

“人格の二面性”は、何のために、どのようにしてできあがってくるのであろうか。

この問いに答えるために、筆者は、TSPSを実施した際の、被験者の生の声を参考とすることにした。対象は、京都大学学生（教養部）279名（男244女35）で、TSPSを実施したあと、このテストをうけて感想及び意見をレポート用紙1枚程度に自由記述させた。その際、スコアについても被験者自身に算出を求めた。ただし、テストが何を測定しようとしているかについては、何も伝えなかった。

このようにして得られた記述の中には、“二面性”に関することだけでなく、‘P’と‘N’についてなど様々な意見がみられたが、ここでは、“二面性”に関する意見のみをとりあげて検討することとする。

TSPSは、相反する対の双方について評定するという形式をもっているために、被験

者は否応なく“二面性”ということに対峙させられるらしい。その際、自己の“二面性”について被験者はどのようなうけとっているのだろうか。まず“二面性”の成立について述べている例を引用してみよう。

⑦左右は一見全く対照のようだが、いざ答える時になると、こんな場合はこうだ、あんな場合はこうだと考えていると全く対照ではなくなるのでおもしろい。

⑧時と場合によって物事に対処する仕方がかなり異なると思ったため、両方あてはまった。

⑨表むきの自分、内側の自分と考えていくと、どの言葉も大なり小なりあてはまっているようだ。

⑩2つの面がある。これは社会集団に対する恐怖が生みだした1つの自分なりの解決法。

⑪両方にあてはまることがあった。とはいっても、同時に現われるのではない。

⑫両方にあてはまった理由は、①日によって気分が変わりやすく、それによって性格もある程度変わるから。②過去の性格と現在のそれがごちゃまぜになっている。③普通の人間として当然のこと。

⑬人の性格とははっきりわりきれるものではなく、両方につけることがあっても不思議とは感じない。

⑭人間の性格は対照的な要素を矛盾なくもてる。個人に対する環境、内的要素などによってどちらかが大きく表面にあらわれることがあっても本質的には2つは存在する。

⑮自分の事を考えてみると、多重の人格が、時によって交代することもあるが、多くの場合常に共存していて、時には自分のとるべき道を正反対の2方向へ同時に導く。

これらは、“二面性”の存在を意識し、うけいれているもののうちで、“二面性”が成立する経緯について触れている代表的な例をあげたものである。

“二面性”の成立ということを考えるにあたっては2つの方向性が考えられる。一つは、外的条件であり、他方は内的条件である。外

的條件というのは①でいう「時と場合」あるいは④の人が言っている「表裏の自分と内側の自分」などというもので、他者あるいは環境と自己との関わりの中で生まれてくるものと考えられる。⑤でとらえている“二面性”というのは土居（1976）のいう“オモテとウラ”に近いかもしれない。⑤の意見などをみると“二面性”は適応のための一手段として生じていることがうかがわれる。

次に、内的条件というのは、“二面性”が、他との関わりではなく、もともと備わったものというところである。⑥の③、⑦などに「人間の性格とはわりきれものではない」という意見が述べられ、⑦においてはさらに明確にされている。こうい、た意見はたいへん多く、“二面性”の存在を認めている者の中では、最も多かった意見である。さて、今、外的・内的という2つの方向をあげたが、この2つは不可分に結びついているものであり、“二面性”の萌芽をもった人格が、やがて、

環境からの要請や他者との関わりの中で、“二面性”を含んで人格を成立させていくものであると考えられる。ところで、この“二面性”を㉑のように自覚するうえには、人格が時間という軸のうえに成りたっている事が要因としてあげられる。㉒にもあるように、“二面性”は全く同時にあらわれるよりはむしろ時を移して生じるが、人格が時間を超えてその統一性を保つものであるために、矛盾しているとはとらえながらも、いずれもが自己の中に存在するということとを許容できるのであろう（㉓の㉔）。ただ、㉕のような場合には、時を移さず“二面性”が同時に共在していると考えられ、こういった可能性についても否定できないことが示されたわけである。

さらに、上に述べた、外的・内的条件というのは、Erikson (1959) のいう、“自我同一性”の2つの側面、すなわち、“自分は他者と違って自分である”という感覚 (self-sameness) と“自己はこれまでもいかにして自

分となってきたのか”という感覚 (continuity) とに対応しているように思われる。

従って、いうならば，“自己”を支えている空間軸と時間軸の中でこそ，“二面性”は許容され、成立しうるのであり，それと同時に，その中でこそ“自我同一性”が形成されていくという，一種の paradox がなりたっているのである。

③ “二面性”に対するとまどい

②節においては、人格の“二面性”についてその存在を認め、うけいれてい々とみなされる例をあげたが、意見の中には“二面性”の存在を認めながらも、それに対するとまどいを訴えるものや、存在の事実すら否定しようとするものもみられた。たとえば、

㊟両方にあてはまったりして、自分に疑問を感じたくなるような矛盾が所々みられた。

㊟左右で相反するような答もずいぶんあると思うが、分裂症と思われないか心配。

こういった意見では、両方につけてしま、たものの、その事実を受け入れ難いと感じている様子がうかがえる。さらに、

㊟全く反対の意味で使われている言葉に両方あてはまったりしていささかショックをうけた。

など、かなりの動揺をうけたことが示されている例もある。そして、そうい、たとまどいを解決する方法として、“実は対が反対だということ自体が誤っているのではないか”(対が反対でないのなら、両方につけたとしてもおかしくはない)というように考えて、自らの整合性を保とうとしている例もみられた。

②相反しないと思われる対があったので、そのため両方あてはまったりするものができてしまった。

これらの例では“二面性”を示すということ
を‘どうもおかしい’こととしてとらえてい
るようである。先にあげた“二面性”を受け
入れている意見と、これら受け入れ難いとし
ている意見とは、ほぼ同数存在している（
両方につけた‘ということ’を明記しているも
ののうちで、そのことを受け入れていると判
断されるもの60名、受け入れ難いとしている
と判断されるもの62名である）。

さて、こうした“二面性”に対する抵抗は
どういったところから生じてくるのであろう
か。まず第一に考えられる事柄は、人格の統
合性を保つために人はあらゆる矛盾をとりの
ぞこうとするということである。‘人格は1
つのものである’という考え方は、筆者の
考えていたよりもはるかに強く根ざしている
ものであるらしい。

③左と右が矛盾しないように……と無意識のうちに思う。そのため、左右を独立してとらえる
ことはできない。

こういう例では、二面的につけないよう、ふみとどまっているとでもいった感じであり、多くの意見が「左右の評点の和が6になることが理想である」と述べていた。

こうして、「人格は一つである」といういわば“構え”のようなものが存在しているところへ、このテストが放りこまれたことによって被験者は、“振動”をおこされてそれに対する対応として上記のような意見がおこってきたものと思われる。従来の、例えば、長島ら(1965)の作成した Self-Differential の場合などでは、対語は、たとえば「清潔な—不潔な」といったものであって、被験者はどちらかだけを選択することが割合容易であった。ところが TSPS の対は望ましさの程度に統制が加えられていることも手伝って、対の双方につけやすくなっている。いわば、対自身のもつ特徴によって、“二面性”をひきだしやすくしており、そのために被験者としては「普段意識していなかったところ」に手探りをい

れられて、生のかたちのまま放りだしてしま
ったような印象をもつものもあるのではない
だろうか。むしろ“感情的”とでもいえるよ
うな、“二面性”に対する抵抗を示す意見と
みると、そういった可能性も考えさせられる。

なお、この‘一つであること’の追求につ
いては、すでに第一章において述べた、Zim-
bardo (1980) が、その拠り所について10個の
仮説をあげている。彼によれば、パーソナリ
ティーの中の、状況に支配されない一貫性を、
あまりにも強調することは、‘錯覚’という
ことになる。

また、Storr (1972) は、‘認知的不協和’に
関する研究と関連づけて以下のように述べて
いる。“なぜそのような一貫性というものが
探求の対象になるのかという疑問は解答しに
くい。なぜ人間は自分自身の人格の内部や外
部世界の中にある不調和に、いわば不快感を
感じるのだろうか。” “この問題について、あ
る心理学者たちは‘適合、不適合’と呼ぶし

ほかの学者たちは‘均衡・不均衡’と呼び、さらにほかの学者たちは‘協和音’‘不協和音’という形で言及する。”“自分自身の心の内面に不調和を発見すると、それに対して不快を感じる人間精神の強い傾向であり、その結果、この不快を除去し、さまざまな形である種の統一を回復あるいは達成しようとする同じように強い傾向である。”“なぜ人間は不調和と気軽に折りあうことができないのであろうか。たぶんでてきそうなしつの答えは、二つの干し草の束から等距離のところにいて、どちらに最初に近づいたらいいか決められなかったために死んでしまったらばのように、不調和が行動を麻痺させるおそれがあるということである。”さらに彼は、創造的芸術家は、この不協和に対する忍耐力があるとしている。

矛盾に対する対応の個人差については、次節において述べる。

④ “二面性”に対するとうえ方の違い

これまでいくつか示してきた例でも明らかのように，“二面性”ということに対する受けとり方は、人によって様々である。これは、すでに述べたように、TSPSが、ロールシャッハテストにおける図版のように、ある刺激となって、被験者によって様々な反応を引き起こしたと考えられ、その反応パターンを分析することは意味のあることだと思われる。被験者の中には“二面性”（両方につけに）について全く言及していないものも存在する。また、言及はしていないがどうもひっかかりを感じるという者もある。そこで、そうして意見もすべて含めて全体を反応パターンによって分類することも試みてみた。その際“二面性”をどの程度受けいれているかという基準に従って段階づけを行なった。これを、Table 4-4-1に示す。

I段階は、このテストを受ける以前から“二面性”の存在を考えていたというもの、

Table 4-4-1

二面性に対するとらえ方の諸段階			
諸 段 階	本文中例	該当数	(%)
I. TSPS を実施する以前から二面性の存在を考えていたとするもの		14	(5)
a. 人間はもともと誰でも二面性をもつものである。	㉔	3	
b. このテスト形式はすぐれている。		5	
c. 自分は特に二面性の傾向が強い。普段からそう思っていた	㉕	6	
II. TSPS 実施後二面性の存在に気がついたがそれを受けいれているもの		46	(16.5)
a. やって見たら両方にあてはまることがあった。しかしそれが普通なのではないか。人間とはそんなもの。それがおもしろかった。(その他二面性を認めるような理由づけをしているもの)	㉖㉗㉘	29	
b. 差が少ないことが性格の対極性(両面性)を示すのだろう。		7	
c. 自分の中に相反するものの共存していることを自覚させられた。		10	
III. 二面的につけた事に気づき、その事に対してとまどいを訴えているもの		31	(11.1)
a. 自分にはAというところもあるがAというところもある。(矛盾した感じ)		5	
b. 対語は反対のはずなのに、やってみると両方あてはまったりあてはまらなかったりすることがあった。		8	
c. 反対のはずなのに両方にあてはまってしまった。これは、自分の性格がどっちつかずだから。自分は矛盾しているように感じた。(理由づけはしているが、受けいれているとは思えず、別の面からの理由づけをしたり、当惑が先に立っているもの)	㉙㉚	18	
IV. 二面的につけた事に気づき、それをどうもおかしいと考えているもの		31	(11.1)
a. 理想的には(元来)片方がかなりあてはまるなら他方はほとんどあてはまらないとなるはずなのにそうならなかった。(どうも変だ)(理由づけをしても対のせいにしていたりなど)	㉛	15	
b. 矛盾した結果になっている。へんな結果だ。ショックだ。	㉜	6	
c. 矛盾した結果になる。それで仕方なく、どれも“どちらともいえない”につけてしまうことになった。		10	
V. 二面的につけてあてはまらなかった。ふみとどまった、困ったもの		24	(8.6)
a. 左右の語を独立に考えて答えるのが難しく、統一を保たせようという意識が働いた。	㉝	15	
b. 両方ともあてはまると思うものもあったので、どう答えればよいのかわからなかった。答えにくかった。		9	
VI. 明確には言及していないが、何らかのコメントを加えているもの		46	(16.5)
a. 全然わからないが、真実の私に近い結果がでたように思う。こういう形式は初めてだが、おもしろかった。スラスラかけた。		4	
b. どこにマルをつけてもウソになる。(どんどん新たな自分の点がでてくる。自分とはまるで正反対のように答えたい誘惑にかられる。理想像が入ってしまう)		26	
c. 差が0になる時どう考えればよいのかわからない。		4	
d. ほとんどが“どちらともいえない”になった。		8	
e. とまどった。		4	
VII. 言及なし		82	(29.4)
VIII. 言及しているものの、意味が今一つはっきりせず不明なもの		5	(1.8)
計		279	(100)%

Ⅱ段階は、テストをして初めて気づいたとしながらもそれを受け入れているもの(“なるほど”といった感じ)、Ⅲ段階は、とまどい

を訴えるもの（“どうしよう”），Ⅳ段階は
 どうもおかしいと考えているもの（“へんだ
 ”）である。ⅠからⅣまではいずれも‘対の
 両方にあてはまる’すなわち二面的につけた
 事に気づいていることを該当条件に加えてあ
 る。それに対してⅤ段階では，結果的に二面
 的にはつかなかったが‘あぶなかった’ある
 いは‘困ってしまった’とするものである。
 Ⅵ段階では，つじ方についての言及はないの
 だが，“二面性”との関連性がうかがえるよ
 うなものをあげてある。Ⅶ段階は，一切言及
 のないもの，Ⅷは，不明なものである。

Table 4-4-1 では，それぞれにあてはまると
 考えられる意見の例を種類別にまとめて示し，
 また，それぞれの該当数，及び，先にあげた
 ㊦～㊾の例がどれにあてはまるかについても
 あわせて示した。

さて，こういったとうえ方の違いはいったい
 いどこから生じてくるのであろうか。Ⅰから
 Ⅳ段階を通してみると，そこにはまず，自己

の“二面性”に対してどの程度意識しているかという差が認められる。Ⅰ段階では、TS、PSをうける以前から自己の“二面性”に対する認知がみられ、Ⅱ段階においても、うすうすは感じていたという程度の意識性は認められる。Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ段階においても、“二面性”に対する受けとり方は異なるものの、改めて自己の“二面性”を意識したという点はⅡ段階と同様である。それに対し、Ⅵ、Ⅶ段階においては“二面性”に対する意識化がなされていないことが推量される。こうしてみると“二面性”に対してそれをどの程度意識化しているかという点で相当個人差が生じていることがわかる。また、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ段階の差異は、“二面性”に対して、どちらかというところ、よい一悪いという次元でとらえた評価の違いと考えられる。これは、‘人格は一つである’という“構え”と、二面的につけたということとの葛藤状況の中で、どのような解決方法をとったかという差異を示

しているといえる。

こうしてみると，“二面性”のとりえ方についての個人差には，“意識化の程度”と“受容度”の2つの要因がはたらいているようである。この2要因は無関係ではなく、質問紙という意識的な場で、二面的につけることができたという事実がすでに、二面的である事実を受容していることになる場合も少なくない。第2章(b) (p. 166)でも示したように、とくに‘P’側面においては、二面的につけた人が、すなわち“二面性”を受容していた。しかし、‘N’側面においては、必ずしもそうとはいえず、二面的につけはしたものの、そのことがうけいれられない人も数多くいたのである。

“受容度”に関する問題は、すでに、③において詳しく述べたので、ここでは、“意識化の程度”に関して、少し考えてみたい。

Fig. 4-4-1 は、A, B という、自己意識レベルの異なる人を取りあげて、図式化したもの

である。イ、ロ、ハ、ニ... はそれぞれ、人格（あるいは人間）の中の対立を示している。

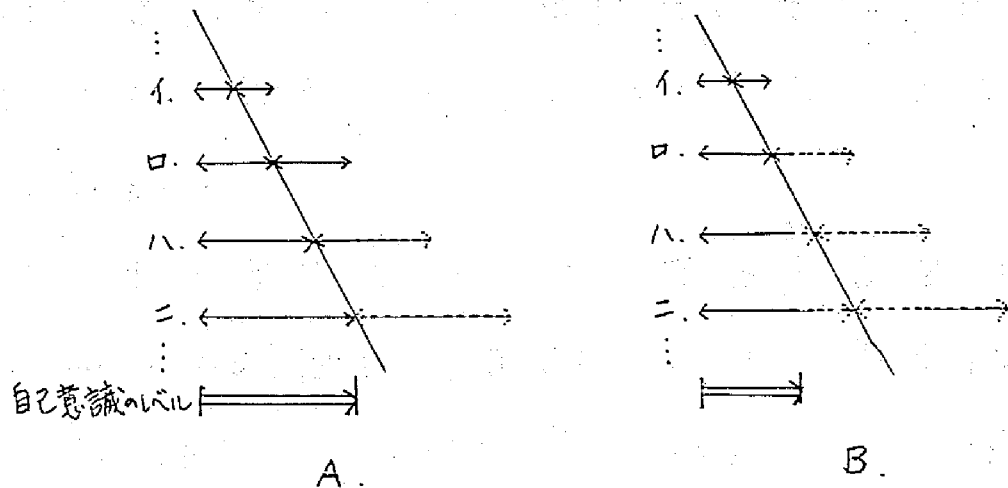


Fig. 4-4-1. "二面性"と自己意識化のレベル

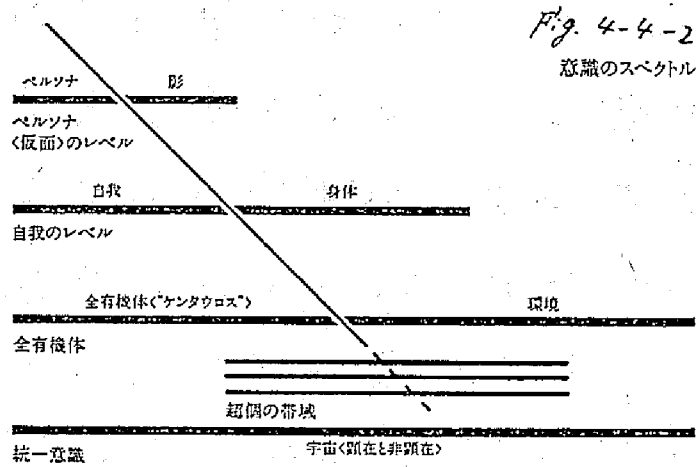
AとBとでは、自己意識のレベルに差がある。下にいくほど、ある意味で"深い"層の対立を示している。そして、意識化されているところが実線、そうでないところが点線であらわされている。

TSPSは、たとえばいうなら、ロとハの中間あたりの位置で（どこでもいいので）フラッシュを打て、その時の心の有り様を映しだすようなものである。Aの人であれば、イの対立も、ロの対立もともに意識化されており、光の中にその両者が姿をあらわす。し

かし、ハの対立は、まだ無意識に眠ったままである。一方、Bの人の場合は、イの対立は意識化されているが、ロについては、対立物ではなく、片方しかないのである。ここに、個人差が生ずる。

ことわるまでもないが、TSPSというのは、一つの断面にすぎない。TSPSによって、二面的とされたからといって、すべての層、局面において二面的というわけではもちろんなく、また、今回、“二面性”をむしろ“あたりまえ”のこととしてうけいれている人も、また別の新たな対立に対しては、“許し難いこと”としてせまってくるように思うものと考えられるのである。

なお、Fig 4-4-1は、Wilber (1977) が、意識のスペクトルとして描いた、アイデンティティの諸レベル (Fig-4-4-2) と、基本的な考え方として通じるものである。彼は、“わたしは誰か?” という質問に対する答えはすべて、自己と非自己のあいだに境界線をひ



く基本的な手順から生じてくるとし、さらにこの境界線は、しばしば移行するというのである。Fig. 4-4-2では、上にいくほど、アイデンティティがせばめられ、限定されている。

こうした図式はあくまで図式であって、真実をそのまま映しだすものではないが、一つの仮説として、興味深いと思われる。

さて、“二面性”についての個人差について考察を加えてきたが、“二面性”というのは、それを有する方が、あるいはそれを意識化している方が“よい”状態なのだろうか。この点について、次節でとりあげてみたい。

⑤ “二面性”の質について

結論から先に述べると，“二面性”を有している、あるいは意識化しているということは、その程度にもよるが、天才と狂気の両方に関連しているように思われる。

Storr (1972) によれば，“創造的人間は、一般人よりも大きい分裂、すなわち強調された形の対立物のとりあわせを示す。”一方、分裂病はその名のどく、自己のうちの分裂を意識させずにはおかない。先ほどの、Wilberの図でいえば、二面性を有するということは容易に自己と非自己との間の境界線が移動するということとつながり、てくるのだが、それはまさに、自我境界の薄さという、分裂病群に指摘される特徴である。

両者をわけけるものは何であろうか。“創造的人間は一般のわれわれより分裂がひどくても、強いエゴ_(自我)をもっている。防衛機制にたよることなく、内面の対立物を組織し、統合する特別な力をもっている。”Storrによれば、

それはエゴの力ということになろう。

Fig. 4-4-3は、ら線の一部を

描いたものだが、A・Cを、二面



的、Bを一面的というようにみ

Fig. 4-4-3.

なすと、AとCは、位置的には

非常に近いところにあるが、質的に異な、て

いることが示されるだろう。Aは、“二面性”が

いけば、ばうばうの状態であっている Ambiva-

lence の状態であり、Cは、それが統合され

ている状態である。AからCへ至るには、B

を通る必要があるといえるかもしれない。B

は、一面的ということであるが、強い安定性

をもっていることも考えられる、しかし、B

の中には、二重人格のように、(二重人格は

“二面性”をもっているのではなく、逆に、

過度に一面的とみなしうるものである) あり

や片方を闇に追いやって、いるものもある、で、

そうした場合、病理的な状態をひきおこ

すだろう。(従って、Bも、一点とはいえない

い)

実際には、AとCは微妙に交錯しあっているものであろうし、決して静止するものでもない。また、自己のいろいろなところにおいてこのA、B、Cが、一色で存在しているわけではなく、モザイクのように分布しているのではいかと考えられる。

ただ、たしかに、エゴの力の差というものは存在するのであろうし、(Cの状態は、Aと異なり、mobilityをもつものだといえよう) "二面性"の質の差も、みすごすことのできないものと思われる。

さらにいえば、この問題は、日本人の自我のあり方の問題とかかわってこよう。ここでは深くふれないが、"二面性"を許容しやすいと思われる日本人的自我も、それゆえに、長所と短所とをもつものと思われる。

この"二面性"の質的差違の問題については、今後さらに検討がつけられる必要があるだろう。

⑥ “二面性”のモデル

“二面性”とはどんなものか、それをモデルとして示すことは、一つの望みではあるが、それは、たいへんむずかしい。

2つの異な、対極、対極は、必ず“エネルギー”を生む。また、エネルギーをもった生きに人間の中でこそ、“二面性”は存在しうるものであろう。“二面性”がいかんにして人格内に存在しうるかという点について考える場合においても、こういったdynamicな視点からとらえようとすると、それを一つの静的なモデルとして示すことは困難になる。

“二面性”のモデルを考えるうえで重要なことは、まず、静的なものではなく、動的な機能としてとらえるべきだということになる。Bachelard (1940) は『否定の哲学』のなかで、化学者ポール・ルノーの弁証法的な物質のとらえ方をのべながら、次のようにいっている。“ひとは、現象を組成するさまざまな原理を扱うことなく、ある型の画一的線

合を押しつけてきたのだ。とりわけ、物質（
実体）に関しては、静止の状態に価値が与え
られてきた。”

物質に限らず、人格論においても、それを
あたかも実体のごとくとうえ、そして静止的
な観点からとうえようとしてきたのではない
だろうか。これは、人格の本質的な特質であ
る「エネルギー」と「時間性」を捨象することとつ
ながり、てくる。“二面性”という観点を導入
するかぎり、この「エネルギー」と「時間性」は、
もっとも中心的にうかびあが、てくる事柄で
あるのだが。

この“動的”観点の重要性を唱えたのは、
何も事新しいことではなく、すでに、“万有
は流転する”ということばで有名なヘラクレ
イトスが指摘していたことがうである。彼に
よれば、“変化・運動・多様こそが実在の真
相である”という。

Jung は、ヘラクレイトスのいう“Enantio-
dromie（エナンティオドロミー、”相反する”という意）”を、

無意識的な対立が — 特に時間的に相前後して — 現われて来ることの意味で用いている。

このように、人格を動きを含んだものとしてとらえる時、それを‘表現’することは、たいへんむずかしくなってくる。たとえば、ある人を‘紹介’しようとする時、懸命にことばを連ねて形容し[たとしても、なかなかその人の像が鮮明にならないことがある。そういう時その人の写真をみせると、文字通り“一目瞭然”である。しかし、写真にした時、すでに固定化がおきてしまっている。従って、‘動き’を導入することと、その人を‘端的に’表現することとは、ともすれば相反しがちである。

しかし、最近では、ビデオが普及している事実にもあらわれているように、写真で示される一面的な像にあき足らなくなっているところがあるのかもしれない。たとえば、‘端的で一言でいって得ていなくても、生き生きとしたイメージをとらえたい’という動きのあらわれ

とみることもできよう。

“動き”を含んだものとしてみる時，“二面性”をモデルとして示すことが困難であることを述べた。しかしながら，既存のものの中に，モデルの一形態として考えうるものが存在する。それは，“曼荼羅”である。

“曼荼羅”は，密教が生みだした独特の思想的・芸術的世界の具象化であり，もともとは、坐禅をして，自分の心の中にあられてきたもの，いわゆる観想の中にでてきたものとされている。一般には，そういう観想の中にでてきた仏の世界を絵にあらわしたものをいうことが多いが，“曼荼羅”のもともとの意味は、(いくつもあろうのだが，)‘本質的なもの’であり，真理の本質あろういは宇宙の本質をあらわしているとされる。それゆえ，“曼荼羅”は，全体性の象徴とみなされている。

Storr (1972) は，“心の中の対立力の新しい融合が，対立物を単一の円形の中に囲いこみ，結合することができる曼荼羅模様によ。

て表現されるのはきわめて自然である。曼荼羅は陰陽の融合を象徴化するよく知られた単純な図形から、信じがたいほど凝った模様に至るまで、あらゆる複雑さの段階がありうるが、実際、対立力の融合をこれ以上簡潔に描く方法は想像しがたいであろう。”と述べている。さらに彼は、芸術家にとっては、その作品が曼荼羅の役わりを果たし、その中で、自らの内面の対立を融合させようとしているともいう。

曼荼羅は、さらに、その中に動きを含んでいることを、杉浦(1983)は指摘している。詳しくは述べないが、彼によれば、曼荼羅の中には、様々なかたちでの動きが内在しており、いうならば、“動的に展開する象徴性”であるという。“曼荼羅は決して静止していない”のであり、さらには、“曼荼羅は平面ではなくて、渦巻きを包みこむ球体ではないかと思う。”と彼は述べている。

次に、Wilber(1979)のいう、対立の内な

る統一についての記述を紹介しよう。

彼によれば，“われわれが完全に分離し和解不可能な対立と考えていたものは，“1つの同じリアリティの相補的な側面’となる”
と言い、哲学者ホワイトヘッドの，“究極的要素は本質的に振動である”という考え方を援用して，“あらゆる物事は、実際には波の峰と谷のように単一の振動なのだ。波はそれ自体，単一のでき事であるが，峰と谷，頂上と底という対立を通してのみ自らを表現する。そのため，そのリアリティは峰だけにも谷だけにも見出すことができず，その統一にしか見出すことができない。”と述べる。さらに、彼によれば，このことが明確に示されているのはゲシュタルトの知覚理論だと言い，ここでは，対照をなす背景との関連なくして，物体を自覚することはないという。（筆者もまた，“二面性”をイメージする時，Rubinの盃と顔の図（Fig. 4-4-4）で，図と地がちらちらと反転しながらうかびあがってくるのが

連想されることがある。)

Wilber (1979) によれば、
対立は、境界線をひくこと
から始まる。そして、究極
のリアリティが対立の統一

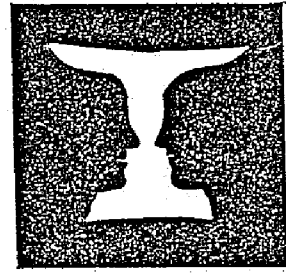


Fig.
4-4-4

RUBIN の壺・顔面図形
[RUBIN, 1921]

であるのだから、“究極のリアリティにおい
ては境界がない”と結論している。

こういった考え方に従うならば、対立物の
融合した世界というのは、あたかも雲のごと
く、境などというものが存在しないものがい
メージされるかもしれない。“二面性”のモ
デルを考えるにあたっては“正答”などとい
うものはもちろんあり得るはずもなく、ただ
イメージをにやにやさせるしか方法がない。そ
の中には、筆者は、こうい、た雲のイメージ
をうかべることもある。あるいは、しつの中
心的なものがあって、そのまわりを、対立性
を含んだ要素がめぐって、時に応じて使
いわけているといったイメージでとらえるこ
ともある。

ただ、"究極のリアリティ"などという場合、それをあたかも実体のごとくとり扱って議論することが妥当とは思えない。たとえば、今、ここに、いまだかつて（存在して以来）開けられたことのない、まっ暗な部屋があ、たと仮定しよう。その中に何物かがたとえ存在するとしても、誰もそれを知り得ず、それがはたして「存在」とよべるかどうかは疑わしい。人がそれを知りうるのは、扉をあけ、一筋の光がさし込んだ瞬間であって、そして、その時、同時に光が区分を生み、もうすでに対立が生じてしまうのである。従って、究極というのは、数学でいう、極限值のようなもので、無限に近づいたとしても、それを手にして、つかむことはできない。できることはただ、イメージすることだけである。

さて、"対立の融合"という時、よく、進歩への衝動はどうなるのだろうかという疑問がたされる。Wilber (1979) は、"全宇宙の半分だけではなく、そのすべてと親しむ立場に立

つことになり、進歩への衝動はなくなる”と述べている。たしかに“究極的”には、そういえるのかもしれないが、筆者の考えではむしろ、“二面性”は、一回達成されてそれで完結するものではなく、統合が、また新たな対立を生み、それが統合へむけて動いていくという“プロセス”であるように思われる。

これは、弁証法的な考え方と通じる。中埜(1973)によれば、弁証法の考え方の特徴は、以下の5つに要約されるという。

㊦ すべてのものは、それが有限である限り、必ずそれ自身の中に、自らを否定するものを含む。

㊧ 自己に内在するこの否定性のゆえに、すべての有限なものは必ず自分のなかから他者を産みだすか、自己が他者に転化する。それによつて自己と他者(または他者となった自己)との間に対立が生ずる。(対立は‘最初からある’のではなく‘生じてくる’のである。

⑦ このようにして生じた対立する2つのものは互いに他の存在を前提しあい、相補性の関係にある。

⑧ この対立は必ず一致に達する。これは、'必然的'に行われるのであって、はじめから正と反とが固定的に対立しており、それが突如として何か神秘的な作用によって統一されるわけではない。またこの統一は、本質的には'和解'である。何らかの仕方で両者がともに生かされるような和解的な統一である。

⑨ しかしこの和解的統一はけっして恒久的・究極的なものではなく、あくまで暫定的なものである。従ってその有限性のために、必然的にそのなかからそれを否定するものが生まれ、ここに新しい対立が生起する。

この新しい対立はまた前と同じように統一される。このようにして、すべてのものはこのプロセスをくりかえしながら'発展'する。

弁証法は生命（運動と発展）の思考であり、死（静止と停滞）の思考ではない。しかも弁証法において生と死とは断絶したものではなく、生はつねに死を含み、死のなかにも生がある。こういう連続的な思考のなかで時間性が重要な意味を持つことは明らかである。

“二面性”のモデルを求めて、様々なイメージや概念を述べてきた。今後、さらに異なったイメージが付加されていくものと思われる。

“二面性”のモデルを示すことは、特に、動的なものとしてとらえる時、必ずかしいことをすでに述べた。しかし、我が身をふり返ってみる時、“二面性”は、非常にありふれた、あたり前のこととして、すでに我が身に備わっていることを同時に認識させられる。人間の身体自体がもうすでに、完璧な“二面性”のモデルを示しているのだから。

この、“身近さ”“あたり前さ”と“困難さ”とは、我々が、‘自分’というものに対して、

最も近いところにいながら、それを到底とら
えきることができないという事実と、似てい
るのかもしれない。

文 献

- 阿部満州 1969 日本版MMP Iハンドブック 日本MMP I研究会(編) 三京房
- Adler, A. 1917 Study of Organ Inferiority and Its Psychical Compensation. New York: Nervous & Mental Diseases Publishing Company.
- Adler, A. 1926 The Neurotic Constitution. New York: Dodd, Mead & Co.
- Allport, G.W. 1931 "What is a trait of personality?" Journal of abnormal and social Psychology, 25, 363-372.
- Allport, G.W., & Odbert, H.S. 1936 Trait-names: a psycho-lexical study. Psychological Monographs, 47.
- Allport, G.W. 1961 Pattern and Growth in Personality. New York: Holt. 今田 恵(監訳) 1968 人格心理学 誠信書房
- Allport, G.W. 1966 "Traits revisited" American Psychologist, 21, 1-10.
- Allport, G.W. 1968 The person in Psychology. Beacon Press. 依田 新・星野 命・宮本 美沙子(訳) 1977 心理学における人間 培風館
- American Psychological Association 1954 Technical recommendations for psychological tests and diagnostic techniques. Psychological Bulletin, Supplement, 51, 2. Part 2, 1-38. 小見山栄一(訳) 1958 心理検査・診断検査に対する専門的勧告 日本図書文化協会
- American Psychological Association, American Educational Research Association and National Council on Measurement in Education 1966 Standards for educational and psychological tests and manuals. American Psychological Association.
- 青木孝悦 1971a 性格表現用語の心理 — 辞典的研究 心理学研究, 42, 1-13.
- 青木孝悦 1971b 性格表現用語における個人的望ましさの因子分析的研究 心理学研究, 42, 87-91.
- 青木孝悦 1972 性格表現用語580語の意味類似による多因子解析から作られた性格の側面 心理学研究, 43, 125-136.
- 青木孝悦 1973 性格側面57についての2, 3の研究 千葉大学 人文研究, 2, 35-58.
- 青木孝悦 1976 多数の性格領域から得られた性格構造 The Japanese Journal of Psychology, 47, 239-249.
- Apfelbach, H. 1924 Der Aufbau des Charakters. (高良武久 1953 性格学 白揚社 より引用)
- 淡路円次郎, 岡部弥太郎 1933 向性検査と向性指数(下) 心理学研究, 8, 417-438.
- 東 洋 1964 信頼性と妥当性 心理学評論, 8, 70-81.
- Bachelard, G. 1940 La philosophie du non. Paris: Presses Universitaires de France. 中村雄二郎・遠山博雄(訳) 1978 否定の哲学 白水社
- Barron, F. & Welsh, G.S. 1952 Artistic perception as a possible factor in personality style: Its measurement by a Figure Preference Test. Journal of Psychology, 33, 199-203.

- Bem, S.L. 1974 The measurement of Psychological Androgyny. *Journal of Consulting and Clinical Psychology*, 42, 155-162.
- Berzins, J.I., Welling, M.A., & Wetter R.E. 1978 A new measure of Psychological Androgyny based on the personality research form. *Journal of Consulting & Clinical Psychology* 46, 126-138.
- Blake, R.R., & Mouton, J.S. 1964 The managerial grid. Houston: Gulf. 上野一郎 (訳)
1964 期待される管理者像 産業能率短期大学出版部
- Bleuler, E. 1911 Dementia praecox oder Gruppe der Schizophrenien, in *Handbuch der Psychiatrie*, Herg von G. Aschaffenburg. Spezieller Teil 4 Abteilung, 1 Hälfte. Franz Deuticke, Leipzig Wien. 飯田 真・下坂幸三・保崎秀夫・安永 浩 (訳) 1974 早発性痴呆または精神分裂病群 医学書院
- Block, J. 1971 *Living through time*. Berkley: Bancroft Press.
- Cattell, R.B. 1950 *Personality: A Systematic Theoretical and Factual Study*. McGraw-Hill.
- Cattell, R.B. 1957 *Personality and Motivation, Structure and Measurement*. Pp. 813-817. George, G. Harrap.
- Cattell, R.B. & Scheier, I.H. 1963 *Handbook for the IPAT. Anxiety Scale Questionnaire*. Illinois: IPAT.
- Deleuze, G., & Guattari, F. 1976 *Rhizome Introduction*. Les Editions de Minuit.
豊崎光一 (訳) 1977 リゾーム エピステーメ 1977年臨時増刊号 朝日出版社
- 土居健郎 1976 オモデとウラの精神病理 萩野恒一 (編) 分裂病の精神病理 4 東京大学出版会
Pp. 1-20.
- Edwards, A.L. 1953 The relationship between the judged desirability of a trait and the probability that the trait will be endowed. *Journal of Applied Psychology*, 37, 90-93.
- Ellenberger, H. 1954 The life and work of Hermann Rorschach. *Bulletin of Menninger Clinic*, 18, 5. 大槻憲二 (訳) 1964 エレンベルガー ヘルマンロールシャッハの生涯と業績 精神診断学 牧書店 Pp. 235-278.
- Erikson, E.H. 1959 *Identity and Life Cycle*. Psychological Issues, 1, 1. Monograph 1. New York: International Universities Press, Inc. 小此木啓吾 (訳編) 1973 自我同一性 誠信書房
- Frenkel-Brunswick, E. 1948 Intolerance of ambiguity as an emotional and perceptual personality variable. *Journal of Personality*, 18, 108-143.
- 藤田 正 1975 問題解決過程の構えに及ぼすPM式監督類型の影響について 実験社会心理学研究, 15, 116-128.
- Eysenck, H.J. 1947 *Dimensions of Personality*. London: Routledge & Kegan Paul.
- Gough, H.G. 1957 *Manual for the California Psychological Inventory*. Palo Alto, California: Consulting Psychologists Press. (revised edition; 1960, 1964, 1969)
- Green, R.F., & Goldfried, M.R. 1965 On the bipolarity of Semantic Space. *Psychological Monographs*, No. 599 (Vol. 79, No. 6).

- Guilford, J.P. 1959. Personality. New York: McGraw-Hill. Pp.99-102.
- 林 知己夫 1981 日本人研究三十年 至誠堂選書 6 至誠堂
- 林 知己夫 1982 心理学を問いなおす 杉溪 一言(編) 現代の心理学を考える 川島書店
Pp.27-40.
- Heise, D.R. 1969 Some methodological issues in Semantic Differential research.
Psychological Bulletin, 72, 406-422.
- 肥田野 直 1967 性格の特性 性格心理学講座 1 性格の理論 金子書房 Pp.94.
- 肥田野 直 1983 人格における特性論 岩波講座・精神の科学 2 Pp.134-167. 岩波書店
- 池田 央 1972 テスト作成の手順 心理学研究法 7 テストⅠ 東京大学出版会
- 池田 央 1973 妥当性の諸概念 心理学研究法 8 テストⅡ 東京大学出版会
- 今栄国晴 1964 セマンティック・ディファレンシャル法における中点評定について 心理学評論,
8, 206-208.
- 伊藤裕子 1978 性役割の評価に関する研究 教育心理学研究, 26, 1, 1-11.
- 岩井勇児 1975 質問紙調査の諸形式 続有恒・村上英治(編) 心理学研究法 9 質問紙調査
東京大学出版会 Pp.65-106.
- Janet, P. 1927 L'Evolution Psychologique de la Personnalité. 関 計夫(訳) 1955 人格
の心理的発達 慶応通信
- Jung, C.G. 1921 Psychologische Typen. 14. Auflage 1981 Gesammelte Werke, Bd.6.
Walter-Verlag.
- Kaplan, K.J. 1972 On the ambivalence-indifference problem in attitude theory and
measurement: A suggested modification of the semantic differential technique.
Psychological Bulletin, 7, 351-372.
- 笠原 嘉 1981 不安の病理 岩波書店
- 柏木恵子 1974 青年期における性役割の認知(Ⅲ) —— 女子学生青年を中心として ——
教育心理学研究, 22, 4, 205-215.
- 片口安史 1975 新・心理診断法 金子書房
- 加藤 厚 1983 大学生における同一性の諸相とその構造 教育心理学研究, 31, 292-302.
- 加藤正明・保崎秀夫・笠原 嘉・宮本忠雄・小此木 啓吾(編) 1975 精神医学辞典 弘文堂
- 河合隼雄 1962 現象学的接近法について ロールシャッハ研究Ⅴ, 150-161.
- 河合隼雄 1967 ユング心理学入門 培風館
- 河合隼雄 1969 臨床場面におけるロールシャッハ法 精神科学全集20 岩崎学術出版社
- 河合隼雄 1971 コンプレックス 岩波書店
- 河合隼雄 1983 人格論における対極性 岩波講座・精神の科学 2 岩波書店 Pp.278-307.
- 河合隼雄 1984 性格とは何か 講座 現代の心理学 性格の科学 小学館 Pp.3-27.
- Klaus, A. 1977 Sozialverhalten und Psychose manisch-depressiver. Ferdinand Enke Verlag,
Stuttgart. (若林明雄 1986 パーソナリティ類型論における分裂性気質型の検討 より引用)

Klopfer, B. & Davidson, H.H. 1962 The Rorschach technique — An introductory manual —
Harcourt, Brace & World, Inc. 河合隼雄 (訳) 1964 ロールシャッハ・テクニク入門
ダイヤモンド社

小林哲郎 1980 Ambiguity Tolerance 質問紙MAT-50について — 日本での信頼性, 妥当性の
検討 — 日本心理学会第44回発表論文集 Pp.501.

小林哲郎 1984 Ambiguity Tolerance 研究の展望 京都大学教育学部紀要, 30, 297-308.

小林哲郎・桑原(森)知子 1984 SCT-Bと人格の二面性スケールについて 日本心理学会
第48回発表論文集 Pp.605.

近藤英子 1980 独立次元としての男性性・女性性 —— 新しい性度尺度の作成をめぐる
京都大学教育学部 卒業論文 (未公開)

高良武久 1953 性格学 白揚社

Kretschmer, E. 1955 Körperbau und Charakter 21/22. Aufl. Berlin: Springer. 相場均(訳)
1961 体格と性格 文光堂

桑原知子 1979 人格の二面性について — 質問紙法による測定を試み 京都大学教育学部 卒業
論文 (未公開)

桑原知子 1980a 人格の二面性について — 質問紙法による測定を試み 日本心理学会第44回
発表論文集 Pp.24.

桑原知子 1980b 質問紙法による人格の二面性測定の試みと検証 日本教育心理学会第22回発表
論文集 Pp.598-599.

桑原知子 1981a 人格の二面性について — 二面性テストの作成と吟味 京都大学教育学部修士
論文 (未公開)

桑原知子 1981b 人格の二面性測定の試み(3) — Negative語を加えて 日本教育心理学会第23回
発表論文集 Pp.528-529.

桑原知子 1981c 人格の二面性測定の試み(4) — スコアの示すパーソナリティーについて 日本
心理学会第45回発表論文集 Pp.557.

桑原知子 1982a 人格の二面性測定の試み(5) — 不安との関係について 日本心理学会第46回
予稿集 Pp.309.

桑原知子 1982b 人格の二面性測定の試み(6) — Y-G, MMP Iとの関連について 日本教育
心理学会第24回発表論文集 Pp.416-417.

桑原(森)知子 1983a 質問紙法による人格の二面性測定の試み 心理学研究, Vol.54, No3,
182-188.

桑原(森)知子 1983b 人格の二面性について(7) — TSPSについての被験者の感想より 日本
心理学会第47回発表論文集 Pp.627.

桑原(森)知子 1984a 人格の二面性についての一考察 — 被験者の内省報告を手がかりとして
京都大学教育学部紀要, 30, 333-343.

桑原(森)知子 1984b 人格の二面性について(8) — 新しい二面性スコアの検討 日本教育心理
学会第26回発表論文集 Pp.358-359.

- 桑原知子 1985a パーソナリティー測定尺度に関する一研究 — SD法との比較による,新しい測定形式の検討 — 心理学研究, Vol. 56, No2, 79-85.
- 桑原知子 1985b 人格の二面性について(9) — “二面性”に対するとらえ方とスコアとの関連について 日本心理学会第49回発表論文集 1. Pp.237.
- 桑原知子 1985c 人格の二面性について(10) — 新スコアによる検討 日本教育心理学会第27回発表論文集 Pp.434-435.
- 桑原知子 1986a ‘不安’と‘人格の二面性’との関係について 心理臨床学研究, Vol. 3, No2, 83-89.
- 桑原知子 1986b 人格の二面性測定の試み — NEGATIVE語を加えて — 教育心理学研究, Vol. 34, No1, 31-38.
- Luchins, A.S. 1946 “Classroom Experiments on Mental set.” American Journal of Psychology, 59, 295-298.
- Mackinnon, D.W. 1944 The structure of personality. in Hunt, J. McV. (ed) Personality and the Behavior Disorders. Vol.1. Ronald Press.
- 丸井文男・久世敏雄・村上英治 1966 精神的不健康学生の早期発見と早期指導に関する研究(3) NACL (名大式性格診断形容詞チェックリスト)の検討 名古屋大学教育学部紀要, Vol.13, 75-86.
- 正木 正 1931 人間の類型の研究(二) 心理学研究, 6, 51-74.
- 正木 正 1936 自己診断の分析 —— 人間の類型研究 III 心理学研究, 11, 38-59.
- 正木 正 1939 性格における特質の諸規定について 心理学研究, 14, 特103-105.
- 正木 正・依田 新 1947 性格心理学 東亜出版社
- Maslow, A.H. 1962 Toward a psychology of being. New York: Van Nostrand. 上田吉一 (訳) 1964 完全なる人間 誠信書房
- 増永篤彦 1963 性格入門 —— タイプ的人生論 誠信書房
- Megargee, E.I. 1972 The California Psychological Inventory Handbook. San Francisco: Jossey-Bass Inc., Publishers.
- 三上英子 1983 男性性・女性性についての研究 — 独立次元としての男性性・女性性尺度を用いて 京都大学教育学部 修士論文 (未公刊)
- 三隅 二不二 1966 新しいリーダーシップ — 集団指導の行動科学 — ダイアモンド社
- 三隅 二不二 1984 リーダーシップ行動の科学 有斐閣
- Mischel, W. 1968 Personality and assessment. New York: Wiley.
- Mischel, W. 1976 Introduction to personality. New York: Holt, Rinehart & Winston.
- 三宅一郎・山本嘉一郎 1976 SPSS統計パッケージ I, II 東洋経済新報社
- 百名盛之 1960 Problem solving rigidity と Personality との関係について 京都大学教育学部 修士論文 (未公刊)
- 百名盛之 1984 rigidity の定義および概念規定をめぐって (1) 京都大学教育学部紀要 第30号, 173-192.
- Mordkoff, A.M. 1963 An Empirical Test of the Functional Antonymy of Semantic Differential Scales. Journal of Verbal Learning and Verbal Behavior, 2, 504-508.

- Murakami, Y. 1977 On stratum factor structure: Containing the critics and theorizing of Semantic Differential Method. *Psychologia*, 20, 98-106.
- 長島貞夫・藤原喜悦・原野広太郎・斎藤耕三・堀 洋道 1965 自我と適応の関係についての研究
(1) 東京教育大学教育学部紀要, 12, 85-91.
- 長島貞夫・藤原喜悦・原野広太郎・斎藤耕三・堀 洋道 1966 自我と適応の関係についての研究
(2) 東京教育大学教育学部紀要, 13, 59-81.
- 中村一男(編) 1965 反対語大辞典 東京堂出版
- 中埜 肇 1973 弁証法 中央公論社
- 日本MMP I 研究会 (編) 1969 日本版MMP Iハンドブック 三京房
- Nishiyama, T. 1973a Structural analysis of CPI and an attempt on its refinement. *Sapientia*, 6, 1-14.
- Nishiyama, T. 1973b Cross-cultural invariance of the Carifornia Psychological Inventory. *Psychologia*, 16, 75-84.
- Norton, R.W. 1975 Measurement of Ambiguity Tolerance. *Journal of Personality Assessment*, 39, 6, 607-619.
- 荻野恒一 1964 精神病理学入門 誠信書房
- 岡本重雄 1960 現代心理学概論 朝倉心理学講座 1 朝倉書店
- 岡本重雄 1962 生活心理学 朝倉心理学講座 8 朝倉書店
- Orlofsky, J.L., Aslin, A.L., & Ginsburg, S.D. 1977 Differential effectiveness of two classification procedures on the Bem Sex Role Inventory. *Journal of Personality assessment*, 41, 4.
- Osgood, C.E., Suci, G.J., & Tannenbaum, P.H. 1957 The measurement of meaning. Urbana: University of Illinois Press.
- Phahler, G. 1929 System der Typenlehren. (肥田野 直 1983 人格における特性論 岩波講座・精神の科学 2 Pp.134-167. より引用)
- Prince, M. 1905 The dissociation of a personality. (荻野恒一 1964 精神病理学入門 より引用)
- Rohracher, H. 1956 Kleine Charakterkunde. Urban & Schwarzenberg, Wien-Innsbruck.
宮本忠雄(訳) 1966 性格学入門 みすず書房
- Rokeach, M. 1960 The open mind and closed mind. New York: Basic Books.
- Rorschach, H. 1921 Psychodiagnostic. Bern: Ernst Bircher. 東京ロールシャッハ研究会(訳) 1969 精神診断学 牧書店
- 佐治守夫(編) 1970 講座心理学 第10巻 人格 東京大学出版会
- 佐治守夫 1983 岩波講座・精神の科学 2 パーソナリティー Pp.2-53. 岩波書店
- 佐藤幸治 1961 人格心理学 創元社

- Sears, R.R., Whiting, J.W.M., Nowlis, V., & Sears, P.S. 1953 Some child rearing antecedents of dependency and aggression in young children. *Genetic Psychology Monographs*, 47, 135-214.
- Sears, R.R. 1977 Sources of life satisfaction of the Terman gifted men. *American Psychologist*, 32, 119-128.
- 芝 祐順 1972 因子分析法 東京大学出版会
- Singer, J. 1976 *Androgyny: Towards a New Theory of Sexuality*. New York: Anchor Press.
- 藤瀬恭子 (訳) 1981 男女両性具有 (I) (II) 人文書院
- Stagner, R. 1948 *Psychology of Personality*. 2nd ed. New York: McGraw-Hill. Pp.139-165.
- Storr, A. 1972 *The dynamics of creation*. Martin Secker & Warburg Limited. 岡崎康一 (訳) 1976 創造のダイナミックス 晶文社
- 杉浦康平 1983 金剛界マンドラのダイナミズム — マンドラの美を読みなおす 松長有慶 (編) 曼荼羅 — 色と形の意味するもの — 大阪書籍 Pp.279-315.
- 多田建治 1973 パーソナリティーに於ける男女性の次元 心理学評論, 16, 3, 189-208.
- 詫摩武俊 (編) 1967 性格の理論 誠信書房
- Taylor, J.A. 1953 A personality scale of manifest anxiety. *Journal of Abnormal & Social Psychology*, 48, 285-290.
- Thigpen, C. & Cleckley, H. 1957 *The three faces of Eve*. McGraw-Hill. 川口正吉 (訳) イヴの3つの顔 白揚社
- 戸川行男・長島貞夫・正木 正・本明 寛・依田 新 (編) 1960a 性格の形成 性格心理学講座 2 金子書房
- 戸川行男・長島貞夫・正木 正・本明 寛・依田 新 (編) 1960b 性格診断の技術 性格心理学講座 3 金子書房
- 戸川行男・長島貞夫・正木 正・本明 寛・依田 新 (編) 1961 性格の理論 性格心理学講座 1 金子書房
- 対馬 忠・対馬ゆき子 1964 CAS不安診断テスト解説書 東京心理
- 対馬ゆき子 1963 CASの日本標準化について 教育心理学研究, 11, 2, 86-97.
- 辻岡美延 1967 新性格検査法 — Y-G性格検査実施・応用・研究手引 竹井機器工業株式会社
- 続 有恒 1952 質問紙調査法に関する研究 I 心理学研究, 22, 209-223.
- 続 有恒 1953 質問紙調査法に関する研究 II 心理学研究, 24, 225-238.
- 続 有恒 1954 質問紙調査法に関する研究 III 心理学研究, 24, 299-309.
- 続 有恒・村上英治 (編) 1975 質問紙調査 心理学研究法 9 東京大学出版会
- 上田吉一 1958 精神的に健康な人格の特性に関する考察 — 臨床家の見た理想的人間像 教育心理学研究, 5, 131-140.
- 上田吉一 1969 精神的に健康な人間 川島書店
- 上田吉一 1976 自己実現の心理 誠信書房

- 内山由記子 1985 高校生における人格の二面性の特質 筑波大学卒業論文 (未公刊)
- 我妻 洋・川口茂雄・白倉憲二 1967 カリフォルニア人格検査C P・I 日本版実施手引
誠信書房
- 若林明雄 1981 パーソナリティ評定尺度の形式の検討とパーソナリティの認知次元について
日本教育心理学会第23回総会発表論文集 Pp.814-815
- 若林明雄 1982 “VERAC—性格検査”の標準化 日本教育心理学会第24回総会発表論文集
Pp.816-817.
- 若林明雄 1985 パーソナリティ類型論における循環性気質型の検討 (投稿中)
- 若林明雄 1986 パーソナリティ類型論における分裂性気質型の検討 — 分離性および自閉性について — 日本大学心理学研究, 第7号, 1-12.
- Weininger, O. 1924 Geschlecht und Charakter. 村上啓夫 (訳) 1936 性と性格 春秋文庫
第3部 97 春秋社
- Wellak, A. 1950 Die Polarität im Aufbau des Charakters. Bern.
- Wilber, K. 1977 The Spectrum of Consciousness. 吉福伸逸・菅 靖彦 (訳) 1985 意識の
スペクトル 1, 2. 春秋社
- Wilber, K. 1979 No Boundary: Eastern and Western approaches to personal growth.
吉福伸逸 (訳) 1986 無境界 —— 自己成長のセラピー論 平河出版社
- 依田 新 1961 性格の概念と性格研究の諸問題 戸川行男 他 (編) 性格心理学講座 第1巻
性格の理論 Pp.34-54. 金子書房
- 依田 新 1962 性格の心理 正木 正 選集 2 金子書房
- Zimbardo, P.G. 1980 Essentials of psychology and life. 10th Edition. Scott, Foresman
and Company. 古畑和孝・平井久夫 (監訳) 1983 現代心理学 II サイエンス社

人格の“二面性”について

参考資料集

桑原 知子

第2章

(1) 新しい尺度の作成

付表 1-1	1
付表 1-2	1
付表 1-3	2
付表 1-4	3
付表 1-5	4
付図 1-1	5
付図 1-2	5
付図 1-3	6
付表 1-6	7
付図 1-4	8
付図 1-5	8
付図 1-6	8
付表 1-7	9

付表1-1 項目作成のための形容詞群.

[illegible]

1-2
付表. 新₁=につけ加えらるゝ=形容詞.

直観的	もの静か	男性的	話しようす	みきりめのない	思慮深い
指導的	感情におおいかたない	大胆	楽天的	あざしりて	細やか
自立的	こびない	現代的な			繊細
主体性のある	クールな	どっしりした		淡泊な	行動的
大人っぽい	人二千歩はよ	おちつきのある			實際的
現実的な		古風な			熱心な
融通性がある		ロマンチックな			情熱的
		女性的			理論的

付表1-3
項目対.及び 反対得点.

No. _____

No	項目対.及び desirability 評定値	反対得点	カテゴリー	No	項目対.及び desirability 評定値	反対得点	カテゴリー
①	気整な (3.7) - 慎重な (3.8)	46	①	38	考之深い (3.3) - こたわらない ()	39	
②	のんきな (4.0) - 用心深い (4.3)	42		39	着実な (2.8) - 要領よい ()	38	
3	関心のある (3.2) - おとなやか (3.3)	41		40	がむしゃら (5.0) - 控えめな (4.6)	38	
④	気が強い (4.4) - おとなしい (4.6)	40	②	41	協調的 (3.6) - 主体性ある ()	38	
⑤	勇猛な (3.7) - おっとりした (4.2)	41		42	熱心な (3.9) - 敏感な (4.0)	38	
⑥	てきぱちした () - おっとりした (4.2)	44		43	いしよく (4.5) - 孤独な (4.7)	38	
⑦	エッジな (3.0) - のんびりした (4.3)	43	③	44	思いや深い (2.9) - おっとりした (4.2)	38	
⑧	世話好き (3.8) - 人に手助けしない ()	41		45	ぶくばく (2.3) - 礼儀正しい (3.2)	38	
⑨	人情厚い (3.0) - 7-11 ()	49	④	46	楽天的 () - 用心深い (4.3)	38	
⑩	情熱的 () - 冷静な (2.9)	52	⑤	47	楽観的 (4.4) - 用心深い (4.3)	38	
⑪	熱中する (3.3) - 淡々とした (4.3)	47		48	臨機応変の () - 筋を通す ()	38	
12	熱心な () - 淡泊な ()	41	⑥	49	手ごめな (4.3) - 臨機応変の ()	37	
⑬	しつこい (4.4) - あさりした ()	53		50	考之が深い (5.0) - 従順な (4.8)	37	
14	ねばり強い (2.6) - しつこくない (3.0)	40		51	役がよい (4.7) - 向上心ある (2.9)	37	
⑮	ねばり強い (2.6) - あきらめよい ()	52		52	活動的 (3.1) - 沉着な (3.4)	37	
⑯	社交的 (4.1) - 孤独な (4.7)	54	⑦	53	慎重な (3.3) - 外向的な (4.2)	36	
⑰	協調的 (3.6) - 自立的 ()	40	⑧	54	思慮深い () - 行動的 ()	36	
⑱	従順 (4.8) - 指導的 ()	50	⑨	55	積極的 (3.1) - 慎重な (2.3)	35	
⑲	融通がきく () - 一本気 (4.5)	51		56	すばおな (2.7) - 意気地ある (3.8)	34	
20	融通性がある () - 11-2 (4.0)	41	⑩	57	役がよい (4.7) - くいさがる (4.8)	34	
⑳	臨機応変の () - 執着する (4.8)	40		58	きまじめな (4.3) - 世話めいた ()	34	
22	臨機応変の () - 一本気な (4.5)	41		59	ぶくばく (3.3) - 細やかな ()	34	
㉑	死ななくらい (4.8) - 単刀直入 (3.4)	51	⑪	60	スピーディーな () - 着実な ()	34	
24	雄弁な (4.4) - 口数少ない (4.9)	47		61	自信の強い (4.7) - ひかえめな (4.6)	33	
㉒	話し好き (4.0) - 口数少ない (4.9)	51	⑫	62	人当たりがよい (3.3) - こびたない ()	33	
26	話し好き (4.0) - 聞き役 (4.9)	51		63	同情心がある (3.0) - 感情がこもる ()	32	
㉓	話しなうす () - 聞きなうす ()	44	⑬	64	要領よい () - がむしゃら (5.0)	32	
㉔	陽気な (3.0) - 木の静か ()	51	⑭	65	おっとりした (4.2) - 繊細な ()	32	
㉕	茶めいのある (2.9) - 大人っぽい ()	40	⑮	66	控えめな (4.6) - 徹底する (3.3)	31	
㉖	ロマンチックな () - 現実的な ()	47	⑯	67	ぶくばく (4.8) - 孤独な (4.7)	31	
㉗	実際の () - 理論的 ()	49	⑰	68	まじめな (3.1) - エモい ()	31	
㉘	分析的 () - 直観的 ()	50	⑱	69	当意即ち () - 考之深い (3.3)	31	
㉙	古風な () - 現代的な ()	58	⑲	70	スピーディーな () - 2-ね ()	31	
㉚	男性的 () - 女性的 ()	56	⑳	71	めい、えうけ (4.0) - テキト (4.6)	31	
㉛	太腹な (4.1) - テキト (4.6)	41	㉑	72	かたむきない (3.6) - へりくたない ()	30	
㉜	大胆 () - 細心 (4.2)	49	㉒	73	のんびりした (4.3) - 午後の (4.1)	28	
㉝	おおやうな (4.6) - 厳格な (4.3)	50	㉓	74	めい、えうけ (4.0) - 細かい (4.6)	28	
No.1~37が 反対得点40点以上のもの。 カテゴリーごとに並べてある。				75	勇敢な (3.1) - 慎重な (3.8)	27	
No.38~77は 反対得点40点未満のもの。				76	要領よい () - 義理正しい ()	26	
				77	午後の (4.3) - 融通がきく ()	24	

No.38~77は 反対得点40点未満のもの。

付表 1-4

本研究の望ましの評定結果及び 青木(1971a)結果との比較, TSPSとの相関。

<数値の小さい方が望ましい>

項目	本研究		青木(1971a)		TSPSとの 相関	項目	本研究		青木(1971a)		TSPSとの 相関	
	平均	SD	中央値	四分位差			平均	SD	中央値	四分位差		
1 17 陽気な	2.61	0.9939	3.0	0.51	0.3346***	11 実際の	4.22	1.1856			0.3514***	31
2 6 おねばり強い	3.06	1.2619	2.6	0.99	0.3469***	22 直観的	4.23	1.0904			0.2628***	32
3 31 自立的	3.11	1.1625			0.3083**	21 分析的	4.26	1.4043			0.2828**	33
4 36 情熱的	3.22	1.2838			0.3242**	20 夢刀直入	4.31	1.3081	3.4	0.95	0.3160**	34
5 23 ときどき	3.25	1.0384			0.2655**	24 おおしり	4.32	1.2381	4.2	0.72	0.2339*	35
6 52 開明な	3.25	1.1753			-0.0974	49 のんびり	4.34	1.1910	4.3	0.72	0.1257	36
7 32 協調的	3.27	0.9935	3.6	0.85	0.2913**	40 現実的	4.35	1.0860			0.3579***	37
8 58 人情厚い	3.27	1.2132	3.0	0.75	0.3716**	55 おおしり	4.35	1.2340	4.2	0.72	0.3788***	38
9 54 熱中する	3.34	1.0938	3.3	0.71	0.3174**	44 現代的	4.39	0.9939			0.3080**	39
10 33 茶目あり	3.36	1.2352	3.9	0.63	0.3337**	53 進取と退	4.40	1.1192	4.3	0.70	0.2383*	40
11 35 冷静な	3.41	1.1815	2.9	0.85	0.2727**	47 おおしり	4.42	1.3939	4.6	0.93	0.3781***	41
12 50 正確な	3.46	1.2506	3.0	0.60	0.3916**	43 古風な	4.44	1.0761			0.4863***	42
13 25 男性的	3.48	1.3816			0.2687**	42 男子気	4.45	1.2978	4.6	0.72	0.3957***	43
14 51 話し好き	3.52	1.2430			0.1550	2 のんきな	4.55	1.2503	4.0	0.66	0.1879	44
15 39 ロマンチック	3.55	1.2743			0.4340**	16 一本気	4.55	1.4451	4.5	0.76	0.2552*	45
16 30 合理的	3.56	1.2335			0.0545	12 理論的	4.57	1.6652			0.5826***	46
17 15 融通がきく	3.60	1.3027			0.2064*	57 7-11	4.62	1.5027			0.5285***	47
18 9 気軽な	3.62	1.4549	3.7	0.63	0.0496	60 細心	4.64	1.7839	4.2	0.83	0.2174**	48
19 38 臨機応変	3.80	1.3559			0.2139*	26 女性的	4.72	1.8645			0.1896	49
20 59 大胆	3.84	1.3236			0.2669**	48 厳格な	4.82	1.2743	4.3	0.69	0.2154**	50
21 13 指導的	3.86	1.5636			-0.0592	46 孤独感	4.89	1.5498	4.7	0.85	0.5712***	51
22 45 社交的	3.91	1.3341	4.1	0.80	0.2947**	14 従順	4.90	1.6606	4.8	1.11	0.2920**	52
23 27 世話好き	3.94	1.2619	3.8	0.64	0.3221**	4 おとなしい	4.91	1.3341	4.6	0.79	0.1444	53
24 8 話し好き	3.96	1.3021	4.0	0.78	0.2897**	3 気が強い	5.07	1.3799	4.4	0.77	0.1672	54
25 10 慎重な	3.97	1.2828	3.8	0.71	0.2385*	5 おおしり	5.09	1.6581			0.2767**	55
26 34 大い	4.04	1.2627			0.2513*	1 用心深い	5.13	1.3000	4.3	0.79	0.2959**	56
27 44 太っ腹	4.12	1.6285	4.1	0.71	0.2338*	19 礼儀正し	5.14	1.4841	4.8	0.93	0.2756**	57
28 28 人付き合い	4.19	1.4750			0.5248**	29 しつこい	5.18	1.6105	4.4	0.86	0.4591***	58
29 18 モノ好き	4.21	1.2085			0.1510	37 熱中する	5.18	1.5068	4.8	0.90	0.1579	59
30 56 勇猛な	4.21	1.3875	3.7	0.81	0.3127**	7 ロマンチック	5.25	1.4381	4.9	0.58	0.0156	60

・項目は 本研究において「のぞましい」順に並べてある。

・相関の数値は、「その項目が自分にあてはまる程度」と「その項目をのぞましく思う程度」の相関を示している。

・* $P < 0.05$ ** $P < 0.01$ *** $P < 0.001$ (Two-sided)

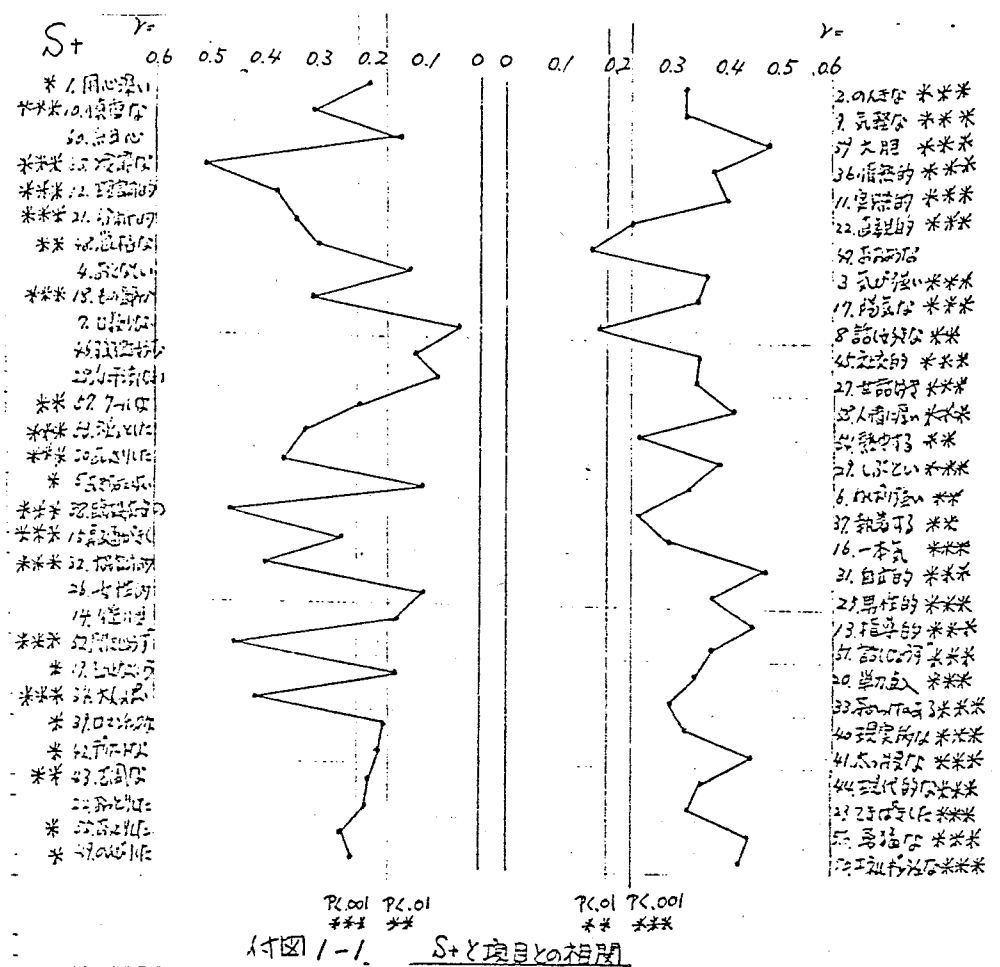
付表 1-5

スコア別上位群・下位群特性

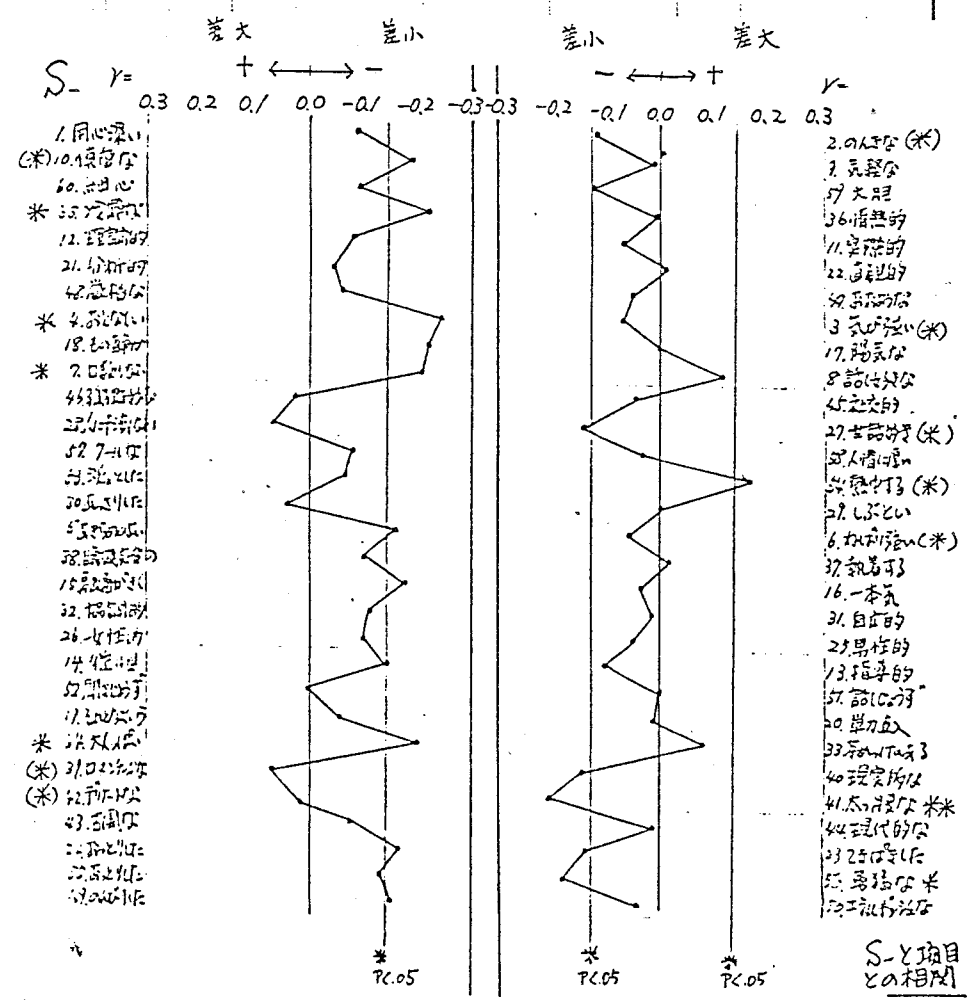
S+	M	A		S-	S..
上位群	237.7	15.05	$t' = -21.79$ $P = 0.000$	41.1	3.00
下位群	182.5	10.13		29.7	2.40
上位群 225~292 $n=51$ 下位群 142~194 $n=52$				$t' = 2.86$ $P < .01$ **	$t = 0.71$ n.s.

S-	\bar{M}	A		S+	S--
上位群	66.0	10.67	$t' = -22.31$ $P = 0.000$	203.8	3.88
下位群	29.9	4.42		216.9	2.12
上位群 55~103 $n = 51$ 下位群 16~35 $n = 50$				$t = 2.69$ $P < .01$ 未検	$t = -2.03$ $P < .05$ 未検

S..	\bar{M}	A		S+	S-
上位群	8.45	2.34	$t' = -25.16$ $P = 0.000$	208.8	53.4
下位群	1.85	1.76		206.1	44.7
上位群 6~13 $n = 51$ 下位群 -7~0 $n = 52$				$t = -0.66$ n.s.	$t = 3.01$ $P < .01$ **

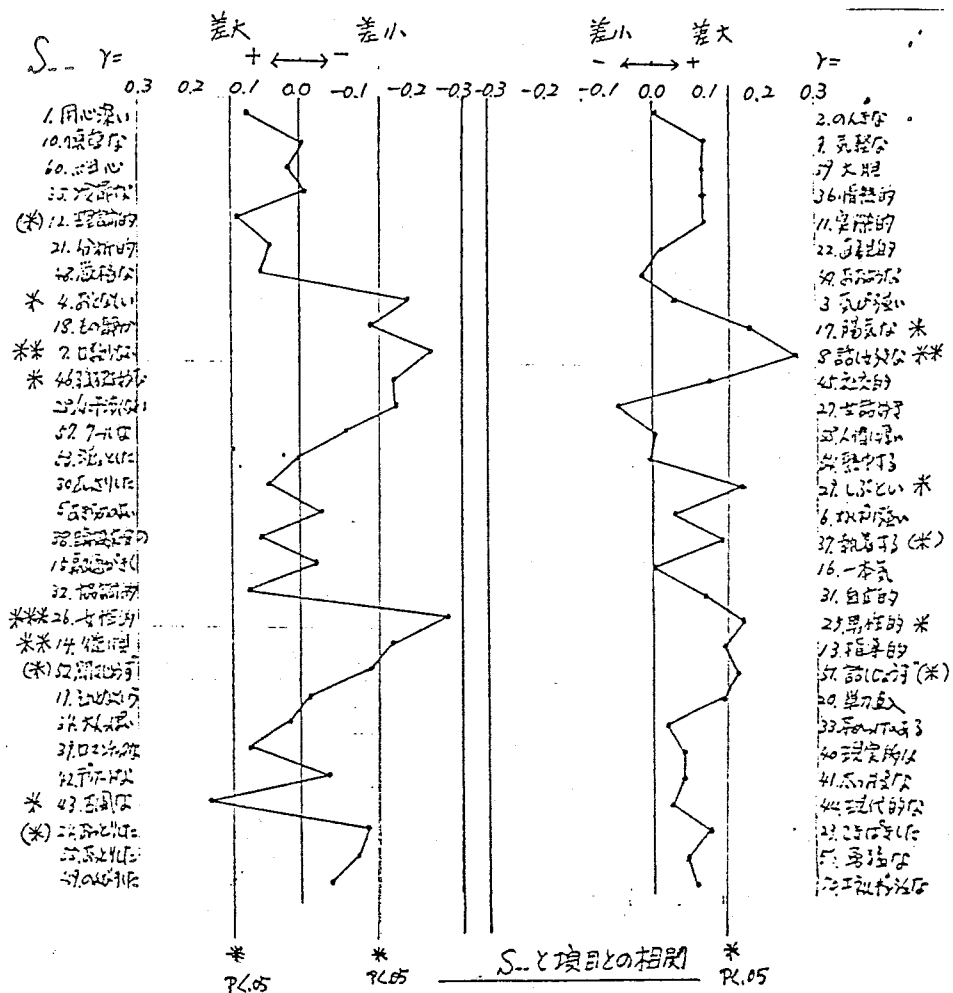


付図 1-1 S+と項目との相関



S-と項目との相関

いづれ項目の横に尤検定で得た結果を示す。 付図 1-2



付図 1-3

付表1-6
スコアと項目との相関

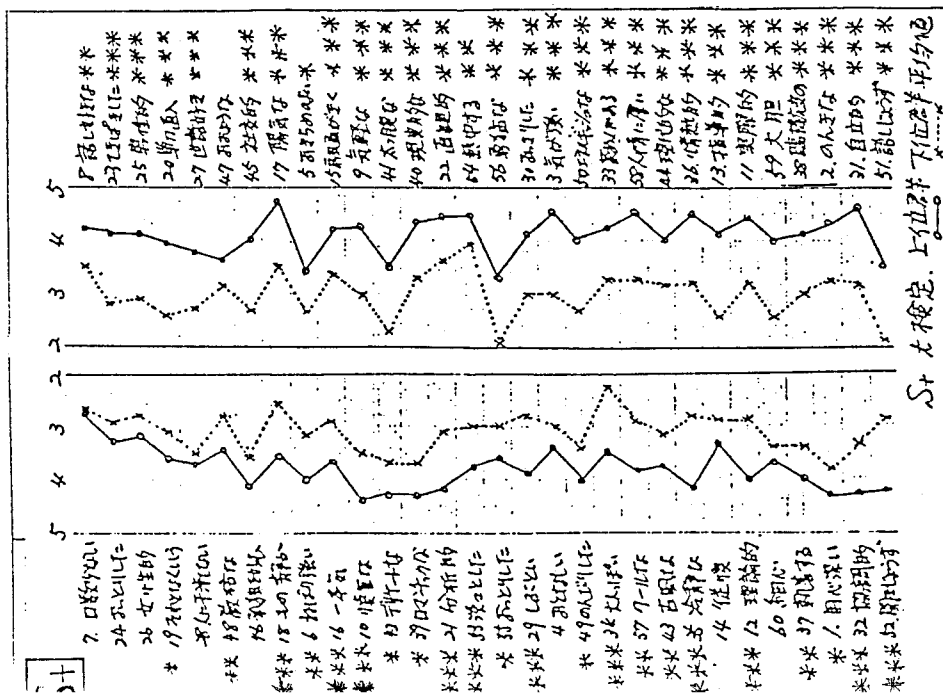
		S1	S+	S2	S-	S3	S--
1	用心深い	0.2095**		-0.0894		0.1005	
2	のんきな	0.3268***		-0.1281		0.0078	
3	気が強い	0.3709***		-0.0803		0.0394	
4	おどろしい	0.1349		-0.2408***		-0.1909**	
5	あきらめのよい	0.1082		-0.1518*		-0.0377	
6	おぼろげよい	0.3308***		-0.0630		0.0422	
7	口数が多い	0.0470		-0.2094**		-0.2442***	
8	話し好き	0.1754		0.1160		0.2625***	
9	気軽な	0.3259***		-0.0131		0.0985	
10	慎重な	0.3085***		-0.1888**		-0.0093	
11	実地的	0.3883***		-0.0799		0.0949	
12	理論的	0.3788***		-0.0873		0.1201	
13	指導的	0.4465***		-0.1101		0.1377	
14	従順	0.1579		-0.1438*		-0.1742*	
15	融通がきく	0.2601***		-0.1753*		-0.0334	
16	一本気	0.3000***		-0.0391		0.0062	
17	陽気な	0.3487***		-0.0049		0.1849**	
18	もの静か	0.3121***		-0.2182**		-0.1343	
19	それとなく	0.1582		-0.0597		-0.0227	
20	努力家	0.3441***		-0.0135		0.1308	
21	分析的	0.3371***		-0.0509		0.0618	
22	直観的	0.2339***		0.0174		0.0180	
23	てきぱちした	0.3263***		-0.1392*		0.1104	
24	おっとりした	0.2233**		-0.1685*		-0.1269	
25	思慮的	0.3791***		-0.0528		0.1681*	
26	女性的	0.1082		-0.1033		-0.2730***	
27	世話好き	0.3478***		-0.1426*		-0.0648	
28	人にやさしい	0.0820		0.0714		-0.1820**	
29	しどろしどろ	0.3888***		0.0001		0.1673*	
30	あざむいた	0.3683***		0.0389		-0.0671	
31	自立的	0.4777***		-0.0153		0.0988	
32	協調的	0.3975***		-0.1199		0.0948	
33	茶めつけのある	0.3009***		0.0849		0.0280	
34	大人っぽい	0.4179***		-0.1977**		0.0139	
35	冷静な	0.5066***		-0.2175**		-0.0117	
36	情熱的	0.3773***		-0.0444		0.0980	
37	執着する	0.2450***		0.0236		0.1345	
38	臨機応変の	0.4582***		-0.1005		0.0807	
39	ロマンチックな	0.1860**		0.0723		0.0969	
40	現実的な	0.3329***		-0.1447*		0.0647	
41	太腹な	0.4455***		-0.2080**		0.0644	
42	デリケートな	0.1878**		0.0203		-0.0538	
43	古風な	0.2052**		-0.0771		0.1673*	
44	現代的な	0.3618***		-0.0115		0.0357	
45	社交的	0.3519***		-0.0520		0.1021	
46	孤独を好む	0.1233		0.0639		-0.1782*	
47	おおやうな	0.1568		0.0550		-0.0199	
48	敬虔な	0.2963***		-0.0636		0.0819	
49	のんびりした	0.2355***		-0.1537*		-0.0632	
50	エロティックな	0.4295***		-0.0461		0.0785	
51	話し好き	0.3803***		0.0050		0.1583*	
52	周知おろそ	0.4598***		0.0044		-0.1346	
53	淡々とした	0.3282***		-0.0660		-0.0052	
54	熱中する	0.2407***		0.1570*		-0.0017	
55	おっとりした	0.2571***		-0.1317		-0.1094	
56	勇敢な	0.4361***		-0.1767*		0.0738	
57	クールな	0.2259**		-0.0831		-0.0870	
58	人情に厚い	0.4195***		-0.0329		0.0101	
59	大胆	0.4828***		-0.1346		0.1074	
60	細心	0.1519		-0.0918		0.0223	

*. SIGNIF. LE .05

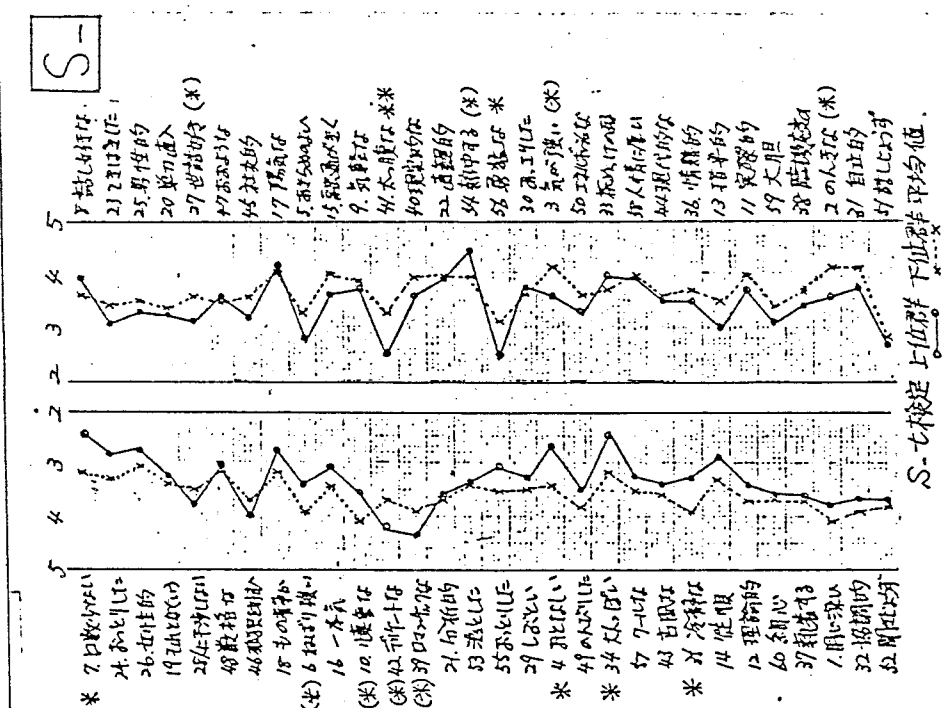
*** - SIGNIF. LE .001

*** - SIGNIF. LE .001

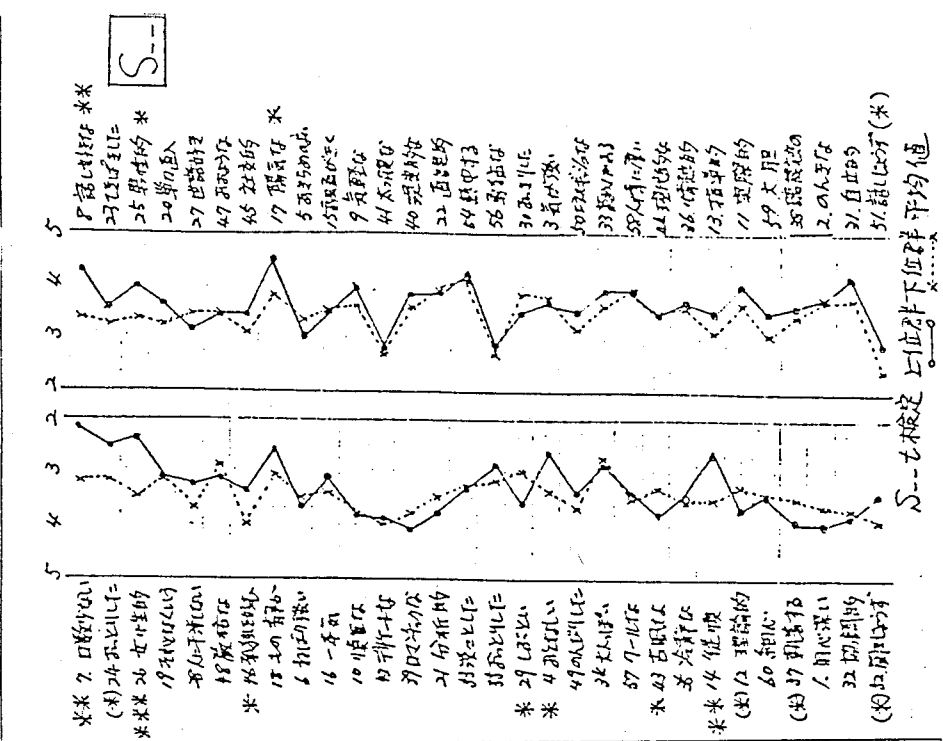
two-side



付図 1-4



付図 1-5



付図 1-6

いす... (米) $P < .10$
 * $P < .05$
 ** $P < .01$
 *** $P < .001$ (two-sided)

工組西列は TSPS における及対性の順位にしたがっておりた。

付表1-7

各スコアと項目.

S+	
上位群	
Y* t(60)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自立的 ○ 冷静な ○ 理論的 ○ 指導的 ○ もの静か ○ 分析的 ○ しどとい ○ 大人っぽい ○ 聴き変えの ○ 愛慕的 ○ 男性的 ○ あざしした ○ エネルギーな ○ 淡々とした ○ 人情に厚い
	懐疑な 融通がきく 協調的 聞きようす のんきな 気軽な 大胆 情熱的 直観的 気が強い 陽気な 社交的 世話好き 一本気 話しようす 単刀直入 茶みけのある 現実的な 太っ腹な
	現代的な てきぱちな 勇猛な

S-	
上位群	
Y* t(60)	熱中する
下位群	
Y* t(60)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大人っぽい ○ 冷静な ○ 世話好き 憤慨な おとなしい 口数少ない 太っ腹な 勇猛な

S--	
上位群	
Y* t(60)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 話しようす ○ 話し好き 陽気な しどとい 古風な 男性的
下位群	
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 口数少ない おとなしい 孤独好き 女性的 従順

注1) S+に関しては
相関係数, t-testの両方について $P < .001$ で有意だった。

S-に関しては
相関係数について $P < .05$, t-testについて $P < .10$ で
有意であったもの。

S--についても
相関係数 $P < .05$, t-test $P < .10$ で有意で
あったものを ぬき出した。

注2) ○印は、実験Iにおいても得られたもの

第2章

(2) SD法との比較による、 新しい測定形式の検討

付表 2-1	10
付表 2-2	11
付表 2-3	12
付表 2-4	13
付図 2-1	14
付表 2-5	15
付図 2-2	16
付図 2-3	16
付図 2-4	16
付図 2-5	16
付図 2-6	16
付図 2-7	16
付表 2-6	17

		FACTOR 1	FACTOR 2	FACTOR 3	COMMUNALITY
1	用心深い	0.26848	0.45524	0.26548	0.34980
2	のんきな	-0.34030	-0.00064	0.27414	0.19096
3	気が強い	0.36870	0.08870	-0.46689	0.36179
4	おとなしい	-0.12438	0.75392	0.29595	0.67159
5	おそろめのよい	-0.18152	0.19511	-0.25707	0.13710
6	ねばり強い	0.63785	0.24423	-0.02558	0.46715
7	口数が多い	-0.09819	0.80756	0.09726	0.67126
8	話し好き	0.29259	-0.65474	0.03555	0.51555
9	気軽な	0.17690	-0.43926	0.14738	0.24597
10	慎重な	0.21904	0.67417	0.36113	0.63290
11	実地的	0.25640	0.47765	-0.03357	0.29502
12	理論的	0.38591	0.32015	0.00176	0.25142
13	指示的	0.56451	0.02077	0.07406	0.32459
14	従順	0.84054	0.37841	0.52018	0.41543
15	融通がきく	0.03772	0.14799	-0.19057	0.05964
16	一本気	0.56468	0.20082	0.07515	0.36485
17	陽気な	0.46870	-0.55144	0.18149	0.55670
18	もの静か	0.17088	0.67048	0.18864	0.51433
19	おとなしい	-0.10941	-0.03333	-0.29466	0.09991
20	堂々とした	0.59620	-0.24004	-0.44820	0.61396
21	分析的	0.37976	0.41692	0.19851	0.35744
22	直観的	0.30735	-0.07060	-0.37173	0.23764
23	てきぱちした	0.50012	-0.12406	-0.29114	0.35027
24	おっとりした	-0.19893	0.32969	0.51648	0.41504
25	思慮的	0.37902	0.01651	-0.08199	0.15065
26	女性的	0.02923	0.23754	0.26450	0.12724
27	世話好き	0.66783	-0.14689	0.24977	0.52996
28	人にやさしい	-0.07616	0.22462	-0.43566	0.24605
29	いじやう	0.47498	0.20609	0.07409	0.27357
30	あざむいた	0.09035	0.01457	-0.35454	0.13407
31	自立的	0.59112	0.26863	-0.28131	0.50072
32	協調的	0.06998	-0.13711	0.45252	0.22847
33	茶めつけがある	0.29789	-0.52984	0.09107	0.37777
34	大人っぽい	0.28805	0.25114	0.08395	0.15309
35	冷静な	0.31184	0.71587	-0.14212	0.62991
36	情熱的	0.65212	-0.08411	0.41274	0.60269
37	執着する	0.42778	-0.03459	0.30983	0.28019
38	臨機応変の	0.50345	0.24010	-0.14376	0.33177
39	ロマンチックな	0.03219	0.10009	0.37194	0.14940
40	現実的な	0.32656	0.30516	-0.37990	0.34409
41	太い腹な	0.50409	-0.19147	-0.27799	0.36805
42	デリケートな	0.15625	0.08743	-0.43785	0.22377
43	古風な	0.14866	0.16373	0.31051	0.14532
44	現代的な	0.61858	0.19259	-0.14639	0.44120
45	社交的	0.62733	-0.48200	0.23054	0.67920
46	孤独を好む	-0.21886	0.45526	-0.10650	0.26650
47	おおやうな	0.04474	0.13517	-0.05933	0.02379
48	敬虔な	0.30791	0.58895	0.14303	0.46212
49	のんびりした	-0.26312	-0.01770	0.34983	0.19193
50	エロティックな	0.67983	-0.24971	0.18829	0.55998
51	話し好き	0.46016	-0.41898	-0.13386	0.40521
52	閑い好き	0.39548	0.09768	-0.00561	0.16598
53	涼々とした	0.20776	0.39692	-0.54514	0.49789
54	熱中する	0.57803	0.04161	0.07179	0.34100
55	おっとりした	-0.16750	0.29164	0.58446	0.45471
56	勇敢な	0.54671	-0.01267	0.05611	0.30220
57	クールな	0.18164	0.37015	-0.35892	0.29833
58	人情に厚い	0.36925	0.01483	0.47572	0.36287
59	大胆	0.53391	-0.12244	-0.24524	0.36020
60	細心	0.31366	0.57671	0.20134	0.47151

固有値 8.821 2.539 4.821

総分散 15.7 12.4 9.1

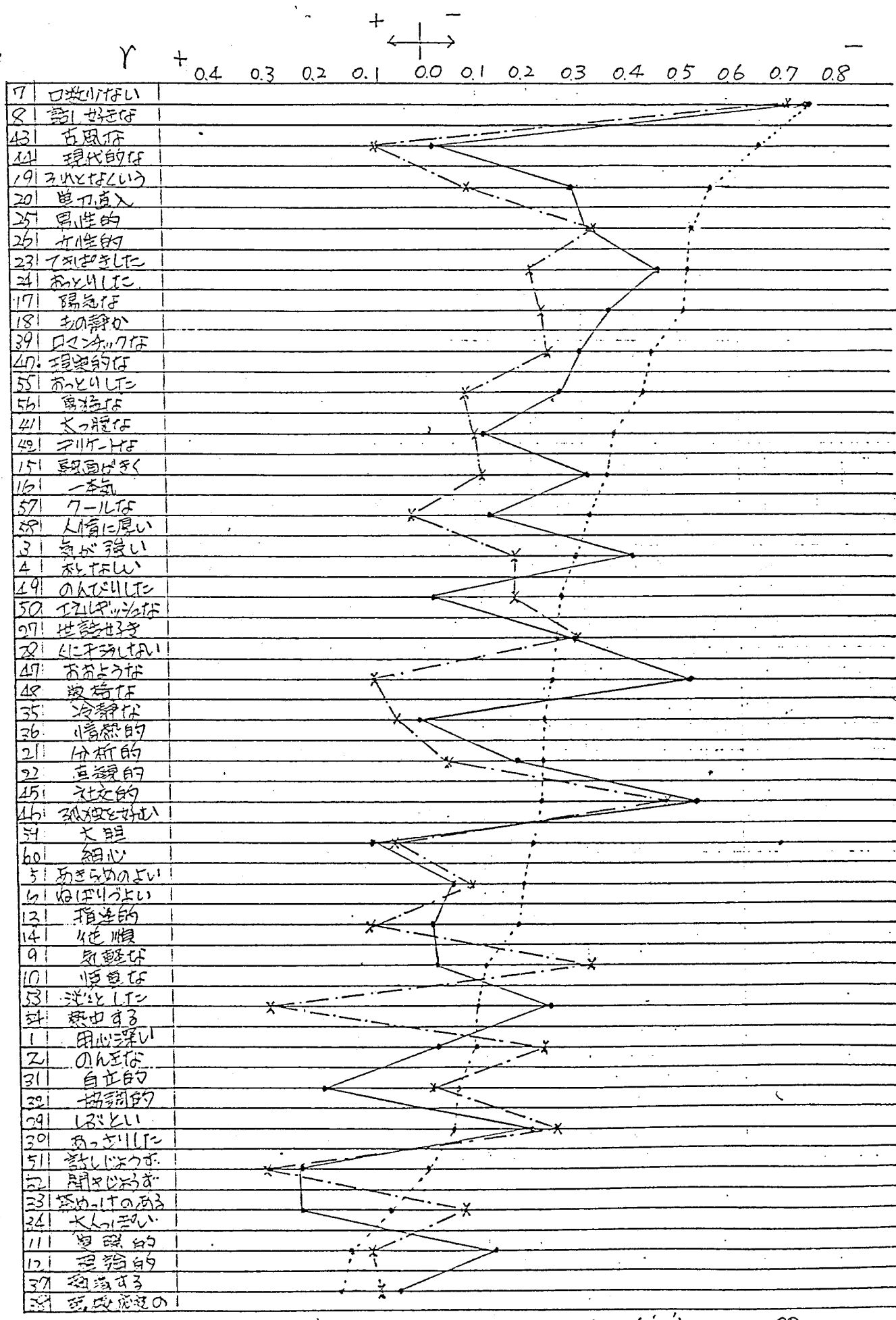
		FACTOR 1	FACTOR 2	FACTOR 3	COMMUNALITY
1	用心深い	-0.07855	0.53444	-0.20140	0.33236
2	のんきな	-0.03620	-0.05177	0.82203	0.67973
3	気が強い	0.50195	-0.21378	-0.21914	0.34568
4	おとなしい	-0.35088	0.64796	0.04844	0.54532
5	あきらめのよい	-0.13029	-0.19787	0.39672	0.21352
6	ねばりづよい	0.60383	0.21924	-0.07956	0.41900
7	口数が多い	-0.40348	0.68809	0.11867	0.65035
8	話し好き	0.57134	-0.52794	-0.07288	0.61046
9	気軽な	0.57036	-0.19168	0.40258	0.52412
10	慎重な	0.18219	0.50066	-0.08395	0.29090
11	実地的	0.41533	-0.03021	0.13095	0.19056
12	理論的	0.27016	0.47475	-0.24740	0.35958
13	指導的	0.54754	0.07560	-0.00911	0.30560
14	従順	0.01090	0.31409	0.43245	0.28578
15	融通がきく	0.07697	-0.01258	0.47495	0.23166
16	一本気	0.32964	-0.03626	-0.05331	0.11282
17	陽気な	0.63045	-0.30347	0.37095	0.62717
18	もの静か	-0.18739	0.79943	0.04311	0.67606
19	それとない	-0.01910	0.18115	0.02788	0.03396
20	堂々直入	0.51689	-0.14450	-0.13058	0.30510
21	分析的	0.11712	0.46437	0.13313	0.24708
22	直観的	0.37908	-0.00103	0.04906	0.14611
23	てきぱちした	0.52961	-0.14100	-0.23368	0.35498
24	おっとりした	-0.12112	0.30845	0.78440	0.72510
25	男性的	0.30672	0.04266	0.08561	0.10323
26	女性的	0.07817	0.18087	0.12137	0.05355
27	世話好き	0.65992	-0.02784	0.10650	0.44762
28	人に干渉しない	-0.23739	0.17286	0.15918	0.11157
29	いざとい	0.53639	0.21482	-0.10575	0.34505
30	あざりした	0.22786	-0.10412	0.24888	0.12470
31	自立的	0.59575	0.25395	-0.04638	0.42156
32	協調的	0.44840	0.06132	0.35896	0.33368
33	茶めつけのある	0.52194	-0.31309	0.26686	0.44166
34	大人っぽい	0.19270	0.40317	0.00160	0.19968
35	冷静な	0.20548	0.65269	0.00355	0.46824
36	情熱的	0.36204	0.23853	-0.02799	0.18876
37	執着する	0.33306	0.23870	-0.13522	0.18619
38	臨機応変の	0.45071	0.08829	0.35791	0.33903
39	ロマンチックな	-0.01393	0.28755	0.11449	0.09599
40	現実的	0.27869	-0.04798	-0.17313	0.10995
41	太腹な	0.62707	0.08009	0.12046	0.41415
42	デリケートな	0.09161	0.49485	0.15397	0.27698
43	古風な	0.06774	0.24690	-0.19931	0.10527
44	現代的な	0.49194	0.28948	-0.09786	0.33538
45	社交的	0.70002	-0.27711	0.07039	0.57178
46	孤独を好む	-0.33083	0.47244	0.21442	0.37862
47	おおやな	0.05403	-0.02665	0.65956	0.43865
48	敬格な	0.16747	0.45365	-0.53154	0.51639
49	のんびりした	-0.06925	0.20395	0.80709	0.69778
50	エネルギッシュな	0.64326	0.00213	-0.01599	0.41404
51	話し好き	0.58677	-0.24080	-0.00971	0.40238
52	聞き手	0.48382	0.39319	0.18639	0.42342
53	淡々とした	-0.01436	0.25682	0.04515	0.06820
54	熱中する	0.48931	-0.09993	0.02335	0.24995
55	おっとりした	-0.01662	0.26646	0.76820	0.66141
56	勇敢な	0.57189	0.17093	-0.22481	0.40682
57	クールな	-0.12689	0.42813	-0.19215	0.23632
58	人情に厚い	0.52633	0.17170	0.34504	0.42555
59	大胆	0.48145	0.25208	-0.04994	0.29784
60	細心	-0.05941	0.57418	-0.05808	0.33658

固有値 9.256 6.361 5.224
 絶対分散(%) 16.4(%) 11.6 9.6
 相対分散(%) 44.4 30.5 25.1

付表2-3. 各因子に高い負荷をもつ項目 (SD mono)

I			II			III		
50	孤独傾向	0.680	7	口数多い	0.808	55	おとしいた	0.584
27	世話好き	0.668	4	おとなしい	0.754	14	従順	0.520
36	情熱的	0.652	25	冷静な	0.716	24	おとしいた	0.516
6	おどろ強い	0.638	10	慎重な	0.674	58	人情厚い	0.476
45	社交的	0.627	18	もの静か	0.670	32	協調的	0.453
44	現代的な	0.619	48	厳格な	0.589	42	利己的な	0.438
20	単刀直入	0.596	62	細心	0.577	36	情熱的	0.413
31	自立的	0.591	11	実際の	0.478			
54	熱中する	0.578	46	30%孤独傾向	0.455			
16	一本気	0.565	1	用心深い	0.455			

2	のんきな	-0.340	8	話し好き	-0.655	53	淡々とした	-0.525
49	のんびりした	-0.263	17	陽気な	-0.557	3	気が強い	-0.467
46	孤独傾向	-0.219	33	茶化し好き	-0.530	20	単刀直入	-0.448
			45	社交的	-0.482	28	人干渉性	-0.436
			9	気軽な	-0.439	40	現実的な	-0.380
			51	話しはず	-0.419	57	7-11た	-0.359
						30	おとしいた	-0.355



(TSPSにおける反対性の順位に)

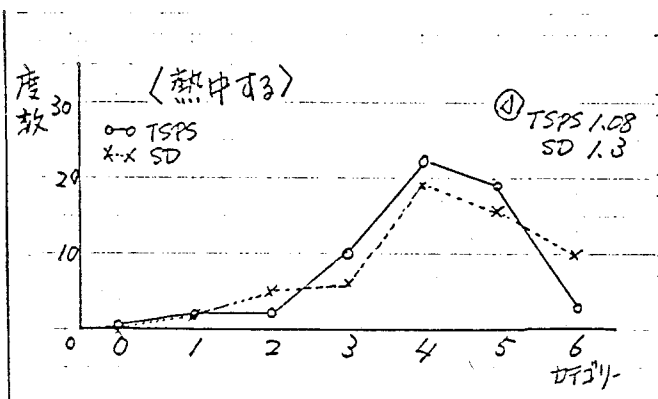
付表 2-5

'80 sep' と SD mono との相関係数及びそれらの平均と標準偏差

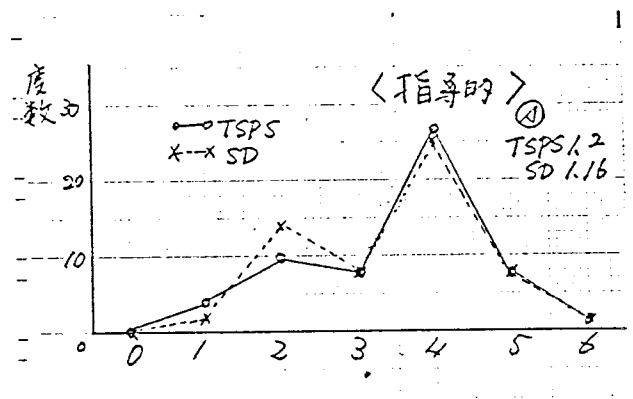
項目		相関係数	平均	A															
No				2.5	3.0	3.5	4.0	4.5	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	
1	19 それとない	0.3130	x.s.			x								x					
2	47 ああそう	0.3545	*		x									x					
3	11 実際の	0.4196	**				x												
4	54 熱中する	0.4338	**					x											
5	28 人に干渉しない	0.4485	**						x										
6	16 一本気	0.4913	**							x									
7	22 協調的	0.5060	**								x								
8	22 直観的	0.5214	**									x							
9	5 あそびのよい	0.5312	**										x						
10	41 太腹な	0.5355	**																
11	29 しつこい	0.5423	**																
12	56 勇猛な	0.5442	**																
13	1- 用心深い	0.5527	**																
14	57 7-11な	0.5535	**																
15	38 器用な	0.5653	**																
16	42 テレホン	0.5664	**																
17	66 情熱的	0.5674	**																
18	30 あこがれた	0.5709	**																
19	9 気盛な	0.5743	**																
20	38 人情に厚い	0.5880	**																
21	44 現代的な	0.5961	**																
22	43 古風な	0.5964	**																
23	53 淡々とした	0.5972	**																
24	2 のんきな	0.5990	**																
25	4 おとなしい	0.5997	**																
26	48 厳格な	0.6073	**																
27	59 大胆	0.6087	**																
28	37 熱中する	0.6241	**																
29	40 現実的な	0.6276	**																
30	10 慎重な	0.6282	**																
31	32 聞き上手	0.6381	**																
32	15 融通がきく	0.6603	**																
33	60 細心	0.6605	**																
34	15 毛の整い	0.6768	**																
35	51 話し上手	0.6817	**																
36	33 空気のあふ	0.6826	**																
37	55 あつとれた	0.6848	**																
38	12 理論的	0.6869	**																
39	50 エキセントリック	0.6893	**																
40	6 ねばり強い	0.6907	**																
41	34 大人っぽい	0.6950	**																
42	3 気が強い	0.6984	**																
43	21 分析的	0.6999	**																
44	14 性根	0.7025	**																
45	27 世話好き	0.7034	**																
46	24 あつとれた	0.7037	**																
47	31 自主的	0.7053	**																
48	35 冷静な	0.7073	**																
49	39 ロマンチック	0.7338	**																
50	25 男性的	0.7351	**																
51	26 女性的	0.7359	**																
52	23 丁寧な	0.7364	**																
53	20 器用な	0.7514	**																
54	17 陽気な	0.7540	**																
55	49 のんびりした	0.7657	**																
56	18 話し上手	0.7711	**																
57	46 積極的な	0.7770	**																
58	13 指導的	0.7967	**																
59	17 口堅い	0.7996	**																
60	41 社交的	0.8265	**																

・項目は相関係数の低い順に並べてある。

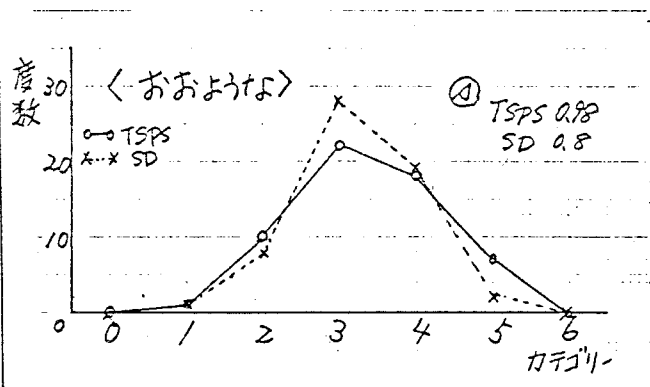
・*** $P < .01$ * $P < .05$ ○ '80 sep'
x SD mono



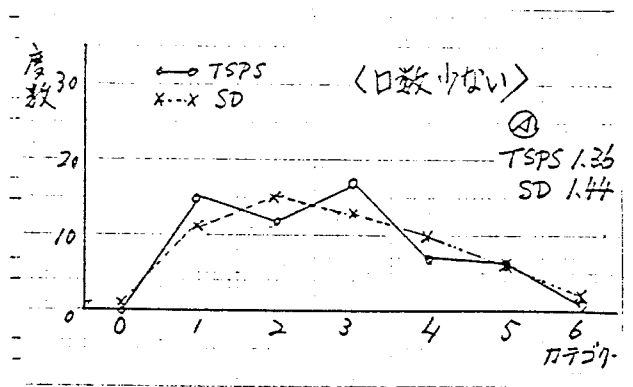
Y小
付図 2-2



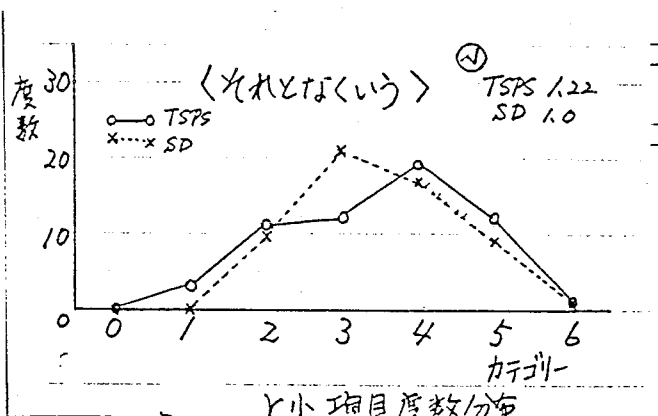
Y大
付図 2-5



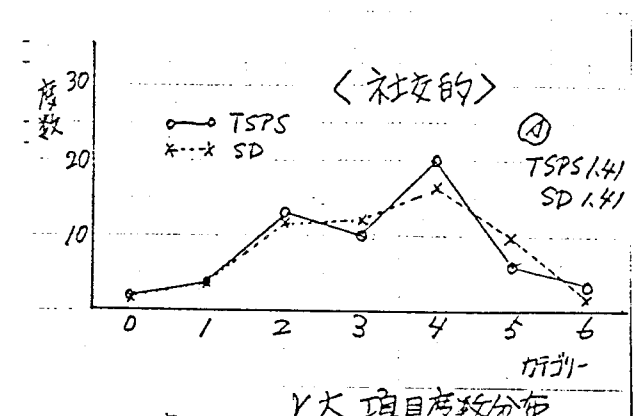
Y小
付図 2-3



Y大
付図 2-6



Y小 項目度数分布
付図 2-4



Y大 項目度数分布
付図 2-7

(SD among TSPS
'sddep' & TSPS & L2 girls)

図1 この前の質問紙と比較してどうお感じになりましたか?

1. 'SD_{deep}'の方がやりやすい 17 (20.7%) 8. 同じ 22 (26.8%) 10. 無答 11 (13.4%)
 9. SD_{mono}の方がやりやすい 24 (29.3%) 11. その他 8 (9.8%)

図2. それはどうしてですか?

<1. 'SD_{deep}'の方がやりやすい>

- 対にすると片方の意味がもう方とは解釈されやすくなるので。(意味の明確性) 6
- 比較検討することができる。対照して考えることができる。(対照的把握) 6
- 心の両面を同時に考えられるから、矛盾が少ないように答えられる(二面性の表現) 2
- その他 3

<9. SD_{mono}の方がやりやすい>

- 対にしていると考え込んでしまう。左右を比べてしまうから、対になっているのが気になり、独立していわれど左右を考えあわせてしまう。2つの言葉を比較してしまい矛盾していなければならなかった。(二面性の意識による矛盾). 18
- 土の尺度が左右逆方向でみにくかったから(逆尺度の答えにくさ) 3
- その他 3

<8. 同じ>

- 直観的にやると、人間には二面的な性格があり、比較できない面もあり左とみればまりかつ右とみればまることしばしばあると思うので。
 ◦ 左右がツル気になるような気もするが、どちらも同じようなものである。
- 左右とも8割に考えたので、手間は前回と同じだったし、似たような内容だったから、どちらがやりやすいやりにくいということにはなからず。etc.

<11. その他>

- わからない(対立するこばが並んでいると、左右どちらでも気もするが、かえって自分の性格の中に相対するものが存在することを意識してしまふような気もする)

図3. 全体を通しての感想をお書き下さい。

1. 形式的側面……「それとなくいう」がわかりにくかった(2) 程度をあらわすのがひとと細かくてやりやす
2. あずか…… 考え直してよかった。自分を自分で判断するのは面白い(5)
3. おもしろさ…… おもしろかった。楽しかった。(5)
4. 自己矛盾…… 結局自分というものがよくわからない存在のような気がした。書いていて自分が二面矛盾していることを並べているのに気づいている。(8)
5. 意識化…… いつもあまり意識しないことが改めて意識できた。(2)
6. 限界…… こういうふうに書かれても人間いろいろな時と場合があるのであらわさなければならない(3) 6つの段階において性格の程度を調べるの意味に疑問をかんずる。

第2章

(3) 尺度の改良 その1

— NEGATIVE語を加えて

付表 3-1	18
付表 3-2	21
付表 3-3	24
付表 3-4	26
付図 3-1	27
付図 3-2	28
付図 3-3	29
付図 3-4	30
付図 3-5	31
付表 3-5	32
付表 3-6	33
付表 3-7	34
付表 3-8	35
付図 3-6	36
付図 3-7	37
付図 3-8	38
付図 3-9	39

付図 3-10

40

付図 3-11

41

付図 3-12

42

付表 3-1

選択された6つのNEGATIVE項目 (1)

No. 1

	同義語	(人)		同義語	(人)		同義語	(人)		同義語	(人)
(1)	むっつりした	19		おしゃべり	15	(2)	せかせかした	13		のろま	13
口	陰気な	13	話	口数が多い	11	て	せわしい	13	お	のろい	13
数	だんまりの	11	し	やかましい	9	ぎ	せつからな	12	と	ぐずぐずした	12
少	無口な	6	好	うるさい	9	は	おちつきのない	12	り	鈍重な	10
ない	消極的	6	き	でしゃばりの	8	し	事務的な	8	し	鈍い	8
い	口下手	5	な	かしこい	8	に	あわて者の	2	に	ぬけている	4
※(3-a)	粗野な	14		めめしい	17	(3-b)	勝気	16		なよなよとした	14
	横暴な	12		なよなよとした	14		男まざり	14		はつきりしない	12
男	荒々しい	9	女	たよりない	10	男	理屈っぽい	8	女	受動的	11
性	野蛮な	9	性	軟弱	8	性	いさましい	7	性	めめしい	9
的	カづく	8	的	優柔不断	8	的	粗野な	7	的	優柔不断	7
	独断的な	8		女っぽい	3		男っぽい	5		軟弱な	4
(4)	もてまわていう	15		ぶしつけな	16	(5)	おせっかい	18		そっけない	14
そ	おもわせぶり	14	単	無遠慮な	12	せ	でしゃばり	12	人	冷淡な	13
れ	陰けんな	11	力	ズケズケいう	11	話	押しつけがましい	11	干	無関心な	10
な	遠まわしにいう	9	直	無神経	9	好	さし出がましい	9	渉	薄情な	9
く	皮肉な	7	入	ろこつ	7	き	世話やき	7	た	無愛想な	8
う	あいまいな	4		ズバズバいう	5		こうるさい	3	い	冷たい	6
(6)	ルーズな	16		融通のきかない	17	(7)	八方美人	15		ぐきあいの悪い	16
あ	いいかげん	15	厳	しゃくし定規な	14	社	お調子もの	15	孤	陰気な	13
あ	無責任な	10	厳	堅苦しい	14	派	派手な	14	独	閉鎖的	12
よ	大ざっぱ	9	格	きつい	6	交	でしゃばりな	9	を	人ごういな	7
う	大まか	6	な	手心もかえぬ	5	的	外出好き	5	好	内にこもる	7
は	あいまいな	4		手ぎびしい	4		世間的	2	む	孤立的な	5
(8)	騒々しい	16		陰気な	17	(9)	粘りのない	17		しつこい	18
	さわがしい	11	も	陰にこもる	16	あ	根気がない	16	ね	ねろねろした	13
陽	軽薄な	11	の	むっつりした	10	き	あきらましい	9	ば	固執的	11
気	お調子もの	10	静	内気な	7	め	根性のない	7	り	あきらめの悪い	9
な	うるさい	7	か	無口な	5	よ	あきらめやすい	6	強	意固地	5
	派手な	5		さびしい	5	い	なげやりな	5	い	強情な	4
(10)	場あてり的	16		がんこな	16	(11)	軽薄な	16		思いぎりの悪い	15
融	ひより見の	11	一	融通がきかない	15	気	軽率な	11	慎	決断力がない	13
通	迎合的な	11	本	意固地	10	軽	お調子者の	9	重	優柔不断	13
が	一意性のない	9	気	強情な	8	な	おちよこしい	9	な	臆病な	10
き	いいかげん	8		型にハマった	7		浅薄な	8		腰が重い	7
く	同調的	5		しゃくし定規	4		尻軽な	7		気の小さい	2

※(3-a)は男性。(3-b)は女性を対象としたもの。

	同義語	(人)		同義語	(人)		同義語	(人)		同義語	(人)
(12)	無神経な	13		線の細い	15	(13)	現実離れした	19		望利的	17
	ず太い	13	デ	神経質な	13	ロ	現実逃避的	16	現	夢がない	15
太	鈍感な	12	リ	過敏な	11	シ	世間知らずの	10	実	すれた	9
腹	おおざっぱな	10	ケ	傷つきやすい	9	チ	夢想家	6	的	想像力に乏しい	8
な	無頓着な	7	ト	気が小さい	8	7	夢みがちな	5	な	現実主義者の	6
	きめのあらい	5	ナ	弱々しい	4	ナ	空想好き	4		近視眼的な	5
(14)	細部にこだわる	18		思いつきの	17	(15)	無感動な	16		のぼせやすい	18
	詮索好きの	13	直	あてずっぽう	12	淡	さめた	14	熱	我を忘れる	11
分	理屈っぽい	10	観	非論理的	11	々	素っ気ない	12	中	自分を見失う	11
析	近視眼的	7		勘にTによる	9	と	冷淡な	9	す	血道をあける	7
的	理詰めの	7	的	おおざっぱな	6	T	あきらまい	5	る	おれがかりない	7
	細かい	5		夜相的	5		なげやりな	4		いっこい	6
(16)	温室育ち	14		おこみず	15	(17)	しつこい	18		ねばりのない	16
お	覇気がない	14	勇	猪突猛進の	14	し	執念深い	16	あ	根気のない	15
と	鈍い	14	猛	野蛮な	12	ぶ	あきらめの悪い	8	き	なげやりな	10
り	ぐずな	8	な	粗野な	10	と	思い切りの悪い	8	り	素っ気ない	7
し	無気力な	6		荒々しい	6	い	こたわる	6	し	あきらめやすい	6
T	気の弱い	4		乱暴な	3		強情な	4	た	表面的な	6
(18)	我が強い	16		引込思案	15	(19)	のろい	15		かむくらな	15
気	強情	12	お	消極的	12	の	鈍重な	13	エ	油断した	12
が	勝気	9	と	気の弱い	10	ん	怠慢な	11	ネ	かざつた	10
強	意固地な	9	た	覇気がない	9	ひ	まのびした	11	ギ	せわしい	9
い	気がきつい	7	い	内気な	7	し	無気力な	10	シ	ぎらぎらした	8
	負けん気な	7		自己主張がない	6	に	馬力のない	0	ナ	おちつきのない	6
(20)	お調子者	15		とりまじに	15	(21)	冷淡な	17		情に流される	16
茶	幼稚な	11	大	ひねた	11	7	情がうすい	13	人	情におぼれる	14
め	ふざけた	11	人	背伸びした	10	一	ひややか	12	情	情にものい	12
け	子供っぽい	9	フ	大人ぶった	9	ル	とりすます	9	に	おせっかいな	9
の	おちよこちよい	9	ば	生意気	8	ナ	つめたい	7	厚	情にほだされる	5
あ	おどけた	5		年よりじみた	7		つきあいの悪い	2	い	涙もろい	3
る											
(22)	因襲的な	15		新しがりの	16	(23)	冷ややかな	13		激しやすい	16
古	保守的	13	現	時流に流される	11	冷	さめた	13	情	血の気の多い	12
風	古くさい	9	代	新しもの好き	9	静	冷たい	12		なぶりかたしい	10
な	時代おくれの	8	的	ドライな	9	ナ	冷淡な	11	熱	感情論的	10
	封建的な	8	ナ	軽薄な	7		無感動な	7	的	のぼせやすい	8
	年よりくさい	4		流行を追った	5		わりきった	4		我を忘れる	4

	同義語	(人)		同義語	(人)		同義語	(人)		同義語	(人)
(24)	押しつけがましい	15		主体性がない	16	(25)	即物的な	17		理屈、ほい	16
指	支配的な	13	従	追従的	13	実	実利的	12	理	頭でっかち	12
尊	ワンマン	13		自主性のない	10	実	功利的	10	論	へりくつきこねる	11
的	独断的	9	傾	依存的	9	際	夢のない	9	論	現実離れした	9
	尊大な	5	傾	言いなりになる	7	的	現実主義の	7	的	観念的	8
	でしゃばり	5		自分がない	5		通俗的	5		杓子規矩な	4
(26)	無謀な	18		気が小さい	16	(27)	執念深い	14		場あてり的な	19
	むていほうな	15		おくびょうな	16		しつこい	13	臨	その場のしぎの	12
大	むこうみずな	14	細	小 心	10	執	こたわる	11	機	一貫しない	11
	無神経な	7		神経質	8	着	めきうめの悪い	10	応	いいかげんな	10
胆	厚かましい	5	心	こわがりの	5	可	固執する	9	変	お天気屋の	5
	あちやとす	1		気弱な	5	る	融通のきかない	3	の	ひよりのみ的な	3
(28)	憶病な	19		鈍感な	13	(29)	ひとりよがりな	18		八方美人	15
(用)	うたがひ深い	18	の	にぶい	13		独断的	12		迎合的な	14
心	気が小さい	14		ぬけた	12	自	自分勝手な	10	協	付和雷同	11
深	優柔不断	4	ん	気がつかない	11	立	自己中心的	9	調	自主性に欠ける	8
深	神経質な	3	き	無頓着	9	的	孤立的	8	的	日和見的	8
い	苦勞性	2	な	不注意	2		反抗的	3		依存的	4
(30)	ロハ丁	15		あおせるのが深い	18						
話	ロがうまい	15	聞	せんさく好き	16						
し	おしゃべり	10	き	ふてばりの	11						
じ	ロじょうず	10	じ	ロベア的な	7						
う	上調子な	8	う	秘密主義	4						
ず	ききべた	2	ず	無口な	4						

付表3-2 その①
NEGATIVE 対. 候補. 反対妥当性得点

No. 1
反対妥当性得点:

肯定的項目	相関係数	否定的項目	男	女	計	
(1)		むっつりした — おしゃべり	43	35	78	◎
口数少ない — 話し好き	-0.663	だんまりの — おしゃべり	44	32	76	○
		むっつりした — 口数が多い	40	32	72	○
(2)		せかせかした — ぐずぐずした	42	32	74	◎
てきぱきした — おっとりした	-0.474	せかちな — ぐずぐずした	41	31	72	○
		せわい — のろい	36	27	63	○
(3-a)		荒々しい — なよなよした	38	29	67	◎
男性的 — 女性的	-0.437	粗野な — めめしい	26	16	42	
		粗野な — なよなよした	26	16	42	
(3-b)		男まざり — なよなよした	38	27	65	◎
男性的 — 女性的	-0.437	男まざり — 受動的	29	19	48	
		勝負 — なよなよした	30	16	46	
(4)		もてなていう — ズケズケいう	42	32	74	◎
それとなくいう — 単刀直入	-0.428	おもわせぶり — ズケズケいう	38	22	60	○
		おもわせぶり — ぶしつけな	25	23	48	
(5)		おせっかい — そいつない	32	27	59	◎
世話好き — 人に干渉しない	-0.405	おせっかい — 冷淡な	30	22	52	
		押しつけがましい — そいつない	29	20	49	
(6)		ルーズな — しゃくし定規な	35	22	57	◎
おおやうな — 厳格な	-0.394	ルーズな — 融通がきかない	29	22	51	
		ルーズな — 堅苦しい	29	21	50	
(7)		八方美人 — 人づきみの悪い	38	28	66	◎
社交的 — 孤独を好む	-0.332	八方美人 — 閉鎖的	30	21	51	
		お調子者 — 人づきみの悪い	25	20	45	
(8)		さわがしい — 陰気な	33	23	56	◎
陽気な — もの静か	-0.325	騒々しい — 陰気な	28	25	53	
		騒々しい — むっつりした	32	17	49	
(9)		あきらほい — 固執的	43	30	73	○
あきらめのよい — ねばり強い	-0.319	粘りのない — しつこい	41	24	65	◎
		根気がない — しつこい	34	27	61	○
(10)		迎合的な — がんこな	34	25	59	◎
融通がきく — 一本気	-0.308	場あての的 — 融通がきかない	26	24	50	
		迎合的な — 融通がきかない	27	21	48	
(11)		軽率な — 思いきりの悪い	32	20	52	◎
気軽な — 慎重な	-0.274	軽率な — 決断力がない	32	17	49	
		軽率な — 優柔不断	25	19	44	
(12)		鈍感な — 過敏な	43	35	78	C
太っ腹な — テリケートな	-0.255	ずぶとい — 線の細い	43	33	76	◎
		無神経な — 神経質	36	29	65	○

付表 3-2 その②

No. 2

肯定的項目	相関係数	否定的項目	男	女	計	
(13)		世間知らず — すれた	41	33	74	○
ロマンチックな — 現実的な	-0.253	現実離れした — 実利的	34	28	62	◎
		現実逃避的 — 実利的	24	17	41	
(14)		理屈っぽい — 非論理的	33	24	57	◎
分析的 — 直観的	-0.248	理屈っぽい — 思いつきの	27	22	49	
		細部にこだわる — 思いつきの	20	18	38	
(15)		さめた — のほほやすい	37	32	69	○
淡々としな — 熱中する	-0.248	無感動な — のほほやすい	31	23	54	◎
		無感動な — 我を忘れる	29	25	54	○
(16)		温厚育ち — 野蛮な	31	25	56	◎
おとししな — 勇猛な	-0.227	覇気がない — 猪突猛進の	29	24	53	
		覇気がない — むこうみず	27	20	47	
(17)		執念深い — なげりな	38	19	57	○
しぶとい — あきらしな	-0.219	執念深い — なげりな	33	22	55	◎
		しつこい — なげりな	33	21	54	○
(18)		勝気 — 気の弱い	41	32	73	○
気が強い — おとなしい	-0.217	我が強い — 気の弱い	36	26	62	◎
		強情 — 気の弱い	33	20	53	
(19)		急慢な — がむしゃらな	28	20	48	◎
のんびりしな — エネルギーな	-0.190	鈍重な — がむしゃらな	22	19	41	
		のろい — がさつな	24	16	40	
(20)		幼稚な — ひねた	29	26	55	◎
茶めけのある — 大人っぽい	-0.169	ふざけた — とりまじな	30	19	49	
		お調子者 — とりまじな	26	19	45	
(21)		情がうすい — 情におぼれる	34	26	60	○
クールな — 人情に厚い	-0.153	ひやかか — 情に流される	32	26	58	○
		情がうすい — 情に流される	32	22	54	◎
(22)		古くさい — 新しいがりの	40	29	69	○
古風な — 現代的な	-0.151	因襲的な — 新しいがりの	41	27	68	◎
		保守的 — 時流に流れる	28	20	48	
(23)		さめた — 激しやすい	40	33	73	◎
冷静な — 情熱的	-0.115	さめた — 感情的	41	27	68	○
		ひやかかな — 激しやすい	33	27	60	○
(24)		支配的 — 追従的	40	31	71	◎
指導的 — 従順	-0.102	ワンマン — 追従的	35	28	63	○
		支配的な — 主体性がない	29	24	53	
(25)		即物的な — 理屈っぽい	25	17	42	
実際の — 理論的	-0.066	実利的 — 頭でかち	24	16	40	◎
		実利的 — 理屈っぽい	21	18	39	

付表 3-2 その③

肯定的項目	相関係数	否定的項目	男	女	計	
(26)		おこみずな — おくはうな	31	24	73	○
大胆 — 細心	-0.054	おこみずな — 小い	25	30	65	◎
		おてっぽうな — 気が小さい	30	24	54	○
(27)		こだわる — 場あてり的	27	20	47	◎
執着する — 臨機応変の	-0.003	執念深い — 場あてり的	22	16	38	
		こだわる — 一貫しない	19	14	33	
(28)		うたがい深い — ぬけた	24	19	43	◎
用心深い — のんきな	0.009	懐病な — 鈍感な	16	15	31	
		うたがい深い — にぶい	16	14	30	
(29)		独断的 — 迎合的	25	27	62	○
自立的 — 協調的	0.117	独断的 — 付和雷同	29	26	55	◎
		ひとりよがりな — ハ方美人	25	15	40	
(30)		ロジようず — きいてばかりの	27	17	44	◎
話しじようず — 聞きじようず	0.239	ロカうまい — 聞いてばかりの	24	15	39	
		ロハ丁 — きいてばかりの	22	16	38	

注) *相関係数は、肯定的項目の対間のもの。反対性の順位の高いものから順に並べてある。

被験者は 男15名、女12名。

得点は、妥当である(A) 3点、まあまあ妥当である(B) 2点、妥当でない(C) 1点。

したがって 男 15点 → 45点 中間点 30点。

女 12点 → 36点 " 24点。

計 27点 → 81点 " 54点。

54点以上の対は表中に ○ をつけて示してある。

◎ または ◎ は最終的に選択された対。

付表 3-3
スコアについて (その1)
 スコアの操作的定義 (計算法)

記号		
1) $S+(P)$	$\sum_{n=1}^{30} (x_n + y_n)$	POSITIVE項目 60個の総和
2) $S+(N)$	$\sum_{m=1}^{30} (x_m + y_m)$	NEGATIVE項目 60個の総和
3) $S-(P)$	$\sum_{n=1}^{25} x_n - y_n $ (共存性項目 5対/10項目は省く)	POSITIVE項目 25対について 対間の差の絶対値を合計
4) $S-(N)$	$\sum_{m=1}^{25} x_m - y_m $ (共存性項目 5対/10項目は省く)	NEGATIVE項目 25対について 対間の差の絶対値を合計
5) $S_{--}(P)$	$[A-(P) - A'-(P)]$ 対立性項目 5対についての S_{--} マトリックス 共存性項目 5対についての S_{--} POSITIVE.	
6) $S_{--}(N)$	$[A-(N) - A'-(N)]$ 対立性項目 5対についての S_{--} マトリックス 共存性項目 5対についての S_{--} NEGATIVE	
7) $S(P-N)$	$\sum_{n=1}^{30} [(x_n - x_m) + (y_n - y_m)]$ $= \sum_{n=1}^{30} (x_n + y_n) - \sum_{m=1}^{30} (x_m + y_m)$ $= S+(P) - S+(N)$	POSITIVE 総和 - NEGATIVE 総和

・ただし x_n POSITIVE 左 y_n POSITIVE 右.
 x_m NEGATIVE 左 y_m NEGATIVE 右 の項目得点をあわせる.

■ 例.	話し好き 4	口数少ない 2	執着する 6	臨機応変の 5	
	てきばきした 5	おっとりした 2	理論的 5	実際の 5	
対立性項目	世話好き 4	人に干渉ない 5	共存性項目	自立的 2	協調的 5
	男性的 5	女性的 5		用心深い 2	のんきな 4
POSITIVE	単刀直入 2	それとなく 4	POSITIVE	茶めかけのある 3	大人っぽい 3

対立性項目	おしゃべり 5	おっとりした 1	共存性項目	こたわる 5	場あてりの 2
	情に流れる 5	情がうすい 0		頭でっかち 1	実利的 5
	ずぶとい 2	線の細い 4		因襲的な 5	新しがりの 5
POSITIVE	おせっかい 2	そっけない 1	NEGATIVE	うたがい深い 2	ぬけた 5
	荒々しい/男気 3	なややかな 1		幼稚な 5	ひねた 2

例の計算

① $S_+(P) = 4+2+5+2+ \dots + 2+4+3+3$ (全部を)

② $S_+(N) = 5+1+5+0+ \dots + 2+5+5+2$ (")

③ $S_-(P) = |4-2| + |5-2| + |4-5| + |5-5| + |2-4| + \dots$ (共有性項目は計算しない)

④ $S_-(N) = |5-1| + |5-0| + |2-4| + |2-1| + |3-1| + \dots$ (")

⑤ $S_{--}(P) = \{ |4-2| + |5-2| + |4-5| + |5-5| + |2-4| \} - \{ |6-5| + |5-5| + |2-5| + |2-4| + |3-3| \}$
 $= (2+3+1+0+2) - (1+0+3+2+0)$
 $= 8-6 = 2$

⑥ $S_{--}(N) = \{ |5-1| + |5-0| + |2-4| + |2-1| + |3-1| \} - \{ |5-2| + |1-5| + |5-5| + |2-5| + |5-2| \}$
 $= (4+5+2+1+2) - (3+4+0+3+3)$
 $= 14-13 = 1$

⑦ $S(P-N) = S_+(P) - S_+(N)$

付表 3-4

各スコア 大群 小群の Range と人数

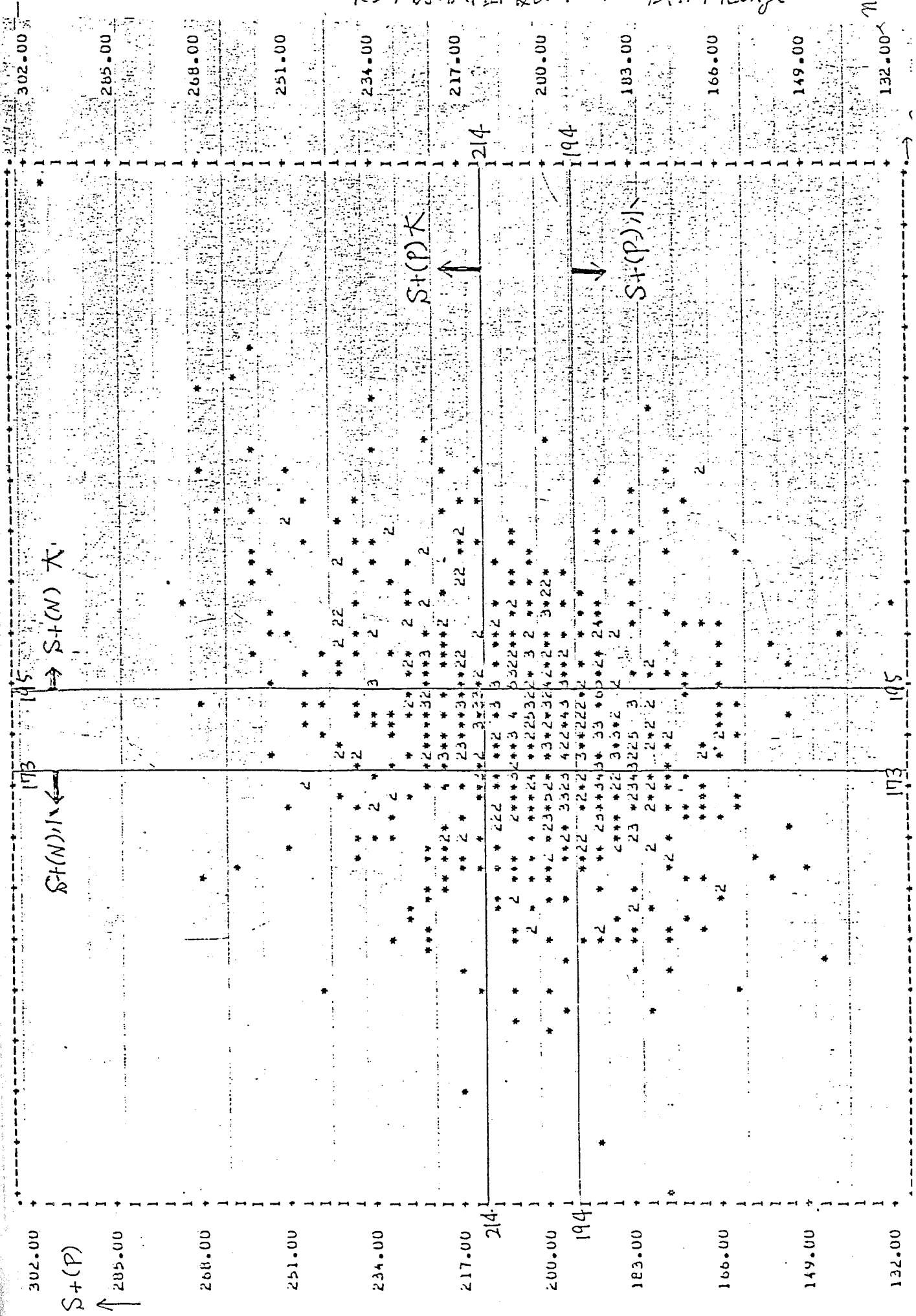
	小			大		
	Range	n	全体に 対する%	Range	n	全体に 対する%
S+(P)	132 ~ 194	237	33%	214 ~ 301	236	33%
S+(N)	75 ~ 173	243	34	195 ~ 313	234	33
S-(P)	9 ~ 36	238	33	49 ~ 97	228	32
S-(N)	11 ~ 39	236	33	52 ~ 88	237	33
S--(P)	-13 ~ 0	225	32	5 ~ 22	226	32
S--(N)	-15 ~ 0	258	36	4 ~ 17	273	38
S(P-N)	-83 ~ 9	242	34	33 ~ 122	232	33

付図 3-1

スコア別分布図及び H.H.L. 群対付 Average

$S+(P)$ と $S+(N)$

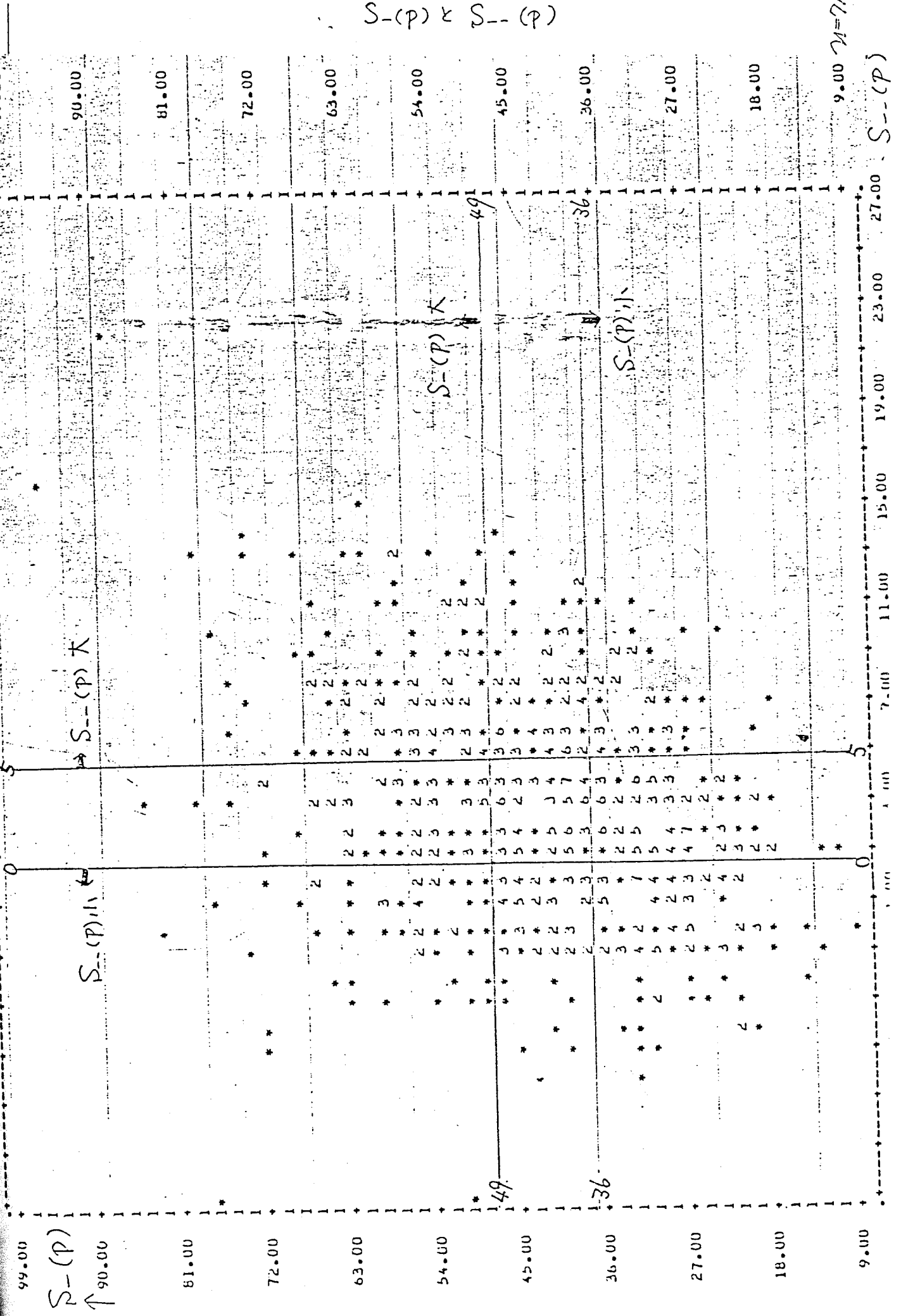
$n=713$



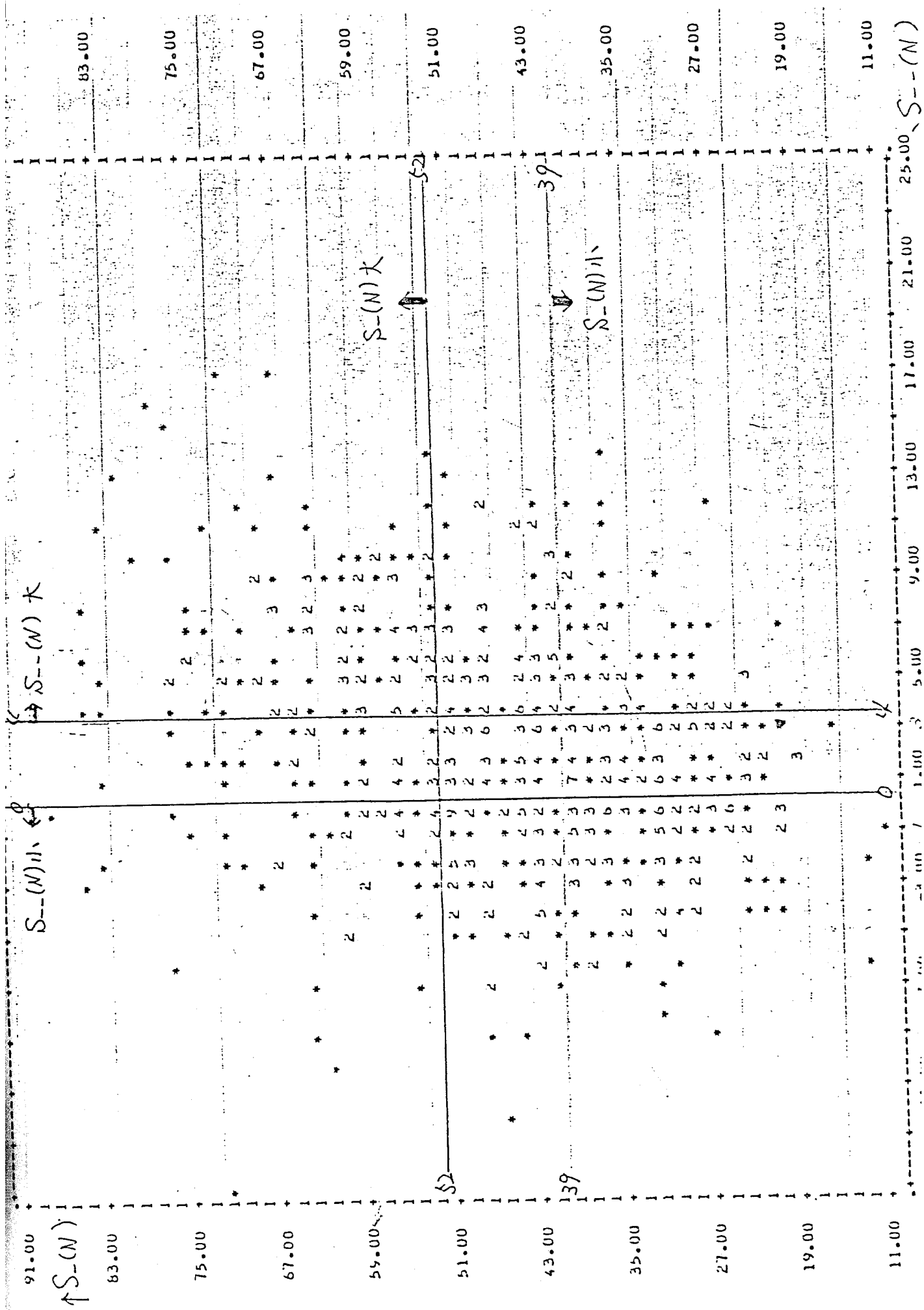
付図 3-2
S-(p) と S--(p)

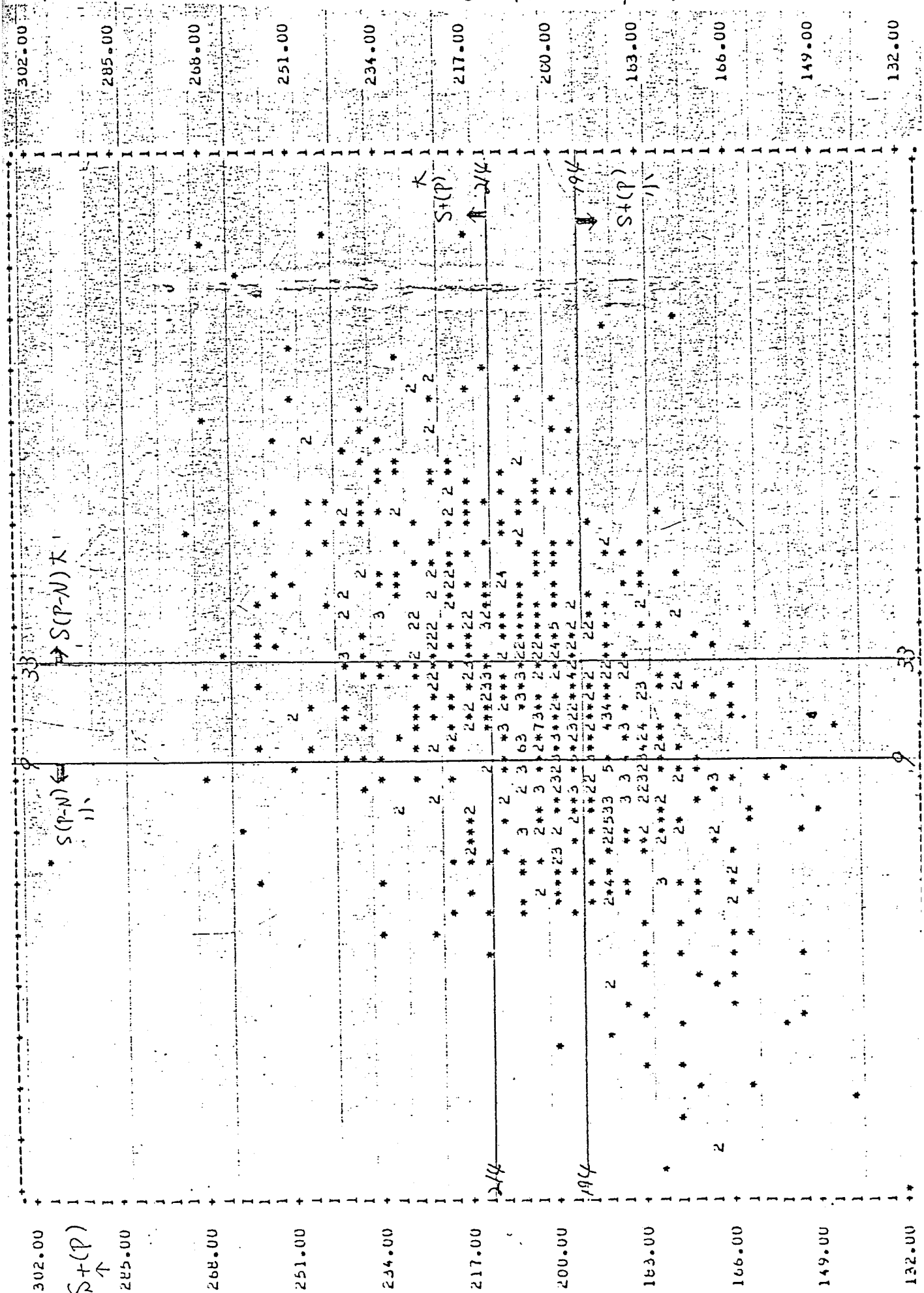
9.00 $\eta=7/3$

S--(p)



付図 3-3
 $S-(N)$ & $S--(N)$





5/

3

スコアと項目との相関 S+(P) S+(N)

POSITIVE			NEGATIVE		
	S1	S2		S1	S2
	S+(P)	S+(N)		S+(P)	S+(N)
1 用心深い	0.1516**	0.0996*	101 うにが深い	0.0424	0.4220**
2 のん気な	0.2415**	0.1301**	102 めげて	0.0878	0.3965**
3 気が強い	0.4210**	0.1146*	103 我がつよい	0.2468**	0.3591**
4 おとなしい	-0.0127	0.0391	104 気の弱い	-0.1176*	0.3270**
5 けきらめのよい	0.2016**	-0.0424	105 粘りのない	-0.1207*	0.2658**
6 ねばり強い	0.3484**	-0.1040*	106 しつこい	0.1311**	0.4671**
7 口数少ない	-0.0255	0.0024	107 ぴったりした	-0.0342	0.3334**
8 話し好きな	0.2914**	0.1049*	108 おしゃべり	0.2060**	0.2044**
9 気軽な	0.3363**	0.0630	109 軽率な	0.0079	0.5323**
10 慎重な	0.2257**	-0.0342	110 思いきりの強い	-0.0810	0.3624**
11 実際的	0.3446**	0.0371	111 果敢的	0.2090**	0.1881**
12 理論的	0.2763**	0.1685**	112 頭でっかち	0.0135	0.4239**
13 指導的	0.4543**	0.0265	113 支配的	0.3039**	0.2766**
14 従順	0.0426	0.0637	114 追従的	-0.0016	0.2128**
15 融通がきく	0.3057**	-0.1118*	115 迎合的な	0.1732**	0.1015*
16 一本気	0.2044**	0.2502**	116 がんこな	0.2438**	0.3785**
17 陽気な	0.3515**	-0.0494	117 さわがしい	0.1457**	0.2998**
18 もの静か	0.2078**	0.0833	118 陰気な	-0.1272**	0.3555**
19 それとなくいう	0.1952**	0.1518**	119 んてまわっている	0.0653	0.3120**
20 単刀直入	0.2038**	0.1855**	120 スケスケいう	0.1498**	0.2923**
21 分析的	0.3083**	0.0789	121 理くつっぽい	0.1336**	0.3376**
22 直観的	0.2521**	0.2224**	122 非論理的	0.0143	0.2321**
23 てきぱきした	0.4040**	-0.0234	123 せかせかした	0.0919	0.3803**
24 おっとりした	0.0910	0.1201*	124 ぐずぐずした	-0.0544	0.3406**
25 男性的	0.3506**	0.1040*	125 ぐうぐうしい男ざり	0.3218**	0.2862**
26 女性的	0.1338**	0.1776**	126 なよなよとほ	-0.0662	0.3257**
27 世話好き	0.3616**	0.0886	127 おせっかい	0.2102**	0.3560**
28 人に干渉しない	0.1048*	-0.0050	128 そっけない	0.0035	0.3010**
29 しぶとい	0.3312**	0.2290**	129 執念深い	0.1493**	0.4660**
30 あっさりした	0.3803**	-0.0696	130 ぐうぐうしい男ざり	-0.0749	0.4987**
31 自立的	0.4257**	0.0051	131 独断的	0.2066**	0.4061**
32 協調的	0.3014**	-0.0401	132 付知雷同	0.0070	0.2285**
33 茶めつけのある	0.3570**	0.1216*	133 幼稚な	0.0186	0.4219**
34 大人っぽい	0.3558**	0.0032	134 ひねた	0.1741**	0.4790**
35 冷静な	0.3346**	-0.1764**	135 さめた	0.1234**	0.3371**
36 情熱的	0.4131**	0.1373**	136 激しやすい	0.2490**	0.3731**
37 執着する	0.2592**	0.3767**	137 こたわる	-0.0339	0.4118**
38 臨機応変の	0.4471**	-0.0219	138 場あてりの	0.1719**	0.3321**
39 ロマンチックな	0.3394**	0.1580**	139 現実離れした	0.1762**	0.4142**
40 現実的な	0.2653**	0.0751	140 実利的	0.1769**	0.1489**
41 太っ腹な	0.3965**	0.0117	141 すぶとい	0.2767**	0.2148**
42 デリケートな	0.1867**	0.2027**	142 線の細い	0.0196	0.1975**
43 古風な	0.3351**	0.2387**	143 因襲的な	0.1563**	0.3327**
44 現代的な	0.2966**	0.0647	144 新しがりやの	0.2074**	0.2502**
45 社交的	0.4042**	0.0255	145 八方美人	0.2094**	0.2836**
46 孤独を好む	0.1751**	0.1877**	146 ぐうぐうしい男ざり	-0.1541**	0.2965**
47 おおやうな	0.3613**	0.1169*	147 ルーズな	-0.0074	0.3827**
48 厳格な	0.2376**	0.1792**	148 しゃくじ定規な	0.0872	0.2495**
49 のんびりした	0.2502**	0.0732	149 怠慢な	0.0029	0.4229**
50 エネルギーな	0.4854**	0.0601	150 ぐうぐうしい男ざり	0.3179**	0.2268**
51 話しじょうず	0.3939**	0.0364	151 ロジようず	0.3404**	0.1343**
52 聞きじょうず	0.3645**	-0.1475**	152 聞かばかりの	-0.0492	0.0885
53 淡々とした	0.2905**	0.1789**	153 無感動な	-0.0685	0.2173**
54 熱中する	0.3186**	0.1434**	154 のぼせやすい	0.1474**	0.4182**
55 おっとりした	0.1398**	0.0741	155 温室育ち	-0.0184	0.2831**
56 勇猛な	0.4376**	0.1199*	156 野蛮な	0.2374**	0.3309**
57 クールな	0.2742**	0.0950	157 情がうすい	-0.1412**	0.2616**
58 人情に厚い	0.3917**	0.0146	158 情に流される	0.1387**	0.2482**
59 大胆	0.4331**	0.1631**	159 むこうみずな	0.2520**	0.3735**
60 細心	0.0744	0.1505**	160 小 心	-0.1286**	0.4248**

0.4>

0.5>

0.2>

0.4>

	S4 S-(P)	S5 S-(N)		S4 S-(P)	S5 S-(N)
1 用心深い	-0.0471	0.0069	101 うたが深い	0.0100	0.0136
2 のん気な	-0.0024	0.0121	102 めげた	0.0349	-0.0153
3 気が強い	-0.0669	0.0450	103 我がよい	0.0772	0.1195*
4 おとなしい	-0.1171*	-0.1399**	104 気の弱い	-0.0156	-0.1198*
5 あきらめのよい	-0.0175	0.0077	105 粘りのない	0.0363	-0.0353
6 ねばり強い	-0.0695	-0.0190	106 しつこい	0.0203	0.0410
7 ロ数少ない	-0.1245**	-0.1697**	107 ぶつりした	-0.1218*	-0.1485**
8 話し好きな	0.0529	0.0930	108 おしゃべり	0.0283	0.0648
9 気軽な	-0.0582	-0.0273	109 軽率な	0.0550	-0.0123
10 慎重な	-0.0738	-0.0269	110 思いきりの悪い	0.0331	-0.0156
11 実利的	-0.0708	-0.0238	111 果利的	-0.0011	0.0478
12 理論的	-0.1157*	-0.0435	112 頭でっかち	0.0348	0.0452
13 指導的	-0.0467	0.0388	113 支配的	-0.0747	0.0171
14 従順	0.0049	-0.0820	114 追従的	0.0161	-0.0973*
15 融通がきく	-0.0576	0.0444	115 迎合的な	-0.0248	-0.0694
16 一本気	-0.0623	-0.0140	116 がんこな	0.0076	0.0460
17 陽気な	0.0383	0.0374	117 さわがしい	0.0749	0.0835
18 ものずか	-0.1885**	-0.1327**	118 陰気な	-0.0954	-0.1712**
19 それとなくいう	-0.0067	-0.0206	119 ちやていう	-0.0391	-0.0711
20 単刀直入	-0.0426	0.0014	120 スズズという	0.0130	0.0628
21 分析的	-0.1250**	0.0048	121 理くつっぽい	-0.0064	0.0641
22 直観的	0.0765	0.0913	122 非論理的	0.0525	-0.0433
23 てきぱきした	-0.1020*	-0.0131	123 せかせかした	0.0064	-0.0182
24 おっとりした	-0.0285	-0.0776	124 ぐずぐずした	0.0145	-0.0742
25 男性的	-0.0838	0.0113	125 荒っぽい男ざり	-0.0138	0.0452
26 女性的	-0.0323	-0.0082	126 なやなとした	-0.0077	-0.0766
27 世話好き	-0.0452	-0.0194	127 おせっかい	0.0084	-0.0031
28 人に干渉しない	-0.0303	0.0329	128 そっけない	-0.0601	-0.0312
29 しぶとい	-0.0788	0.0199	129 執念深い	-0.0221	0.0232
30 あっさりした	-0.0498	0.0215	130 なげやりな	0.0958	-0.0415
31 自立的	-0.0501	0.0484	131 独断的	0.0834	0.1250**
32 協調的	-0.0323	-0.0038	132 付和雷同	0.0596	-0.0598
33 茶めつけのある	0.0173	0.0601	133 幼稚な	0.1105*	0.0556
34 大人っぽい	-0.1427**	-0.0553	134 ひねた	-0.0995*	-0.0625
35 冷静な	-0.1432**	-0.0490	135 さめて	-0.1393**	-0.1240**
36 情熱的	-0.0009	0.0527	136 激しやすい	0.0975*	0.1228*
37 執着する	0.0259	0.0245	137 こたわる	0.0196	0.0130
38 臨機応変の	-0.1051*	0.0097	138 場あてり的	-0.0022	-0.0490
39 ロマンチックな	0.0116	0.0736	139 現実離れした	0.0427	0.0597
40 現実的な	-0.0862	-0.0209	140 実利的	-0.0460	-0.0316
41 太っ腹な	-0.1378**	-0.0485	141 すぶとい	-0.0491	0.0197
42 デリケートな	0.0593	0.0711	142 線の細い	0.0127	-0.0386
43 古風な	-0.1018*	-0.0551	143 因襲的な	-0.0502	-0.0547
44 現代的な	-0.0513	-0.0022	144 新しがりやの	0.0197	0.0176
45 社交的	-0.0124	0.0621	145 八方美人	-0.0031	0.0122
46 孤独を好み	-0.0828	-0.0428	146 ぐさみの悪い	-0.0266	-0.0656
47 おおやかな	0.0283	0.0962	147 ルーズな	0.0772	0.0244
48 厳格な	-0.1610**	-0.1109*	148 しゃくし定規な	-0.0401	-0.0844
49 のんびりした	-0.0189	0.0236	149 怠慢な	0.0582	0.0313
50 エネルギーな	-0.0916	0.0371	150 がむしゃらな	-0.0391	0.0072
51 話しじょうず	0.0023	0.0823	151 ロジじょうず	-0.0036	0.0604
52 聞きじょうず	0.0545	0.0798	152 聞いてばかりの	0.0168	-0.0608
53 淡々とした	-0.1653**	-0.0921	153 無感動な	-0.0536	-0.1149*
54 熱中する	0.1213*	0.1816**	154 のぼせやすい	0.1161*	0.1350**
55 おっとりした	-0.0342	-0.0656	155 温室育ち	0.0896	0.0665
56 勇猛な	-0.1492**	-0.0517	156 野蛮な	-0.0502	-0.0312
57 クールな	-0.1697**	-0.0938	157 情がうすい	-0.0907	-0.1401**
58 人情に厚い	0.0270	0.0789	158 情に流される	0.0794	0.0986*
59 大胆	-0.0445	0.0552	159 むこうみずな	0.0661	0.0475
60 細心	-0.0446	-0.0065	160 い 心	0.0685	0.0178

	S7 S--(P)	S8 S--(N)
1 用心深い	0.0888	-0.0313
2 のん気な	0.0934	-0.0080
3 気が強い	0.1583**	0.0790
4 おとなしい	-0.1498**	-0.1951**
5 あきらめのよい	0.0082	0.0666
6 ねばり強い	0.0510	-0.0728
7 口数少ない	-0.1225*	-0.1637**
8 話し好きな	0.1183*	0.1789**
9 気軽な	0.0864	0.1222*
10 慎重な	0.0784	-0.0538
11 実地的	0.1303**	0.1412**
12 理論的	0.1346**	-0.1172*
13 指導的	0.2148**	0.1195*
14 従順	-0.0159	-0.0122
15 融通がきく	0.0945	0.0623
16 一本気	-0.0466	-0.0111
17 陽気な	0.1070*	0.1468**
18 ものずか	-0.1074*	-0.1924**
19 それとなくいう	0.0188	-0.0041
20 単刀直入	-0.0457	-0.0040
21 分析的	0.1195*	-0.0867
22 直観的	0.0549	0.0454
23 てきぱちした	0.1057*	0.0573
24 おっとりした	-0.0999*	-0.0463
25 男性的	0.1028*	0.0376
26 女性的	-0.1199*	0.0185
27 世話好き	0.0778	0.1112*
28 人に干渉しない	-0.0702	-0.0982*
29 しぶとい	0.0993*	0.0240
30 あっさりした	0.0623	0.0807
31 自主的	0.1569**	0.0065
32 協調的	0.1039*	0.0156
33 茶めつけのある	-0.0004	0.0699
34 大人っぽい	0.2368**	0.0374
35 冷静な	0.0895	-0.1670**
36 情熱的	-0.0049	0.1276**
37 執着する	0.1191*	0.0036
38 臨機応変の	0.1855**	0.1039*
39 ロマンチックな	-0.0144	0.0212
40 現実的な	0.1349**	0.0409
41 太っ腹な	0.0985*	0.0897
42 プリケートな	-0.0239	0.0006
43 古風な	0.0580	0.0413
44 現代的な	0.1041*	0.0268
45 社交的	0.1277**	0.1385**
46 孤独を好む	-0.0762	-0.0224
47 おおやかな	0.0743	0.0407
48 厳格な	-0.0241	0.0124
49 のんびりした	-0.0335	-0.0329
50 エネルギーな	0.1649**	0.1382**
51 話しじょうず	0.1432**	0.0997*
52 聞きじょうず	0.0882	-0.0141
53 淡々とした	0.0217	-0.0287
54 熱中する	0.1076*	0.0818
55 おっとりした	-0.0786	-0.0650
56 勇猛な	0.1077*	0.0831
57 クールな	-0.0027	-0.0638
58 人情に厚い	0.0707	0.1534**
59 大胆	0.1346**	0.0954
60 細心	-0.0701	-0.0981*

	S7 S--(P)	S8 S--(N)
101 うたがひ深い	-0.0069	-0.0098
102 めげた	-0.0279	0.1092*
103 我がうまい	0.1093*	0.0950
104 気の強い	-0.1903**	-0.1050*
105 粘りのない	-0.0585	0.0411
106 しつこい	0.0719	0.0301
107 ぶつりした	-0.0501	-0.1110*
108 おしゃべり	0.0858	0.1741**
109 軽率な	-0.0399	0.1074*
110 思いきりのない	-0.0856	-0.0182
111 果敢的	0.0944	0.0327
112 頭でっかち	-0.0269	0.1001*
113 支配的	0.1164*	0.0708
114 追従的	-0.0170	0.0093
115 適合的な	0.0552	0.0231
116 がんこな	0.0465	0.0579
117 さわがしい	0.0715	0.1668**
118 陰気な	-0.0893	-0.0988*
119 むてまていう	0.0200	-0.0013
120 スズスズという	0.0193	0.0403
121 理くつっぽい	0.0717	-0.0292
122 非論理的	-0.0943	0.0775
123 せかせかした	0.0579	0.1066*
124 ぐずぐずした	-0.0804	-0.0059
125 素早い男ざり	0.1442**	0.1843**
126 なまなまとは	-0.1073*	-0.0812
127 おせっかい	0.0588	0.1895**
128 せっけない	-0.0029	-0.0314
129 執念深い	0.0421	0.0419
130 だらだらした	-0.0330	0.1272**
131 独断的	0.0964*	0.0833
132 付和雷同	-0.0036	0.0790
133 幼稚な	-0.0501	0.0402
134 ひねた	0.0451	0.1326**
135 さめた	-0.0544	-0.0198
136 激しやすい	0.0743	0.1586**
137 こたわる	-0.0421	-0.0152
138 場あてり的	0.0899	0.1914**
139 現実離れした	-0.0279	-0.0487
140 実利的	0.1318**	0.0856
141 すぶとい	0.0709	0.0676
142 線の細い	-0.0547	-0.0656
143 因襲的な	0.0165	0.0737
144 新しがりやの	0.0439	0.0917
145 八方美人	0.0513	0.0706
146 ぐさみ悪い	-0.1242**	-0.1289**
147 ルーズな	-0.0009	-0.0124
148 しゃくし定規な	0.0038	0.0697
149 怠慢な	-0.0241	-0.0035
150 がぶがぶな	0.0646	0.0893
151 ロジようず	0.1006*	0.1033*
152 聞いばかりの	-0.0644	-0.0592
153 無感動な	-0.0383	-0.0386
154 のぼせやすい	-0.0345	0.0471
155 温室育ち	-0.1093*	-0.0314
156 野蛮な	0.0514	0.0837
157 情がうすい	-0.0934	-0.1522**
158 情に流される	0.0059	0.2312**
159 むこうみずな	0.0287	0.1690**
160 小 心	-0.1326**	-0.0100

	S^3 $S(P-N)$
1 用心深い	0.0234
2 のん気な	0.0629
3 気が強い	0.2110**
4 おとなしい	-0.0447
5 あきらめのよい	0.1889**
6 ねばり強い	0.3541**
7 口数少ない	-0.0212
8 話し好きな	0.1229*
9 気軽な	0.1943**
10 慎重な	0.1995**
11 実際的	0.2240**
12 理論的	0.0543
13 指導的	0.3155**
14 従順	-0.0257
15 融通がきく	0.3293**
16 一本気	-0.0732
17 陽気な	0.3072**
18 もの静か	0.0801
19 それとなくいう	0.0088
20 単刀直入	-0.0152
21 分析的	0.1591**
22 直観的	-0.0124
23 てきぱきした	0.3229**
24 おっとりした	-0.0404
25 男性的	0.1680**
26 女性的	-0.0603
27 世話好き	0.1901**
28 人に干渉しない	0.0828
29 しぶとい	0.0406
30 あざりした	0.3469**
31 自立の	0.3134**
32 協調的	0.2614**
33 茶めつけのあつ	0.1570**
34 大人っぽい	0.2629**
35 冷静な	0.4091**
36 情熱的	0.1847**
37 執着する	-0.1464**
38 臨機応変の	0.3538**
39 ロマンチックな	0.1110*
40 現実的な	0.1304**
41 太っ腹な	0.2856**
42 テリケートな	-0.0435
43 古風な	0.0348
44 現代的な	0.1632**
45 社交的	0.2788**
46 孤独を好む	-0.0386
47 おおやうな	0.1644**
48 厳格な	0.0157
49 のんびりした	0.1208*
50 エネルギーな	0.3084**
51 話しじょうず	0.2614**
52 聞きじょうず	0.4055**
53 淡々とした	0.0555
54 熱中する	0.1086*
55 おっとりした	0.0375
56 勇猛な	0.2186**
57 クールな	0.1190*
58 人情に厚い	0.2795**
59 大胆	0.1763**
60 細心	-0.0803

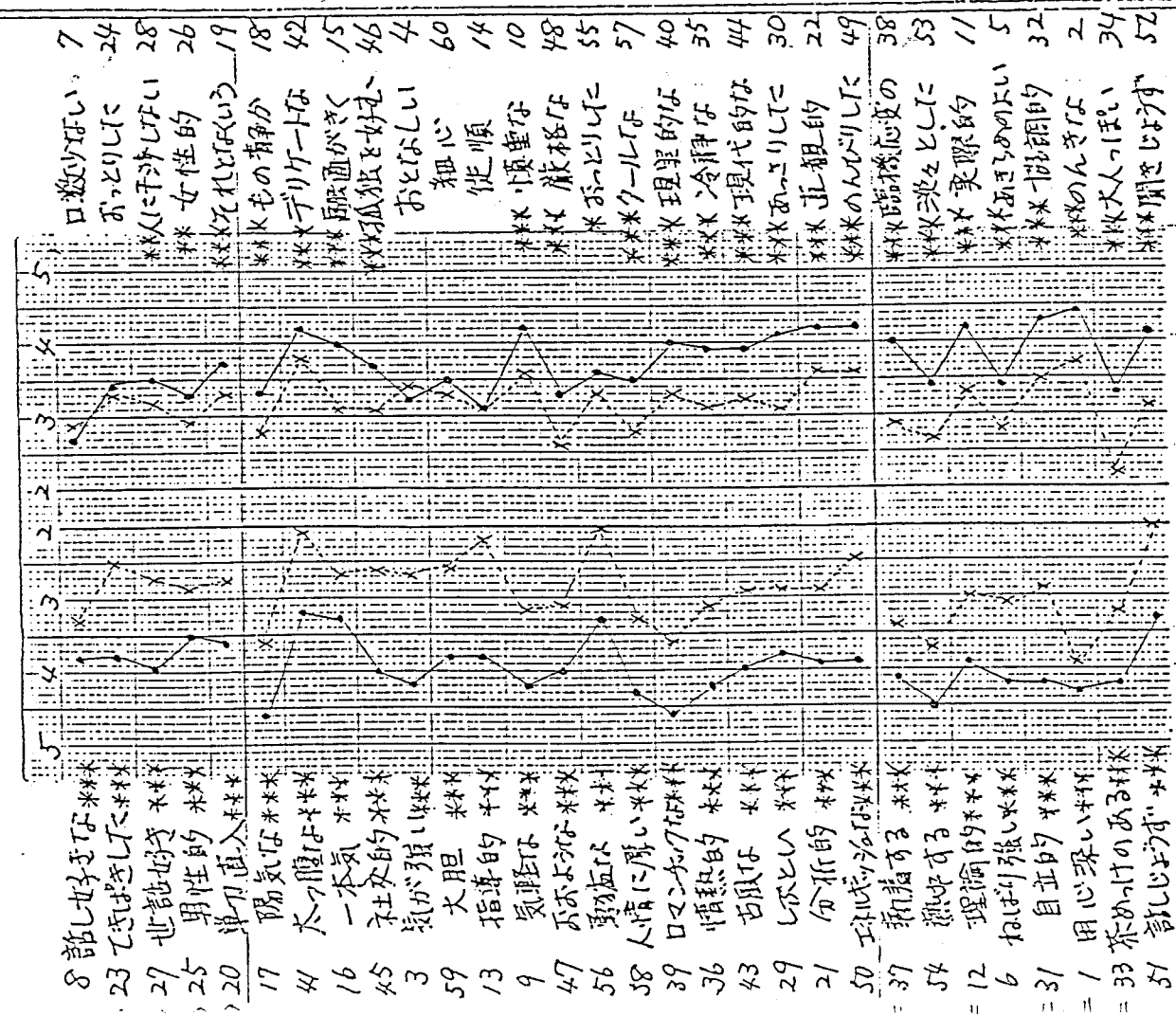
	S^3 $S(P-N)$
101 うたがひ深い	-0.3492**
102 めげた	-0.2923**
103 我がうまい	-0.1398**
104 気の弱い	-0.3831**
105 粘りのない	-0.3301**
106 しつこい	-0.3237**
107 むつりした	-0.3265**
108 おしゃべり	-0.0306
109 軽率な	-0.4746**
110 思いきりの悪い	-0.3876**
111 実利的	-0.0137
112 疎でっかち	-0.3726**
113 支配的	-0.0227
114 追従的	-0.1932**
115 迎合的な	0.0377
116 がんこな	-0.1596**
117 さわがしい	-0.1618**
118 陰気な	-0.4159**
119 もてまわすいう	-0.2329**
120 スケズケいう	-0.1519**
121 理くつっぽい	-0.2049**
122 非論理的	-0.1988**
123 せかせかした	-0.2747**
124 ぐずぐずした	-0.3481**
125 荒っぽい男まじ	-0.0179
126 なよなよした	-0.3434**
127 おせっかい	-0.1644**
128 そっけない	-0.2691**
129 執念深い	-0.3092**
130 ないがしろな	-0.5062**
131 独断的	-0.2122**
132 付和雷同	-0.2011**
133 幼稚な	-0.3670**
134 ひねた	-0.3024**
135 さめた	-0.2121**
136 激しやすい	-0.1508**
137 こたわる	-0.3971**
138 場あたりの	-0.1714**
139 現実離れした	-0.2423**
140 実利的	-0.0023
141 すぶとい	0.0128
142 線の細い	-0.1636**
143 因襲的な	-0.1836**
144 新しがりやの	-0.0709
145 八方美人	-0.0996*
146 人づかい悪い	-0.3828**
147 ルーズな	-0.3510**
148 しゃくし定規な	-0.1600**
149 怠慢な	-0.3796**
150 がむしゃらな	0.0328
151 ロジようず	0.1331**
152 聞いてばかりの	-0.1166*
153 無感動な	-0.2473**
154 のぼせやすい	-0.2674**
155 温室育ち	-0.2693**
156 野蛮な	-0.1214*
157 情がうすい	-0.3416**
158 情に流される	-0.1204*
159 むこうみずな	-0.1489**
160 小 心	-0.4795**

項目 (t-test) 1.
S+(P)

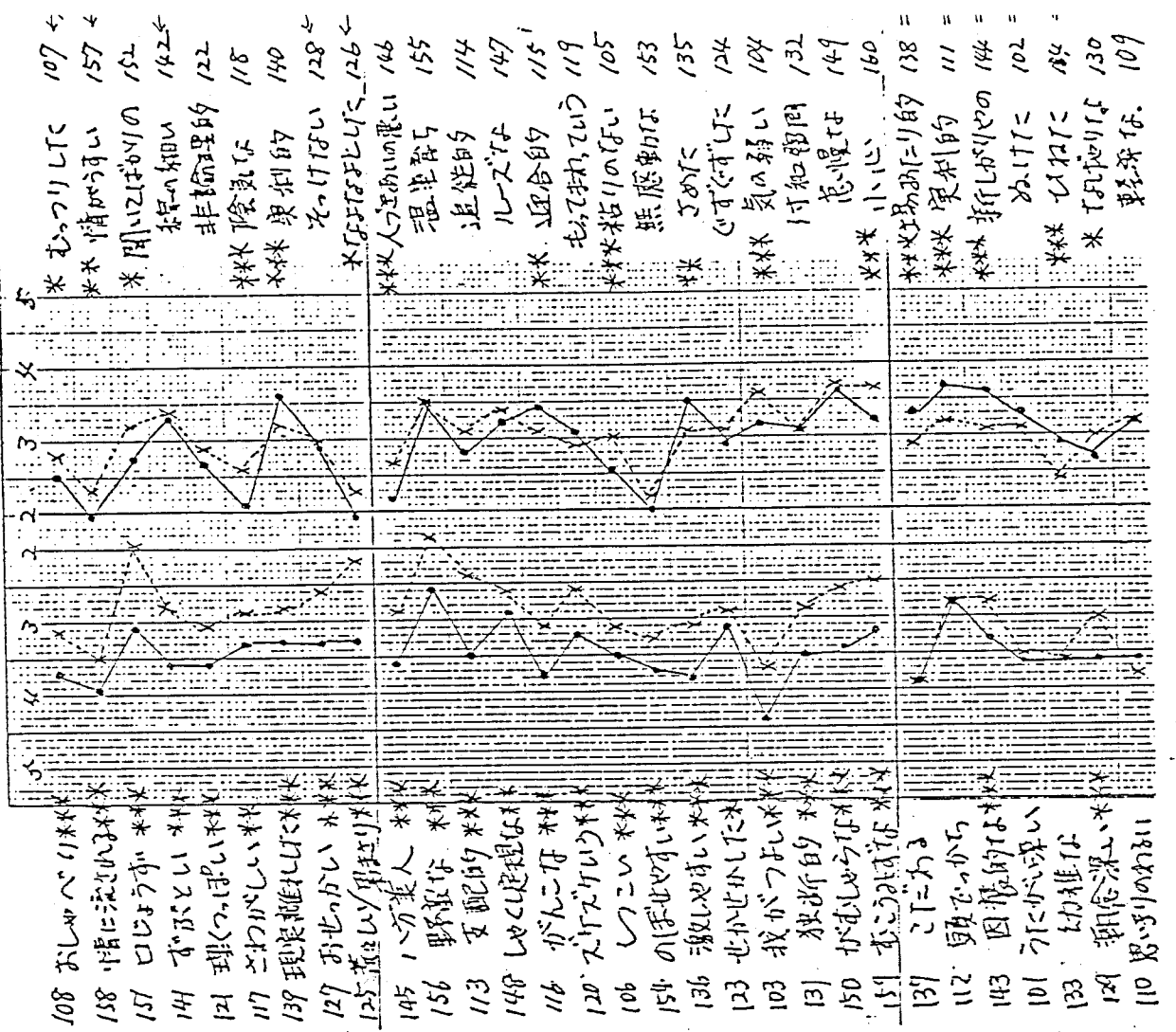
スコアと

— S+(P) 大
x...x S+(CP) 小

S+(P)



*** $p < 0.01$
*** $p < 0.001$



スコアと項目 (t-test) S+(P)

特徴

— S+(CP) 大

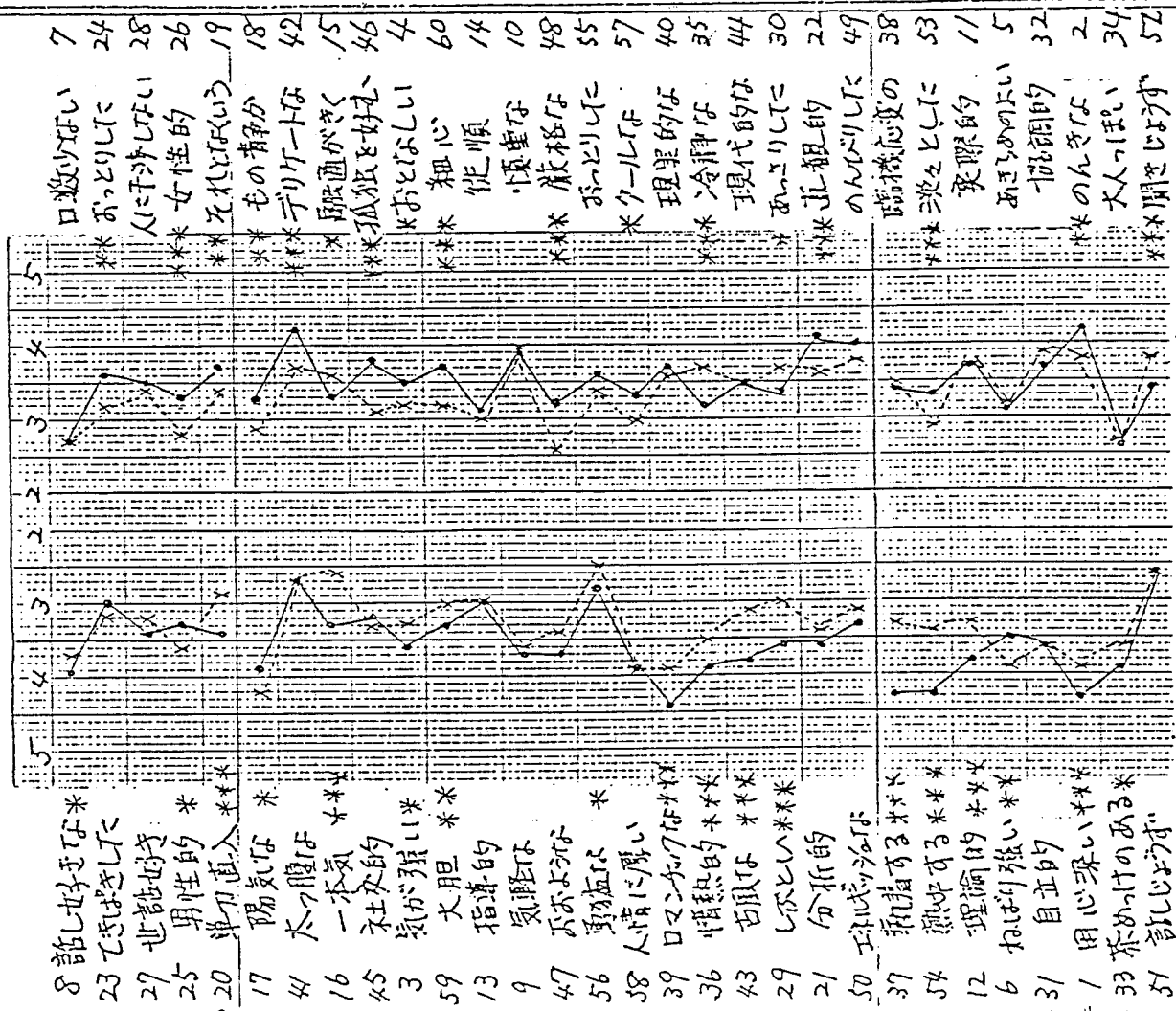
S+(P)

→ S+(N)大
x...x S+(N)小

スコア

と項目 (t-test) 2.

S+(N)



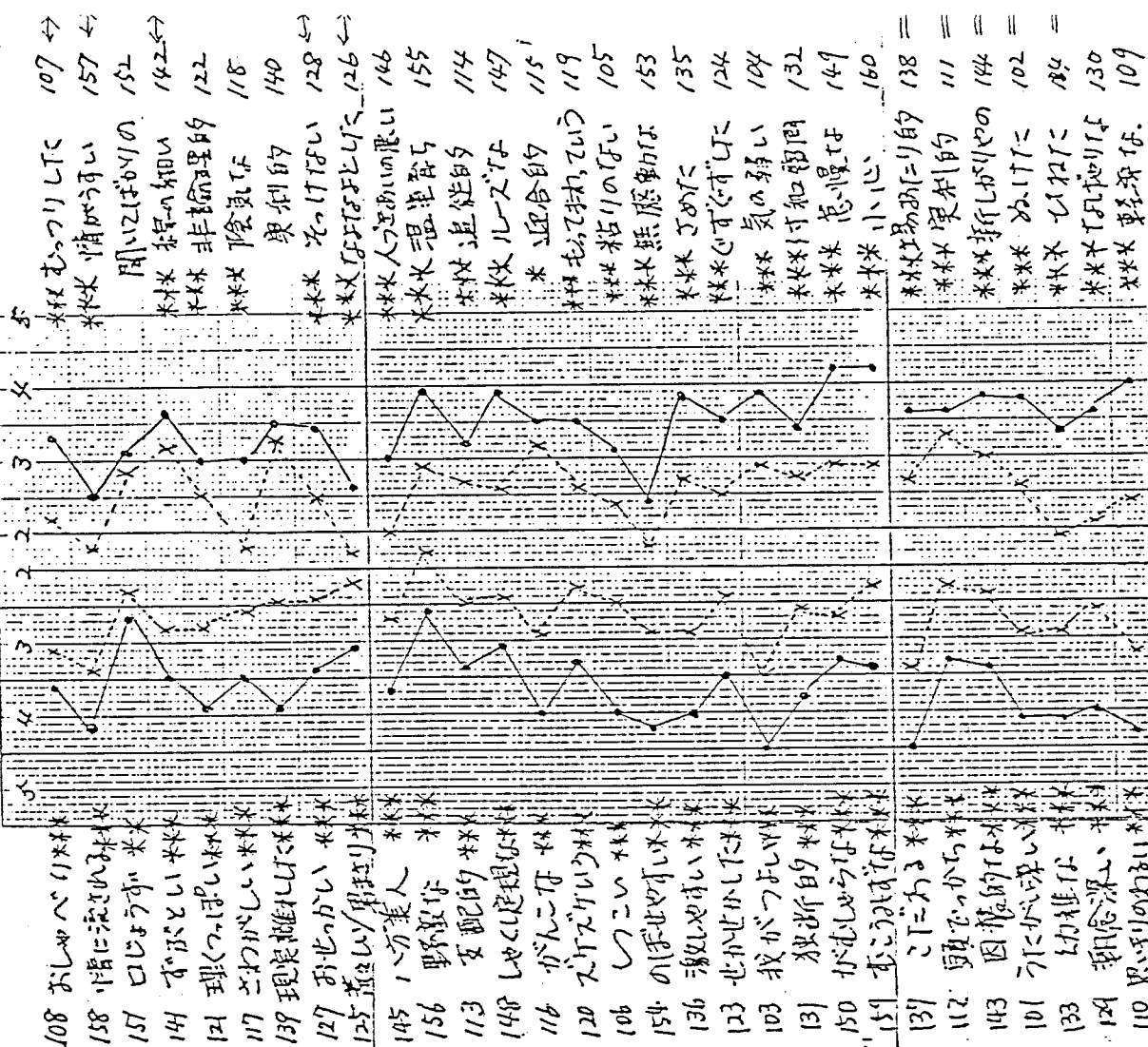
付図 3-7

スコア

と項目 (t-test) S+(N)

→ S+(N)大
x...x S+(N)小

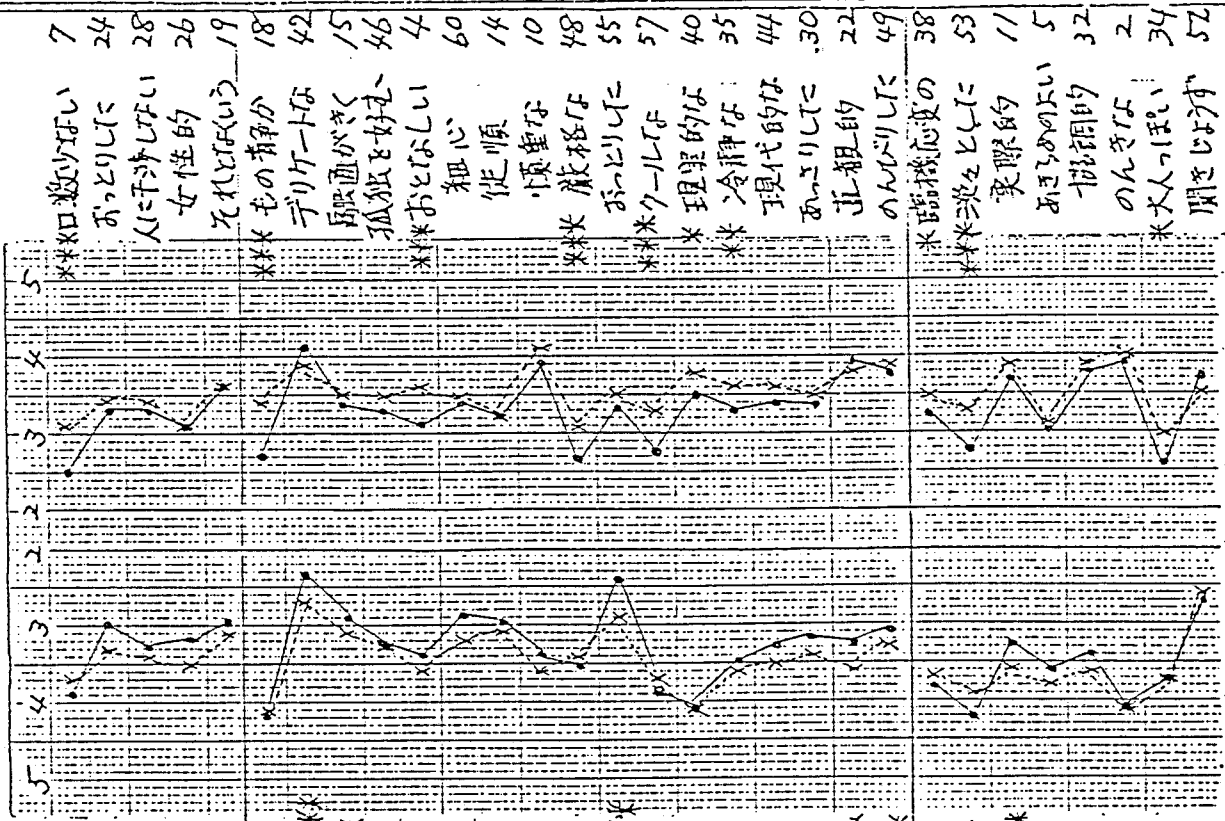
S+(N)



4.

S-(P)

8 話し好き 23 できばせに* 27 世話好き 25 男性的 20 単刀直入 17 陽気な 44 太っ腹な 16 一本気 45 社交的 3 気が強い 59 大胆 13 指導的 9 気遣は 47 おおやな 56 勤勉な 38 人情に厚い 39 ロマンチックな 36 情熱的 43 古風な 29 しなさい 21 分析的 50 正確で正確な 37 執着する 54 熱中する 12 理論的 6 ねばり強い 31 自立的 1 用心深い 33 茶めかけの 51 話しじやうず



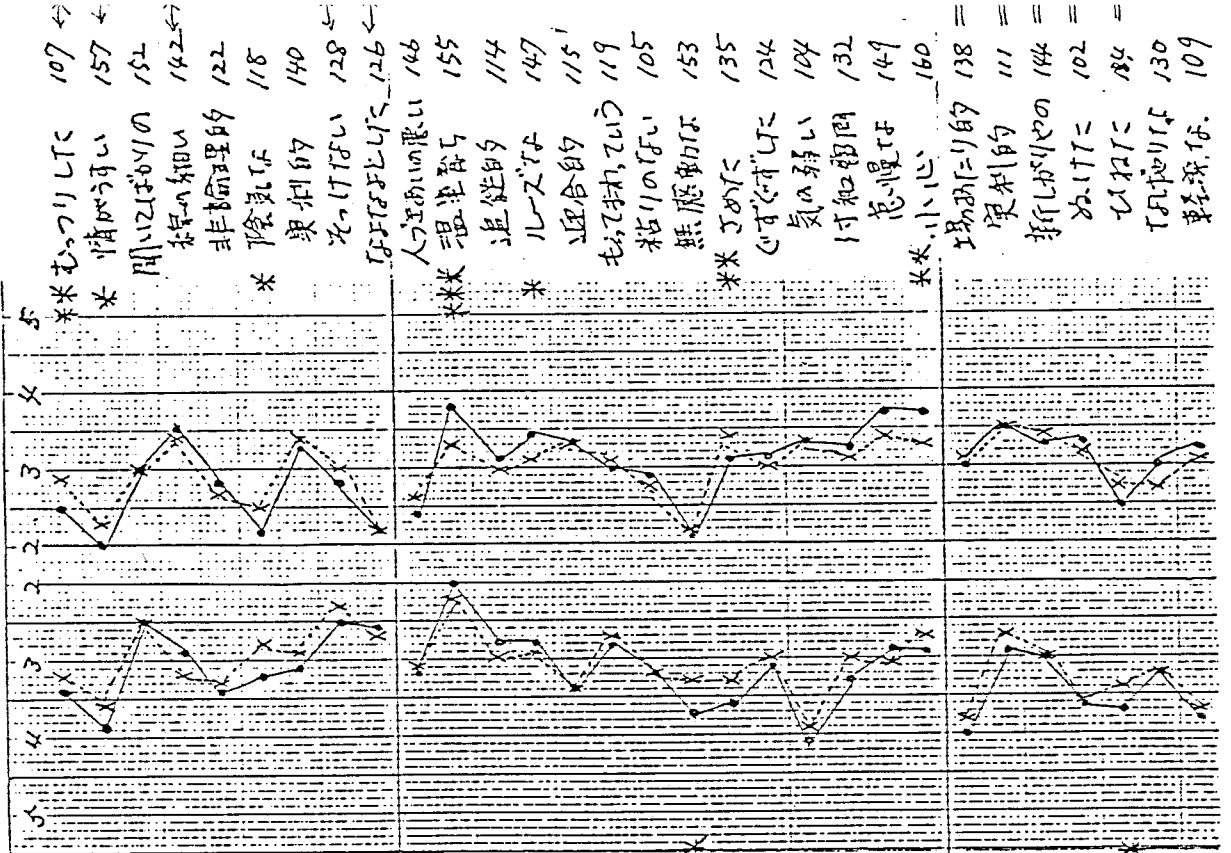
→ S-(P)大

→ S-(P)大 スコアと
x...x S-(P)小

項目 (test) 3

S-(P)

108 おしゃべり 158 情に流され* 151 ロジョウが 141 ずがよい 121 理(つ)っぽい 117 ざわがしい* 139 現実離れした 127 おおいかい 125 荒い/粗い 145 八方美人 156 野郎な 113 支配的 148 やくし定規な 116 がんこな 120 だてがけい 106 しつこい 154 のぼせやすい* 136 強しやさい* 123 せかせかした 103 我がづよい 131 独断的 150 がまじらな 154 ぶこうばな 137 こたあ 112 腹をから 143 因襲的 101 うにかい 133 いかげん* 129 邪念深 110 思ひのわい

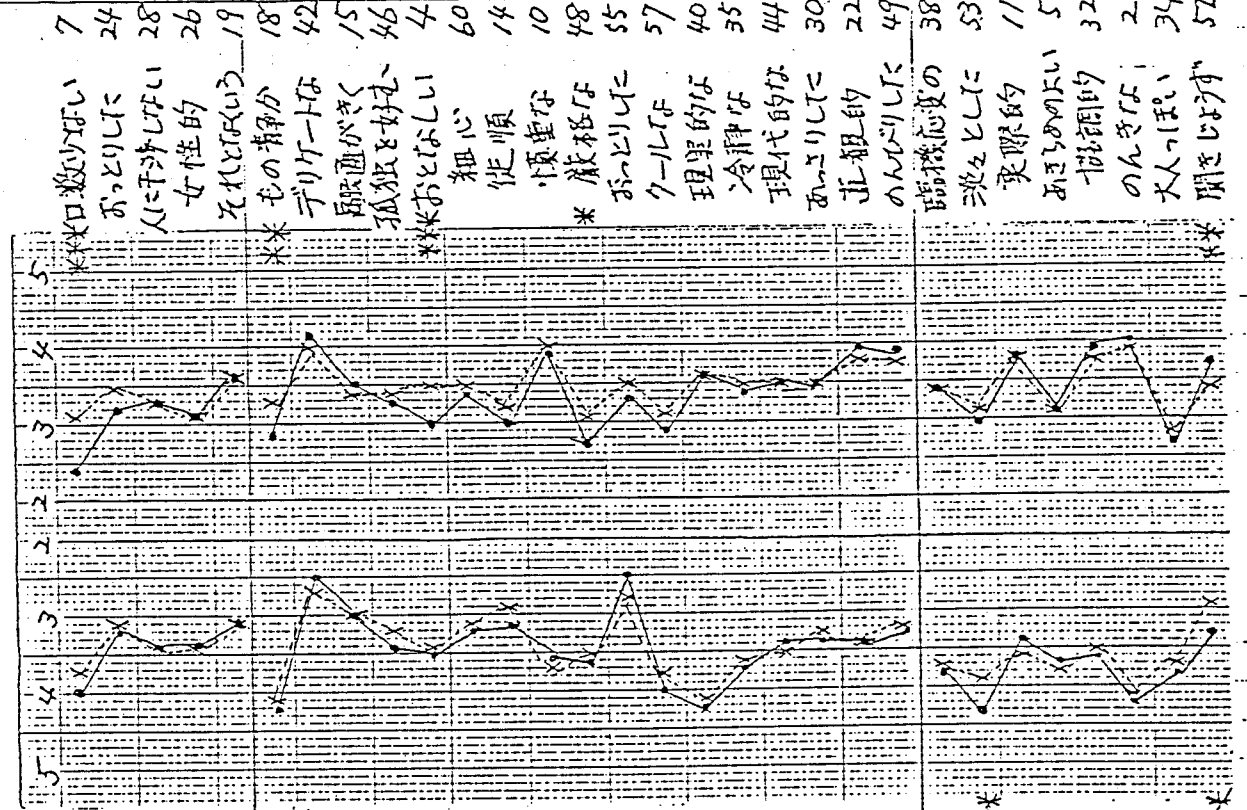


← 項目 (test) S-(P)

144 3-8 スコア

S-(N)

- 8 話し好き
- 23 てきぱしに
- 27 世話好き
- 25 男性的
- 20 単刀直入
- 17 陽気な
- 44 太腹な
- 16 一本気
- 45 社交的
- 3 気が強い
- 59 大胆
- 13 指導的
- 9 気理直な
- 47 おおらかな
- 56 運動家
- 58 人情に厚い
- 39 ロマンチックな
- 36 情熱的
- 43 古風な
- 29 しなさい
- 21 分析的
- 50 正確な
- 37 新進者
- 54 熱心する
- 12 理論的
- 6 ねばり強い
- 31 自立的
- 1 用心深い
- 33 茶みかけのある
- 51 言じやうず

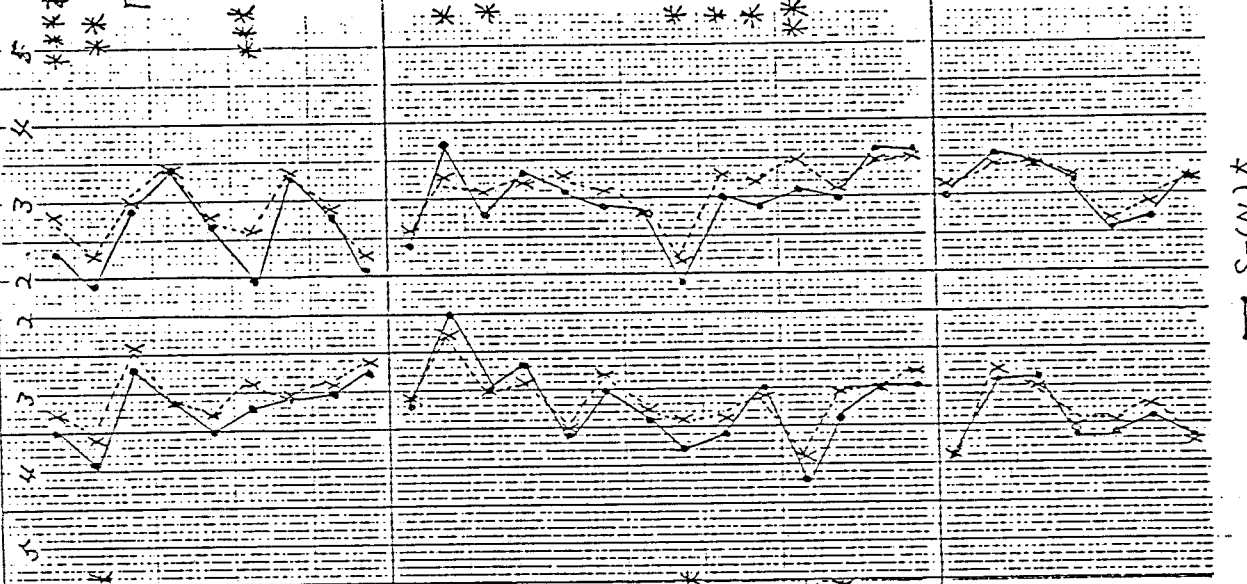


- ***口数が多い
- おっとりした
- 人にやさしい
- 女性的
- それとない
- ***もの言が
- デリケートな
- 融通がきく
- 孤独と好む
- ***おとなしい
- 細心
- 従順
- 慎重な
- ***厳格な
- おとなしい
- クールな
- 理知的な
- 冷静な
- 現代的な
- おとなしい
- 正確な
- おとなしい
- 臨機応変の
- 淡々とした
- 変換的
- あきらめ強い
- 一語一語の
- のんきな
- 大人っぽい
- 間さじやうず

付図 3-9

S-(N)

- 108 おしゃべり
- 158 情に流され
- 151 口じやうず
- 141 ずがよい
- 121 球つぽい
- 117 さわがしい
- 139 現実推し
- 127 おおかい
- 125 荒い/男
- 145 1人美人
- 156 野郎な
- 113 変態的
- 148 しゃくじ現
- 116 がんこ
- 120 スリッパ
- 106 しつこ
- 154 のぼせ
- 136 強し
- 123 せかせか
- 103 我がつよい
- 131 独断的
- 150 がむしゃら
- 151 おこ
- 139 こに
- 112 腹で
- 143 因循的
- 101 うに
- 133 かわ
- 129 邪念
- 110 思い

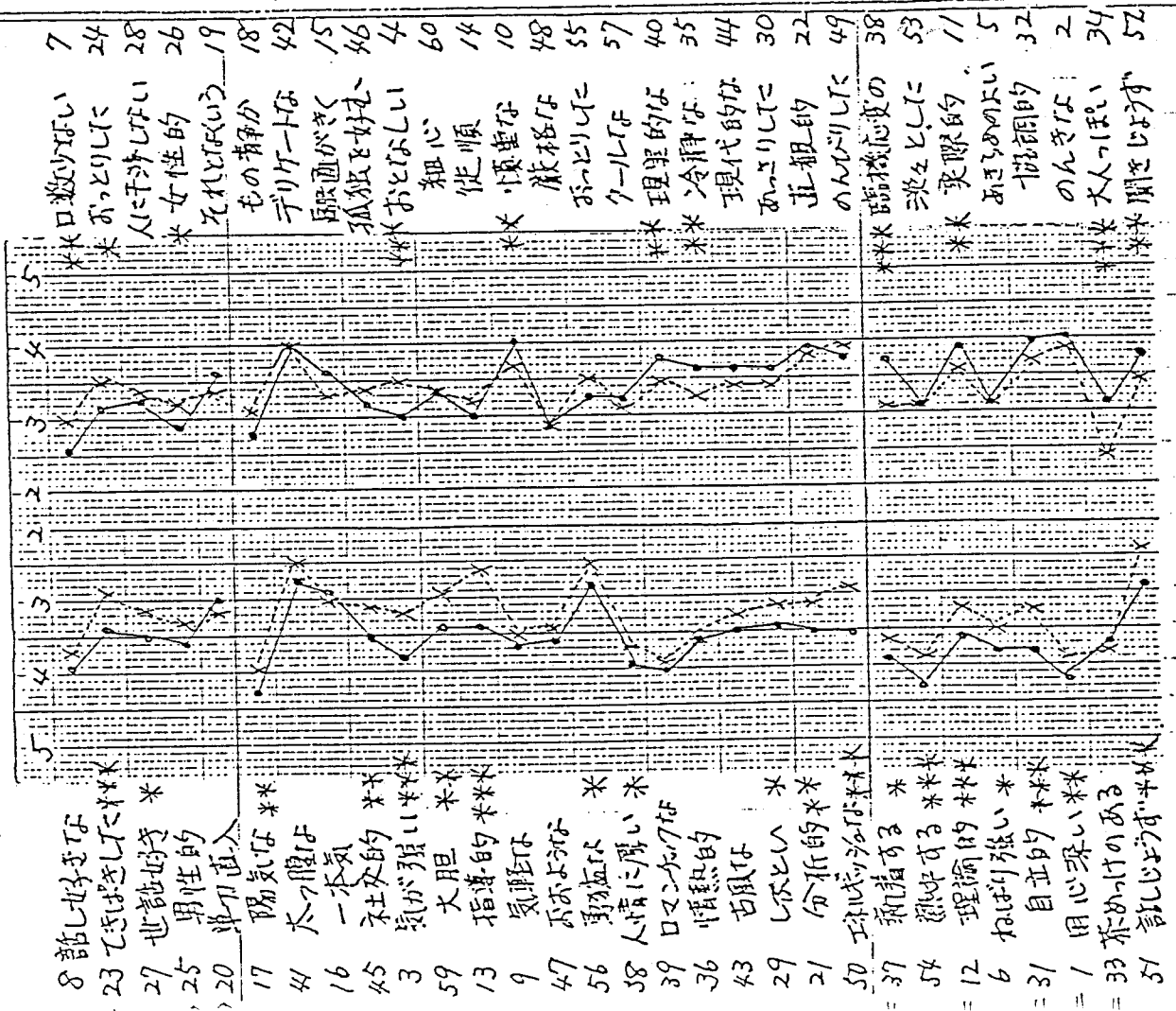


- ***むつり
- ***情が
- ***用い
- ***非論理的
- ***陰気
- ***楽的
- ***お
- ***人
- ***温
- ***追
- ***ル
- ***迎
- ***粘
- ***無
- ***ご
- ***心
- ***気
- ***付
- ***意
- ***小
- ***場
- ***実
- ***持
- ***ぬ
- ***ひ
- ***お
- ***草

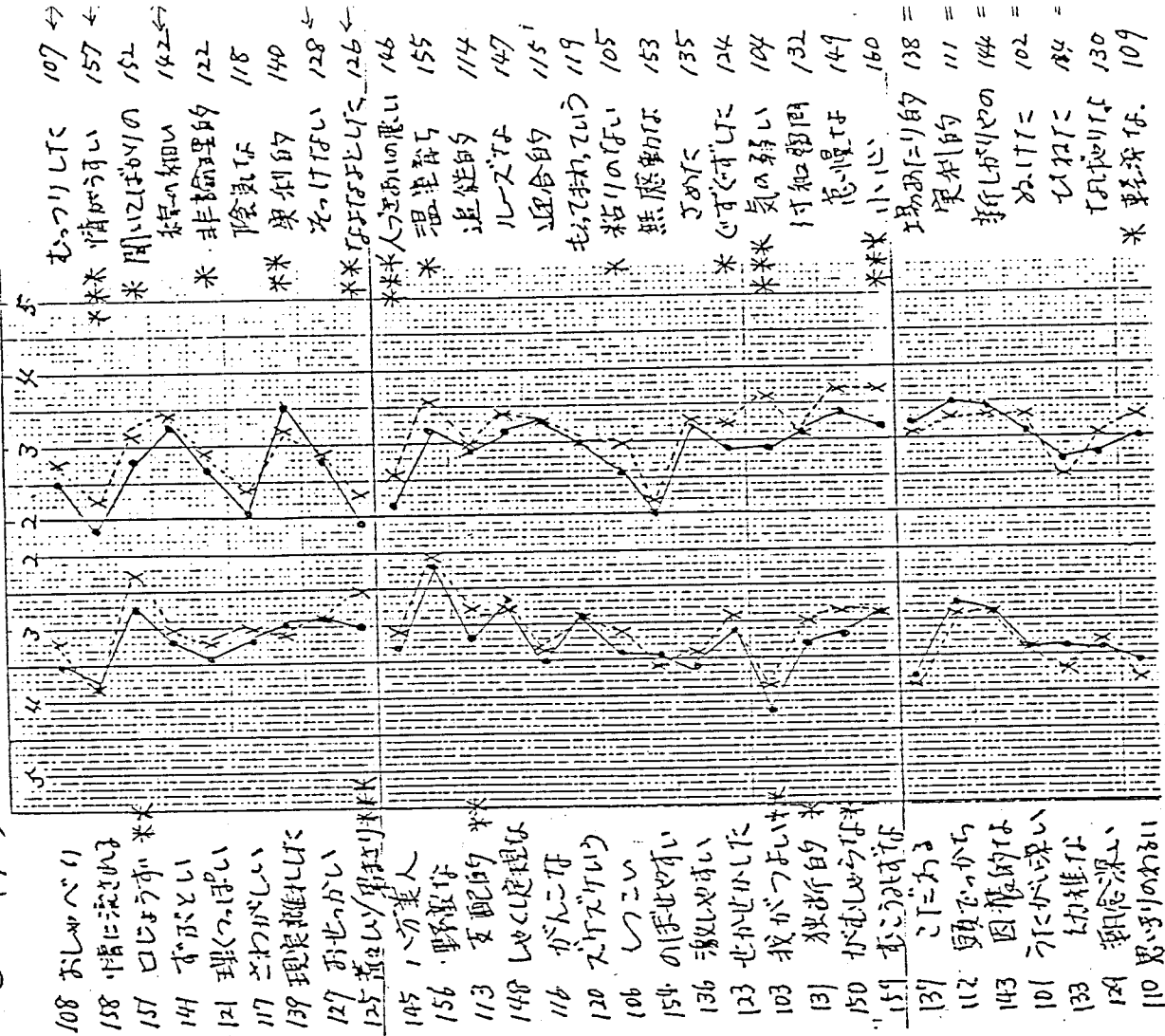
スコアと項目 (U=last) S-(N)
 — S-(N)大
 x-x S-(N)小

X---X S--(P) 11-

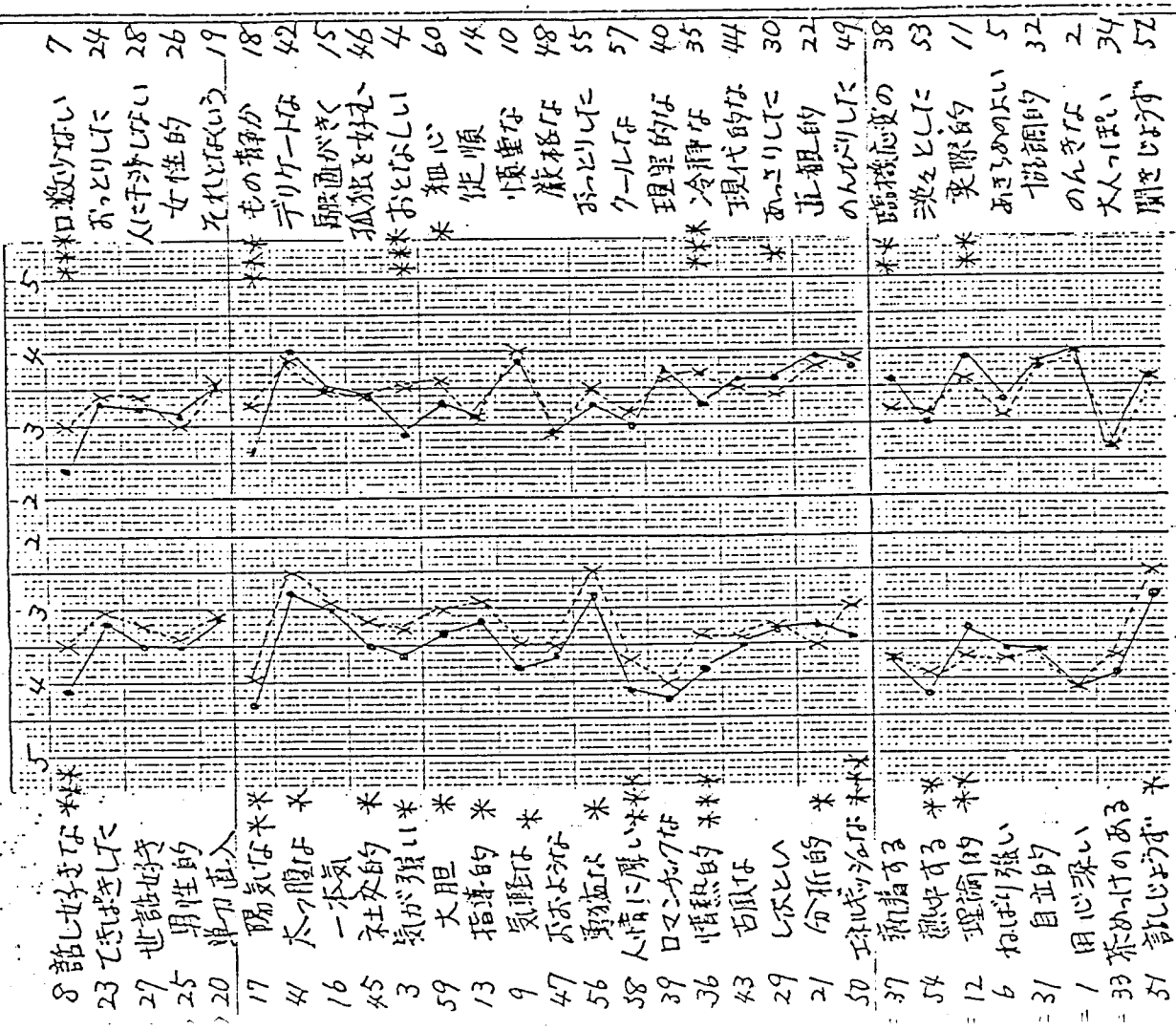
S--(P)



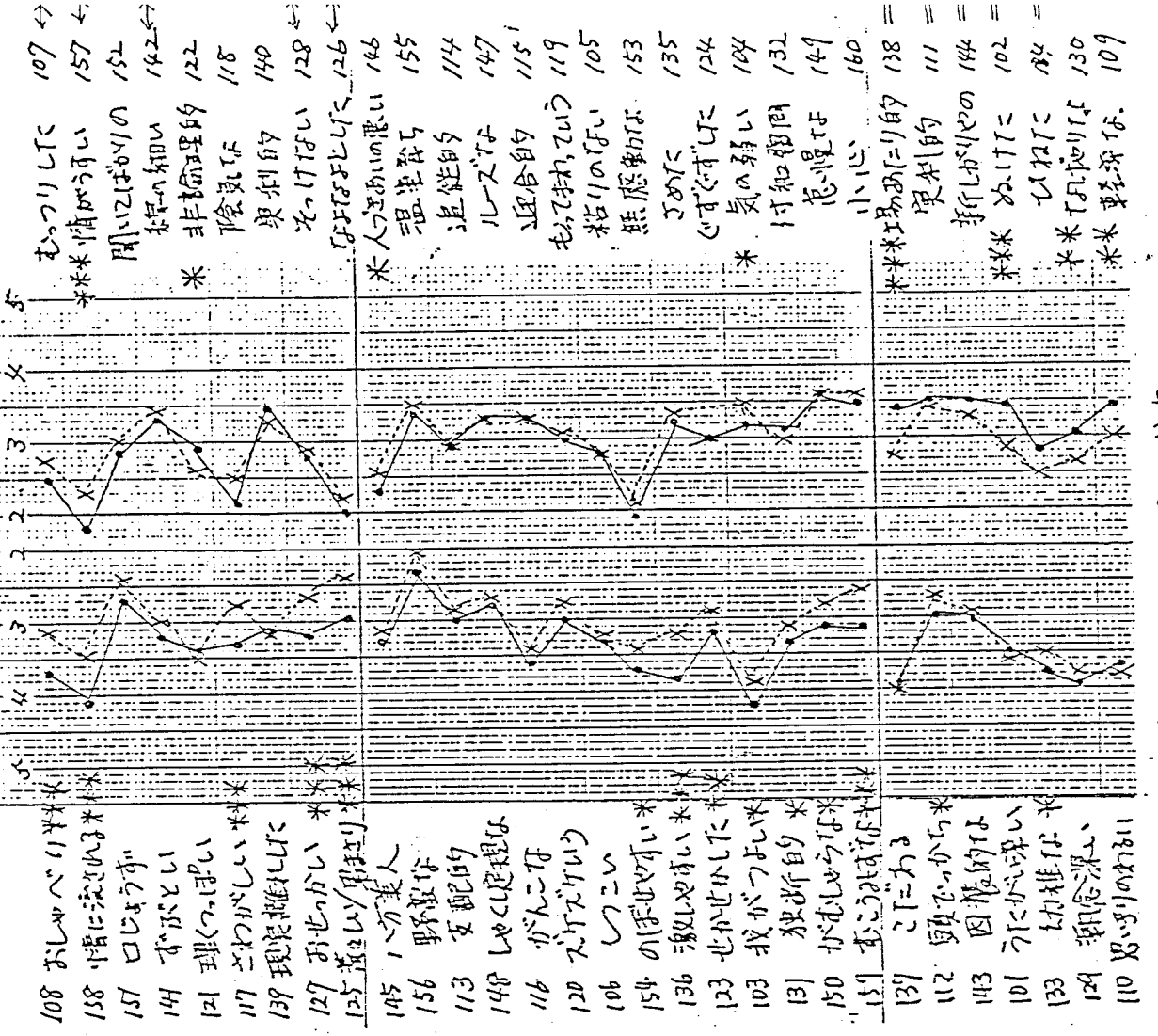
S--(P)



S--(N)



S--(N)



第2章

(4) 尺度の改良 その2

— “二面性”のスコアリングについて

付図 4-1	43
付図 4-2	45
付表 4-1	46
付図 4-3	47
付図 4-4	48
付図 4-5	49
付図 4-6	50
付図 4-7	51
付図 4-8	52
付図 4-9	53
付図 4-10	54
付図 4-11	55
付図 4-12	56
付図 4-13	57
付図 4-14	58
付図 4-15	59
付図 4-16	60

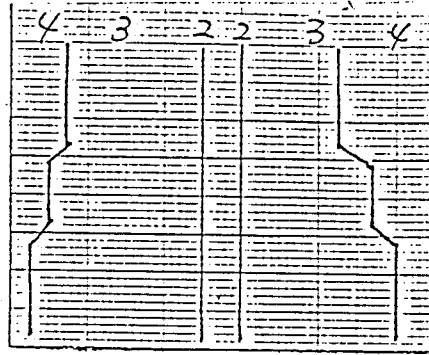
付図 4-17

61

付図 4-18

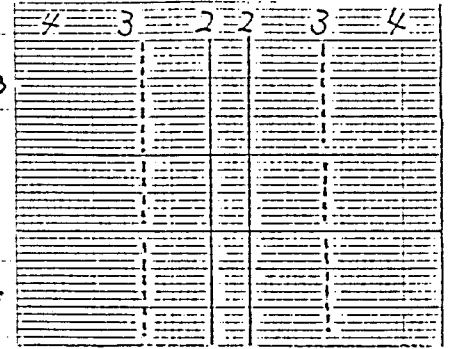
62

$S_+(P)$



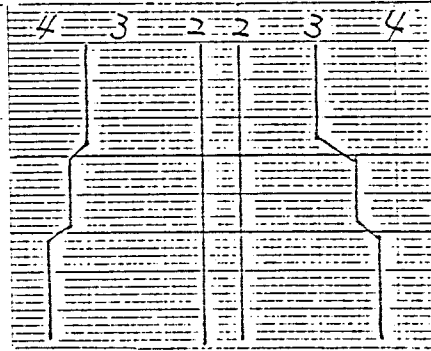
大 (High群)

POSITIVE
項目
反対順



小 (Low群)

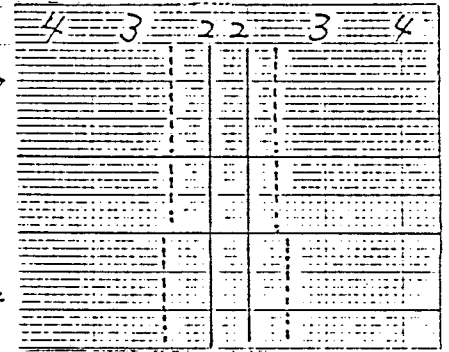
$S_+(N)$



太型



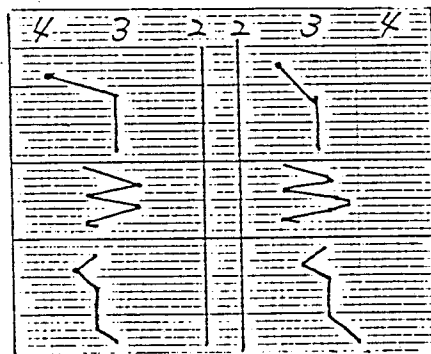
NEGATIVE
項目
反対順



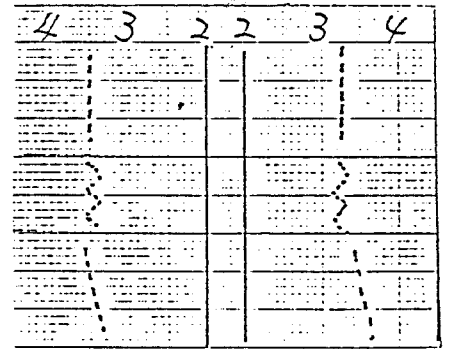
細型



$S_-(P)$

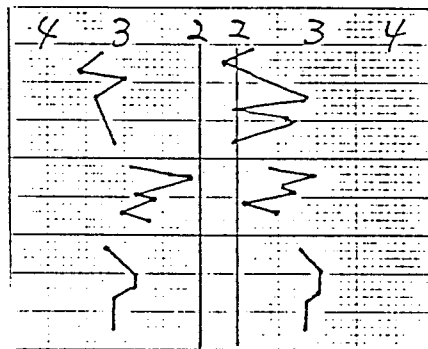


大 (High群)

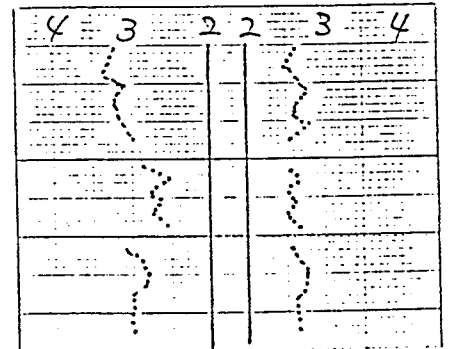
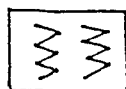


小 (Low群)

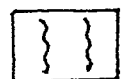
$S_-(N)$



不均衡型



均衡型



S--(P)

4	3	2	2	3	4

POSITIVE
項目
反対順

4	3	2	2	3	4

大 (High群)

小 (Low群)

S--(N)

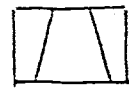
4	3	2	2	3	4

NEGATIVE
項目
反対順

4	3	2	2	3	4

大

小



大 (High群)

小 (Low群)

S(P-N)

4	3	2	2	3	4

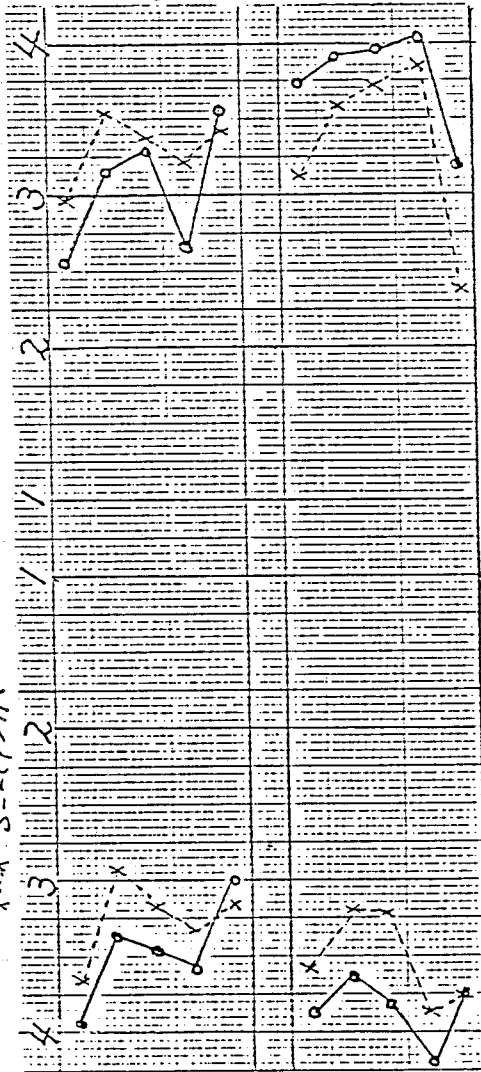
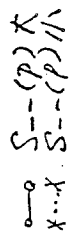
POSITIVE
項目
反対順

4	3	2	2	3	4

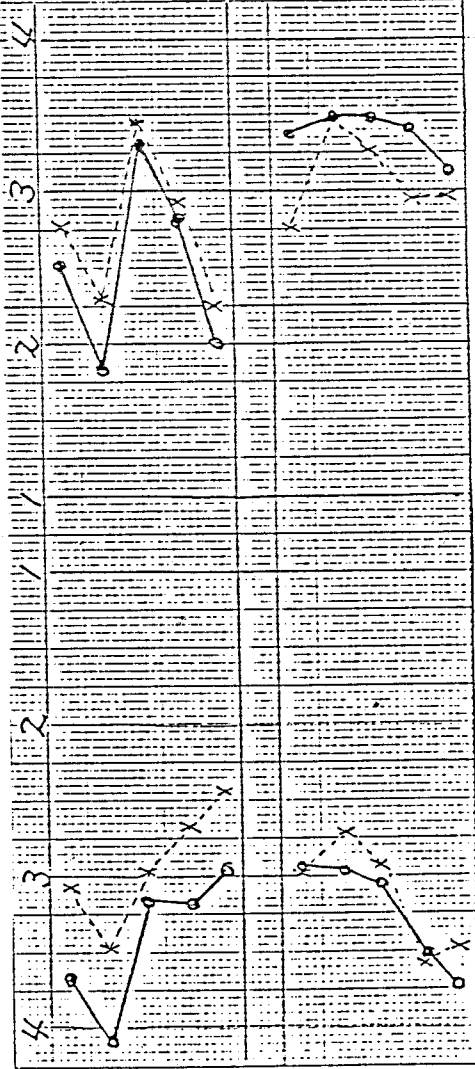
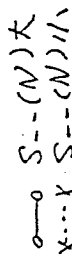
自己肯定型

自己否定型





8	話(お話し)	37	執着する
23	てを(お)した	12	理論的
27	世(お)話し	31	自江的
25	男性的	1	用心深い
20	単刀直入	33	茶め、しめあは


$$\Sigma_{--}(N)$$

***米	108 おしべばり
***米	158 情に式ゆける
	141 ずびとい
	127 おせつかひ
***米	125 虎々/馬堂り
	137 こざわる
***	112 豆ねでから
	143 困難的な
	101 うに成い深い
***	133 幼雅な

付図 4-2

$S_{--}(p)$ $S_{--}(N)$ の対称性, 共役性, 理想性に
よって平均

小	大
口交しないう	口交しないう
おとりなう	おとりなう
人ごききい	人ごききい
女性的	女性的
それないう	それないう
臨機応変の	臨機応変の
東洋的	東洋的
都市的	都市的
のんきな	のんきな
大人っぽい	大人っぽい

27	0.35	1.12
情のうすい	1.2	2.26
糸の細い	0.47	0.13
えつけない	0.29	0.35
なまねとじ	0.2	0.92
	(2.51)	(4.78)
場又はリ的	1.24	0.52
聖利的	0.74	0.52
義利がいの	0.33	0.42
ぬけり	0.64	0.11
いねり	0.95	0.97
	(3.9)	(2.54)
	-1.39	2.24

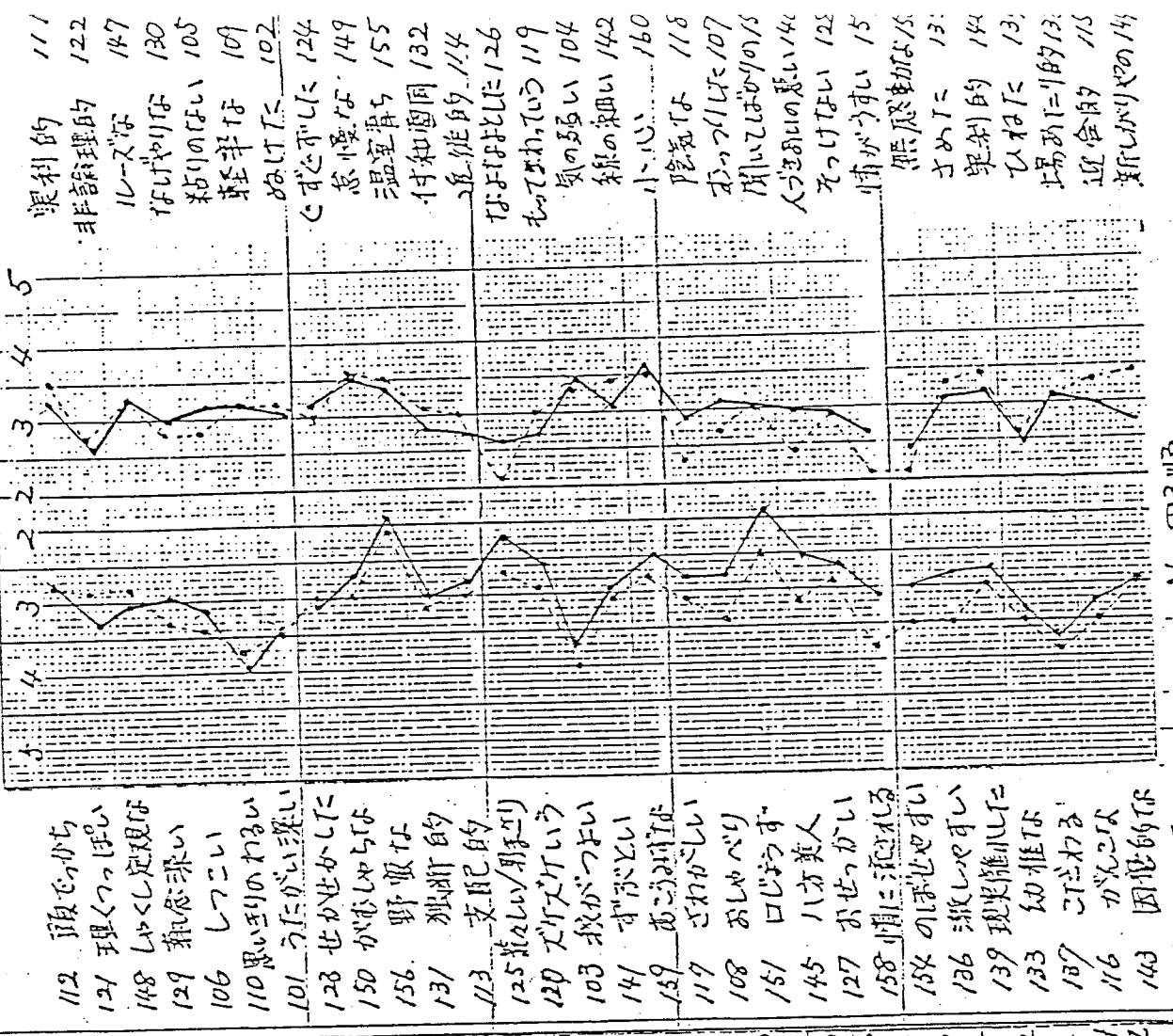
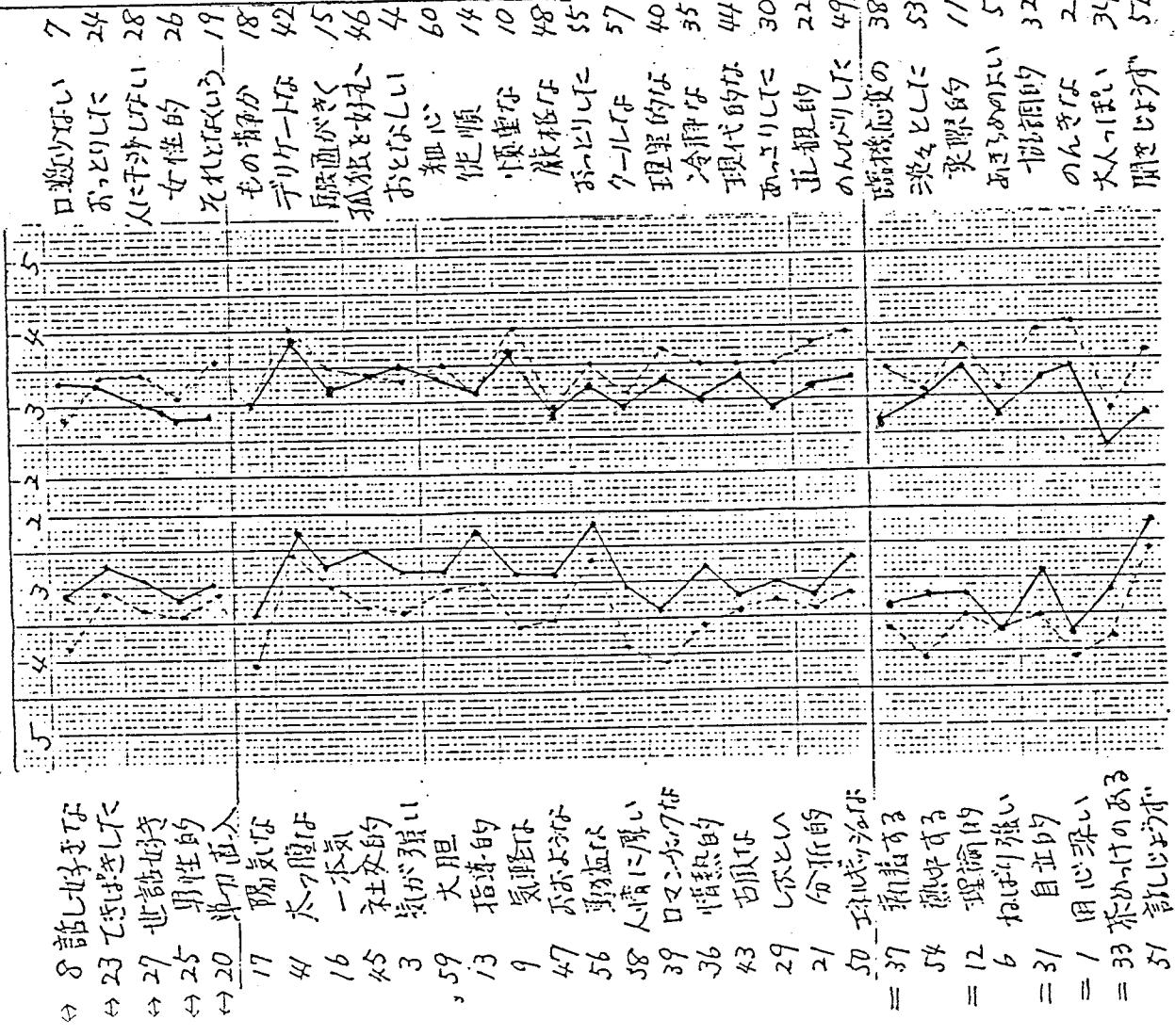
付表 4-1

POSITIVE		群別 平均値, SD 及び人数								MEAN (SD)
7		細均小	細均大	細毒小	細毒大	太均小	太均大	太毒小	太毒大	
	S ₊	181.8	174.3	182.8	181.5	233.6	233.9	225.2	228.8	
	(P)	(10.89)	(10.64)	(10.33)	(12.98)	(16.13)	(14.96)	(7.98)	(13.61)	
	S ₊	178.4	166.7	186.4	180.3	194.1	188.9	192.8	197.5	
	(N)	(24.34)	(19.9)	(23.0)	(29.0)	(34.6)	(22.3)	(37.9)	(28.9)	
	S ₋	29.2	31.4	60.0	60.3	26.9	30.5	56.2	58.5	
	(P)	(5.13)	(2.87)	(8.60)	(9.98)	(5.92)	(4.86)	(6.47)	(8.75)	
	S ₋	32.0	36.6	60.9	55.5	36.4	37.3	62.9	59.2	
	(N)	(7.94)	(10.21)	(10.83)	(11.67)	(10.71)	(7.98)	(11.81)	(12.38)	
	S ₋	-1.97	6.00	-2.31	7.89	-2.44	7.04	-2.30	8.96	
	(P)	(1.74)	(1.29)	(1.95)	(3.02)	(2.11)	(1.58)	(3.88)	(3.61)	
	S ₋	-0.13	2.85	2.37	3.10	1.20	2.21	4.20	6.16	
	(N)	(3.01)	(3.62)	(4.47)	(6.14)	(4.43)	(2.21)	(4.98)	(3.65)	
	S	3.39	7.57	(-1.19)	(7.74)	39.48	45.04	32.40	31.32	
	(P-N)	(24.11)	(23.99)	(19.23)	(26.65)	(27.62)	(24.30)	(37.17)	(31.56)	
	n	38	7	32	37	29	23	10	31	
	NEGATIVE									
58		細均小	細均大	細毒小	細毒大	太均小	太均大	太毒小	太毒大	
	S ₊	197.4	208.4	191.4	201.8	213.7	215.1	210.9	216.2	
	(P)	(22.16)	(19.90)	(25.50)	(21.58)	(29.33)	(31.10)	(20.11)	(24.28)	
	S ₊	155.7	153.7	160.9	161.9	217.7	223.9	209.9	210.4	
	(N)	(18.17)	(23.49)	(9.76)	(10.11)	(17.06)	(29.21)	(15.04)	(13.20)	
	S ₋	32.9	33.5	52.4	57.5	32.4	36.7	54.2	56.0	
	(P)	(7.79)	(7.27)	(13.32)	(9.44)	(8.58)	(8.30)	(12.76)	(11.42)	
	S ₋	31.5	32.2	63.1	63.1	31.4	32.7	59.9	62.9	
	(N)	(5.84)	(5.13)	(8.27)	(8.54)	(5.06)	(5.24)	(10.89)	(9.00)	
	S ₋	1.26	2.63	1.90	3.76	0.45	4.40	2.72	4.81	
	(P)	(3.54)	(3.38)	(4.38)	(4.38)	(3.33)	(3.93)	(7.25)	(4.91)	
	S ₋	-2.40	6.27	-2.85	7.44	-1.81	6.10	-1.50	7.09	
	(N)	(2.29)	(2.28)	(4.06)	(2.91)	(1.92)	(1.94)	(2.00)	(3.04)	
	S	41.73	54.63	30.55	39.86	-2.05	-8.80	11.05	8.67	
	(P-N)	(24.60)	(27.13)	(23.64)	(25.40)	(24.85)	(20.32)	(25.07)	(21.04)	
	n	42	11	20	38	37	20	18	54	

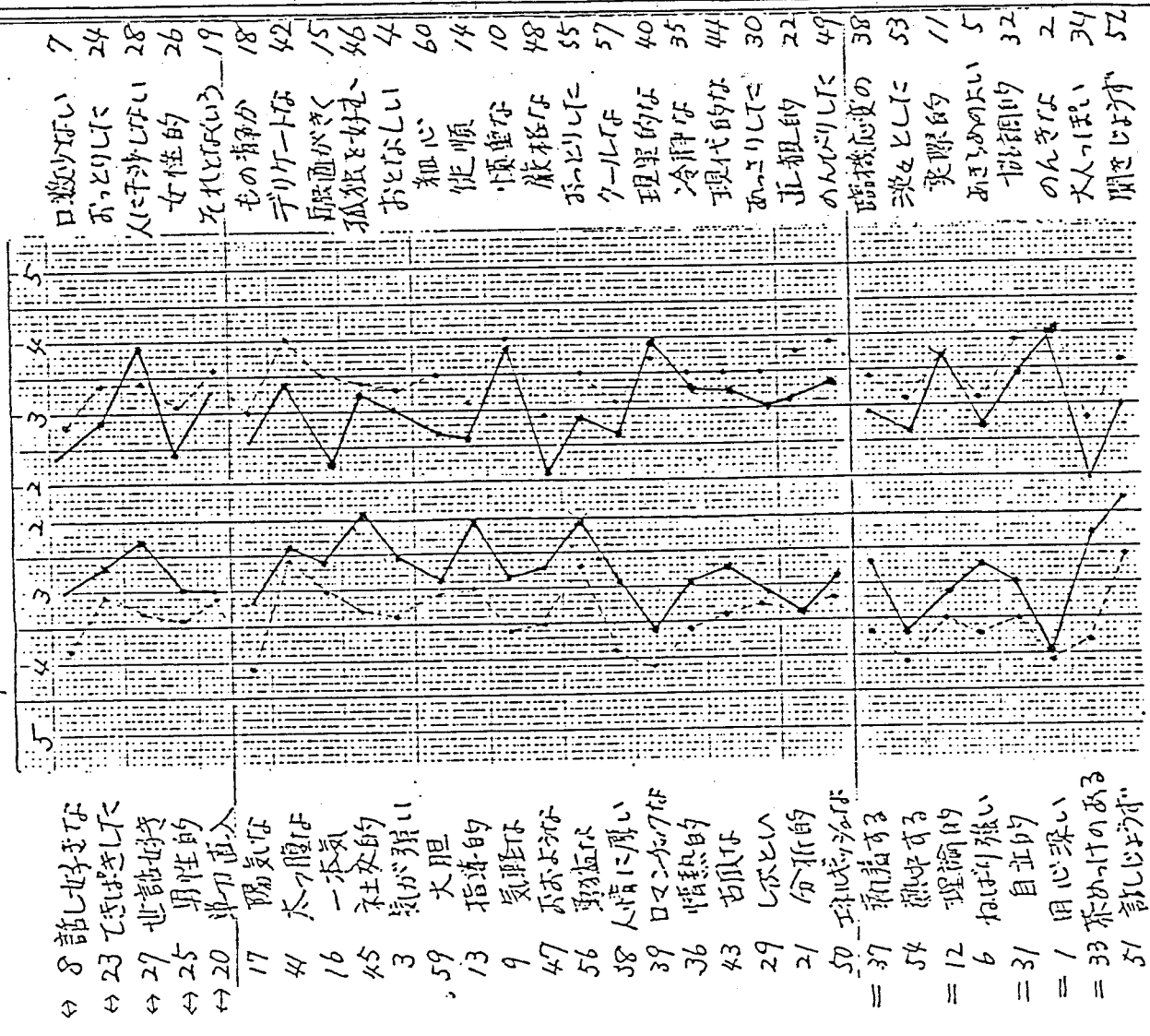
POSITIVE [細・均衡・小]

ローレル(点線は平均値)

POSITIVE [細・均衡・小]



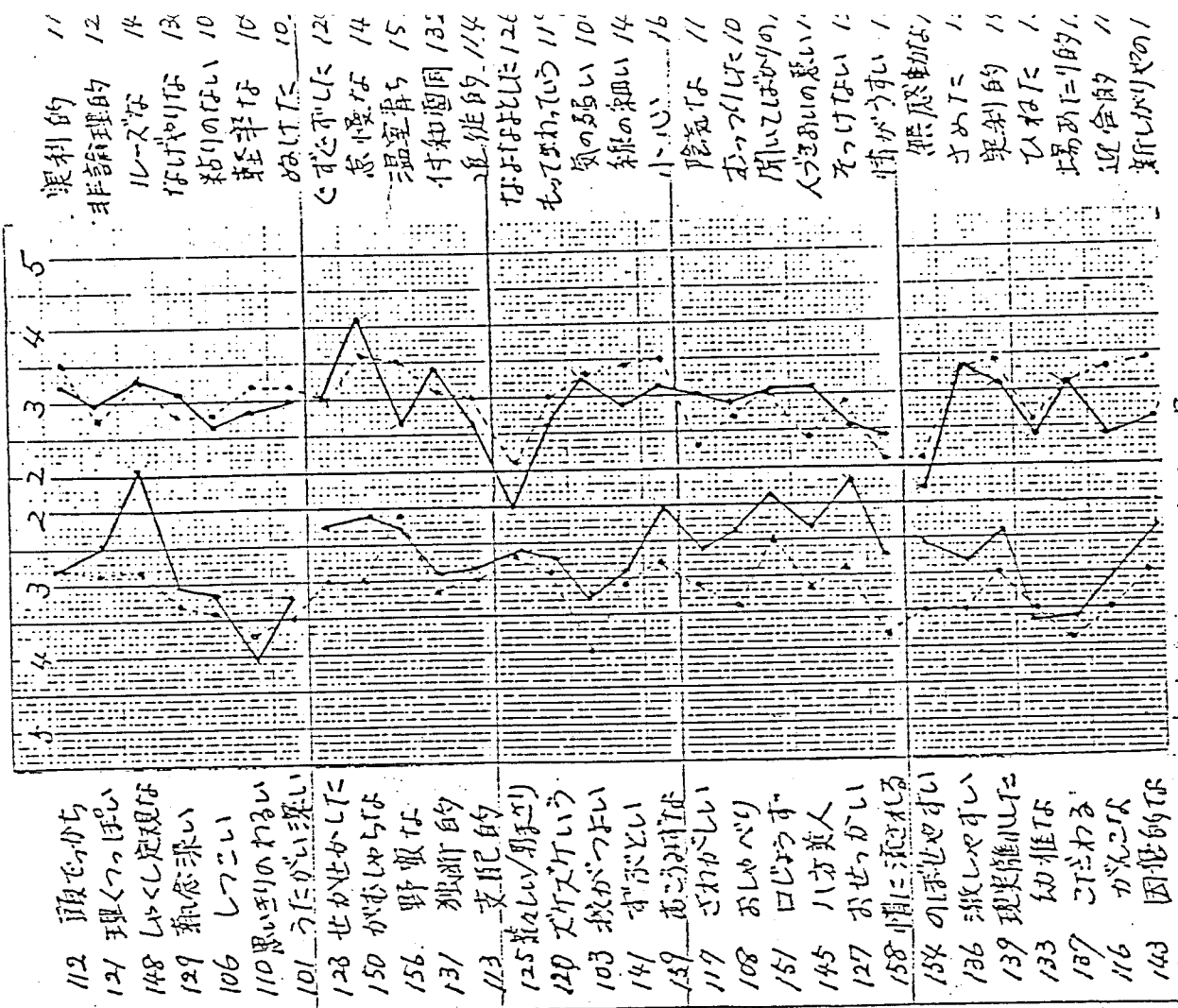
POSITIVE [細・均衡・大]



P. 反対相

1. 100 A-D

POSITIVE [細・均衡・大]

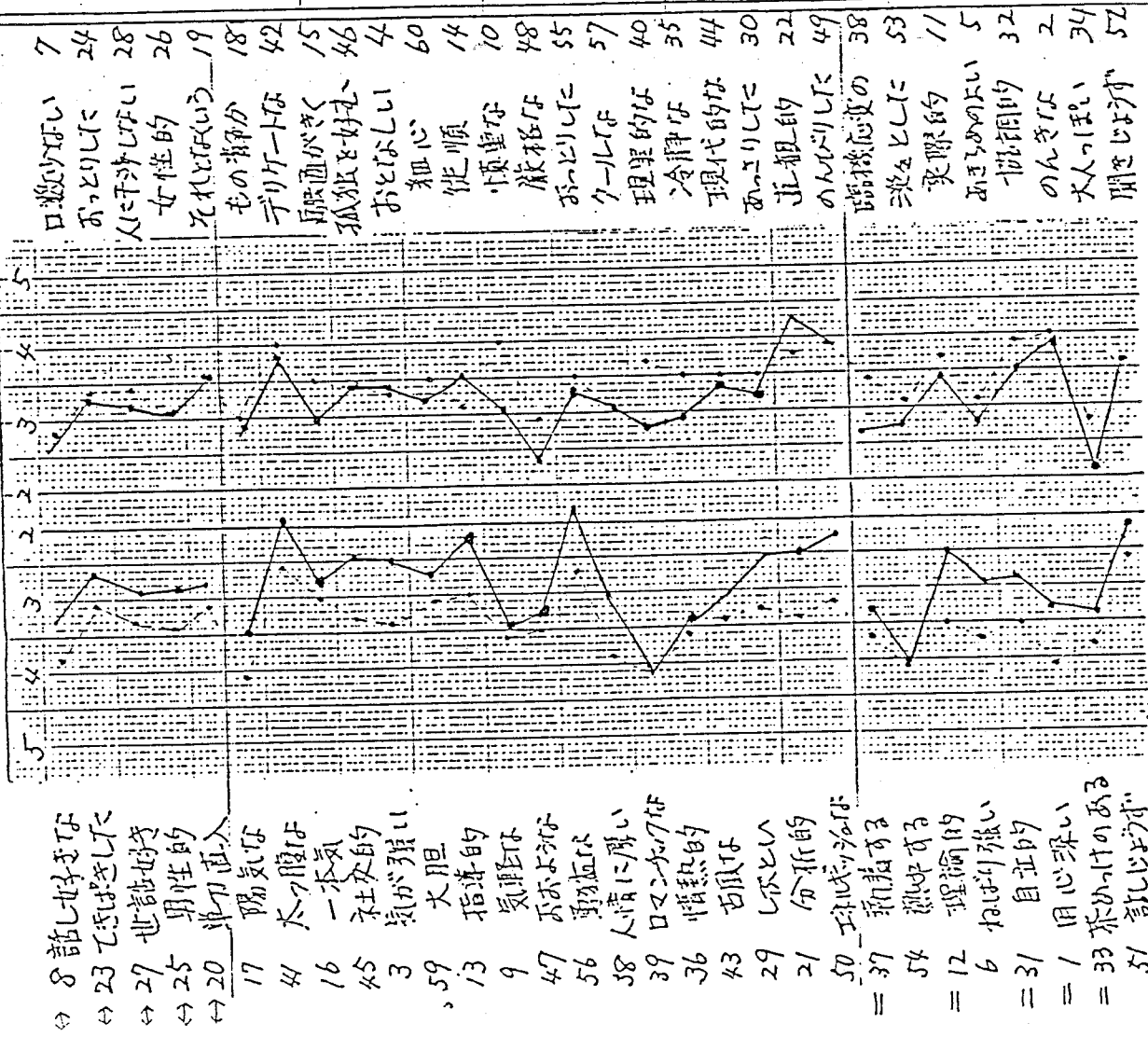


N. 因子相

POSITIVE 大

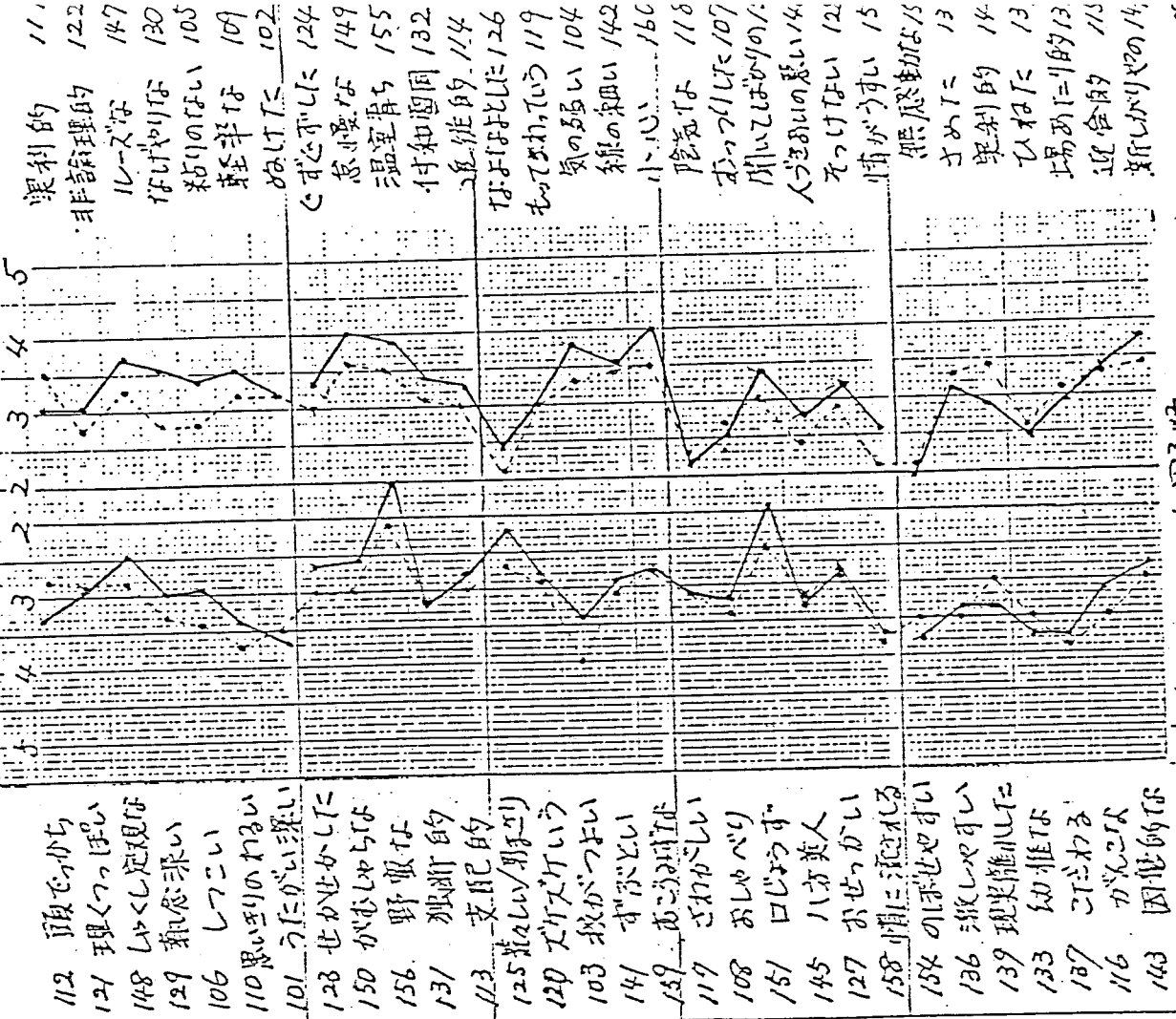
5

POSITIVE [細・不均衡・小]



反対側

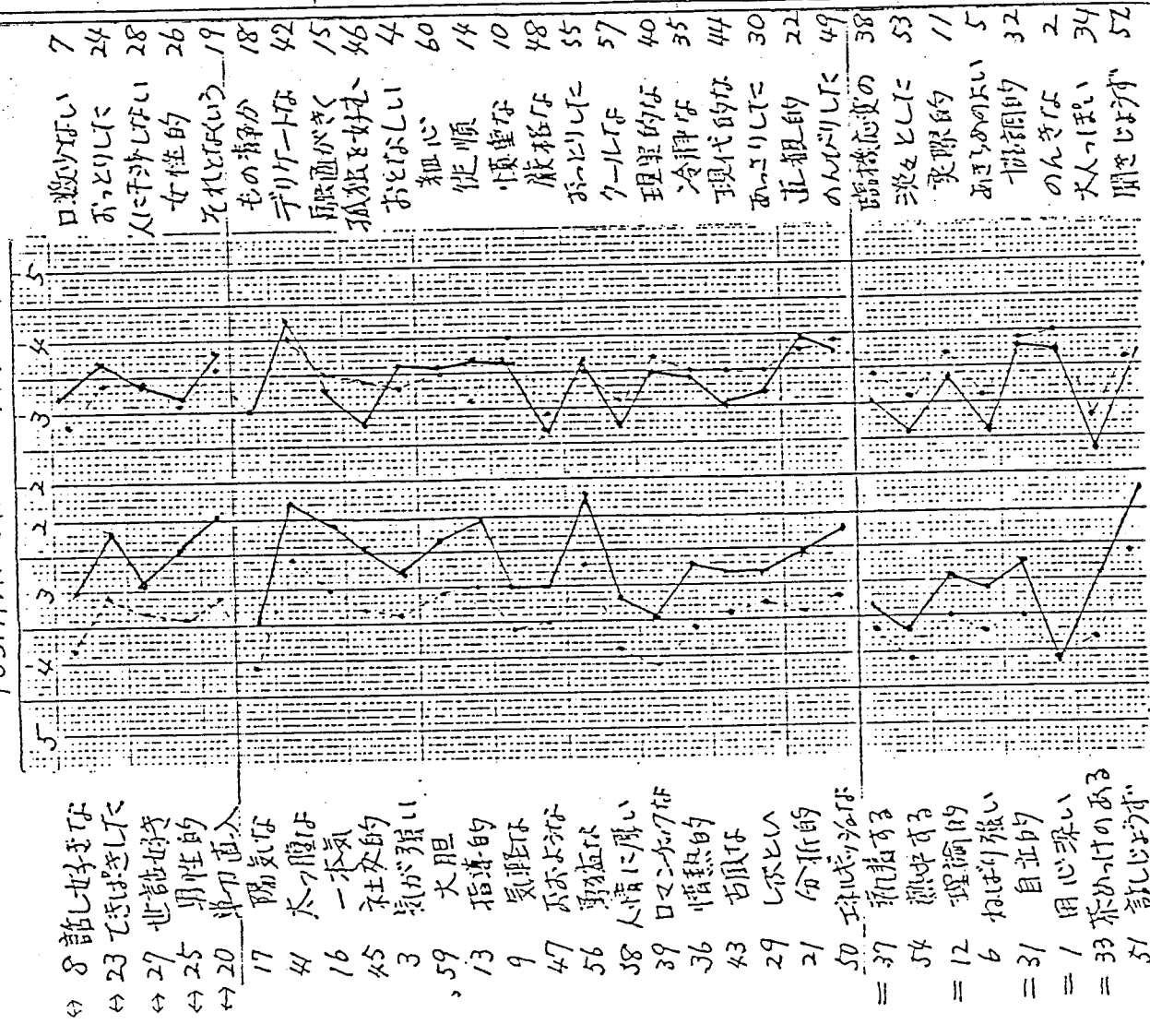
POSITIVE [細・不均衡・小]



POSITIVE [細・不均衡・小]

N. 因子側

POSITIVE [細・不均後行・大]

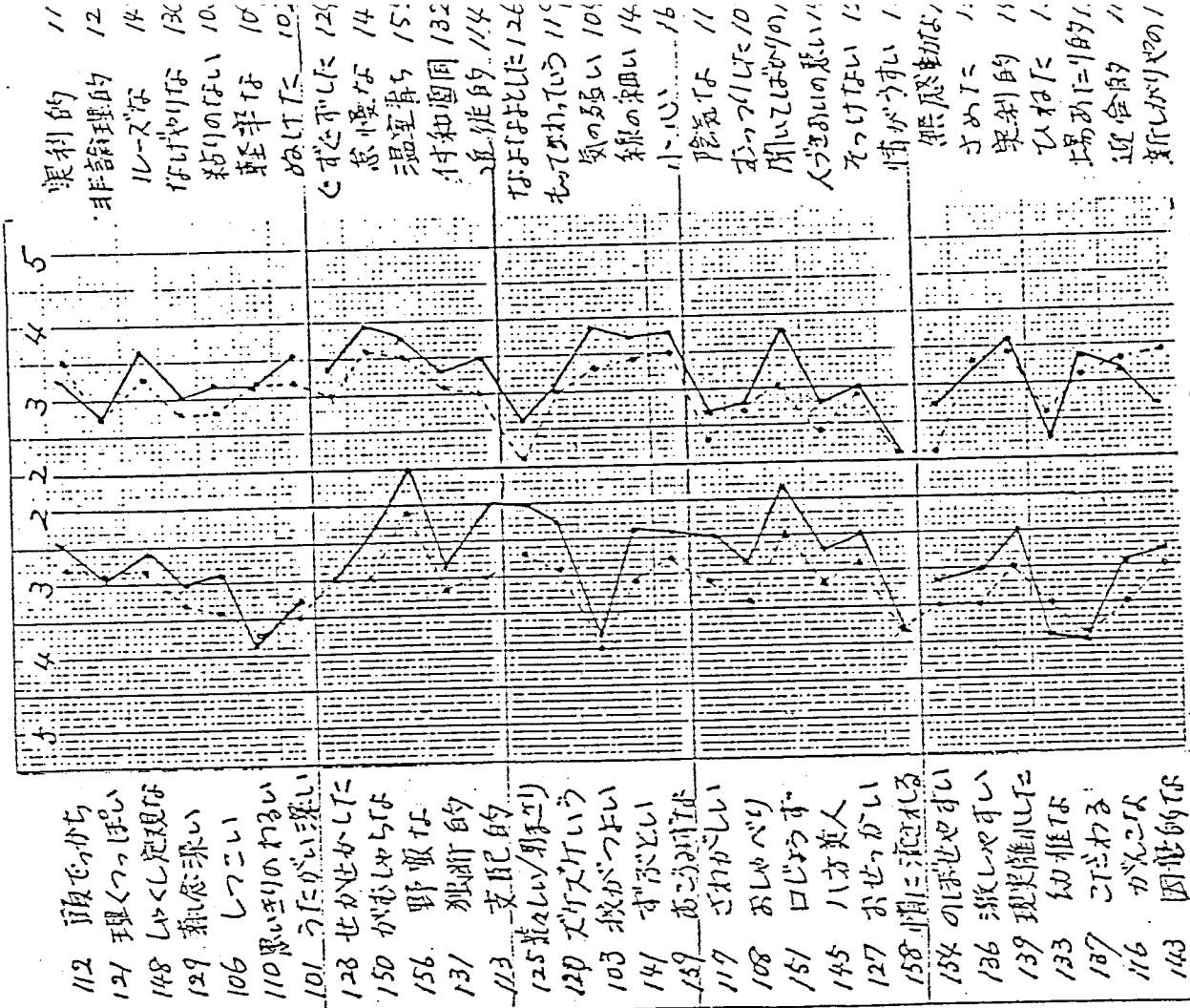


8 話しそぎな
23 てぎぎした
27 世話好き
25 男性的
20 単刀直入
17 陽気な
44 太っ腹な
16 一本気
45 社交的
3 気が強い
59 大胆
13 指導的
9 気楽な
47 気およいな
56 勇猛な
58 人情に厚い
39 ロマンチックな
36 情熱的
43 古風な
29 しなさい
21 分析的
50 珍味・珍珍な
37 新鋭な
54 熱中する
12 理論的
6 ねばり強い
31 自立的
1 用心強い
33 茶にかけの
51 話しそぎな

P. 反相

14 図 4-6

POSITIVE [細・不均後行・大]

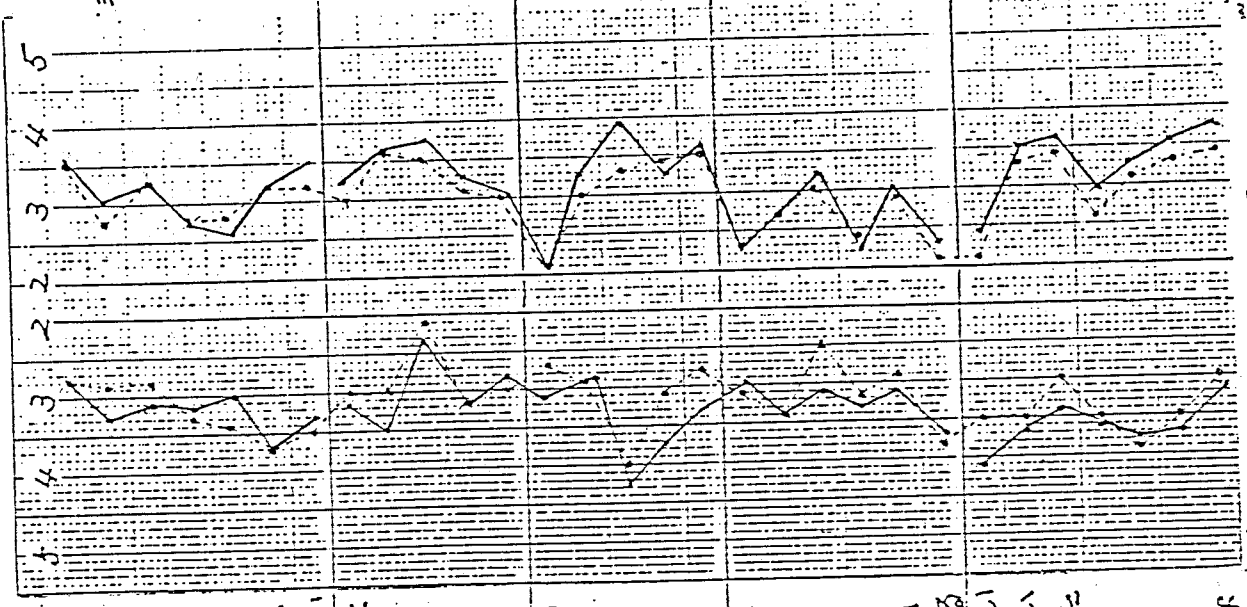


112 頂でっかち
121 理くつし
148 いくし
129 親戚深い
106 しつこい
110 悪いのわらい
101 うたがひ
123 せかしかした
150 がおもしろ
156 野郎な
131 独断的
113 支配的
125 だらだら
120 だらだら
103 だらだら
141 だらだら
159 だらだら
119 だらだら
108 おもしろ
151 ロジック
145 ハンサム
127 おもしろ
158 情に流される
154 のおもしろ
136 激しい
139 現実主義
133 幼稚な
107 こぼれる
116 かんこ
143 因循的

N 図子

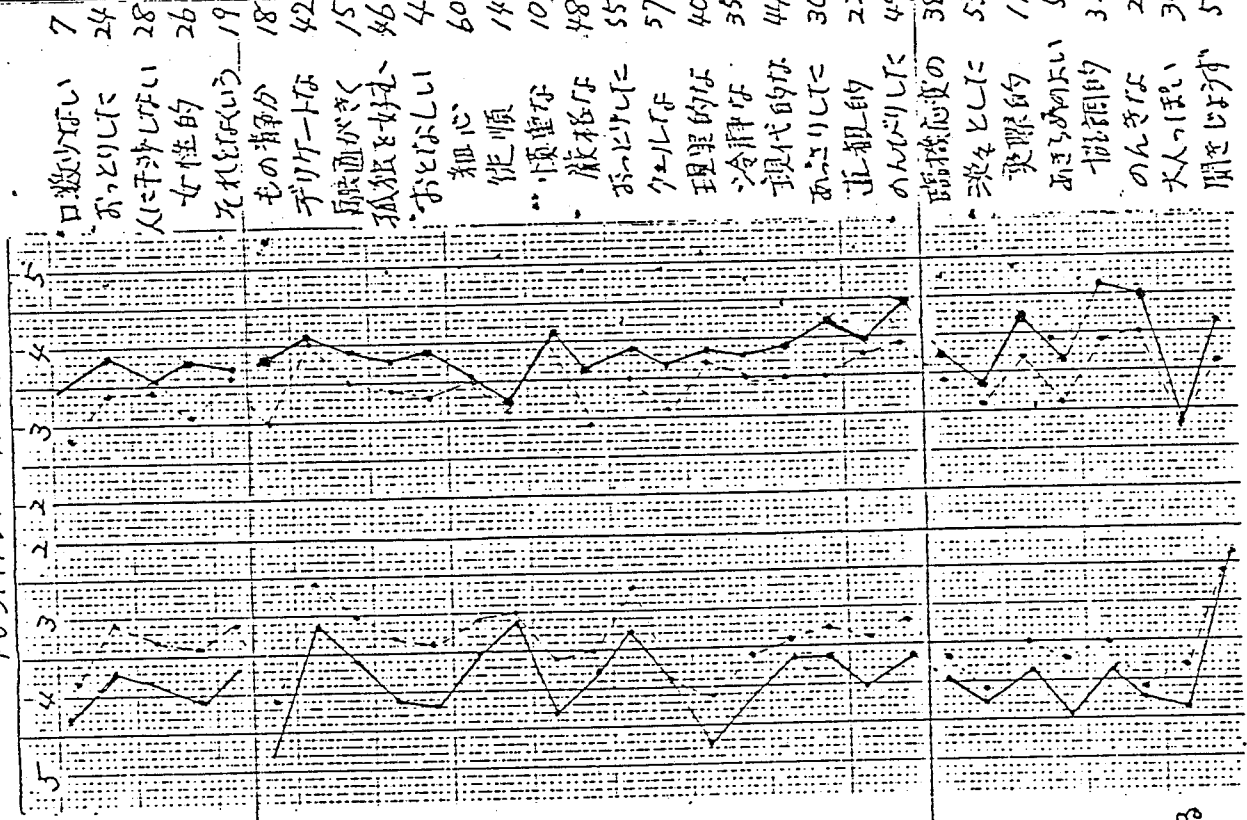
56

POSITIVE [太均像 小]



11 楽的 122 非合理的 149 レースな 130 なげやりな 103 粘りのない 109 軽率な 102 おぼろげに 124 心ざすしに 149 怠慢な 155 温厚な 132 付和適同 114 進行的 126 ばおぼろげに 119 もってあつた 104 気の強い 145 線の細い 161 小心 111 陰気な 107 おつたしに 107 所いおぼろげに 14 人づきの悪い 12 死にたい 13 情がうすい 15 無慈悲な 13 さめしき 14 卑劣的 13 ていねいに 13 場あつた 11 迎会的 11 新しがりやの 14

POSITIVE [太均像 小]



7 口数少ない 24 おどろきに 28 人に干渉しない 26 女性的 19 それをいふ 18 もの背分 42 デリケートな 15 馬鹿な 46 孤独を好む 44 おとなしい 60 細心 14 能順 10 慎重な 48 敵意な 55 おどろきに 57 ケムル 40 理屈的な 35 冷静な 44 現代的な 30 おどろきに 22 正確な 49 のんびりに 38 臨機応変の 53 淡々と 11 変換的 5 あつたふい 32 一般論的 2 のんきな 34 大人っぽい 52 開きよく 57

8 話しせよ 23 ときどき 27 世話好き 25 男性的 20 単刀直入 17 陽気な 44 太腹 16 一本気 45 社交的 3 気が強い 59 大胆 13 指導的 9 気配 47 気配 56 野郎 58 人情に厚い 39 ロマンチック 36 情熱的 43 古風 29 しなやか 21 分析的 50 球技が好き 37 熱中する 54 熱中する 12 理論的 6 ねばり強い 31 自立 1 用心深い 33 茶めかけの 51 話しよく

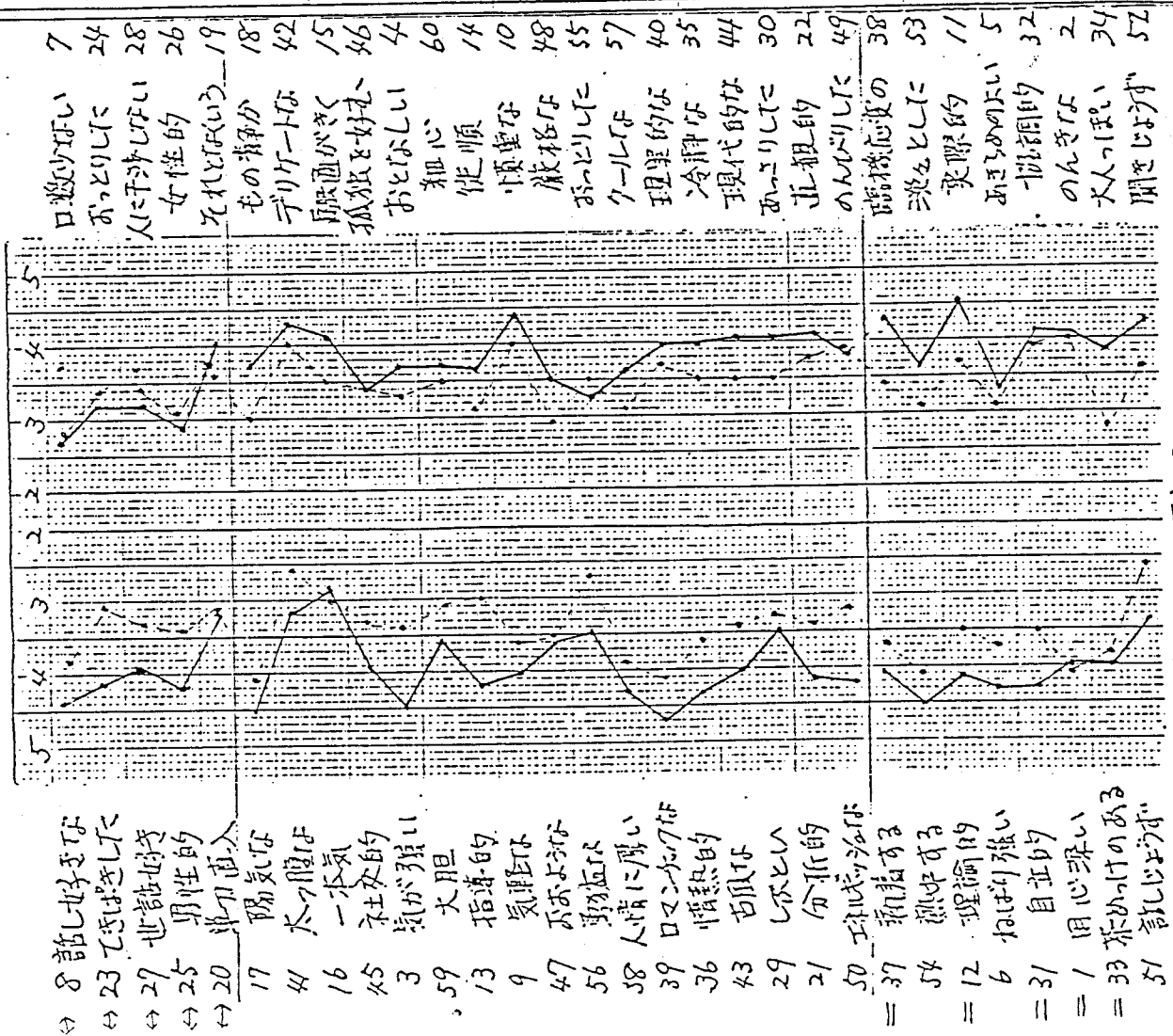
N. 因子像

POSITIVE [太均像 小]

は図 4-7

P. 反対像

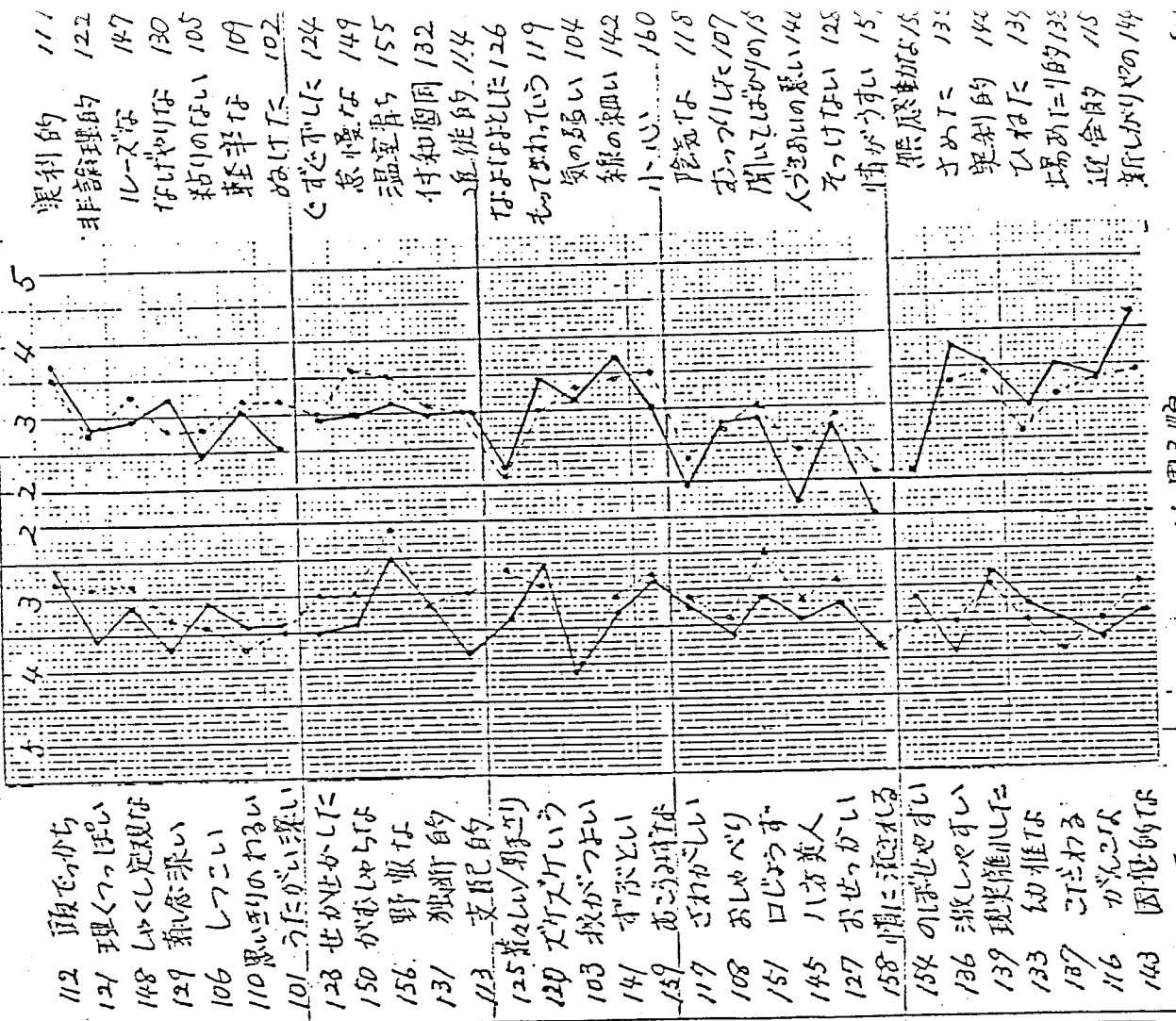
POSITIVE [大 均衡]



P. 反対順

140 4-8

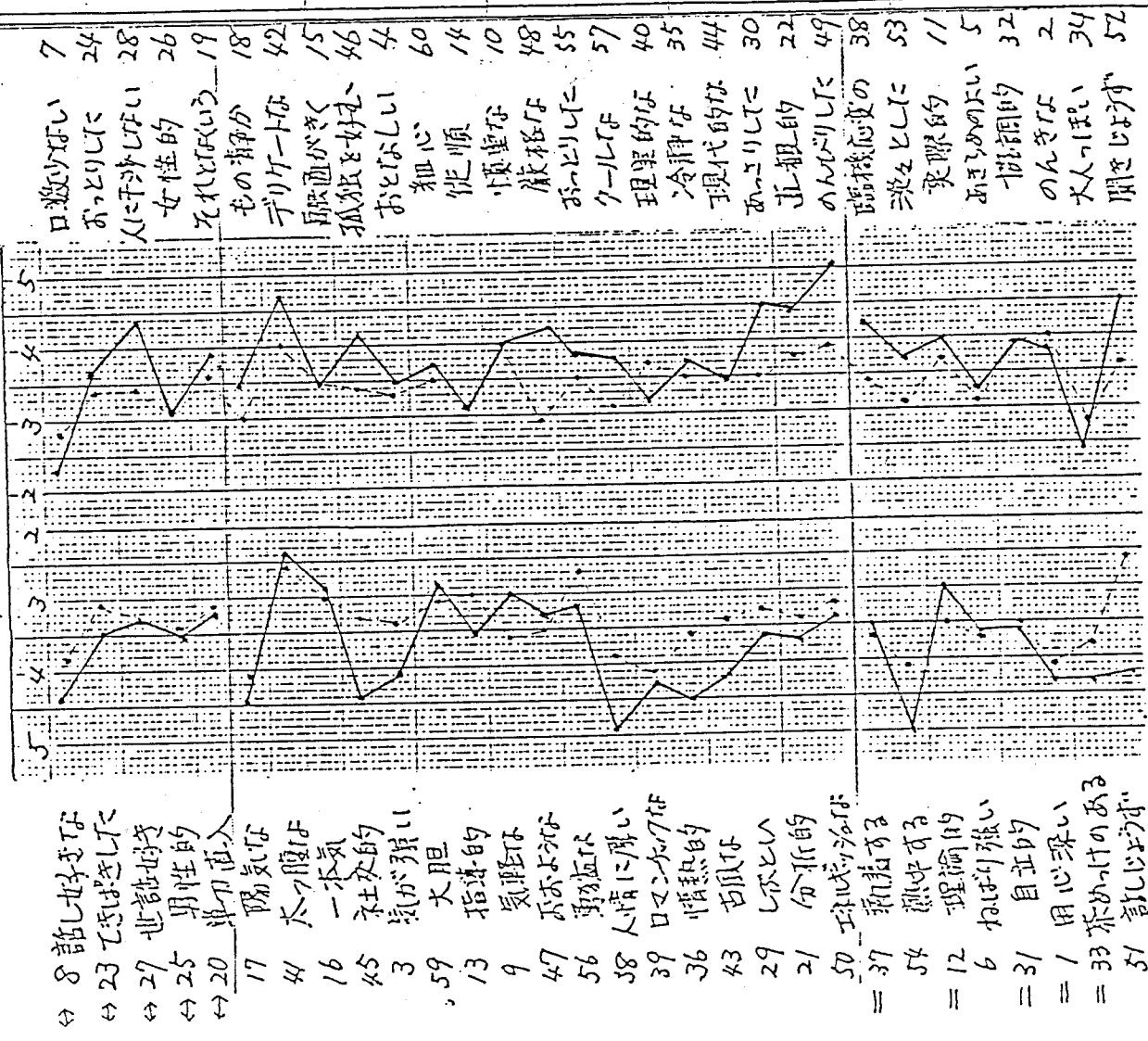
POSITIVE [太 均衡]



N 因子順

POSITIVE 大

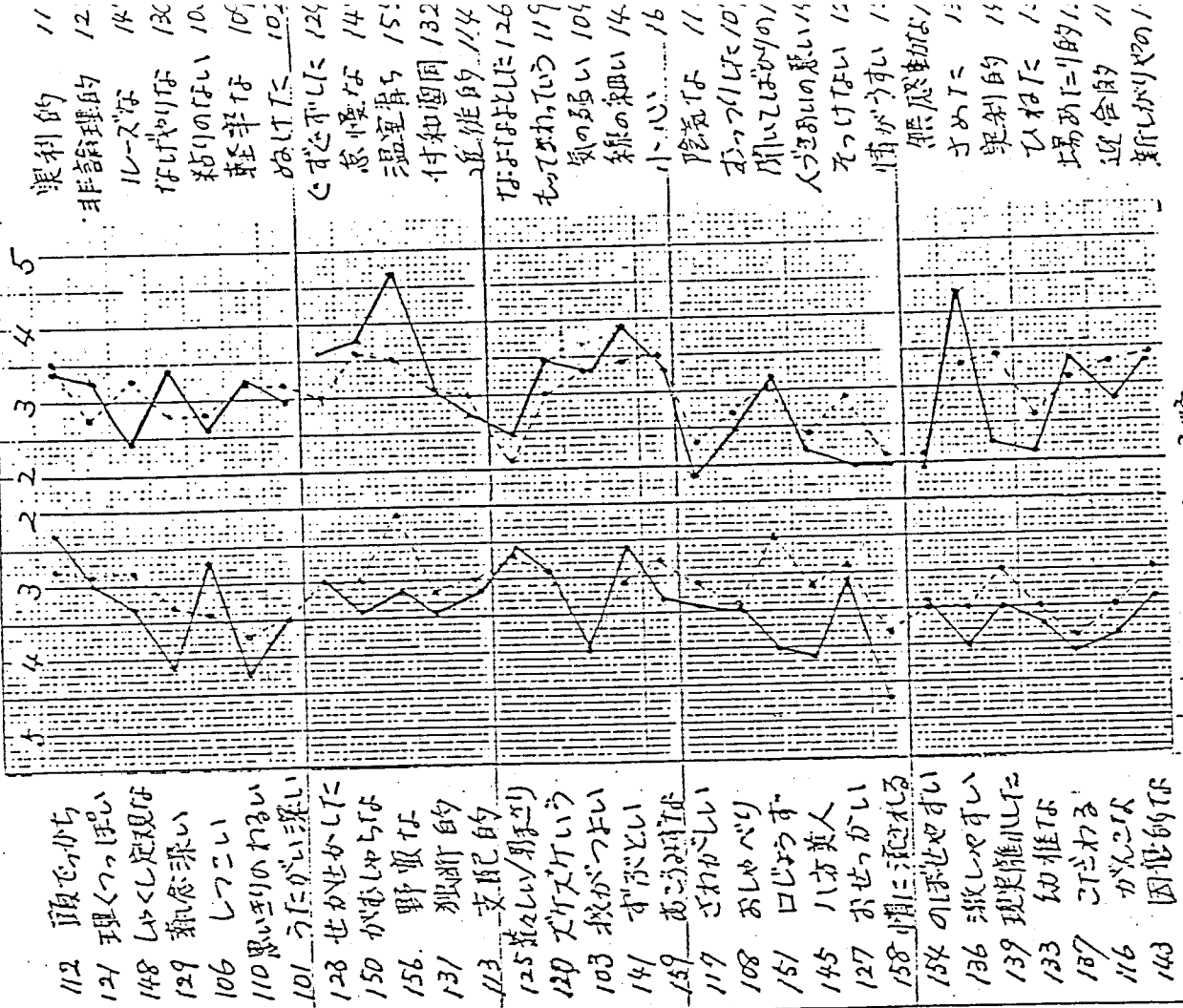
POSITIVE [太、不均衡、小]



P 反対

付図 4-9

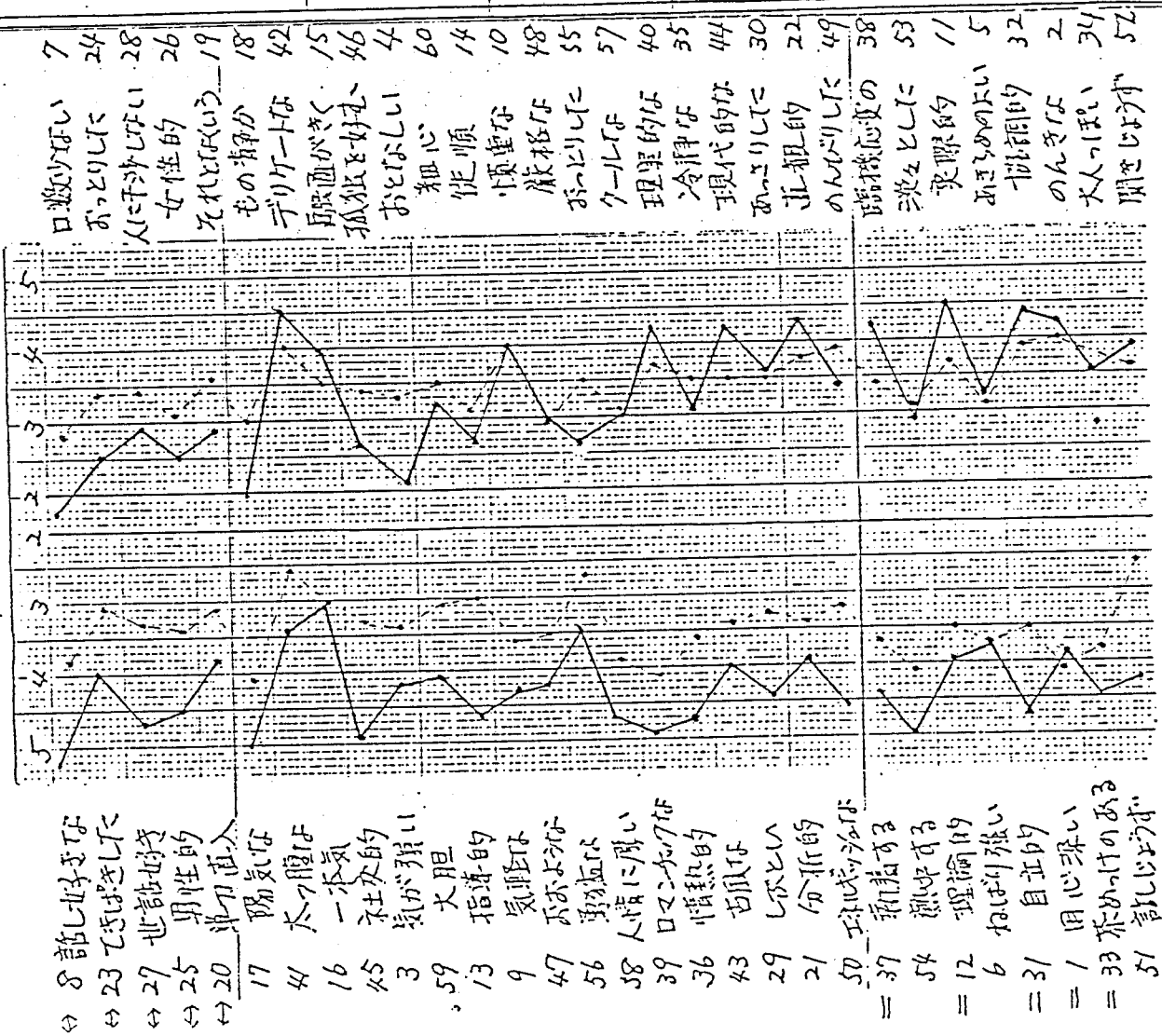
POSITIVE [太、不均衡、小]



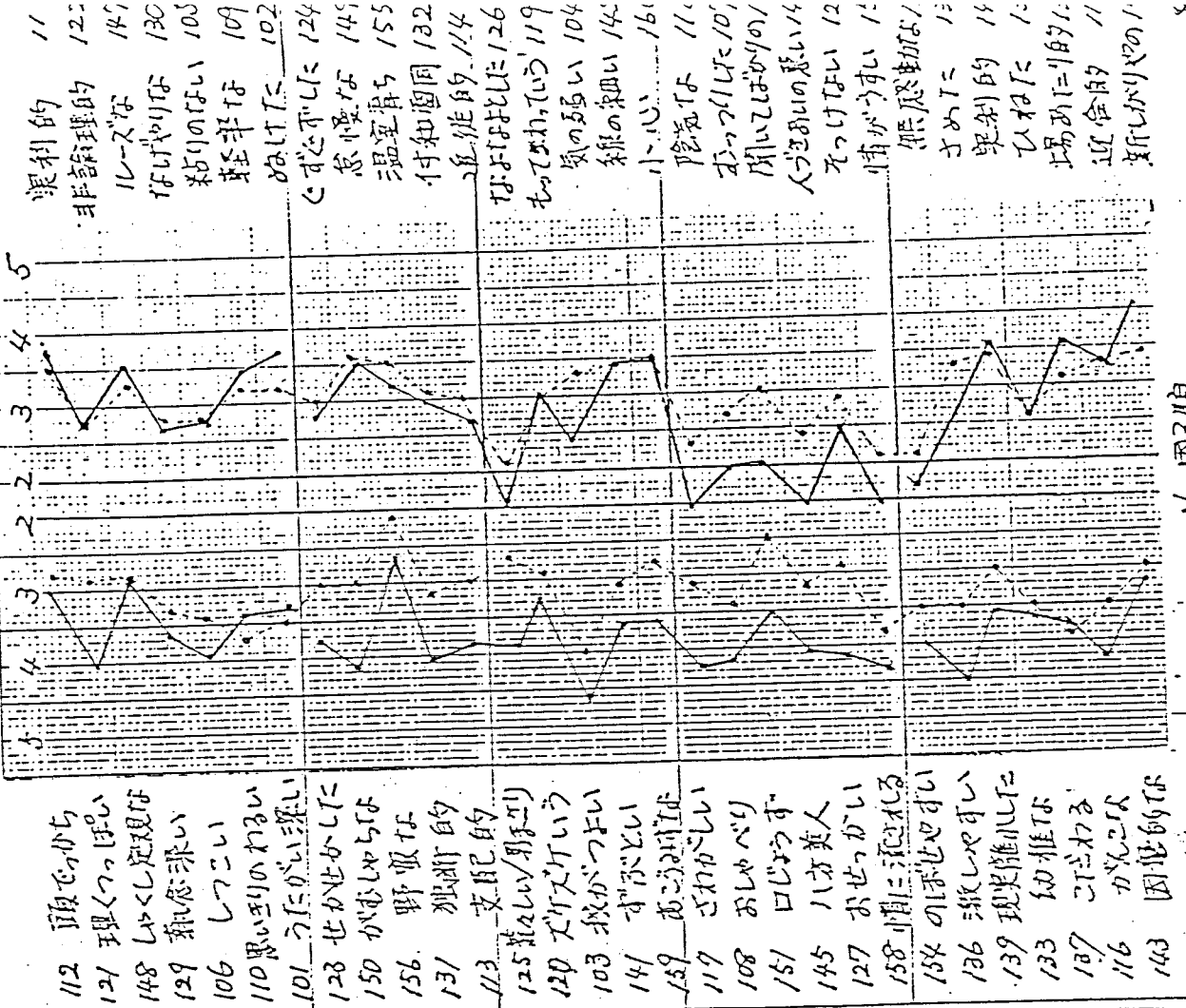
N 因子

POSITIVE [太、不均衡、小]

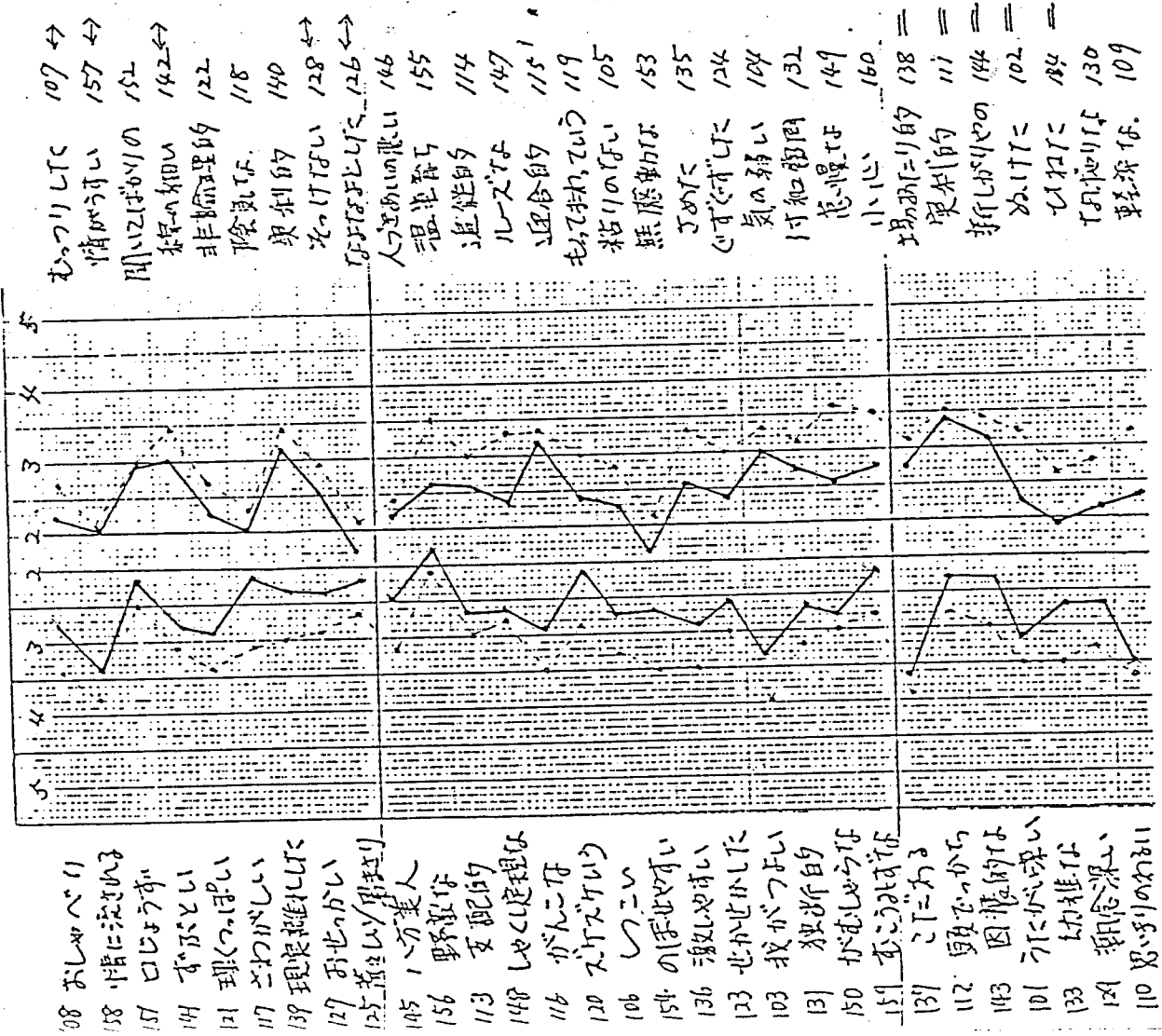
POSITIVE [太、不均衡、大]



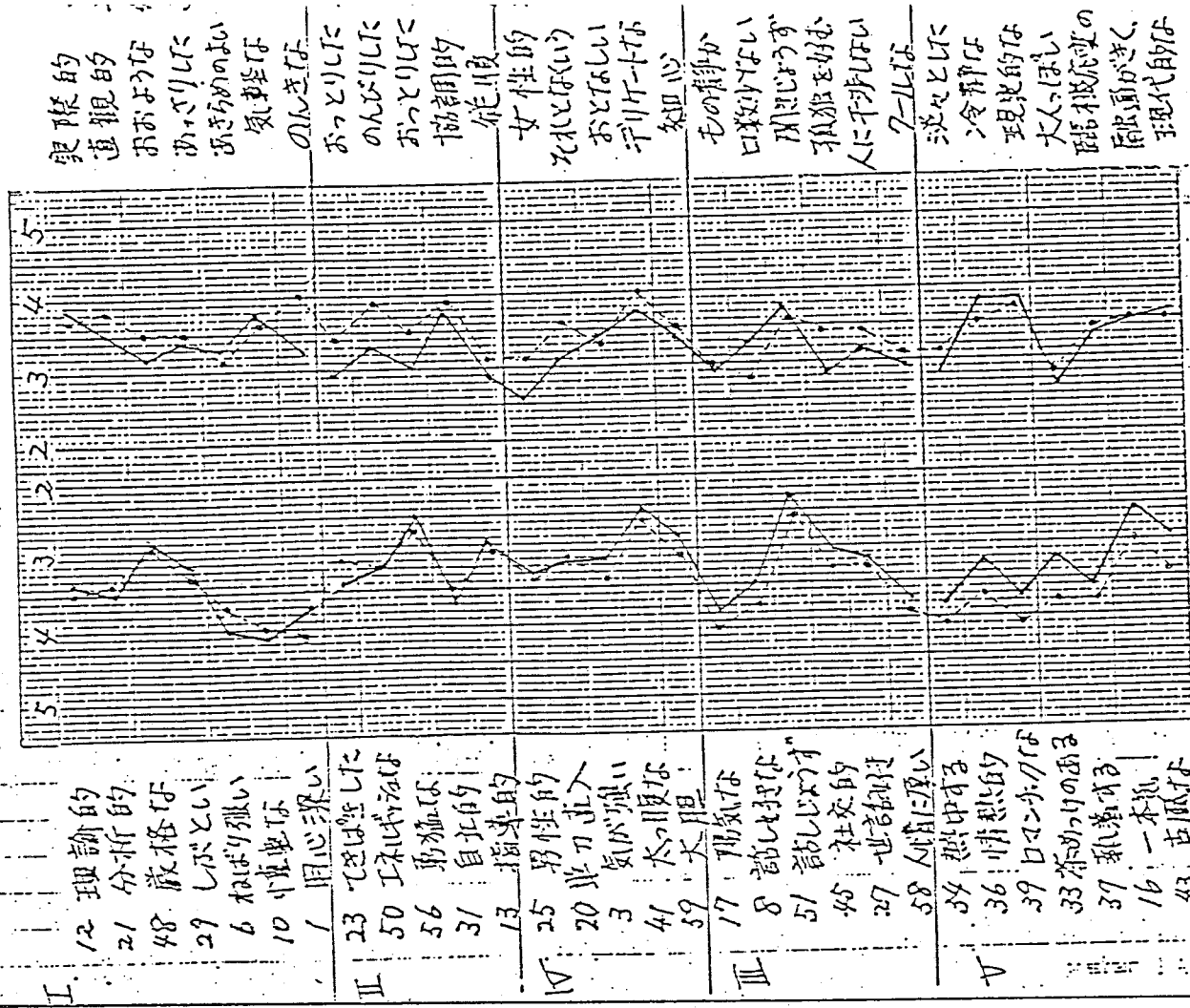
POSITIVE [太、不均衡、大]



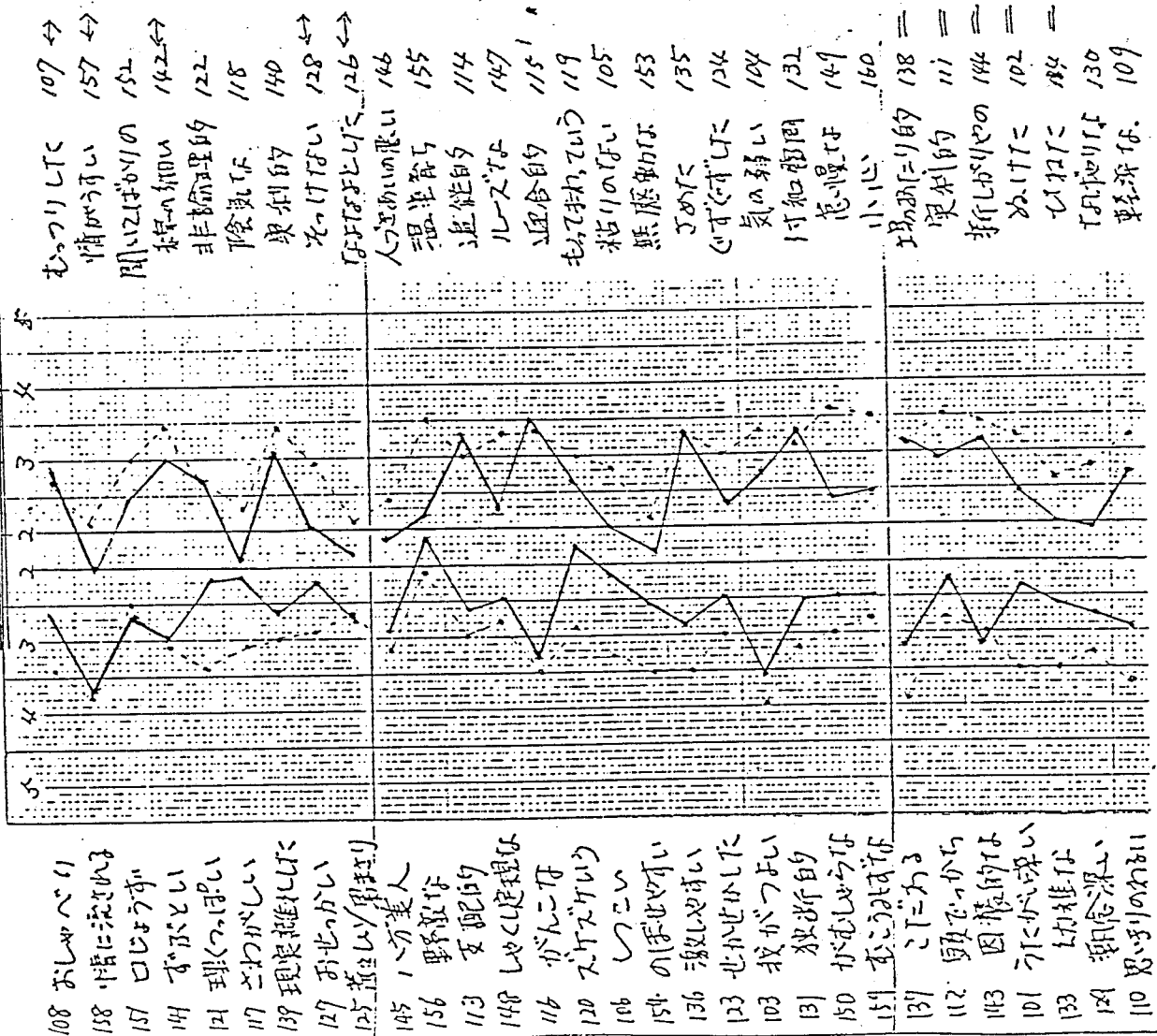
NEAGATIVE [細, 均衡]



N. [細, 均衡]



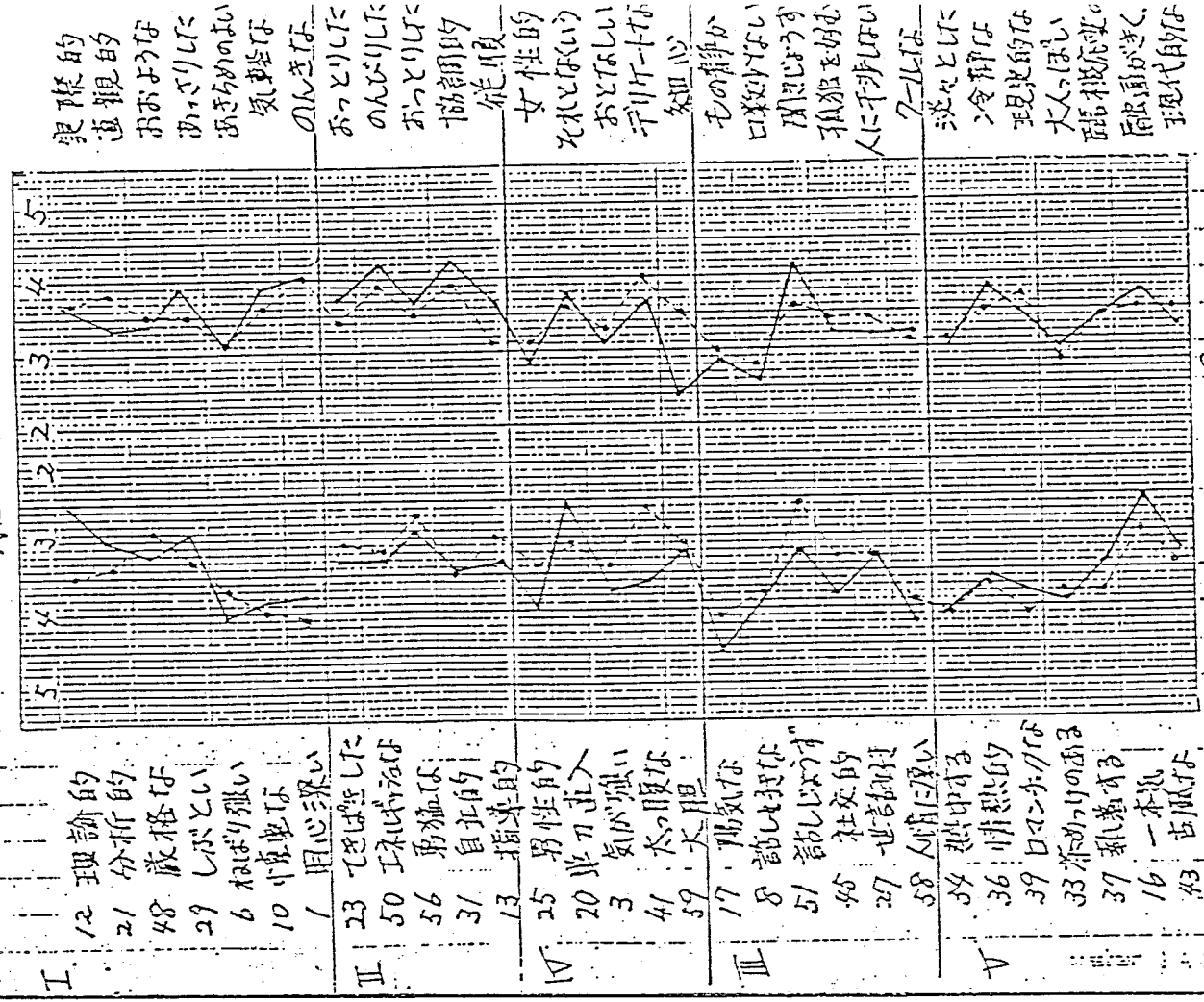
NEGATIVE (細均値) 大



N. 反対側

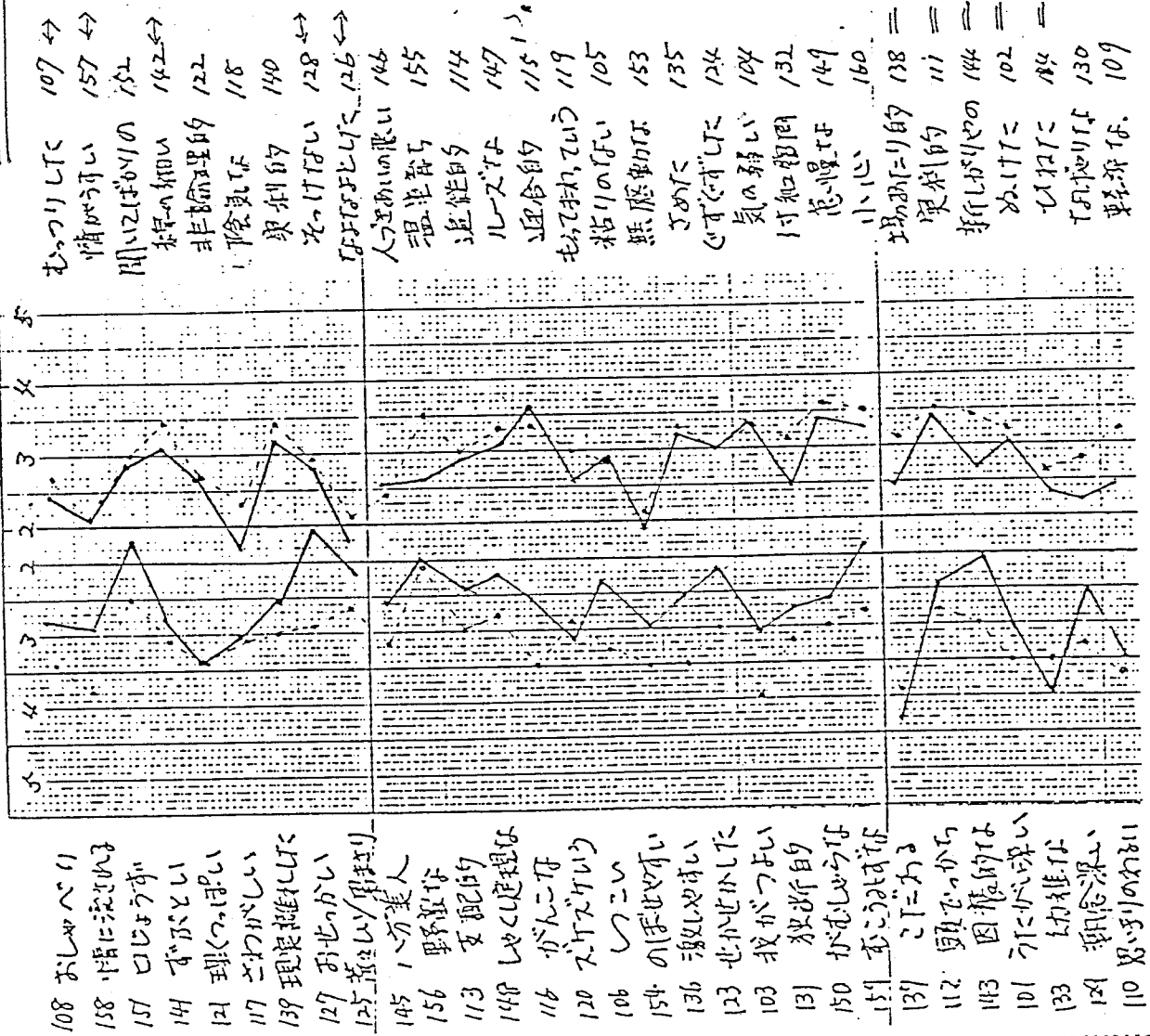
付図 4-12

NEGATIVE (細均値) 大



P. 反対側

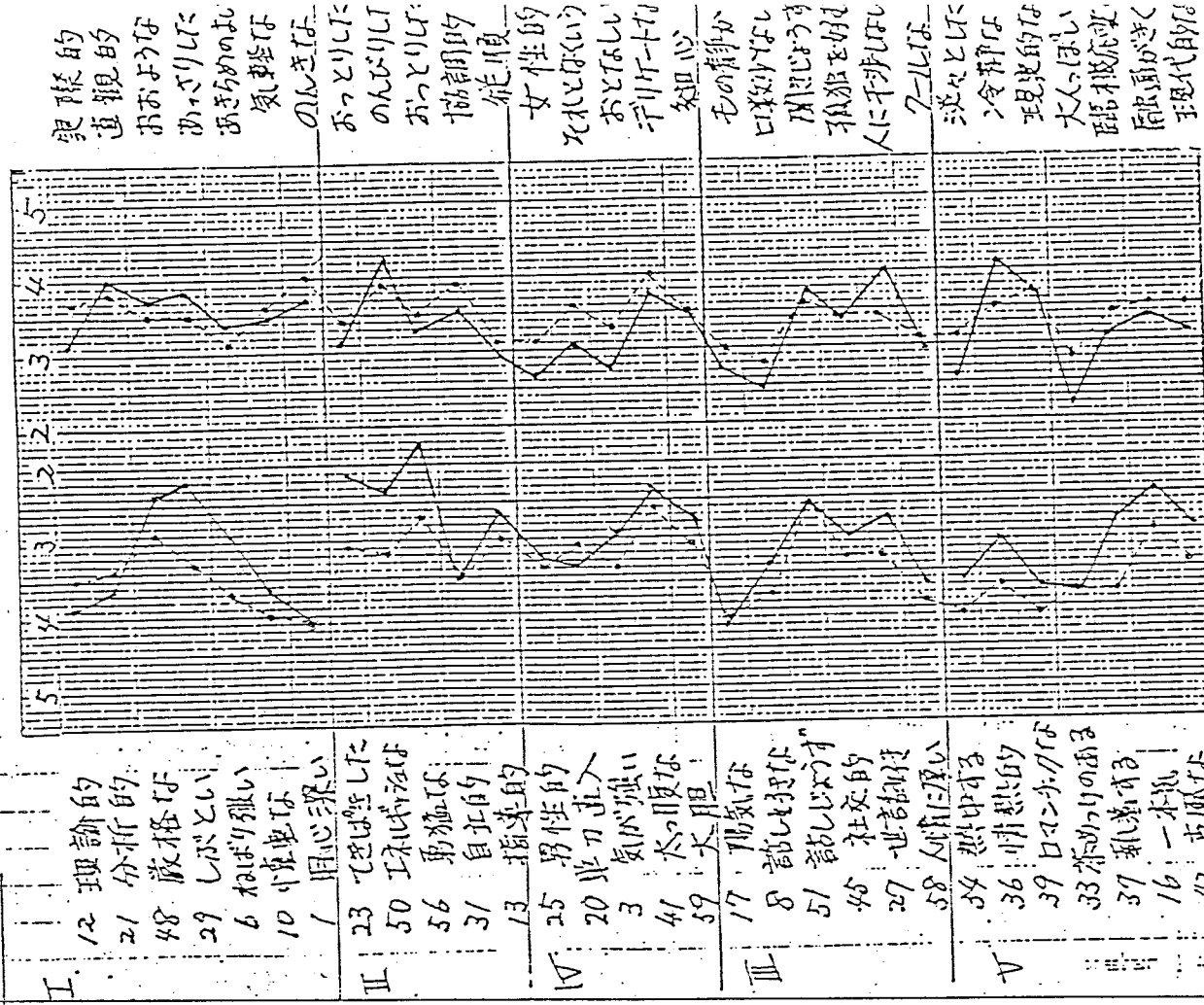
NEGATIVE (細) 不均等



N 反対順

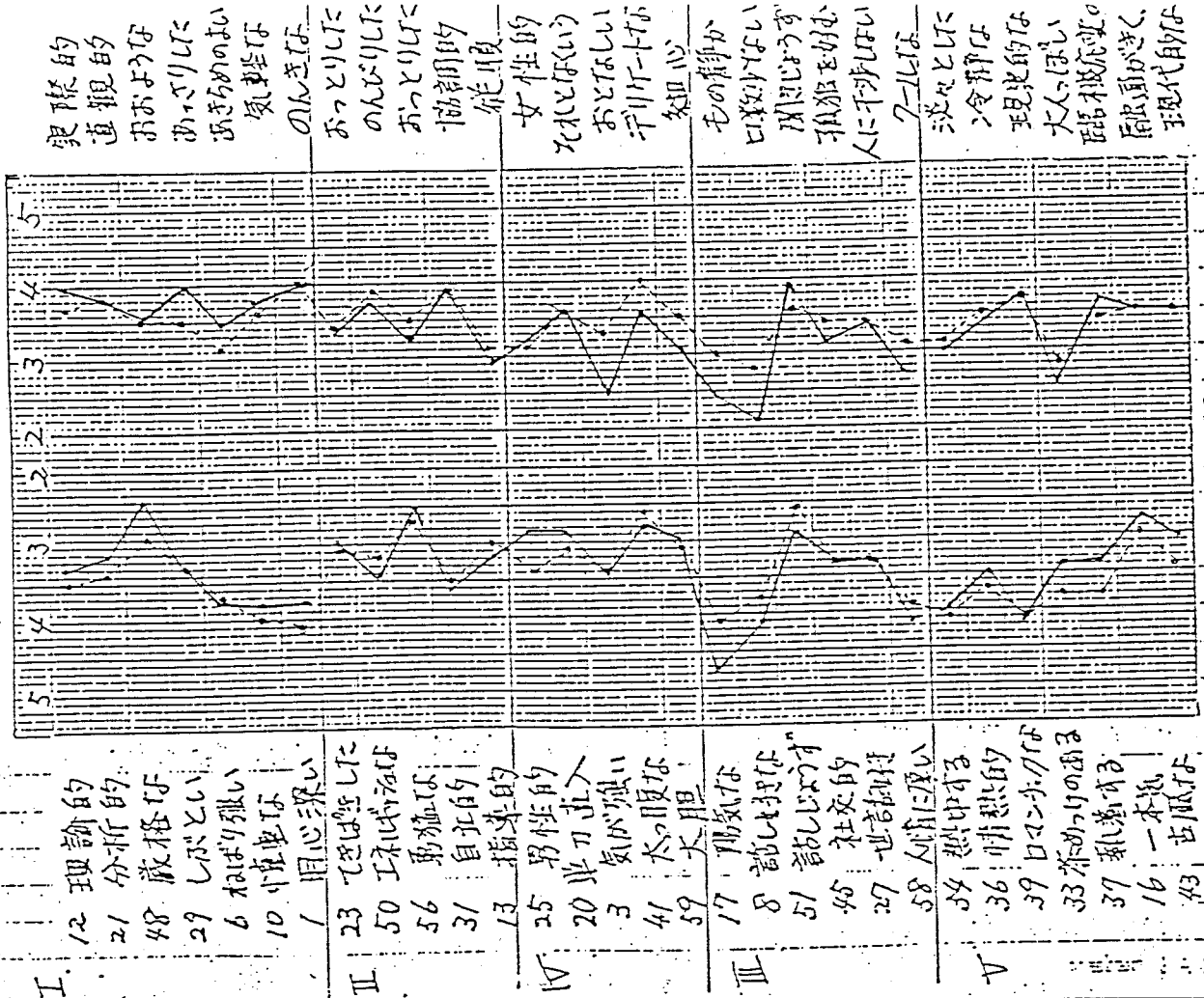
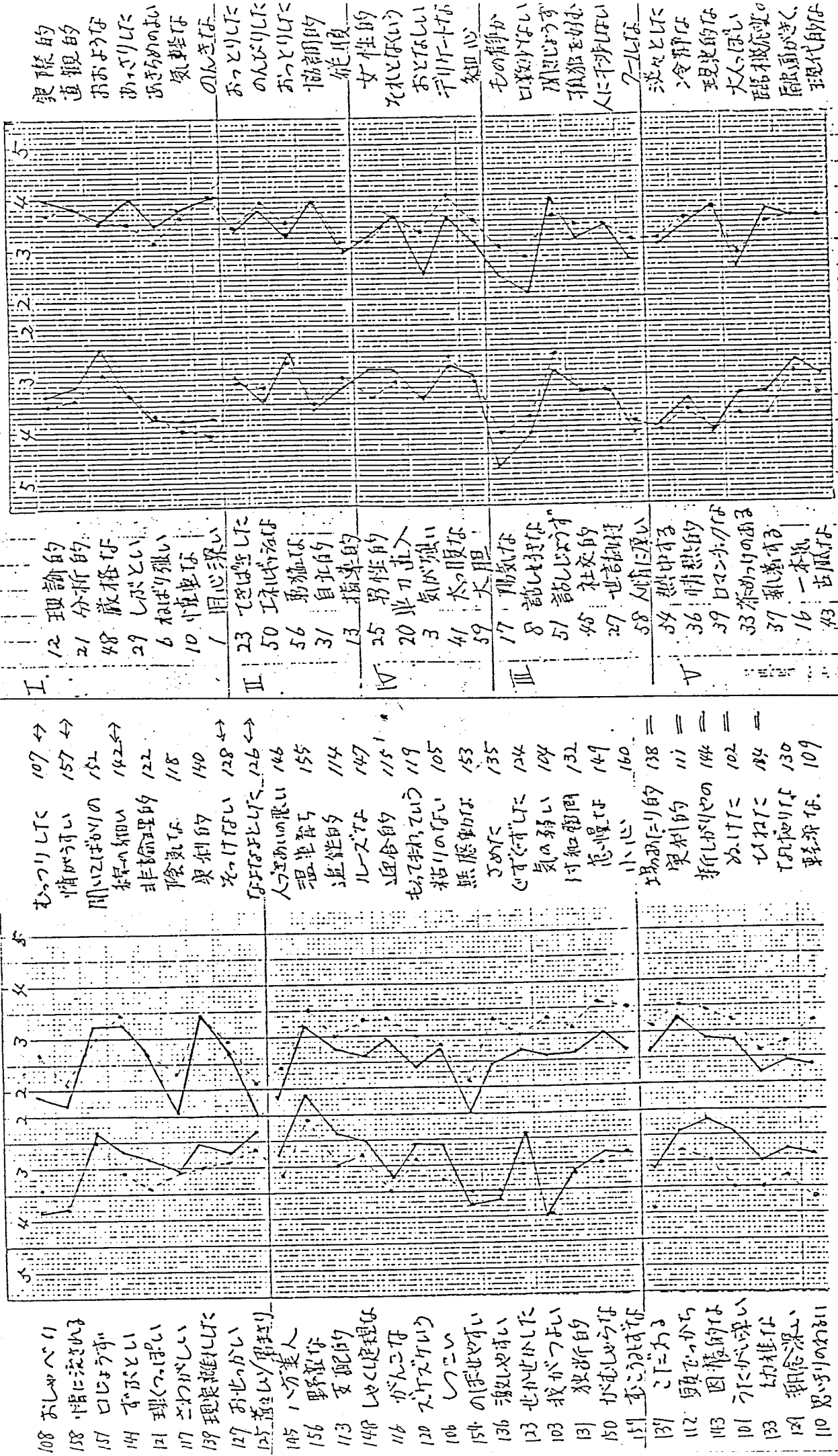
付図 4-13

小



付図 4-13

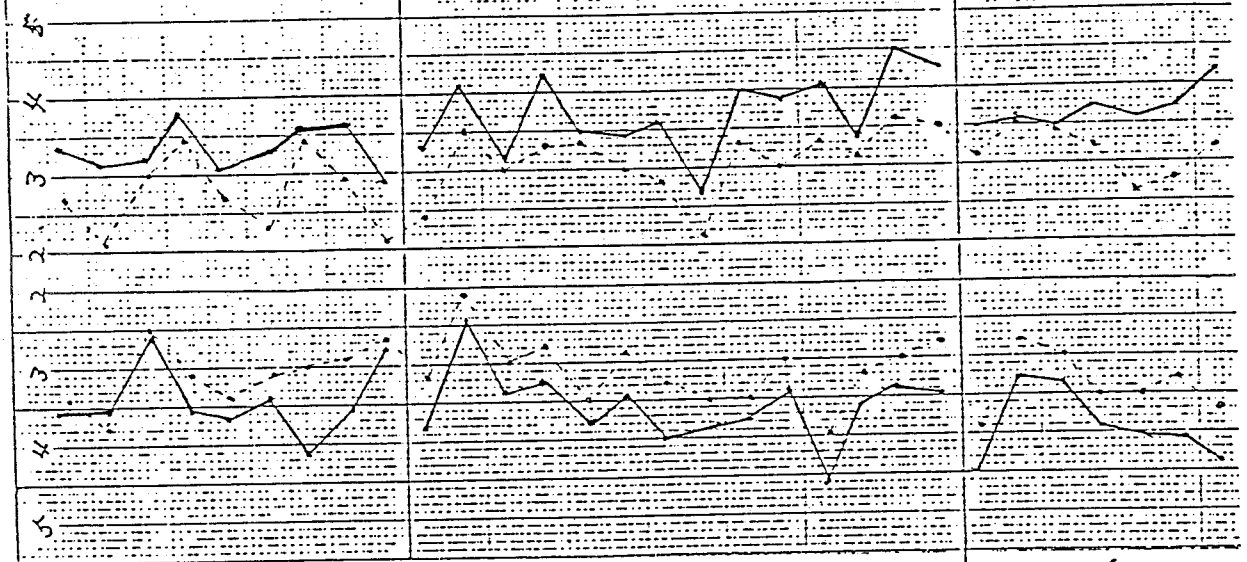
N 反対順



NEGATIVE [太]

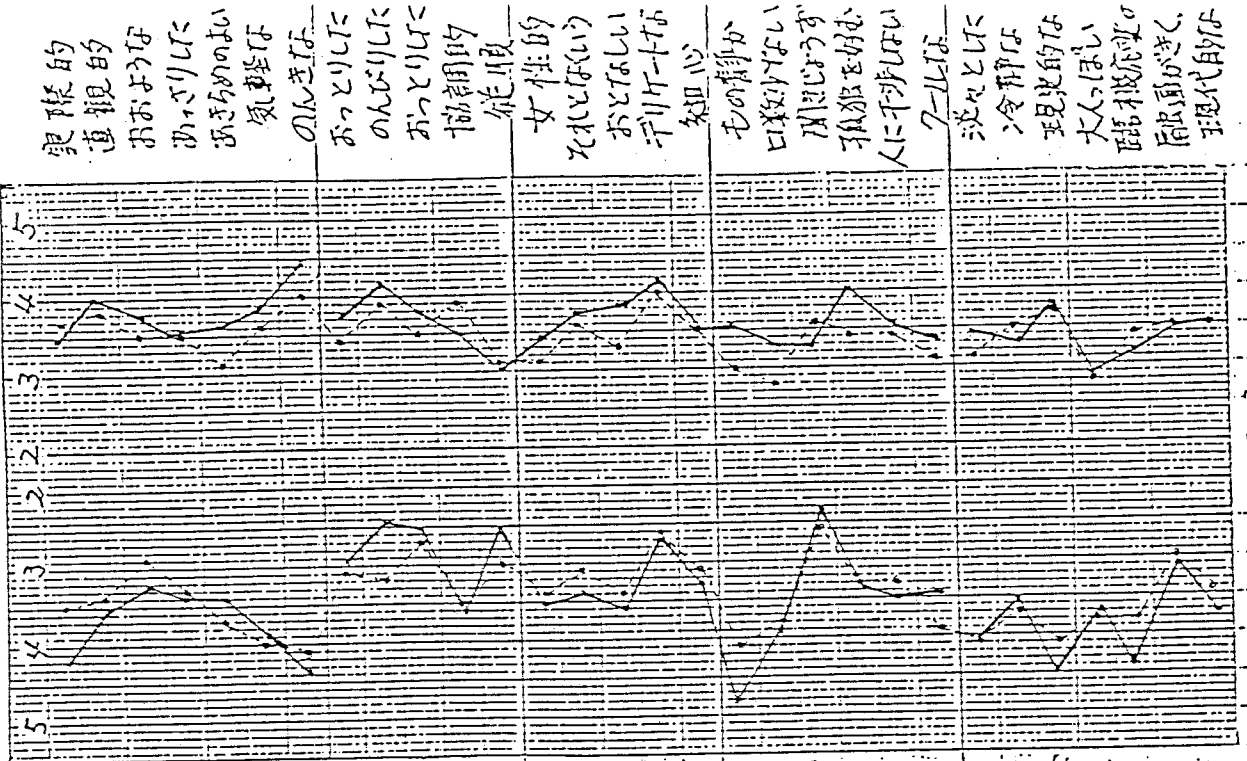
均値: 小

108 おしやべり
158 中略に流される
157 コロようず
144 ずぶとい
121 理くつぽい
117 さわがしい
139 現実を離れしに
127 おせつかい
125 荒れい/男どり
145 一万美人
156 野郎な
113 父親的
148 やくばりな
116 がんこな
120 大いざけい
106 しつこい
154 のぼせやすい
136 強しやさい
123 せかせかした
103 我がつよい
131 独断的
150 がむしゃらな
151 ぶこつたすな
137 こころある
112 腹をくから
143 図樣的な
101 づにが深い
133 切替な
129 邪念深い
110 思ひのわかい



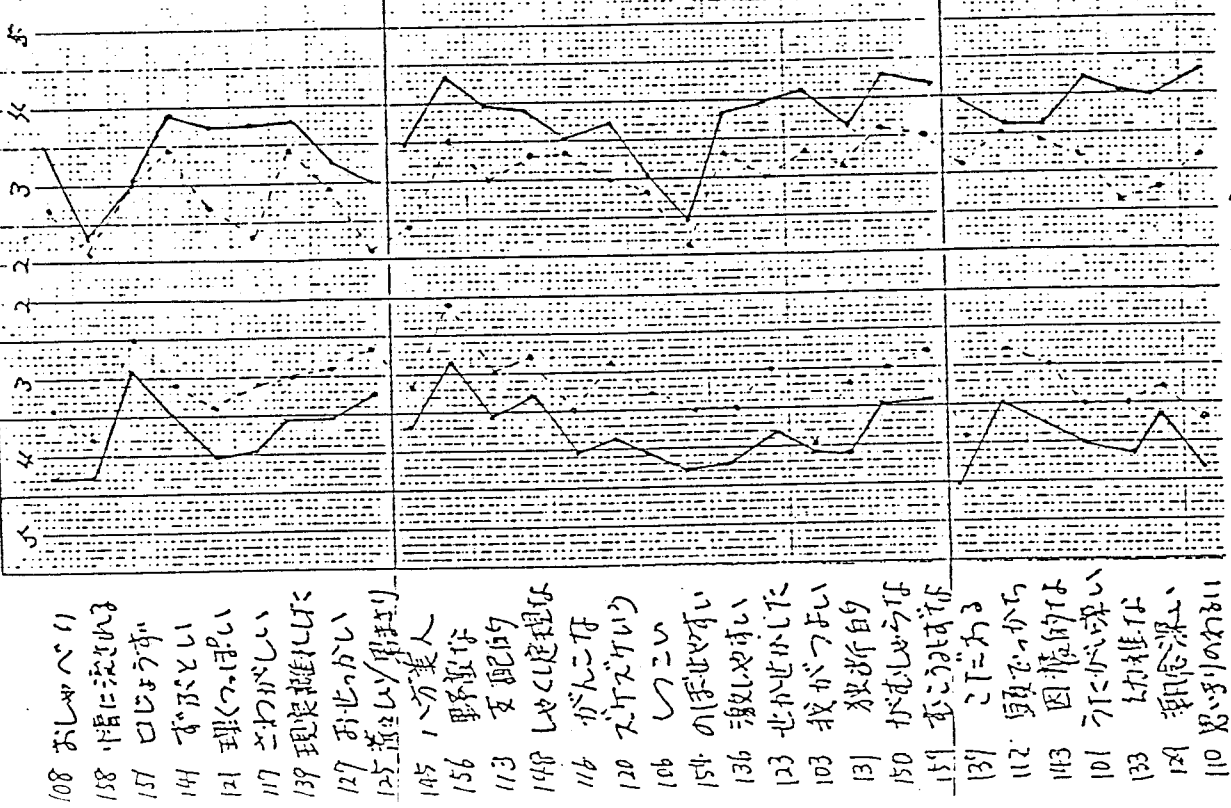
むつりしに
情がすい
聞いではおりの
お早の知い
非論理的
陰気な
果利の
そっけい
なげおとに
人うきおの
温生な
道徳的
ルズな
迎合的
おてつていう
粘りの強い
無慈悲な
さめ
心すすに
気の強い
けしおの
怠慢な
小心
場おりの
突利的
折しがりの
ぬいけ
ひねり
Tおのり
軽快な

I. 12 理論的
21 分析的
48 嚴格な
29 しぶとい
6 ねばり強い
10 慎重な
1 用心深い
II. 23 てきぱちした
50 正確な
56 勇敢な
31 自立的
13 標準的
IV. 25 男性的
20 並刀直入
3 気が強い
41 太腹な
59 大胆
III. 17 陽気な
8 論じ強い
51 話し強い
45 社交的
27 世話強い
58 人情に厚い
V. 34 熱中する
36 情熱的
39 ロマンチックな
33 茶碗のり
37 新しめる
16 一本道
43 古風な



實際的
直観的
おおやうな
おざりな
おきめのよい
気持な
のんきな
おっとりした
のんびりした
おっとりした
協調的
能順
女性的
それとない
おとなしい
デパートな
知心
ものずか
口数少ない
おぼろげ
おぼろげ
人に干渉しない
クールな
淡々とした
冷静な
現代的な
大人っぽい
臨機応変の
前向きな
現代的な

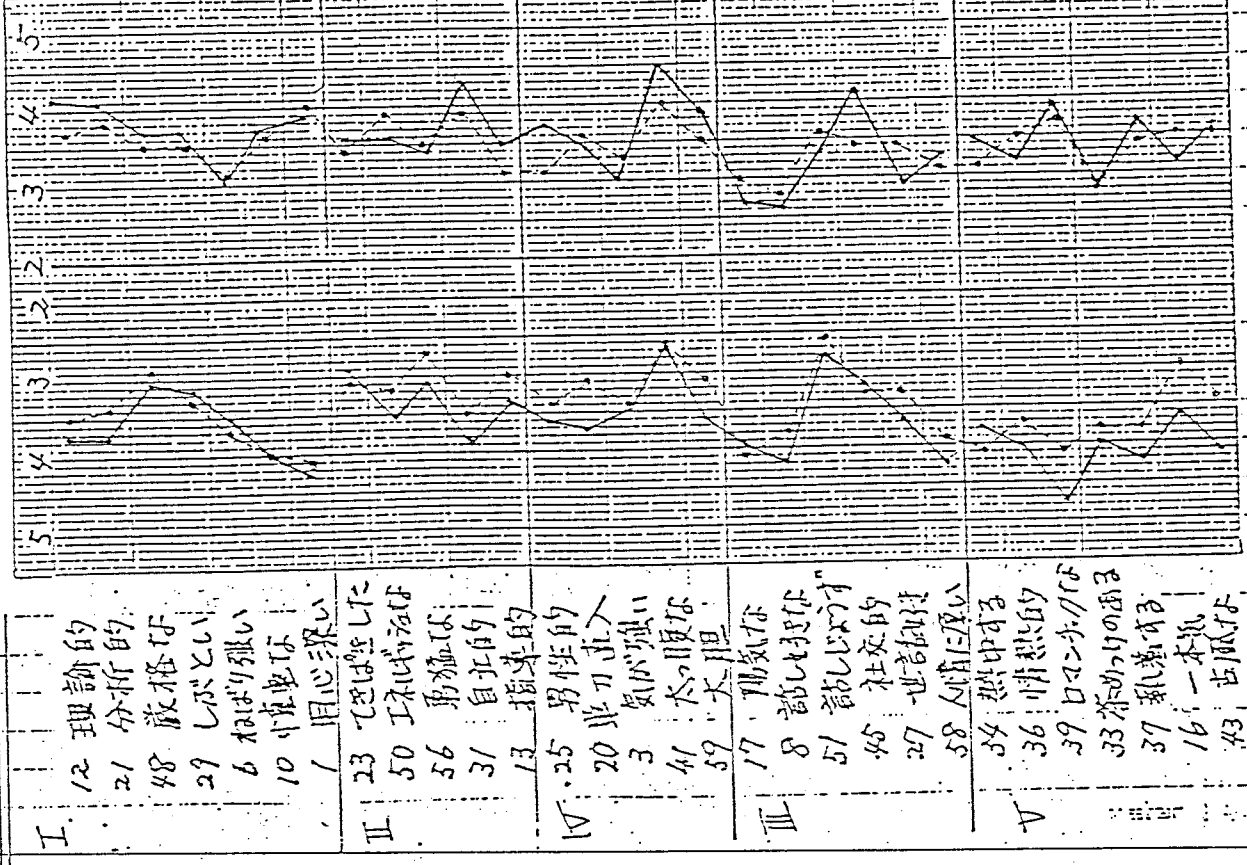
NEGATIVE 大



N 反対相

付図 4-16

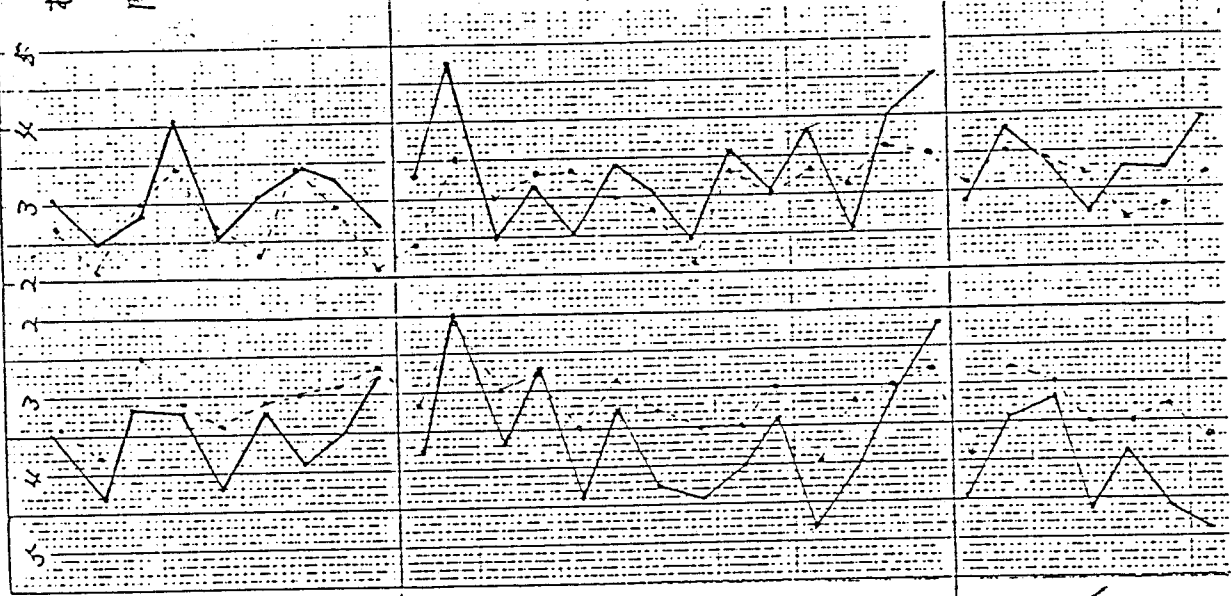
均値 大



P 同相

現実的
直観的
おおやうな
あざむきに
あきらめのよい
気持ちは
のんきな
おっとりした
のんびりした
おっとりした
協調的
能性
女性的
それとない
おとなしい
デパートな
知性
もの清々か
口直しな
男にしようず
男にしようず
人に干渉しない
クールな
淡々とした
冷静な
現実的な
大人っぽい
臨機応変
屈強がきく
現代的な

NEBATIVE (太. 不均衡. 小)



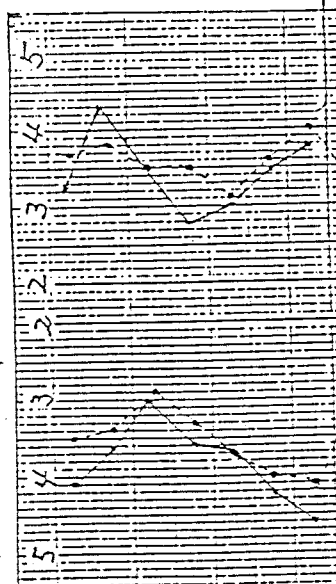
- 108 おしやべり
- 109 皆に流され
- 110 口じょうず
- 111 ずぶとい
- 112 理くつぽい
- 113 かわがしい
- 114 現象をい
- 115 おせつかい
- 116 道義い/野郎
- 117 1 万美人
- 118 野郎な
- 119 支配的
- 120 しゃく理な
- 121 がんこ
- 122 スグズグいう
- 123 しこい
- 124 のぼせやすい
- 125 強しやしい
- 126 せかせかした
- 127 我がつよい
- 128 独断的
- 129 がむしゃうな
- 130 ぶこうずき
- 131 こにち
- 132 腹でんから
- 133 図樣的な
- 134 うにかが深い
- 135 幼雅な
- 136 聖田を深
- 137 思ひのわい

N 反対角

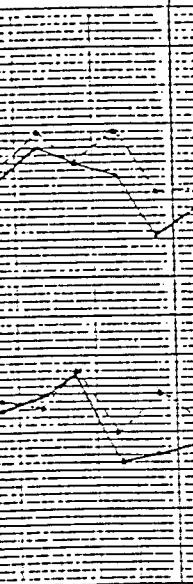
付図 4-17

I. 理論的

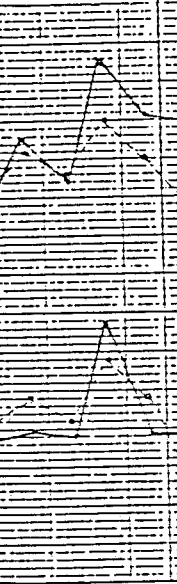
- 12 理論的
- 21 分析的
- 48 嚴格な
- 29 しどとい
- 6 ねばり強い
- 10 慎重な
- 1 用心深い



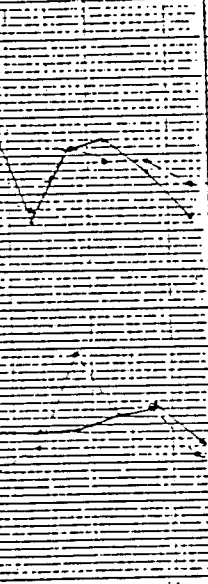
- 23 てきぱきした
- 50 エネバな
- 56 勇猛な
- 31 自立的
- 13 指導的



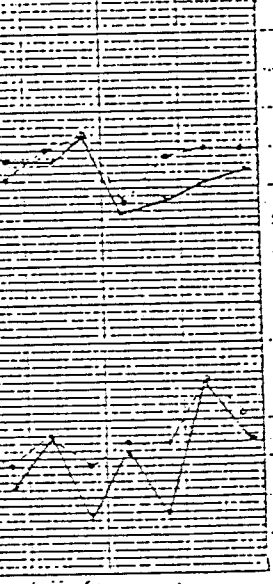
- 25 男性的
- 20 此刀直入
- 3 気が強い
- 41 太っ腹な
- 59 大胆



- 17 陽気な
- 8 豁しと捉
- 51 豁しとびうず
- 45 社交的
- 27 世話を焼
- 58 人前に強い



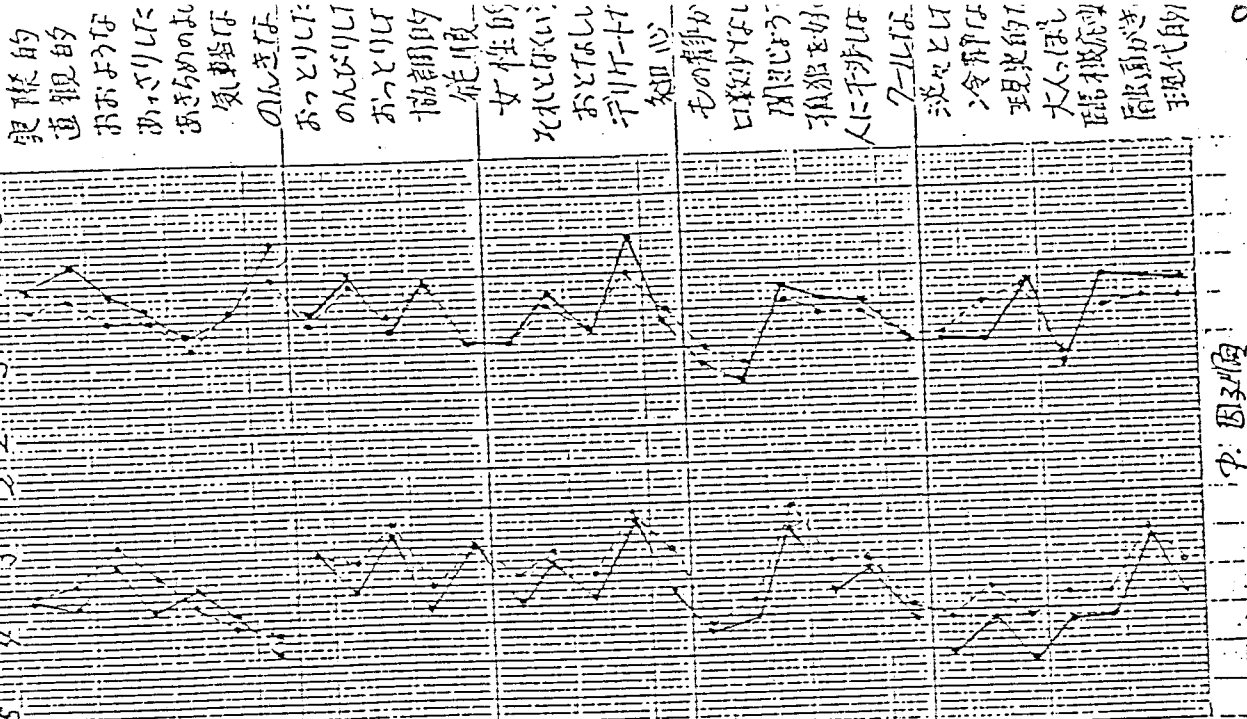
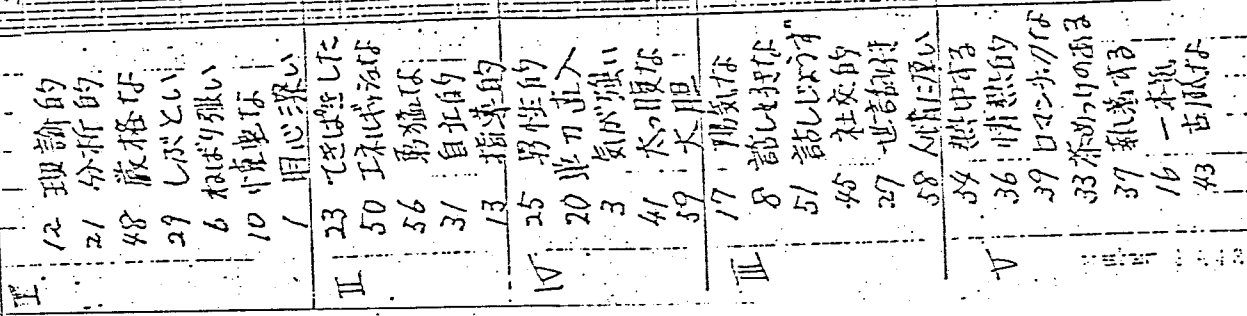
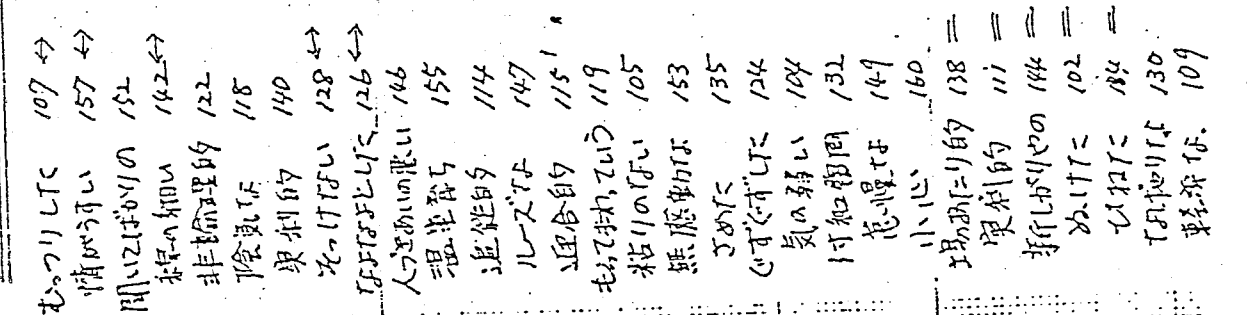
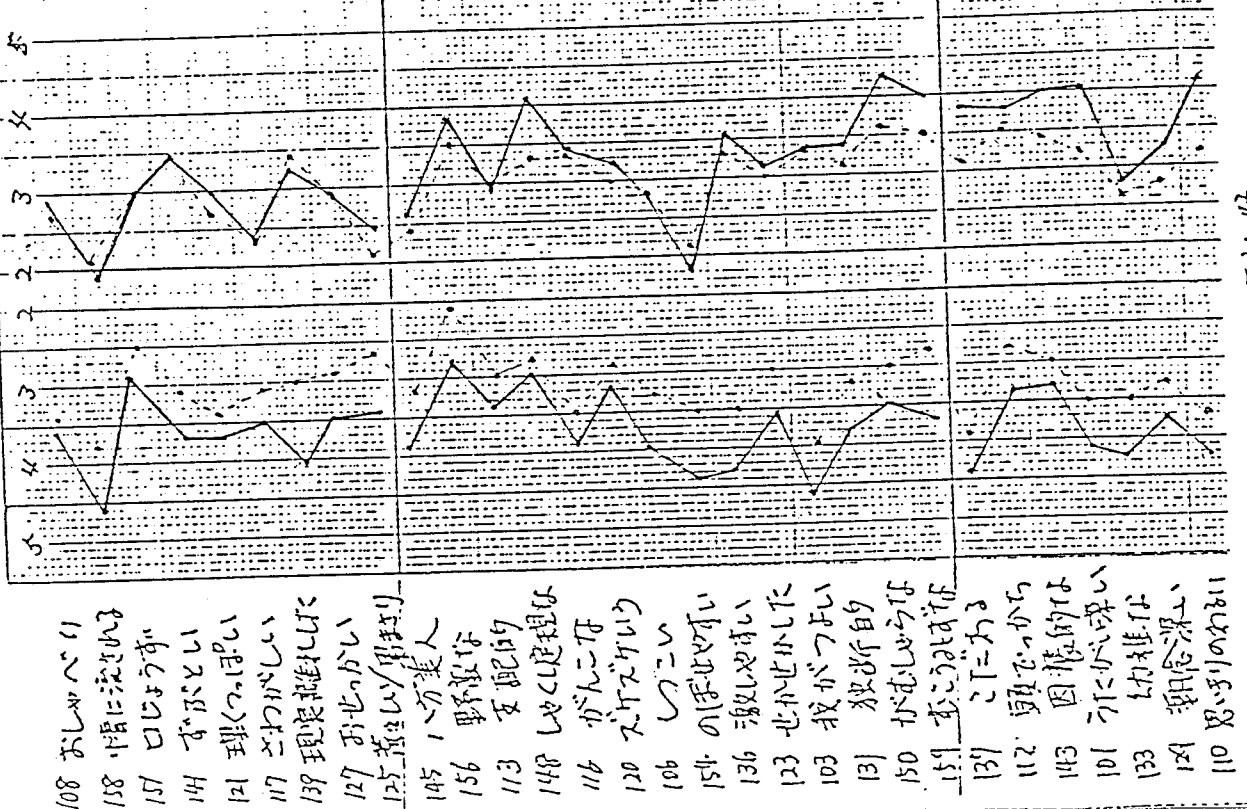
- 34 熱中する
- 36 情熱的
- 39 ロマンチック
- 33 茶めりのあ
- 37 氣をき
- 16 一本
- 43 古風な



P 因子相

- 實際的
- 直観的
- おおやうな
- あぶらに
- あきらめ
- 気さくな
- のんき
- おっとり
- のんびり
- おっとり
- 協調的
- 能
- 女性的
- えれとない
- おとなし
- テリテリ
- 知
- 心の静か
- 口説く
- アハハ
- テリテリ
- 人に干渉
- クール
- 淡々と
- 冷静な
- 現代的な
- 大人っぽい
- 臨機応変
- 屈強
- 現代的

NEGATIVE [太、不、不、不]



第2章

(5) TSPS の諸特性について

付表 5-1	63
付図 5-1	64
付表 5-2	65
付表 5-3	67
付図 5-2	69
付表 5-4	70
付表 5-5	71
付表 5-6	72
付表 5-7	73
付表 5-8	74
付表 5-9	75
付図 5-3	76
付表 5-10	77
付表 5-11	78

付表5-1 項目別平均得点 及び 標準偏差

	平均	SD		平均	SD
1 用心深い	4.13	1.18	101 うにかい深い	3.54	1.31
2 のん気な	3.98	1.33	102 めげた	3.21	1.45
3 気が強い	3.44	1.50	103 我がつよい	3.99	1.39
4 おとなしい	3.31	1.55	104 気の弱い	3.32	1.50
5 あきらめのよい	3.10	1.46	105 粘りのない	2.77	1.44
6 ねばり強い	3.69	1.33	106 しつこい	3.27	1.47
7 口数少ない	2.76	1.70	107 むつりした	2.67	1.54
8 話し好きな	3.77	1.44	108 おしゃべり	3.37	1.51
9 気軽な	3.63	1.31	109 軽率な	3.18	1.41
10 慎重な	3.95	1.11	110 思いりの悪い	3.73	1.36
11 果敢的	3.74	1.15	111 果敢的	3.45	1.13
12 理論的	3.46	1.35	112 頭でっかち	2.80	1.27
13 指導的	3.00	1.47	113 支配的	2.95	1.42
14 従順	3.11	1.49	114 追従的	2.98	1.36
15 融通がきく	3.47	1.39	115 迎合的な	3.28	1.17
16 一本気	2.99	1.40	116 がんこな	3.46	1.35
17 陽気な	4.11	1.26	117 さわがしい	3.05	1.59
18 ものずか	3.03	1.49	118 陰気な	2.33	1.57
19 それとなくいう	3.55	1.32	119 むてまわていう	3.04	1.40
20 真刀直入	3.10	1.41	120 ズケズケいう	2.87	1.55
21 分析的	3.40	1.29	121 理くつっぽい	3.36	1.47
22 直観的	3.84	1.09	122 非論理的	2.74	1.31
23 てきぱきした	3.12	1.38	123 せかせかした	3.01	1.42
24 おっとりした	3.38	1.48	124 ぐずぐずした	3.02	1.47
25 男性的	3.41	1.40	125 荒々しい男ざり	2.69	1.53
26 女性的	3.09	1.36	126 なやなとした	2.14	1.43
27 世話好き	3.33	1.51	127 おせっかい	2.92	1.52
28 人に干渉しない	3.35	1.46	128 やっけない	2.92	1.34
29 しぶとい	3.30	1.23	129 執念深い	3.29	1.40
30 あっさりした	3.52	1.23	130 なげやりな	2.82	1.39
31 自主的	3.54	1.33	131 独断的	3.16	1.35
32 協調的	3.85	1.20	132 付和雷同	3.08	1.30
33 茶めつけのある	3.76	1.33	133 幼稚な	3.53	1.39
34 大人っぽい	2.78	1.41	134 ひねた	2.63	1.46
35 冷静な	3.49	1.20	135 さめた	3.26	1.44
36 情熱的	3.62	1.30	136 激しやすい	3.46	1.36
37 執着する	3.73	1.24	137 こたわる	3.91	1.26
38 臨機応変の	3.40	1.21	138 場あてり的	3.08	1.32
39 ロマンチックな	4.05	1.37	139 現実離れした	3.04	1.50
40 現実的な	3.66	1.22	140 卑劣的	3.35	1.19
41 太腹な	2.62	1.34	141 すぶとい	3.10	1.50
42 デリケートな	3.99	1.16	142 線の細い	3.37	1.46
43 古風な	3.43	1.37	143 因襲的な	2.97	1.41
44 現代的な	3.52	1.10	144 新しがりやの	3.38	1.33
45 社交的	3.30	1.53	145 八方美人	3.19	1.55
46 孤独を好む	3.37	1.61	146 ぐさみ悪い	2.44	1.56
47 おおやかな	3.53	1.14	147 ルーズな	3.30	1.55
48 厳格な	2.88	1.23	148 しゃくし定規な	2.76	1.42
49 のんびりした	3.87	1.34	149 怠慢な	3.57	1.40
50 エネルギーな	3.19	1.31	150 がむしゃらな	2.98	1.31
51 話しじょうず	2.62	1.50	151 ロジじょうず	2.50	1.53
52 聞きじょうず	3.58	1.23	152 聞けばかりの	2.99	1.51
53 淡々とした	3.08	1.17	153 無感動な	2.10	1.50
54 熱中する	4.07	1.11	154 のぼせやすい	3.51	1.51
55 おっとりした	3.47	1.47	155 温室育ち	3.46	1.54
56 勇猛な	2.66	1.26	156 野蛮な	2.13	1.46
57 クールな	3.11	1.32	157 情がうすい	2.09	1.38
58 人情に厚い	3.85	1.16	158 情に流される	3.75	1.37
59 大胆	3.14	1.32	159 むこうみずな	2.80	1.43
60 細心	3.46	1.29	160 小 心	3.50	1.37

POSITIVE		NEGATIVE												NEGATIVE	POSITIVE
				5	4	3	2	2	3	4	5				
I 内 省	理論的	頭でっかち										利己的	实际的		
	分析的	理くつぽい											非論理的	直観的	
	厳格な	しゃくし定規な											ルーズな	おおやかな	
	しぶとい	執念深い											なげやりな	あきらめのない	
	ねばり強い	しつこい											粘りのない	あきらめのよい	
II 活動	情熱な	思いきりのわるい										軽率な	気軽な		
	用心深い	うたがい深い											ぬけた	のんきな	
	てきぱちした	せかせかした											ぐずぐずに	おっとりした	
	エネルギーな	がむしゃらな											怠慢な	のんびりした	
	勇猛な	野蛮な											温厚な	おっとりした	
IV D型	自主的	独断的										付和雷同	協調的		
	指導的	支配的											盲従的	従順	
	男性的	荒っぽい/男ざり											なやなやした	女性的	
	単刀直入	ズケズケいう											もてあそばした	それとはく	
	気が強い	我がつよい											気の強い	おとなしい	
III 主導	太っ腹な	ずぼとい										線の細い	デリケートな		
	大胆	あこやうな											小さい	細心	
	陽気な	さわがしい											陰気な	その競争が	
	話し持た	おしゃべり											おつぱした	口数少ない	
	話しじょうず	ロジょうず											聞いてばかり	聞きじょうず	
V 情緒不安	社交的	八方美人										人づきあいの悪し	孤独を好む		
	世話好き	おせっかい											そっけない	人に干渉しない	
	人情に厚い	情に流される											情がうすい	クールな	
	熱中する	のほせやすい											無感動な	淡々とした	
	情熱的	激しやすい											さめた	冷静な	
	ロマンチックな	現実離れした										利己的	現実的な		
	茶めつりのある	幼稚な											ひねた	大人っぽい	
	執着する	こだわる											場あてに的的	臨機応変的	
	一本気	がんこな											迎合的	融通がきく	
	古風な	因循的な											新しかりやの	現代的な	

→ POSITIVE x---x NEGATIVE.

付図 5-1

項目別平均得点 (POSITIVE, NEGATIVE)

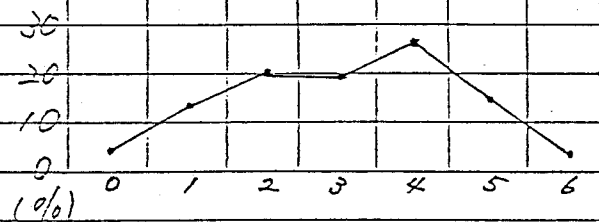
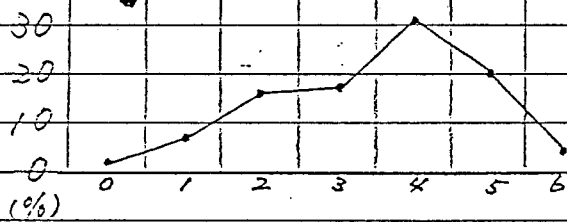
項目別 反応分布 (1)

単位は % 小数点以下四捨五入

no		0	1	2	3	4	5	6	no		0	1	2	3	4	5	6
1	用心深い	0	4	9	8	32	44	4	101	うたがわしい	1	8	14	15	37	23	2
2	のんきな	1	5	12	7	33	37	6	102	ぬけた	3	11	19	17	32	15	3
3	気が強い	2	9	19	14	27	23	6	103	我が強い	1	5	12	9	32	31	10
4	おとなしい	3	12	19	15	24	24	4	104	気の弱い	3	13	16	13	33	19	4
5	気さくな	3	11	29	13	24	19	2	105	莊い	4	15	32	14	22	12	2
6	おぼろげ	1	7	15	14	34	25	5	106	しつこい	4	9	20	18	29	16	5
7	口ずかぬ	9	20	17	15	20	15	4	107	おつり	8	18	21	19	22	10	2
8	話が好き	1	6	14	20	23	27	10	108	おしゃべり	3	10	17	18	26	19	6
9	気持よく	1	5	18	17	29	27	3	109	緊張する	3	11	19	19	31	14	3
10	慎重な	1	2	10	13	41	30	3	110	思慮深い	2	6	13	12	37	24	6
11	実証的	0	4	12	19	38	26	2	111	実利的	0	6	12	32	34	14	2
12	理論的	2	7	15	20	33	21	3	112	頭ごかし	4	14	21	35	19	8	1
13	指導的	5	14	17	20	29	13	2	113	支配的	4	15	21	19	27	12	2
14	従順	3	13	22	16	27	17	3	114	追従的	4	12	18	25	29	11	1
15	融通性	2	7	20	15	31	23	3	115	迎合的	2	5	17	32	31	12	1
16	一本気	3	13	24	21	24	13	2	116	かんこな	1	7	19	18	34	18	5
17	陽気な	0	3	10	16	28	33	11	117	さわがしい	5	14	21	16	23	15	5
18	もの静か	5	15	18	16	30	15	2	118	陰気な	14	22	21	14	21	6	2
19	社宅的	1	7	14	21	31	23	3	119	むねがよい	4	11	21	22	28	12	2
20	導入	3	11	21	23	25	14	3	120	ズスス	7	14	22	17	25	12	3
21	分析的	1	7	18	19	35	18	2	121	理論的	2	11	19	13	31	19	4
22	直観的	0	1	12	18	41	22	5	122	非論理的	3	14	29	26	19	8	2
23	対峙的	3	8	28	18	25	17	2	123	世間味	3	13	24	18	28	12	2
24	おとり	3	9	19	14	29	23	4	124	おどろ	5	13	21	16	31	13	2
25	男性的	3	9	12	23	32	18	4	125	おどろ	8	17	23	18	22	11	2
26	女性的	5	11	14	26	32	12	1	126	おどろ	12	26	24	17	16	4	1
27	世話好き	5	9	15	19	28	19	5	127	おどろ	6	15	19	19	26	12	3
28	人に好まれる	2	8	21	20	25	18	6	128	おどろ	3	13	24	24	24	10	2
29	しぶとい	1	7	19	25	33	14	2	129	執念深い	3	10	16	21	31	17	3
30	あきらめ	1	5	18	21	33	19	3	130	おどろ	4	17	23	21	25	10	1
31	自立	1	7	18	15	33	23	3	131	独断的	1	12	22	18	31	15	2
32	協調的	1	3	13	12	38	30	3	132	付和	3	10	18	28	29	12	1
33	おどろ	1	5	14	17	33	25	6	133	幼稚な	2	9	12	14	45	19	4
34	大人っぽい	6	14	23	24	22	9	2	134	おどろ	7	17	25	21	20	8	2
35	冷静な	1	4	20	20	35	19	2	135	おどろ	3	11	16	19	31	17	3
36	情熱的	1	6	16	16	37	19	6	136	激しい	1	8	18	18	32	19	4
37	執着	1	5	13	15	45	22	5	137	おどろ	1	4	11	10	39	30	5
38	広範囲	1	5	19	24	33	15	3	138	場地的	2	9	24	25	26	11	3
39	口ずかぬ	2	4	9	14	33	26	14	139	現実的	3	14	25	17	24	13	5

付表5-2 度数
項目別反応分布 (2)

No.		0	1	2	3	4	5	6	No.		0	1	2	3	4	5	6
40	現実的な	1	4	13	19	39	20	4	140	楽天的	1	6	16	27	36	12	3
41	太い腰な	4	17	30	19	22	7	1	141	ずぶとい	3	15	19	17	26	17	3
42	デレ-Hな	1	3	8	12	42	29	5	142	線が細い	2	13	14	18	29	22	3
43	古風な	2	9	14	18	35	20	3	143	因襲的な	4	15	15	27	25	13	1
44	現代的な	1	3	13	29	37	15	2	144	新し気な	2	8	17	21	32	18	3
45	社交的	3	10	22	16	25	20	5	145	八方美人	6	13	13	18	30	17	4
46	邪智強硬	6	11	14	13	33	18	7	146	くさくさい	9	25	22	14	20	10	1
47	おおらかな	1	4	12	30	34	17	2	147	ルーズな	4	13	17	12	30	20	4
48	厳格な	3	12	23	28	28	6	1	148	よく足踏な	5	17	22	23	22	11	1
49	OK-ILIT	1	6	12	11	36	28	7	149	怠慢な	2	7	16	15	33	22	5
50	エリートな	2	8	22	23	30	13	2	150	かたがたな	2	11	26	22	27	11	1
51	話しはう	6	19	28	16	19	10	3	151	口はう	8	23	22	18	18	9	2
52	聞きはう	0	7	14	20	35	21	2	152	聞かぬ	3	14	26	15	23	15	3
53	淡々とした	1	7	25	27	30	9	1	153	無愛想な	13	27	27	12	14	6	2
54	熱中する	0	1	8	14	40	29	7	154	のたが	2	10	15	15	29	22	7
55	おとし	3	8	17	15	31	21	5	155	温室育ち	3	10	15	18	25	23	6
56	勇猛な	5	13	28	26	23	5	0	156	野蛮な	12	29	22	17	15	5	1
57	7-Hな	3	9	22	24	29	12	2	157	情がこい	11	27	28	14	15	4	1
58	情に厚い	0	3	9	20	39	23	6	158	情に淡い	1	5	15	17	30	25	8
59	大胆	2	10	22	22	30	13	2	159	おこづな	4	16	27	18	22	12	2
60	細心	1	6	17	21	34	19	3	160	小心	2	8	15	18	35	18	5
TOTAL	%	2	8	17	18	31	20	4	TOTAL	%	4	13	20	19	27	15	3



項目別 男女差 (1)

no		男平均(SD)	女平均(SD)	t		no		男平均(SD)	女平均(SD)	t	
1	用心深い	4.2 (1.08)	4.0 (1.27)	2.40	*	101	うたが深	3.7 (1.24)	3.4 (1.37)	3.13	**
2	のんきな	3.8 (1.35)	4.2 (1.27)	-4.41	***	102	ぬけ手	2.9 (1.49)	3.5 (1.32)	-6.04	***
3	気が強い	3.1 (1.45)	3.8 (1.48)	-5.92	***	103	我が強い	4.0 (1.39)	4.0 (1.39)	-0.42	
4	おとなしい	3.6 (1.49)	3.0 (1.55)	5.59	***	104	気が弱い	3.5 (1.43)	3.1 (1.54)	3.74	***
5	動きが速い	3.0 (1.44)	3.2 (1.48)	-1.74		105	粘り強い	2.6 (1.43)	2.9 (1.44)	-2.77	* *
6	おどろきやすい	3.7 (1.30)	3.6 (1.37)	1.07		106	しつこい	3.5 (1.43)	3.0 (1.49)	4.11	***
7	口がよい	3.1 (1.67)	2.4 (1.67)	5.61	***	107	おつり手	3.0 (1.47)	2.3 (1.50)	7.01	***
8	話が好き	3.5 (1.43)	4.1 (1.39)	-5.55	***	108	おしゃべり	3.0 (1.51)	3.7 (1.43)	-6.41	***
9	気静か	3.4 (1.31)	3.8 (1.29)	-4.27	***	109	真面目	3.3 (1.41)	3.1 (1.42)	1.51	
10	慎重な	4.0 (1.05)	3.9 (1.18)	2.17	*	110	思ひ込み	3.9 (1.33)	3.6 (1.38)	2.98	* *
11	実地的	3.8 (1.16)	3.7 (1.14)	1.25		111	実利的	3.6 (1.19)	3.3 (1.05)	2.67	* *
12	理論的	3.7 (1.32)	3.2 (1.34)	4.54	***	112	頭が切り	2.8 (1.33)	2.8 (1.21)	0.74	
13	指導的	3.0 (1.47)	3.0 (1.47)	0.33		113	支配的	3.2 (1.38)	2.7 (1.44)	4.28	***
14	従順	3.0 (1.48)	3.2 (1.50)	-2.10	*	114	追従的	2.9 (1.42)	3.1 (1.28)	-2.40	*
15	積極的	3.4 (1.38)	3.5 (1.39)	-0.72		115	迎合的な	3.2 (1.26)	3.4 (1.06)	-1.84	
16	一本気	3.0 (1.42)	3.0 (1.37)	0.33		116	がむしゃら	3.4 (1.38)	3.5 (1.32)	-0.64	
17	陽気な	3.8 (1.25)	4.4 (1.20)	-6.33	***	117	さわやかな	2.9 (1.57)	3.2 (1.60)	-2.78	* *
18	もの静か	3.4 (1.37)	2.6 (1.52)	7.19	***	118	陰気な	2.6 (1.56)	2.0 (1.50)	5.78	***
19	社交的	3.6 (1.33)	3.5 (1.32)	0.45		119	社交的	3.2 (1.39)	2.9 (1.40)	2.46	*
20	寡言直入	3.0 (1.38)	3.2 (1.43)	-1.10		120	社交的	2.9 (1.48)	2.9 (1.63)	0.26	
21	分析的	3.6 (1.23)	3.1 (1.31)	5.14	***	121	理論的	3.6 (1.46)	3.1 (1.44)	5.06	***
22	直観的	3.9 (1.15)	3.8 (1.02)	0.22		122	非論理的	2.5 (1.37)	3.0 (1.21)	-4.34	***
23	衝動的	3.1 (1.36)	3.1 (1.40)	-0.09		123	世俗的	3.1 (1.40)	2.9 (1.42)	1.85	
24	おどろきやすい	3.3 (1.45)	3.5 (1.52)	-2.16	*	124	不屈的	2.9 (1.43)	3.1 (1.51)	-1.55	
25	男性的	3.7 (1.11)	3.1 (1.58)	6.60	***	125	断然	2.6 (1.38)	2.8 (1.66)	-2.15	*
26	女性的	2.6 (1.39)	3.6 (1.16)	-9.74	***	126	断然	2.5 (1.42)	1.8 (1.35)	6.76	***
27	世話好き	3.2 (1.53)	3.4 (1.49)	-1.73		127	世話好き	2.8 (1.52)	3.0 (1.53)	-1.56	
28	人付き合い	3.4 (1.45)	3.3 (1.48)	0.82		128	人付き合い	3.0 (1.33)	2.8 (1.35)	1.87	
29	いじわる	3.4 (1.15)	3.2 (1.31)	2.59	**	129	食欲強い	3.5 (1.36)	3.1 (1.42)	3.39	***
30	あきらめ	3.2 (1.20)	3.8 (1.19)	-6.31	***	130	断然	2.7 (1.38)	2.9 (1.41)	-1.66	
31	自立的	3.7 (1.26)	3.4 (1.39)	3.12	**	131	独断的	3.4 (1.35)	2.9 (1.33)	4.21	***
32	協調的	3.7 (1.30)	4.0 (1.07)	-3.50	***	132	仲間意識	2.9 (1.40)	3.2 (1.16)	-2.96	**
33	社交的	3.6 (1.41)	4.0 (1.20)	-4.34	***	133	幼稚な	3.4 (1.36)	3.6 (1.42)	-2.15	*
34	大人っぽい	2.9 (1.33)	2.6 (1.49)	2.43	*	134	大人っぽい	2.7 (1.44)	2.5 (1.49)	1.93	
35	冷静な	3.6 (1.20)	3.4 (1.20)	2.15	*	135	忍耐	3.2 (1.46)	3.3 (1.42)	-0.36	
36	情熱的	3.5 (1.30)	3.8 (1.27)	-2.95	**	136	激やかい	3.4 (1.35)	3.5 (1.36)	-1.33	
37	親善的	3.9 (1.18)	3.6 (1.29)	3.48	***	137	こだわり	4.1 (1.11)	3.7 (1.37)	4.59	***
38	広量な	3.4 (1.24)	3.4 (1.18)	-0.62		138	場知りの	3.0 (1.38)	3.2 (1.25)	-2.29	*
39	口がよい	3.9 (1.41)	4.2 (1.31)	-2.97	**	139	現実的	3.1 (1.46)	3.0 (1.54)	0.56	

付表5-3

(2)

No		男平均(SD)	女平均(SD)	t		No		男平均(SD)	女平均(SD)	t	
40	現実的	3.6 (1.24)	3.7 (1.20)	-1.63		140	実利的	3.4 (1.26)	3.3 (1.12)	0.43	
41	太腰	2.5 (1.28)	2.8 (1.39)	-2.74	**	141	ずい	2.9 (1.47)	3.3 (1.50)	-3.92	***
42	テート	4.1 (1.07)	3.9 (1.24)	2.79	**	142	線が細い	3.6 (1.35)	3.1 (1.53)	4.57	***
43	古風	3.4 (1.35)	3.4 (1.39)	0.05		143	因襲的	3.0 (1.45)	2.9 (1.36)	1.31	
44	現代的	3.5 (1.16)	3.5 (1.04)	-0.55		144	新しめ	3.5 (1.37)	3.3 (1.29)	1.80	
45	社交的	3.1 (1.49)	3.5 (1.54)	-3.68	***	145	1方美人	3.1 (1.59)	3.3 (1.51)	-1.68	
46	3人組	3.6 (1.57)	3.2 (1.63)	3.14	**	146	人づかいの悪い	2.7 (1.58)	2.2 (1.49)	3.98	***
47	おおや	3.5 (1.15)	3.6 (1.12)	-1.11		147	ルーズ	3.3 (1.53)	3.3 (1.58)	0.69	
48	厳格	3.0 (1.24)	2.7 (1.20)	3.02	**	148	よく見	2.8 (1.45)	2.7 (1.40)	0.32	
49	のんびり	3.7 (1.29)	4.0 (1.37)	-3.09	**	149	怠慢	3.5 (1.45)	3.7 (1.33)	-1.83	
50	エリート	3.1 (1.32)	3.3 (1.29)	-1.31		150	がたがた	3.0 (1.28)	3.0 (1.33)	0.48	
51	話し上手	2.5 (1.49)	2.8 (1.48)	-3.14	***	151	ロイヤル	2.5 (1.50)	2.5 (1.57)	-0.57	
52	開き	3.4 (1.30)	3.7 (1.12)	-3.45	***	152	閑い	3.1 (1.52)	2.9 (1.51)	1.32	
53	淡々	3.1 (1.17)	3.0 (1.18)	1.16		153	無感動	2.3 (1.49)	1.9 (1.48)	3.29	***
54	熱中	4.1 (1.15)	4.0 (1.05)	0.77		154	のびやか	3.4 (1.50)	3.6 (1.52)	-1.69	
55	おとな	3.4 (1.35)	3.6 (1.58)	-1.63		155	温厚	3.4 (1.50)	3.6 (1.58)	-1.59	
56	豪邁	2.7 (1.24)	2.6 (1.28)	0.92		156	野蠻	2.3 (1.47)	1.9 (1.42)	3.33	***
57	7-11	3.1 (1.30)	3.1 (1.34)	-0.25		157	情が深い	2.1 (1.35)	2.0 (1.41)	1.17	
58	人情に厚い	3.8 (1.18)	3.9 (1.14)	-0.60		158	情に厚い	3.7 (1.33)	3.8 (1.40)	-1.79	
59	大胆	3.0 (1.29)	3.3 (1.34)	-3.03	**	159	おとな	2.6 (1.40)	3.0 (1.45)	-3.31	***
60	細心	3.7 (1.18)	3.1 (1.33)	6.49	***	160	小心	3.6 (1.35)	3.3 (1.38)	2.98	***

N=374 (男), 339 (女)

* $P < .05$ ** $P < .01$ *** $P < .001$

・セ検定による。TにL. F検定で分散に有意差のあるものについてはコクランCックスの法による。
有意差検定は two-sided.

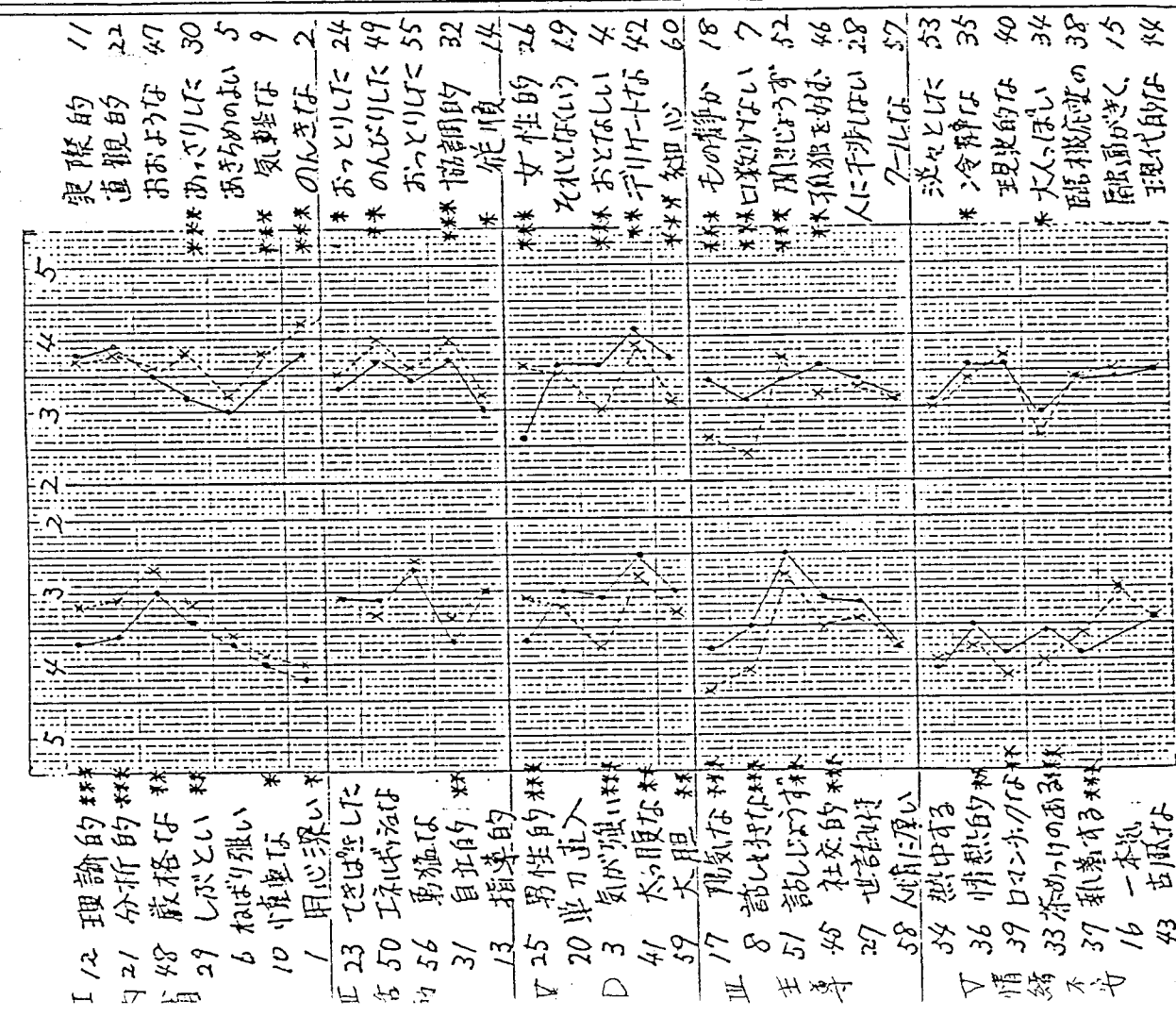
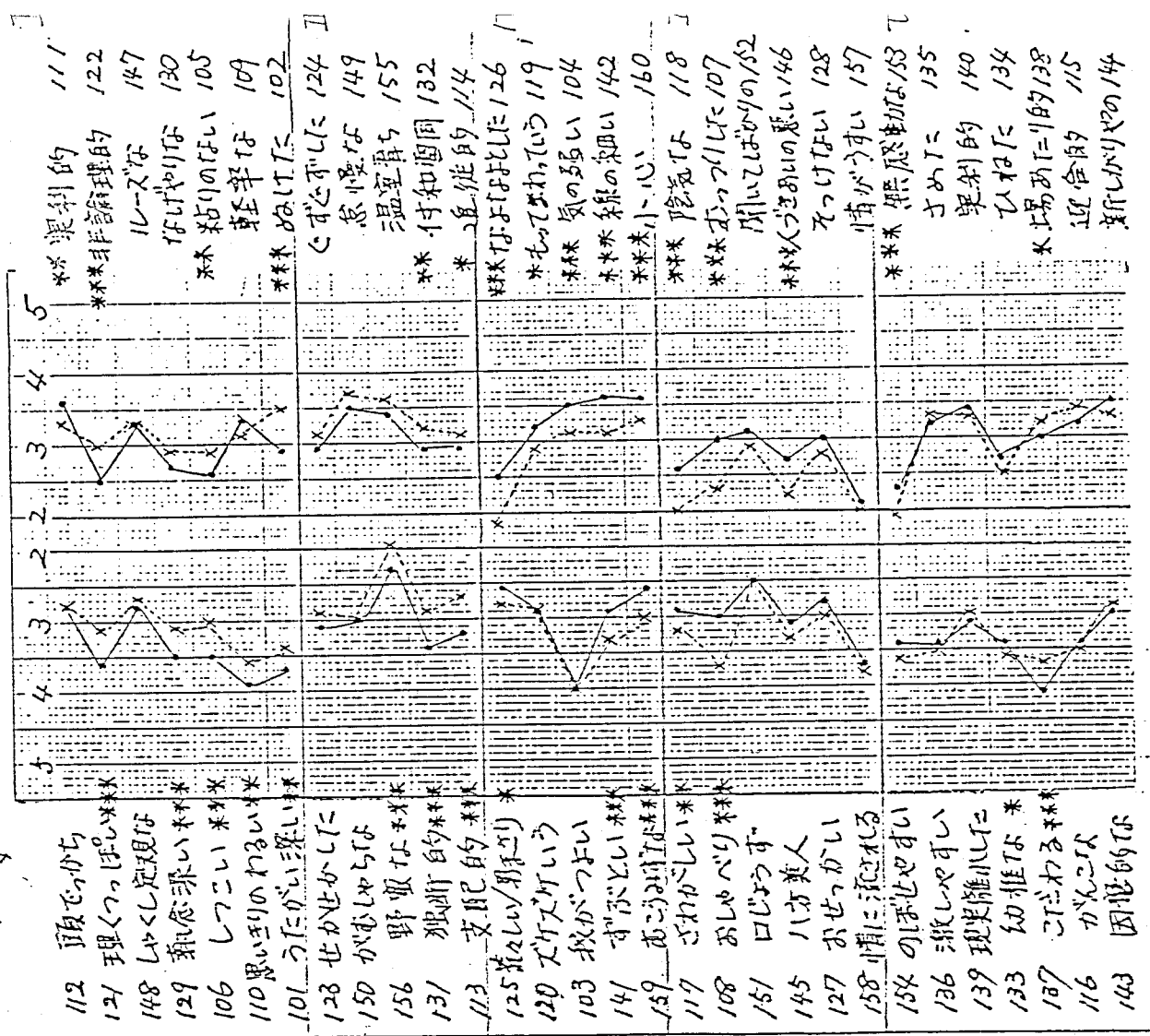
・t値について 正のもの 男>女 負のもの 女>男 をしめす。

NEGATIVE

男女差 ●—● 男
x---x 女

項目別

POSITIVE



付表 5-4
FACTOR MATRIX USING PRINCIPAL FACTOR

	FACTOR 1	FACTOR 2	FACTOR 3	FACTOR 4	FACTOR 5	ESTIMATE COMMUNALITY
1 用心深い	-0.1952	0.4205	0.1056	0.1100	0.1742	0.4248
2 のん気な	-0.0055	-0.3869	0.4958	0.1361	-0.2871	0.5475
3 気が強い	0.4656	0.2299	0.0913	-0.1245	-0.2264	0.3966
4 おとなしい	-0.6084	0.1308	0.3585	0.0942	0.0968	0.6035
5 あきらめのよい	0.1169	-0.2294	0.2905	-0.3022	-0.0228	0.3411
6 ねばり強い	0.1279	0.4287	0.1394	0.0589	-0.0228	0.3750
7 口数少ない	-0.5626	0.2475	0.3272	-0.1668	-0.0261	0.6640
8 話し好きな	0.5938	-0.1309	-0.1045	0.2546	-0.0247	0.5276
9 気軽な	0.5003	-0.3640	0.2150	-0.0204	-0.1390	0.4825
10 慎重な	-0.1528	0.4904	0.1583	0.1494	0.1971	0.4461
11 実際的	0.3326	0.0833	0.1647	-0.1675	0.1900	0.3724
12 理論的	0.0400	0.4189	0.1183	0.0117	-0.0173	0.4003
13 指導的	0.6731	0.2046	-0.0110	-0.0172	0.1395	0.5774
14 従順	-0.3129	-0.1474	0.2821	0.1748	0.1925	0.3928
15 融通がきく	0.3532	-0.1939	0.2560	-0.1635	0.2848	0.4502
16 一本気	-0.0145	0.3741	-0.0068	0.2245	-0.4050	0.4282
17 陽気な	0.6144	-0.3079	0.0835	0.1613	0.1085	0.5769
18 もの静か	-0.4660	0.3838	0.4637	0.0473	-0.0192	0.6070
19 それとなくいう	-0.0068	0.0187	0.1944	0.2178	0.2426	0.3099
20 直刀直入	0.2123	0.1124	0.0070	-0.1591	-0.3109	0.3387
21 分析的	0.0616	0.4500	0.1324	0.0476	0.0878	0.4417
22 直観的	0.1955	-0.0052	0.1264	0.0048	-0.2064	0.2572
23 てきぱきした	0.5830	0.2852	-0.0680	-0.0904	0.1778	0.5305
24 おっとりした	-0.3678	-0.3251	0.5306	0.2351	-0.1744	0.6811
25 男性的	0.4325	0.2640	0.0342	-0.2422	-0.1829	0.4613
26 女性的	-0.0853	-0.1423	0.1786	0.3719	0.0813	0.3712
27 世話好き	0.4365	0.0097	0.0553	0.3154	0.2059	0.4669
28 人に干渉しない	-0.2285	0.1191	0.2751	-0.2655	-0.1608	0.3856
29 しぶとい	0.1536	0.4286	0.1002	0.1009	-0.1277	0.4132
30 あざりれた	0.3238	-0.1921	0.3654	-0.2460	-0.0004	0.4599
31 自立的	0.4098	0.4129	0.0958	-0.1991	-0.1089	0.4236
32 協調的	0.2268	-0.1707	0.2482	0.1891	0.3449	0.3644
33 茶めつけのある	0.5415	-0.2041	0.0669	0.2287	-0.0269	0.4357
34 大人っぽい	0.1459	0.3297	0.2187	-0.0980	0.1996	0.3001
35 冷静な	-0.0529	0.2898	0.4551	-0.2605	0.3516	0.4097
36 情熱的	0.4762	0.0901	0.0396	0.3901	-0.2256	0.5088
37 執着する	0.0249	0.4086	0.0402	0.3053	-0.1748	0.3914
38 臨機応変の	0.4874	-0.1013	0.2907	-0.1164	0.1774	0.4373
39 ロマンチックな	0.2166	0.0573	0.1362	0.4277	-0.1453	0.4199
40 現実的な	0.1841	0.1334	0.1513	-0.1896	0.2435	0.3303
41 太腹な	0.4782	-0.0937	0.2820	-0.3275	-0.2011	0.5429
42 プリケートな	-0.0851	0.3229	0.0490	0.3963	-0.1317	0.4381
43 古風な	0.0496	0.1447	0.2271	0.2798	-0.0702	0.3129
44 現代的な	0.3663	0.0614	0.0590	-0.1278	0.1445	0.3208
45 社交的	0.7474	-0.2151	0.0165	0.1391	0.2194	0.6661
46 孤独を好む	-0.2420	0.3241	0.2406	-0.0506	-0.2121	0.3705
47 おおやかな	0.2933	-0.1924	0.3449	-0.0064	-0.0140	0.3470
48 厳格な	0.0483	0.4585	-0.0089	0.0788	-0.0431	0.3366
49 のんびりした	-0.1438	-0.3414	0.6065	0.1799	-0.1766	0.5994
50 エネルギーな	0.6211	0.2728	0.0217	0.0603	-0.0595	0.5158
51 話しじょうず	0.6394	-0.0347	-0.0048	0.1156	0.0875	0.5458
52 聞きじょうず	0.2024	-0.0347	0.3246	0.0943	0.2413	0.3047
53 淡々とした	0.0087	0.1055	0.3900	-0.3253	0.0520	0.3123
54 熱中する	0.2300	0.2935	0.0279	0.2959	-0.2552	0.3603
55 おっとりした	-0.3182	-0.3113	0.5564	0.2343	-0.1676	0.6748
56 勇猛な	0.5474	0.3183	0.0120	-0.0853	-0.1641	0.5077
57 クールな	-0.0497	0.2187	0.3724	-0.4024	0.0275	0.4085
58 人情に厚い	0.3347	0.0957	0.1236	0.4352	0.0630	0.4397
59 大胆	0.5368	0.0200	0.1904	-0.1769	-0.3147	0.4832
60 細心	-0.2453	0.3149	0.0290	0.2901	0.2814	0.4064

付表5-5

	FACTOR 1	FACTOR 2	FACTOR 3	FACTOR 4	FACTOR 5	ESTIMATE COMMUNALITY
101 うにかい深い	0.4308	-0.1492	-0.2581	-0.0707	0.1889	0.3796
102 めけた	0.3773	-0.0269	0.4798	0.0583	-0.1484	0.4535
103 我がうまい	0.3674	0.3166	-0.2763	0.1312	-0.1307	0.4069
104 気の弱い	0.3227	-0.5108	0.1420	-0.2766	0.0489	0.4985
105 粘りのない	0.2178	-0.0731	0.4004	0.1093	0.0697	0.3977
106 しつこい	0.4999	0.1133	-0.3144	-0.2173	-0.0280	0.5356
107 むっつりした	0.3717	-0.5143	-0.2204	0.2265	-0.1738	0.5594
108 おしゃべり	0.1463	0.6254	0.2039	-0.2692	0.2215	0.6292
109 軽率な	0.5251	0.1262	0.2739	0.0833	-0.0436	0.4565
110 思いぎりの悪い	0.3702	-0.3249	-0.0156	-0.2518	0.0962	0.3858
111 果利的	0.0964	0.0805	-0.0825	0.1844	0.4901	0.4751
112 頭でっかち	0.4225	-0.0504	-0.1142	-0.1011	-0.0227	0.3527
113 支配的	0.2402	0.5027	-0.3063	0.1032	0.0981	0.4800
114 追従的	0.1428	-0.3887	0.2514	-0.2337	0.2436	0.4186
115 迎合的な	0.0025	-0.0739	0.3454	-0.0549	0.3192	0.3639
116 かんこな	0.4046	0.1297	-0.2969	0.0012	-0.2230	0.4070
117 さわがしい	0.2460	0.6152	0.1544	-0.1299	0.1977	0.5979
118 陰気な	0.3890	-0.5461	-0.1804	0.1373	-0.1175	0.5288
119 むてまわていう	0.2897	-0.1319	-0.0927	-0.2883	0.0998	0.3455
120 スズケという	0.2587	0.3164	-0.0607	0.3693	0.0194	0.3944
121 理くつぽい	0.3567	0.0398	-0.4395	-0.0628	0.0527	0.4683
122 非論理的	0.1886	0.0044	0.4024	0.0659	-0.1248	0.4126
123 せかせかした	0.3376	0.2337	-0.1573	-0.0642	0.1548	0.3466
124 ぐずぐずした	0.3421	-0.3589	0.3053	-0.0644	-0.1039	0.4616
125 荒っぽい果利的	0.2431	0.4980	-0.0813	0.2792	-0.0574	0.5007
126 なよなよとほ	0.3111	-0.3849	0.0650	-0.2117	0.0824	0.3999
127 おせっかい	0.3129	0.2525	0.0426	-0.2949	0.1407	0.4370
128 やっけない	0.3011	-0.3134	-0.0768	0.4180	-0.0471	0.4353
129 執念深い	0.4976	0.0519	-0.3920	-0.1284	0.0333	0.5119
130 なげやりな	0.4776	-0.0225	0.2780	0.1736	0.0475	0.4472
131 独断的	0.4124	0.2862	-0.1984	0.2241	-0.1099	0.4455
132 付知雷同	0.1594	-0.2227	0.3477	-0.1669	0.1974	0.3251
133 幼稚な	0.4150	0.0568	0.3422	-0.1727	-0.0935	0.4120
134 ひねた	0.4605	0.0481	-0.1768	0.2804	0.1286	0.3968
135 さめた	0.3025	-0.2463	-0.0559	0.3919	0.2424	0.3979
136 激しやすい	0.3802	0.4013	0.0114	-0.1972	-0.2675	0.4777
137 こたわる	0.4727	-0.1389	-0.3073	-0.3050	-0.0223	0.4905
138 場当たり的	0.2688	0.1456	0.3166	0.2373	0.0712	0.3312
139 現実離れた	0.4498	0.1140	0.0733	0.0018	-0.3891	0.4187
140 実利的	0.0546	0.0090	-0.1470	0.1635	0.5615	0.4957
141 すばとい	0.1515	0.3007	0.1172	0.3369	0.0592	0.3722
142 線の細い	0.1940	-0.2691	-0.1422	-0.3223	-0.0110	0.3866
143 因襲的な	0.2965	-0.0530	-0.0809	-0.1615	0.1230	0.2441
144 新しがりやの	0.1920	0.2113	0.0360	0.0201	0.1284	0.2261
145 八方美人	0.1966	0.2778	0.1644	-0.1543	0.3272	0.3512
146 ぐさみの悪い	0.3447	-0.5055	-0.2649	0.2034	-0.1862	0.5381
147 ルーズな	0.3684	-0.0324	0.4448	0.2019	-0.0826	0.5156
148 しゃくし足模な	0.2094	-0.0811	-0.3016	-0.2180	0.1667	0.3478
149 怠慢な	0.4063	-0.0550	0.4237	0.1944	-0.0149	0.4956
150 がましゃらな	0.1972	0.3603	-0.1816	-0.0808	-0.1148	0.3701
151 ロジようす	0.0588	0.5800	-0.0126	-0.1022	0.2782	0.4882
152 聞いてばかりの	0.0593	-0.5569	0.0604	0.1461	0.0032	0.4229
153 無感動な	0.1516	-0.2818	-0.0377	0.3568	0.3401	0.3734
154 のぼせやすい	0.4077	0.2248	0.2113	-0.2235	-0.1876	0.4332
155 温室育ち	0.2534	-0.2112	0.1160	-0.1912	0.0476	0.3297
156 野蠻な	0.2949	0.3154	0.0160	0.2693	-0.0812	0.4417
157 情がうすい	0.2271	-0.2816	-0.0154	0.4090	0.2273	0.5091
158 情に流される	0.2246	0.1489	0.1583	-0.3825	-0.1178	0.4486
159 むこうみずな	0.3425	0.3517	0.1958	0.2217	-0.1540	0.4368
160 小 心	0.4384	-0.4261	0.0111	-0.2601	0.1147	0.5049

VARIMAX ROTATED FACTOR MATRIX (positive)

付表 5-6	FACTOR 1	FACTOR 2	FACTOR 3	FACTOR 4	FACTOR 5	COMMUNALITY
1 用心深い	0.4232	-0.0554	-0.1718	-0.2224	0.0860	0.2686
2 のん気な	-0.1541	0.6661	0.0469	0.1622	0.0236	0.4965
3 気が強い	0.1987	-0.0887	0.1857	0.4876	0.1585	0.3448
4 おとなしい	0.2117	0.3460	-0.4775	-0.3745	0.0366	0.5342
5 あきらめのよい	-0.2554	0.1812	-0.0581	0.2019	0.3167	0.2426
6 ねばり強い	0.4383	-0.0557	0.0082	-0.1136	0.1243	0.2236
7 口数少ない	0.2073	0.2096	-0.6454	-0.1545	0.0941	0.5363
8 話し好きな	-0.0143	-0.0389	0.6374	0.1943	-0.0192	0.4462
9 気軽な	-0.2561	0.2433	0.4110	0.3490	0.1822	0.4488
10 慎重な	0.5128	-0.0424	-0.1363	-0.2223	0.1314	0.3501
11 実際的	0.0405	-0.0896	0.1629	0.1178	0.3985	0.2089
12 理論的	0.4023	-0.0706	-0.0795	0.0811	0.1084	0.1915
13 指導的	0.1823	-0.2644	0.4915	0.2640	0.3167	0.5148
14 従順	-0.0136	0.3415	-0.1115	-0.3634	0.0742	0.2669
15 融通がきく	-0.1856	0.0574	0.2533	0.0360	0.4822	0.3358
16 一本気	0.4442	0.0510	-0.0306	0.2562	-0.2969	0.3547
17 陽気な	-0.1727	0.0948	0.6468	0.1419	0.1993	0.5172
18 ものずか	0.4499	0.3173	-0.4868	-0.1614	0.1263	0.5822
19 それとなくいう	0.1365	-0.1529	0.1297	-0.2540	0.1453	0.1445
20 単刀直入	-0.0592	-0.0471	-0.0070	0.4168	-0.0147	0.1798
21 分析的	0.4422	-0.0936	-0.0328	0.0033	0.1686	0.2338
22 直観的	0.0442	0.1239	0.1015	0.2625	0.0181	0.0969
23 てきぱきした	0.2050	-0.3609	0.3770	0.2223	0.3190	0.4657
24 おっとりした	-0.0684	0.7420	-0.1781	-0.1368	-0.0504	0.6083
25 男性的	0.1635	-0.1966	0.1034	0.4843	0.1985	0.2501
26 女性的	0.0620	0.3244	0.1622	-0.2533	-0.0694	0.2044
27 世話好き	0.1526	0.0132	0.5385	-0.0543	0.1381	0.3355
28 人に干渉しない	0.0602	0.1546	-0.4127	0.1485	0.1363	0.2385
29 しぶとい	0.4534	-0.0436	0.0360	0.1845	0.0306	0.2438
30 あざりした	-0.1774	0.1989	0.1188	0.2780	0.4164	0.3359
31 自立的	0.3213	-0.2087	0.0801	0.4204	0.2631	0.3992
32 協調的	-0.0285	0.1820	0.3528	-0.2144	0.3042	0.2969
33 茶めかけのある	-0.0517	0.1213	0.5789	0.1878	0.0682	0.3924
34 大人っぽい	0.2920	-0.0851	-0.0073	0.0172	0.3667	0.2274
35 冷静な	0.2288	0.0425	-0.2405	-0.1144	0.6003	0.4855
36 情熱的	0.2771	0.1181	0.5120	0.2649	-0.1282	0.4396
37 執着する	0.5055	0.0340	0.0501	0.0641	-0.1721	0.2930
38 臨機応変の	-0.0665	0.0717	0.3366	0.1778	0.4721	0.3774
39 ロマンチックな	0.2733	0.2446	0.3420	0.0631	-0.1312	0.2728
40 現実的な	0.0648	-0.1151	0.0356	0.0152	0.3885	0.1698
41 太っ腹な	-0.1273	0.0960	0.1439	0.5420	0.3534	0.4648
42 デリケートな	0.4486	0.0388	0.0904	-0.2657	-0.0823	0.2884
43 古風な	0.3003	0.2340	0.1148	-0.0009	-0.0101	0.1582
44 現代的な	0.0240	-0.1169	0.2164	0.1438	0.3182	0.1831
45 社交的	-0.1180	-0.0584	0.7448	0.1389	0.2849	0.6727
46 孤独を好む	0.3239	0.1474	-0.3609	0.1103	0.0004	0.2691
47 おおらかな	-0.0834	0.2836	0.2248	0.1736	0.2722	0.2422
48 厳格な	0.4376	-0.1517	-0.0355	0.0701	-0.0060	0.2207
49 のんびりけた	-0.0813	0.7433	-0.0401	0.0060	0.0894	0.5687
50 エネルギーな	0.2919	-0.1678	0.4359	0.3648	0.1771	0.4679
51 話しじやうず	0.0303	-0.0946	0.5836	0.2084	0.1929	0.4311
52 聞きじやうず	0.0740	0.1869	0.2217	-0.0904	0.3413	0.2147
53 淡々とした	0.0445	0.1167	-0.2320	0.1429	0.4265	0.2719
54 熱中する	0.4085	0.0503	0.2179	0.2197	-0.1654	0.2926
55 おっとりした	-0.0496	0.7445	-0.1452	-0.1128	-0.0138	0.5908
56 勇猛な	0.2734	-0.2028	0.2707	0.4584	0.1634	0.4353
57 クールな	0.1077	0.0486	-0.3484	0.1726	0.4319	0.3518
58 人情に厚い	0.2967	0.1388	0.4690	-0.0329	0.0164	0.3299
59 大胆	0.0225	0.0611	0.2338	0.5988	0.1941	0.4552
60 細心	0.3795	-0.0269	-0.0588	-0.4185	-0.0115	0.3235

固有値

8.0662

4.3006

3.6145

2.8573

2.0508

寄与率

38.6%

20.6%

17.3%

13.7%

9.8%

VARIMAX ROTATED FACTOR MATRIX (Negative)

73

	FACTOR 1	FACTOR 2	FACTOR 3	FACTOR 4	FACTOR 5	COMMUNALITY
101 うたが深い	0.4770	0.1880	-0.0480	-0.0042	0.2235	0.3152
102 めけた	0.0635	0.0144	-0.0142	0.6212	-0.0918	0.3988
103 秘がっよい	0.0851	0.5795	0.0495	0.0193	0.0056	0.3460
104 気の弱い	0.5359	0.2852	-0.2003	0.2354	-0.0141	0.4643
105 粘りのない	0.0108	-0.1030	0.0164	0.4557	0.1061	0.2300
106 しつこい	0.4802	0.4086	0.0937	-0.0221	-0.0528	0.4096
107 むっつりした	0.3299	0.1489	0.6089	0.1099	0.1376	0.5328
108 おしゃべり	-0.0036	0.1607	0.7242	0.1442	-0.0677	0.5757
109 軽率な	0.1580	0.2511	0.0906	0.5276	0.0290	0.3755
110 思いきりの悪い	0.5305	-0.0291	-0.0874	0.1316	0.0365	0.3157
111 果利的	0.0353	0.0505	0.1902	-0.0341	0.5055	0.2968
112 頭でっかち	0.3743	0.2205	-0.0309	0.1230	0.0040	0.2048
113 支配的	-0.0014	0.5512	0.3005	-0.1123	0.1330	0.4245
114 追従的	0.3558	0.4088	-0.0129	0.2067	0.1100	0.3487
115 迎合的な	0.0298	-0.3185	0.1956	0.2275	0.1932	0.2297
116 がんこな	0.2413	0.4964	-0.0708	0.0101	-0.1069	0.3211
117 さわがしい	-0.0084	0.2850	0.6326	0.1929	0.0111	0.5189
118 陰気な	0.4050	0.0746	-0.5577	0.1257	0.1354	0.5148
119 むてまわっている	0.4469	-0.0027	0.0554	0.0133	-0.0099	0.2030
120 ズケズケいう	0.1521	0.4546	0.0627	0.1648	0.2159	0.3075
121 理くつっぽい	0.3749	0.3825	-0.0160	-0.1751	0.1041	0.3286
122 非論理的	-0.0488	-0.0341	0.0012	0.4539	-0.0887	0.2174
123 せかせかした	0.2332	0.3110	0.2359	0.0223	0.1193	0.2215
124 ぐずぐずした	0.2947	-0.1545	-0.2196	0.4377	-0.0589	0.3540
125 荒っぽい男まじり	-0.1884	0.5473	0.1948	0.1259	0.0738	0.3950
126 なよなよとした	0.4686	-0.1738	-0.1375	0.1749	0.0385	0.3008
127 おせっかい	0.2506	0.1925	0.4615	0.1172	-0.0647	0.3308
128 そっけない	0.0812	0.1788	0.4549	0.2074	0.2885	0.3718
129 執念深い	0.4824	0.4233	0.0217	-0.0721	0.0635	0.4216
130 なげやりな	0.1481	0.1470	-0.0137	0.5165	0.1666	0.3383
131 独断的	0.0550	0.5743	0.0127	0.1247	0.0743	0.3541
132 付知留同	0.2296	0.3202	0.0779	0.3092	0.0761	0.2628
133 幼稚な	0.2363	0.0516	0.1448	0.4735	-0.1655	0.3311
134 ひねた	0.1827	0.4077	-0.0694	0.1563	0.3345	0.3408
135 さめた	0.1195	0.1112	-0.2531	0.1825	0.4936	0.2677
136 激しやすい	0.1508	0.4232	0.2542	0.1993	-0.3316	0.4162
137 こたわる	0.6103	0.2228	-0.0478	-0.0457	-0.0647	0.4307
138 場あつりの	-0.0930	0.1254	0.1022	0.4399	0.1636	0.2551
139 現実離れした	0.1512	0.3769	-0.0883	0.3510	-0.2757	0.3721
140 果利的	0.0785	-0.0072	0.1671	-0.1202	0.5640	0.3668
141 すばい	-0.2353	0.2816	0.1238	0.2363	0.1956	0.2442
142 線の細い	0.4509	-0.0817	-0.0922	-0.0696	-0.1042	0.2343
143 因襲的な	0.3481	0.0737	0.0707	0.0494	0.0667	0.1385
144 新しいものの	0.0436	0.1660	0.2128	0.1185	0.1045	0.0997
145 八方美人	0.1254	0.0248	0.4601	0.1598	0.1422	0.2738
146 ぐさみ悪い	0.3322	0.1570	-0.6076	0.0559	0.1156	0.5207
147 ルーズな	-0.0023	0.0525	-0.0580	0.6117	0.0440	0.3823
148 しゃくし定規な	0.4024	0.0875	0.0485	-0.1913	0.0902	0.2167
149 怠慢な	0.0530	0.0476	-0.0441	0.6063	0.1051	0.3857
150 がむしゃらな	0.0610	0.3926	0.2043	-0.0476	-0.1397	0.2214
151 ロジカル	-0.0717	0.2344	0.5977	-0.0461	0.0916	0.4279
152 聞かばかりの	0.1520	-0.2520	-0.4578	0.1239	0.1643	0.3386
153 無感動な	0.0703	-0.0362	-0.2124	0.0952	0.5351	0.3468
154 のぼせやすい	0.2137	0.2129	0.2174	0.3620	-0.2779	0.3466
155 温室育ち	0.3229	-0.1170	-0.0244	0.1889	-0.0174	0.1612
156 野蛮な	-0.1092	0.4320	0.0751	0.2366	0.0755	0.2659
157 情がうすい	0.0614	0.0435	-0.2842	0.1796	0.4810	0.3501
158 情に流される	0.2455	0.0275	0.2548	0.1777	-0.3168	0.2579
159 むこうみずな	-0.1259	0.3953	0.1269	0.4038	-0.0302	0.3523
160 小 心	0.6149	-0.1308	-0.1452	0.1885	0.0674	0.4564
固有値	6.2469	5.6440	3.2955	2.9169	2.0304	
寄与率	31.0(%)	28.0(%)	16.4(%)	14.5(%)	10.1(%)	

VARIMAX ROTATED FACTOR MATRIX (Negative)

73

	FACTOR 1	FACTOR 2	FACTOR 3	FACTOR 4	FACTOR 5	COMMUNALITY
101 うたが深い	0.4770	0.1880	-0.0480	-0.0042	0.2235	0.3152
102 めけた	0.0635	0.0144	-0.0142	0.6212	-0.0918	0.3488
103 我がうまい	0.0851	0.5795	0.0495	0.0193	0.0056	0.3460
104 気の強い	0.5359	0.2852	-0.2003	0.2354	-0.0141	0.4643
105 粘りのない	0.0108	-0.1030	0.0164	0.4557	0.1061	0.2300
106 しつこい	0.4802	0.4086	0.0937	-0.0221	-0.0528	0.4096
107 むっつりした	0.3299	0.1489	0.6089	0.1099	0.1376	0.5328
108 おしゃべり	-0.0036	0.1607	0.7242	0.1442	-0.0677	0.5757
109 軽率な	0.1580	0.2511	0.0906	0.5276	0.0290	0.3755
110 思ひきりの悪い	0.5305	-0.0291	-0.0874	0.1316	0.0365	0.3157
111 実利的	0.0353	0.0505	0.1902	-0.0341	0.5055	0.2968
112 頭でっかち	0.3743	0.2205	-0.0309	0.1230	0.0040	0.2048
113 支配的	-0.0014	0.5512	0.3005	-0.1123	0.1330	0.4245
114 追従的	0.3558	0.4088	-0.0129	0.2067	0.1100	0.3487
115 迎合的な	0.0298	-0.3185	0.1956	0.2275	0.1932	0.2297
116 がんこな	0.2413	0.4964	-0.0708	0.0101	-0.1069	0.3211
117 さわがしい	-0.0084	0.2850	0.6326	0.1929	0.0111	0.5189
118 陰気な	0.4050	0.0746	-0.5577	0.1257	0.1354	0.5148
119 もてまわしている	0.4469	-0.0027	0.0554	0.0133	-0.0099	0.2030
120 ズケズケしい	0.1521	0.4546	0.0627	0.1648	0.2159	0.3075
121 理くつぽい	0.3749	0.3825	-0.0160	-0.1751	0.1041	0.3286
122 非論理的	-0.0488	-0.0341	0.0012	0.4539	-0.0887	0.2174
123 せかせかした	0.2332	0.3110	0.2359	0.0223	0.1193	0.2215
124 ぐずぐずした	0.2947	-0.1545	-0.2196	0.4377	-0.0589	0.3540
125 荒い思ひ	-0.1884	0.5473	0.1948	0.1259	0.0788	0.3950
126 なやなとほ	0.4686	-0.1738	-0.1375	0.1749	0.0385	0.3008
127 おせっかい	0.2506	0.1925	0.4615	0.1172	-0.0647	0.3308
128 そっけない	0.0812	0.1788	-0.4549	0.2074	0.2885	0.3718
129 執念深い	0.4824	0.4233	0.0217	-0.0721	0.0635	0.4216
130 だらけりな	0.1481	0.1470	-0.0137	0.5165	0.1666	0.3383
131 独断的	0.0550	0.5743	0.0127	0.1247	0.0743	0.3541
132 付知留同	0.2296	0.3202	0.0779	0.3092	0.0761	0.2628
133 幼稚な	0.2363	0.0516	0.1448	0.4735	-0.1655	0.3311
134 ひねた	0.1827	0.4077	-0.0694	0.1563	0.3345	0.3408
135 さめた	0.1195	0.1112	-0.2531	0.1825	0.4936	0.3677
136 激しやすい	0.1508	0.4232	0.2542	0.1993	-0.3316	0.4162
137 こたわる	0.6103	0.2228	-0.0478	-0.0457	-0.0647	0.4307
138 場当たり的	-0.0430	0.1254	0.1022	0.4399	0.1636	0.2551
139 現実離れした	0.1512	0.3769	-0.0883	0.3510	-0.2757	0.3721
140 実利的	0.0785	-0.0072	0.1671	-0.1202	0.5640	0.3668
141 すぶとい	-0.2353	0.2816	0.1238	0.2363	0.1956	0.2442
142 線の細い	0.4509	-0.0817	-0.0922	-0.0696	-0.1042	0.2343
143 因襲的な	0.3481	0.0737	0.0707	0.0494	0.0667	0.1385
144 新しがりやの	0.0436	0.1660	0.2128	0.1185	0.1045	0.0997
145 八方美人	0.1254	0.0248	0.4601	0.1598	0.1422	0.2738
146 ぐさみ悪い	0.3322	0.1570	-0.6076	0.0559	0.1156	0.5207
147 ルーズな	-0.0023	0.0525	-0.0580	0.6117	0.0440	0.3823
148 しゃくし定規な	0.4024	0.0875	0.0485	-0.1913	0.0902	0.2167
149 怠慢な	0.0530	0.0476	-0.0441	0.6063	0.1051	0.3857
150 がさしゃらな	0.0610	0.3926	0.2043	-0.0476	-0.1397	0.2214
151 ロジカル	-0.0717	0.2344	0.5977	-0.0461	0.0916	0.4279
152 聞けばかりの	0.1520	-0.2520	-0.4578	0.1239	0.1643	0.3386
153 無感動な	0.0703	-0.0362	-0.2124	0.0952	0.5351	0.3468
154 のぼせやすい	0.2137	0.2129	0.2174	0.3620	-0.2779	0.3466
155 温室育ち	0.3329	-0.1170	-0.0244	0.1889	-0.0174	0.1612
156 野蛮な	-0.1092	0.4320	0.0751	0.2366	0.0755	0.2659
157 情がうすい	0.0614	0.0435	-0.2842	0.1796	0.4810	0.3501
158 情に流される	0.2455	0.0275	0.2548	0.1777	-0.3168	0.2579
159 むこうみずな	-0.1259	0.3953	0.1269	0.4038	-0.0302	0.3523
160 小 心	0.6149	-0.1308	-0.1452	0.1885	0.0674	0.4564

固有値

寄与率

6.2469

31.0(%)

5.6440

28.0(%)

3.2955

16.4(%)

2.9169

14.5(%)

2.0304

10.1(%)

付表 5-8
因子分析結果表 (POSITIVE)

I		II		III		IV		V						
10	慎重な	.5128	55	おっとりした	.7445	7	口数少ない	-.4454	60	細心	-.4185	35	冷静な	.6003
37	執着する	.5055	49	のんびりした	.7433	18	もの静か	-.4868	4	おどろしい	-.3745	15	融通がきく	.4822
29	しぶとい	.4534	24	おっとりした	.7420	4	おとなしい	-.4775	14	従順	-.3634	38	臨機応変の	.4721
18	もの静か	.4499	2	のんきな	.6661	28	人に干渉しない	-.4127	42	デリケートな	-.2657	57	7-11な	.4319
42	デリケートな	.4486	4	おとなしい	.3460	46	孤独を好む	-.3609	19	それとは違う	-.2540	53	淡々とした	.4266
16	一本気	.4442	14	従順	.3415	57	7-11な	-.3484	26	女性的	-.2533	30	あざむいた	.4164
21	分析的	.4422	26	女性的	.3244	35	冷静な	-.2405	1	用心深い	-.2224	11	实际的	.3985
6	ねばり強い	.4383	18	もの静か	.3173	53	淡々とした	-.2320	10	慎重な	-.2223	40	現実的な	.3885
48	厳格な	.4376	47	おおやうな	.2836				32	協調的	-.2144	34	大人っぽい	.3667
1	用心深い	.4232										41	太っ腹な	.3534
9	気軽な	-.2561	23	てきぱちした	-.3609	45	社交的	.7448	59	大胆	.5988	16	一本気	-.2969
5	あきらめよい	-.2554	13	指導的	-.2644	17	陽気な	.6468	41	太っ腹な	.5420	37	執着する	.1721
15	融通がきく	-.1856	31	自立的	-.2087	8	話し好き	.6374	3	気が強い	.4876	54	熱中する	-.1654
30	あざむいた	-.1774	56	勇猛な	-.2028	51	話しじょうず	.5836	25	男性的	.4843	36	情熱的	-.1282
17	陽気な	.1727	25	男性的	.1966	33	茶めかけのある	.5789	56	勇猛な	.4684			
2	のんきな	.1541	50	エネルギー的	.1678	27	世話好き	.5385	31	自立的	.4204			
41	太っ腹な	.1273	48	厳格な	.1517	36	情熱的	.5120	20	単刀直入	.4168			
						13	指導的	.4915	50	エネルギー的	.3648			

内省
|
非内省

非活動
|
活動

非主導
|
主導

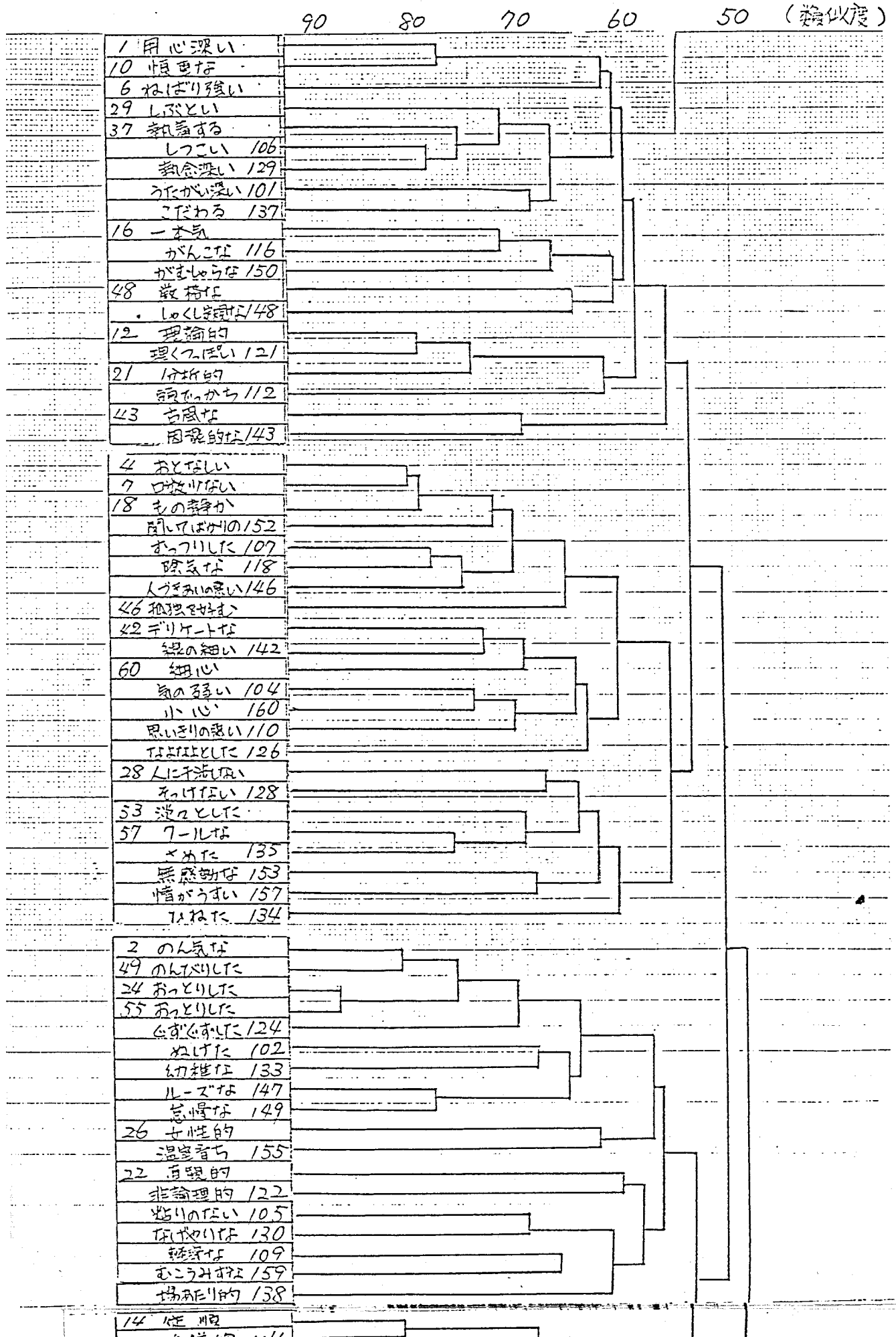
(不安定消極)
E-type
|
D-type
(安定積極)

情緒安定
|
情緒不安定

付表 5-9
因子分析結果表 (NEGATIVE)

Ⅳ			Ⅱ			Ⅲ			Ⅰ			Ⅴ		
148	しゃくし顔な	.1913	114	追従的	.4088	107	むつりした	.6089	160	小心	.6149	140	批判的	.5640
121	理くつぽい	.1751	132	付和雷同	.3202	146	人づきあい悪い	.6076	137	こたわる	.6103	133	無感動な	.5351
140	批判的	.1202	115	迎合的	.3185	118	陰気な	.5577	104	気の弱い	.5359	111	批判的	.5056
113	支配的	.1123	104	気の弱い	.2852	152	面いてばかりの	.4578	110	思ひきりの悪い	.5305	135	さめて	.4936
			152	問いてばかりの	.2520	128	そっけない	.4549	129	執念深い	.4824	157	情がうすい	.4810
			126	なまなまとして	.1738	157	情がうすい	.2852	106	しつこい	.4882	134	ひねて	.3345
						135	さめて	.2531	101	うにかが深い	.4770	128	そっけない	.2885
										126	なまなまとして	.4686		
										142	糸の細い	.4509		
										119	もってこい	.4469		
102	ぬけて	.6212	103	我が強い	.5795	108	おしゃべり	.7242	141	ずぶとい	.2353	136	溶けやすい	.3316
147	ルーズな	.6117	131	独断的	.5743	117	さわがしい	.6326	125	荒しい 異変	.1884	158	情に流れる	.3168
149	怠慢な	.6063	113	支配的	.5512	151	ロジカル	.5977	120	ズグズグいう	.1521	154	のぼせやすい	.2979
109	軽率な	.5276	125	荒しい 異変	.5473	127	おせっかい	.4615	159	むこうみずな	.1259	139	現実離れ	.2757
130	なげやりな	.5165	116	ガンコな	.4964	145	八方美人	.4601				133	幼稚な	.1655
133	幼稚な	.4735	120	ズグズグいう	.4346	113	支配的	.3005				150	がむしゃらな	.1391
105	粘りの強い	.4557	156	野蛮な	.4320	158	情に流れる	.2548						
122	非論理的	.4539	129	執念深い	.4233	126	溶けやすい	.2542						

77スタ-分析 結果



怠惰な 149
26 女性的
温厚な 155
22 直観的
非論理的 122
焦りのない 105
なやみ 130
軽率な 109
むこうみやり 159
場面的 138

14 性順
浪漫的 114
付知留同 132
迎合的な 115
32 繊弱的
19 それとなく
えびらえ 119

3 気が強い
叔がよい 103
短折的 131
13 指導的
支配的 113
23 いさばき
25 男性的
新しい男 125
50 理想主義的
56 高邁な
31 自主的
野蠻な 156
41 大っ股な
59 大胆
ずぶとい 141
20 単刀直入
ズケズケ 120

8 話好き
おしゃべり 108
さわがしい 117
17 陽気な
45 社交的
51 話じょうず
おしゃうず 151
33 茶みけのあ
9 気配
八方美人 145
15 器用がきく
38 器用な
47 おおやな
せかせかに 123

27 世話好き
おせっかい 127
58 人情に厚い
情に流れる 158
36 情緒的
淡々しい 136
のほけしい 154
54 熱中する
39 ロマンチックな
現実離れ 139
5 おきらめよい
30 あっさりした

11 實際的
40 現実的
皇制的 111
軍制的 140
44 現代的な
新しがりや 144
34 大人っぽい
35 冷静な
52 現実的

♂ n=20
♀ n=38

付表 5-10

項目別 男女差 (SD mono)

平均 平均 t or t'

Δ Δ F

No	♂	♀	No	♂	♀	No	♂	♀			
1 用心深い	3.50	3.82	-0.99	21 分析的	3.25	3.29	-0.12	41 太い腹な	2.80	2.63	0.45
	1.28	1.09	1.38		1.37	1.14	1.46		1.44	1.32	1.18
2 のんびりな	4.15	3.76	1.05	22 直観的	3.70	3.74	-0.13	42 利己的	4.05	3.74	0.92
	1.46	1.26	1.34		0.92	1.08	1.37		1.15	1.27	1.22
3 気が強い	3.45	3.76	-0.82	23 合理的	3.05	3.47	-1.16	43 古風な	3.80	3.47	1.00
	1.54	1.28	1.44		1.32	1.33	1.02		1.11	1.22	1.23
4 おとなしい	3.30	2.82	1.27	24 おていど	3.10	3.24	-0.32	44 現代的	3.60	3.47	0.51
	1.56	1.27	1.51		1.52	1.57	1.07		0.94	0.80	1.39
5 敏感な	3.40	3.37	0.08	25 男性的	3.80	2.74	3.38 *	45 社交的	3.35	3.24	0.29
	1.60	1.36	1.38		1.15	1.13	1.04		1.60	1.34	1.41
6 敏感な	3.40	3.68	-0.80	26 女性的	2.25	3.53	-3.93 *	46 知識的	3.60	3.16	1.08
	1.43	1.21	1.39		1.25	1.13	1.22		1.60	1.42	1.27
7 暖かい	3.10	2.63	1.19	27 世話好き	3.35	3.61	-0.71	47 高貴な	3.50	3.08	2.30 *
	1.65	1.30	1.61		1.57	1.15	1.85		0.51	0.88	2.95 *
8 誠実な	3.45	3.63	-0.45	28 丁寧な	4.15	3.53	1.94 (*)	48 学問的	3.10	3.03	0.23
	1.57	1.42	1.22		1.23	1.13	1.17		0.97	1.22	1.59
9 気軽な	3.70	3.58	0.39	29 活発な	3.10	2.97	0.41	49 知識的	3.80	3.76	0.10
	1.03	1.15	1.25		1.21	1.08	1.26		1.40	1.40	1.01
10 慎重な	3.60	3.89	-0.90	30 高貴な	3.65	3.63	0.06	50 知識的	3.65	3.50	0.45
	1.27	1.13	1.26		1.14	1.10	1.07		1.42	1.08	1.73
11 实际的	3.65	3.71	-0.21	31 自立的	4.15	3.76	1.19	51 知識的	3.10	2.68	1.12
	1.23	0.93	1.75		1.18	1.17	1.02		1.48	1.02	2.13 *
12 理論的	3.60	3.29	0.87	32 協同的	3.75	4.21	-1.51	52 知識的	3.40	3.58	-0.57
	1.14	1.35	1.40		1.21	1.04	1.34		1.19	1.11	1.15
13 指導的	3.35	3.50	-0.47	33 高貴な	3.45	3.68	-0.64	53 知識的	3.45	3.16	0.90
	1.23	1.13	1.17		1.32	1.34	1.03		1.05	1.24	1.40
14 従順	3.05	3.60	-1.41	34 知識的	3.35	2.84	1.45	54 熱中な	4.00	4.37	-1.02
	1.23	1.52	1.51		1.27	1.26	1.01		1.52	1.17	1.69
15 融通性	3.35	3.50	-0.43	35 冷静な	3.40	3.34	0.18	55 知識的	3.55	3.26	0.68
	1.42	1.18	1.46		1.19	1.17	1.03		1.61	1.48	1.17
16 一気	3.90	3.55	0.88	36 情熱的	3.60	3.58	0.06	56 知識的	3.20	2.37	2.52 *
	1.59	1.08	2.15 *		1.57	1.11	2.01 (*)		1.44	1.05	1.87
17 陽気な	4.30	4.32	-0.05	37 執着な	3.55	3.47	0.07	57 知識的	3.20	3.21	-0.03
	1.38	1.04	1.75		1.67	1.18	2.00 *		1.40	1.02	1.89
18 冷静な	2.90	2.89	0.01	38 高貴な	3.45	3.42	0.09	58 冷静な	4.25	4.00	0.96
	1.55	1.59	1.05		1.32	1.13	1.36		0.91	0.96	1.11
19 知識的	3.45	3.50	-0.18	39 知識的	4.25	3.82	1.19	59 大胆	3.80	3.03	2.58 *
	1.00	1.03	1.07		1.37	1.29	1.13		1.15	1.05	1.20
20 単刀直入	3.05	3.18	-0.33	40 現実的	3.35	3.79	-1.07	60 知識的	3.40	3.16	0.72
	1.67	1.33	1.57		1.66	1.09	2.31 *		1.31	1.18	1.25

(*) p < 0.01 * p < 0.05 * p < 0.1 t-test (two-sided)

付表 5-11 因別 順位表 (TSPS 調査 II)

[illegible][illegible]

第2章

(6) TSP S の妥当性について

付表 6-1 79

付表 6-2 85

付表 6-3 86

付表 6-4 87

付表 6-5 89

付表 6-6 91

	大 小	大 小	大 小	YES NO	主観 客観
	D 抑うつ性	C 気分の変化	I 劣等感	N 神経質	O 主観的
1 用心深い	0.0914	0.0030	0.1341	0.3391**	0.1067
2 のん気な	0.1631	0.0462	0.1436	0.0175	0.1411
3 気が強い	-0.0753	0.0639	-0.2473**	0.0033	0.0559
4 おとなしい	0.1037	-0.0756	0.2299**	0.1293	0.0636
5 あきらめのよい	-0.0007	-0.0913	-0.1191	-0.2367**	-0.0455
6 ねばり強い	-0.1618	-0.1180	-0.1951*	-0.0160	-0.0130
7 口数少ない	0.0279	-0.2340**	0.0493	-0.0384	-0.0498
8 話し好きな	0.0146	0.2725**	-0.0157	0.0573	0.1549
9 気軽な	-0.0408	0.0175	-0.2324**	-0.1174	-0.0015
10 慎重な	-0.0080	-0.0613	0.0449	0.1877*	0.0717
11 実際的	-0.1969*	-0.1333	-0.2279*	-0.0714	-0.1602
12 理論的	0.0239	-0.0786	-0.0744	0.1686	0.0700
13 指導的	-0.1251	-0.0195	-0.2596**	0.0240	-0.0406
14 従順	0.0933	0.0011	0.2385**	-0.0212	-0.1071
15 融通がきく	-0.0718	-0.1542	-0.2305**	-0.1395	-0.0597
16 一本気	0.0810	0.2017*	0.0294	0.1301	0.1502
17 陽気な	-0.0711	0.1537	-0.1306	-0.0805	0.0174
18 ものずか	0.0365	-0.1543	0.0726	0.0908	-0.0101
19 それとなくいう	0.1332	0.0231	0.1082	0.1141	0.2043*
20 単刀直入	0.0392	0.0870	-0.0860	0.0332	0.0530
21 分析的	0.0718	-0.0151	0.0246	0.2194*	0.1040
22 直観的	0.0569	0.1928*	-0.1016	0.0497	0.2288*
23 てきぱきした	-0.2650**	-0.1627	-0.3303**	-0.1371	-0.1499
24 おっとりした	0.2476**	0.0794	0.2363**	0.0880	0.1594
25 男性的	-0.0624	0.0638	-0.1393	0.0735	0.0707
26 女性的	0.2042*	0.1689	0.2321**	0.1020	0.1378
27 世話好き	0.0520	0.1362	0.0060	0.1143	0.0852
28 人に干渉しない	0.0466	-0.0043	0.0182	-0.0506	0.0696
29 しぶとい	-0.0696	-0.0147	0.0108	0.1711	0.1044
30 あざりた	-0.0417	-0.0111	-0.2096*	-0.2271*	0.0046
31 自立的	-0.1298	-0.0908	-0.2803**	-0.0398	0.0811
32 協調的	-0.0131	-0.0379	-0.0355	-0.0675	-0.0671
33 茶めつけのある	0.1508	0.2715**	-0.0563	0.0678	0.1620
34 大人っぽい	-0.1201	-0.1036	-0.2622**	-0.0368	-0.0460
35 冷静な	-0.1872*	-0.3638**	-0.2851**	-0.1230	-0.1937*
36 情熱的	0.0712	0.3068**	-0.1152	0.1590	0.2668**
37 執着する	0.1102	0.1983*	0.0867	0.3020**	0.2664**
38 臨機応変の	-0.1514	-0.1094	-0.3261**	-0.2169*	-0.1114
39 ロマンチックな	0.2778**	0.3436**	0.1426	0.2467**	0.3877**
40 現実的な	-0.0487	-0.0690	-0.0690	-0.0361	-0.0319
41 太っ腹な	-0.1077	-0.0866	-0.2386**	-0.1041	-0.0624
42 テリケートな	0.2962**	0.2936**	0.2211*	0.4844**	0.3080**
43 古風な	0.1701	0.2351**	0.2120*	0.2322**	0.2230*
44 現代的な	-0.0896	0.1074	-0.1640	-0.0507	0.0291
45 社交的	-0.1171	0.0927	-0.2158*	-0.0804	-0.0460
46 孤独を好み	0.2474**	0.0327	0.1351	0.2045*	0.2802**
47 おおやかな	0.0781	0.1205	0.0074	0.0243	0.1375
48 厳格な	0.0678	0.0720	0.0507	0.1852*	0.0882
49 のんびりした	0.1416	0.0114	0.1212	-0.0235	0.1533
50 エネルギーな	-0.0991	0.1042	-0.2435**	0.0149	0.0837
51 話しじょうず	-0.0447	0.0863	-0.1945*	0.0062	0.0346
52 聞きじょうず	-0.1492	-0.1094	-0.1775	-0.1025	-0.0866
53 淡々とした	-0.0186	-0.0216	-0.0594	0.0492	0.0628
54 熱中する	0.0325	0.1885*	-0.0676	0.1557	0.2066*
55 おっとりした	0.1821*	0.0105	0.1952*	-0.0082	0.0876
56 勇猛な	-0.0966	0.0084	-0.2263*	-0.0068	-0.0256
57 クールな	-0.0329	-0.1919*	-0.0910	-0.0671	-0.0034
58 人情に厚い	-0.0412	0.1625	0.0043	0.1174	0.0414
59 大胆	0.0026	0.0376	-0.2085*	0.0189	0.0966
60 細心	0.1386	0.1347	0.2611**	0.3328**	0.0813

十一	非協調的 協調的	CD 非協調性	AG 攻撃性	G 活動性	Yes No	外向 内向
		CO 非協調性	AG 攻撃性	G 活動性	R のんき	T 思考的外向
1	用心深い	0.2739**	-0.0064	-0.1209	-0.2386**	-0.4852**
2	のんきな	-0.0522	-0.1537	-0.0797	0.0071	0.1239
3	気が強い	-0.0034	0.3609**	0.2951**	0.2393**	-0.0663
4	おとなしい	-0.0396	-0.2883**	-0.3234**	-0.4620**	-0.1456
5	あきらめのよい	-0.0165	-0.1117	0.1835*	0.0842	0.1991*
6	ねばり強い	-0.0096	0.0827	0.2285*	-0.0394	-0.1209
7	口数少ない	-0.0186	-0.2715**	-0.3325**	-0.5686**	-0.1507
8	話し好きな	0.0084	0.2569**	0.3145**	0.5408**	0.0651
9	気軽な	-0.0049	0.2391**	0.4898**	0.4464**	0.2316**
10	慎重な	0.0815	-0.0608	-0.0043	-0.2381**	-0.4200**
11	実際的	-0.0820	0.2169*	0.3003**	-0.2528**	0.0557
12	理論的	0.1019	0.1416	-0.0067	-0.1661	-0.4684**
13	指導的	-0.0078	0.2552**	0.5032**	0.3332**	-0.0469
14	従順	-0.0997	-0.4073**	-0.1027	-0.2530**	0.1282
15	融通がきく	-0.0170	-0.0134	0.3327**	0.1843*	0.1162
16	一本気	0.0063	0.1908*	-0.0157	0.0382	-0.2204*
17	陽気な	-0.0062	0.1654	0.4875**	0.4895**	0.2216*
18	ものずか	-0.0143	-0.2472**	-0.1481	-0.4881**	-0.2515**
19	それとなくいう	0.2221*	-0.0784	0.0428	-0.1170	-0.1899*
20	単刀直入	0.0664	0.2242*	0.1110	0.1139	-0.1177
21	分析的	0.1490	0.1507	0.0723	-0.0792	-0.4641**
22	直観的	0.0271	0.2302**	0.0488	0.1977*	0.0440
23	てきぱちした	-0.0864	0.2481**	0.6594**	0.2941**	0.0892
24	おっとりした	0.0453	-0.2582**	-0.3425**	-0.2277*	0.0063
25	男性的	0.1930*	0.3658**	0.2554**	0.2720**	-0.0261
26	女性的	0.0518	-0.1771	-0.0702	-0.0856	-0.0758
27	世話好き	0.0292	0.1874*	0.3513**	0.2429**	-0.0754
28	人に干渉しない	0.0654	-0.0654	-0.1598	-0.1197	-0.0266
29	しぶとい	0.1178	0.1637	0.1141	0.1048	-0.1691
30	あっさりした	0.0049	0.0351	0.2533**	0.1062	0.2043*
31	自立的	0.1061	0.3273**	0.3160**	0.2153*	-0.1525
32	協調的	-0.1312	-0.0730	0.2757**	0.0454	0.0846
33	茶めつけのある	0.1109	0.2808**	0.3673**	0.4479**	0.1261
34	大人っぽい	0.0131	0.0568	0.2693**	-0.0102	-0.0734
35	冷静な	-0.0078	-0.1566	0.1488	-0.2968**	-0.1523
36	情熱的	0.0521	0.4181**	0.2550**	0.3527**	-0.0859
37	執着する	0.2510**	0.2289*	-0.0440	0.0288	-0.3270**
38	臨機応変の	-0.1429	0.0971	0.4095**	0.2112*	0.1311
39	ロマンチックな	0.1619	0.2632**	0.1154	0.1941*	-0.1699
40	現実的な	0.1116	0.0984	0.1174	0.1003	0.0057
41	太っ腹な	-0.0134	0.1378	0.2508**	0.2369**	0.0953
42	フリケートな	0.2609**	0.1764	0.0246	0.0459	-0.3482**
43	古風な	0.1066	0.1360	0.0771	0.0890	-0.1204
44	現代的な	0.1126	0.3008**	0.2633**	0.3293**	0.0798
45	社交的	0.0342	0.2850**	0.5455**	0.5419**	0.1825*
46	孤独を好む	0.0635	0.0081	-0.2691**	-0.2753**	-0.3206**
47	おおやうな	0.2095*	0.1382	0.2739**	0.2983**	0.0176
48	厳格な	0.1437	0.1954*	-0.0326	-0.0813	-0.2900**
49	のんびりした	-0.0514	-0.2034*	-0.1474	-0.1090	0.1151
50	エネルギーな	-0.0507	0.3587**	0.4164**	0.3927**	-0.0815
51	話しじょうず	0.0554	0.3166**	0.4269**	0.3811**	-0.0119
52	聞きじょうず	-0.1086	-0.0393	0.2480**	-0.0257	-0.0394
53	淡々とした	0.2018*	0.1834*	0.0476	0.0382	-0.1278
54	熱中する	-0.0464	0.2690**	0.1266	0.1932*	-0.1230
55	おっとりした	-0.0243	-0.2431**	-0.2616**	-0.2770**	0.0492
56	勇猛な	0.1079	0.3346**	0.3533**	0.2875**	-0.0393
57	クールな	0.0808	0.0369	-0.0039	-0.1467	-0.1297
58	人情に厚い	0.0046	0.1126	0.2455**	0.1345	-0.0647
59	大胆	0.0459	0.3669**	0.2790**	0.3951**	0.0664
60	細心	0.2349**	-0.0837	-0.1539	-0.1494	-0.2471**

	十 一	大 小	外向 内向	A 支配性	S 社会的外向
1	用心深い	-0.1035	-0.1406		
2	のん気な	-0.1679	-0.0484		
3	気が強い	0.3949**	0.3634**		
4	おとなしい	-0.4759**	-0.4602**		
5	あきらめのよい	-0.0515	0.0012		
6	ねばり強い	0.0598	0.0647		
7	口数少ない	-0.5591**	-0.6194**		
8	話し好きな	0.4821**	0.5350**		
9	気軽な	0.3248**	0.4754**		
10	慎重な	-0.0531	-0.0536		
11	実際的	0.2394**	0.2743**		
12	理論的	0.0404	-0.0395		
13	指導的	0.6512**	0.4760**		
14	従順	-0.2763**	-0.1407		
15	融通がきく	0.1024	0.2058*		
16	一本気	0.1107	-0.0093		
17	陽気な	0.4331**	0.5386**		
18	もの静か	-0.4053**	-0.4255**		
19	それとなくいう	-0.1067	-0.1306		
20	単刀直入	0.1439	0.1340		
21	分析的	0.1215	-0.0242		
22	直観的	0.1055	0.1210		
23	てきぱちした	0.5140**	0.4033**		
24	おっとりした	-0.3679**	-0.2057*		
25	男性的	0.2399**	0.2047*		
26	女性的	0.0127	0.0073		
27	世話好き	0.4663**	0.3568**		
28	人に干渉しない	-0.3775**	-0.2729**		
29	しぶとい	0.1221	0.0590		
30	あっさりした	0.0753	0.1967*		
31	自立的	0.3493**	0.2240*		
32	協調的	0.1166	0.2447**		
33	茶めつけのある	0.3661**	0.5174**		
34	大人っぽい	0.2671**	0.1891*		
35	冷静な	-0.0981	-0.1135		
36	情熱的	0.3263**	0.3764**		
37	執着する	0.1959*	0.0741		
38	臨機応変の	0.1808*	0.2817**		
39	ロマンチックな	0.2220*	0.1982*		
40	現実的な	0.1239	0.0894		
41	太っ腹な	0.1762	0.2519**		
42	デリケートな	0.1120	0.0673		
43	古風な	0.0182	0.0417		
44	現代的な	0.2923**	0.2853**		
45	社交的	0.5919**	0.6956**		
46	孤独を好み	-0.1958*	-0.2588**		
47	おおやかな	0.1987*	0.2649**		
48	厳格な	0.0005	-0.0765		
49	のんびりした	-0.2347**	-0.0612		
50	エネルギッシュな	0.4181**	0.4104**		
51	話しじょうず	0.5785**	0.5561**		
52	聞きじょうず	-0.0032	0.1395		
53	淡々とした	-0.0799	-0.0295		
54	熱中する	0.2735**	0.1554		
55	おっとりした	-0.3038**	-0.1676		
56	勇猛な	0.3230**	0.2639**		
57	クールな	-0.1111	-0.1520		
58	人情に厚い	0.1801	0.2102*		
59	大胆	0.3488**	0.3810**		
60	細心	-0.2148*	-0.2066*		

	十一	大小	大小	大小	Yes No	主観 多観
	D	C	I	N	O	
	抑うつ性	気分の変化	劣等感	神経質	主観的	
101 うたが深い	0.2477**	0.2056*	0.2991**	0.4528**	0.2634**	
102 めげた	0.3410**	0.3187**	0.3342**	0.1407	0.2718**	
103 我がつよい	0.0670	0.2351**	0.0014	0.2406**	0.1542	
104 気の弱い	0.2556**	0.1879*	0.4081**	0.2105*	0.1150	
105 粘りのない	0.2029*	0.1870*	0.2599**	0.0978	0.0962	
106 しつこい	0.1409	0.2212*	0.1787	0.3242**	0.2635**	
107 むつりけ	0.1495	0.0869	0.2209*	0.2339**	0.2127*	
108 おしゃべり	0.0511	0.2208*	0.0115	0.0993	0.0793	
109 軽率な	0.2768**	0.4037**	0.2342**	0.2274*	0.3467**	
110 思いぎりの悪い	0.2750**	0.3501**	0.4662**	0.3985**	0.3008**	
111 実利的	-0.0910	-0.0788	-0.1457	0.0126	-0.1132	
112 頭でかち	0.2944**	0.2249*	0.2321**	0.2066*	0.2095*	
113 支配的	-0.0574	0.0932	-0.1782	0.1425	0.0624	
114 追従的	0.1424	0.0699	0.2553**	0.0505	0.0283	
115 迎合的な	-0.0292	-0.0434	-0.0105	-0.0299	-0.0902	
116 がんこな	0.0787	0.2000*	0.0330	0.2434**	0.2186*	
117 かわかしい	0.0262	0.3175**	-0.0096	0.0808	0.1440	
118 陰気な	0.2596**	0.0491	0.2074*	0.2362**	0.1900*	
119 もてまわす	0.1843*	0.1785	0.2263*	0.2594**	0.2308**	
120 スケズケいう	0.0196	0.1506	-0.0513	0.0659	0.1048	
121 理くつばい	0.1086	0.0702	0.0786	0.3020**	0.1198	
122 非論理的	0.0263	0.1081	0.0738	-0.0634	0.1293	
123 せかせかした	0.1306	0.2688**	0.1134	0.2241*	0.1587	
124 ぐずぐずした	0.2606**	0.2522**	0.3660**	0.1863*	0.1851*	
125 荒い	0.0610	0.2141*	-0.0530	0.0838	0.1928*	
126 なよなよと	0.1014	0.1125	0.2127*	0.1617	0.0274	
127 おせっかい	0.1630	0.2734**	0.1211	0.2429**	0.1834*	
128 しゃべりない	0.0429	-0.0162	0.0421	0.0509	0.1345	
129 執念深い	0.1484	0.2418**	0.1908*	0.3860**	0.2335**	
130 なげやりな	0.3913**	0.3525**	0.3002**	0.2553**	0.3208**	
131 独断的	0.1402	0.2036*	-0.0272	0.2501**	0.3062**	
132 付和雷同	0.1034	0.0079	0.2534**	0.0653	0.1441	
133 幼稚な	0.2610**	0.3280**	0.3296**	0.2330**	0.2614**	
134 ひねた	0.2828**	0.1975*	0.1127	0.2820**	0.2267*	
135 さめた	0.3251**	0.0527	0.1548	0.1641	0.1825*	
136 激しやすい	0.2776**	0.5360**	0.1800	0.3864**	0.3973**	
137 こたわる	0.3954**	0.4048**	0.4258**	0.6097**	0.3504**	
138 場あてり	0.0659	0.0013	0.0072	-0.0240	0.0408	
139 現実離れ	0.3368**	0.4124**	0.2728**	0.3297**	0.5033**	
140 卑劣的	-0.0946	-0.0344	-0.0371	0.0049	-0.0523	
141 すばい	-0.0361	-0.0301	-0.1208	-0.0313	0.0887	
142 線の細い	0.2062*	0.2274*	0.2544**	0.3711**	0.0889	
143 因襲的な	0.2105*	0.1235	0.1910*	0.2334**	0.1190	
144 新しがりやの	-0.0611	0.2026*	-0.0468	0.0513	0.0987	
145 八方美人	0.0735	0.1557	0.0100	0.0416	0.1090	
146 ぐさみの悪い	0.1649	0.0278	0.1702	0.1869*	0.1838*	
147 ルーズな	0.2596**	0.2666**	0.2714**	0.1369	0.3234**	
148 しゃくし足	0.0504	0.0494	0.0512	0.1397	-0.0072	
149 怠慢な	0.2765**	0.2379**	0.2492**	0.1360	0.2855**	
150 がむしゃらな	0.0490	0.1462	-0.0601	0.1641	0.1478	
151 ロジようず	-0.0170	0.0852	-0.1550	0.0659	0.0070	
152 聞いばかりの	-0.0047	-0.1460	0.1332	-0.0447	-0.1149	
153 無感動な	-0.0279	-0.1973*	0.0345	-0.0602	-0.1141	
154 のぼせやすい	0.2692**	0.5485**	0.1833*	0.3158**	0.3715**	
155 温室育ち	0.1817*	0.1751	0.2734**	0.2014*	0.1155	
156 野蛮な	0.1190	0.1780	-0.0083	-0.0001	0.2102*	
157 情がうすい	0.1020	-0.1542	0.1381	0.0490	0.0268	
158 情に流される	0.1523	0.3800**	0.1961*	0.1812*	0.1416	
159 むこうみずな	0.0985	0.2515**	-0.0111	0.0977	0.1781	
160 小 心	0.2905**	0.2512**	0.4860**	0.3425**	0.1660	

+	非協調的 協調的	大 小	大 小	Yes No	外向 内向
	CO 非協調性	AG 攻撃性	G 活動性	R のんき	T 思考的外向
101 うたが深い	0.5044**	0.1493	-0.1915*	-0.0297	-0.4263**
102 めけた	0.0614	0.0282	-0.2772**	0.1209	0.0870
103 我がよい	0.2368**	0.4181**	0.0345	0.2126*	-0.2008*
104 気の弱い	0.1771	-0.1922*	-0.3442**	-0.2358**	-0.0913
105 粘りのない	0.1466	-0.0741	-0.2329**	0.1106	0.1392
106 しつこい	0.1626	0.2113*	-0.1107	0.1104	-0.2967**
107 むつりげ	0.1745	0.0307	-0.3614**	-0.2457**	-0.2452**
108 おしゃべり	0.1123	0.2105*	0.3475**	0.4884**	0.0418
109 軽率な	0.2013*	0.2920**	-0.0434	0.4592**	0.1075
110 思いきりの悪い	0.1164	-0.0225	-0.3221**	-0.0154	-0.2979**
111 実利的	0.2013*	0.1658	0.2610**	0.1808*	-0.0078
112 頭でっかち	0.1268	0.0456	-0.1997*	0.0389	-0.1290
113 支配的	0.1677	0.4161**	0.2821**	0.3204**	-0.0925
114 追従的	-0.0228	-0.2963**	-0.1358	-0.1464	0.0174
115 迎合的な	0.0103	-0.1410	0.1843*	0.0756	0.0985
116 がんこな	0.2263*	0.2962**	-0.0954	0.0297	-0.2397**
117 さわがしい	0.1339	0.3132**	0.2901**	0.6130**	0.1430
118 陰気な	0.2245*	0.0009	-0.3931**	-0.2799**	-0.2925**
119 むてまわていう	0.1491	0.0759	-0.1030	-0.0629	-0.2310**
120 スズスズという	0.1914*	0.3683**	0.0495	0.3030**	-0.0305
121 理くつぽい	0.1498	0.1884*	-0.1328	-0.0937	-0.3916**
122 非論理的	0.0554	0.0740	0.0184	0.1351	0.2307**
123 せかせかした	0.1972*	0.3558**	0.1275	0.3987**	-0.0527
124 ぐずぐずした	0.0043	-0.1305	-0.4780**	-0.1395	-0.0571
125 流々しい男まじり	0.1770	0.4162**	0.2117*	0.4118**	0.0033
126 なよなよとした	0.0302	-0.1605	-0.2539**	-0.2084*	-0.1433
127 おせっかい	0.1445	0.3288**	0.2698**	0.4029**	-0.0658
128 そっけない	0.0744	0.0138	-0.2497**	-0.1077	-0.1166
129 執念深い	0.3332**	0.2367**	-0.1639	0.0531	-0.3823**
130 なげやりな	0.3472**	0.2011*	-0.2120*	0.1954*	-0.0388
131 独断的	0.2515**	0.4706**	0.0425	0.2666**	-0.1798
132 付和雷同	0.1205	-0.1439	-0.0271	0.0189	0.0940
133 幼稚な	0.1197	0.1153	-0.2912**	0.1128	-0.0035
134 ひねた	0.3455**	0.2036*	-0.0922	0.0828	-0.2838**
135 さめた	0.2878**	0.0439	-0.2626**	-0.1287	-0.1935*
136 激しやすい	0.2606**	0.4062**	0.0109	0.3578**	-0.1668
137 こたわる	0.2738**	0.0740	-0.2602**	-0.0003	-0.3831**
138 場あてり的	0.1237	0.2314**	0.1195	0.3002**	0.1505
139 現実離れした	0.2688**	0.3217**	-0.2330**	0.1755	-0.2249*
140 実利的	0.0714	0.0382	0.1262	0.1407	-0.0158
141 すばとい	0.1143	0.1308	0.0662	0.2397**	-0.0025
142 線の細い	0.0852	0.0180	-0.1385	-0.0604	-0.2707**
143 因襲的な	0.1141	0.0469	0.0720	0.0611	-0.0794
144 新しがりやの	0.1761	0.3119**	0.2231*	0.4031**	0.0227
145 八方美人	0.0795	0.1845*	0.3277**	0.3374**	0.0071
146 ぐさめい悪い	0.0709	-0.0023	-0.4979**	-0.2913**	-0.2100*
147 ルーズな	0.1847*	0.0860	-0.1671	0.2293*	0.0747
148 しゃくし定規な	0.0151	0.0456	-0.0202	-0.0257	-0.1644
149 怠慢な	0.1902*	0.0929	-0.2150*	0.1714	0.0204
150 がむしゃらな	0.1420	0.3886**	0.2440**	0.3231**	-0.1423
151 ロジようず	0.1619	0.2966**	0.4585**	0.4178**	-0.0830
152 聞いばかりの	-0.0332	-0.2402**	-0.1382	-0.3377**	-0.0333
153 無感動な	0.0703	-0.0946	-0.0473	-0.0927	0.0013
154 のぼせやすい	0.2357**	0.3921**	0.0328	0.4474**	-0.0090
155 温室育ち	0.0453	-0.0500	-0.1932*	-0.0588	-0.0401
156 野蛮な	0.1987*	0.2983**	0.0914	0.3027**	0.0064
157 情がうすい	0.1638	-0.1389	-0.2301**	-0.1662	-0.1184
158 情に流される	0.0713	0.2177*	0.0869	0.3024**	0.0352
159 むこうみずな	0.2493**	0.3707**	0.1716	0.4525**	0.0538
160 小 心	0.1216	-0.0269	-0.2514**	-0.0264	-0.1341

* $P < .01$

** $P < .001$

	十 一	大 小	外向 内向
	A	支配性	S 社会的外向
101 うたが深い	-0.0536		-0.1358
102 めけた	-0.1114		-0.0407
103 我がつよい	0.2250*		0.1373
104 気の弱い	-0.4039**		-0.3762**
105 粘りのない	-0.1918*		-0.1042
106 しつこい	0.1852*		0.0889
107 むつりけ	-0.3164**		-0.4359**
108 おしゃべり	0.4458**		0.5248**
109 軽率な	0.1610		0.0977
110 思いきりの悪い	-0.0997		-0.0744
111 実利的	0.0138		0.0840
112 頭でっかち	0.0230		0.0393
113 支配的	0.4362**		0.3241**
114 追従的	-0.2605**		-0.1023
115 迎合的な	-0.0537		0.1380
116 がんこな	0.1150		0.0322
117 さわがしい	0.4506**		0.5019**
118 陰気な	-0.2706**		-0.3905**
119 ちやうど	0.0785		-0.0954
120 スズケい	0.2238*		0.1348
121 理くつぽい	0.0695		-0.0765
122 非論理的	-0.0187		-0.0635
123 せかせかした	0.2400**		0.2011*
124 ぐずぐずした	-0.2730**		-0.2007*
125 流しい男まり	0.2267*		0.2790**
126 なやなとほ	-0.2114**		-0.1687
127 おせっかい	0.4337**		0.3610**
128 そっけない	-0.2539**		-0.2502**
129 執念深い	0.1933*		0.0331
130 なげやりな	-0.0968		-0.0966
131 独断的	0.2385**		0.0559
132 付知留同	-0.1397		-0.0706
133 幼稚な	-0.1105		-0.0244
134 ひねた	0.0472		0.0078
135 さめた	-0.1947*		-0.1619
136 激しやすい	0.2537**		0.2364**
137 こたわる	-0.0349		-0.0543
138 場あてり的	0.1670		0.1437
139 現実離れ	0.0017		-0.0902
140 実利的	0.0735		0.0510
141 すぶとい	0.1551		0.1112
142 線の細い	-0.0465		-0.0249
143 因襲的な	0.1487		0.0920
144 新しいものの	0.1966*		0.2837**
145 八方美人	0.2958**		0.4328**
146 ぐさあいの悪い	-0.3819**		-0.5497**
147 ルーズな	-0.1520		0.0259
148 しゃくし定規な	0.0862		0.0381
149 怠慢な	-0.1664		0.0214
150 がむしゃらな	0.3490**		0.2998**
151 ロジようす	0.5230**		0.5207**
152 聞いてばかりの	-0.4899**		-0.4220**
153 無感動な	-0.0583		-0.1310
154 のぼせやすい	0.1594		0.2779**
155 温室育ち	-0.2022*		-0.1196
156 野蛮な	0.0808		0.0600
157 情がうすい	-0.1991*		-0.2214*
158 情に流される	0.1121		0.2342**
159 むこうみずな	0.3061**		0.2776**
160 小 心	-0.2168*		-0.1801

仕様6-2 Y-G各尺度と項目との相関 (POSITIVE)

[illegible]

(+) 正相關 $P < .01$ + 正相關 $P < .001$. (-) 負相關 $P < .01$, - 負相關 $P < .001$

付表6-3

[illegible]+ 正相關 $P < .01$, + 正相關 $P < .001$, - 負相關 $P < .01$, - 負相關 $P < .001$

Y-G各尺度別 相関をもつ項目 (因子別分析) TSPS-II

		D	C	I	N	O	Co	Ag	G	R	T	A	S	
I	PL			-1	5		2	1	1	-4	-10			
	NL	6	8	7	11	9	4	3	-4		-10	2		
	P+N	6	8	6	16	9	6	4	-3	-4	-20	2		思考的内向
	因子別	9				6			-3.5		1			
									0.5		-12			↑ 内省
	PR	-1	1	-4	-3	1	1	5	9	7	4	5	7	↑ ↓
	NR	9	9	10	3	8	5	3	-3	5	2	-1		
	P+N	8	10	6	0	9	6	8	6	12	6	4	7	のんき
	因子別	6				8			9		5.5			↑ ↓
									7		9			
														非内省
II	PL	-2		-10				10	10	9		10	9	
	NL		4		3	4	4	10	4	10		8	5	
	P+N	-2	4	-10	3	4	4	20	14	19		18	14	攻撃的
	因子別	-1				9			16.5		16			
									17		9.5			↑ 活動的
	PR	3		5				-7	-2	-5		-8	1	↑ ↓
	NR	5	4	10	2	3	1	-2	-4			-5	-1	
	P+N	8	4	15	2	3	1	-9	-6	-5		-13	0	劣等感大
	因子別	7				-2			-5.5		-6.5			↑ ↓
									-7.5		-2.5			
														非活動的
IV	PL			-6			1	7	8	8		6	7	
	NL		4		2		5	8	1	9	-1	5	4	
	P+N		4	-6	2		6	15	9	17	-1	11	11	のんき
	因子別	0				7			13		11			衝動的
									12		8			
	PR	3	2	8	4	3	5	-2	-2	-2	-5	-3	-3	↑ ↓
	NR	6	4	8	7	2		-1	-6	-3	-4	-4	-2	
	P+N	9	6	16	11	5	5	-3	-8	-5	-9	-7	-5	劣等感大
	因子別	10.5				2			-6.5		-6			↑ ↓
									-5.5		-7			
														情緒安定
														内省
														非衝動
														(E type)

PL : POSITIVEの左側の項目 十、一、2点

NL : NEGATIVEの左側の項目 (十)(-) 1点

PR : POSITIVEの右側の項目

NR : NEGATIVEの右側の項目

付表6-4
マズ

		D	C	I	N	O	Co	Ag	G	R	T	A	S	
III	PL		2	-2				7	12	10	2	10	11	
	NL		7	1	3	1		9	10	12		10	12	
	P+N		9	-1	3	1		16	22	22	2	20	23	社会的外向
	因子別		3				6		22			21.5		主単性
								19	12					↑
	PR	-2	-3		-1	-2		-4	-2	-6	-4	-7	-8	↑
	NR	2		2	4	2	1	-2	-10	-8	-5	-11	-11	↓
	P+N	0	-3	-2	3	0	1	-6	-12	-14	-9	-18	-19	社会的内向
	因子別		-0.5				-2		-13			-18.5		非主単性
								-9	-11.5					
IV	PL	2	11	1	6	9	2	10	4	6	-3	8	5	
	NL	11	11	8	14	11	9	8	-6	4	-5	2	4	
	P+N	13	22	9	20	20	11	18	-2	10	-8	10	9	気分の変化大
	因子別		16				16		4			9		情緒不安定
								8	1					↑
	PR	-1	-2	-8	-1	-1	1	3	8	2		5	6	↑
	NR	4	1		2	2	4	5	0	4	-3	0	2	劣等感小
	P+N	3	-1	-8	1	1	5	8	8	6	-3	5	8	
	因子別		-1				5		7			6.5		(情緒安定)
								8	1.5					

+, - を 2点 (+)(-) を それぞれ 1点 とし、数量化した。

表の右に書いてあるのは、表内の数値の大きいものを基準に
Y-Gの尺度単位 及び 因子単位での対立を示している。

付表 6-5

$$(*) \quad p < 0.1$$

*: $P < 0.05$ $P = 0.05 \rightarrow r = 0.261$

$$P < 0.01 \quad P = 0.01 \rightarrow r = 0.339$$
$$n = 56$$

MMPI と TSP.S (有意な相関のある項目)

Q	L	F	K	Ho	D	Hy
おしゃべり *	おとなしい *	おとなしい *	陽気な *	おとなしい *	おとなしい ***	おとなしい *
	高気圧がきく *	口数少ない *	陽気な *	口数少ない *	口数少ない ***	おとなしい *
↑	おっとりした *	理論的 **	↑	分析的 *	従順 **	気の弱い **
ねばり強い *	大胆 *	もの静か *	孤独を好む *	聞きようす *	もの静か **	↑
もの静か *	付知雪同 *	孤独を好む *	大胆 *	淡々とした *	孤独を好む ***	気が強い *
大人っぽい *	↑	気の弱い *	うたが深い *	気の弱い **	おっとりした *	
クールな *	勇猛な **	むつりした **	ぬけた *	線の細い *	気の弱い ***	
大胆 **	うたが深い *	顔でかち *	むつりした **	聞いてばかりの *	むつりした ***	
	支配的 *	陰気な **	がんこな *	↑	追従的 **	
	がんこな *	理づかい *	陰気な **	気がつよい (米)	陰気な **	
	荒っぽい/易怒り *	ぐずぐずした **	理づかい *	話し好き (米)	たがやりの **	
	そっけない *	なやなとした **	そっけない *	気軽な (米)	線の細い *	
	執念深い *	そっけない *	執念深い *	おしゃべり (米)	人づかいの悪い *	
	たがやりの **	たがやりの **	たがやりの **	執念深い (米)	聞いてばかりの **	
	独断的 ***	独断的 *	独断的 *		小心 **	
付知雪同 *	こだわる **	こだわる **	こだわる **		↑	
ツレた *	現実離れした **	現実離れした *	現実離れした *		気が強い ***	
こだわる **	人づかいの悪い **	ずぶとい *	ずぶとい *		話し好き **	
現実離れした *	↑	人づかいの悪い *	人づかいの悪い *		指導的 **	
急慢な *	話し好き **	ルーズな *	ルーズな *		陽気な **	
のほせやすい *	指導的 *	急慢な *	急慢な *		直観的 *	
野蛮な **	陽気な **	のほせやすい *	のほせやすい *		てきぱちした *	
情がうすい *	てきぱちした *	情がうすい *	情がうすい *		しぶとい *	
むこうみずな **	社交的 **	むこうみずな *	むこうみずな *		茶めつけのある *	
					社交的 **	
					イリビシな **	
					話しほうず **	
					熱中する *	
					しつこい *	
					おしゃべり **	
					さわがしい **	
					荒っぽい/易怒り *	
					ずぶとい **	
					がむしうな **	
					口じょうず *	
					野蛮な *	

付表6-5 つぎ

MMPIとTSPS-II

Pd	Mf	Pa	Pt	Sc	Ma	Si
気の弱い*	用心深い*	むづりりした*	おとなしい*	もの静か*	単刀直入*	おとなしい***
受動的*	クールな*	現実離れした*	口数少ない*	執着する*	情熱的*	口数少ない***
追従的*	むづりりした**	人づかいの悪い*	もの静か*	孤独を好み**	執着する**	従順*
↓	受動的*	↓	執着する*	むづりりした*	太っ腹な***	もの静か***
直観的*	陰気な*	指導的**	ロマンチックな*	がんこな*	勇猛な*	孤独を好み*
しぶとい**	執念深い*	陽気な*	孤独を好み*	陰気な*	大胆**	おとりりした*
協調的*	受動的*	がむしゃまな*	うたかた深い*	ぐずぐずした*	めけた*	細心*
おしゃべり*	↓		気の弱い*	なやまじい*	しつこい*	うたがひ深い**
	気軽な*		むづりりした*	そっけない*	支配的*	気の弱い*
	激しやすい*		追従的*	なげやりな***	独断的**	むづりりした**
			陰気な*	独断的*	現実離れした*	追従的*
			ぐずぐずした**	ひなた*	しぶとい**	陰気な***
			なやまじい*	こたわる*	新しがりの*	ぐずぐずした*
			なげやりな***	現実離れした*	ルーズな*	なやまじい*
			こたわる**	人づかいの悪い**	怠慢な**	なげやりな***
			現実離れした*	温言巧*	野蠻な**	人づかいの悪い**
			人づかいの悪い*	↓	おうみずな*	聞きはかり**
			小心**	話し好きな*	↓	温言巧**
			↑	指導的*	デリケートな*	小心*
			話し好きな**	陽気な**	細心*	↓
			指導的**	てきぱちした*		気が強い*
			陽気な***	社交的**		話し好きな***
			直観的**			気軽な**
			てきぱちした*			實際的*
			茶めつけのある*			指導的***
			社交的***			陽気な***
			おしゃべり*			直観的***
			がむしゃまな*			てきぱちした**
						茶めつけのある**
						社交的***
						理想主義な*
						話し好き***
						おしゃべり***
						支配的*
						さわがしい**
						荒い/易怒*
						がむしゃま***
						ロジカル**

付表 6-6

二面性に対するとらえ方の諸段階			
諸 段 階	本文中例	該当数	()%
I. TSPS を実施する以前から二面性の存在を考えていたとするもの		14	(5)
a. 人間はもともと誰でも二面性をもつものである。	㊷	3	
b. このテスト形式はすぐれている。		5	
c. 自分は特に二面性の傾向が強い。普段からそう思っていた	㊷	6	
II. TSPS 実施後二面性の存在に気がついたがそれを受けいれているもの		46	(16.5)
a. やって見たら両方にあてはまることがあった。しかしそれが普通なのではないか。人間とはそんなもの。それがおもしろかった。(その他二面性を認めるような理由づけをしているもの)	㊷㊴㊵	29	
b. 差が少ないことが性格の対極性(両面性)を示すのだろう。		7	
c. 自分の中に相反するものの共存していることを自覚させられた。		10	
III. 二面的につけた事に気づき、その事に対してとまどいを訴えているもの		31	(11.1)
a. 自分にはAというところもあるがAというところもある。(矛盾した感じ)		5	
b. 対語は反対のはずなのに、やってみると両方あてはまったりあてはまらなかったりすることがあった。		8	
c. 反対のはずなのに両方にあてはまってしまった。これは、自分の性格がどっちつかずだから。自分は矛盾しているように感じた。(理由づけはしているが、受けいれているとは思えず、別の面からの理由づけをしたり、当惑が先に立っているもの)	㊵㊶	18	
IV. 二面的につけた事に気づき、それをどうもおかしいと考えているもの		31	(11.1)
a. 理想的には(元来)片方がかなりあてはまるなら他方はほとんどあてはまらないとなるはずなのにそうならなかった。(どうも変だ)(理由づけをしても対のせいにしていたりなど)	㊷	15	
b. 矛盾した結果になっている。へんな結果だ。ショックだ。	㊷	6	
c. 矛盾した結果になる。それで仕方なく、どれも“どちらともいえない”につけてしまうことになった。		10	
V. 二面的につけてあぶなかった。ふもとどまった、困ったもの		24	(8.6)
a. 左右の語を独立に考えて答えるのが難しく、統一を保たせようという意識が働いた。	㊵	15	
b. 両方ともあてはまると思うものもあったので、どう答えればよいのかわからなかった。答えにくかった。		9	
VI. 明確には言及していないが、何らかのコメントを加えているもの		46	(16.5)
a. 全然わからないが、真実の私に近い結果がでたように思う。こういう形式は初めてだが、おもしろかった。スラスラかけた。		4	
b. どこにマルをつけてもウソになる。(どんどん新たな自分の点がでてくる。自分とはまるで正反対のように答えたい誘惑にかられる。理想像が入ってしまう)		26	
c. 差が0になる時どう考えればよいのかわからない。		4	
d. ほとんどが“どちらともいえない”になった。		8	
e. とまどった。		4	
VII. 言及なし		82	(29.4)
VIII. 言及しているものの、意味が今一つはっきりせず不明なもの		5	(1.8)
計		279	(100)%

第3章

2. 他の心理テストとの比較

付表 a-1	92
付図 a-1	93
付図 a-2	94
付図 a-3	95
付表 a-2	96
付表 a-3	98
付図 a-4	100
付図 a-5	101
付図 a-6	102
付図 a-7	102
付表 a-4	103
付表 a-5	106
付表 a-6	107
付図 a-8	108
付図 a-9	108
付表 a-7	109
付表 a-8	110

Y-G 各尺度と スコア との 相関. (付表 A-1)

	+	大 小	大 小	大 小	Yes No	主観的 客観的
	D	抑うつ性	C	I	N	主観的
S+(P)	0.0558		0.0938	-0.1540	0.1484	0.2175*
S+(N)	0.4427**		0.5265**	0.4180**	0.5247**	0.4863**
S-(P)	-0.1159		0.0661	0.0701	0.0181	-0.0035
S-(N)	-0.1281		0.0553	-0.0056	0.0617	0.0122
S--(P)	-0.1832*		-0.1010	-0.1089	-0.0346	-0.0877
S--(N)	-0.0033		0.1089	0.0605	-0.0217	0.0393
S(p-N)	-0.3883**		-0.4399**	-0.5314**	-0.3946**	-0.3020**

	+	非協調的 協調的	Yes No	Yes No	Yes No	外向 内向
	CD	協調性	AG	G	R	T
S+(P)	0.1600		0.3009**	0.4490**	0.2195*	-0.2349**
S+(N)	0.4753**		0.4071**	-0.1621	0.3606**	-0.2647**
S-(P)	0.0299		0.0108	-0.0330	0.0897	0.1127
S-(N)	0.0815		0.0737	0.0796	0.1029	0.0157
S--(P)	-0.1168		0.0878	0.1831*	0.0499	0.0182
S--(N)	0.0786		0.1061	0.2126*	0.2273*	0.0462
S(p-N)	-0.3370**		-0.1580	0.5165**	-0.1775	0.0714

	+	大 小	外向 内向
	A	支配性	S
S+(P)	0.3192**		0.3514**
S+(N)	0.0825		0.0780
S-(P)	0.0182		-0.0088
S-(N)	0.0328		0.0590
S--(P)	0.2058*		0.1739
S--(N)	0.2512**		0.1763
S(p-N)	0.1739		0.2040*

* $P < 0.01$
** $P < 0.001$

S--(P) *...X小 大 71=69

Y G 性格検査プロフィール

標準点	1	2	3	4	5
D	1	5	10	20	30
C	0	1	2	3	4
I	0	1	2	3	4
N	0	1	2	3	4
O	0	1	2	3	4
C _o	0	1	2	3	4
A _g	0	1	2	3	4
G	0	1	2	3	4
R	0	1	2	3	4
T	0	1	2	3	4
A	0	1	2	3	4
S	0	1	2	3	4

抑うつ性小
気分の変化小
劣等感小
神経質でない
客観的
協調的
攻撃的でない
非活動的
非衝動的
内省的
思考的内向
服従的
社会的内向

抑うつ性大
気分の変化大
劣等感大
神経質
主観的
非協調的
攻撃的
活動的
衝動的
人省的
思考的外向
支配性大
社会的外向

標準点
D C I N O C_o A_g G R T A S

情緒不安定
社会的不適応
活動的
衝動的
内省的でない
主導権を握る

7
1.92 (米)
1.11
0.85
0.10
0.62
1.32
-1.59
-2.30
-0.67
0.65
-2.49
-1.86 (米)

S--(N) *...X小 大 71=69

Y G 性格検査プロフィール

標準点	1	2	3	4	5
D	1	5	10	20	30
C	0	1	2	3	4
I	0	1	2	3	4
N	0	1	2	3	4
O	0	1	2	3	4
C _o	0	1	2	3	4
A _g	0	1	2	3	4
G	0	1	2	3	4
R	0	1	2	3	4
T	0	1	2	3	4
A	0	1	2	3	4
S	0	1	2	3	4

抑うつ性小
気分の変化小
劣等感小
神経質でない
客観的
協調的
攻撃的でない
非活動的
非衝動的
内省的
思考的内向
服従的
社会的内向

抑うつ性大
気分の変化大
劣等感大
神経質
主観的
非協調的
攻撃的
活動的
衝動的
人省的
思考的外向
支配性大
社会的外向

標準点
D C I N O C_o A_g G R T A S

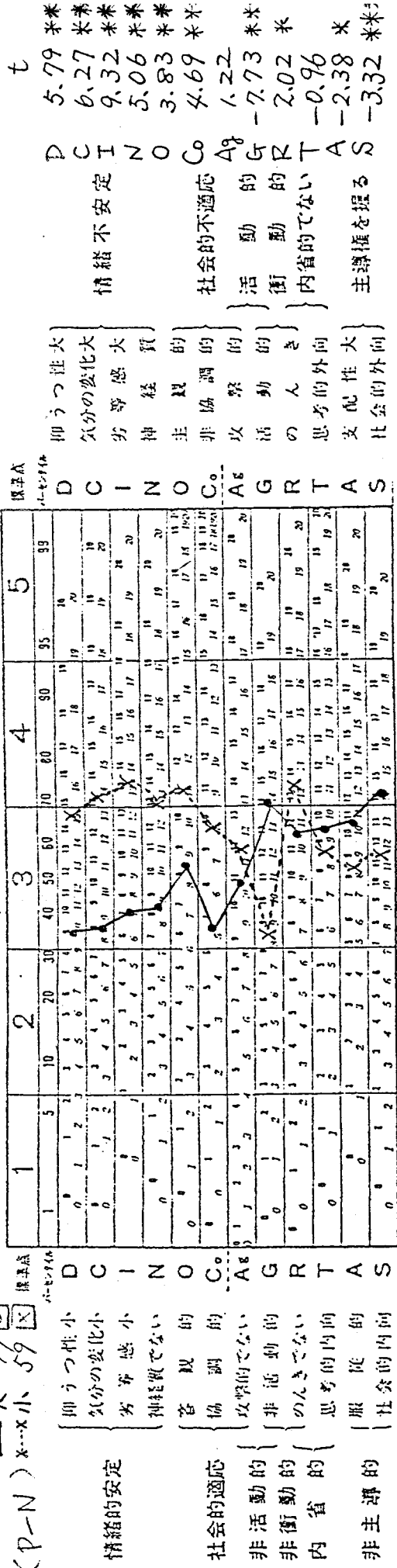
情緒不安定
社会的不適応
活動的
衝動的
内省的でない
主導権を握る

7
-0.09
-1.63
-1.04
0.19
-0.79
-1.45
-1.21
-2.99
-2.94
-0.26
-2.87
-2.21 (米)

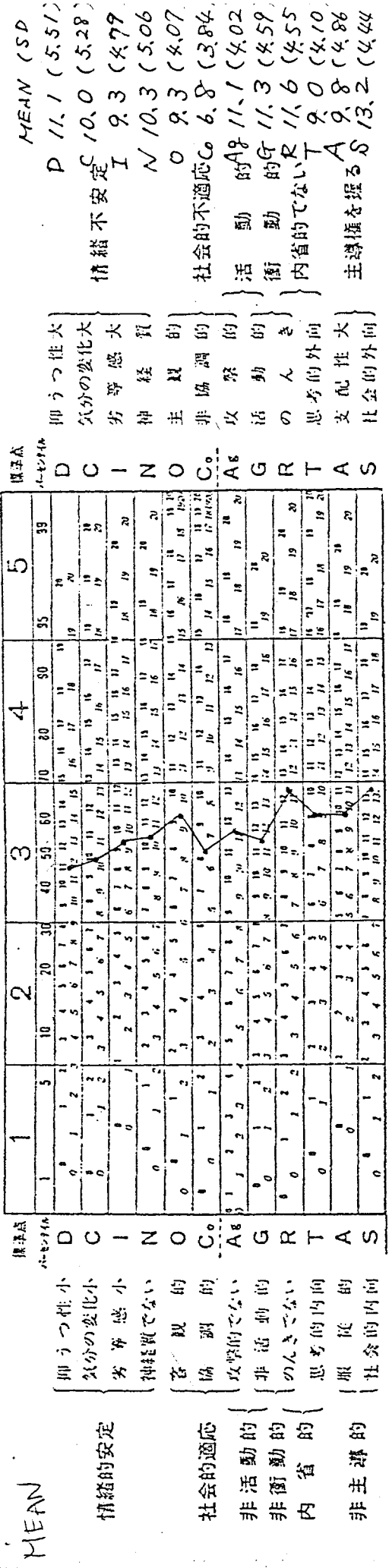
付図A-2 スコアと YG (S--(P), S--(N))

S(P-N) *x小 59

YG性格検査プロフィール



YG性格検査プロフィール



付図A-3
スコアとYG及びYG平均値
S(P-N)

ANALYSIS OF VARIANCE

スツア別 Y-G の型について (1)

付表 a-2

S+(P) SOURCE	D.F.	SUM OF SQUARES	MEAN SQUARES	F RATIO	F PROB.
BETWEEN GROUPS	4	17116.0000	4279.0000	9.388	0.000
WITHIN GROUPS	198	90248.0000	455.7979		***
TOTAL	202	107364.000			

S+(N) SOURCE	D.F.	SUM OF SQUARES	MEAN SQUARES	F RATIO	F PROB.
BETWEEN GROUPS	4	50334.0000	12583.5000	22.449	0.000
WITHIN GROUPS	198	110986.000	560.5352		***
TOTAL	202	161320.000			

S-(P) SOURCE	D.F.	SUM OF SQUARES	MEAN SQUARES	F RATIO	F PROB.
BETWEEN GROUPS	4	2238.5000	559.6250	2.749	0.029
WITHIN GROUPS	198	40303.1875	203.5514		*
TOTAL	202	42541.6875			

S-(N) SOURCE	D.F.	SUM OF SQUARES	MEAN SQUARES	F RATIO	F PROB.
BETWEEN GROUPS	4	514.0625	128.5156	0.674	0.614
WITHIN GROUPS	198	37736.8750	190.5903		
TOTAL	202	38250.9375			

附表 a-2 (2)

S _{--(P)}	SOURCE	D.F.	SUM OF SQUARES	MEAN SQUARES	F RATIO	F PROB.
	BETWEEN GROUPS	4	141.9478	35.4869	1.652	0.161
	WITHIN GROUPS	198	4253.9414	21.4845		
	TOTAL	202	4395.8906			
S _{--(N)}	SOURCE	D.F.	SUM OF SQUARES	MEAN SQUARES	F RATIO	F PROB.
	BETWEEN GROUPS	4	312.1431	78.0358	3.730	0.006
	WITHIN GROUPS	198	4142.1602	20.9200		**
	TOTAL	202	4454.3047			
S _(P-N)	SOURCE	D.F.	SUM OF SQUARES	MEAN SQUARES	F RATIO	F PROB.
	BETWEEN GROUPS	4	31107.6875	7776.9219	11.181	0.000
	WITHIN GROUPS	198	137724.250	695.5769		***
	TOTAL	202	168831.937			

付表 A-3

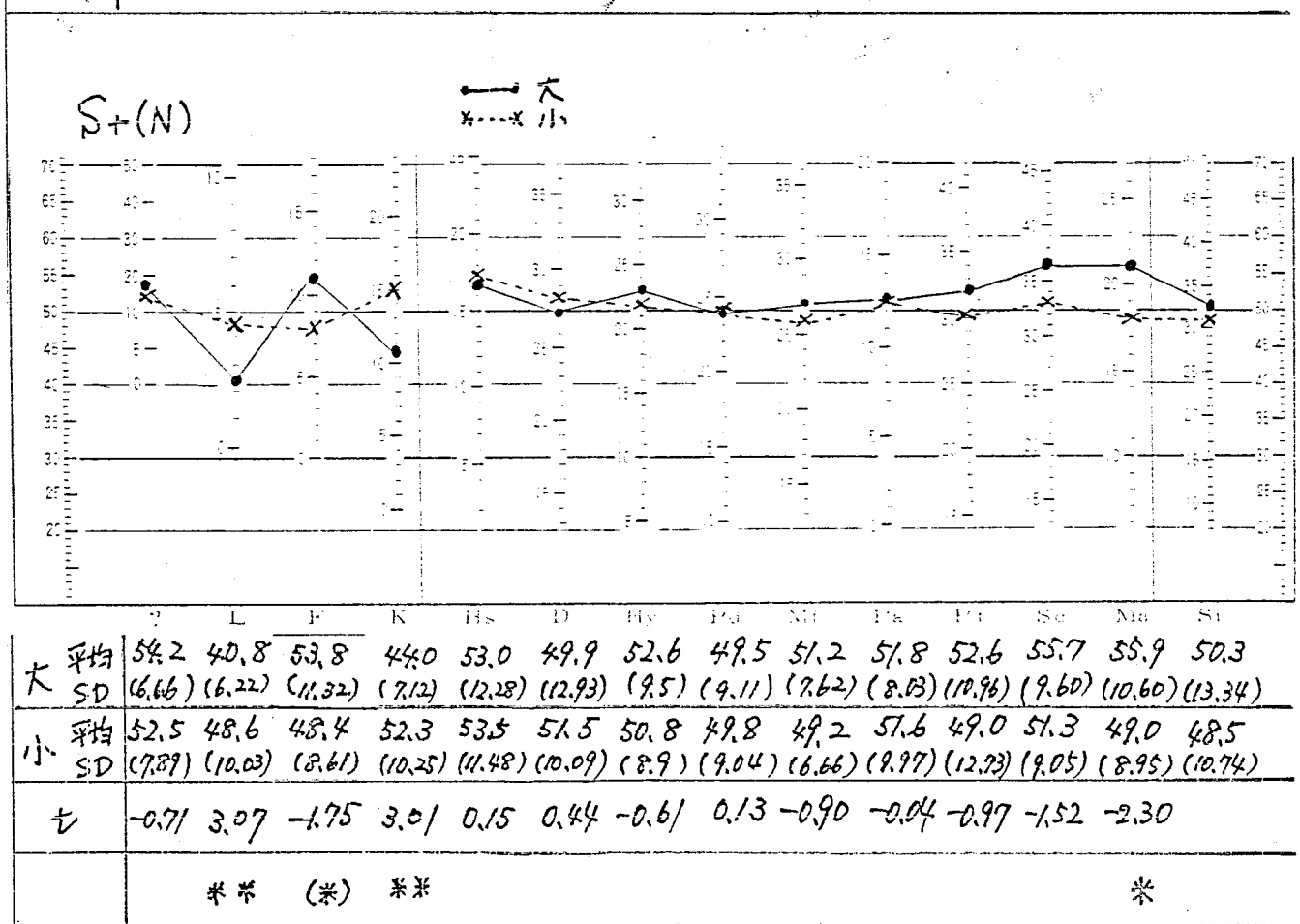
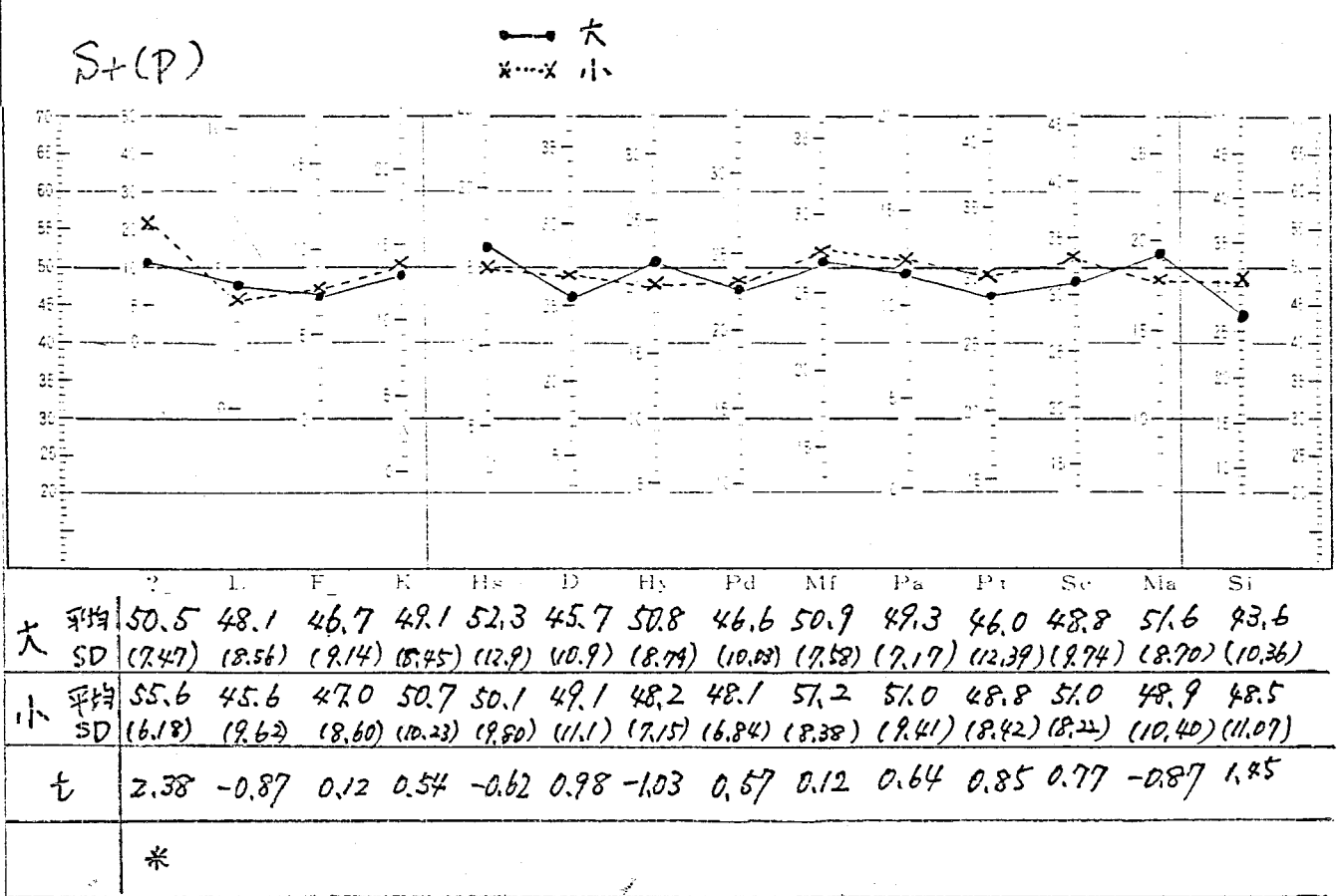
MMPI 各尺度とスコアの相関係数 (1)

相関係数
(r-ス数)
有意水準

をあらわす

Q 疑心点	L 虚構点	F 相当性点	K 点	HS 心気点	D 抑うつ性	HY ヒステリー性	PD 偏倚性	MF 性度	PA 偏執性
S+(P) -0.3482 (.56) S=0.009	0.1075 (.56) S=0.430	0.0644 (.56) S=0.637	-0.0908 (.56) S=0.506	0.1798 (.56) S=0.185	-0.1324 (.56) S=0.331	0.1700 (.56) S=0.210	-0.0697 (.56) S=0.610	0.0190 (.56) S=0.890	-0.0727 (.56) S=0.595
S+(N) 0.0177 (.56) S=0.897	-0.3885 (.56) S=0.003	0.4036 (.56) S=0.002	-0.4750 (.56) S=0.001	0.0488 (.56) S=0.721	-0.0124 (.56) S=0.928	0.1095 (.56) S=0.422	0.0655 (.56) S=0.632	0.2115 (.56) S=0.118	0.1621 (.56) S=0.233
S-(P) 0.1913 (.56) S=0.158	-0.0702 (.56) S=0.607	-0.0587 (.56) S=0.667	0.0708 (.56) S=0.604	-0.1424 (.56) S=0.295	0.0392 (.56) S=0.774	-0.1270 (.56) S=0.351	0.0474 (.56) S=0.728	-0.1061 (.56) S=0.437	0.0973 (.56) S=0.476
S-(N) 0.1603 (.56) S=0.238	-0.0617 (.56) S=0.652	-0.0975 (.56) S=0.475	0.0565 (.56) S=0.679	-0.3477 (.56) S=0.009	-0.0108 (.56) S=0.937	-0.3252 (.56) S=0.014	0.0173 (.56) S=0.899	-0.1845 (.56) S=0.173	0.0213 (.56) S=0.876
S--(P) -0.1784 (.56) S=0.188	-0.0458 (.56) S=0.738	0.0551 (.56) S=0.687	-0.1418 (.56) S=0.297	0.0972 (.56) S=0.476	-0.0742 (.56) S=0.587	0.0135 (.56) S=0.922	0.0499 (.56) S=0.715	-0.0191 (.56) S=0.889	(0.2599) (.56) S=0.053
S--(N) -0.1480 (.56) S=0.276	0.0897 (.56) S=0.511	-0.1339 (.56) S=0.325	0.1764 (.56) S=0.193	-0.0953 (.56) S=0.485	(-0.2602) (.56) S=0.053	-0.0558 (.56) S=0.683	0.0126 (.56) S=0.927	-0.0427 (.56) S=0.755	0.0759 (.56) S=0.578
S+(P+N) -0.3043 (.56) S=0.023	0.4946 (.56) S=0.001	-0.3692 (.56) S=0.005	0.4223 (.56) S=0.001	0.0965 (.56) S=0.479	-0.0957 (.56) S=0.483	0.0251 (.56) S=0.855	-0.1257 (.56) S=0.356	-0.2056 (.56) S=0.128	(-0.2292) (.56) S=0.089

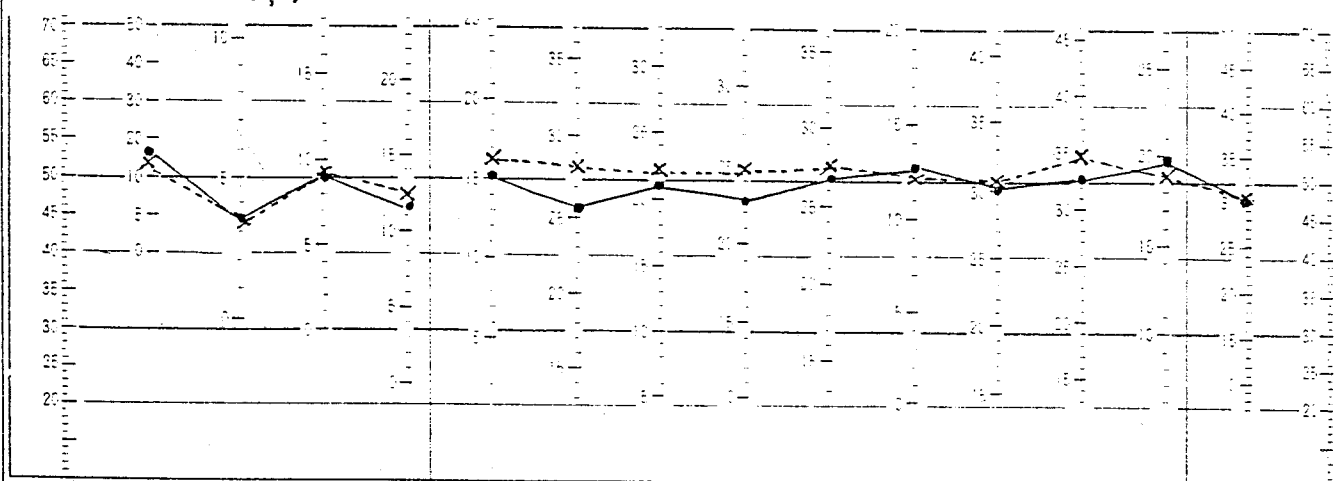
	PT精神衰弱性	SC精神分裂性	MA 軽躁性	SI 社会的向性
$S_+(P)$	-0.0719 (56) S=0.599	0.0303 (56) S=0.825	0.2149 (56) S=0.112	-0.1949 (56) S=0.150
$S_+(N)$	0.2095 (56) S=0.121	0.3213 (56) S=0.016	0.3441 (56) S=0.009	0.1490 (56) S=0.273
$S_-(P)$	0.1298 (56) S=0.340	-0.0105 (56) S=0.939	-0.1664 (56) S=0.220	0.0368 (56) S=0.788
$S_-(N)$	0.0907 (56) S=0.506	-0.0194 (56) S=0.887	(-0.2350) (56) S=0.081	0.0608 (56) S=0.656
$S_{--}(P)$	0.1083 (56) S=0.427	0.0073 (56) S=0.957	0.2126 (56) S=0.116	0.0730 (56) S=0.593
$S_{--}(N)$	0.0328 (56) S=0.810	-0.0790 (56) S=0.563	0.1026 (56) S=0.452	-0.1966 (56) S=0.146
$S(P-N)$	-0.2782 (56) S=0.038	-0.3112 (56) S=0.020	-0.1835 (56) S=0.176	-0.3158 (56) S=0.018



付図 A-4

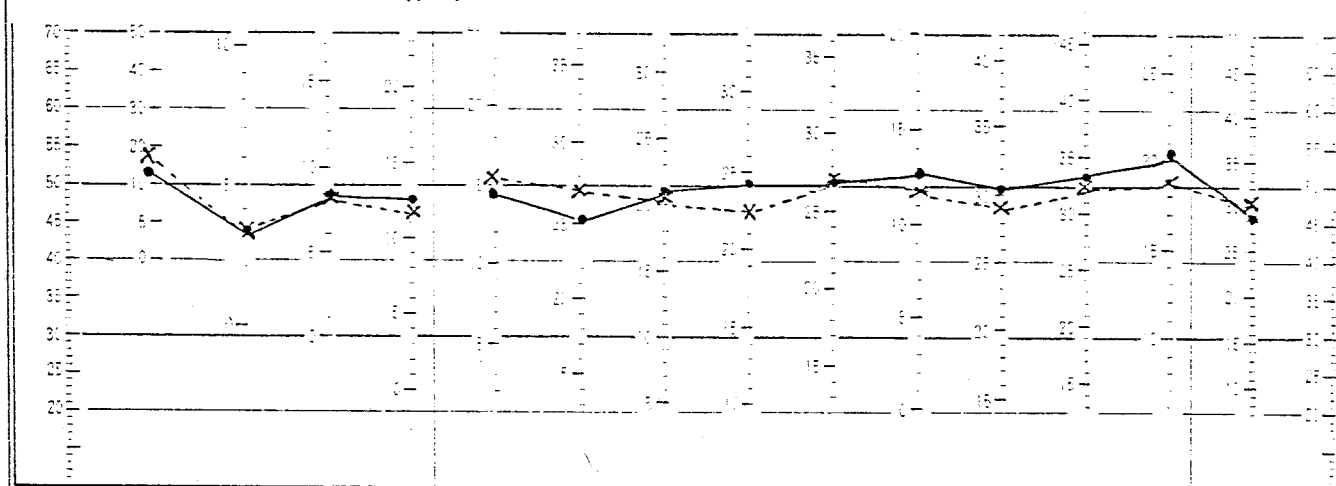
(*) $P < 0.10$ * $P < 0.05$ ** $P < 0.01$ *** $P < 0.001$

S--(P) — 大
- 小



大 平均	53.3	44.4	50.0	47.0	50.2	46.9	49.4	47.5	50.4	52.0	49.3	50.5	53.0	47.6
大 SD	(7.29)	(8.46)	(11.15)	(9.55)	(12.31)	(12.10)	(8.59)	(9.36)	(8.87)	(8.26)	(11.28)	(9.61)	(9.84)	(11.98)
小 平均	52.8	44.0	50.5	48.9	52.7	51.5	51.8	51.3	51.9	51.1	50.0	54.1	51.0	48.2
小 SD	(6.82)	(9.40)	(8.26)	(8.04)	(9.17)	(10.38)	(8.26)	(7.42)	(5.74)	(8.31)	(8.53)	(8.40)	(9.78)	(11.15)
t	-0.26	-0.14	0.17	0.70	0.75	1.39	0.96	1.51	0.68	-0.38	0.12	1.33	-0.73	0.18

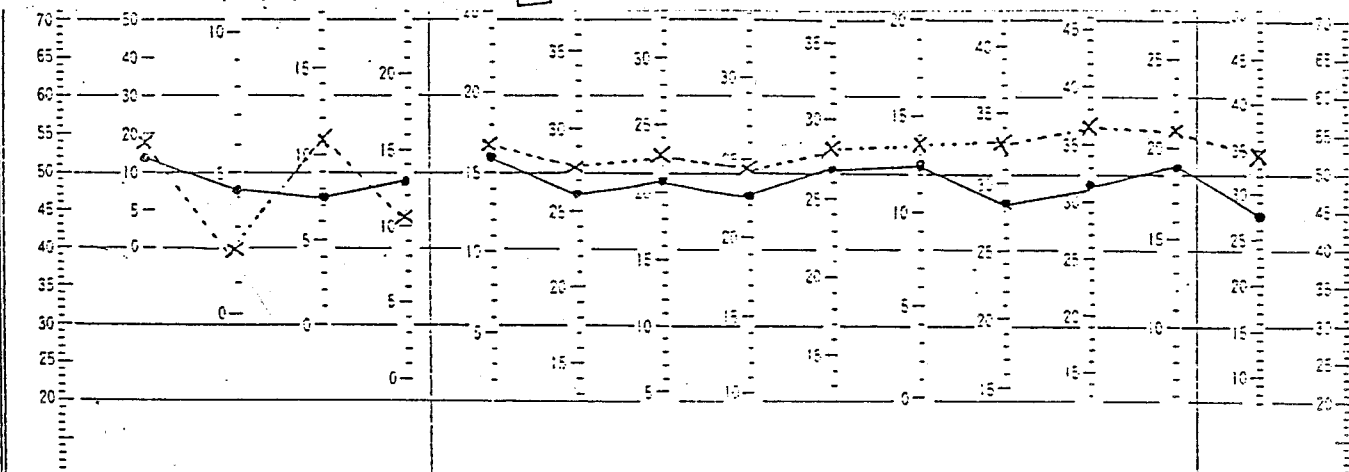
S--(N) — 大
- 小



大 平均	51.8	43.6	49.2	48.7	49.0	45.4	49.7	50.4	50.4	52.0	50.0	51.8	54.0	45.7
大 SD	(6.58)	(8.74)	(8.84)	(8.79)	(9.74)	(9.98)	(8.93)	(8.49)	(8.05)	(6.04)	(9.92)	(7.94)	(9.43)	(11.35)
小 平均	54.3	43.6	49.0	47.3	50.9	49.3	49.6	47.7	50.9	49.9	46.6	51.1	50.4	47.7
小 SD	(7.42)	(8.05)	(7.75)	(8.03)	(11.44)	(12.38)	(9.16)	(9.09)	(8.48)	(9.09)	(9.47)	(7.96)	(10.05)	(10.59)
t	1.16	0.01	-0.08	-0.54	0.56	1.12	-0.05	-0.99	0.18	-0.84	-1.10	-0.28	-1.19	0.59

SCP-N)

—●— 大 \square
 -x-x- 小 \square



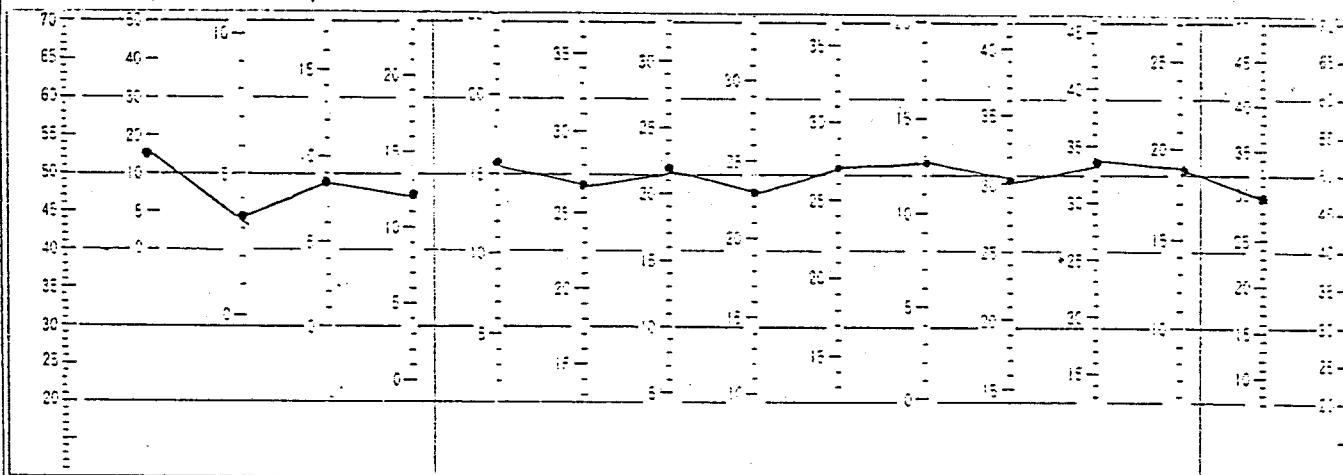
	?	L	F	K	Hs	D	Hy	Pd	Mf	Pa	Pt	Sc	Ma	Si
大 平均	51.6	48.2	47.1	49.9	51.6	47.6	49.9	48.0	50.6	50.9	47.7	48.8	51.3	44.1
SD	(7.54)	(9.06)	(8.23)	(9.59)	(11.72)	(11.70)	(8.24)	(10.17)	(7.60)	(8.20)	(12.90)	(9.46)	(7.90)	(9.0)
小 平均	53.9	39.0	54.2	44.5	53.6	50.2	52.3	50.8	52.8	54.6	54.6	56.6	55.5	52.3
SD	(6.36)	(4.13)	(11.34)	(7.88)	(10.03)	(11.90)	(9.23)	(6.91)	(7.4)	(6.90)	(9.19)	(9.93)	(11.34)	(11.80)
t	1.07	-4.11	2.27	-1.99	0.58	0.68	0.87	1.00	0.95	1.54	1.95	2.54	1.36	2.49

*** * (米)

(米) * *

付図 a-6

MMPI 平均



	?	L	F	K	Hs	D	Hy	Pd	Mf	Pa	Pt	Sc	Ma	Si
MEAN	53.4	44.6	49.7	48.3	51.9	48.9	50.8	48.8	50.7	51.5	49.6	52.0	51.8	47.9
SD	(7.13)	(8.86)	(9.74)	(8.75)	(11.11)	(11.81)	(8.70)	(8.92)	(7.67)	(8.287)	(11.05)	(9.50)	(10.15)	(11.24)

付図 a-7

Q4 (一) 人格統御力の欠落 ^如 または 自我感情の発育不全

- 1 人に対する気持や物事についての興味が変りやすい。.....
- 2 人から軽く見られてもあまり気にしない。.....
- 3 人から批評されると、なるほどと思うより感情を害する方だ。.....
- 4 しつとにかられて行動しやすい。.....
- 21 何かやりたいが何をやっていいか分からないので気持がおちつかない。.....
- 22 人に対して腹をたてやすい。.....
- 23 感情を言葉や態度に表わしやすい。.....
- 24 物事をする時、緊張してエネルギーを使いすぎる。.....

C (一) 自我の弱さ

- 5 何となく体の調子が悪いことがある。.....
- 6 生々しい夢を見て眼がさめることがよくある。.....
- 7 別に目的もないのに物の数をかぞえずにはいられないことが時々ある。.....
- 8 人前で体裁の悪い失敗をしてもすぐ忘れることができる。.....
- 25 度々不幸に出会っても大体明るい気持でいられる。.....
- 26 夜中にふと目がさめて心配事で眠れないことがよくある。.....
- 27 ひどく気がてんとうしても、たいていすぐに落つきを取もどせる。.....
- 28 ふだんは床につくとすぐ眠れる。.....

L 疑い深さ 手には パラノイド型の不安定性

- 9 自分の両親は立派な人だと思う。.....
- 10 人に頼んだことが無理だと分っていても、「駄目だ」といわれるといい気持ちがしない。.....
- 11 あまり親切にされるとその人の本心が疑いたくなる。.....
- 12 私の親（又はそれに代る人）は分らずやだ。.....
- 29 相手が本当に私の話に興味をもっているかどうかと疑うことがある。.....
- 30 気分が重くて人に会いたくないことがよくある。.....
- 31 たいていの人は一寸おかしい（又は変っている）と思う。.....
- 32 人中にいてもふと淋しくてたまらなくなることがある。.....

付表 A-4 つづき

0 罪悪感

- 13 日々の生活をうまくやっていると思う。.....
- 14 子供の時からやみが^き恐かった。.....
- 15 もし生れかわることが出来るなら、ちがったことがしてみたい。.....
- 16 ぼかんとしていたり物忘れをするようなことはほとんどない。.....
- 33 物事がうまくゆかないと泣きたくなる。.....
- 34 ほんの小さなことでくよくよと気に病む。.....
- 35 何かの音（例えばガラスやブリキをこすり合わせるキイキイいう音）をきくといやで身ぶるいする
- 36 心配事を考え出すと不安でたまらなくなることがある。.....

Q: 欲求不満による緊張 対は衝動による緊迫状態

- 17 議論をする時、自分の考えが正しいと確信するまでいうのをひかえることが出来る。
- 18 友達に頼りすぎる方である。.....
- 19 話している中に、いらいらして人に思いがけないことをいってしまうことがある。.....
- 20 危急^{きんぎ}の際でもおちついて行動できると思う。.....
- 37 どんな障害^{しやがい}に出会っても決してはじめの目的をかえない。.....
- 38 困ったことにであうと、興奮したりあわてたりしやすい。.....
- 39 難しい仕事^{しごと}をせねばならないと考えただけでも汗が出たりふるえたりする。.....
- 40 困難にであっても気がくじけない。.....

CAS & THE L.A. TIMES
1988 a-5 <NEGATIVE>

Q	3	C	L	O	4	CAS	Q	3	C	L	O	4	CAS
12 理論的	(-)						112 頭でんから	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)
21 分析的	(-)						121 理くつぽい						
48 厳格な					(-)	(-)	148 しゃくし定現な						(-)
29 しびしい					(-)	(-)	129 新念深い	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)
6 ねばり強い					(-)	(-)	106 しつこい	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)
10 慎重な					(-)	(-)	110 思ひのわるい	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)
1 用心深い					(-)	(-)	101 うたがひ深い	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)
23 てきぱちした	(-)	(-)	(+)	(+)	(-)	(-)	123 せかせかした						
50 エネルギーな					(-)	(-)	150 がむしゃらな						
56 勇猛な					(-)	(-)	156 野郎な						
31 自立的					(-)	(-)	131 独断的	(+)					
13 指導的					(-)	(-)	113 支配的				(-)		
25 男性的	(-)	(-)	(-)	(+)	(+)	(+)	125 男性的/男が						
20 力強い					(-)	(-)	120 力強い	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)
3 気が強い					(+)	(+)	103 力が強い						
41 太い					(-)	(-)	141 ずいずい			(-)			
59 大胆					(-)	(-)	159 おどろおどろ			(+)			
17 陽気な	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	117 ざわがざわ						
8 節制性							108 おしやべり			(-)	(-)	(-)	(-)
51 話し上手	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	151 ロジカル						
45 社交的					(-)	(-)	145 ハルハル						
27 世話好き					(-)	(-)	127 おせっかい						
58 人情に厚い					(-)	(-)	158 情に流れる						
34 熱中する							154 のぼせやすい	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)
36 情熱的					(-)	(-)	136 激しやすい	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)
39 ロマンチック					(-)	(-)	139 理想主義的	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)
33 茶碗の隅を					(-)	(-)	123 知能な	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)
37 執着する					(-)	(-)	137 こじわる	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)
16 一本気					(-)	(-)	116 かんたん	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)
43 古風な					(-)	(-)	143 因循的	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)

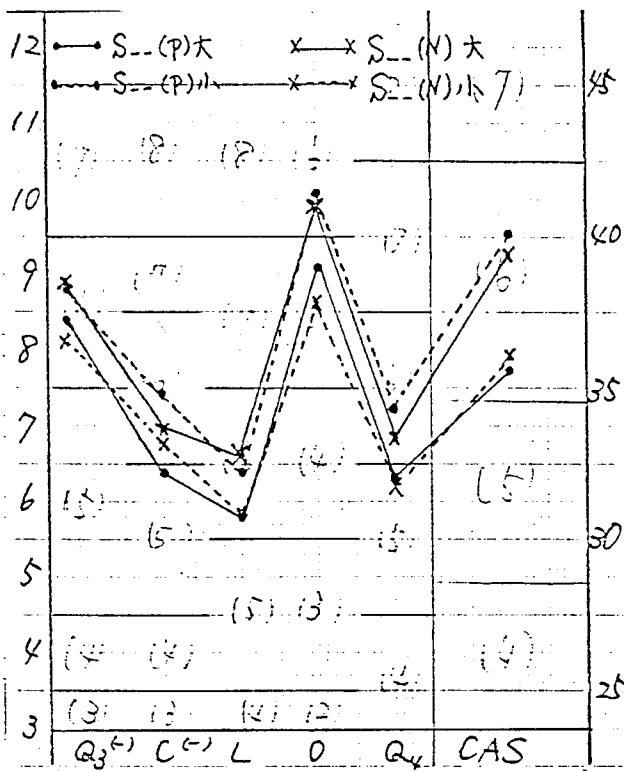
付表 a-6
スコアとCASとの相関

人格統制力
又謙和
自我弱さ
疑心深さ
罪悪感
欲求不満
緊張

	Q ₃ (-)	C(-)	L	O	Q ₄	CAS
S+(P)	-0.2466 **	-0.3474 **	-0.0881	-0.2335 **	-0.4499 **	-0.3779 **
S+(N)	0.3766 **	0.2282 **	0.4081 **	0.3143 **	0.3620 **	0.4577 **
S-(P)	0.1478	0.1299	0.1252	0.1485	0.0950	0.1846 *
S-(N)	0.0211	0.0212	0.0361	0.0234	-0.1307	-0.0179
S--(P)	-0.0610	-0.1220	-0.0802	-0.0997	-0.0543	-0.1196
S--(N)	0.0173	0.0151	0.0700	0.0943	0.0684	0.0751
S(P-N)	-0.4886 **	-0.4344 **	-0.4044 **	-0.4272 **	-0.6184 **	-0.6484 **

* $P < 0.01$ ** $P < 0.001$

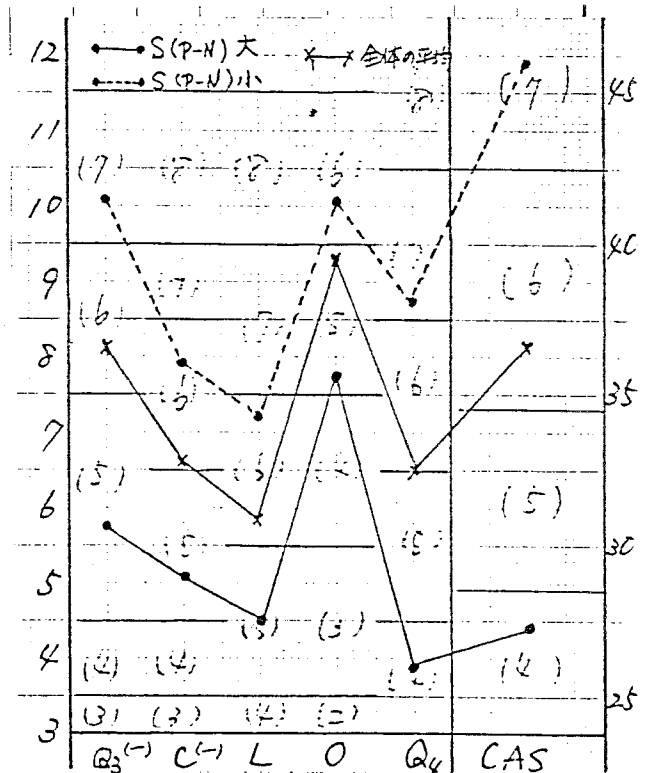
$n=231$



t 0.53 1.96 1.10 1.75 1.50 2.04 $S--(P)$
(*) (*) *

t -1.28 -0.42 -1.54 -1.69 -1.31 -1.87 $S--(N)$,
(*) (*)

スコア($S--(P)$, $S--(N)$)とCAS
付図A-8



t 8.41 6.57 5.96 6.70 10.84 11.15
*** **

スコア($S(P-N)$)とCAS 及び平均値

付図A-9

MAT $r = 101$
CPI $r = 113$
WJ $r = 103$

$r = 0.195$ $p = 0.05$
 $r = 0.254$ $p = 0.01$

< POSITIVE >

< NEGATIVE >

	MAT	CPI	WJ	MAT	CPI	WJ
I						
12 理論的		(-)	(-)	112 頭でかち		(+)
21 分析的				121 理くつぽい		
48 厳格な		-		148 やくし定現な		-
29 しびとい		-		129 執念深い		(-)
6 ねばり強い		-		106 しつこい		
10 慎重な				110 思いのたけのわるい		
1 用心深い				101 うにがいに深い		
23 てきぱちした	(-)			123 せかせかした		
50 大胆な		(-)		150 がむしゃらな		
56 勇猛な		-		156 野蠻な		
31 自立の				131 独断的		(-)
13 指導的				113 支配的		-
25 男性的		(-)		125 雄ぬい男ざり		(-)
20 世刀重入		-		120 ずけずけいう		
3 気が強い				103 殺がつよい		-
41 大胆な				141 ずぶとい		
59 大胆				159 あこがれ		
17 陽気な	-			117 ざわがしい		
8 話し好き				108 おしゃべり		
51 話し好き				151 ロジック		
45 社交的				145 八方美人		
27 世言知恵		(-)		127 おせっかい		
58 人情に厚い		(-)		158 情に流される		-
54 熱中する		(-)		154 のほぼせやすい		
36 情熱的		-		136 激しやすい		
39 ロマンチック				139 現実離れした		(+)
33 茶碗つりのある				133 幼稚な		
37 執着する		(-)		137 ぶさける		
16 一本気	-	(-)		116 がんこ		
11 古風な				143 因循的		

	MAT	CPI	WJ	MAT	CPI	WJ
II						
12 理論的				112 頭でかち		(+)
21 分析的				121 理くつぽい		
48 厳格な				148 やくし定現な		-
29 しびとい				129 執念深い		(-)
6 ねばり強い				106 しつこい		
10 慎重な				110 思いのたけのわるい		
1 用心深い				101 うにがいに深い		
23 てきぱちした	(-)			123 せかせかした		
50 大胆な		(-)		150 がむしゃらな		
56 勇猛な				156 野蠻な		
31 自立の				131 独断的		(-)
13 指導的				113 支配的		-
25 男性的				125 雄ぬい男ざり		(-)
20 世刀重入				120 ずけずけいう		
3 気が強い				103 殺がつよい		-
41 大胆な				141 ずぶとい		
59 大胆				159 あこがれ		
17 陽気な	-			117 ざわがしい		
8 話し好き				108 おしゃべり		
51 話し好き				151 ロジック		
45 社交的				145 八方美人		
27 世言知恵		(-)		127 おせっかい		
58 人情に厚い		(-)		158 情に流される		-
54 熱中する		(-)		154 のほぼせやすい		
36 情熱的		-		136 激しやすい		
39 ロマンチック				139 現実離れした		(+)
33 茶碗つりのある				133 幼稚な		
37 執着する		(-)		137 ぶさける		
16 一本気	-	(-)		116 がんこ		
11 古風な				143 因循的		

	MAT	CPI	WJ	MAT	CPI	WJ
III						
12 理論的				112 頭でかち		(+)
21 分析的				121 理くつぽい		
48 厳格な				148 やくし定現な		-
29 しびとい				129 執念深い		(-)
6 ねばり強い				106 しつこい		
10 慎重な				110 思いのたけのわるい		
1 用心深い				101 うにがいに深い		
23 てきぱちした	(-)			123 せかせかした		
50 大胆な		(-)		150 がむしゃらな		
56 勇猛な				156 野蠻な		
31 自立の				131 独断的		(-)
13 指導的				113 支配的		-
25 男性的				125 雄ぬい男ざり		(-)
20 世刀重入				120 ずけずけいう		
3 気が強い				103 殺がつよい		-
41 大胆な				141 ずぶとい		
59 大胆				159 あこがれ		
17 陽気な	-			117 ざわがしい		
8 話し好き				108 おしゃべり		
51 話し好き				151 ロジック		
45 社交的				145 八方美人		
27 世言知恵		(-)		127 おせっかい		
58 人情に厚い		(-)		158 情に流される		-
54 熱中する		(-)		154 のほぼせやすい		
36 情熱的		-		136 激しやすい		
39 ロマンチック				139 現実離れした		(+)
33 茶碗つりのある				133 幼稚な		
37 執着する		(-)		137 ぶさける		
16 一本気	-	(-)		116 がんこ		
11 古風な				143 因循的		

	MAT	CPI	WJ	MAT	CPI	WJ
IV						
12 理論的				112 頭でかち		(+)
21 分析的				121 理くつぽい		
48 厳格な				148 やくし定現な		-
29 しびとい				129 執念深い		(-)
6 ねばり強い				106 しつこい		
10 慎重な				110 思いのたけのわるい		
1 用心深い				101 うにがいに深い		
23 てきぱちした	(-)			123 せかせかした		
50 大胆な		(-)		150 がむしゃらな		
56 勇猛な				156 野蠻な		
31 自立の				131 独断的		(-)
13 指導的				113 支配的		-
25 男性的				125 雄ぬい男ざり		(-)
20 世刀重入				120 ずけずけいう		
3 気が強い				103 殺がつよい		-
41 大胆な				141 ずぶとい		
59 大胆				159 あこがれ		
17 陽気な	-			117 ざわがしい		
8 話し好き				108 おしゃべり		
51 話し好き				151 ロジック		
45 社交的				145 八方美人		
27 世言知恵		(-)		127 おせっかい		
58 人情に厚い		(-)		158 情に流される		-
54 熱中する		(-)		154 のほぼせやすい		
36 情熱的		-		136 激しやすい		
39 ロマンチック				139 現実離れした		(+)
33 茶碗つりのある				133 幼稚な		
37 執着する		(-)		137 ぶさける		
16 一本気	-	(-)		116 がんこ		
11 古風な				143 因循的		

Philosophy

- ①, はほとんどすべての問題には解決法がある。
- 2, 私は、たとえそれが全く時間の無駄になるかもしれないとしても、新しい考えを思いめぐらすのが好きである。
- ③, もし、あなたが何らかの基本的な法則に忠実でなければ、この世界では何もなしとげられない。
- 4, 私は、正しい事と間違っただ事の間には、結局のところ際だった違いがあるとは思わない。
- ⑤, 一般に、社会がはっきり定義された規則を持てば持つ程、それはよりよく運営される。
- ⑥, 個人的には、私は、何をするにしても正しい方法と間違っただ方法があると考えがちだ。
- ⑦, 私は、常に自分自身をコントロールできているという確かさが好きだ。

Interpersonal communication

- ⑧, 私は、人々に対して歯に衣をきせず物を言いがちだ。
- ⑨, 人々が、他の質問をすることによって、私の質問に対する答えを避けるのには閉口する。
- ⑩, 私は、人が自分自身の率直な意見をださない時というのが本当にきらいだ。
- ⑪, 私は、他の人の考えの脈絡がつかめない時には、全く当惑してしまう。
- ⑫, 私は、私の考えを自分自身の中にしまいこめばすむことを、人々にきられるかもしれないと思いながらも、その人たちに話してしまうことがよくある。

Public Image

- ⑬, もし、色々な私の親友が私についてのちぐはぐな意見を持っていたら、私は困るだろう。
- ⑭, 私は、いつも、人々が何を笑っているのかしりたい。
- ⑮, 私の行動が他人にどのように影響を与えているかがはっきりしない時、私はひどく当惑してしまう。
- ⑯, 見知らぬ人が私にどのように反応するかわからない時、私は困る。

○印 逆転項目

(ただし 実際の得点化の際には
逆得点 → High Tolerance とするよう換算する)

Job-Related

- ① 7, 仕事場でのコミュニケーションの欠如が大きい時、私は本領を発揮できない。
- ① 8, 他人が私を評する時には、はっきりした明白な評価がなされる必要が大いにあると感じる。
- ① 9, もし、私が仕事の責任をとれるかどうか確かでないならば、私はとても不安になる。
- ② 0, もし、私が科学者だったら、私の仕事は完成されることがないだろうから、私は欲求不満になるだろう（科学は常に新しい発見をうみだす）。
- 2 1, もし、私が医者だったら、私は外科医やX線技師のような、はっきりして明確な仕事よりも、精神科医のような、はっきりしないものの方を好むだろう。

Problem-Solving

- ② 2, 私は、ひとたび仕事を始めたら、それが終わる前に他の仕事に手をつけるのは好きではない。
- ② 3, どんな重要な仕事の前でも、私は、それがどれだけの時間を要するかを必ず調べておく。
- ② 4, グループで問題の解決にあたる時、体系的にその問題にアタックするのが常に最良である。
- ② 5, 解決法があるとは思えないような問題には、私は余り魅力を感じない。
- ② 6, グループで事業をする時、私は、その事業が成功するであろうという保証がな いままスタートするのは好きではない。
- ② 7, 問題を処理するための十分な情報がないような意思決定の場面では、私は不愉快になる。
- ② 8, 私は、明快で疑う余地のない答えが出る可能性がなければ、その問題に手をつけるのは嫌いである。
- ② 9, 私は、複雑な問題に直面した時、その問題についての全体的な視野からの明確な考えが持てた時に限り、興味をもつ。
- ③ 0, グループ・ミーティングは、明確な議題日程がある時、一番よく機能する。

Social

- 3 1, 私は、ほとんどが知っている人たちばかりのパーティーが一番楽しめるようだ。
- 3 2, パーティーに行く前に、私はいつでも、それがどんな種類のパーティーなのかを知りたい。
- 3 3, 私は、私がほとんど口出しできないような集まりの時、かなり不安になる。
- 3 4, 私は、新しいグループに入る度に、自分から進んで自己紹介をする。
- 3 5, 第一印象は、私にとってはとても重要に思われる。
- 3 6, 私は、ふらっと外出する時でも、心の中ではあいまいながら目的を持っていることが好きである。
- 3 7, 私は、ある人々の行動が理解できなければ、彼らに対して少し不愉快になる。
- 3 8, 私は、ある人々に対して、彼らについての何かがわかるまでは、うちとけた気分になれない。
- 3 9, 私は、私が本当に頼れる友人が何人いるか、正確につかんでいる。

Habit

- 4 0, 私は、夕食の献立が何であるかをあらかじめ知っている方が好きである。
- 4 1, 私は、長旅をする時は、その行程を覚えているのが好きである。
- 4 2, 私は、価格が明示されてなければ、その商品を買うことを考えない。
- 4 3, その日が何日であるかを知ることが、私には重要なことである。
- 4 4, 私は、選挙結果を聞くのを待つ時、とても不安になる。
- 4 5, 私は、いつも時間を知りたがる。
- 4 6, 私は、セールスマンに聞く前に、彼が何を売っているのかを知りたい。
- 4 7, 人が、何の連絡もなく約束の時間に遅れてくるのは、本当に出る。
- 4 8, もし、私が冗談の意味がわからなければ、私はそれを理解するまで、すっきりしない。
- 4 9, 私は、後になってから、心の中で私の会話を注意深く言い直すのが楽しい。
- 5 0, 外出する前に、私はいつも、身なりがきちんとなっていることを確かめるためにチェックをする。
- 5 1, 私は、あいまいな状況に耐えられる。
- 5 2, ジグソー・パズルをやる時の一番気分のいい作業は、最後の一片をはめこむことである。

Art Forms

a-8

5 3, 私は、あいまいな、意味が認められた芸術作品を好む傾向がある。

(5 4), 神秘主義は、私にとって、真剣に考えるには抽象的で漠然としすぎている。

(5 5), もし、いい映画の出だしを見そこなったら、私はそれを見るために、映画館に居座るのが好きだ。

5 6, 漠然とした印象派的な絵の方が写実的な絵よりも、私に訴えるものを持っている。

(5 7), 私は、構成に完全なバランスが保たれている絵の方を好む傾向がある。

(5 8), 私は、結末が明確な映画や小説が好きだ。

5 9, 一般に、多くの意味を持っている詩ほど、私は好きである。

(6 0), 詩は矛盾を含んでいないはずである。

(6 1), 詩や小説の正しい解釈は、結局のところ、作者の解釈である。

○印 逆転項目

第3章

C. スコアによるまとめ

付表 C-1 113

付表 C-2 114

付表 C-3 115

付表 C-4 115

付表 C-5 116

付表 C-6 116

713人中

記号		プロフィール	マ-7	Range	n	同時に もつたスコア/マ-2
S--(P)	大			5~22	226	S+(P)大, S-(P)(N)大 S--(N)大 S(P-N)大
		男女差	大学差		学部差	学科差

a. プロフィールより... 対立性項目では どちらかに. 共存性項目では 両方につけるタイプ

b. 相関の高い項目... 「指導的」「大胆」「自立的」「てきぱちした」「独断的」など「活動的」「話しようが」「社交的」「現実的」「実利的」「人っほい」「臨機応変」でもある。せ渡りしようす?

c. Y-Gより... (「抑うつ性小」)「活動的」「支配性大」(「社会的外向」)
(化傾向) (化傾向)

d. MMPIより...

e. CASより... 「C(自我の弱さ)」「O(罪悪感)」で より 低不安の化傾向
「全体」で 低不安

f. MAT, CPI, WJより...

付表C-2

S--(P) 小群

713人中

記号		プロフィール	マ-7	Range	n	同時に もつたスコア/マ-2
S--(P)	小			-13~0	225	S+(P)小, S-(P)(N)小 S--(N)小 S(P-N)小
		男女差	大学差		学部差	学科差

a. プロフィールより... 対立性項目、共存性項目 とともに やや細く均衡的につけるタイプ。

b. 相関の高い項目... 「気が弱く」「小心」で「なよなよとした」「おっとりした」「温室育ち」「女性的」で「おとなしい」。「口数少な」<「人づきあいの悪い」タイプ。

c. Y-Gより... (やや「抑うつ性大」)「非活動的」「服従的」(やや「社会的内向」)

d. MMPIより...

e. CASより... C(自我の弱さ) O(罪悪感) で 不安が高い化傾向にあり。
「全体」でも 高不安。

f. MAT, CPI, WJより...

付表C-3 S--(N) 大群 713人中 115						
記号		プロフィール	マ-7	Range	n	同時にもとめられるスコア/マ-7-2
S--(N)	大			4~17	273	S+(N)大, S-(P)(N)大 S--(7)大
		男女差	大学差		学部差	学科差
		女 > 男	男子・女子とも仏教大に多い			

a. プロフィールより... 対立性項目ではどちらかに、共存性項目では両方につけるタイプ。

b. 相関の高い項目... 「陽気な」「さわがしい」「話し好き」「おしゃべり」など 社会的 外向
「なげやりな」「軽率な」「気軽な」「など」 のんき (非内省的)
「エネルギッシュな」「せかせかした」など 活動的

c. Y-Gより...
「活動的」「のんき」(衝動的) 「支配的」「社会的 外向」(主導的)
型は B型 D型.

d. MMPIより...

e. CAS より... (「O(罪悪感)からくる不安が高い化傾向」) (「全体」も高不安の化傾向)

f. MAT, CPI, WJ より... MAT 「Philosophy」「Job Related」「Problem Solving」
Tolerance 高い. (「Public image」) 高の傾向

付表C-4 S--(N) 小群 713人中						
記号		プロフィール	マ-7	Range	n	同時にもとめられるスコア/マ-7-2
S--(N)	小			-15~0	258	S+(N)小, S-(P)(N)小 S--(P)小
		男女差	大学差		学部差	学科差
		男 > 女	男子・女子とも京大に多い			

a. プロフィールより... 対立性項目、共存性項目ともに、細く、均衡的につけるタイプ。

b. 相関の高い項目... 「もの静か」「口数少ない」「人づきあいの悪い」「情がうすい」など 社会的 内向性.
「おとなしく」「細心」「気の弱い」. 「理論的」で「冷静」でもある。

c. Y-Gより... 「非活動的」「のんきでない」(非衝動的) 「服従的」「社会的 内向」(非主導的)
型は A型 E型.

d. MMPIより...

e. CAS より... (「O(罪悪感)」の因子で低不安の化傾向)

f. MAT, CPI, WJ より... MAT 「Philosophy」「Job Related」「Problem Solving」
Tolerance 低い (「Public image」) 低の傾向

記号		プロフィール	マ-7	Range	n	同時にも[+]するスコア/マ-2
S(P-N)	大	肯定型	○	33~122	232	S+(P)大, S+(N)小 S-(P)小 S--(P)大
		男女差	大学差		学部差	学科差
		女>男	女音大が最大		文・法・最も大	体・特体・理・大

a. プロフィールより... 肯定型

b. 相関の高い項目... 「てきぱちしる」「エネルギー」「自立的」など 活動的。
「陽気」「ロジカル」でかつ「開明ほうず」「冷静な」「臨機応変の」
「融通がきく」など 情緒安定。「ねばり強く」かつ「あさりしている」。

c. Y-Gより... 「情緒安定」「客観的」「協調的」「活動的」「のんきでない」「主導的」
型は D型 A型。

d. MMPIより... 「L」「K」が高く、「F」が低い。「Sc(精神分裂性)」低く「Si」外向。
(「Pt」(精神衰弱性)も低い傾向)

e. CASより... 「すべての因子」及び「全体」で低不安。特に差の大きいのは
「Q4 欲求不満緊張」「Q3⁽¹⁾ 人格統御力欠如^如」

f. MAT, CPI, WJより... MAT 「Public image」「Job related」で Tolerance 高

付表C-6

S(P-N)小群

713人中

記号		プロフィール	マ-7	Range	n	同時にも[+]するスコア/マ-2
S(P-N)	小	否定型	X	-83~9	242	S+(P)小 S+(N)大 S-(P)大 S--(P)小
		男女差	大学差		学部差	学科差
		男>女	女、京大が ^{S(P-N)} 最小		理、最も小 ^{S(P-N)}	国文 英文 ^{S(P-N)} 小

a. プロフィールより... 否定型

b. 相関の高い項目... 「幼稚な」「こだわる」「執着する」など 情緒不安定。「陰気」で「人付き合い悪く」
「気が弱く」「小心」。「思いきりかわるく」かつ「なげやり」で「L-ズ」「軽率」

c. Y-Gより... 「情緒不安定」「主観的」「非協調的」「非活動的」「のんき」「非主導的」
型は E型 B型。

d. MMPIより... 「L」「K」低。「F」高。「Sc」高く、「Pt」やや高い。「Si」内向。
^{of}
(KとMASは-0.67
の相関)
Kと負の方向に相関(強固的精神分裂性)

e. CASより... 「すべての因子」及び「全体」で高不安。特に「Q4 欲求不満緊張」「Q3⁽¹⁾ 人格統御力欠如^如」

f. MAT, CPI, WJより... MAT 「Public image」「Job related」で Tolerance 低

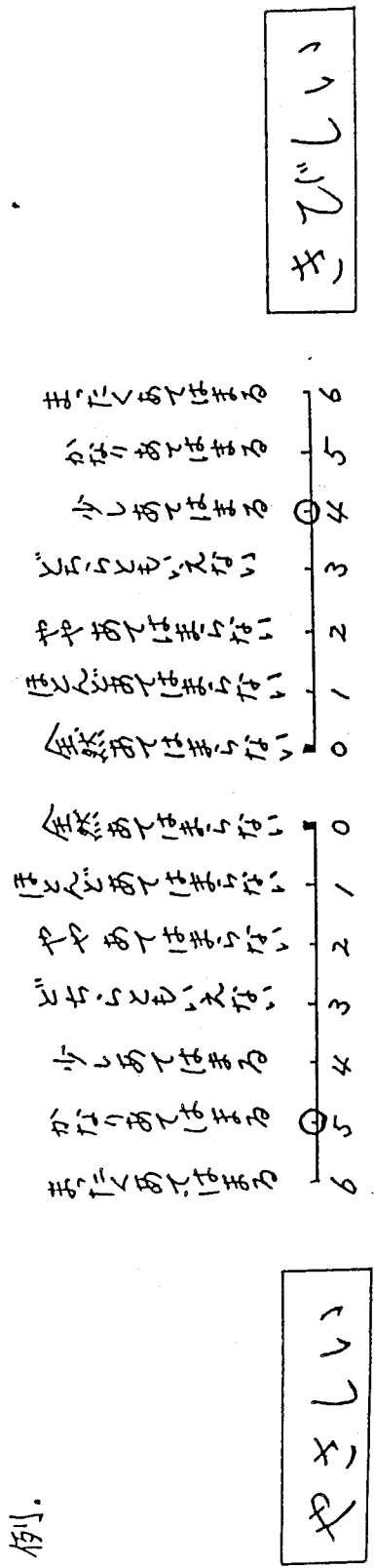
T.S.P.S.-pre.I

実施月日	月 日	
年 令	才	男・女
氏 名		

- ・ 質問の意味をあまり深く考えないで 気軽に、ささと答えてください。
「正しい答」とか「まちがった答」とかは ありません。
順々に全部の項目に 答えてください。

2ページから3ページに、性格をあらわすことばが対になって並んでいます。
 それぞれのことばが自分にとってどの程度あてはまるかを考えて、
 次のようにつけてください。

例.



■ 左の語と右の語について、それぞれ独立に、どの程度あてはまるかを考えて
 あてはまるところに○印をつける。

上の例は やさしい については「かなりあてはまる」
きびしい については「少しあてはまる」場合の答え方です。

用心深い

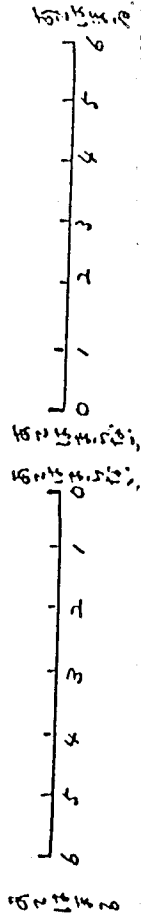
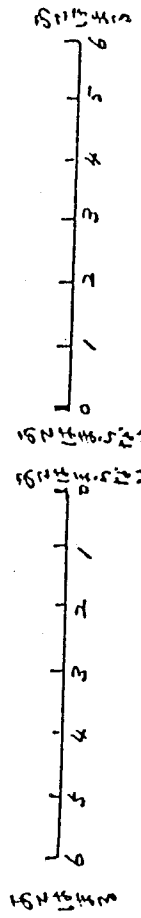
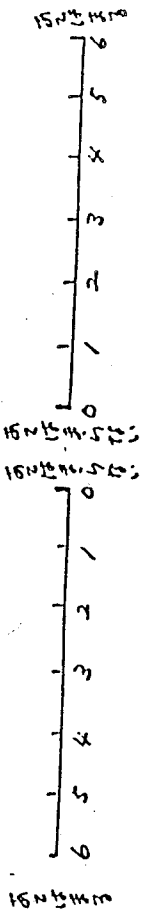
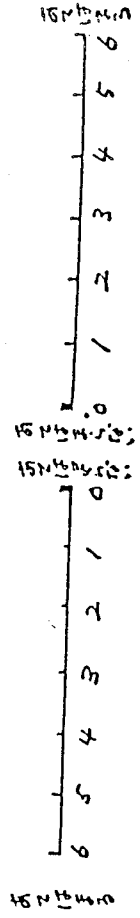
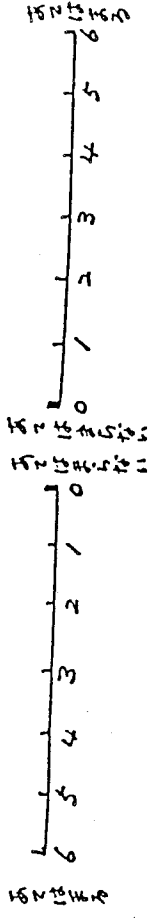
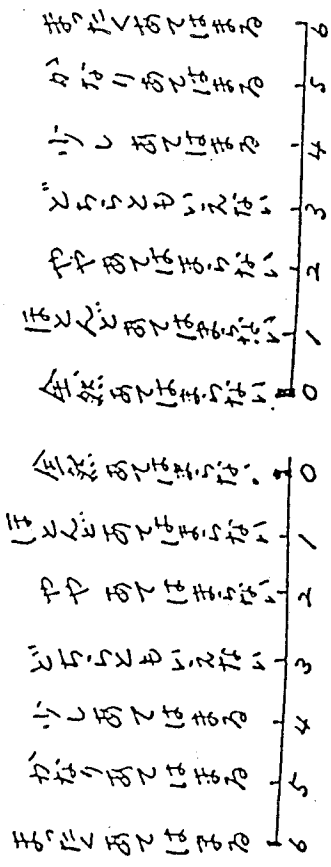
気が強い

あきらめのよい

口数少ない

気軽な

実際の



のん気な

おとなしい

ねばり強い

話し好き

慎重な

理論的

指導的

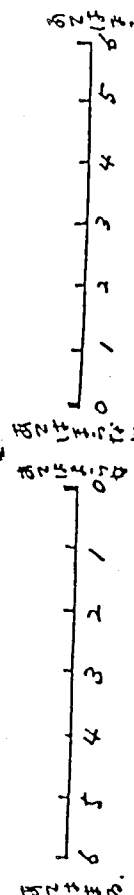
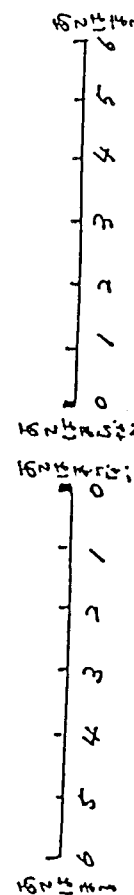
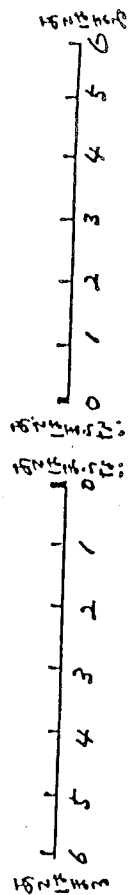
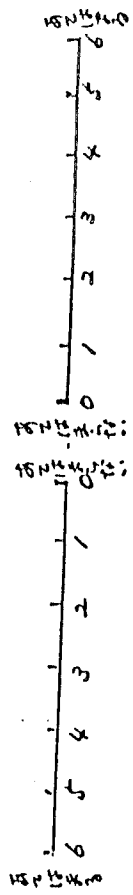
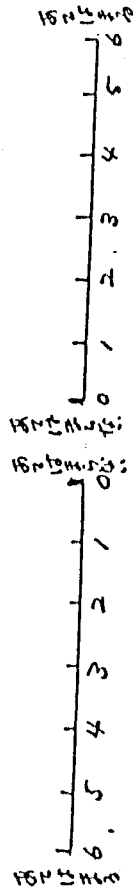
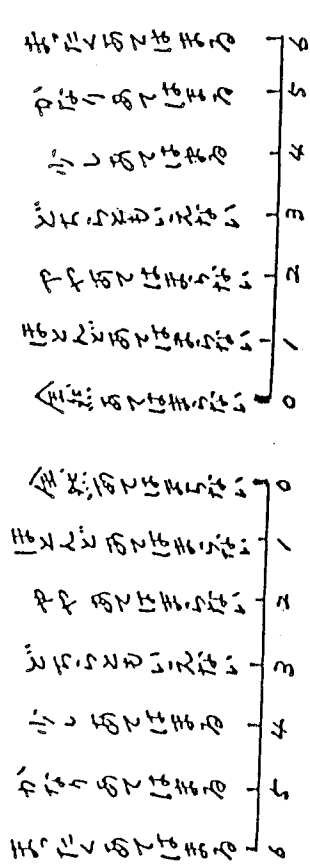
融通がきく

陽気な

それとなくいう

分析的

てきぱきした



従順

一本気

もの静か

単刀直入

直観的

おっとりした

男性的

(13)

世話好き

(14)

しぶとい

(15)

自立的

(16)

茶めっけのある

(17)

冷静な

(18)

女性的

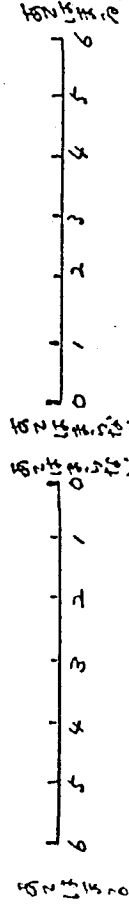
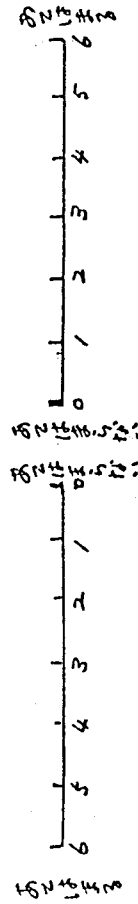
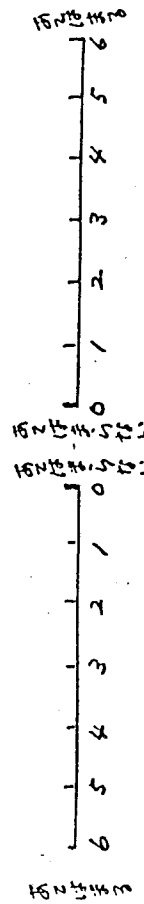
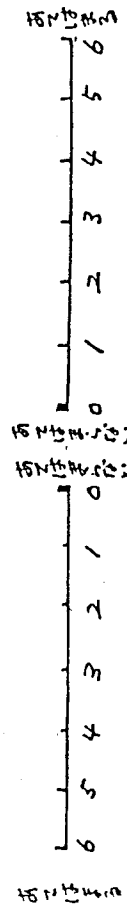
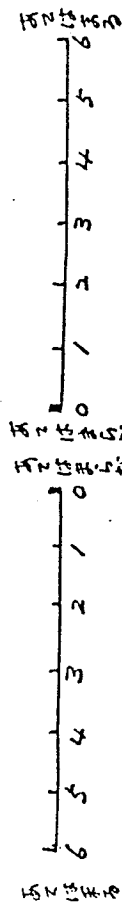
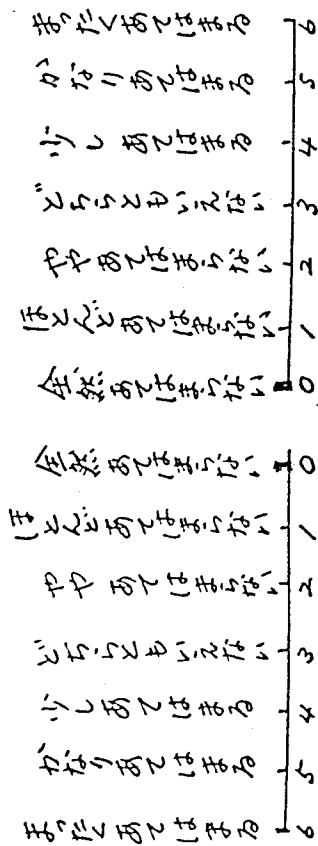
人に干渉しない

あっさりした

協調的

大人っぽい

情熱的



執着する

(19)

ロマンチックな

(20)

太っ腹な

γ (21)

古風な

(22)

社交的

(23)

おおやうな

(24)

臨機応変の

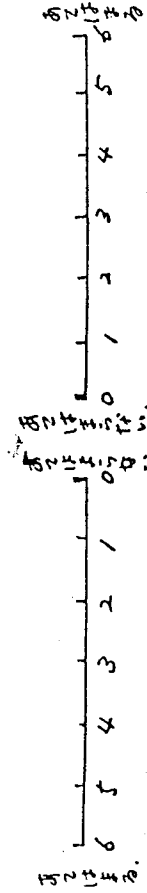
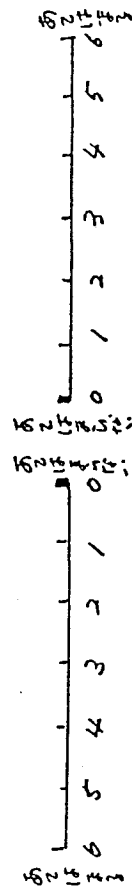
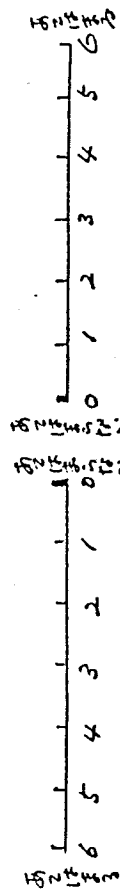
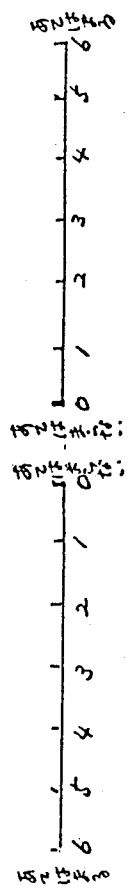
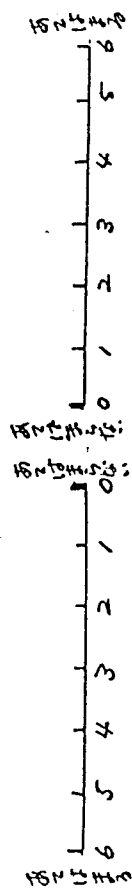
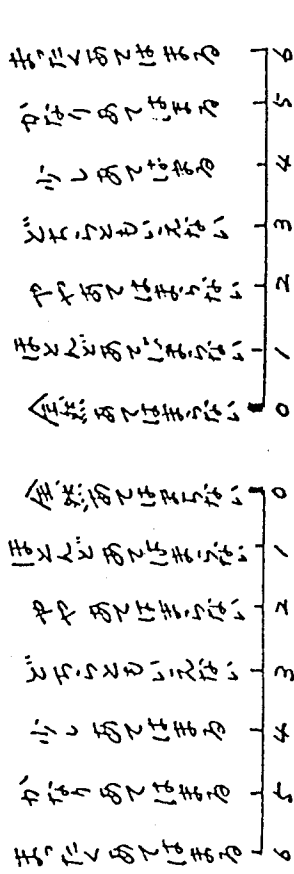
現実的な

デリケートな

現代的な

孤独を好む

厳格な



エネルギッシュな

聞きよし

熱中する

勇猛な

人情に厚い

細心

まだあてはまる 6
かなりあてはまる 5
少しあてはまる 4
どちらともいえない 3
ややあてはまらない 2
ほとんどあてはまらない 1
全然あてはまらない 0

全然あてはまらない 0
ほとんどあてはまらない 1
ややあてはまらない 2
どちらともいえない 3
少しあてはまる 4
かなりあてはまる 5
まだあてはまる 6

あてはまる 6
あてはまる 5
あてはまる 4
あてはまる 3
あてはまる 2
あてはまる 1
あてはまる 0

あてはまる 6
あてはまる 5
あてはまる 4
あてはまる 3
あてはまる 2
あてはまる 1
あてはまる 0

あてはまる 6
あてはまる 5
あてはまる 4
あてはまる 3
あてはまる 2
あてはまる 1
あてはまる 0

あてはまる 6
あてはまる 5
あてはまる 4
あてはまる 3
あてはまる 2
あてはまる 1
あてはまる 0

あてはまる 6
あてはまる 5
あてはまる 4
あてはまる 3
あてはまる 2
あてはまる 1
あてはまる 0

あてはまる 6
あてはまる 5
あてはまる 4
あてはまる 3
あてはまる 2
あてはまる 1
あてはまる 0

のんびりした

話しよし

淡々とした

おっとりした

クールな

大胆

(25)

(24)

(23)

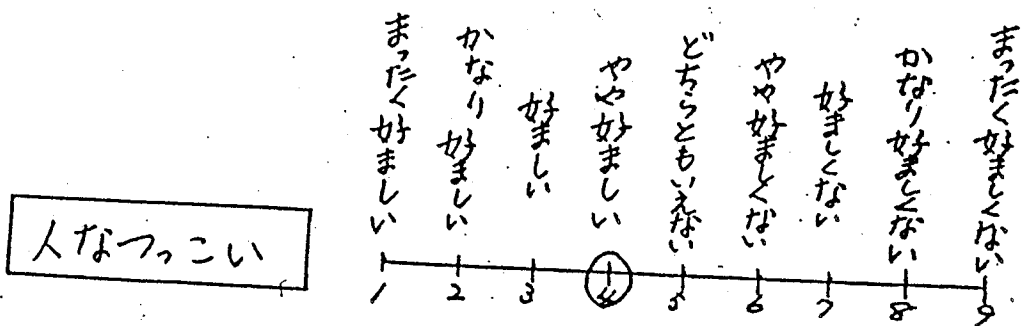
(22)

(21)

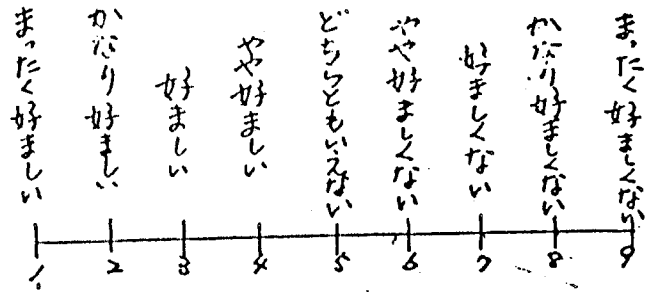
(20)

Desirability

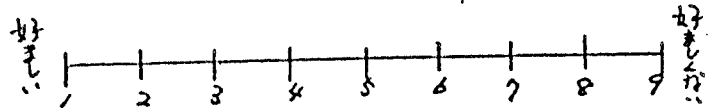
- ② 次に、今までと同じように 性格をあらわすことばが 並んでいます。
今度は、(1)から(60)までの ひとつひとつのことばによって表現される
ひとつが、あなたにとってどの程度 好ましいかを 評価して下さい。
たとえば、あなたがほかの誰かに対して “人なつこい” という
ことばを使う場合、やや好ましいというニュアンスをもって使っている
のなら、下の 9段階の 答のうち、あてはまる 4の番号を○で
囲んでください。なお、9段階の好ましさの程度を表現
するのに 便宜的に “まったく”とか “かなり”といった ことばを
使いましたが、1から 9までは 同じ程度で 変化しているものと
考えて下さい。



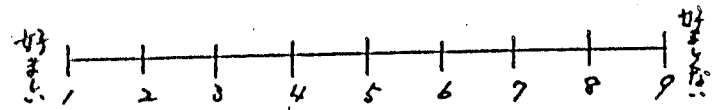
(1) 用心深い



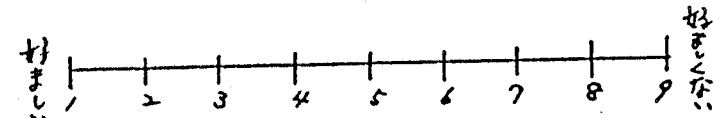
(2) のん気な



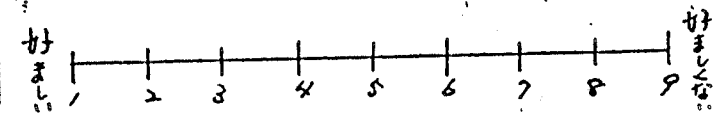
(3) 気が強い



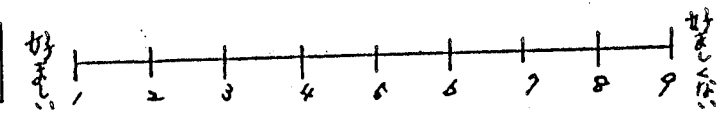
(4) おとなしい



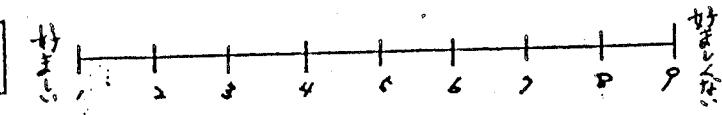
(5) めきらめのよい



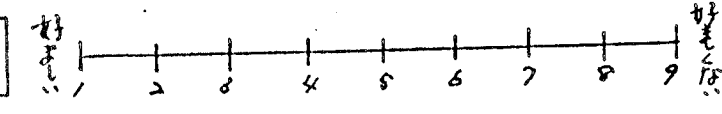
(6) ねばり強い



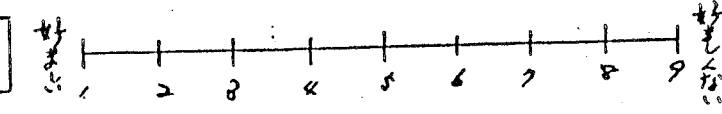
(7) 口数少ない



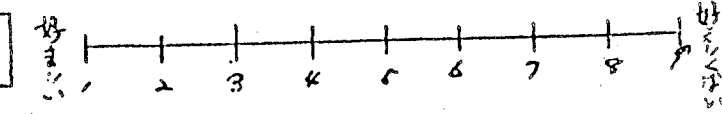
(8) 話し好きな



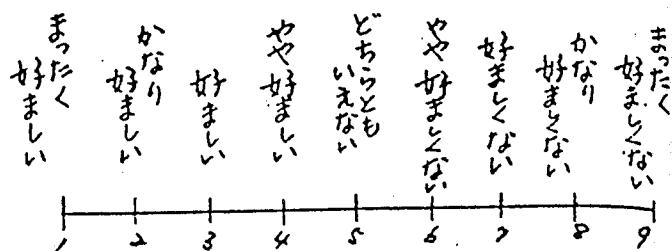
(9) 気軽な



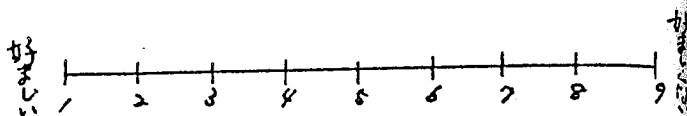
(10) 慎重な



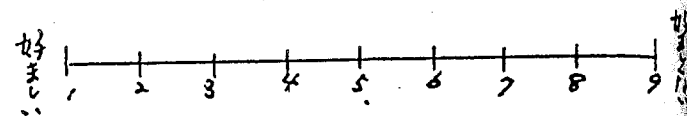
11) 実 際 的



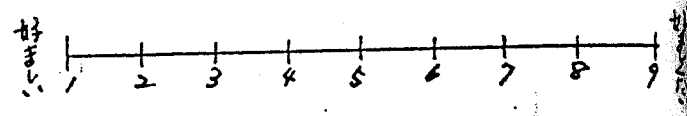
12) 理 論 的



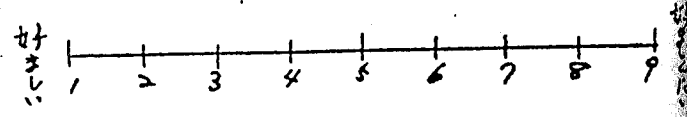
13) 指 導 的



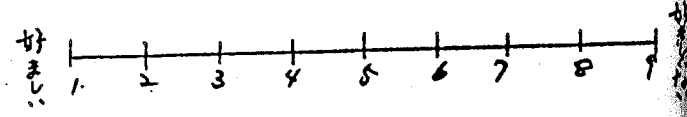
14) 従 順



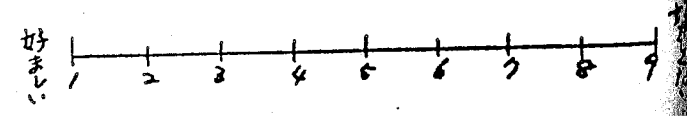
15) 融 通 が ぎ く



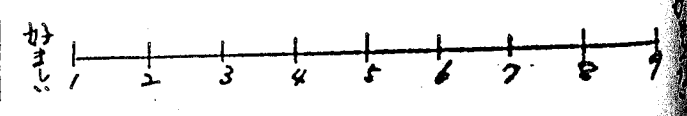
16) 一 本 気



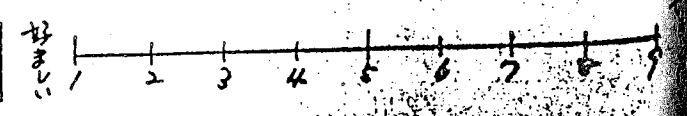
17) 陽 気 な



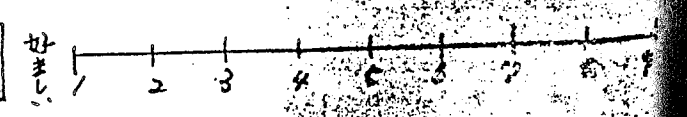
18) も の 静 か



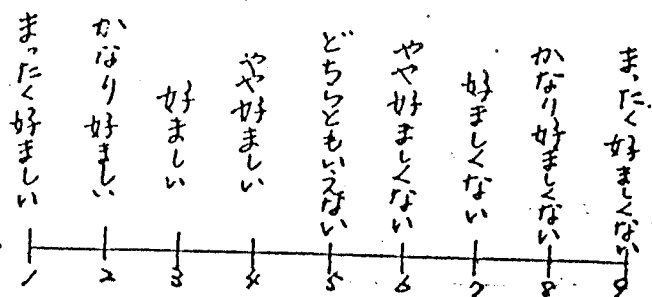
19) そ れ と な く い う



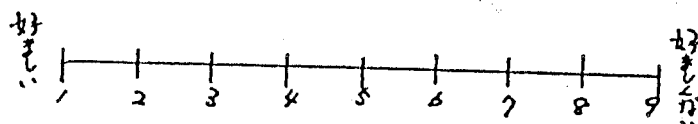
20) 単 刀 直 入



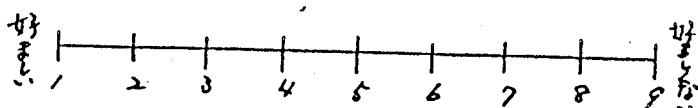
(21) 分析的



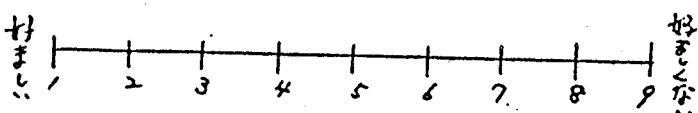
(22) 直観的



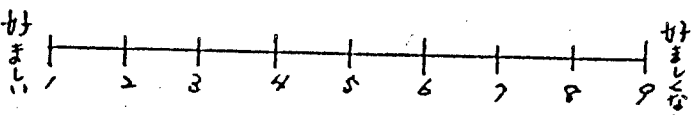
(23) てきはきした



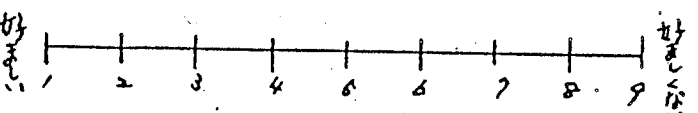
(24) おっとりした



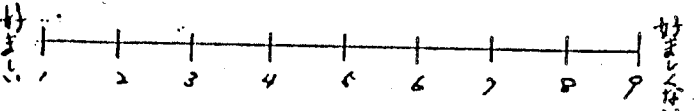
(25) 男性的



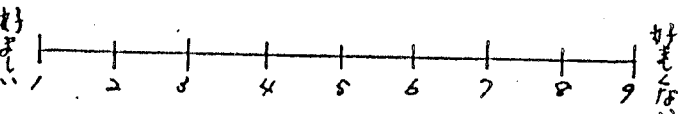
(26) 女性的



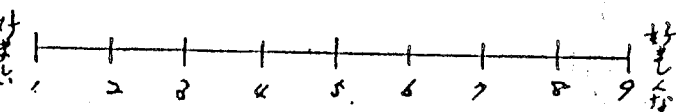
(27) 世話好き



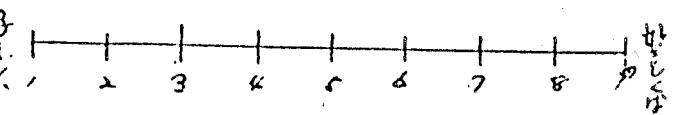
(28) 人に干渉しない



(29) しぶとい

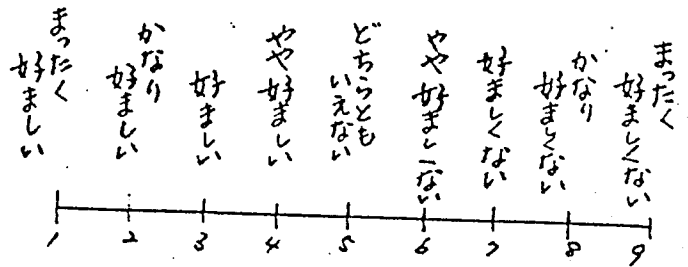


(30) あっさりした



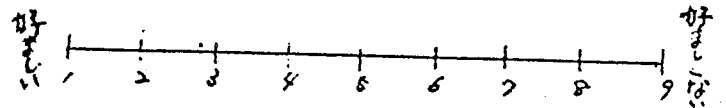
(31)

自立的



(32)

協調的



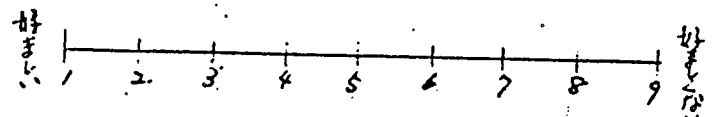
(33)

茶めつけのある



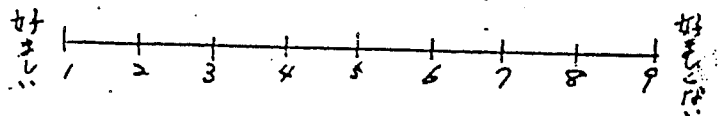
(34)

大人っぽい



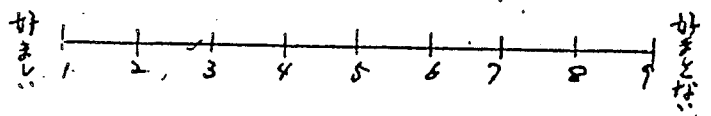
(35)

冷静な



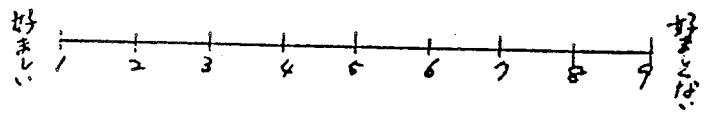
(36)

情熱的



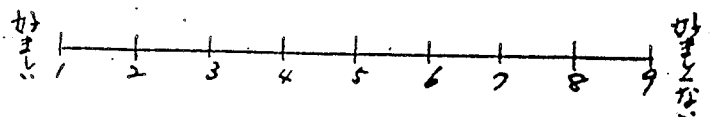
(37)

執着する



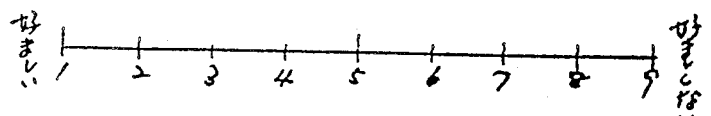
(38)

臨機応変の



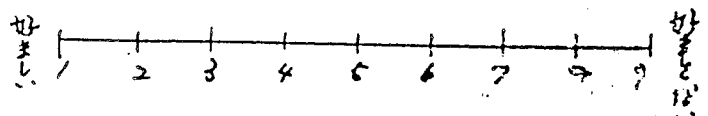
(39)

ロマンチックな

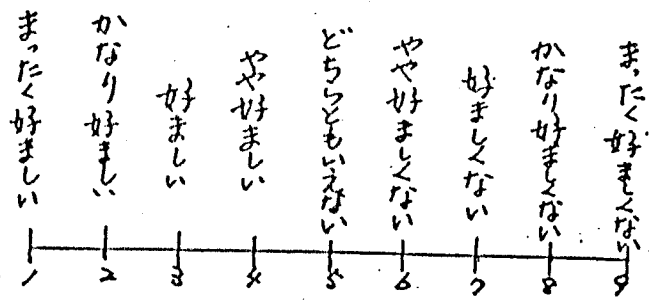


(40)

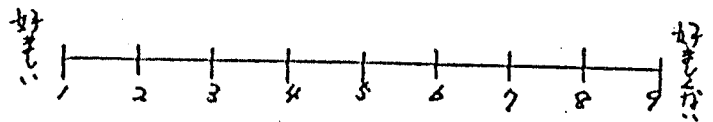
現実的な



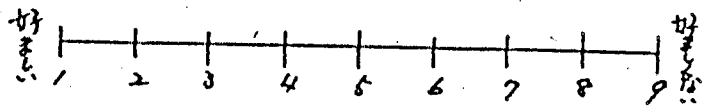
(41) 太っ腹な



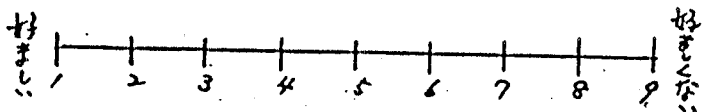
(42) デリケートな



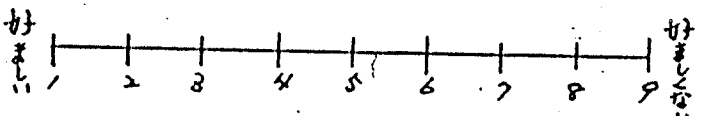
(43) 古風な



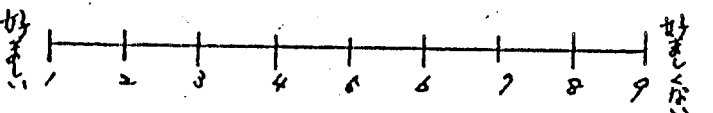
(44) 現代的な



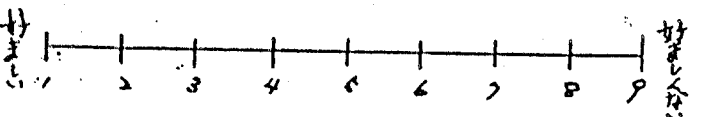
(45) 社交的



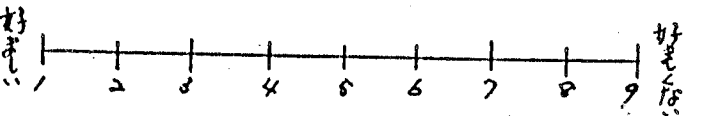
(46) 孤独を好む



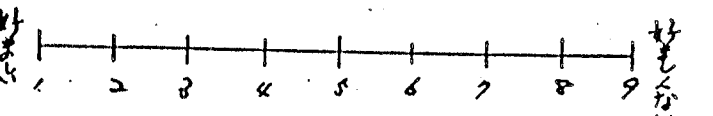
(47) おおやうな



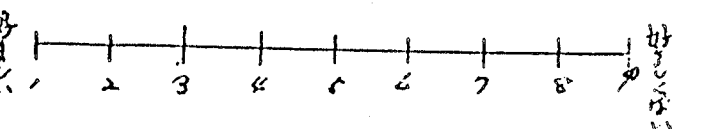
(48) 厳格な



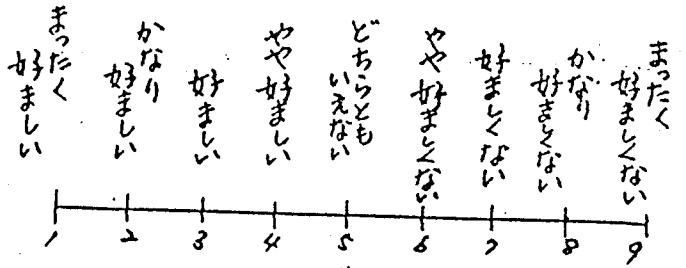
(49) のんびりした



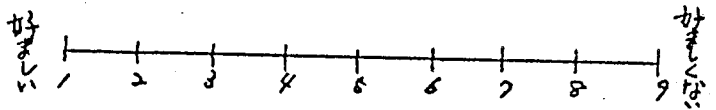
(50) エネルギーな



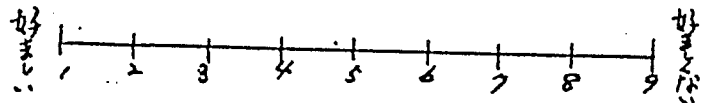
(151) 話しじょうず



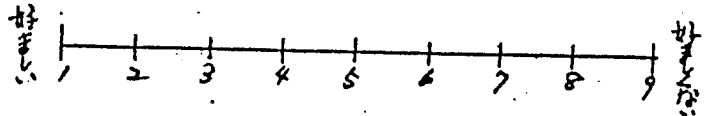
(152) 聞きじょうず



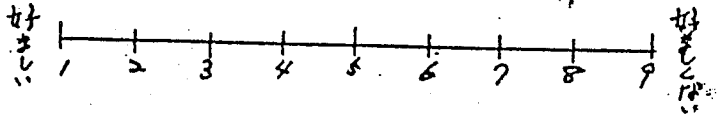
(153) 淡々とした



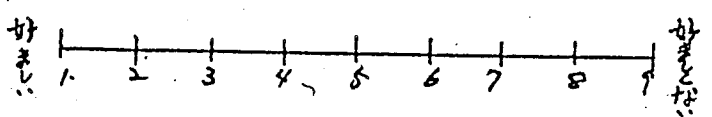
(154) 執中する



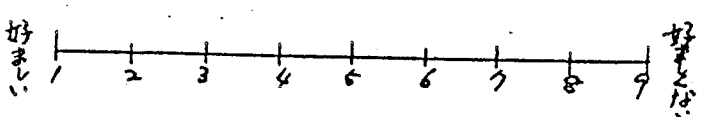
(155) おっとりした



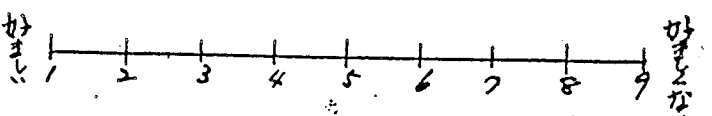
(156) 勇猛な



(157) 7-ルな



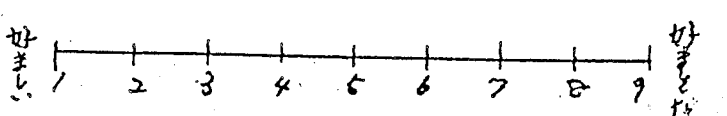
(158) 人情に厚い



(159) 大胆



(160) 細心



この質問紙は、あなたの性格を調べるためのものではなくて、単なる調査の目的でつくられています。

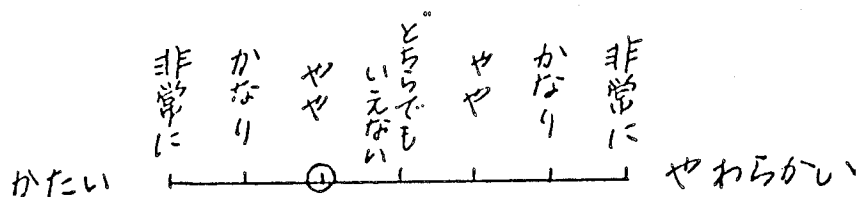
あまり深く考えないで、気軽に、お答えください。

SD,
(SD+TSPS)

次に、性格をあらわすことばが対になって並んでいます。

それぞれについて、自分にあてはまると思うところに○をつけてください。

例.



★上の例は「やや かたい」場合の答え方です。

非常に	かなり	やや	どちらとも いえない	やや	かなり	非常に	
話し好き	—————						口数少ない
大胆	—————						細心
エネルギッシュ	—————						のんびりした
ロマンチック	—————						現実的
しぶとい	—————						あっさりした
それとなくいう	—————						単刀直入
気軽	—————						慎重
クール	—————						人情に厚い

非常に かなり やや どちらともいえない

- | | | | |
|------|---------|--|---------|
| (9) | おおやうな | | 厳格な |
| (10) | 臨機応変の | | 執着する |
| (11) | 世話好き | | 人に干渉しない |
| (12) | 陽気な | | もの静か |
| (13) | 勇猛な | | おっとりした |
| (14) | 社交的 | | 孤独を好む |
| (15) | 冷静な | | 情熱的 |
| (16) | 男性的 | | 女性的 |
| (17) | 一本気 | | 融通がきく |
| (18) | ねばり強い | | あきらめのよい |
| (19) | 古風な | | 現代的な |
| (20) | 淡々とした | | 熱中する |
| (21) | 茶め、いゝめる | | 大人、ほい |
| (22) | てきぱきした | | おっとりした |

	非常に	かなり	やや	とさつとも いえない	やや	かなり	非常に	
(23)	指導的							従順
(24)	気が強い							おとなしい
(25)	話しじょうず							聞きじょうず
(26)	太っ腹な							デリケートな
(27)	自立的							協調的
(28)	分析的							直観的
(29)	のん気な							用心深い
(30)	實際的							理論的

次に、もう一種類の質問紙があります。

しかし、答え方が異なるので注意してください。

T.S.P.S.-pre.I

実施月日		月 日	
年 令		性	男・女
氏 名			
学部		学科	回生

- ・ 質問の意味をあまり深く考えないで、気軽に、ささと答えてください。
「正しい答」とか「まちがった答」とかはありません。
順々に全部の項目に 答えてください。

●以下の質問にお答えください。(前の時間に質問紙に答えてくださった方のみ)

1. この前の質問紙と比較して どうお感じになりましたか?

イ 今回の方がやりやすい

ロ 前回のの方がやりやすい

ハ 同じ

ニ その他

(

2. それは どうしてですか?

3. 全体としてお感じの感想をお書きください。

ご協力ありがとうございました。

SD mono

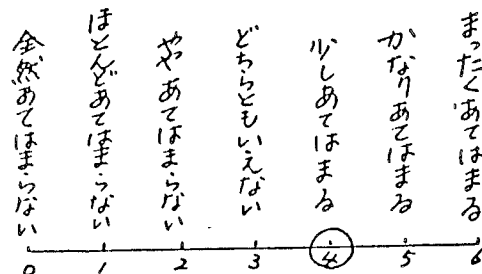
実施月日	月 日	
年 令	才	男・女
氏 名		
回生	学科	専攻

- ◎ この質問紙は あなたの性格を調べるためのものではなくて、
単なる調査の目的で つくられています。
あまり深く考えないで 気軽に お答えください。

1ページから 5ページに、性格をあらわすことばが並んでいます。
それぞれのことばが、自分にとってどの程度 あてはまるかを考えて
次のようにつけてください。

例.

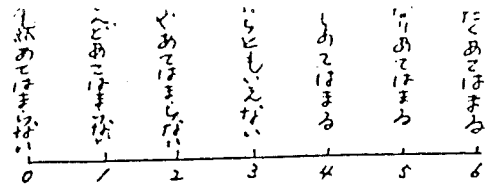
やさしい



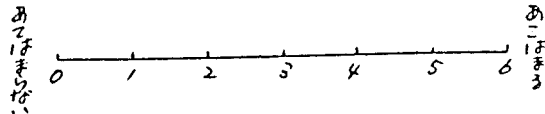
- 上の例は、やさしい について、「少しあてはまる」場合の
答え方です。

- ◎ 項目は 全部で 60 あります。
順々に、すべての項目に 答えてください。

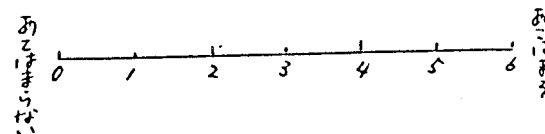
(1) 単刀直入



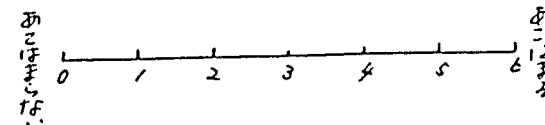
(2) 太っ腹な



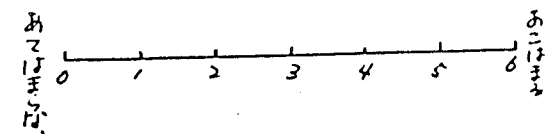
(3) 理論的



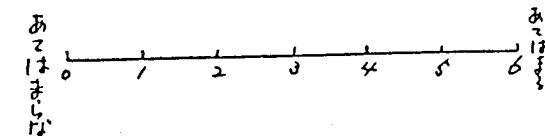
(4) 話し好き



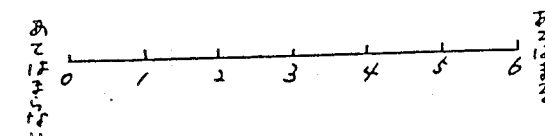
(5) 用心深い



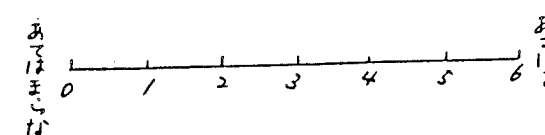
(6) 淡々とした



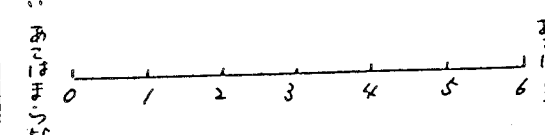
(7) 一本気



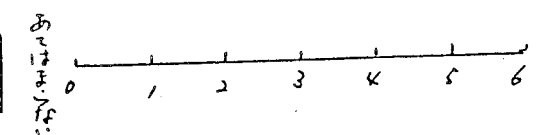
(8) もの静か



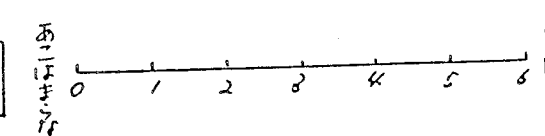
(9) 熱中する



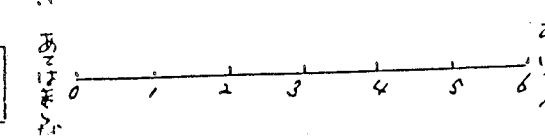
(10) 世話好き



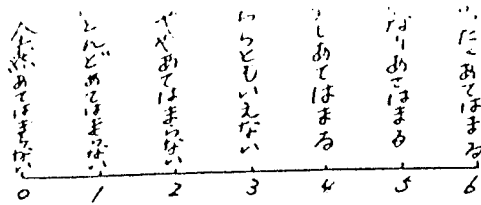
(11) デリケートな



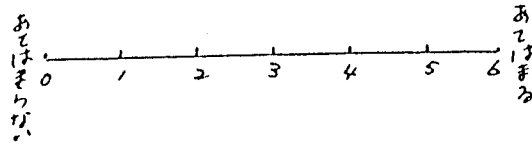
(12) 情熱的



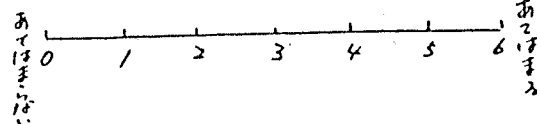
(13) 臨機応変の



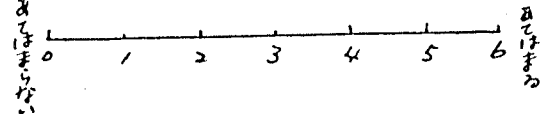
(14) 分析的



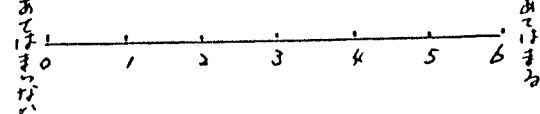
(15) 孤独を好む



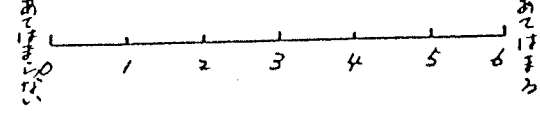
(16) のんきな



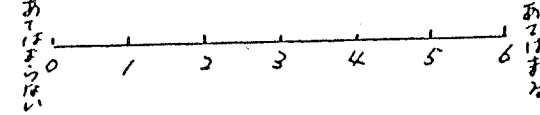
(17) 口数少ない



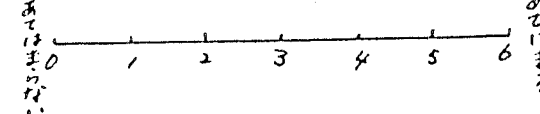
(18) おっとりした



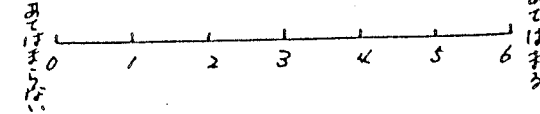
(19) 直観的



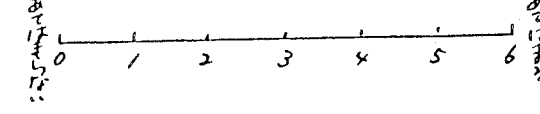
(20) 古風な



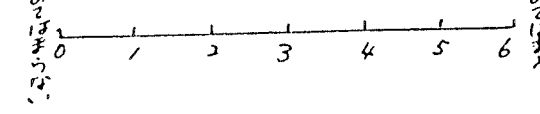
(21) 現実的な



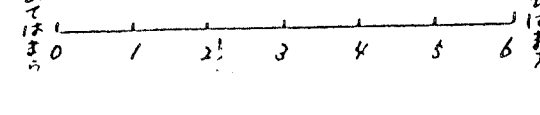
(22) ねばり強い



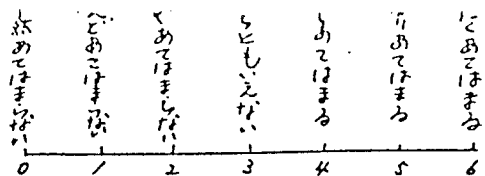
(23) 聞きじょうず



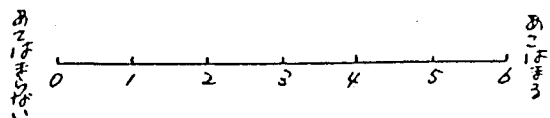
(24) てきぱきした



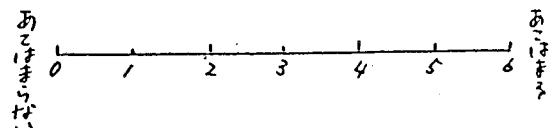
(25) 融通がきく



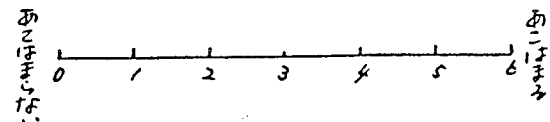
(26) 女性的



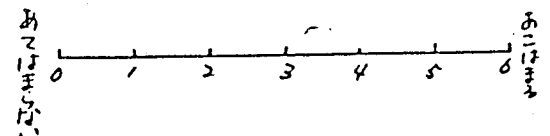
(27) 勇猛な



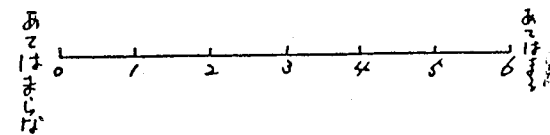
(28) 慎重な



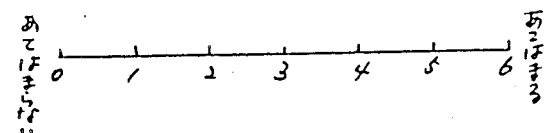
(29) 実際の



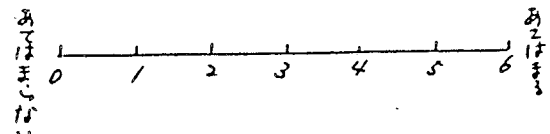
(30) 従順



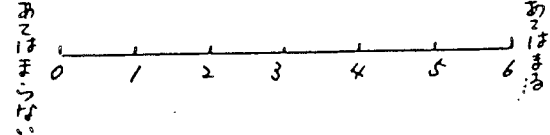
(31) 陽気な



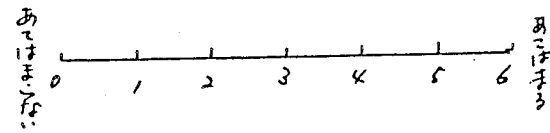
(32) 大胆



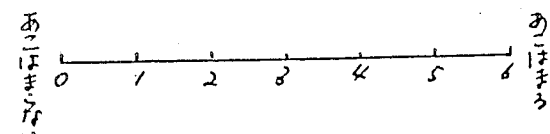
(33) それとなくいう



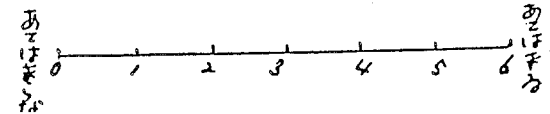
(34) 指導的



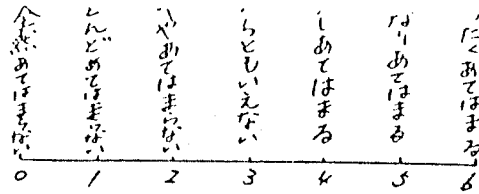
(35) 執着する



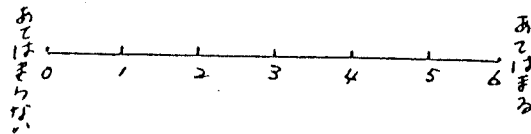
(36) 協調的



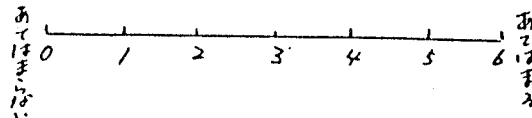
(37) おとなしい



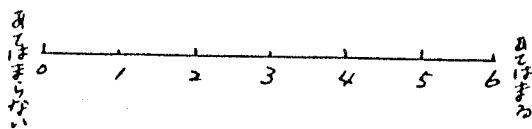
(38) 気軽な



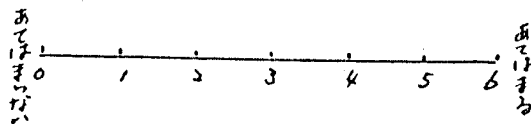
(39) クールな



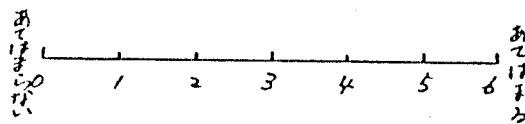
(40) 気が強い



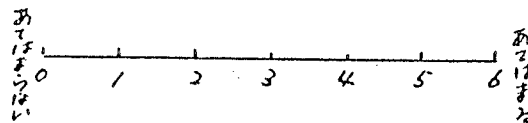
(41) 人情に厚い



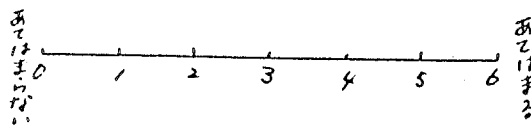
(42) 男性的



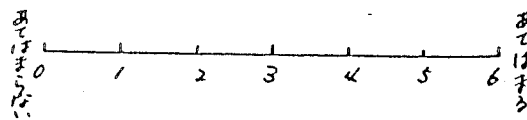
(43) おっとりした



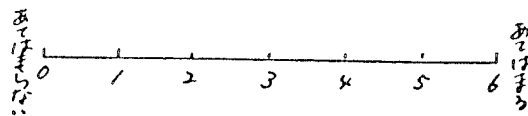
(44) 厳格な



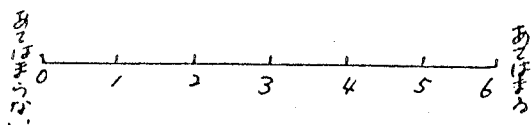
(45) あきらかめよい



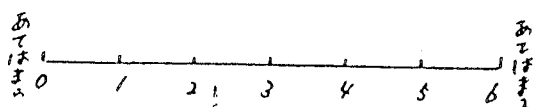
(46) 細心



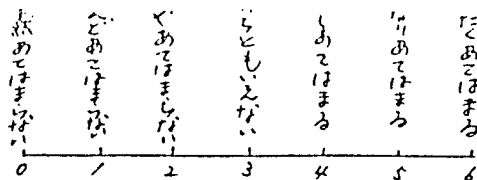
(47) ロマンチックな



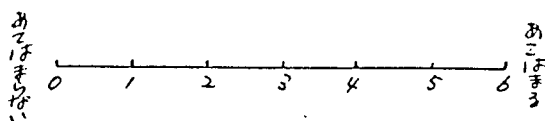
(48) 現代的な



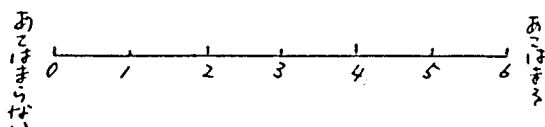
(49) 話しじょうず



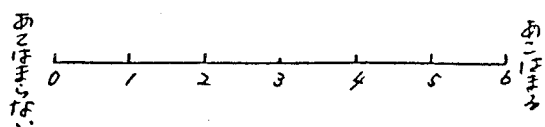
(50) 人に干渉しない



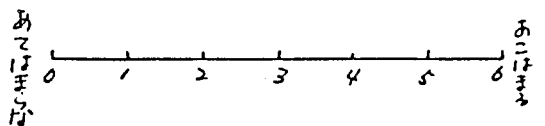
(51) おおようば



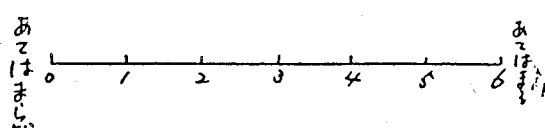
(52) しぶとい



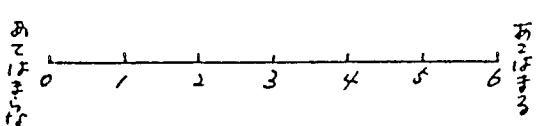
(53) のんびりした



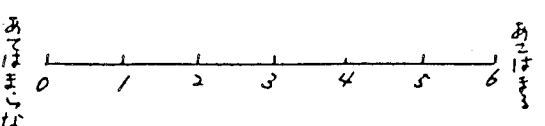
(54) 自立的



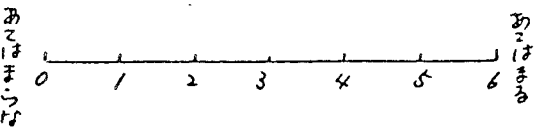
(55) エネルギッシュな



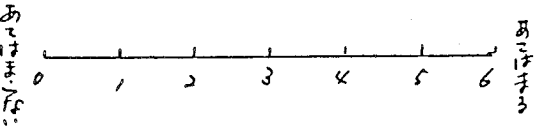
(56) 茶めかけのある



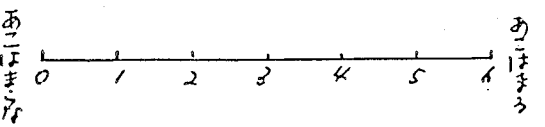
(57) 冷静な



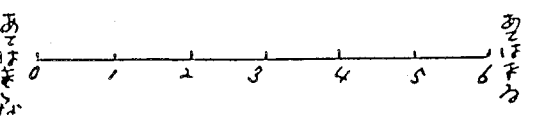
(58) あっさりした



(59) 社交的



(60) 大人っぽい



調査1

◎ 以下に、対にしてあげてあるそれぞれのことばについて、あなたが
思いつく 類義語 を書いてください。その際 そのことばが 以下の点に
なるべくあてはまるように考えてください。

- ・ 人の性格 を形容するのに 適当である
- ・ どちらかというと、自分にとって のぞましくない 意味をもっていることばである。

思いつくだけいつあげていただいても結構です。その際は 適切だ と思う順に
書いて下さい。

(例)

(0)	a やさしい	甘い, 甘やかす
	b きびしい	こわい, 冷酷な, 厳格な。

(1)	a. 用心深い	
	b. のんきな	

(2)	a. 気が強い	
	b. おとなしい	

(3)	a. あきらめのよい	
	b. ねばり強い	

(4)	a. 口数少ない	
	b. 話し好き	

(5)	a 気軽な	
	b 慎重な	

(6)	a 実際の	
	b 理論的	

(7)	a. 指導的	
	b. 従順	

(8)	a. 融通がきく	
	b. 一本気	

(9)	a. 陽気な	
	b. もの静か	

(10)	a. それとはいう	
	b. 単刀直入	

(11)	a. 分析的	
	b. 直観的	

(12)	a. 了きはきた	
	b. おっとりした	

(13)	a. 男性的	
	b. 女性的	

(14)	a. 世話好き	
	b. 人に干渉しない	

(15)	a. しつこい	
	b. あさりしい	

(16)	a. 自立的	
	b. 協調的	

(17)	a. 茶めけのめろ	
	b. 大人っぽい	

(18)	a. 冷静な	
	b. 情熱的	

(19)	a. 執着する	
	b. 臨機応変の	

(20)	a. ロマンチックな	
	b. 現実的な	

(21)	a. 太っ腹な	
	b. デリケートな	

(22)	a. 古風な	
	b. 現代的な	

(23)	a. 社交的	
	b. 孤独を好み	

(24)	a. おおやかな	
	b. 厳格な	

(25)	a. のんびりした	
	b. エネルギーな	

(26)	a. 話しじょうず	
	b. 聞きじょうず	

(27)	a. 淡々とした	
	b. 熱中する	

(28)	a. おっとりした	
	b. 勇猛な	

(29)	a. クールな	
	b. 人情に厚い	

(30)	a. 大胆	
	b. 細かい	

どうも ありがとうございます。

下にも ご記入ください。

性別 () 年齢 () 才

調査 2

① 以下に対にしてあげてある それぞれのことばについて、各々6個
ずつ 類義語 が 書いてあります。 その中で、あなたが 類義語 として
適当だと思うものを 3つ えらんで、その語を ○ で かこんで下さい。

その際、以下の基準に なるべくあてはまるようにして下さい。

- ・人の性格を形容するのに 適当である。
- ・どちらかというと、自分にとって のたましい 意味をもっていることばである。

なお、(13) 男性的-女性的 の対に関しては、(13)-a では
男性 を (13)-b では 女性 を 頭に思い浮かべて考えてください。

例

やさしい	きびしい
いしい あまい たよりない 優柔不断 メリハリがない 甘い	堅苦しい 口うるさい 冷酷な つれない きつ

(一語につき3つずつ
○をつける)

(1)

用心深い	のんきな
優柔不断 気が小さい 億病な 神経質な うたがい深い 苦勞性	無頓着 不注意 鈍感な ぬけな 気がつかない にぶい

(2)

気が強い	おとなしい
<ul style="list-style-type: none"> ・気が強い ・強情 ・勝負気 ・我が強い ・負けん気 ・意固地 	<ul style="list-style-type: none"> ・覇気がない ・引込思案 ・自己主張がない ・消極的 ・内気 ・気の弱い

(3)

あきらめのよい	ねばり強い
<ul style="list-style-type: none"> ・あきらめやすい ・あきらめが悪い ・あきらめが悪い ・根気がない ・根性のない ・粘りのない ・なげやり 	<ul style="list-style-type: none"> ・固執的 ・ねちねちした ・強情 ・意固地 ・あきらめの悪い ・しつこい

(4)

口数少ない	話し好き
<ul style="list-style-type: none"> ・口数少ない ・口下手 ・消極的 ・陰気 ・無口 ・だんまり ・むつりした 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し好き ・しゃべり ・やかましい ・おしゃべり ・口数が多い ・うるさい

(5)

気軽な	慎重な
<ul style="list-style-type: none"> ・気軽 ・尻軽 ・お調子者の ・浅薄 ・軽薄 ・軽率 ・おろそか 	<ul style="list-style-type: none"> ・腰が重い ・思いつきの悪い ・決断力がない ・優柔不断 ・臆病 ・気の小さい

(6)

実際的	理論的
<ul style="list-style-type: none"> ・功利的 ・現実主義 ・即物的 ・夢のない ・実利的 ・通俗的 	<ul style="list-style-type: none"> ・杓子定規 ・現実離れした ・観念的 ・へりくつこねる ・理屈っぽい ・頭でっかち

(7)

指導的	従順
<ul style="list-style-type: none"> ・専横 ・ワンマン ・押しつけがましい ・でしゃばり ・独断的 ・支配的 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分がない ・依存性 ・言いなりになる ・自主性のない ・主体性がない ・追従的

(8)

融通がきく	一本気
<ul style="list-style-type: none"> ・同調的 ・迎合的 ・二重性のない ・いいかげん ・ひより見 ・場あつり 	<ul style="list-style-type: none"> ・意固地 ・融通がきかない ・型にはまった ・強情 ・がんこな ・しどろしどろ

(9)

陽気な	もの静か
<ul style="list-style-type: none"> ・お調子もの ・軽薄 ・派手 ・うるさい ・騒々しい ・さわがしい 	<ul style="list-style-type: none"> ・さびしい ・無口 ・内気 ・むつりした ・陰にこもる ・陰気

(10)

入れとなく	単刀直入
<ul style="list-style-type: none"> ・陰けん ・あいまい ・遠まわし ・皮肉 ・もてまわす ・おもわせぶり 	<ul style="list-style-type: none"> ・無遠慮 ・無神経 ・ズケズケ ・ぶしつけ ・ズバズバ ・ろこつ

(11)

分析的	直観的
<ul style="list-style-type: none"> ・近視眼的 ・細部にこだわる ・細かい ・詮索好き ・理屈っぽい ・理詰め 	<ul style="list-style-type: none"> ・皮相的 ・思いつきの悪い ・おおざっぱ ・あてずっぽう ・非論理的 ・勘にたよる

* (13)-a は、男性を頭に思いうかべて考えてください。
 (13)-b は、女性を

(12)

てきばぎした	おっとりした
<ul style="list-style-type: none"> ・あわて者の ・事務的な ・せっかちな ・おちつきのない ・せわしい ・せかせかした 	<ul style="list-style-type: none"> ・鈍重な ・ぬけている ・のろま ・鈍い ・のろい ・ぐずぐずした

(13) a (男性用)

男性的	女性的
<ul style="list-style-type: none"> ・独断的な ・力づく ・荒々しい ・横暴な ・粗野な ・野蛮な 	<ul style="list-style-type: none"> ・優柔不断 ・たよりない ・軟弱 ・なやまよとした ・めめしい ・女っぽい

(13) b (女性用)

男性的	女性的
<ul style="list-style-type: none"> ・粗野な ・勝負気 ・理屈っぽい ・いさましい ・男まさう ・男っぽい 	<ul style="list-style-type: none"> ・なやまよとした ・はつきりしない ・軟弱な ・めめしい ・受動的 ・優柔不断

(14)

世話好き	人に干渉しない
<ul style="list-style-type: none"> ・こころざしい ・押しつけがましい ・おしゃばり ・おせっかい ・世話やき ・さし出がましい 	<ul style="list-style-type: none"> ・冷淡な ・無関心な ・無愛想な ・冷たい ・そっけない ・薄情な

(15)

しぶとい	あさりして
<ul style="list-style-type: none"> ・あきらめの悪い ・こたわる ・強情な ・曲心よりの悪い ・執念深い ・しつこい 	<ul style="list-style-type: none"> ・表面的な ・素っ気ない ・あきらめやすい ・根気のない ・ねばりのない ・なげやりな

(16)

自立的	協調的
<ul style="list-style-type: none"> ・反抗的 ・孤立的 ・ひとりよがりな ・独断的 ・自己中心的 ・自分勝手な 	<ul style="list-style-type: none"> ・日和見的 ・自主性に欠ける ・迎合的な ・八方美人 ・附和雷同 ・依存の

(17)

茶めけのある	大人っぽい
<ul style="list-style-type: none"> ・おつちよこちよい ・お調子者 ・おどけた ・子供っぽい ・幼稚な ・ふざけた 	<ul style="list-style-type: none"> ・生意気 ・大人ぶった ・背伸びした ・ひねた ・とりすまして ・年よりじみた

(18)

冷静な	情熱的
<ul style="list-style-type: none"> ・冷やかな ・さめた ・わりきった ・冷たい ・無感動な ・冷淡な 	<ul style="list-style-type: none"> ・激しやすい ・のぼせやすい ・血の気の多い ・なりふりかまわない ・感情的 ・我を忘れる

(19)

執着する	臨機応変の
<ul style="list-style-type: none"> ・あきらめの悪い ・執念深い ・固執する ・こたわる ・しつこい ・融通のきかない 	<ul style="list-style-type: none"> ・いかげんな ・一貫しない ・お天気屋の ・ひよりみのな ・場あてり的な ・その場のしのぎの

(20)

ロマンチックな	現実的な
<ul style="list-style-type: none"> ・現実逃避的 ・夢想家 ・空想好き ・世間知らずの ・現実ばなれした ・夢みがちな 	<ul style="list-style-type: none"> ・すれた ・近視眼的な ・夢がない ・実利的 ・現実主義者の ・想像力に乏しい

(21) 太腹ば	デリケートな
<ul style="list-style-type: none"> ・ぎめのあら ・無神経な ・おおざっぱな ・鈍感な ・すたい ・無頓着な 	<ul style="list-style-type: none"> ・弱々しい ・線の細い ・傷つきやすい ・過敏な ・神経質な ・気が小さい

(22) 古風な	現代的な
<ul style="list-style-type: none"> ・時代おくれの ・年よりくさい ・古くさい ・因襲的な ・保守的な ・封建的な 	<ul style="list-style-type: none"> ・ドライな ・軽薄な ・新しもの好き ・時流に流される ・新しがりやの ・流行を追った

(23) 社交的	孤独を好み
<ul style="list-style-type: none"> ・でしゃばりな ・世間的 ・八方美人 ・お調子もの ・派手な ・外出好き 	<ul style="list-style-type: none"> ・内にこもる ・陰気な ・人ざらな ・孤立的な ・人づきあいの悪い ・閉鎖的

(24) おおようば	厳格な
<ul style="list-style-type: none"> ・無責任な ・大ざっぱ ・ルーズな ・いかげんな ・あいまいな ・大まか 	<ul style="list-style-type: none"> ・手心を加えない ・きびしい ・きつい ・堅苦しい ・融通のきかない ・しゃくし定規な

(25) のんびりした	エネルギーな
<ul style="list-style-type: none"> ・のろい ・鈍重な ・怠慢な ・まのびした ・馬力のない ・無気力な 	<ul style="list-style-type: none"> ・おちつきのない ・がむしゃらな ・きんがうした ・油きった ・かさつな ・せわしい

(26) 話しじょうず	聞きじょうず
<ul style="list-style-type: none"> ・口がうまい ・上調子な ・ロハす ・ききべた ・おしゃべり ・ロじょうず 	<ul style="list-style-type: none"> ・せんずく好きな ・あわせるのがうまい ・秘密主義 ・無口な ・きいてばかりの ・ロベたな

(27) 淡々とした	熱中する
<ul style="list-style-type: none"> ・冷淡な ・さめた ・素っ気ない ・無感動な ・あきっぽい ・なげやりな 	<ul style="list-style-type: none"> ・まわりをかえりなく ・自分を見失う ・我を忘れる ・しつこい ・血道をあげる ・のぼせやすい

(28) おっとりした	勇猛な
<ul style="list-style-type: none"> ・温室育ち ・覇気がない ・気の弱い ・鈍い ・とすな ・無気力な 	<ul style="list-style-type: none"> ・むこうみず ・野蛮な ・粗野な ・猪突猛進の ・乱暴な ・荒々しい

(29) クールな	人情に厚い
<ul style="list-style-type: none"> ・つきあいの悪い ・情がうすい ・とりすます ・冷淡な ・ひややか ・つめたい 	<ul style="list-style-type: none"> ・情におぼれる ・情にもろい ・おせっかいな ・情にほだされる ・涙もろい ・情に流される

(30) 大胆	細心
<ul style="list-style-type: none"> ・むてっぽうな ・むこうみず ・むちをやる ・無謀な ・無神経な ・厚かましい 	<ul style="list-style-type: none"> ・気弱な ・神経質 ・気が小さい ・おくびうな ・こわがりの ・小心

調査3 ④以下にあげてあるそれぞれの対が 対立概念として妥当かどうかを判断してください。

A. 妥当である B. まあまあ妥当である C. 妥当でない の3段階で、あてはまる語を()内に記入してください。 お名前()

例

甘い — ぎつい (A)

ねばりのない — 執念深い ()

のろい — せわしい ()

強情 — 気の弱い ()

騒々しい — おっとりした ()

さめた — 感情的 ()

しつこい — 粘りのない ()

なやなよとした — 勝気 ()

非論理的 — 理くつぽい ()

場あてりの — 執念深い ()

支配的 — 追従的 ()

因襲的な — 新しいものの ()

思いよりの悪い — 軽率な ()

人づかみの悪い — お調子者 ()

理くつぽい — 実利的 ()

荒々しい — 丁寧なよとした ()

おせっかい — そいけない ()

独断的 — 付和雷同 ()

ズケズケいう — おもわせぶり ()

とりました — お調子者 ()

憶病な — 鈍感な ()

現実逃避的 — 実利的 ()

のろい — かざつな ()

融通がきかない — 場あてりの ()

ずぶとい — 線の細い ()

おしゃべり — 口ごまりの ()

堅苦しい — ルーズな ()
粗野な — なよなよとした ()
ロハ丁 — ぎいてばかりの ()
現実離れに — 実利的 ()
うたがい深い — めけた ()
温室育ち — 野蛮な ()
迎合的 — 独断的 ()
無神経な — 神経質な ()
主体性がない — 支配的な ()
せかせかした — ぐずぐずした ()
閉鎖的 — 八方美人 ()
滲しやすい — ひやかた ()
がんじや — 迎合的な ()
ひやか — 情に流される ()
固執的 — あきほい ()
猪突猛進の — 覇気がない ()
おちわせぶり — ぶしつけな ()

無感動な — のぼせやすい ()
細部にこだわる — 思いつきの ()
がむしうた — 鈍重な ()
小心 — あこみずな ()
男まさり — なよなよとした ()
ルーズな — しゃくし定規な ()
押しがましい — そけな ()
過敏な — 鈍感な ()
ふざけた — とりまに ()
執念深い — なげやりな ()
気の弱い — 勝気 ()
一貫しない — こたわる ()
口数が多い — ちつりした ()
軽率な — 優柔不断 ()
実利的 — 頭でっかち ()
新しりの — 古くさい ()
さわがしい — 陰気な ()

情におぼれる — 情がうすい ()
 受動的 — 男まじり ()
 融通がきかない — ルーズな ()
 舌にばかり — 口じょうず ()
 かまじょうな — 怠慢な ()
 我がうまい — 気の弱い ()
 八方美人 — ひとりよがりな ()
 めめしい — 粗野な ()
 さめた — のほ"せやすい ()
 決断力がない — 軽率な ()
 情に流される — 情がうすい ()
 思いつきのな — 理くつぽい ()
 あつりした — おしゃべり ()
 覇気がない — むこうみず ()
 こじわる — 場あにりの ()
 おくびょうな — むこうみずな ()
 もってまわていう — ズケズケいう ()

冷淡な — おせっかい ()
 むてほうな — 気が小さい ()
 にぶい — うたがひ深い ()
 なげやりな — しつこい ()
 理くつぽい — 即物的な ()
 口がうまい — 聞いにはかりの ()
 迎合的な — 融通がきかない ()
 陰気な — 馬蚤々しい ()
 幼稚な — ひねに ()
 ぐずぐずした — せ"かちな ()
 根気がない — しつこい ()
 世間いらずめ — すれた ()
 薄気しやすい — さめた ()
 追従的 — ワンマン ()
 八方美人 — 人づきあいの悪い ()
 我を忘れる — 無感動な ()
 時流に流される — 保守的 ()

TSPS-II 男性用

実施月日		月		日	
生年月日		年		月 日	
年令		才		①男・女	
氏名					
大学			学部		
回生	学科		専攻		

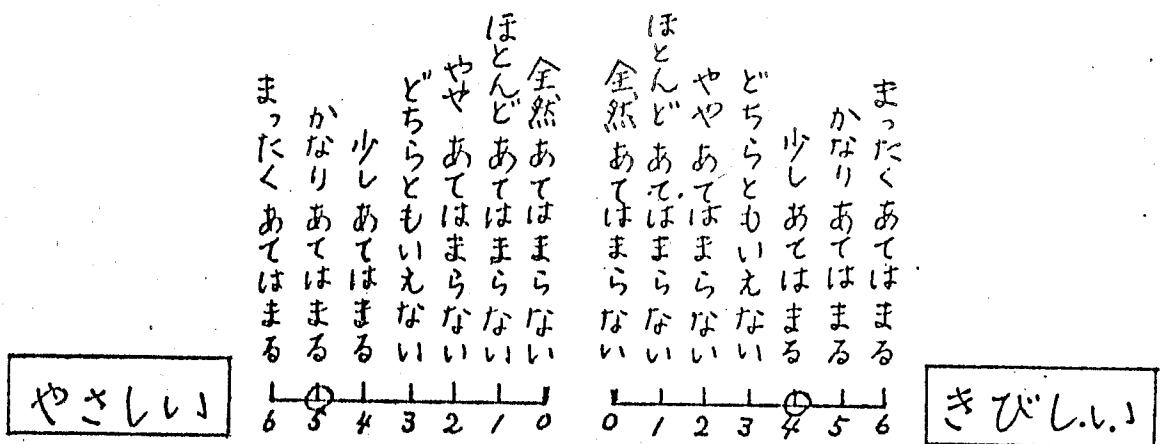
・質問の意味をあまり深く考えないで、気軽にささと答えてください。

「正しい答」とか「まちがった答」とかは ありません。

順々に 全部の項目に 答えてください。

1ページから6ページに、性格をあらわすことはが、対になって並んでいます。それぞれのことはが自分にとってどの程度あてはまるかを考えて、次のようにつけてください。

例.

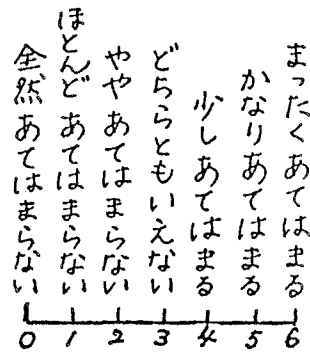
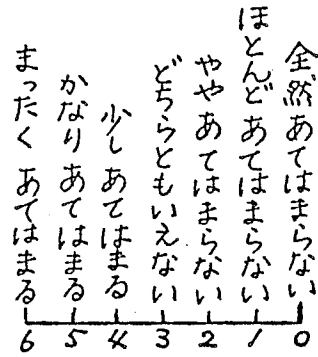


■ 左の語と右の語について それぞれ独立に どの程度あてはまるかを考えて、あてはまるところに ○印をつける。

上の例は やさしい については「かなりあてはまる」

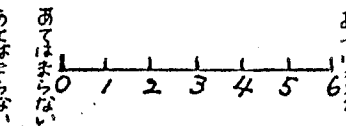
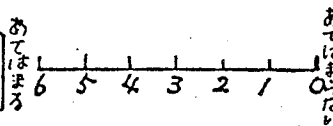
きびしい については「少しあてはまる」場合の答え方です。

(1) 用心深い



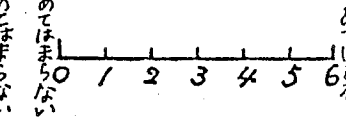
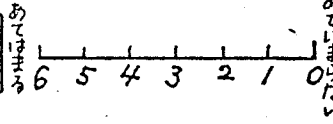
のん気な

(2) ずぶとい



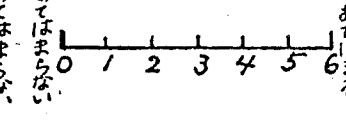
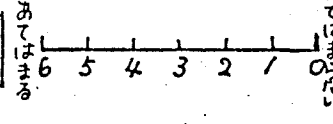
線の細い

(3) 気が強い



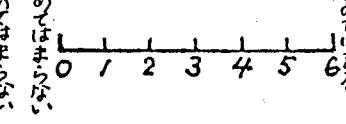
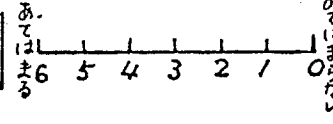
おとなしい

(4) 因襲的な



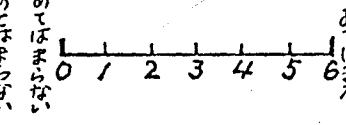
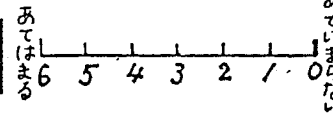
新しがりやの

(5) あきらめのよい



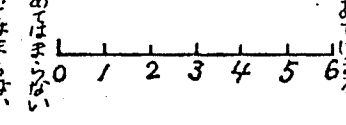
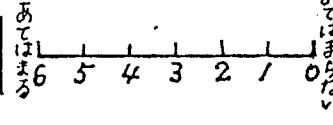
ねばり強い

(6) ハ方美人



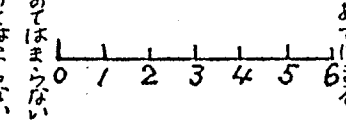
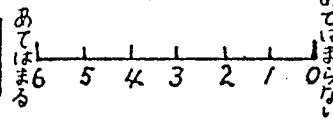
人づきあいの悪い

(7) 口数少ない



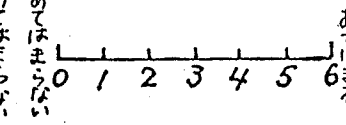
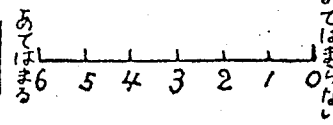
話し好きな

(8) ルーズな



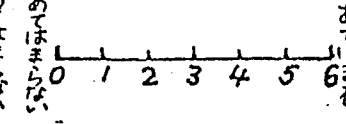
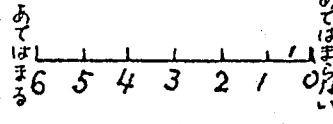
しゃくし定規な

(9) 気軽な



慎重な

(10) 怠慢な



がむしゃらな

(11) 実際の

全然あてはまらない
ほとんどあてはまらない
ややあてはまらない
どちらともいえない
少しあてはまる
かなりあてはまる
まったくあてはまる

全然あてはまらない
ほとんどあてはまらない
ややあてはまらない
どちらともいえない
少しあてはまる
かなりあてはまる
まったくあてはまる

理論的

(12) ロジック

あてはまる 6 5 4 3 2 1 0
あてはまらない 0 1 2 3 4 5 6

聞いてばかりの

(13) 指導的

あてはまる 6 5 4 3 2 1 0
あてはまらない 0 1 2 3 4 5 6

従順

(14) 無感動な

あてはまる 6 5 4 3 2 1 0
あてはまらない 0 1 2 3 4 5 6

のぼせやすい

(15) 融通がきく

あてはまる 6 5 4 3 2 1 0
あてはまらない 0 1 2 3 4 5 6

一本気

(16) 温室育ち

あてはまる 6 5 4 3 2 1 0
あてはまらない 0 1 2 3 4 5 6

野蛮な

(17) 陽気な

あてはまる 6 5 4 3 2 1 0
あてはまらない 0 1 2 3 4 5 6

もの静か

(18) 情がうすい

あてはまる 6 5 4 3 2 1 0
あてはまらない 0 1 2 3 4 5 6

情に流される

(19) それとなくいう

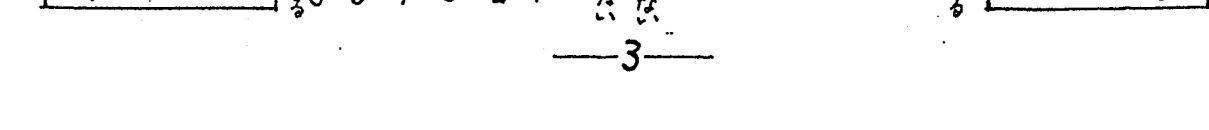
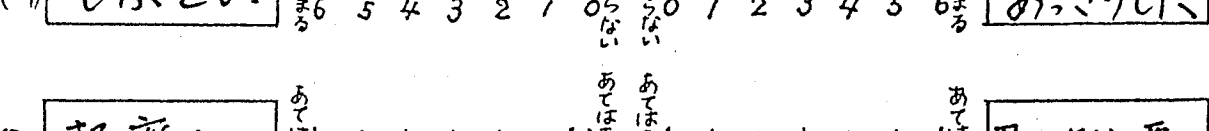
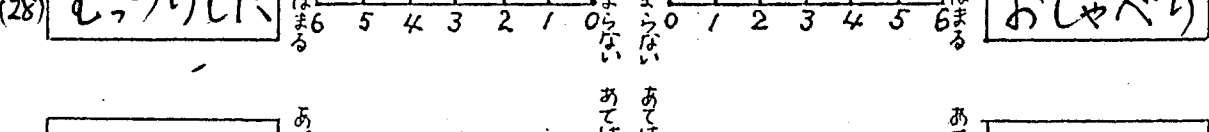
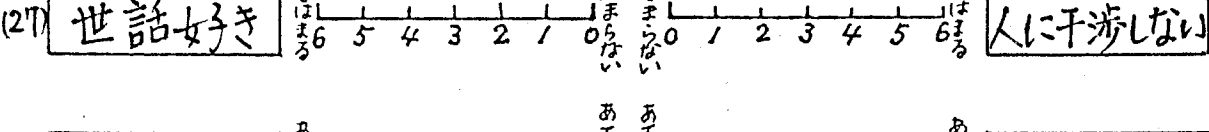
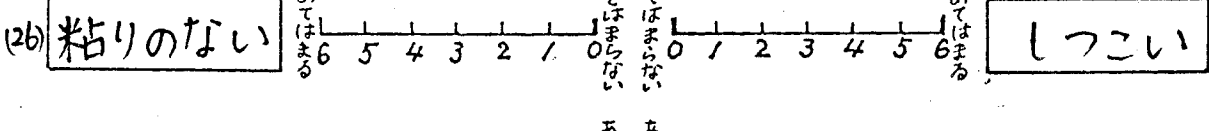
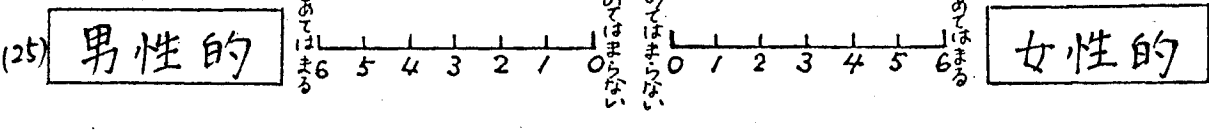
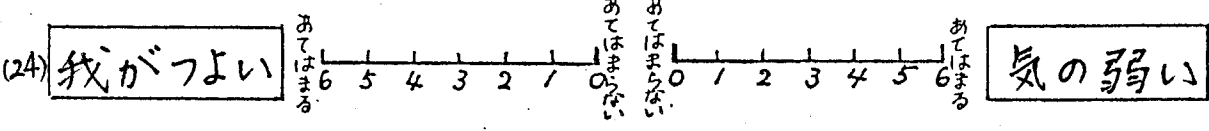
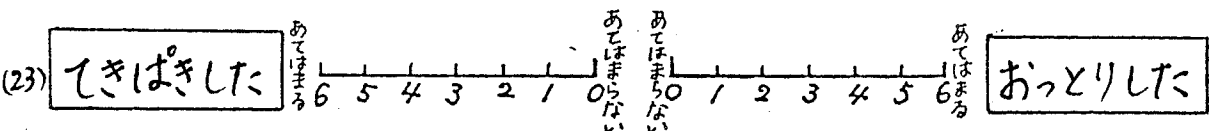
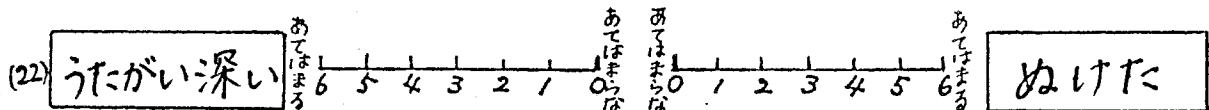
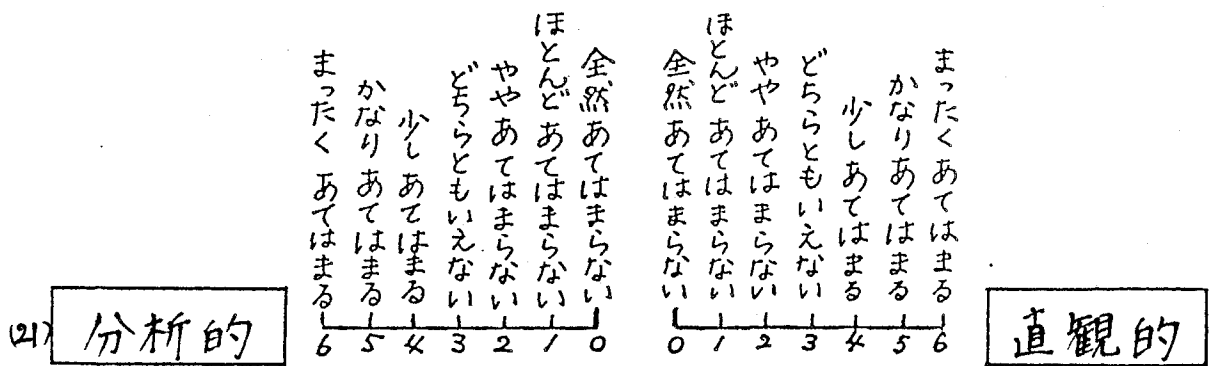
あてはまる 6 5 4 3 2 1 0
あてはまらない 0 1 2 3 4 5 6

単刀直入

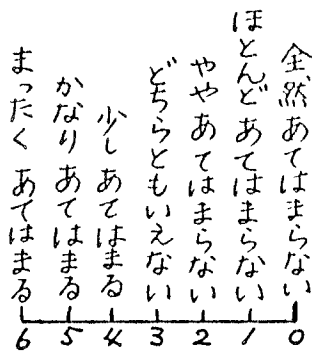
(20) むこうみずな

あてはまる 6 5 4 3 2 1 0
あてはまらない 0 1 2 3 4 5 6

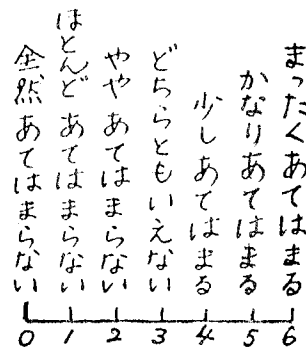
小心



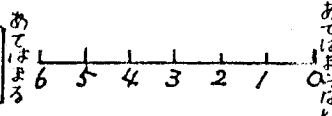
31) 自立的



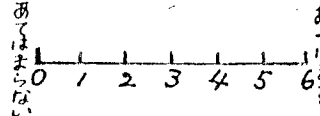
協調的



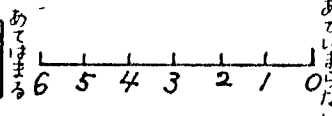
32) 実利的



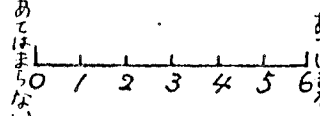
頭でかち



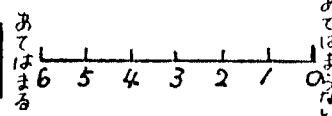
33) 茶め、けのあ



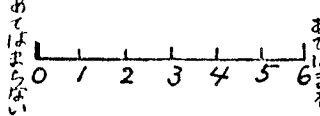
大人っぽい



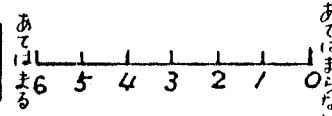
34) 支配的



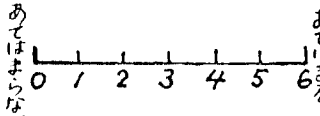
追従的



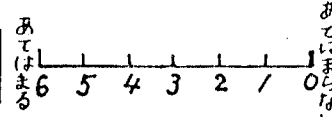
35) 冷静な



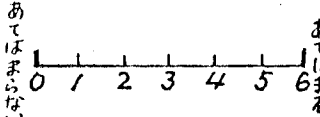
情熱的



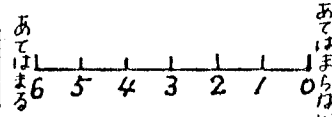
36) 迎合的な



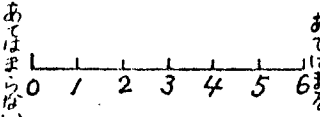
がんこな



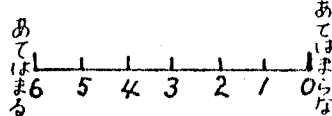
37) 執着する



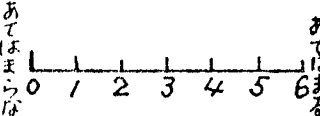
臨機応変の



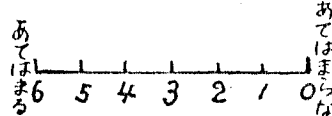
38) さわがしい



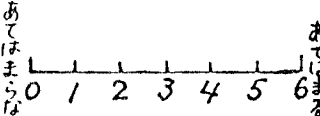
陰気な



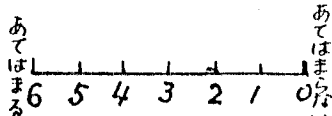
39) ロマンチックな



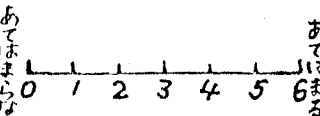
現実的な



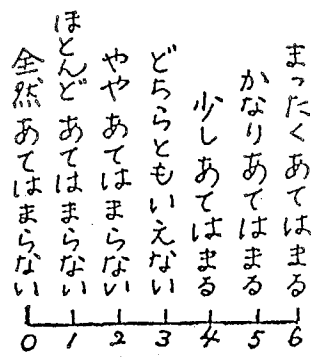
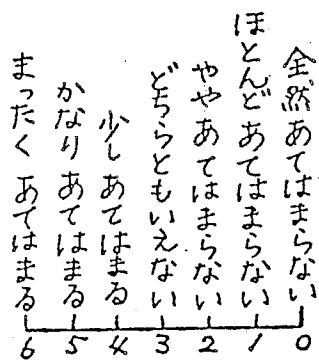
40) もってまわていう



ズケズケいう

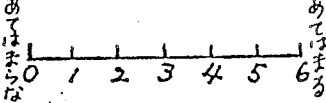
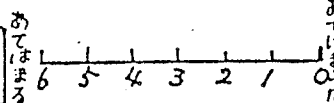


(41) 太っ腹な



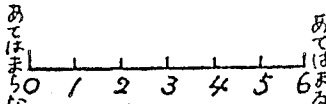
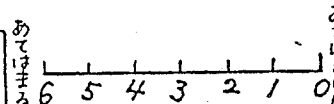
デリケートな

(42) 理くつぽい



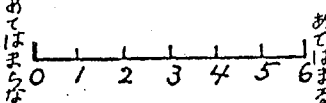
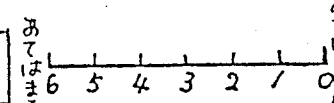
非論理的

(43) 古風な



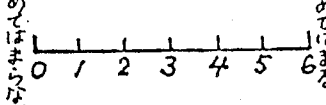
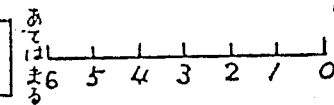
現代的な

(44) せかせかした



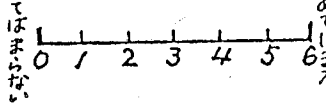
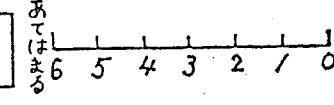
ぐずぐずした

(45) 社交的



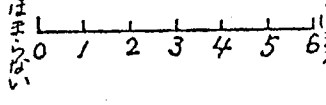
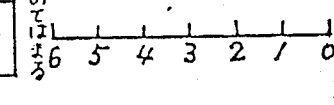
孤独を好む

(46) 荒々しい



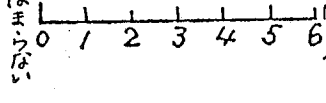
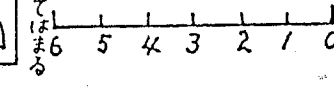
なよなよとした

(47) おおような



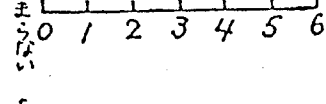
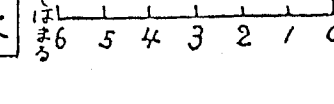
厳格な

(48) おせっかい



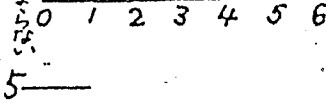
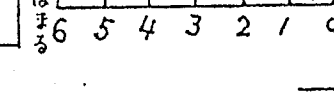
そっけない

(49) のんびりした



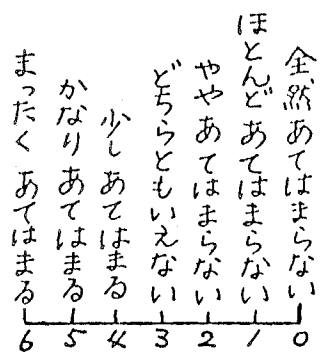
エネルギッシュな

(50) 執念深い

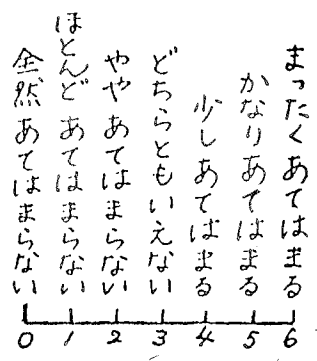


なげやりな

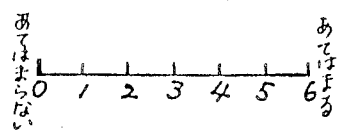
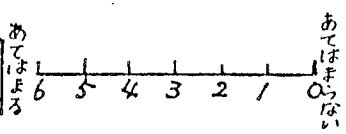
51 話しじょうず



聞きじょうず

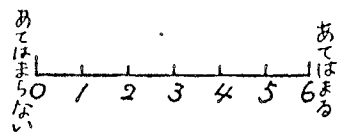
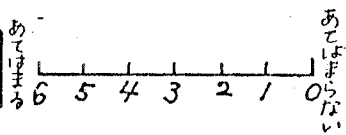


52 独断的



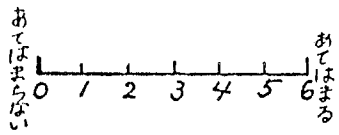
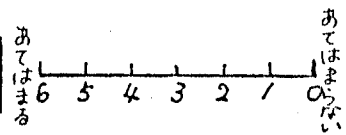
付和雷同

53 淡々とした



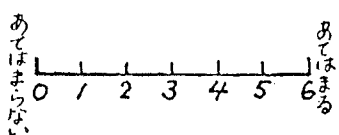
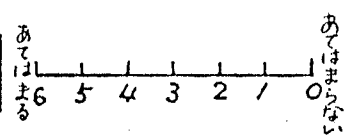
熱中する

54 幼稚な



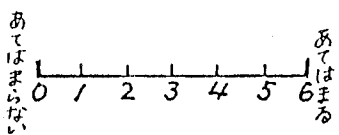
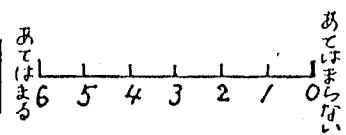
ひねた

55 おっとりした



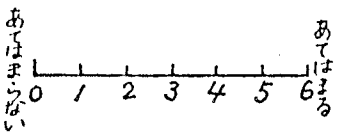
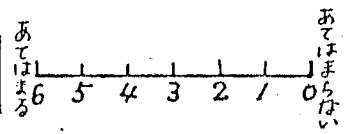
勇猛な

56 さめた



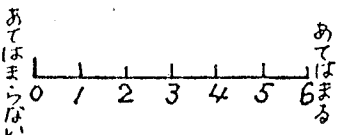
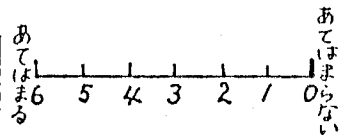
激しやすい

57 クールな



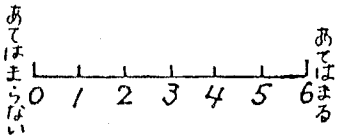
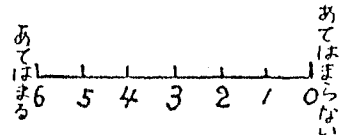
人情に厚い

58 こだわる



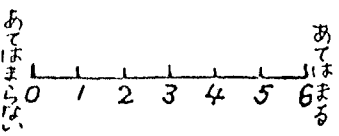
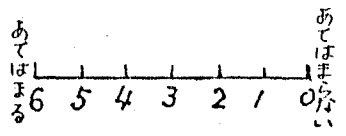
場あてりの

59 大胆



細心

60 現実離れした



実利的

TSPS-II 女性用

実施月日	月 日	
生年月日	年 月 日	
年令	才	男・ <input checked="" type="radio"/> 女
氏名		
大学		学部
回生	学科	専攻

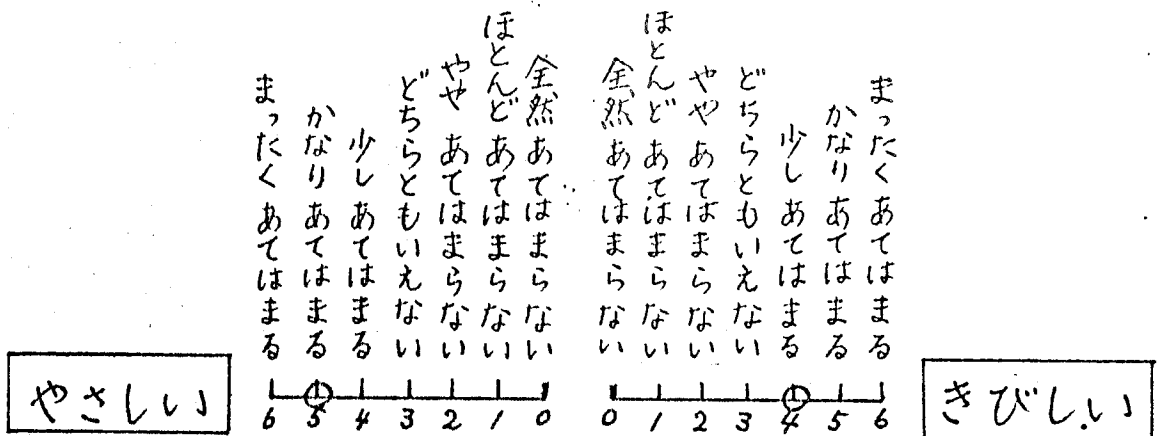
- ・質問の意味をあまり深く考えないで、気軽にさっと答えてください。

「正しい答」とか「まちがった答」とかは ありません。

順々に 全部の項目に 答えてください。

1ページから6ページに、性格をあらわすことばが、対になって並んでいます。それぞれのことばが自分にとってどの程度あてはまるかを考えて、次のようにつけてください。

例.



■ 左の語と右の語について、それぞれ独立に、どの程度あてはまるかを考えて、あてはまるところに ○印をつける。

上の例は

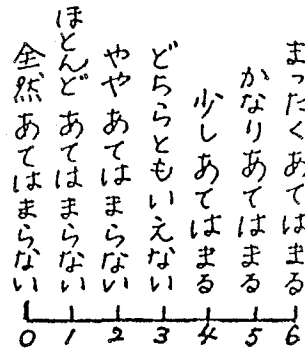
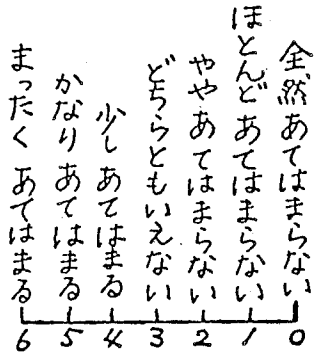
やさしい

 については「かなりあてはまる」

きびしい

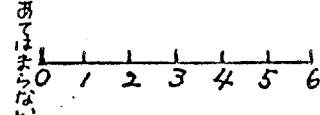
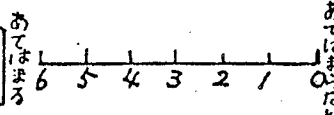
 については「少しあてはまる」場合の答え方です。

(1) 用心深い



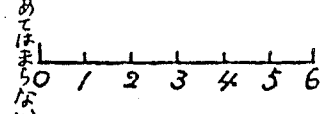
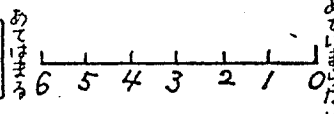
のん気な

(2) ずぶとい



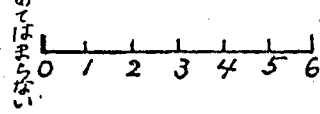
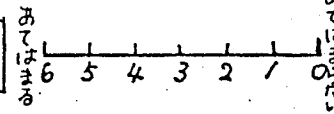
線の細い

(3) 気が強い



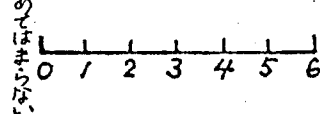
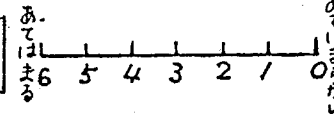
おとなしい

(4) 因襲的な



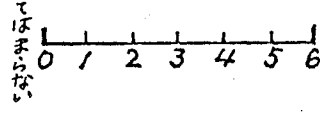
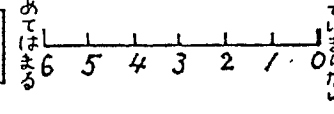
新しがりやの

(5) あきらめのよい



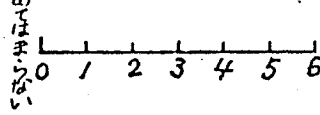
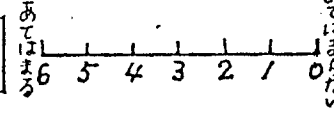
ねばり強い

(6) ハ方美人



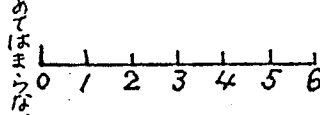
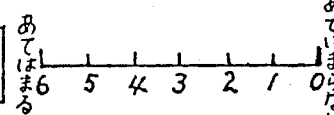
人づきあいの悪い

(7) 口数少ない



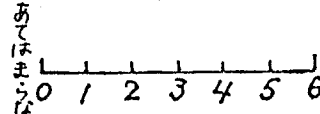
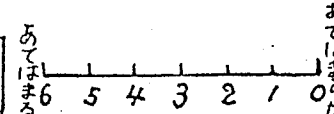
話し好き

(8) ルーズな



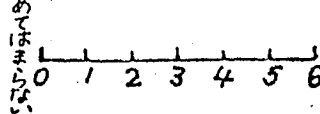
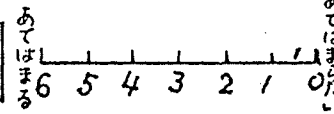
しゃくし定規な

(9) 気軽な

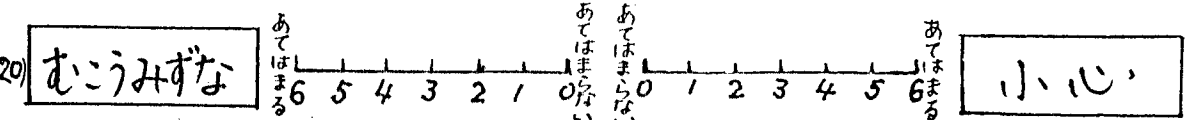
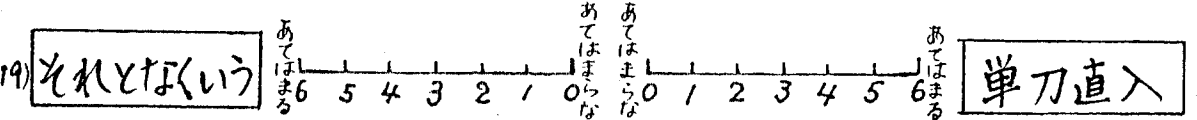
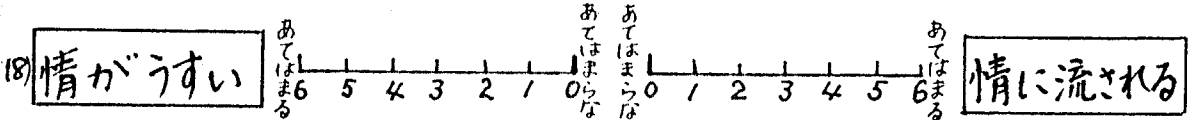
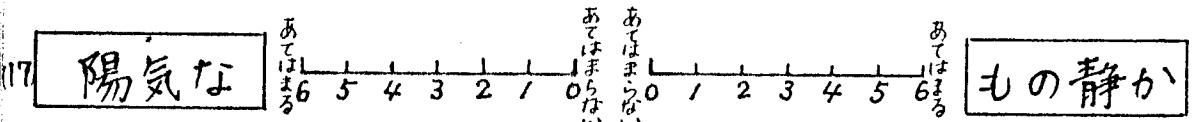
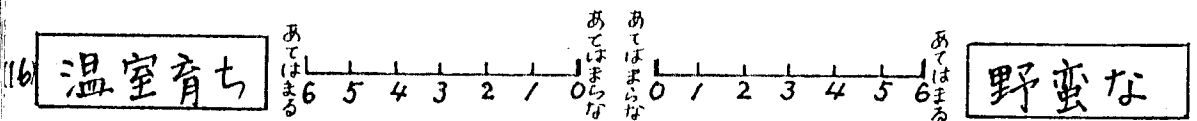
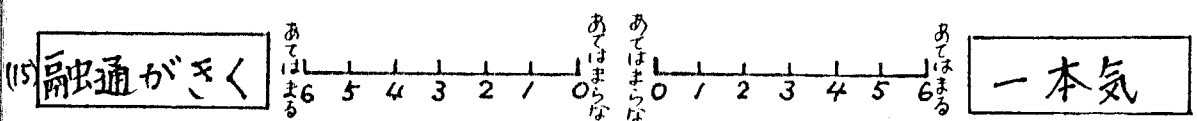
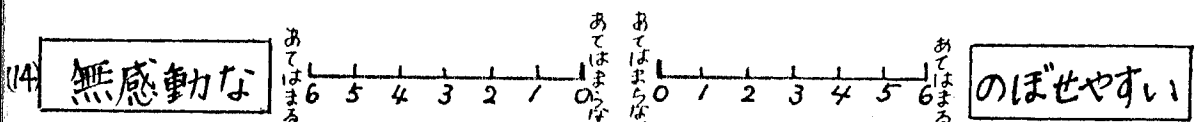
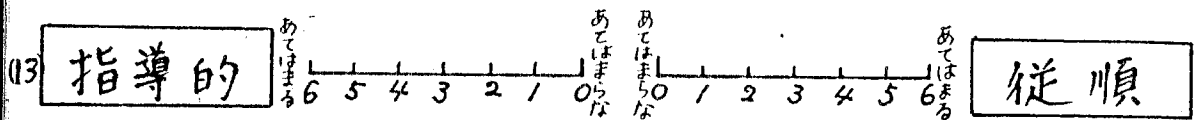
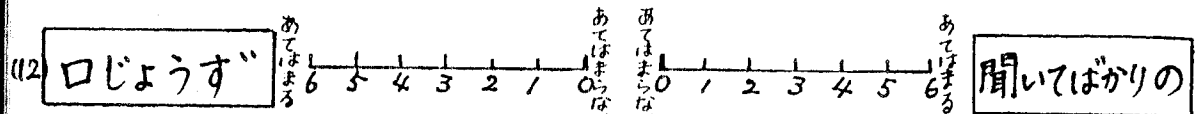
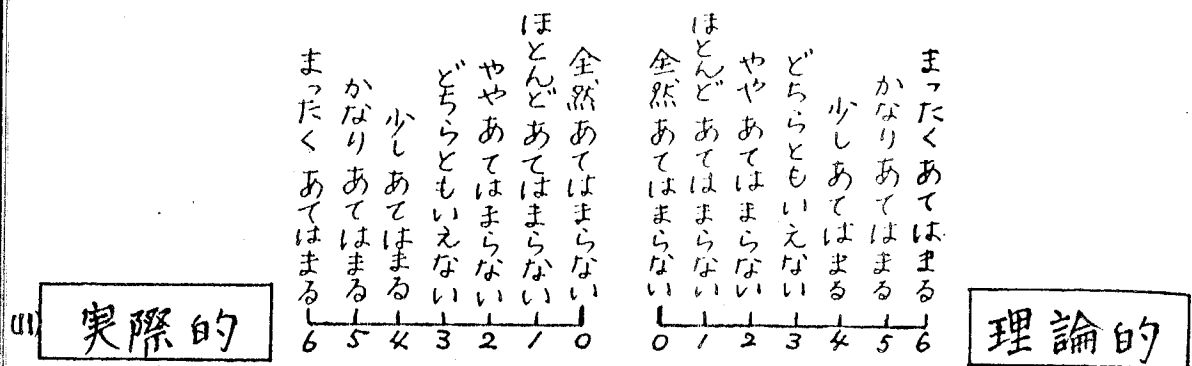


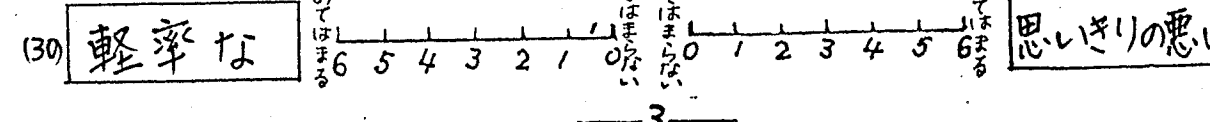
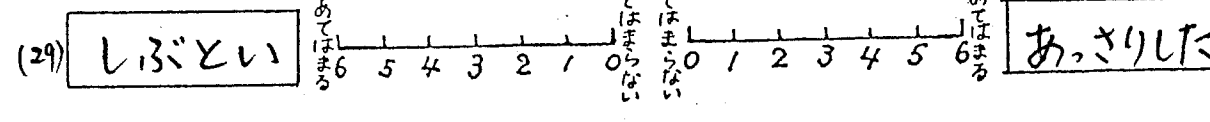
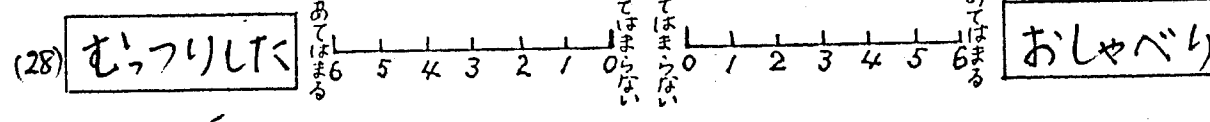
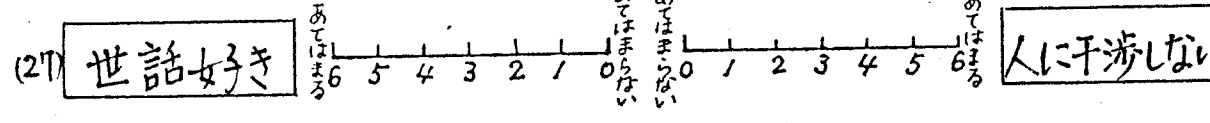
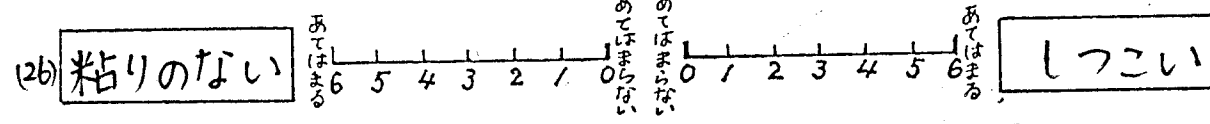
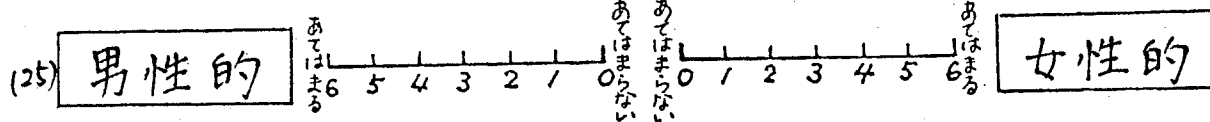
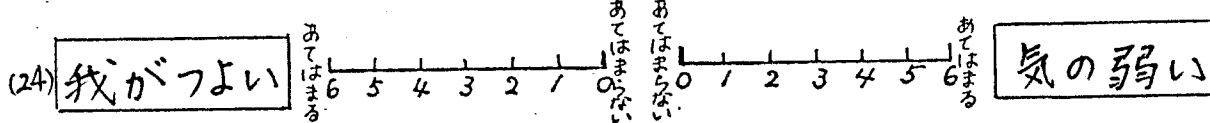
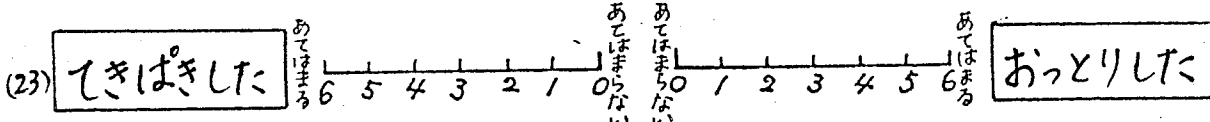
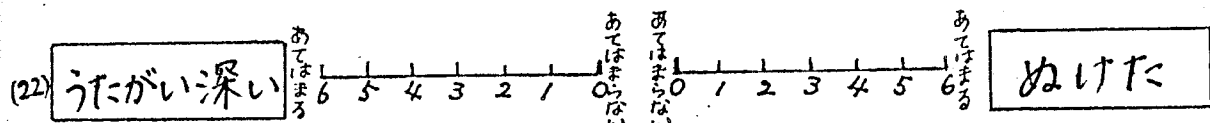
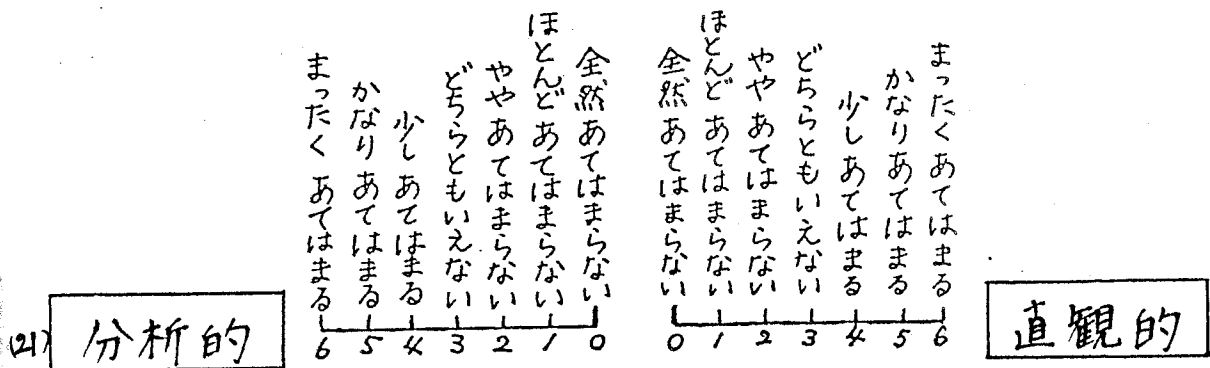
慎重な

(10) 怠慢な



がむしゃらな





まったくあてはまる 6
 かなりあてはまる 5
 少しあてはまる 4
 どちらともいえない 3
 ややあてはまらない 2
 ほとんどあてはまらない 1
 全然あてはまらない 0

(31) 自立的

協調的

(32) 実利的

頭でかち

(33) 茶め、けのある

大人、ほい

(34) 支配的

追従的

(35) 冷静な

情熱的

(36) 迎合的な

がんこな

(37) 執着する

臨機応変の

(38) さわがしい

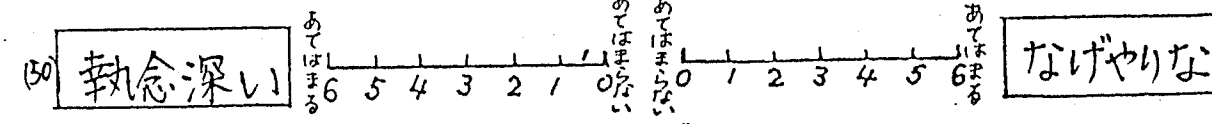
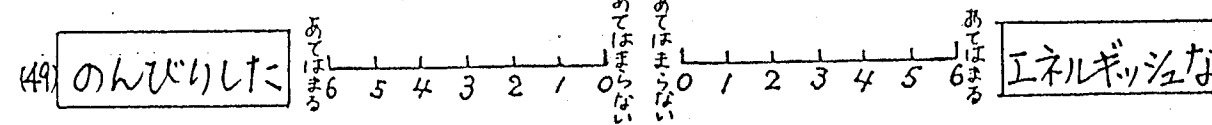
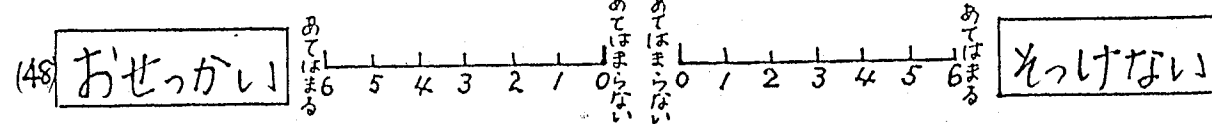
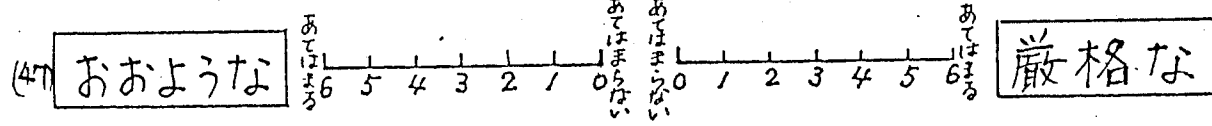
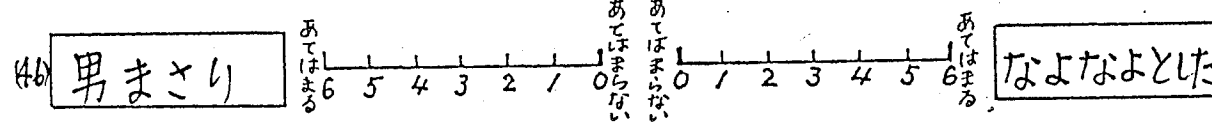
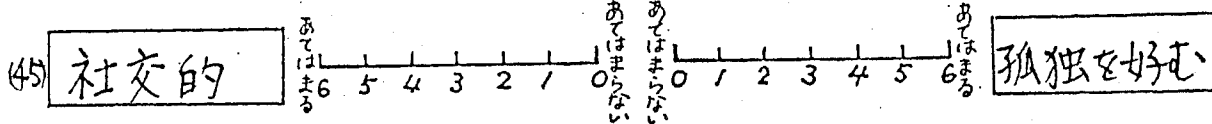
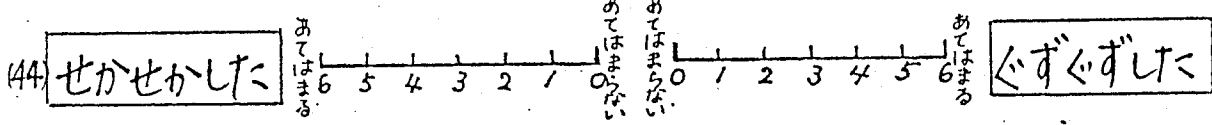
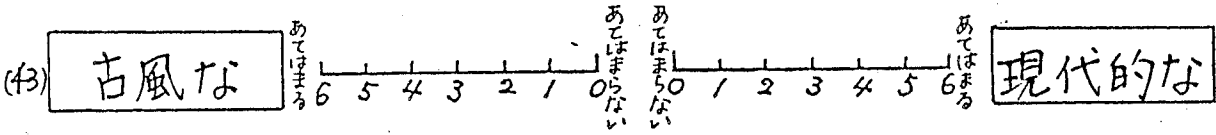
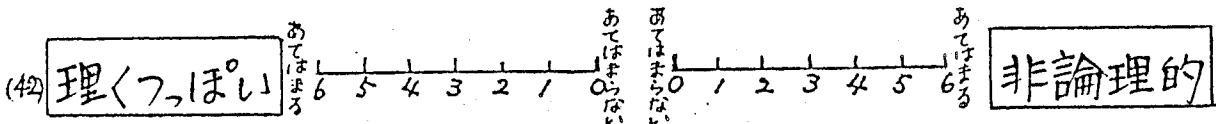
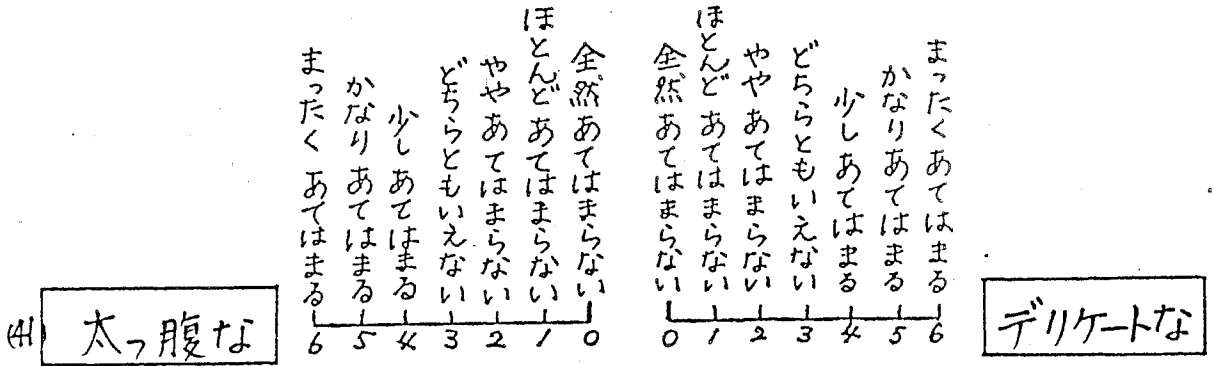
陰気な

(39) ロマンチックな

現実的な

(40) もってまわていう

ズケズケいう



まったくあてはまる 6
 かなりあてはまる 5
 少しあてはまる 4
 どちらともいえない 3
 ややあてはまらない 2
 ほとんどあてはまらない 1
 全然あてはまらない 0

聞きじょうず

(51) 話しじょうず

あてはまる 6
 5
 4
 3
 2
 1
 0

付和雷同

(52) 独断的

あてはまる 6
 5
 4
 3
 2
 1
 0

熱中する

(53) 淡々とした

あてはまる 6
 5
 4
 3
 2
 1
 0

ひねた

(54) 幼稚な

あてはまる 6
 5
 4
 3
 2
 1
 0

勇猛な

(55) おっとりした

あてはまる 6
 5
 4
 3
 2
 1
 0

激しやすい

(56) さめた

あてはまる 6
 5
 4
 3
 2
 1
 0

人情に厚い

(57) クールな

あてはまる 6
 5
 4
 3
 2
 1
 0

場あてりの

(58) こだわる

あてはまる 6
 5
 4
 3
 2
 1
 0

細心

(59) 大胆

あてはまる 6
 5
 4
 3
 2
 1
 0

実利的

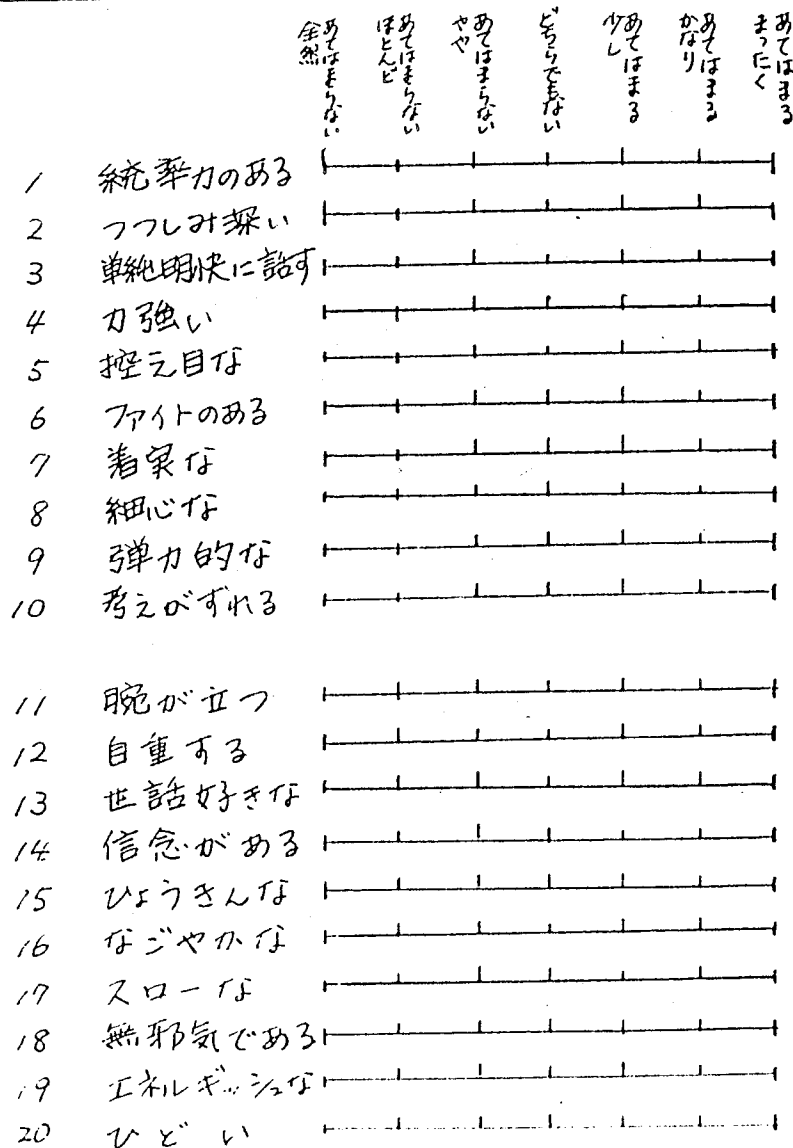
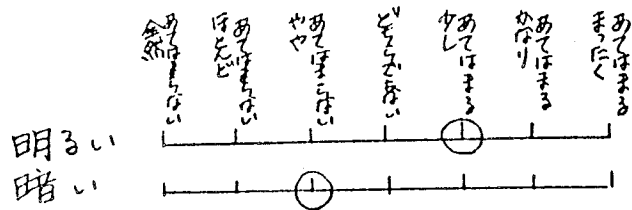
(60) 現実離れた

氏名

BSRIの日本語版

次にあげる性格をあらわす50のことば1つ1つについて、現実のありのままのあなたの性格として、どの程度あてはまっているかについて答えて下さい。○印は「は、さりと、また、どちらでもない」にはなるべくつけないで下さい。

<例>



あてはまる
まったく
あてはまる
のみなり
あてはまる
少し
どちらでもない
あてはまらない
やや
あてはまらない
ほとんど
あてはまらない
全然

- 21 勇敢な
- 22 あせる
- 23 こまめな
- 24 独立性のある
- 25 正直な
- 26 気楽な
- 27 肝のすわった
- 28 繊細である
- 29 茶目ッ気がある
- 30 おおしい

- 31 洞察力がある
- 32 それとなく言う
- 33 献身的な
- 34 不人情な
- 35 従順な
- 36 度胸のある
- 37 素直な
- 38 純真な
- 39 たくましい
- 40 忘れっぽい

- 41 徹格な
- 42 のみこみが速い
- 43 レリの重い
- 44 おとなしい
- 45 豪放な
- 46 冗談を言わない
- 47 おとりした
- 48 お世んだてのうまい
- 49 指導力のある
- 50 やきとどく

CPI-Fx

1. ある問題について、自分としてはっきりした態度をとらないような人の講義を聞くと、腹立たしくなる。
2. 私ははっきりした答えが出ないような問題を考えるのはごめんだ。
3. 私はたいていのより善悪の判断がやかましい方だと思う。
4. 毎日の日程が決まった規則正しい生活が、私にはむいている。
5. 私は毎日の日課が不意のできごとでまたげられたりすると、とても不愉快になる。
6. 結果のよし悪しはともかくとして、法律というものはきびしい方がいい。
7. 私は何ごとにも確信がもてず、疑ってばかりいるような人には同情できない。
8. 私が人と言い争いをするのは、たいてい物事の筋を通すためである。
9. 私はいつでも注意深く計画を立てて、秩序よく仕事をしている。
10. 私は、事実を確かめないで人について判断をくだすようなことは、決してしない。
11. 私はまじめな働き者だと思われる。
12. たいていの人には、物事を真剣に考えないという欠点がある。
13. よく調べれば、たいていの問題には正しい答えが一つしかない。
14. 私は一度決心をすれば、めったに気持を変えない。
15. 私は、自分も他人も、仕事は全力をあげてできるだけ立派にやるべきだと思う。

1

2

3

4

5

6

7

そ
う
だち
か
う

8

9

10

11

12

13

14

15

そ
う
だち
か
う

氏名

性別

年令

学校・学部・学年

この調査は、皆さんが自分自身のことや世の中の物事について、どう考えたり感じたりしているかを調べるものです。思ったまま卒直に答えて下さい。

筑波大学 青年心理学研究室

学年； 年 年齢； 歳 （男；女）

調査票 A TSPS

次に、性格をあらわす言葉が対になって並べてあります。それぞれの言葉が自分にとってどの程度あてはまるかを考えて、あてはまるところに○印をつけて下さい。左の語と右の語について、それぞれ独立に答えて下さい。

	6 非常に あてはまる	5 かなり あてはまる	4 少し あてはまる	3 どちら ともいえない	2 やや あてはまる	1 ほとんど あてはまる	0 全然 あてはまる		0 全然 あてはまる	1 ほとんど あてはまる	2 やや あてはまる	3 どちら ともいえない	4 少し あてはまる	5 かなり あてはまる	6 非常に あてはまる	
例 やさしい																きびしい
1 用心深い																のん気な
2 気が強い																おとなしい
3 あきらめのよい																ねばり強い
4 口数少ない																話好きな
5 気軽な																慎重な
6 实际的																理論的
7 指導的																従順
8 融通がきく																一本気
9 陽気な																もの静か
10 それとなく言う																単刀直入
11 分析的																直観的
12 てきぱきした																おっとりした
13 男性的																女性的
14 世話好き																人に干渉しない
15 しぶとい																あっさりした

6	自立的			協調的
7	茶めつけのある			大人っぽい
8	冷静な			情熱的
9	執着する			臨機応変の
0	ロマンチックな			現実的な
1	太っ腹な			デリケートな
2	古風な			現代的な
3	社交的			孤独を好む
4	おおやうな			厳格な
5	のんびりした			エネルギッシュ
6	話しじょうず			聞きじょうず
7	談笑とした			熱中する
8	おっとりした			勇猛な
9	クールな			人情に厚い
0	大胆			細心

調査票 B 独断主義R度

次に、様々な意見が述べられています。それぞれの意見について自分がどの程度賛成かまたは反対か、あてはまるところに○印をつけて下さい。

意見を反映する意見図(項目a内、内容要約の検討を経てその)

1	資本主義国と共産主義国とはあらゆる点で相容れない	
2	言論の自由がたとえ立派な理想であるとしても、ある種の立場の人々に対してそれを限定することはやむをえない	
3	人は自分が反対する理念よりも自分が信ずる理念についてより詳しいものである	
4	人は独りでは、無力でみじめな生き物である	
5	根本的に我々の住む世界はまったく孤独な場である	
6	ほとんどの人は他人のことなどに少しも構ってはいない	

上に述べられた文章について、その内容が自分の生き方や気持ちにどの程度あてはまるかを考えて、
あてはまるところに○印をつけて下さい。

	全然 そう でない	かなり そう でない	どちら かとい えば そう でない	ど ちら かとい えば そう だ	かなり そう だ	全く その とおり だ
1 私はこれまで、たくさんのことを学び身につけてきた	1	2	3	4	5	6
2 これまで身につけてきたことは、無意味なことばかりだ	1	2	3	4	5	6
3 私は未来に向かってしっかりと歩いてきている	1	2	3	4	5	6
4 子供の頃から身につけてきたことを、今の生き方にどう役立てたらいいのかわからない	1	2	3	4	5	6
5 自分の行ないを決めるよりどころがない	1	2	3	4	5	6
6 私には、自分がどんな人間なのかよくわかっている	1	2	3	4	5	6
7 あまりに多くのことが変わり続けているので、自分がだれなのかわからない	1	2	3	4	5	6
8 やらなければならないこと、やりたいこと、できることが自分の中でまとまらない	1	2	3	4	5	6
9 私は、現実の社会の中に生きがいを見つけ出すことができるだろう	1	2	3	4	5	6
10 私には『理想の自分』がいくつもあって、本当に『なりたい自分』がどれなのかわからない	1	2	3	4	5	6
11 自分にとっての『私』が、まわりの人が見る『私』とズレている	1	2	3	4	5	6
12 人と話していると自分がわからなくなる	1	2	3	4	5	6
13 私は、まわりの人や社会の役に立つような生きがいを持っている	1	2	3	4	5	6
14 私は、まわりの人や社会にどう働きかけたらいいのかわからない	1	2	3	4	5	6